

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成18年6月

呉工業高等専門学校

目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	2 1
	基準3 教員及び教育支援者	3 9
	基準4 学生の受入	6 1
	基準5 教育内容及び方法	7 1
	基準6 教育の成果	2 3 2
	基準7 学生支援等	2 8 9
	基準8 施設・設備	3 5 7
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	3 7 2
	基準10 財務	4 2 7
	基準11 管理運営	4 3 5
IV	選択的評価事項に係る目的	4 4 9
	選択的評価事項A 研究活動の状況	4 5 1
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	4 6 3

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

呉工業高等専門学校

(2) 所在地

〒737-8506 広島県呉市阿賀南2丁目2番11号

(3) 学科等の構成

学科：機械工学科，

電気情報工学科，

環境都市工学科，

建築学科

専攻科：機械電気工学専攻，

建設工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成18年5月1日現在)

学生数：学 科 852名

専攻科 46名

教員数： 66名

2 特徴

・沿革

呉工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、昭和39年4月に機械工学科、電気工学科及び建築学科の3学科で発足した。昭和44年度に、土木工学科を増設したが、平成8年度に、環境都市工学科に改組した。また、平成10年度に、2年制の専攻科（機械電気工学専攻及び建設工学専攻）を設置した。さらに平成14年度に電気工学科は、電気情報工学科に改組した。

平成17年度に環境都市工学科が日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた。機械工学科、建築学科は、平成18年度に認定を受け、電気情報工学科は平成21年度の認定を目指している。

・理念及び目的の背景

本校は、設立当初から、我が国の産業界の発展を支える実践的な技術者を育成し、地域社会にも貢献することを使命としてきた。平成15年度には、独立行政法人化に向け本校の教育方針を示すために教育理念を定め養成す

べき人材像を明確にした。

送り出した卒業生への高い評価により、本校の準学士課程と専攻科の就職率はそれぞれほぼ100%となっている。就職先は、地元だけでなく大阪や東京にも多く就職しており、その多くは産業界の各分野で活躍している。また、先端産業の進展のため、より高度な技術者を目指す大学編入学者及び専攻科入学者は学年全体の40%を超えている。

本校の教員は、学生への教育実践とともに専門分野の研究活動も行っている。教員への教育・研究支援体制として、教員の教育改善に関しては教育改善委員会が、教員の研究環境の整備には本校の特色である地域研究主事のもとに地域研究委員会が設置されている。

地域社会への貢献にも積極的に取り組んでいる。呉市の産業振興と本校の教育、研究の充実発展を図るために、呉市と本校は、連携協力する協定を結んでいる。また地域産業界等との連携を深めるために呉高専テクノセンター地域振興会を設立し、地域企業との連携による医療機器開発及び本校発ベンチャー企業の立ち上げを行っている。さらに、地域での様々な教育サービスを行うために地域連携室を設け、近隣学校との教育連携を推進するため、阿賀地域教育連携協議会を組織し活動している。

国際交流に関しては、工業分野における教員研究の協力を促進するためにハワイ大学マウイコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）、東義大学校工科大学（大韓民国）、西北工業大学（中華人民共和国）の3校と国際学術交流に関する協定を締結している。ハワイ大学マウイコミュニティカレッジには毎年4年生の希望者が研修旅行を行っている。また、外国人留学生に対して地元のボランティアによる里親会が結成され、留学生に対する大きな支えとなっている。

平成5年度に自己点検・評価報告書の第1報を作成し、その後、平成9年度に第2報、平成10年度に第3報、平成12年度に第4報、平成14年度に第5報、平成16年度に第6報を刊行し現在に至っている。また、外部評価も、平成10年度に第1回を実施し、第5回目を平成17年度に実施した。このように継続的に自己改善に努め、本校の教育研究、管理運営の質的向上を図っている。

II 目的

呉工業高等専門学校の使命

本校の教育理念は次のように定められている。

- (1) 豊かな教養と国際性をそなえた人材を育成する。
- (2) 未知なるものの創造と実行力ある人材を育成する。
- (3) 人類の福祉と平和に貢献する人材を育成する。

上記の教育理念は、それぞれ以下のように具体的に説明できる。

- (1) 心と体を鍛え、誇り高い人格を養うと共に、深い教養と国際的視野をもった幅広い人間性を培う。
- (2) 未知なるものへのチャレンジと創造の精神をそなえ、現実の諸問題を解決しようとする実践的能力をもつ人材を育てる。
- (3) 豊かな人間性と創造的技術力をもって、人類の福祉と国際社会の進展に貢献する気概を養う。

教育目標、教育活動等の基本的な方針等

1. 本校の教育目標

本校の教育目標として、準学士課程では「世界に通用する実践力のある開発型技術者の育成」を挙げており、より具体的には「高度な専門知識」、「プレゼンテーション能力」、「語学能力」を併せもつ人材の育成と定めている。

専攻科では「世界に通用する創造性豊かな実践力のある開発型技術者を育成する」を目標としており、キーワードは「高度な専門知識・能力」、「高度な研究開発能力」、「コミュニケーション能力」、「技術者としての倫理観」、「エンジニアリングデザイン能力」を挙げています。

2. 教育活動等の基本的な方針

本校の使命を達成するために、以下のような基本的な方針を立てている。

教育に関しては、

- (1) 学生の受け入れ方針、教育課程、成績評価等について検討会を持ち、教育研究内容の充実を図る。
- (2) 環境都市工学科では専門分野のコース制を、建築学科では進路に応じた選択コース制を取り入れ、教育研究内容の多様化と高度化を図る。
- (3) 教育研究に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)を通して、実施体制、教材等の充実を図る。

また、学生支援に関して、

- (1) 学習相談・健康相談の充実や進路指導（就職支援、進学指導）の充実を図る。
- (2) 学生支援室を設置し、学習全般に対する指導、進路指導に関する支援体制を充実させる。
- (3) ティーチング・アシスタント（TA）による補習を実施する。
- (4) 学生寮運営の方針や寮生の生活指導を充実する。
- (5) 留学生の受け入れ体制の整備を図る。

の5項目を基本方針としている。

準学士課程・専攻科ごとの目的

1. 教養教育

人文・社会系科目では社会人として生活するのに不可欠な知識や考え方を身につけさせ、国際社会で生きていける日本語と英語のコミュニケーション能力を養う、理数系科目では専門科目と社会のニーズに対応できるように基礎的な学力を身につけさせる。英語力向上の一方策として全学的な取り組みとして3年生には TOEIC Bridge、4年生には TOEIC の統一テストを年に一度実施している。保健体育では生涯にわたって運動に親しむ

資質や能力を養い、健康の保持増進のための実践力を育てる。

2. 専門教育

(1) 機械工学科

コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、事象の解析や機械の設計・製作に応用できる能力や実験・実習等の体験的学習を習得し、豊かな創造力を持って、主体的に問題を解決する能力を養う。技術者としての専門知識を習得し、機械工学の分野で幅広く対応できることを目指す。また、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力を養う。機械設計技術者などの資格試験で最低一つ以上の取得を目指す。

(2) 電気情報工学科

電気情報工学科はエネルギー制御コースと情報通信コースの2コース制とし、基礎学力と応用力を身につけさせ、自ら進んで学び問題を解決する自己開発能力を身につけさせる。電気情報関連の最先端技術について十分に対応できる学力を備えた開発型技術者を育成する。電気主任技術者、情報処理技術者などの資格試験を最低1回以上受験させる。

(3) 環境都市工学科

平成16年度に、社会基盤整備を創造する「建設システムコース」及び環境保全技術を身につける「環境システムコース」の2コース制とし、教育研究内容の多様化と高度化を図る。豊かな都市空間を設計できる技術者または、自然災害の機構解明、防災設計などができる技術者を育成し、国家資格にも対応する実践的な技術を身につける。

(4) 建築学科

創造力、実践力、情報技術力を有した技術者を育成する。4年次から「実践技術コース」と「基礎科学コース」を設けて、実践技術コース選択者は希望した職種に就けるよう、また基礎科学コース選択者は、国公立大学の編入学及び専攻科の進学を目指せるようにする。建築デザインやプレゼンテーションに有効なCAD、CG、映像技術などの情報技術を習得させ、卒業直後に2級建築士、卒業4年後に1級建築士の取得を目指す。また、卒業後、1級建築施工管理技士の取得を目指す。

3. 専攻科教育

全専攻科の共通項目として、分野別（機械工学、電気情報工学、環境都市工学、建築）のJABEEの認定を目標とし、複眼的視野をもった幅広い技術者教育を実施する。そのために、専攻科生による学協会での1編以上の発表を義務付け、査読付き論文の投稿を奨励する。学士の学位取得は100%を目指し、専攻科修了までにTOEIC400点以上の取得を目指す。

(1) 機械電気工学専攻

メカトロニクス、ロボティクスを統合・融合化した、高度に情報化された機電一体設備の設計やシステムを開発できる研究開発型技術者の育成を目指す。

(2) 建設工学専攻

耐震構造や高齢者住宅などの技術を含む都市や住空間に対する、より高度な機能と快適さの実現、さらに環境問題を解決できる研究開発型技術者の育成を目指す。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校は、準学士課程及び専攻科の目的をそれぞれ本校の学則第1条及び第35条(資料1-1-①-1)に、また教育理念及び各学科の学習・教育目標を本校の学校要覧(資料1-1-①-2)及び中期目標(資料1-1-①-3)に示している。またJABEE認証に対応した学科ごとの技術者教育プログラムを本校シラバス(資料1-1-①-4 訪問調査時に提示)、専攻科シラバス(資料1-1-①-5 訪問調査時に提示)に示している。なお、この技術者教育プログラムは専攻科の修了要件となっている。

本校では、教育理念を基本に「実践力のある開発型技術者」の育成のため、準学士課程では5年間一貫教育で「高度な専門知識」、「プレゼンテーション能力」、「語学能力」の育成目標を柱とした各学科の学習・教育目標を達成するように、また専攻科では、準学士課程で養った基礎学力を踏まえて、さらに2年間で国際性、技術者倫理観を備え、かつ研究開発能力を有する技術者の育成目標を柱とした各専攻の学習・教育目標を達成するようにそれぞれのシラバス(前掲)を作成している。

(資料1-1-①-1)

○ 呉工業高等専門学校学則抜粋

第1章 総則

(目的)

第1条 呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第6章 専攻科

(目的)

第35条 専攻科は、高等専門学校の教育をもとに、精深な程度において工業に関する高度の知識及び技術を教授し、その研究を指導し、創造性豊かな実践力のある開発型技術者を養成し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料1-1-①-2)

教育理念

- 豊かな教養と国際性をそなえた人材を育成する、すなわち、心と体を鍛え、誇り高い人格を養うと共に、深い教養と国際的視野をもった幅広い人間性を培う。
- 未知なるものの創造と実行力ある人材を育成する、すなわち、未知なるものへのチャレンジと創造の精神をそなえ、現実の諸問題を解決しようとする実践的能力をもつ人材を育てる。
- 人類の福祉と平和に貢献する人材を育成する、すなわち、豊かな人間性と創造的技術力をもって、人類の福祉と国際社会の進展に貢献する気概を養う。

機械工学コースの学習・教育目標

- (A) 豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力
- (1) 人文科学，社会科学，外国語の学習を通して，文学，歴史，文化，人生観，法律，経済，国際関係などに関する幅広い知識を身につけるとともに，国際的視野を持った豊かな人間性を身につける。
 - (2) 「技術者倫理」等の学習を通して，技術が社会と自然に及ぼす影響・効果を理解し，技術者としての社会に対する責任感を自覚しながら，人類の福祉と地域社会・国際社会の進展に貢献できる能力を身につける。
 - (3) 「日本語コミュニケーション」等の学習を通して，日本語による論理的な記述・口頭発表・討議ができる能力を身につける。また，「英語コミュニケーション」，「上級工業技術英語」等の学習及びTOEIC の受験，姉妹校交流などを通して，英語でコミュニケーションできる基礎能力を身につける。
- (B) コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し，事象の解析や機械の設計・製作に応用できる能力
- 線形代数，微積分学，確率・統計等の数学，物理学，化学等の自然科学及びプログラミング，シミュレーション等の情報技術に関する基礎知識を身につけるとともに，それらの知識を機械分野の構造・熱・流体・振動等の解析や機械の研究・開発，設計・製作，生産技術，制御等に適用していくことができる能力を身につける。
- (C) 技術者としての専門知識を習得し，自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力
- 機械工学の主要分野である「材料と構造」，「運動と振動」，「エネルギーと流れ」，「情報と計測・制御」，「設計と生産・管理」，「機械とシステム」に関する専門知識を身につけるとともに，自然環境の修復や環境負荷の低減などを考えながら，技術的課題に幅広く対応できる能力を身につける。
- (D) 実験・実習・製図等の体験的学習を習得し，豊かな創造力を持って，主体的・積極的に問題を解決する能力
- (1) 「工学実験」，「特別実験」の学習を通して，専門知識の理解を深めるとともに，与えられた現実の諸問題を主体的・積極的に解決する実践的能力及び計画的に仕事を進めて期限内に仕事を終える能力を身につける。
 - (2) 「創造演習」，「創造製作」，「校外実習」，「インターンシップ」，「機械設計製図」の学習を通して，未知なる問題に対して，数学，自然科学，情報技術，専門知識などを統合してチャレンジし，解決していくデザイン能力及び創造力を身につける。
- (E) 自主的に実験等を遂行し，データを解析・考察して，発表や討議ができる能力
- (1) 「卒業研究」に取り組むことにより，特定分野の専門知識を深めるとともに，変化の速い情報社会に対応できるように，自主的に継続して仕事ができる能力を身につける。
 - (2) 「特別研究」に取り組むことにより，実験等を計画的に遂行し，実験データや計算データを工学的に解析・考察して報告書に論理的にまとめることができる能力を身につける。また，「特別研究」の成果を学協会等で口頭発表することにより，専門分野に関するプレゼンテーションができる能力を身につける。

電気情報工学科の教育目標

電気情報工学科，及び専攻科機械電気専攻電気系においては「多岐にわたり発展する電気・電子・情報・通信・制御工学分野における基礎学力と創造力を備えた開発型技術者を育成する」ことを教育目標とし，その具体的目標は以下の通りである。

- (A) 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること。
電気情報工学の分野で活躍するためには，数学・自然科学系基礎科目の他に，工学系基礎科目の修得が必要不可欠である。このような基礎学力を身につけることを目標とする。
- (B) 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して，より高度な専門知識を身につけること。
エネルギー制御分野は電力の発生，輸送，エネルギーの変換，及びそれらの制御に関する技術を扱う学問領域である。

また、情報通信分野は情報源の電気信号への変換、処理、伝送、及びそれらの回路化、システム化に関する技術を扱う学問領域である。それぞれのコースにおいて、これらの分野における基礎、及び応用科目の実践的なカリキュラムの習得を通して、より高度な専門知識を身につけることを目標とする。

- (C) 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を備え、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること。

グローバル化した変化の早い情報化社会では、生涯にわたって自らが新たな知識や情報を取得し、自主的に継続して学習することが重要である。また技術者として生涯にわたり、自然や社会との関わりにおいて、責任ある判断と行動を保ち続けることも重要である。このような技術者としての倫理観と国際化社会に対応するための能力を身につけることを目標とする。

- (D) 人文・社会・自然科学及び電気情報工学の知識を統合して、創造的・協調的に工業的成果を設計試作する能力を身につけること。

基礎学力と創造力を備えた開発型技術者として活躍するためには、市場のニーズを満足するデバイス、回路、システムなどの工業的成果を、人文科学、社会科学、自然科学、電気情報工学など、本教育プログラムで習得したあらゆる分野の知識を統合し、チームワークをはかりながら、経済や健康、環境、安全、かつ社会的秩序などを考慮しつつ、創造的に設計試作することが重要である。このようなエンジニアリングデザイン能力を身につけることを目標とする。

- (E) 創造力をもとに、合理的な計画をたてる能力、それを遂行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること。

未知の問題を解決するため、これを自らの考えで、筋道をたてて計画的に取り組み、実現可能な解を見つけ出してゆく能力を身につけることを目標とする。

環境都市工学科の学習・教育目標

■豊かな教養と国際性

- (A) 自然現象を理論的に取り扱えるように、数学・自然科学・情報技術を身につける。

工学の基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する基礎的な知識を習得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを習得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させる能力を育成する。

- (B) 国際的な視野と幅広い教養及び技術者としての倫理観を身につける。

異文化を理解し、総合的に物事を判断できる幅広い教養と、工学に携わる者として求められる倫理観を身に付ける。また、外国語の学習を通して、国外の書物の講読、国外の技術者とのコミュニケーションが可能な語学力を身につけることを目的とする。

- (C) 事業内容や意見等を正確に相手に伝えることができる表現力、プレゼンテーション能力を身につける。

自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができる表現力、プレゼンテーション能力を育成する。授業におけるレポート・設計書の作成、卒業研究・特別研究論文の作成を通して、論理的な記述・表現が出来るようになることを目的とする。

■建設・環境分野の基礎知識・能力

- (D) 事業の計画、設計、施工及び維持にいたるまでの一貫した作業を責任を持ってやり遂げられる素養を身につける。

社会基盤整備に関わる事業の計画、調査、設計、施工、維持管理に関わる専門分野の内容を習得し、責任を持って事業をやり遂げる能力を身につける。

- (E) 環境保全のための分析、評価能力を身につける。

環境の恵沢の享受と継承、健康で文化的な生活の確保と向上に寄与する環境保全・都市空間デザインに関する基礎的知識・能力を習得する。

- (F) 環境に配慮した社会基盤整備を行う能力を身につける。

環境に配慮し安全で快適な社会を形成するための社会基盤施設の整備に必要な、構造物の材料

特性や力学特性に関する基礎的知識・能力を習得する。

■建設・環境分野の創造力・応用力

(G) 専門分野の知識を習得し、豊かな創造力を持って、問題に立ち向かえる能力を身につける。

建設・環境分野の基礎的専門知識を基にして卒業研究および特別研究に取り組むことにより、未知なるものへのチャレンジ精神と創造力および多様な問題に対する解決能力を身につける。

(H) 国家資格にも対応する実践的な技術を身につける。

実験実習、設計製図、現場見学を通して、建設・環境分野の技術を体得するとともに、その技術と理論とを対応させて理解する。また、建設・環境分野に関する国家資格にも対応した実践的能力を身につける。

建築学科の学習・教育目標

呉高専建築学科では平成16年1月に下記に示す学習・教育目標を設定し、学生に対する技術者教育を実施しています。(A)～(G)は建築学科準学士課程の学習・教育目標で、(A)～(H)は専攻科を含めた学習・教育目標を示しています。

■共通基礎

(A) 豊かな教養と倫理観をもつ技術者の育成

(B) 国際的なコミュニケーション能力をもつ技術者の育成

(C) 工学の基礎的な知識をもち情報化社会に対応できる能力

■建築学の包括的、基礎的な専門知識・能力

(D) 総合的な視点から建築技術を捉える能力

(E) 建築学に関する基礎的な専門知識とその応用能力

E 1 建築設計

E 2 建築環境

E 3 建築構造

(F) 理論と現実を対応させながら建築技術を捉える能力

(G) 知識や技術の修得に対して主体的、計画的に取り組むことができる能力

■建築学の特定領域の高度な専門知識・能力

(H) 情報技術を活用した創造的、実践的なデザイン能力

(出典 平成17年度要覧)

(資料1-1-①-3)

独立行政法人 国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校 中期計画 抜粋

③ 各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学力や実技能力の調査方法を検討し、その導入を図る。また、英語については、TOEICなどを積極的に活用する。

1) 国語

- ・低学年での漢字演習を、3年生での日本語表現の基礎演習を実施・学生参加型の演習形態を導入し、表現力育成のため小論文やディベートの実施
- ・日本文化への関心を高めるため、3年生でも古典を必修

2) 社会

- ・低学年で基礎的な内容、高学年で発展的な内容を学習できるように教育課程を編成し、高学年で学生の希望に応じて学習できるように選択科目を開設
- ・口頭報告や論述などの指導を通じて、思考力や表現力の育成

3) 数学

- ・大学編入学希望者の増加に対応し、過去の編入学試験問題を多く取り入れた問題集による指導
- ・希望者には、過去の編入学試験問題の解答集を配布
- 4) 理科
 - ・講義内容に関連した実験をできるだけ多く行い、自然現象に興味を持たせる。
 - ・実験結果を適格なレポートになるまで再提出させて指導
 - ・実験に興味のある学生については授業外で総合的な実験を行う。
- 5) 保健体育
 - ・全学年に体力向上の目標となる新スポーツテストの実施
 - ・低学年では健康・安全を理解するための保健教育を行うとともに、主に集団スポーツを、高学年では生涯スポーツを行う。
- 6) 英語
 - ・実用英語検定対策として、準2級の問題集を1年生全員に持たせ小テストを定期的に行い、2次試験対策の相談に対応する。
 - ・英語検定試験は本校を試験会場とし、学生に受験しやすい環境をつくる。TOEIC に関する指導を積極的に行う。
 - ・ネイティブスピーカーによる英語の授業を充実させるとともに、課外での交流会、例えば研究室訪問などを行う。
- 7) 第二外国語
 - ・基礎的な読解力をつけること及び学生が高い段階を目指す知的好奇心を目覚めさせるため、既に持っている英語力を授業の中で大いに利用し指導を行う。
- 8) その他
 - 各科目とも、必要に応じ適宜補習授業等を実施する。

専門教育

- 1) 機械工学科
 - ・工業英語の授業内容の一部を、工業英語検定の資格取得に合わせる。
 - ・機械設計技術者試験の試験科目に対応する専門科目（10科目）の授業内容の一部を、機械設計技術者の資格取得に合わせる。
 - ・卒業研究の指導方法を改善するとともに、卒業研究の学会等における発表実績を卒業研究の評価に反映させる。
- 2) 電気情報工学科
 - ・学生の語学力と国際性の向上のため、特別な事情がない限り海外で特別見学を行う。
 - ・企業における即戦力となるため、学生全員に電気主任技術者、情報処理技術者などの専門の資格試験を最低1回以上受験させる。
 - ・国際的に通用する技術者育成のため、工業英語の授業において TOEIC、英検などの資格試験を受験するように指導をする。基礎学力を備え専門性を生かして社会に貢献でき、更に国際的にも貢献できる人材を育成するため教育指導の措置を行う。
 - ・企業から講演者を招き、講演などを行う。
- 3) 環境都市工学科
 - ・語学検定受験の指導を語学教官の協力を得ながら行う。
 - ・資格の取得としては、実用英語検定、工業英語検定及び TOEIC 等語学に関するもの、土木施工技術者、測量士補、公害防止管理者等の専門資格に関するものについてサポートを行い、将来的に実務経験を経た後に取得可能な資格取得に関する基礎を育てる。
- 4) 建築学科
 - ・実践技術・基礎科学コースとも、授業に関連する1級・2級建築士試験の過去問題による模擬試験を実施する。

演習，実験授業における少人数教育

- ・ 建築設計製図及び工学実験などの実験・演習系科目は，学生約 20 名当たり 1 名の教員が担当する。
- ・ 構造系科目の中で難解なものはクラスを 2 つに分け，それぞれ 1 名の教員が担当する。
- ・ 4 年次から学生を研究室に配属し，少数人数ゼミによる個別指導(専門教育，進路など。)を実施する。

情報技術を共通ツールとした建築教育

- ・ 情報技術を，各教育科目を横断する共通ツールとして用いる。
- ・ 低学年で徹底した情報技術教育を行い，高学年での各専門科目に情報技術を積極的に取り入れる。

組織的な学科の P R

- ・ 出前授業，おもしろ体験科学教室の実施においては学生も動員し，創造性教育や社会教育の一環とする。

専攻科教育

- ・ 学生の視野を拡大し専門教育を強化するため，客員教授の配置を計画する。
- ・ 特別研究の強化を図るため，専攻科長を専攻科・研究主事とし，専攻科の業務以外に教官の研究活動，外部資金の導入等に関する業務を分掌する。
- ・ 社会人等を対象にした長期履修制度を導入する。
- ・ 学生自身による達成度評価を徹底する。
- ・ 専攻科において，3 ヶ月程度の長期インターンシップを 1 年次に導入する。整合性があれば，インターンシップ先での内容も特別研究のテーマとすることを可能にする。
- ・ 工場等の現場を教室とした産学官連携教育の導入を図る。また，これを実施するために 5 名程度の客員教授を配置する。
- ・ 他大学，高専で取得した単位の認定の拡充を図る。

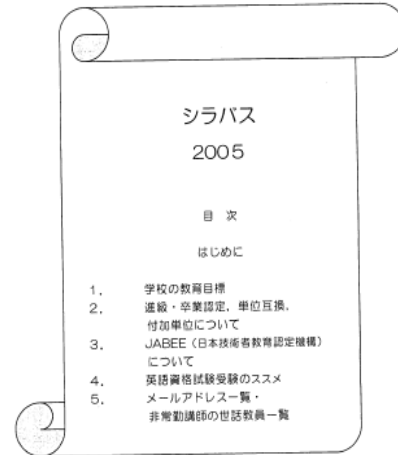
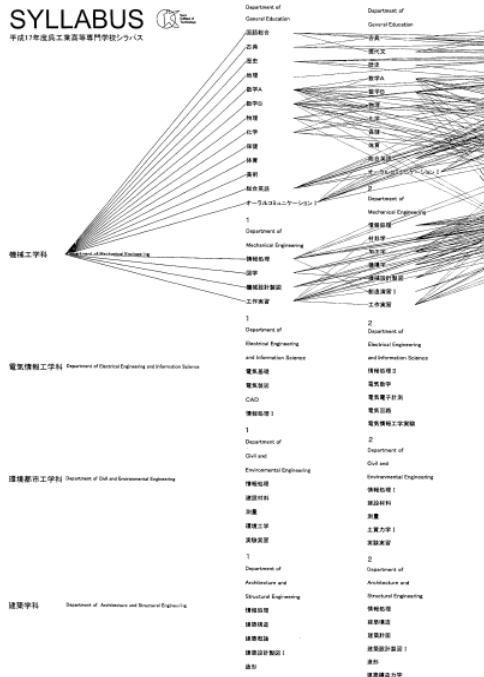
全校共通

- ・ 創造演習，卒業研究及び特別研究の充実を図る。
- ・ 若年からの創造的技術者教育として，ロボット製作，造形製作，情報演習などを重視する。
- ・ 夏季休暇中に実施している校外実習及びインターンシップの充実を図り，産学連携教育を推進するとともに多面的な思考性を高める。
- ・ 工業英語などを全学科で実施し充実させ英語プレゼンテーション能力を身につける。
- ・ 課外活動は，創造力・向上心の養成，精神力の鍛錬，集団運営能力の育成のための教育として位置づけ，教職員で積極的に指導する。
- ・ 学生が自発的に行うインターンシップに関する支援を行う。
- ・ クラブ活動，ボランティア活動等の課外活動に対して，教職員は積極的に指導を行う。

(出典 呉工業高等専門学校中期計画)

(資料 1-1-①-4)

(準学士課程シラバス)

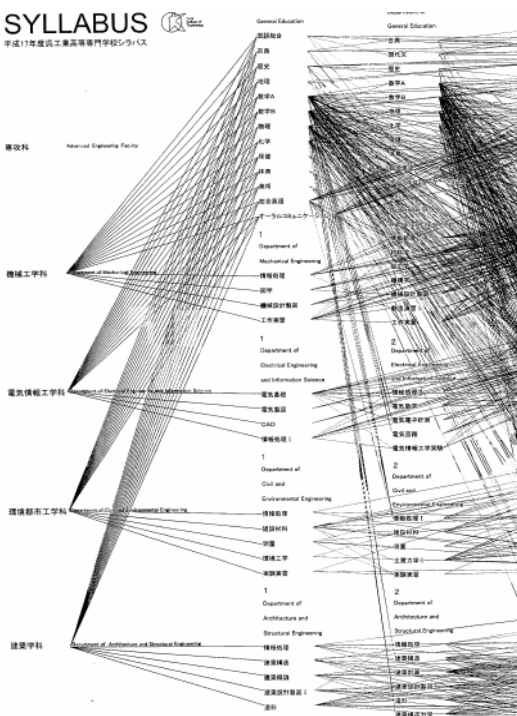


- 目次
- はじめに
1. 学校の教育目標
 2. 選給・卒業認定、単位互換、付加単位について
 3. JABEE (日本技術者教育認定機構) について
 4. 英語資格試験受験のススメ
 5. メールアドレス一覧・非常勤講師の世話教員一覧

(出典 準学士課程シラバス)

(専攻科シラバス)

(資料1-1-①-5)



目次

教育課程表 (平成15年度以降入学生用) 1

JABEE について 4

メールアドレス一覧・非常勤講師の世話教員一覧 5

機械電気工学専攻

○ 機械系 6

機械工学科・専攻科機械工学コースの授業科目系統図
学習・教育目標とJABEE基準に主体的に対応する科目

(教員基礎科目)

日本語コミュニケーション 9

英語コミュニケーション 10

応用数理解析 11

技術者倫理 12

機能システム工学 13

上級工業技術英語 14

微分方程式 15

線形代数 16

数値計算法 17

量子力学 18

磁気と物質 19

知的所有権論 20

物質科学 21

(専門科目)

機械電気専攻特別研究 22

機械電気専攻特別実験 23

機械電気専攻実践演習 24

弾性学 25

石炭工学 26

流体伝熱現象 27

機構設計工学 28

医用工学概論 29

蒸気工学 30

ナノテクノロジー 31

インターシッピング 32

機械電気専攻特別研究 33

数値熱流体力学 34

機械要素 35

薄膜工学 36

システム制御 37

冷凍工学 38

(出典 専攻科シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

本校の技術者教育プログラム(前掲)は、準学士課程においては低学年の基礎科目と高学年の工学専門科目で構成されている。また、専攻科では、準学士課程の知識を活かした上でより高度な知識を得られるようしていること、また、研究開発能力達成のために、特別研究の時間を多く設け、さらに研究成果の学会発表を義務付けている。これらはシラバス(前掲)に示されている。またこれまで学科が分野別のプログラムにより J A B E E 認定評価を受審し、これまで機械工学科(平成18年認証)、環境都市工学科(平成17年認証)、建築学科(平成18年認証)が認証されていることから本校の目的は明確かつ妥当である。なお電気情報工学科は学科改組によるカリキュラムの年次進行に合わせ平成21年度認証を計画している。

また、本校では、準学士課程 4 学科のうち環境都市工学科と建築学科の建設系 2 学科で構成しているが、これは、本校の立地が中国地区の国土交通省等の監督庁のある広島県に立地していることから人材の需要が大きいためである。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

学校教育法第70条の2では「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」となっている。

本校では、教育理念、学則第1条及び第35条(資料 1-1-②-1)に基づき、「高度な専門知識」、「プレゼンテーション能力」、「語学力」を併せ持つ人材の育成を目指している。「高度な専門知識」を有する人材を育成することは学校教育法第70条の2の「深く専門の学芸を教授し」に即応することは明白といえる。また、近年の技術者にはプレゼンテーション能力や語学力が求められる傾向にあることから、専門知識とあわせて「プレゼンテーション能力」、「語学力」を目的としていることは「職業に必要な能力」からはずれるものではない。

専攻科では、高度化された専門知識を身に付け、自主的に特別研究を実施することにより創造的な技術開発能力を養い、技術者としての倫理観を涵養することは、現代の職業上不可欠であるといえる。

したがって、本校の目的は学校教育法第70条の2に規定された目的を満たしている。

(資料 1-1-②-1)

○呉工業高等専門学校学則抜粋

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)及び学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づき深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 6 章 専攻科

(目的)

第 35 条 専攻科は、高等専門学校の教育をもとに、精深な程度において工業に関する高度の知識及び技術を教授し、その研究を指導し、創造性豊かな実践力のある開発型技術者を養成し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育理念(前掲)及び教育目的(前掲)は、育成しようとする人材像が明確であり、学校教育法第70条の2に定められている目的に対応していることから、高等教育機関としての条件及び高等専門学校の設置目的の条件を十分満たしている。

観点 1-2-①: 目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育理念、技術者教育プログラム(前掲)の掲載された学校要覧(前掲)は、毎年非常勤を含む全教職員に配布される。特に非常勤講師に対しては、毎年年度始めに非常勤講師説明会(資料1-2-①-1 訪問調査時に提示)を実施して徹底をはかっている。また学生に対しては、入学時の新入生オリエンテーションにおいて準学士課程学生用の要覧「キャンパスガイド」(資料1-2-①-2 訪問調査時に提示)及び専攻科学生用の要覧「キャンパスライフ」(資料1-2-①-3 訪問調査時に提示)を配布し説明される。また、教育理念及び各学科の教育・学習目標を全教室に掲示している。

(資料 1-2-①-1)

非常勤講師 各位 殿

平成17年3月5日
呉工業高等専門学校
校長 福永 秀春

平成17年度非常勤講師との懇談会のご案内

拝啓

各位におかれましては、日ごろから本校の教育にご理解いただき大変ありがとうございます。

さてご承知かと思いますが本校は平成16年度には、環境都市工学科においてJABEE（日本技術者教育認定制度）審査を受けましたが、今年度は機械工学科及び建築学科においても審査を受けるべく準備をし、その認

知を意識した教育改善にも取り組んでいます。

このような変革の時期を控え、本校としましては、学生教育・指導について、非常勤講師の先生方とより密接な連携のもと本校教職員と意識が共有できることを希望しています。そのためにも是非皆様のご意見をお聞かせ願いただき教育の改善に努めたいと思っております。

つきましては下記のとおり懇談会を開催したいと思っておりますので、ご多忙のこととは思いますがご出席いただきますようご案内申し上げます。

なお開催日は、以下の2回行いますので、いずれかの適当な日をお選びください。

また、非常勤講師の方々からのご意見をアンケートにてご回答をお願いいたしたく思っておりますので、当日ご持参いただければ幸いです。

なお、この案内とアンケートについては、すでにメールアドレスを登録の方にはeメールでも送付いたします。

以上、よろしく願いいたします。

敬具

記

1) 日時

以下のいずれか適当な日をお選びください。

①4月12日（火）16：00 より50分程度

②4月14日（木）13：00より50分程度

2) 場所 呉工業高等専門学校 管理棟 第1会議室

3) 出席者H17年度非常勤講師予定者 及び本校関係教職員

4) 本校からの現状説明

○本校の教育の方向について

○非常勤講師の待遇等について

○「非常勤講師の手引き」について（同封してありますものをご持参ください）

○学生指導の現状について

5) 懇談内容

本校の授業，学生指導への要望事項，及び改善希望事項本校での非常勤講師としての処遇などについて

なお，ご参加の有無に関わらずご出欠を下記（メール、FAXまたは電話）にてご連絡いただきますようお願いいたします。

また，同封のアンケートは，4月7日（木）までに，直接または，eメール、FAX，郵送にて教務係にお届けいただきましたら幸いです。

(連絡先)

教務係

eメール kyoumu@kure-nct.ac.jp

FAX. 0823-73-2490

Tel. 0823-73-8416

非常勤講師用手引き

平成17年度版



H16非常勤講師懇談会

非常勤講師との懇談会 H17.4

配布資料

- 1 スライドのコピー
- 2 非常勤講師用マニュアル(事前配布)

校長あいさつ

懇談会の目的

- 非常勤講師と学校との意識の共有のための相互理解
- 日本技術者教育認定機構(JABEE)の理解
- H17年度の教育

(出典 庶務課)

(別添付資料 1-2-①-2)



学生のための学校案内

2005

平成17年度



呉工業高等専門学校の教育理念

本校の教育理念は、平成15年度に、独立行政法人化に向け本校の教育方針、およびJABEE認定に対応する理念を示すために掲げられたものです。

- 豊かな教養と国際性をそなえた人材を育成する 「知」
心と体を鍛え、語り高い人格を養うと共に、深い教養と国際的視野をもった幅広い人間性を培う。
- 未知なるものの創造と実行力ある人材を育成する 「行」
未知なるものへのチャレンジと創造の精神をそなえ、現実の諸問題を解決しようとする実践的能力をもつ人材を育てる。
- 人類の福祉と平和に貢献する人材を育成する 「勤」
豊かな人間性と創造的技術力をもって人類の福祉と国際社会の発展に貢献する気風を養う。

歴代の校長

初代	葛西 重夫	(昭和39.4~49.3)
第2代	佐藤 重夫	(昭和49.3~58.5)
第3代	西 正任	(昭和58.6~平成2.3)
第4代	片島 三朗	(平成2.4~8.3)
第5代	長町 三生	(平成8.4~13.3)
第6代	福永 秀春	(平成13.4~現在)

呉工業高等専門学校の主な歩み

1964年(昭和39年)4月	開校式、第1回入学式
1969年(昭和44年)4月	土木工学科の設置
1979年(昭和54年)4月	第1回編入学式
1996年(平成8年)4月	土木工学科の環境都市工学科への改組
1998年(平成10年)4月	専攻科の設置
2002年(平成14年)4月	電気工学科の電気情報工学科への改組
2004年(平成16年)4月	独立行政法人国立高等専門学校機構へ改組
2005年(平成17年)3月	第37回卒業式挙行
2005年(平成17年)4月	環境都市工学科JABEE認可

(出典 キャンパスガイド)

(別添付資料 1-2-①-3)

平成17年度

専攻科

STUDIES & CAMPUS LIFE



呉工業高等専門学校

○学習・教育目標

本専攻科の機械電気工学専攻「機械系」、機械電気工学専攻「電気系」、建設工学専攻「環境都市工学系」及び建設工学専攻「建築系」では以下のようなプログラム名と学習・教育目標を掲げています。

(1) 機械電気工学専攻「機械系」のプログラム名と学習・教育目標
プログラム名：機械工学コース（機械系入学者全員を履修対象者とする。）

(A) 豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力

(1) 人文科学、社会科学、外国語の学習を通して、文学、歴史、文化、人生観、法律、経済、国際関係などに関する幅広い知識を身につけるとともに、国際的視野を持った豊かな人間性を身につける。

(2) 「技術者倫理」等の学習を通して、技術が社会と自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての社会に対する責任感を自覚しながら、人類の福祉と地域社会・国際社会の進展に貢献できる能力を身につける。

(3) 「日本語コミュニケーション」等の学習を通して、日本語による論理的な記述・口頭発表・討議ができる能力を身につける。また、「英語コミュニケーション」、「上級工業技術英語」等の学習及びTOEICの受験、姉妹校交流などを通して、英語でコミュニケーションできる基礎能力を身につける。

(略)

(出典 STUDIES & CAMPUS LIFE)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目標は、全教職員に配布される学校要覧及び全学生に配布される学生用の要覧（前掲）により十分周知されている。また非常勤講師に対しても、非常勤講師説明会の実施により周知されている。

観点1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

県内全中学校に対し学校要覧（前掲）のほかに、学校案内（別添付資料1-2-②-1 訪問調査時に提示）、入学者募集要項・入学案内抜粋（資料1-2-②-2 訪問調査時に提示）を配布し、かつ毎年約140校の県内中学校を訪問し、中学教員に直接説明している。また県内の全高校に編入学者募集要項・編入学案内抜粋（資料1-2-②-3 訪問調査時に提示）を配布している。さらに専攻科学生募集要項（資料1-2-②-4 訪問調査時に提示）を全国工業高等専門学校、県内関連の短期大学及び専門学校に配布している。


保護者に対しては、毎年保護者懇談会（資料 1-2-②-5 訪問調査時に提示）を実施し、学校の状況、教育目標を説明している。その出席率は 90%である。さらに本校広報誌「呉高専だより」（資料 1-2-②-6 訪問調査時に提示）を年 2 回刊行し保護者及び本校関係者に配布している。ホームページ（資料 1-2-②-7 <http://www.kure.nct.ac.jp>）には、学校の教育理念等を掲載するとともにほぼ毎日学校の出来事を「呉高専日誌」サイトに報告し理解を得ている。また平成 17 年度に地域連携室を設置し、地域連携を組織的に行うようにした。

なお、企業に対しては、就職担当教員が企業を訪問する際に資料を用いて説明を行っている。

(資料 1-2-②-2)

入 学 案 内

平成18年度
入学者募集要項
入 学 案 内



出 発 日 時	平成18年1月20日(木)～21日(金)
帰 着 日 時	平成18年1月21日(土)
南 海 道 出 発 日 時	平成18年1月27日(金)
入 学 試 験 日 時	平成18年2月18日(日)
出 発 日 時	平成18年1月20日(木)～2月10日(金)
帰 着 日 時	平成18年2月10日(金)
出 発 日 時	平成18年2月10日(金) 午前10時
帰 着 日 時	平成18年2月10日(金) 正午
入 学 試 験 日 時	平成18年2月17日(木)

国公立大学入学者試験センター
呉工業高等専門学校
 岡山県倉敷市大字日置11号 TEL:0867-499000
 TEL:086425 71-1411, 6256, 6211

● 本校の教育について

(1) 教育理念

- 豊かな教養と国際性をそなえた人材を育成する
心と体を鍛え、誇り高い人格を養うと共に、深い教養と国際的視野をもった幅広い人間性を培う。
- 未知なるものの創造と実行力ある人材を育成する
未知なるものへのチャレンジと創造の精神をそなえ、現実の諸問題を解決しようとする実践的能力をもつ人材を育てる。
- 人類の福祉と平和に貢献する人材を育成する
豊かな人間性と創造的技術力をもって、人類の福祉と国際社会の進展に貢献する気概を養う。

(2) 求める学生像（アドミッションポリシー）

I. 全学科共通のアドミッションポリシー

呉高専は、次のような人を行っています。

- ① 基礎学力が備わっていて、数学、自然科学、情報技術に興味のある人
- ② 外国語を基んで学び、国際的な仕事にも興味のある人
- ③ 何事に対しても責任感があり、積極的に勉強やクラブ活動などに取り組める人
- ④ 技術やものづくりに興味があり、それらを利用して社会に役立ちたいと考えている人
- ⑤ 論理的な考え方ができ、多くの人々と意思の疎通ができる人
- ⑥ エンジニアやデザイナーを目指す意思が明確な人

II. 各学科のアドミッションポリシー

ア. 機械工学科

- ① 自動車やロボットなどの機械の仕組みに興味のある人
- ② コンピュータを利用した機械設計やものづくりに興味のある人
- ③ エネルギー利用、機械材料、情報技術に興味のある人

イ. 電気情報工学科

- ① 電気エネルギーの発生と制御、電気材料・部品のロボットへの応用と自動制御など幅広い技術を身につけたい人
- ② 電子情報技術分野に興味があり、コンピュータの仕組み、プログラミング、通信等の最先端技術を身につけたい人
- ③ 電気情報関連分野の各種公認資格取得にチャレンジし社会に役立てたい人

ウ. 環境都市工学科

- ① バイオテクノロジー、資源リサイクルなどによる地球環境の保全や自然との共生に興味のある人
- ② 道路、橋などの社会基盤施設の建設や景観を含めた都市計画に興味のある人
- ③ 夢やチャレンジ精神を持ち、公共のためにリーダーとして活躍したい人

エ. 建築学科

- ① 恵み地の良い住まいや快適な建物を設計する技術を身につけたい人
- ② 建築現場で実際に建物を造り上げることに熱心のある人
- ③ コンピュータを使って図面や画像を作ることに興味のある人

(出典 入学者募集要項 入学案内)

(資料 1-2-②-3)

平成 18 年度
編入学者募集要項

独立行政法人 国立高等専門学校機構
呉工業高等専門学校
〒737-8506
呉市阿賀南 2 丁目 2 番 11 号
☎(0823)73-8416 (学生課直通)

1. 募集学科・コース・人員及び編入学年

学 科・コ ー ス	人 員	学 年
機械工学科 電気情報工学科 エネルギー制御コース 情報通信コース 環境都市工学科 建築学科	各学科若干名	第 4 学 年

2. 出願資格

- (1) 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科若しくは総合学科（主に工業に関する科目を履修していなければならない。）を卒業した者及び平成18年3月卒業見込みの者で、出身学校長が本校の教育に適すると認め推薦する者
- (2) (1)以外の高等学校で普通科又は理数科を卒業した者及び平成18年3月卒業見込みの者で、出身学校長が本校の教育に適すると認め推薦する者

3. 志望学科・コース

- (1) 志望学科・コースは、出身学校における所属学科（総合学科の場合は主に履修した工業の科目群）と同系統とします。
- (2) 普通科又は理数科出身の者は、志望学科・コースは問いません。

4. 出願書類受付

- (1) 期間 平成17年9月1日(木)～9月5日(月)
土曜日及び日曜日は受け付けません。
郵送の場合も9月5日(月)までに必着とします。
- (2) 時間 午前8時30分から午後5時00分まで
- (3) 場所 呉市阿賀南2丁目2番11号(〒737-8506)
呉工業高等専門学校 学生課教務係

編入学案内

1. 本校の教育について

(1) 教育理念

○豊かな教養と国際性をそなえた人材を育成する

心と体を鍛え、誇り高い人格を養うと共に、深い教養と国際的視野をもった幅広い人間性を培う。

○未知なるものの創造と実行力ある人材を育成する

未知なるものへのチャレンジと創造の精神をそなえ、現実の諸問題を解決しようとする実践的能力をもつ人材を育てる。

○人類の福祉と平和に貢献する人材を育成する

豊かな人間性と創造的技術力をもって、人類の福祉と国際社会の進展に貢献する気概を養う。

(2) 求める学生像 (アドミッションポリシー)

I. 全学科共通のアドミッションポリシー

呉高専は、次のような人を待っています。

- ① 基礎学力が備わっていて、数学、自然科学、情報技術に興味のある人
- ② 外国語を進んで学び国際的な仕事にも興味のある人
- ③ 何事に対しても責任感があり、積極的に勉学やクラブ活動などに取り組める人
- ④ 技術やものづくりに興味があり、それらを利用して社会に役立ちたいと考えている人
- ⑤ 論理的な考え方ができ、多くの人々と意思の疎通ができる人
- ⑥ エンジニアやデザイナーを目指す意思が明確な人

(略)

(出典 編入学者募集要項)

(資料 1-2-②-4)

平成18年度
専攻科学生募集要項

専攻科

独立行政法人 国立高等専門学校機構
呉工業高等専門学校
〒737-8506 (広島県呉市阿賀南2丁目2番11号)
☎(0823)73-8416 (学生課教務係)
FAX (0823)73-2490 (学 生 課)

入 学 案 内

1. 設 置

平成10年4月

2. 専攻科の目的

本校専攻科は、高等専門学校の教育をもとに、精深な程度において工業に関する高度の知識及び技術を教授し、その研究を指導し、創造性豊かな実践力のある開発型技術者を養成し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

3. 技術者教育プログラムについて

本校専攻科では、日本技術者教育認定機構=JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) の基準に適合する技術者教育プログラムとして、本科4年次から専攻科2年次までの教育課程の学習・教育に際して、機械電気工学専攻に「機械工学コース」及び「電気情報工学コース」、建設工学専攻に「環境都市工学プログラム」及び「建築学コース」の教育プログラムを設定し、社会の要求基準を満たすべく教育を行っています。

機械電気工学専攻に入学した者は、「機械工学コース」又は「電気情報工学コース」、建設工学専攻に入学したものは、「環境都市工学プログラム」又は「建築学コース」の教育プログラムの履修者となります。このため志願者は教育プログラムを修める強い意志が必要ですよ。

4. 専攻及び入学定員

機械電気工学専攻 8名
建設工学専攻 8名

5. 修業年限及び修了要件

- (1) 修業年限 2年
- (2) 修了要件 学期別に従い、6単位以上取得するとともに、各教育プログラムの修了要件 (P11～P18) を満たすことが必要です。

6. 各専攻の教育方針

(1) 機械電気工学専攻

本専攻では、特別研究、特別実験及び講義演習を必修とし、さらに専門性を高めるため機械工学系と電気工学系に対応した選択科目を開設しています。これらを通して、マイクロエレクトロニクス、ロボティクスを統合・融合化した、高度に情報化された機電一体設備の設計やそのシステムを開発できる研究開発型技術者の育成をめざしています。

(2) 建設工学専攻

本専攻では、特別研究、特別実験及び講義演習を必修とし、さらに専門性を高めるため環境都市工学系と建築学系に対応した選択科目を開設しています。これらを通して、耐震構造や高齢者住宅などの技術を含む都市や住空間に対するより高度な機能と快適さの実現、さらに環境問題を解決できる研究開発型建設技術者の育成をめざしています。

(出典 専攻科学生募集要項)

(資料 1-2-②-5)

保護者懇談会開催当日（6月25日）の関係行事予定表

平成17年6月1日現在

平成17年 6 月 25 日(土)

時 間	行 事 等	場 所	出 席 者 等
9:00~11:00	学級別懇談会	教員室等	保護者 各学級担任
10:00~11:00	学生寮保護者懇談会	第1寮会議室, 外	教務主事, 寮務主事補, 寮務保 (1寮会議室, 2寮多目的室, 白習室, 福利2階第 2研修室・集会室)
11:00~12:00	保護者懇談会全体懇談会	視聴覚教室 (図書館棟1階)	保護者 教務主事, 学生主事, 教務主事補(司会) (学生課長, 教務保長)
13:00~14:00	学生寮保護者懇談会	第1寮会議室, 外	教務主事, 寮務主事補, 寮務保 (1寮会議室, 2寮多目的室, 白習室, 福利2階第 2研修室・集会室)
13:10~16:00	学級別懇談会	教員室等	保護者 各学級担任

※校長出張

後援会総会・保護者懇談会開催当日（7月3日）の関係行事予定表

平成17年6月1日現在

平成17年 7 月 3 日(日)


時 間	行 事 等	場 所	出 席 者 等
9:00~11:00	学級別懇談会	教員室等	保護者 各学級担任
10:00~11:00	学生寮保護者懇談会	第1寮会議室, 外	教務主事, 寮務主事補, 寮務保 (1寮会議室, 2寮多目的室, 白習室, 福利2階第 2研修室・集会室)
11:00~12:00	保護者懇談会全体懇談会	視聴覚教室 (図書館棟1階)	保護者 校長, 教務主事, 学生主事, 教務主事補(司会) (学生課長, 教務保長)
12:00~ (全体懇談会終了後~)	後援会総会	視聴覚教室 (図書館棟1階)	保護者, 後援会役員 校長, 4主事, 事務部長, 各課長, 庶務保長, 総務保長 (司会は庶務課長, 議長は後援会長)
12:30~ (後援会総会終了後~)	後援会役員懇談委員会	第2会議室 (管理棟3階)	後援会役員 校長, 教務主事, 学生主事, 事務部長, 各課長 (庶務保長, 総務保長)
13:00~14:00	学生寮保護者懇談会	第1寮会議室, 外	教務主事, 寮務主事補, 寮務保 (1寮会議室, 2寮多目的室, 白習室, 福利2階第 2研修室・集会室)
13:10~16:00	学級別懇談会	教員室等	保護者 各学級担任

(出典 庶務課)

(資料 1-2-②-5 続き)

保護者懇談会全体説明会

平成17年度



校長 福永 秀春

- JABEE認定取り組みの現状
- 本校の教育環境整備の現状について
- 大学編入 学ならびに大学院入学について

教務主事 福原 安洋

- 本校の教育改善の現状について
- サポーター制度への協力依頼
- 学業成績について
- 夏季休業期間の変更と8, 9月の行事

学生主事 宇根 俊範

- 身なりについて
- その他

JABEEとは?

- 日本技術者認定制度
- 実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が認定する

日本技術者教育認定機構(JABEE)
Japan Accreditation Board for Engineering Education



```

    graph LR
      A[教育の認定] --> B(優れた技術者教育)
      B --> C(国際的に通用する技術者)
      C --> D[技術者資格]
    
```

(出典 保護者懇談会全体説明会資料)

(別添付資料 1-2-②-7)



The screenshot shows the homepage of Kure National College of Technology. At the top, there is a navigation bar with the school's name in Japanese and English, and a language selector for English. Below this is a grid of images showing various campus scenes. A central blue box contains the text 'Kure-nct Official Web Site'. To the right, there is a 'Menu' section with links to 'School Overview', 'Admission/Path', 'Education/Research Facilities', 'School Life', and 'Culture/Other'. Below the menu are buttons for '呉高専日誌' and '中学生の皆様へ'. The main content area is divided into 'What's New' and 'Quick Jump' sections. The 'Quick Jump' section lists various departments and services such as Mechanical Engineering, Environmental Engineering, General Courses, Club Activities, Entrance Exams, and Alumni/Former Students. At the bottom, there is a copyright notice and contact information.

(出典 呉高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

学校案内や入学者募集要項の配布，中学校訪問，入学説明会などの行事の実施，広報誌，ホームページ等多種の方法により，十分に公表されている。また平成17年度からの地域連携室の設置により，地域連携が組織的に行われ，地域や企業に対しても本校の目的が周知されてきている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

自己点検報告書及び外部評価報告書（訪問調査時提示）に考察されており改善につながっている。本校の目的の説明，開示，意見の収集は，中学訪問，入学選抜の説明会，企業訪問などで行われている。

成果について各種報告書（例：別添付資料 1）～4）を作成し配布している。専攻科では，特別研究論文集（別添付資料 2）の巻末に示すように，外部での研究発表を義務付けている。また留学生受け入れに対し，里親会制度（別添付資料 5）が充実している。

(別添付資料 1) 卒業研究概要集（訪問調査時提示）

(別添付資料 2) 特別研究論文集（訪問調査時提示）

(別添付資料 3) インターンシップ報告書（訪問調査時提示）

(別添付資料 4) リーダーズセミナー報告書（訪問調査時提示）

(別添付資料 5) 年次報告：留学生里親会（訪問調査時提示）

(改善を要する点)

本校の詳細な目的やシラバスのホームページへの開示情報が少ない。本校の目的を学外に説明したものを考察した報告書を作成する必要がある。目的を点検するため卒業生の進路先にアンケートを実施する必要がある。このアンケートは教育改善委員会で18年度中に実施予定である。また，各学科の目標が準学士課程と専攻科とでほぼ同じになっているため，準学士課程と専攻科で目標をそれぞれ明確にする必要がある。この点も18年度中に実施予定である。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

技術者教育プログラム充実を目指した改善が進み，教育の目的はほぼ達成されている。しかし，ホームページへのシラバスの公開，目標達成度を評価するアンケートの実施，準学士課程と専攻科の目標の明確な区別など課題もある。

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には高等専門学校設置基準に基づき，機械分野の設計及び製作に必要な専門科目を修得する機械工学科，省エネルギー対策及び高度情報化通信（IT）社会に必要なエネルギー制御及び情報通信に関する応用科目を修得する電気情報工学科，環境問題に対応でき社会基盤施設の計画・設計・建設・管理に関する専門知識を修得する環境都市工学科及び快適で魅力ある建築空間を創りあげるための専門科目を修得する建築学科の4学科を設置している（資料2-1-①-1）。

各学科は独自の学習・教育目標を設けており（前掲資料1-1-①-2），その内容は本校の教育目標である「世界に通用する実践力のある開発型技術者の育成」（資料2-1-①-2）及び教育目標を具体的に表現した「高度な専門知識」，「プレゼンテーション能力」，「語学能力」を併せ持つ人材を育成することを反映したものである。

なお，各学科の志願者倍率はいずれも1.5倍以上であり，就職率はほぼ100%であることから，これら4学科の設置は適切といえる。

（資料2-1-①-1）

本校の学科構成

○呉工業高等専門学校学則抜粋

（学科，学級数及び入学定員）

第7条 学科，学級数及び入学定員は，次の表のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機械工学科	1	40人
電気情報工学科	1	40人
環境都市工学科	1	40人
建築学科	1	40人

（出典 呉工業高等専門学校規則集）

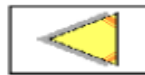
(資料2-1-①-2)

呉高専の教育目標

「世界に通用する実践力のある
開発型技術者」の育成

- 高度な専門知識
- プレゼンテーション能力
- 語学能力

を併せもつ人材



(出典 呉高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

学科の構成とその内容や目的は、設置基準の規定に適合し、学校の教育目的と整合性がとれている。

観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校は、学科教育の上にさらに2年間の高度な専門教育が行われるように、学校教育法に基づき専攻科に、高度に情報化された機電一体設備の設計やシステムを開発するための研究開発型技術者の育成を目的とした機械電気工学専攻及び都市や住空間に対するより高度な機能と快適さの表現、さらに環境問題を解決できる研究開発型技術者の育成を目的とした建設工学専攻の2専攻を設置している(資料2-1-②-1)。機械電気工学専攻には、機械系と電気系、建設工学専攻には、環境都市系と建築系を設置し、それぞれの系は準学士課程の各学科に対応している。系を設けることによって準学士課程で実施した卒業研究を原則として専攻科での特別研究で継続し、研究開発能力を養うことを目指し

ている。各系の学習・教育目標は専攻科の教育目標（世界に通用する創造性豊かな実践力のある開発型技術者を育成する。）を反映している。

(資料2-1-②-1)

本校の専攻科の構成

○呉工業高等専門学校学則抜粋

(専攻及び入学定員)

第37条 専攻科の専攻及び入学定員は、次の表のとおりとする。

専 攻	入 学 定 員
機械電気工学専攻	8人
建設工学専攻	8人

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の構成とその内容や目的は、設置基準の規定に適合し、学校の教育目的と整合性がとれている。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校では、全学的なセンターとして情報処理センターと地域共同テクノセンターを設置している。

情報処理センターは、情報処理センター演習室、パソコン演習室、マルチメディア室を管理しており、情報処理センター演習室、パソコン演習室はコンピュータを50台、マルチメディア室はコンピュータを48台設置している。各学科は、両演習室で基礎的な情報処理教育と専門教科での情報処理の演習を行っている（資料2-1-③-1）。

マルチメディア室では、主にマルチメディアを活用した英語の授業を行っている。情報処理センター演習室は、平日、学生は昼休み及び放課後から午後8時まで利用可能である（資料2-1-③-2）。また、e-learning システムが設置され、学生はTOEIC受験について自主的な学習ができる。

地域共同テクノセンターは、企業等との共同研究・受託研究等を実施することにより、地域産業の振興に貢献するとともに、共同研究・受託研究に関連した卒業研究、特別研究、実験実習などを実施し、準学士課程及び専攻科における教育の目的を達成するために適切な施設となっている（資料2-1-③-3）。

(資料 2-1-③-1)

平成17年度 情報処理センター利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1		C5 情報処理Ⅱ	C5 構造力学Ⅱ	C4 数値解析	
2		中野	中野	橋本	
3	A5 情報処理	A4 CAD・CG		A3 情報処理	
4	正野崎	間瀬		門前	
5	A4				M3 情報処理
6	設計製図	M3		A4 情報処理	山田・上寺
7	岡本・間瀬	製図		正野崎	
8		中迫			

平成17年度 パソコン演習室利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1	C4 情報処理Ⅰ	M4 情報処理	M4 創造演習Ⅱ	M4	
2	中野	野原	山田	工学実験	
3	A2 造形	C3 創造演習			A4 工業英語
4	岡本・仁保	森脇・山岡・堀口	C1 情報処理 森脇 C3	野原・岩本 山田・上寺	松野
5	S2 数値熱流体力学	M4	C3 情報処理Ⅰ 橋本		
6	野村(高)	製図			C2 情報処理
7	A5 建築防災工学	野村(高)・上寺			市坪
8	門前				

平成17年度 マルチメディア教室利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1	C2 総合英語 高島	E3 オーラル 川尻		A3 オーラル 中山	C3 オーラル 中山
2	M1 総合英語 江口			M3 オーラル 中山	
3	E2 総合英語 高島	M2 総合英語 中山	4選択 オーラルⅡ 高島	C1 総合英語 川尻	M4 総合英語 高島
4				E4 総合英語 高島	
5	C5 総合英語 江口	S1 英語コミュニケーション 高島		E1 総合英語 江口	A2 総合英語 中山
6	A5 総合英語 江口				A1 総合英語 川尻
7					

平成17年度 E科情報処理演習室利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1	E1 CAD				E2 情報処理Ⅱ
2	野村(博)・三島	E2			板東
3	E3 情報処理Ⅲ	実験 田中・横瀬 井上・三島	E1 情報処理Ⅰ 板東・井上		E5 電子回路設計 横沼
4	田中				
5	E4	E3			
6	実験	実験			
7	山崎・横沼 井上・三島	野村(利)・藤井(敏) 井上・三島	E4 IC設計 (山内)	E4 アルゴリズム 田中・井上	
8					

(出典 授業時間割)

(資料2-1-③-2)

- 第6条 センターの利用時間は、次の通りである。
- 一 平日8時30分から17時まで (一般利用時間帯)
 - 二 平日17時から20時まで (学習利用時間帯)
 - 三 1日の授業をすべてカットする学校行事がある日は閉館とする
 - 四 試験期間中はセンター演習室を開放しない
 - 五 センター長が開館を認めないときは閉館することもある

(出典 情報処理センター利用細則)

(資料2-1-③-3)

○呉工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則 (抜粋)

(目的)

第1条 呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)と独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という。)以外の者との共同研究及び交流を通じて、本校の教育・研究の発展に寄与するとともに、地域社会における産業技術の振興及び発展に貢献することを目的として呉工業高等専門学校地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)を設置する。

(業務)

第2条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本校内の共同研究に関すること。
- (2) 機構以外の者との共同研究及び受託研究に関すること。
- (3) 外国人研究者との共同研究及び学術交流に関すること。
- (4) 本校の学生に対する実践的な技術教育及び研究指導に関すること。
- (5) 機構以外の者の技術者に対する技術教育及び研究指導に関すること。
- (6) 機構以外の者に対する科学技術情報の提供に関すること。
- (7) 機構以外の者からの科学技術相談に関すること。
- (8) 地域社会における学術研究交流に関すること。
- (9) その他センターの目的を達成するために必要と認められること。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

施設は、授業だけでなく授業時間外でも「語学力」の向上に活用されている。テクノセンターは卒業研究及び特別研究の実施に利用され開発型技術者の育成に活用されている。このことから、全学的なセンターが教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

教育課程に関する学生や学科からの意見は教育改善委員会（16年度までは技術者教育改善推進委員会）（資料2-2-①-1）で検討される。教育改善委員会の提言・提案を企画調整するのは，準学士課程に関することは，教務主事，教務主事補，一般科目及び各専門学科の教員のうちから各1名で構成されている教務委員会である（資料2-2-①-2）。専攻科に関することは，専攻科長，専攻科長補及び一般科目委員から構成されている専攻科委員会が担当している（資料2-2-①-3）。教務委員会及び専攻科委員会で審議された結果は教員会で周知される。実施結果について教育改善委員会で議論し，改善点があれば，再度教務委員会及び専攻科委員会に提言される体制となっている（資料2-2-①-4）。

委員会の審議回数を資料2-2-①-5に示すように，教育改善委員会，教務委員会及び専攻科委員会の回数が多い。

(資料 2-2-①-1)

○呉工業高等専門学校教育改善委員会規則

(設置)

第1条 呉工業高等専門学校に教育プロセスと教育環境(以下「教育プログラム」という。)の点検・評価，改善を行うため，呉工業高等専門学校教育改善委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は，次の各号に掲げる事項を点検・評価し，改善の提言及び提案を行う。

- (1) 学習目標及び教育目標に関すること。
- (2) 教育プログラムの継続的な改善に関すること。
- (3) 教育の内容と質の保証に関すること。
- (4) 社会の要求や学生の要望に照らした教育プログラムの点検・評価，改善に関すること。
- (5) 日本技術者教育認定，認証評価，外部評価等に関すること。
- (6) FDの企画，実行及び事後評価に関すること。
- (7) 授業評価の活用に関すること。
- (8) 教育プログラムのレビュー，アウトカムズ評価に関すること。
- (9) その他教育の改善に関し必要と認められること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 教員 若干名
 - (2) 庶務課長及び学生課長
 - (3) その他校長が必要と認めた者
- (以下 略)

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料2-2-①-2)

○呉工業高等専門学校教務委員会規則

平成16年4月1日

(設置)

第1条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、校長の命を受け、教務に関する重要事項を協議する。

第3条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 教育課程に関する事。
- (2) 授業及び試験実施に関する事。
- (3) 学校行事に関する事。
- (4) 入学、進学及び卒業に関する事。
- (5) 出欠席に関する事。
- (6) 学生指導要録に関する事。
- (7) 学生の課外教育に関する事。
- (8) 学生の見学及び学外実習に関する事。
- (9) 授業改善・基礎学力の向上に関する事。
- (10) その他教務に関し必要と認められる事。

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 一般科目及び各専門学科の教員のうちから各1名

2 委員長は、委員会の会議(以下「会議」という。)に学生課長を出席させる。

(任命)

第5条 前条第1項第3号に定める委員(以下「第3号委員」という。)は、校長が任命する。

(任期)

第6条 第3号委員の任期は1年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 第3号委員は、再任することができる。

(委員長)

第7条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。

(以下 略)

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料2-2-①-3)

○呉工業高等専門学校専攻科委員会規則

平成 16 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、専攻科に関する重要事項を協議する。

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関する事。
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関する事。
- (3) 入学者選抜に関する事。
- (4) 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関する事。
- (5) 試験及び学業成績に関する事。
- (6) 地域連携教育に関する事。
- (7) その他専攻科の教育、研究及び厚生に関する事。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 専攻科長補 4 名
- (3) 一般科目の教員のうちから 1 名
- (4) その他校長が必要と認めた者

2 委員長は、委員会の会議(以下「会議」という。)に学生課長を出席させる。

(任命)

第 5 条 前条第 1 項第 3 号及び第 4 号に定める委員(以下「第 3 号等委員」という。)は、校長が任命する。

第 6 条 第 3 号等委員の任期は 1 年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 第 3 号等委員は、再任することができる。

(委員長)

第 7 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

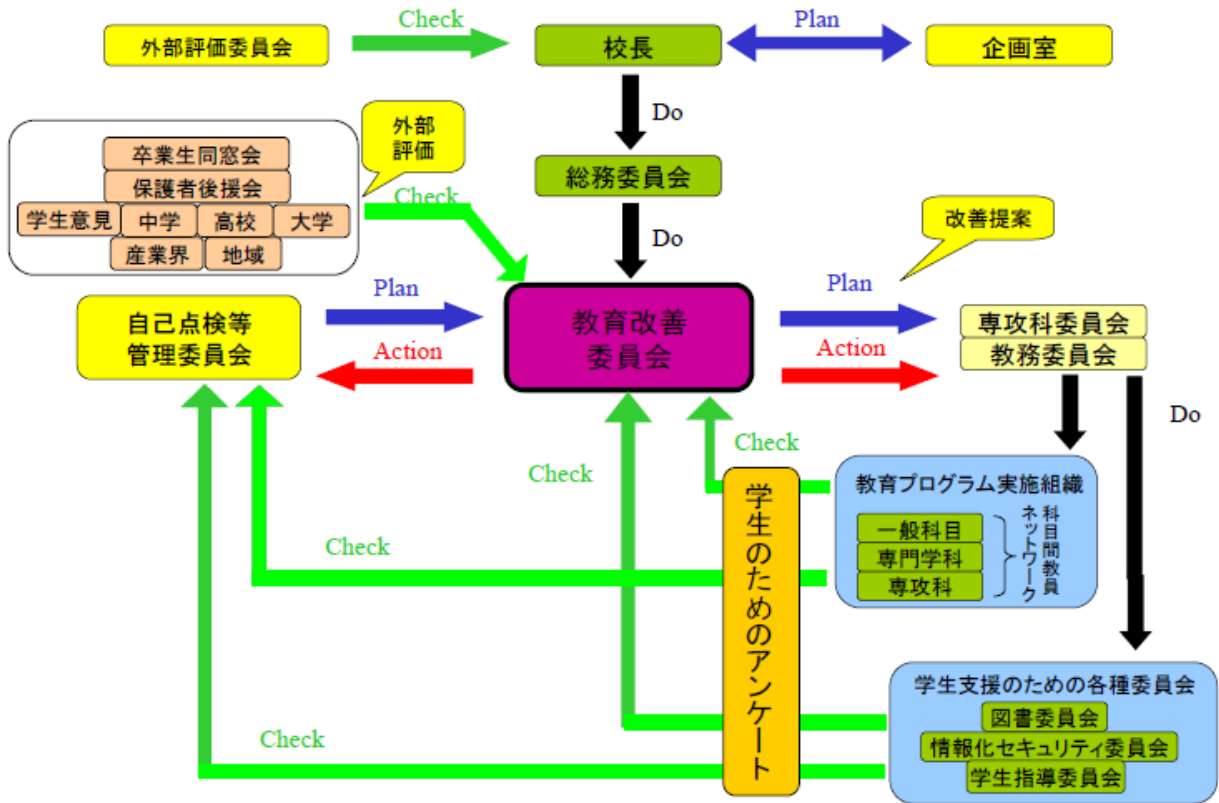
2 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。

(以下 略)

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料2-2-①-4)

呉高専教育改善システム



(出典 教育改善委員会)

(資料2-2-①-5)

平成 15 年度から 17 年度の委員会開催回数

No	委員会・WG名	委員会・WG開催回数		
		平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
1	総務委員会	13	13	13
2	教務委員会	12	11	11
3	学生指導委員会	13	15	12
4	寮務委員会	5	6	7
5	専攻科委員会	16	15	16
6	情報化・セキュリティ委員会	4	5	9
7	総合技術室運営委員会	1	1	1
8	自己点検等管理委員会	5	4	7
9	自己点検等管理委員会専門小委員会	15	13	15
10	広報委員会	4	3	1
11	人権教育推進委員会	1	1	-
12	レクリエーション委員会	2	2	1
13	図書委員会	6	7	6
14	入学者選抜委員会	11	9	9
15	入試問題作成委員会(作成班)	2	1	1
16	環境マネジメント委員会	2	-	-
17	IT 教育地域支援活動委員会	0	1	1
18	外国人留学生委員会	3	3	2
19	進路指導委員会	2	2	2
20	安全衛生委員会	-	10	12
21	教育改善委員会	6	6	12
22	企画室	-	-	13
23	地域研究委員会	-	-	12

(出展 庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程に関して、教務委員会及び専攻科委員会が規則、審議内容から教育課程に関する事項を企画調整していることは明らかである。また、資料2-2-①-4から明らかのように、実行、点検・評価、改善提案のサイクルが構築され教育改善に努めている。このことから、教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、十分機能している。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

平成15年に教務主事、英語科の教員、専門の4学科の教員からなるワーキンググループが作られ、英語能力の向上について検討が行われた。平成16年、技術者教育改善推進委員会において科目間教員連携組織を実質的に討議できるような組織編成にするために科目間教員ネットワークが設置された。この部会で、一般科目の5教科(数学・理科・外国語・国語・社会)と専門科目の間で意見交換が行われることになった(資料2-2-②-1)。部会の検討内容は技術者教育改善推進委員会(現在は教育改善委員会)へ提出されて教育改善の提言や提案を行うことになっている。

(資料2-2-②-1)

第3回 技術者教育改善推進委員会議事要録

日時 平成16年5月19日(水) 16時～17時10分
 場所 第2ゼミナール室
 出席者 竹村, 木原, 河野, 黒木, 山口, 篠部(代理・間瀬), 後藤, 村岡, 川野
 欠席 上田
 議題

1. 未修得科目等の取扱いについて

(中略)

2. 科目間教員連携組織について

委員長から、資料2について説明があり、審議した結果、次のとおり了承し、各科において下記(3)の構成員を決定し、6月4日(金)までに学生課専門員に連絡することとした。

(1) 検討組織の名称は、「科目間教員ネットワーク」とする。

(2) 6つの検討グループに分け、①のグループから順に6月より開催していく。(8月は開催しない。)なお、2回目以降は、各グループで必要に応じて開催する。

① 数学(応用数学含む。)と専門科目(6月開催)

② 理科(応用物理含む。)と専門科目(7月開催)

③ 外国語と専門科目(9月開催)

④ 国語と専門科目(10月開催)

⑤ 社会と専門科目(11月開催)

⑥ 専門科目と専門科目(学科間)(12月開催)

(3) 構成人数は、各グループごとに一般科目から2名、専門学科から各2名ずつの計10名程度とする。

(4) 各グループで座長、記録者を互選し、検討内容はエビデンスとして本委員会に提出する。

(以下略)

(出典 技術者教育改善委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

英語能力の向上について検討を行うワーキンググループにおいて、本校の学生の英語力を伸ばす一方策として英語統一テスト(専攻科生全員と準学士課程4年生全員にTOEICテスト, 準学士課程3年生全員にTOEIC Bridge テスト)を実施することを決定した。また、専攻科における特別研究論文集の概要を英語で記述することとした。

一般科目と専門科目の教員間の連携システムは構築されており、検討内容は教育改善委員会へ提出されカリキュラム改善等が行われている。以上のことから一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が機能的に行われている。

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

教務委員会では、学級担任の業務や学生指導について具体的に説明している担任マニュアルを学級担任に配布している(資料2-2-③-1 訪問調査時に提示)。担任が学生の指導を円滑に行うために担任セミナー、第1学年担任会及び全学担任会を開いている(資料2-2-③-2, 資料2-2-③-3, 資料2-2-③-4)。また、新任教員に対しては新任教員オリエンテーションを、非常勤講師に対しては説明会を実施している。非常勤講師には常勤の世話教員を付け、教育活動の円滑を図っている。

学生指導委員会では、「呉高専キャリア教育プランSAPAR:Search, Analysis, Plan, Action, Realize (サパー)」(資料2-2-③-5)を構築し、学生の進路決定のための各学年における学生の自覚を明確にし、進路指導教員の指導の円滑化を促進している。また、学生相談室室長とともに学年合同のロングホームルームを設けて担任の学生指導の支援を行っている。学生の課外活動の中心であるクラブ活動では、各クラブに顧問教員を配置している。クラブ活動の指導をより充実させるため外部コーチを招聘しているクラブもある。クラブ活動を円滑にする為に年に2回クラブ顧問会議が開かれている(資料2-2-③-6)。

寮務委員会では、学生の寮生活におけるデータベース(資料:訪問調査時開示)を作成し、学級担任の学生指導の援助となっている。

(資料2-2-③-1)

担任マニュアル Ver.2005/3

<担任マニュアルの狙い>

- ①担任の業務・指導の際に利用できる業務一覧を作成する
- ②担任の業務・指導の標準をはっきりさせて、担任業務・指導のばらつきをなくす
- ③優れた指導例をまとめて、担任の業務・指導の向上を図る

担任の業務・指導一覧を作成して、利用していただくために、昨年「担任マニュアル」(暫定版)を作成しました。このたび、内容に誤りや不足なところを修正・補足しました。今後さらに修正・補足しながら、担任が利用しやすい「担任マニュアル」を完成させるつもりです。

2005. 3. 17
教務主事

(出典 担任マニュアル)

(資料2-2-③-2)

平成18年3月6日

教員各位

教務主事

平成18年度担任セミナーの開催について

平成18年度担任セミナーを下記のとおり開催しますのでご参加下さい。来年度初めて担任をされる先生や久しく担任をされていない先生など、どなたでも参加可能です。

今回は担任業務を確認する(担任間で共通認識を持つ)機会にしたいと考えておりますので、特に、来年度低学年の担任をされる先生は、是非ご参加下さい。なお、参加される先生は、資料の準備の都合上、今週中(3/10まで)にメールまたは電話にて江口までご連絡をお願いします。

記

日 時 平成18年3月14日(火) 10:00から

場 所 管理棟3階 第1会議室

(出典 担任セミナーの開催の案内)

(資料2-2-③-3)

第1学年担任会報告

日 時 平成17年4月15日(金) 16:05~17:14

場 所 第1ゼミナール重

出席者 福原, 宇根, 谷岡, 江口, 深澤, 森脇, 野鳳 山崎, 黒川(康), 新美, 野町, 川野(記録一川上)

議 題

1. 入学説明会について

教務主事から資料1により説明があった後、意見交換を行った。

- ・喫煙コーナーが必要ではないかとの意見があったが、必要ないとの意見が多数を占めた。

2. 入学式当日の諸行事について

教務主事から資料2により説明があった後、意見交換を行った。

- ・新入生集合から入場まで時間が空きすぎたのではないか。(寒かった。)
- ・受付(8:40)が早すぎるので、9:00位からでよいのではないか。
- ・電気情報工学科の看板を新しくしてほしい。
- ・新入生にとって、”本科”入学生というのがわかり辛いのではないか。(呼ばれたとき戸惑っていたようである。)

3. 対面式・始業式について

教務主事から資料3により説明があった後、意見交換を行った。

- ・校歌斉唱時に起立させればよかったのではないか。
- ・校歌の歌詞を回収してはどうか。

- ・校歌の歌詞（1番のみ）を表示したものを作成し、体育館に設置してはどうか。
- ・使いやすいマイクスタンドを購入してほしい。

4. 新入生オリエンテーションについて

教務主事から資料4により説明があった後、意見交換を行った。

- ・健康診断の時間が遅れ、待ち暗面が長かった。（時間配分の検討を。）
- ・体育の授業は、着替えて南グラウンド又は体育館へ集合することを周知する。
- ・別途HRでガイダンスがあるので、図書館ガイダンスは時間を短くしてはどうか。
- ・2日目のスポーツについて、3時限目をHRにしてはどうか。 → 来年度の計画は、15：00からHRとする。

（以下 略）

（出典 第1学年担任会報告）

(資料2-2-③-4)

全学年担任会報告

日時 平成17年9月28日(水) 11:05~12:18

場所 第1会議室

出席者 福原, 宇根, 谷岡, 江口, 深澤, 森脇, 野原, 山崎, 黒川(康), 新美, 岩根, 笠松, 中山, 京免, 野村(博), 橋本, 岡本, 森, 黒木, 間瀬, 河口, 藤井(敏), 正野崎, 川野

欠席者 高島, 重松, 市坪, 野町

議題

1. 保護者懇談会について

教務主事から資料1により全体懇談会及び学級別懇談会の参加者について報告があった。

また, 寮生の保護者から, 閉寮日と一致させて欲しいとの要望があったことの報告があった。

2. 成績不振者対策について

教務主事から資料2により説明があり了承した。

3. 後期LHRの実施報告について

教務主事から作成について協力依頼があった。

4. 学級担任との意見交換について

ア. 教務主事関係

次のとおり意見があった

- ・特別見学の旅費について支給が遅いので確認して欲しい。
- ・ 〃 支給基準を教えて欲しい。
- ・担任経由の連絡事項(Eメール)が多い。(7月には11件あった)
- ・担任からの連絡を減らし, 掲示板を利用して欲しい。(掲示板を見る習慣をつけるべきである。)
- ・担任への連絡時にクラスのボックスへ配付した物はその旨連絡して欲しい。
- ・HRのエアコンの掃除についてどうなっているか。 →施設係がフィルターの清掃を行っている。
- ・黒板拭きクリーナーの清掃は契約に入っているのか。

また, 教務主事から, ロッカー上, 机上の整理などHRの使い方を指導してほしいとの依頼があった。

イ. 学生主事関係

次のとおり意見があった

- ・壮行会の出欠を取るか取らないか決めて欲しい。
- ・壮行会実施による繰り下げ授業のため, 9時間目まで授業となった。
- ・高専大会の精算が1年後となったのはどういうわけか。
- ・高専大会の支給基準を教えて欲しい。

また, 学生主事より10月6日(木)の身なり指導への協力依頼があった。

ウ. 寮務主事関係

特になし

(出典 全学年担任会報告)

(資料2-2-③-5)

平成18年度 SAPAR実施日程(教員用)

実施予定月日	実施事項					備考
	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	
H17年12月下旬				進路懇談会開催 案内発送		第4学年の保護者に進路懇談会開催 通知
				進路調査票の 配布		就職についての心得、面接についての心得、卒業生の進路状況配布
各担任で設定				進路調査票提出		クラス担任に提出
H18年3月6日(月)	第1回進路指導委員会					当該年度の方針決定
H18年3月6日(月)					第5学年学級 担任打合せ会	進路懇談会、就職事務手続 会社訪問等の検討
H18年3月24日(金)				進路懇談会		保護者・担任及び主任と進路について面談
H18年4月5日(水)					面接リハーサル	
H18年4月～8月		LHR (自己分析)				LHRにて1～2回実施
H18年5月～12月					就活・編入学 体験記、報告書	・就活体験記・編入学体験記の執筆 ・就職・編入学試験報告書の執筆
H18年5月12日(金)				就職準備セ ミナーⅠ		・就職活動スケジュール ・自己分析・情報収集と会社選び ・自己PRと志望動機・SPI試験
H18年5月24日(水)			3学年合同LHR (就職・進学 に向けて)			・進路の手引き、体験記の配布 ・進路支援スケジュールの通知 ・進路資料室の紹介
H18年6月23日(金)				SPI模擬試験		希望者のみ
H18年7月～12月	LHR (先輩に聞く)					LHRにて1～2回実施 (5年生が講師)
H18年8月1日(火)			編入学試験対策セミナーⅠ			数学・英語の勉強方法について
H18年8月～9月				校外実習		
H18年9月28日(木)	第2回進路指導委員会					
H18年10月2日(月)			英語統一テスト			TOEICブリッジ, TOEIC試験
H18年10月27日(金)			編入学試験対策セミナーⅡ			5年生による体験談
H18年10月下旬					礼状発送準備	発送先一覧を学生係へ提出
H18年11月24日(金)				就職準備セ ミナーⅡ		・エントリーシートの書き方 ・履歴書の書き方・筆記試験対策
H18年11月下旬					礼状発送予定	暫定発送、以後内定分等は随時学生係に依頼
H18年11月30日(木)				国家公務員試験 制度説明会		人事院中国事務局
H18年11月30日(木)				国立大学法人等 職員採用試験制 度説明会		中国・四国地区国立大学法人等 職員採用試験事務室
H18年12月下旬				進路調査票配布		
H18年12月～H19年2月				就職ガイダンス		OB・OGによる講演(各学科)
H19年1月～2月			LHR (自己分析)			LHRにて実施
H19年1月12日(金)				就職準備セ ミナーⅢ		・面接対策・ビジネスマナー ・面接に必要な一般的マナー・時事問題講座
H19年1月31日(水) 2～3限		適性検査				・就職適性テスト(CA-P A)
H19年2月21日(水)					卒業前の指導	
H19年3月6日(火)				進路懇談会		

(出典 学生指導委員会)

(資料2-2-③-6)

平成17年度第1回顧問会議報告

日 時 平成17年5月27日（金）16：00～16：40

場 所 第1ゼミナール室（図書館棟2階）

出席席 宇根 吉村，小助川，佐賀野，各クラブ顧問（文化部・体育部）

欠席者 中野（音楽部，女子バスケットボール部），黒川（岳）（硬式野球部（高野連チーム）），野町（記録）
小林

議 題

始めに，学生主事から本日の課外教育費と学生指導関係設備充実費に関しては，本校への予算配分は未だであるが，例年どおりの配分があるものとして審議したい旨説明があった。

1. 平成17年度課外教育費の配分について

学生主事から資料1について説明があり，審議の結果，次のような案とすることとした。

「予算配分（案）」により，今年度配分候補となるクラブのうち，

- ・無線部の要求物品（ミキサー他，93，720円）は経費の配分を諦めることとした。
- ・ソフトテニス部は今年度の学生指導関係設備充実費（資料2）で配分が決定されることが考えられるので課外教育費の配分は行わないこととした。
- ・バスケットボール部の要求物品（ボールバッグ他，141，120円）は経費の配分を認めることとした。
- ・ハンドボール部は今年度の学生指導関係設備充実費（資料2）で配分が決定されることが考えられるので課外教育費の配分は行わないこととした。
- ・文芸部の要求物品（ノートパソコン，199，800円）は経費の配分を認めることとした。
- ・サッカー部の要求物品（ゴールネット除く，72，815円）は経費の配分を認めることとした。
- ・自動車部の要求物品（交換被膜アーク溶接機のみ，74，200円）は経費の配分を認めることとした。
- ・陸上競技部は今年度の学生指導関係設備充実費（資料2）で配分が決定されることが考えられるので課外教育費の配分は行わないこととした。
- ・アーチェリー部は予算の関係上課外教育費の配分は行わないこととした。

2. 平成17年度学生指導関係設備充実費の配分について

学生主事から資料2について説明があり，審議の結果，次のような案とすることとした。

「予算配分（案）」により，今年度配分候補となるクラブのうち，

- ・ソフトテニス部の要求物品（審判台4台のみ，260，000円）は経費の配分を認めることとした。
- ・ハンドボール部の要求物品（ゴール+ゴールネット，330，000円）は経費の配分を認めることとした。
- ・陸上競技部の要求物品（プレハブ倉庫の代わりに，助走ランウェイ，93，450円）は経費の配分を認めることとした。
- ・吹奏楽部，アーチェリー部は予算の関係上学生指導関係設備充実費の配分は行わないこととした。

3. 平成17年度コーチ謝金の配分について

学生主事から，資料3について説明があり，審議の結果，今年度，要求があった13クラブに各20時間分の謝金を配分し，余り分については，追加配分の希望のあった6クラブ（硬式野球部（高野連チーム），柔道部，柔道部，アーチェリー部，ハンドボール部，テニス部）に時機を見て再配分することとした。

4. その他

(1) 試験期間中の対外試合参加について

学生主事から，資料4について，審議対象は「休業日のみ」に限定し，参加希望のクラブから「参加希望調書」の提出を求め，その後に学生指導委員会に諮る旨説明があった。

その他，クラブ顧問から下帯のような要望があった。

- ・文科系クラブの部員の確保が困難となっているので，目に見える形で学生にアピールできる場が欲しい。（美術部）
- ・コーチ謝金の予算を今後増やす方向で検討して欲しい。（テニス部）
- ・高専大会の広島会場には現地に宿泊するのではなく，寮生については寮から通わせたい。（柔道部）

(出典 顧問会議報告)

(分析結果とその根拠理由)

学級担任を支援する体制は、担任マニュアルの配布、担任セミナー、第1学年担任会、全学担任会、学年合同のロングホームルームなどがあり機能している。担任会において学生の指導の問題について担任同士の意見交換が可能であり、学年合同のロングホームルームでは、地元警察署の生活安全課署員による薬物乱用の話や本校のカウンセラーによる青年期の課題など外部の講師による講演などを行い担任の学生指導の支援を行っている。

クラブ活動を円滑にする為にクラブ顧問会議で各クラブの年間予算の審議や年間計画について検討している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の準学士課程の4学科と専攻科は、技術者教育として優れており教育目的を達成する上でも学校教育法に照らして適切である。教育改善に常に取り組み、教育改善システムが確立されて機能している。担任マニュアルの配布や担任セミナー、担任会、新任教員オリエンテーション、サパーなどの開催により学級担任を支援する体制が整備されている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準2の自己評価の概要

本校準学士課程の4学科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものになっている。また、専攻科の構成も教育の目的を達成する上で適切なものになっている（環境都市工学科は平成17年にJABEE認定、機械工学科は平成18年にJABEE認定、建築学科は平成18年にJABEE認定）。全学的なセンターとして情報処理センターと地域共同テクノセンターを設置している。これらは、授業時間だけでなく授業外でも学生に活用され教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

教育課程に関する事項を企画調整する中心は教務委員会及び専攻科委員会で教育活動等に係る重要事項を審議している。一般科目と専門科目の連携に関しては、教育改善委員会が実質的に機能している。また、担任や課外活動への支援体制も機能している。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①: 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

高等専門学校設置基準によると、本校は4学級であるので、一般科目の教員の定員は18名以上でなければならない。したがって、定員を18名としている。平成18年度の現員は、平成18年4月から実施された高専間教員交流制度に基づく函館高専からの助教授1名を加え19名であり、資料3-1-①のとおり配置し、現在の一般科目のカリキュラムとよく対応している。

しかし、開設授業科目や授業時間数に比較して定員が少ないことや平成18年度から第二外国語を3教科としたため、一部科目については非常勤講師で対応している。また、外国人留学生の日本語・日本事情を教育するため非常勤講師を1名配置している。

なお、平成19年度以降非常勤の第二外国語(ドイツ語)担当教員は英語担当教員に変更を検討中である。

(資料3-1-①)

科目別教員配置状況

H18.5.1現在

科 目		配 置 人 数				
		教 授	助教授	講 師	非常勤	合 計
国 語			1	1	1	3
社 会	倫 理 ・ 哲 学	1			1	2
	日 本 史 ・ 世 界 史	1			1	2
	地 理		(1) 1			(1) 1
	法 学 ・ 経 済		1		2	3
自 然	数 学	2	1	1	2	6
	物 理	1			2	2
	化 学	1			2	3
	ハ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー				1	1
芸 術 保 体	保 健 ・ 体 育	1	1		2	4
	芸 術				1	1
外 国 語	英 語	1		3	4	8
	第 二 外 国 語		1		2	3
日 本 語 ・ 日 本 事 情					1	1
合 計		8	(1) 6	5	22	(1) 41

() は高専間教員交流制度に基づく受入教員数であり内数。

(出典 庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準による18名を超えた19名の一般科目教員を配置しており、特に、コミュニケーション能力及び英語力向上のため外国語並びに技術者として必要な基礎学力を養成する自然科学

に重点的に教員を配置している。また、学生が社会の一員としての規範意識や豊かな人間性を培うことができるよう文系にも配慮して適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専門科目の教員定員 49 名に対し現員は 47 名（高専間人事交流制度 1 名含む。）であり、資料 3-1-②に示す学科に所属し、各学科の専門科目を担当している。欠員 3 名は、10 月までの採用を目指し、現在公募中である。

教員のうち応用物理、応用数学及び情報処理教育を担当する教員は、それぞれ各学科に所属はしているが、全学科の学生を対象にしている。

また、平成 18 年 4 月から実施された高専間教員交流制度に基づき、新居浜高専から助教授 1 名を電気情報工学科に受け入れ、教育及び研究の充実を図っている。

さらに、準学士課程 5 年生を対象とする卒業研究は、他学科の教員の指導を受けることも可能とし、フレキシブルな教育環境を整備している。

なお、急遽欠員となった分野には非常勤講師を配置しているが、原則的に非常勤講師は実務経験が必要とする分野や特異な分野に限定している。

(資料 3-1-②)

教員の配置状況（専門科目）

H18.5.1 現在

学科等名	教授	助教授	講師	助手	小計	非常勤	合計
機械工学科	4	7	1	1	13	4	17
機械要素	1	2			3		3
熱工学	1	1			2		2
材料学	1				1		1
流体工学		1			1		1
経営工学		1			1	1	2
応用数学		1			1		1
応用物理	1	1			2		2
制御工学			1		1		1
機械力学				1	1	1	2
加工学						1	1
工学倫理						1	1
電気情報工学科	4	(1) 4	4	1	(1) 13	5	(1) 18
電機基礎・電磁気	1				1		1
電子量子物性	1				1		1
情報	1	1	1		3		3
通信	1				1		1
電力		1		1	2	2	4

制御		1			1	1	2
工業倫理		1			1		1
電子回路			2		2		2
電機機器			1		1		1
I C 設計工学						1	1
エネルギーネットワーク工学						1	1
環境都市工学科	4	4	1	2	11	8	19
構造	1	1			2		2
材料	1	1		1	3		3
土質	2				2		2
施工		1			1	3	4
水理		1	1		2	1	3
計画				1	1	1	2
キャリア開発						3	3
建築学科	3	5		2	10	5	15
構造	2	2		1	5		5
計画	1	3		1	5		5
環境						2	2
不動産						1	1
建築生産						1	1
実用英語						1	1
計	15	(1) 20	6	6	(1) 47	22	(1) 69

() は高専間教員交流制度に基づく受入教員数であり内数。

(出典 庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準によると、4学科で29名(助手を除く)以上の常勤教員を配置することとなっているが、本校は助手を除き41名の教員を配置している。これらの教員には応用物理、応用数学及び情報処理教育担当教員が含まれており、本校の教育理念、教育目標及び各学科の学習・教育目標を実現するための教育カリキュラムが適切に開設できるよう学科別、分野別に適切に配置されている。なお、助手6名は各学科に適切に配置され、実験実習、演習などを担当している。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科は、機械電気工学専攻と建設工学専攻の2専攻があり、専攻科専任の教員は配置されておらず、全て一般科目と専門学科の教員が兼担している。各学科等の兼担者数は資料3-1-③のとおりであり、一般科目19名のうち6名、専門科目の講師以上41名のうち37名が兼担となっている。

(資料 3-1-③)

専攻科担当教員配置状況

H18.5.1

学科等名	専門基礎科目	専門科目	
		機械電気 工学専攻	建設工学専攻
一般科目	6		
機械工学科		11	
電気情報工学科		10	
環境都市工学科			8
建築学科			8
非常勤講師	3		1

(出典 庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校の教育をもとに、精深な程度において工業に関する高度な知識及び技術を教授し、その研究を指導し、創造性豊かな実践力のある開発型技術者を養成し、広く産業の発展に寄与する人材を育成する目的を達成できるよう、非常勤講師を含め 47 名の担当教員を適切に配置している。

観点 3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

(観点に係る状況)

〔一般科目〕

一般科目の教員 19 名中には、高等学校の教諭（非常勤を含む）経験者が 8 名、大学の教員（非常勤を含む）経験者が 3 名、他高専経験者が 1 名、大学・大学院及びその他から 7 名となっており、年齢構成は資料 3-1-④-1 のとおりである。女性教員は 2 名となっている。

また、9 名の教員が博士、8 名の教員が修士の学位を取得している。

さらに、6 名の教員が内地研究員として大学へ出向き、教育研究能力向上を行った経験を有している。（資料 3-1-④-3）

なお、4 名の教員が文部科学省の在外研究員制度を利用して、海外の教育機関に滞在して研究した経験を有している。（資料 3-1-④-4）

(資料 3-1-④-1)

教員年齢構成（一般科目）

H18.5.1 現在

区 分	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
一般科目	0	6	5	6	2

(出典 庶務課)

〔専門科目〕

専門科目の教員 47 名中には、高等学校の教諭（非常勤を含む）経験者が 1 名，他高等専門学校教員経験者が 2 名，他大学教員経験者が 10 人，民間企業経験者が 6 人，他の独立行政法人経験者が 1 名，大学の研究生経験者が 3 名，大学・大学院から 24 名となっており，年齢構成は資料 3-1-④-2 のとおりである。

また，38 名の教員が博士，7 名の教員が修士の学位を取得している。

さらに，10 名の教員が内地研究員として他大学へ出向き，教育研究能力向上を行った経験を有している（資料 3-1-④-3）。

なお，12 名の教員が文部科学省及び平成 17 年度は独立行政法人国立高等専門学校の在外研究員制度を利用して，海外の教育機関に滞在して研究した経験を有している（資料 3-1-④-4）。

(資料 3-1-④-2)

教員年齢構成（専門科目）

H18.5.1 現在

区 分	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
機械工学科	0	6	2	4	1
電気情報工学科	0	4	5	4	0
環境都市工学科	0	6	1	3	1
建築学科	0	3	2	3	2
計	0	19	10	14	4

(出典 庶務課)

(資料3-1-④-3)

内地研究員実績

年度	氏名	研究期間	研究機関	研究題目
53	岡本 二郎	S53. 5. 1～S54. 2. 28	東京大学工学部	島嶼部集落の形態に関する研究
54	周藤 剛士	S54. 9. 1～S55. 2. 29	広島大学文学部	近・現代文学の研究
55	河口 勇治	S55. 5. 1～S56. 2. 28	広島大学工学部	ディーゼル機関の燃焼
57	小堀 慈久	S57. 5. 1～S58. 2. 28	広島大学工学部	遠隔探査法による地盤災害の解析研究
58	野原 稔	S58. 5. 2～S59. 2. 29	広島大学工学部	表面あらさがおよぼすスコーリング強度と運転性能に関する研究
61	岡中 正三	S61. 5. 1～S62. 2. 28	近畿大学工学部	CAGD (Computer Aided Geometric Design)に関する研究
62	竹村 和夫	S62. 5. 1～S63. 2. 29	広島大学工学部	アルカリ骨材反応を生じた鉄筋コンクリート柱の力学的特性
63	小山 通榮	S63. 5. 1～H元. 2. 28	広島大学理学部	各種微量金属の分析
8	横沼 実雄	H8. 5. 1～H9. 2. 28	山口大学工学部	カルコゲナイト系超格子薄膜の作製とその特性に関する研究
9	山田 祐士	H9. 5. 1～H10. 2. 28	愛媛大学工学部	空気圧サーボ系の高機能化に関する研究
10	松野 一成	H10. 5. 1～H11. 2. 26	豊橋技術科学大学 建設工学系	鉄筋コンクリート部材のせん断抵抗性状及び付着割裂破壊との関連性について
11	佐賀野 健	H11. 5. 6～H12. 2. 29	広島大学教育学部	バレーボール一流選手のチームディフェンスに関する研究
12	板東 能生	H12. 5. 1～H13. 2. 28	広島大学大学院 先端物質科学研究科	近藤半導体の熱電変換素子への応用に関する研究
15	宇根 俊範	H15. 5. 1～H16. 2. 27	広島大学大学院 文学研究科	律令制下における氏姓に関する研究
16	木原 滋哉	H17. 3. 28～H18. 3. 24	九州大学法学部	現代民主主義の変容と社会運動
18	岩本 英久	H18. 4. 10～H19. 3. 24	首都大学東京 システムデザイン学部	手術作業の定量化に関する研究

※ 氏名がゴシックは専門科目の教員

(出典 庶務課)

(資料3-1-④-4)

在 外 研 究 員 実 績

年度	氏 名	渡 航 期 間	渡 航 先	研 究 機 関	研 究 題 目
57	福原 安洋	58.2.25～58.12.23	西ドイツ	ミュンヘン工科大学	鉄筋コンクリート構造の研究
61	岩根 三邦	62.3.24～63.1.23	西ドイツ	グーテンベルク大学	アリストテレス倫理思想の研究
4	川尻 武信	4.9.26～5.7.25	イギリス	レディング大学	コミュニケーション能力と言語材料に関する研究
6	河野 正来	7.3.21～8.1.20	イギリス	リーズ大学	歯車の潤滑に関する研究
7	岡本 二郎	7.5.16～7.11.8	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学バークレー校	歴史的建造物の保存方法に関する研究
8	篠部 裕	9.3.25～10.1.24	イギリス	マンチェスター大学	産業の盛衰に伴う都市整備に関する研究
9	小堀 慈久	9.10.1～10.3.30	アメリカ合衆国	マサチューセッツ工科大学	砂質土のせん断及び動的特性に関する研究
10	中迫 正一	11.3.21～12.1.20	イギリス	リーズ大学	動力伝達装置のトライボCADに関する研究
	間瀬 実郎	11.3.22～12.1.21	イギリス	ケンブリッジ大学	“Humanoid CG”による建築デザイン支援システムに関する研究
11	木原 滋哉	12.3.25～12.9.23	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学	ドイツにおける市民運動の制度化に関する研究
	市坪 誠	12.3.15～13.1.14	アメリカ合衆国	南カリフォルニア大学	景観を考慮した構造物設計システムに関する研究
12	奥平 理	12.9.1～13.8.31	カナダ	セント・メリーズ大学	北日本の港湾都市とカナダ大西洋岸の港湾都市の比較研究
15	江口 誠	16.3.22～17.3.13	イギリス	マンチェスター大学	19世紀初頭イギリスの文化研究
16	大西 義浩	17.3.24～18.3.16	カナダ	アルバータ大学	情報技術を用いた制御システムに関する研究
	富田 英夫	17.3.24～18.3.16	ドイツ	バウハウス大学	バウハウスの建築教育理念と建築作品の分析
17	井上 浩孝	18.3.29～19.3.15	イギリス	バーミンガム大学	実時間オンライン学習アルゴリズムの研究

※ 氏名がゴシックは専門科目の教員

(出典 庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

教員の年齢構成は、30代25名、40代15名、50代20名、60代6名であり、若干40代の教員が少ないが、平成17年度及び18年度には50歳代を多く採用したため年齢構成の偏りが一部解消でき、ほぼバランスが取れている。また、常勤教員の53.0%が民間企業、他の教育機関を経験している。博士号取得者は71.2%であり、48.5%の教員が在外研究員及び内地研究員としての研究経験を有しており、教員組織の活動の活性化が適切に実施されている。

なお、教員表彰では、平成17年度に環境都市工学科助教授が文部科学大臣賞を受賞している。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員人事については、平成8年6月に、本校の活性化を図るために『教官人事に関する申合せ事

項』を定め、教員定員に欠員を生じたときは原則公募により適任者を補充することとした。また、平成13年1月に『教官選考会手順補足説明』を校長が定め、選考手順を明確化した。

さらに、平成17年10月『呉工業高等専門学校教員選考規則』を定め、規定を整備した（資料3-2-①-1）。

常勤教員の選考に際しては、校長が教員選考会を設置し、広く人材を求めるための公募要件等を検討する。採用候補者の審査はまず公募を行った学科等が行い複数の候補者を選び、校長、当該学科主任等が面接審査を実施する。教員選考会は面接結果を基に候補者を選考し、校長が採用者を決定することとしている。（資料3-2-①-2）

非常勤講師に関しては、一般科目においては修士以上の学位を有するか、又は高等学校及び他の高等教育機関における教育実績に主眼を置き、専門学科の場合は実務経験及び得意な分野においては研究実績に主眼を置いて、いずれも教員選考会で決定される。

（資料3-2-①-1）

○呉工業高等専門学校教員選考規則

（趣旨）

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第6号）に基づき、呉工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考基準に関し必要な事項を定めるものとする。

（教員の選考）

第2条 教員の選考は、人格及び識見ともに優れた者について、その研究業績、教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行うものとする。

2 教員の選考に当たっては、原則として公募により行うものとする。

（教授の資格）

第3条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

(2) 大学（短期大学を含む。以下同じ。）において教授の経歴のある者

(3) 大学において3年以上の助教授又は専任の講師の経歴のある者

(4) 高等専門学校において3年以上の助教授の経歴のある者

(5) 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有する者

（助教授の資格）

第4条 助教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 前条各号のいずれかに該当する者

(2) 大学において助教授又は専任の講師の経歴のある者

(3) 修士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

(4) 特定の分野について、優れた知識及び経験を有する者

（講師の資格）

第5条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 第3条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者

(2) 高等学校において教諭の経歴のある者

(3) 特定の分野について、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育研究上の能力を有すると認められる者

（助手の資格）

第6条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 修士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

(2) 前号の者に準ずる能力を有すると認められる者

（教員選考会）

第7条 校長の諮問に応じて、教員の採用候補者等の選考をするため、教員選考会（以下「選考会」という。）を置く。

- 2 選考会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
- (1) 校長
 - (2) 教務主事
 - (3) 一般科目主任，学科主任及び専攻科長(以下「学科主任等」という。)
 - (4) 庶務課長
 - (5) その他校長が認めた者
- 3 選考会は、校長が招集し，議長となる。
(公募)
- 第8条 校長は，学科主任等から教員選考の申し出があった場合は，選考会を招集するものとする。
- 2 選考会において公募要件等を決定する。この場合，広く人材を求めることを原則とする。
(審査)
- 第9条 採用候補者等の審査は，公募を行った一般科目又は学科(以下「学科等」という。)において行う。
(面接)
- 第10条 学科等から推薦された採用候補者等に係る面接は，次の各号に掲げる者で行うものとする。
- (1) 校長
 - (2) 当該学科主任等
 - (3) 当該学科主任等が必要と認めた者
- (選考)
- 第11条 選考会は，面接結果を基に選考し，校長が採用者等を決定する。
(補則)
- 第12条 この規則に定めるもののほか，教員の選考に関し必要な事項は，校長が別に定める。
附 則
この規則は，平成17年10月7日から施行する。

○教官人事に関する申合せ事項

呉工業高等専門学校における教官人事については，「国立高等専門学校教員選考方針」(昭和37年文部大臣裁定)に基づくもののほか，本校の活性化を図るため教官人事の進め方について次のように定める。

平成8年6月14日

呉工業高等専門学校長 長町 三生

教官人事に関する申合せ事項

- 1 定年又は転出(辞職を含む。)等により教官定員に欠員を生じたとき，当該欠員のポストについて，原則として公募により適任者を補充するものとする。
なお，当該欠員のポストを下位のポストに流用して補充する場合にあつても，これに同じ。
 - 2 欠員を生じた学科(一般科目を含む。以下，「当該学科」という。)の主任は前項の公募による応募者のうちから，原則として複数の候補者を面接の上，選定し，校長に推薦するものとする。
 - 3 校長は，前項により推薦を受けたときは，すべての学科の主任，教務主事及び当該学科の教授を速やかに招集し，最終候補者の選考に関する意見を聴くものとする。この場合において，補充しようとする学科の意向を尊重するものとする。
 - 4 前項の場合以外の事情が生じたときにあつても，校長は必要に応じて意見を聴くものとする。
 - 5 校長は，第3項による最終候補者を面接の上，適任者を選考するものとする。
 - 6 この申合せ事項は平成8年6月14日から実施する。
 - 7 この申合せ事項は平成8年5月8日から適用する。
- (注) 第3項の「当該学科の教授」について，一般科目にあつては専門科目と同様4名の教授(主任，教務主事を含む。)の出席により選考する。なお，当該選考に係る職との関連を有する科目の教授であることが望ましい。

(8.9.13 総務委員会)

○教官人事の手順について

[呉工業高等専門学校]

- 1 総務委員会(校長，各主事，専攻科長，各学科主任，事務部長，各課長)において，校長が教官

- 人事に関するヒアリングを行い、各学科に検討を指示する。
- 2 当該学科から人事案件を校長に提示し、事前に検討する。
 - 3 教官選考会（校長，教務主事，専攻科長，各学科主任，当該学科の教授）を開催し，公募内容，採用時期，応募資格等を確認する。
 - 4 教官選考会の結果をもとに，公募を行う。
 - ① 国立情報学研究所の研究者公募情報に掲載を依頼
 - ② 公的教育研究機関に公募書類を送付
 - 5 応募書類をもとに学科内選考をして複数の候補者に絞り込み，面接を行う。校長も面接を行う。
 - 6 教官選考会を召集し，面接の結果を参考にして，候補者を選定する。

(出典 庶務課)

(資料 3-2-①-2)

教員の採用及び昇任について

年 度	発令年月日	異動後の職名等	選考プロセス	応募人数	異動前の職名等	採用等時における 主な資格等
14年度	14.4.1	一般科目教授	昇任	—	一般科目助教授	教員免許
	14.4.1	電気情報工学科助教授	公募	3	電気工学科助手	博士（工学）
	14.4.1	一般科目講師	公募	34	私立高校非常勤講師	博士（文学）
	14.4.1	〃	公募	36	私立大学非常勤講師	博士（理学）
	14.4.1	〃	公募	17	私立大学特別専任研究員	博士（文学）
	14.4.1	〃	公募	6	私立中・高校講師	博士（学術）
	14.4.1	機械工学科教授	公募	7	一般企業	博士（工学）
	14.4.1	電気工学科助手	公募	3	大学院生	博士（工学）
	14.4.1	建築学科助手	公募	9	大学院生	修士（工学）
	14.6.1	環境都市工学科講師	公募	6	環境都市工学科助手	博士（工学）
	14.8.1	環境都市工学科助手	公募	4	大学院生	博士（工学）
	14.10.1	電気工学科教授	公募	8	一般企業	博士（工学）
	14.10.1	電気工学科助教授	学内公募	1	電気工学科講師	工学修士
15年度	15.4.1	環境都市工学科教授	公募	6	国公立大学助教授	工学博士
	15.4.1	建築学科教授	その他	—	文部科学省調査官	博士（工学）
	15.4.1	一般科目助教授	昇任	—	一般科目講師	博士（文学）
	15.4.1	〃	昇任	—	一般科目講師	博士（理学）
	15.4.1	〃	昇任	—	一般科目講師	修士（教育学）
	15.4.1	建築学科講師	昇任	—	建築学科助手	博士（工学）
	15.5.1	電気情報工学科助手	公募	3	大学院生	修士（工学）
	15.8.1	一般科目教授	学内公募	1	一般科目助教授	博士（理学）
	15.8.1	機械工学科助教授	学内公募	1	機械工学科講師	博士（工学）
	15.10.1	建築学科助教授	昇任	—	建築学科講師	博士（工学）
	16.2.1	環境都市工学科助教授	学内公募	1	環境都市工学科講師	博士（工学）
	16.2.1	環境都市工学科助教授	学内公募	1	環境都市工学科講師	博士（工学）
16年度	16.4.1	機械工学科教授	公募	2	一般企業	博士（工学）

	16.4.1	一般科目講師	公募	12	私立大学非常勤講師	文学修士
	16.4.1	環境都市工学科教授	徳山高専との人事交流	—	国立高専助教授	博士（工学）
	16.7.1	電気情報工学科講師	公募	1	電気工学科助手	博士（工学）
17年度	17.4.1	電気情報工学科教授	公募	2	私立大学助教授	工学博士
	17.4.1	建築学科助手	公募	7	国立大学助手	博士（工学）
18年度	18.4.1	一般科目教授	公募	11	高専教授	理学博士
	18.4.1	機械工学科助教授	公募	8	独立行政法人博士研究員	博士（工学）
	18.4.1	電気情報工学科講師	公募	2	電気情報工学科助手	博士（工学）
	18.4.1	建築学科教授	公募	4	一般企業	博士（工学）
	18.4.1	建築学科助教授	公募	4	一般企業	一級建築士

（出典 庶務課）

（分析結果とその根拠理由）

本校では、専任教員の昇任、非常勤講師を含めた採用基準が明確かつ適切に定められており、公募を原則として実施しており適切な運用がなされている。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する定期的な評価については、『国立高等専門学校機構教員顕彰実施要項』に基づく教員による自己評価、相互評価及び学生による教員評価を実施し、毎年、候補者を推薦している。

また、教務委員会において、平成14年度から、学生・教員による授業アンケート（資料3-2-②-1）を実施し、結果を全教員に配付するとともに学生にも公開している。さらに、この評価結果に基づき、評価の低い教員に対し、校長、教務主事等による授業参観の実施や研修の受講を行わせている。

また、自己点検等管理委員会専門小委員会において、平成14年度から、教員による教育・研究自己評価アンケート及び教育環境に関する学生評価アンケート（資料3-2-②-2）を実施している。このアンケート結果は、『呉工業高等専門学校教員表彰規則』に基づく校長表彰の評価資料として、また、自己評価アンケートは基盤教育研究費傾斜配分の資料（資料3-2-②-3）として活用している。さらに、学生評価アンケート調査要望等に対し、平成16年度から、各種委員会で検討し学生に回答することとした。

さらに、工学・工業教育に対する創意工夫・努力を評価し、奨励することを目的として設けられた中国・四国工学教育協会賞に候補者を推薦しているが、平成17年度、環境都市工学科助教授が受賞した。

(資料 3-2-②-1)

回答用紙(学生による評価アンケート)

座学用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください

授業科目																				
担当教員名																				
学科・学年																				
番号	1	2	3	4	5	6	~	14	15	28	29									
授業科目番号																				
担当教員番号																				

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。	評価記入欄(番号記入)																					
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない																						
2	この授業を理解できますか ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる ③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない																						
3	授業に準備や工夫がなされていると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない																						
4	質問をしているか,あるいは質問をする気になりますか ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ																						
5	この教員に熟意は感じられますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない																						
6	成績評価は学力や努力を適切に反映していると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない																						
7	教員の声や説明方法, 黒板への板書などはどうですか ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い																						
8	教員は授業に遅れたり, 休講にしたり, プリント学習にしたり, 自習にしたりすることがありますか ⑤まったくない ④ほとんどない ③年数回はある ②多い ①かなり多い																						
9	授業はシラバスとおりに行われましたか ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下																						
10	この授業の総合評価をしてください ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い																						
11	意見があれば, 評価しようとする授業名, 教員名の欄に, この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名	学科・学年	番号	授業科目番号	担当教員番号	意見記入欄(自由記述)															
					1																		
					2																		
					3																		
					4																		
					5																		
					6																		
					7																		
					8																		
					9																		

回答用紙(学生による評価アンケート)

実験・実習用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください。

授業科目名																					
担当教員名																					
学科・学年																					
番号	1	2	3	4	5	6	~	14	15	28	29										
授業科目番号																					
担当教員番号																					

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。	評価記入欄(番号記入)																						
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない																							
2	この授業を理解できますか ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる ③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない																							
3	指導書やプリント(体育の場合は, 模範演技など)は実習・実験内容を理解するのに役立ちましたか ⑤大変役立った ④役立った ③普通 ②あまり役立たなかった ①役立たなかった																							
4	質問をしているか,あるいは質問をする気になりますか ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ																							
5	この教員に熟意は感じられますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない																							
6	成績評価は態度や努力を適切に反映していると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない																							
7	教員の声や説明方法などはどうですか ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い																							
8	提出レポートや作品に対するの講評や評価は適切でしたか ⑤適切だった ④ ほぼ適切だった ③普通 ②不満																							
9	授業はシラバスとおりに行われましたか ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下																							
10	この授業の総合評価をしてください ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い																							
11	意見があれば, 評価しようとする授業名, 教員名の欄に, この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名	学科・学年	番号	授業科目番号	担当教員番号	意見記入欄(自由記述)																
					1																			
					2																			
					3																			
					4																			
					5																			
					6																			
					7																			
					8																			
					9																			

(出典 教務委員会)

(資料 3-2-②-2)

アンケートの問題区分

ID	本科生	専攻科生
	入力順	入力順
学科学年	I	あなたの学科と学年を記入して下さい。
A_2	II	校長による学校行事での訓話(教育指導)をどう思いますか。
A_3	II	教務主事による学校行事での講話(教育指導)をどう思いますか。
A_4	II	学生主事による学校行事での講話(教育指導)をどう思いますか。
A_5	II	寮務主事による寮生活全般の指導をどう思いまか。
B_6	III	学級担任の番号を選び記入して下さい。
B_7	III	担任はクラスの学生一人ひとりについてよく理解していると思えますか。
B_8	III	担任は相談しやすい先生と思えますか。
B_9	III	担任は学生に分け隔てなく接していまか。
B_10	III	担任から成績や日常の行動について指導をよく受けますか。
B_11	III	担任からの週番指導(日誌の点検など)はよく行われていると思えますか。
B_12	III	担任からの清掃指導はよく行われていると思いまか。

以下省略

(出典 自己点検等管理委員会専門小委員会)

(資料 3-2-②-3)

教育研究費(教育研究基盤経費)の傾斜配分

平成 17 年度 実績重点配分経費の実績ポイント

記入者の氏名	
記入者の所属学科	

※黄色と水色の欄が記入欄です。実績件数・時間等については件数や時間数をご記入ください。

項目分類		実績評価項目 調査項目	件数	実績件数・時間等				予算配分ポイント			
				H14	H15	H16	3年計	点/件	合計	最大	修正
B 研究面	論文 B1	査読付研究論文(筆頭者)・学位論文	1編				0	8	0		0
		査読付研究論文(筆頭者以外)	1編				0	2	0		0
		国際会議発表(発表者)	1件				0	4	0		0
		国際会議発表(発表者以外)	1件				0	1	0		0
		研究著書・辞書・作品(単著)	1冊				0	8	0		0
		研究著書・辞書・作品(共著)	1冊				0	2	0		0
		学会誌・研究雑誌解説記事(筆頭者)	1編				0	1	0		0
		紀要・査読無研究論文(筆頭者)	1編				0	3	0		0
		紀要・査読無研究論文(筆頭者以外)	1編				0	1	0		0
		学会口頭発表(発表者)	1件				0	2	0		0
		学会口頭発表(発表者以外)	1件				0	1	0		0
		特許発明	1件				0	5	0		0
		実用新案出願	1件				0	2	0		0
		研究論文査読	1編				0	1	0	5	0
学会賞受賞	1件				0	10	0		0		
						小計	0		0		
共同研究等 B2	科研・各種研究助成金申請(代表者)	1件				0	1	0		0	
	企業等との共同研究費用・受託研究費用受入れ(代表研究者)	1件				0	5	0		0	
	企業等との共同研究費用・受託研究費用受入れ(分担研究者)	1件				0	2	0		0	
	企業等からの奨学寄付金受入れ(自分による寄付は除く)	1件				0	1	0		0	
	技術相談受入れ(同一企業からの類似のテーマは1件として扱う)	1件				0	1	0	10	0	
						小計	0		0		
学会委員会 B3	1)学会・学会委員会・研究会の委員長	1件				0	3	0		0	
	2)学会・学会委員会・研究会の委員	1件				0	1	0	30	0	
						小計	0		0		
		B 研究面ポイント計					小計	0		0	
C 役職・委員・担任	役職委員	C1 主事	1件				0	10	0		0
		C2 学科主任	1件				0	10	0		0
		専攻科長	1件				0	8	0		0
		C3 主事補	1件				0	7	0		0
		C4 専攻科長補	1件				0	5	0		0
		C5 学級担任(1,2,3,4,5年)	1件				0	6	0		0
		C6 地域共同テクノセンター長	1件				0	3	0		0
		総合技術室長	1件				0	2	0		0
		C7 地域共同テクノセンター長補	1件				0	2	0		0
		C8 情報処理センター長	1件				0	3	0		0
		C9 図書館長	1件				0	3	0		0
		C10 情報処理センター長補, 図書館長補	1件				0	1	0		0
		C11 学生相談室長	1件				0	1	0		0
		C12 8回以上開催する委員会,WGの長	1件				0	3	0		0
7~4回開催する委員会,WGの長	1件				0	2	0		0		
3~1回の委員会,WGの長	1件				0	1	0		0		
C13 8回以上開催する各種委員会やWGの委員	1件				0	2	0		0		
7~4回開催する各種委員会やWGの委員	1件				0	1	0		0		
3~1回の各種委員会やWGの委員	1件				0	0.5	0.0		0		
C14 入試問題・予備問題作成委員, 入試問題チェック委員など	1件				0	1	0		0		
		C 役職・委員・担任ポイント計					小計	0		0	

教育・FD	教育論文	D1	1)査読付教育論文(筆頭者)	1編				0	8	0	0	0
			2)査読付教育論文(筆頭者以外)	1編				0	2	0	0	0
			3)教育著書(単著)	1冊				0	8	0	0	0
			4)教育著書(共著)	1冊				0	2	0	0	0
			5)教育雑誌解説記事(筆頭者)	1編				0	1	0	0	0
			6)査読無教育論文(筆頭者)	1編				0	3	0	0	0
			7)査読無教育論文(筆頭者以外)	1編				0	1	0	0	0
			8)教育論文査読	1編				0	1	0	5	0
							小計	0			0	
	教育関連委員	D2	1)教育に関する学会・学会委員会・研究会の役員・委員長	1件				0	3	0	30	0
2)教育に関する学会・学会委員会・研究会の委員			1件				0	1	0		0	
		D 教育・FD ポイント計						小計	0		0	
クラブ等指導	F2	(1)クラブ・ロボコン・フロン等年間指導時間数(合計ポイントの端数は切捨て)	1時間				0	0.1	0	30	0	
地域貢献	行政の地域貢献活動	I1	1) 県市等委員会・研究会における委員長や代表者	1件				0	3	0	30	0
			2) 県市等委員会・研究会における役員や委員	1件				0	1	0		0
	専門の地域貢献活動	I2	1) 専門に関する学内外活動における企画者や代表者	1件				0	2	0	30	0
			2) 専門に関する学内外活動における企画者・代表者以外	1件				0	2	0		0
		I 地域貢献活動ポイント計						小計	0		0	
								総計	0	180	0	

(出典 自己点検等管理委員会専門小委員会)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動に関する定期的な評価システムが構築されており、評価の活用としては、教員顕彰、校長表彰及び予算配分において、実績配分ポイントに基づく傾斜配分資料に活用し適切に運用している。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点到係る状況)

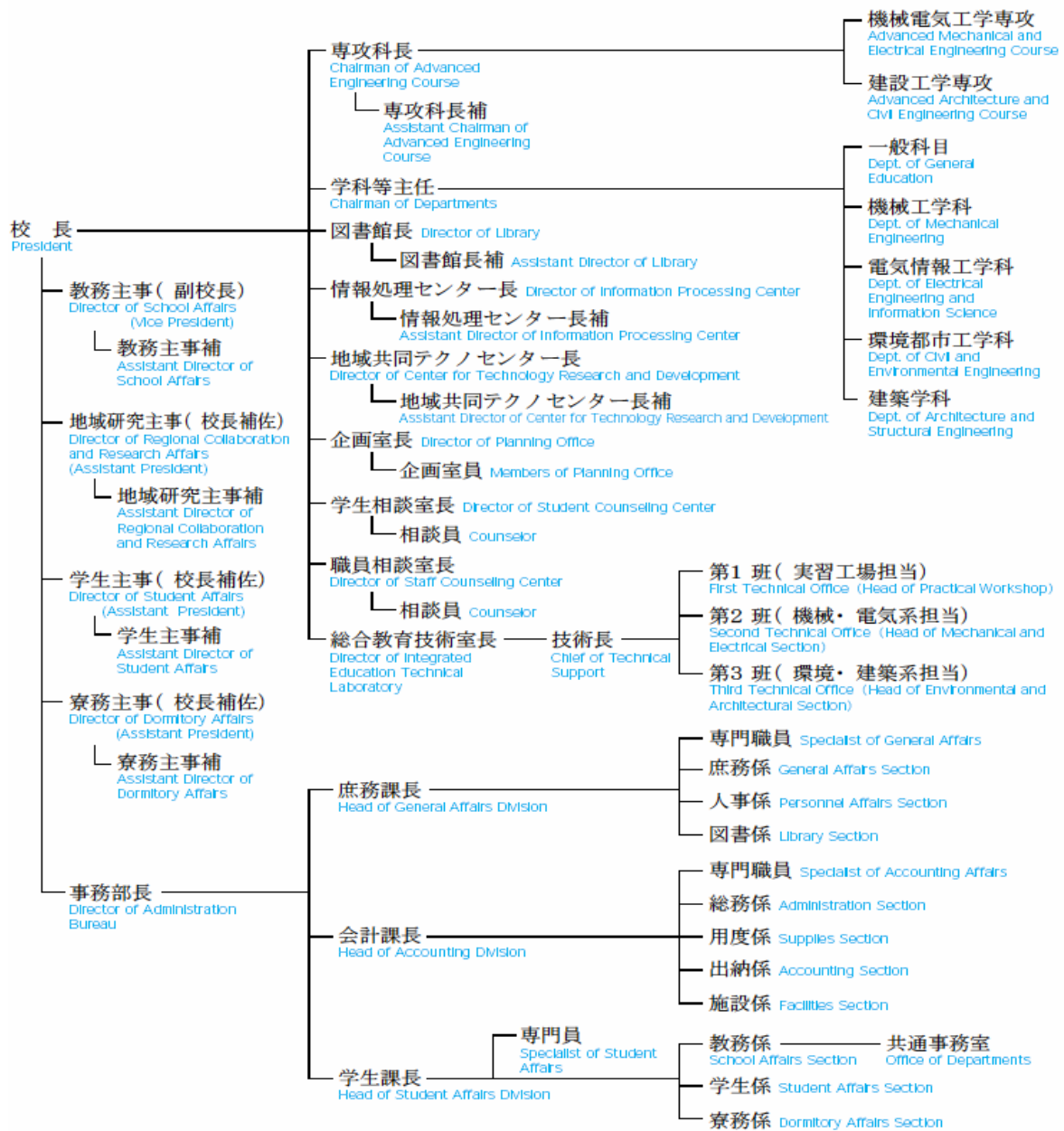
教育を支援する事務・技術職員の全体組織図を資料3-3-①-1(訪問調査時に最新資料提示)に、特に学生課に所属する事務体制を資料3-3-①-2(訪問調査時に最新資料提示)に示す。主に授業や進学などの教務関係を担当する教務係に4名、学生の生活指導や課外活動を担当する学生係に3名、保健室に看護師1名、学生寮担当の寮務係に2名と寮母1名、専攻科担当の専門員が1名、図書室に司書2名、夜間開館のために非常勤職員2名、共通事務室に3名、合計18名が教育を支援している。技術職員は、主に機械工学科の工作実習を担当している第一技術班に4名、機械工学科と電気情報工学科の実験や情報処理教育の支援を担当している第二技術班に4名、環境都市工学科と建築学科の実験や測量、設計製図などの支援を担当している第三技術班に4名、合計12名が配属されている。

(資料3-3-①-3) (訪問調査時に最新資料提示)

また、本校の特色であるところの地域研究主事を置き、地域との連携、共同研究の推進、教員の研究の活性化を担当している。地域研究主事はその設置の趣旨から専攻科長及び地域共同テクノセンタ一長を兼務し、卒業研究及び専攻科の特別研究を支援している。

(資料 3 - 3 - ①- 1)

■ 組織図 Organization Chart



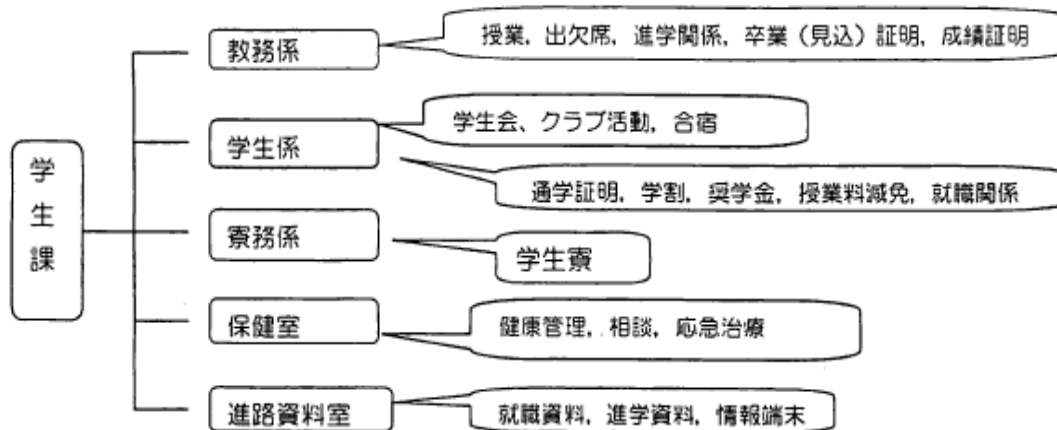
(出典 平成17年度要覧)

(資料3-3-①-2)

(7) 事務の体制

本校には、教育と研究を行う教員と授業料や、出欠席、クラブ活動などの事務を扱う事務職員がいます。事務職員の組織では、事務部長のもとに庶務課長、会計課長、学生課長が事務を分担しています。

学生に直接に関係する事務の係は、学生課に所属し、次のようになっています。



(出典 キャンパスガイド)

(資料3-3-①-3)

○呉工業高等専門学校事務部組織規則抜粋

平成16年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、呉工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)の事務組織及び事務分掌について定めることを目的とする。

第2章 事務組織

(組織)

第2条 本校に事務部を置き、事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。

2 庶務課に、専門職員及び次の係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 人事係
- (3) 図書係

3 会計課に、専門職員及び次の係を置く。

- (1) 総務係
- (2) 用度係
- (3) 出納係
- (4) 施設係

4 学生課に、専門員及び次の係を置く。

- (1) 教務係
- (2) 学生係
- (3) 寮務係

(技術職員)

- 第11条 学生課に、係に所属しない技術職員を置くことができる。
2 技術職員は、総合教育技術室に勤務させる

第3章 課の事務分掌

(庶務課)

- 第12条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 事務部の所掌事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2) 諸規則の制定及び改廃に関すること。
(3) 公文書の接受、発送、編集及び保管に関すること。
(4) 公印の管守に関すること。
(5) 儀式及びその他会議に関すること。
(6) 教職員の人事に関すること。
(7) 図書に関すること。
(8) 校内の警備に関すること。
(9) その他他課の所掌に属さない事務に関すること。

(会計課)

- 第13条 会計課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 予算及び決算に関すること。
(2) 債権の管理に関すること。
(3) 物品の管理に関すること。
(4) 会計の監査に関すること。
(5) 共済組合(長期給付を除く。)に関すること。
(6) 契約に関すること。
(7) 収入及び支出に関すること。
(8) 不動産の管理に関すること。
(9) 事務用電子計算機に関すること。
(10) その他会計経理及び営繕に関する事務を処理すること。

(学生課)

- 第14条 学生課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 教務に関すること。
(2) 学生生活の支援と指導に関すること。
(3) 学生寮に関すること。
(4) 総合教育技術室に関すること。

(専門職員)

- 第15条 専門職員は、次の事務をつかさどる。
(1) 教育研究の改善についての調査、企画及び連絡調整に関すること。
(2) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
(3) 地域共同テクノセンターの事務に関すること。
(4) 受託研究及び共同研究に関すること(会計課の所掌に属するものを除く。)
(5) 公開講座及び地域開放事業等の地域連携に関する企画・立案に関すること。
(6) 科学研究費等の申請及び報告に関すること。
(7) 学術研究助成金の申請に関すること。
(8) 発明及び特許に関すること(会計課の所掌に属するものを除く。)
(9) 各種研究員に関すること。
(10) 外国人受託研修員に関すること。
(11) 広報に関すること。
(12) その他企画調査に係る専門的事項に関すること。

第4章 庶務課各係等の事務分掌

(図書係)

- 第18条 図書係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 図書、学術雑誌及びその他の図書資料(以下「図書館資料」という。)の整備計画に関すること。
(2) 図書館資料の購入及び契約に関すること。
(3) 図書館資料の受入れ、払出し及び保管に関すること。
(4) 図書館資料の分類及び装備に関すること。
(5) 図書館資料の修理及び製本に関すること。
(6) 図書館資料の目録の作成及び編成に関すること。
(7) 図書館資料の閲覧及び貸出しに関すること。
(8) 参考調査に関すること。
(9) 文献の相互貸借及び複写に関すること。

- (10) 図書室及び図書館資料の利用案内及び広報に関すること。
- (11) 図書館調査，統計及び報告に関すること。
- (12) 研究報告の発行及び配布に関すること。
- (13) 「図書だより」の編集，発行及び配布に関すること。
- (14) 図書館資料の物品供用に関すること。
- (15) その他図書に関すること。

第6章 学生課各係等の事務分掌

(専門員)

第24条 専門員は，次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に係る事務のうち特定の分野の専門的事項に関すること。
- (2) 教育課程の編成及び実施に係る事務のうち特定の分野の専門的事項に関すること。
- (3) 学生の留学に係る事務のうち特定の分野の専門的事項に関すること。
- (4) 外国人留学生に係る事務のうち特定の分野の専門的事項に関すること。
- (5) その他学生課の所掌する事務のうち特定の分野の専門的事項に関すること。

(技術専門官)

第25条 技術専門官は，次の業務をつかさどる。

- (1) 呉工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する規則(以下「技術職員の組織等に関する規則」という。)第4条第6項の規定による技術長に関すること。
- (2) 技術職員の組織等に関する規則第3条に規定する総合教育技術室の業務に関すること。

(技術専門職員)

第26条 技術専門職員は，次の業務をつかさどる。

- (1) 技術職員の組織等に関する規則第4条第6項から第8項までの規定による技術長，班長又は主任に関すること(技術専門官の所掌に属するものを除く。)
- (2) 技術職員の組織等に関する規則第3条に規定する総合教育技術室の業務に関すること。

(教務係)

第27条 教務係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課の所掌事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 学科，学級及び学生定員に関すること。
- (3) 教育課程に関すること。
- (4) 入学者選抜に関すること。
- (5) 入学，転科，休学，退学，転学及び卒業に関すること。
- (6) 進級及び卒業の認定に関すること。
- (7) 授業及び試験に関すること。
- (8) 学業成績及び出欠席に関すること。
- (9) 学生指導要録の記録，整理及び保管に関すること。
- (10) 教科書及び教材に関すること。
- (11) 学生の見学及び学外実習に関すること。
- (12) 学生の課外教育に関すること。
- (13) 学生及び卒業生の諸証明(学生係の所掌に属するものを除く。)に関すること。
- (14) 学生及び保証人の身上異動に関すること。
- (15) 外国人留学生に関すること。
- (16) 教務事務の調査，統計及び報告に関すること。
- (17) 学生課職員の労働時間管理に関すること。
- (18) 学生課の物品供用に関すること。
- (19) 学科事務に関すること。
- (20) その他学生課の他の係の所掌に属さない事務に関すること。

(学生係)

第28条 学生係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外活動に関すること。
- (2) 学生相談に関すること。
- (3) 学生の団体，集会及びその他行事に関すること。
- (4) 学生の印刷物の掲示及び配布に関すること。
- (5) 学生の施設及び設備の使用に関すること。
- (6) 学生の指導に関すること。
- (7) 学生の保健管理に関すること。
- (8) 独立行政法人日本スポーツ振興センター(出納を除く。)に関すること。

- (9) 奨学生及び奨学金に関する事。
- (10) 入学料，授業料の免除及び徴収猶予に関する事。
- (11) 学生の職業紹介に関する事。
- (12) 学生の旅客運賃割引に関する事。
- (13) 学生証に関する事。
- (14) 学生の諸証明(教務係の所掌に属するものを除く。)に関する事。
- (15) 学生の賞罰に関する事。
- (16) 厚生施設の管理運営に関する事。
- (17) 学生事務の調査，統計及び報告に関する事。
- (18) その他学生生活の支援と指導に関する事。

(寮務係)

第29条 寮務係においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学生寮の管理に関する事。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関する事。
- (3) 学生寮給食業務の監督に関する事。
- (4) 寮生の保健管理に関する事。
- (5) 寮生の福利厚生に関する事。
- (6) 寮生の調査，統計及び報告に関する事。
- (7) 寄宿舎の物品供用に関する事。
- (8) その他寮務に関する事。

(技術職員)

第30条 技術職員は，次の業務をつかさどる。

- (1) 技術職員の組織等に関する規則第4条第9項の規定による業務に関する事。
- (2) 技術職員の組織等に関する規則第3条に規定する総合教育技術室の業務に関する事。

附 則

この規則は，平成16年4月1日から施行する。

○呉工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する規則

平成16年4月1日

(目的)

第1条 この規則は，呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)の技術に関する専門的業務を円滑，かつ，効果的に処理するとともに教室系技術職員の能力，資質等の向上及び処遇の改善，優れた人材の確保を図ることにより，高度な教育研究支援体制の充実に資するため，本校の技術職員の組織等に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(総合教育技術室)

第2条 前条の目的を達成するため，本校に総合教育技術室(以下「技術室」という。)を置く。

(技術室の業務)

第3条 技術室の所掌業務は，次のとおりとする。

- (1) 技術室の年間授業計画及び教員の年間研究計画に基づく業務計画の策定に関する事。
- (2) 学生の実験，実習の技術指導に関する事。
- (3) 学生の教育教材作成の技術支援に関する事。
- (4) 学生の卒業研究及び特別研究の技術指導に関する事。
- (5) 教員の研究活動における技術支援に関する事。
- (6) 共同利用の施設等及び学外との共同研究の技術支援に関する事。
- (7) 新技術開発の技術支援に関する事。
- (8) 技術の継承，保存及び技術向上のための研修に関する事。
- (9) 学生の課外活動の技術支援に関する事。
- (10) 実習工場，実験室，実習室及び各学科等の共通機器等の保守・管理並びに災害事故防止に関する事。
- (11) その他技術室の技術分野について必要な事項に関する事。

2 前項の業務を遂行するため，技術室に第一技術班，第二技術班及び第三技術班を置く。

(1) 第一技術班は，次の業務を分掌する。

- ア 実習工場における学生の実験，実習の技術指導に関する事。
- イ 前項各号の業務で，実習工場に関する業務
- ウ その他第一技術班の管理運営に関する事。

- (2) 第二技術班は、次の業務を分掌する。
 ア 機械・電気系における学生の実験、実習の技術指導に関すること。
 イ 前項各号の業務で、機械・電気系に関する業務
 ウ その他第二技術班の管理運営に関すること。
 (3) 第三技術班は、次の業務を分掌する。
 ア 環境・建築系における学生の実験、実習の技術指導に関すること。
 イ 前項各号の業務で、環境・建築系に関する業務
 ウ その他第三技術班の管理運営に関すること。

(組織)

第4条 技術室に総合教育技術室長(以下「室長」という。)、技術長、班長、主任及び技術職員を置く。

2 室長は、校長の命を受け、技術室の業務を掌理する。

3 室長は、本校の教授の中から校長が選任する。

4 室長の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 室長は、再任することができる。

6 技術長は、技術専門員又は技術専門員が欠員の場合は技術専門職員をもって充て、上司の命を受け、各班の連絡調整及び統括を行い、極めて高度な専門的な技術に基づく教育研究支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う責任者となる。

7 班長は、技術専門職員をもって充て、上司の命を受け、班の業務を整理し、高度な専門的な技術に基づく教育研究支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う責任者となる。

8 主任は、技術専門職員をもって充て、上司の命を受け、高度な専門的な技術に基づく教育研究支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

9 技術職員は、上司の命を受け、教育研究支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。

(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、技術職員の組織等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

最近の高専は、学生の多様化に伴い、教科指導や進路指導、クラブ活動やボランティア活動などできめ細かい指導が要求されている。事務職員の支援でこれらの指導が円滑に行なわれており、事務職員を適正に配置している。高専のものづくり教育に実験実習は不可欠であるが、地域研究主事を配置し、日進月歩の実験や実習に技術職員はよく対応しており、技術職員の配置も適正である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員組織は、71.2%の教員が博士の学位を取得しており、また、内地研究員及び在外研究員として教育研究能力の向上に取り組んでいる。さらに、最近民間企業経験者からの採用が増えており、教員組織の活動を活性化するための適切な措置が講じられている。

教員の採用及び昇任は、規程を設け、透明性の高い状態で行っている。

事務職員の教育支援は、高等学校や大学に比較して、きめ細かで親近感が持てる支援ができています。

技術職員は総合教育技術室に組織化されて、従来に比べ学科所属の概念を超えた勤務内容に対応できるようになった。

(改善を要する点)

教員組織について、現在3名の欠員が生じており、早急な採用が必要である。また、年齢構成については、一部の学科において40歳台、50歳台が少ない状況であり、定年退職及び辞職に伴う採用の際、年齢構成を考慮して公募する必要がある。

事務手続きの簡略化・能率化を行い、学生にもわかりやすい教務・学生関係事務組織図の作成をすることも必要である。

(3) 基準3の自己評価の概要

実践力のある開発型技術者の育成のため、一般科目教員、専門科目教員及び専攻科兼任教員が適切に配置されており、準学士課程、専攻科において継続した教育システムが構築されている。

教員の年齢構成において若干バランスが取れていない学科もあるが、今後の教員採用においてアンバランスを解消することとしている。

教員の採用・昇任は規程に基づき適切に実施されており、他高専、大学又は民間企業の経験がある教員が多く、学位取得率も高い。また、内地研究員又は在外研究員として自己の教育研究能力研鑽に積極的に取り組んでいる。

教員の教育活動評価は、定期的な評価システムが構築されており、評価の活用としては、教員顕彰、校長表彰及び予算配分において、実績配分ポイントに基づく傾斜配分資料に活用し適切に運用している。

事務職員、技術職員についても適切に配置されており、教員と協力して教育目標を達成できる体制が構築されている。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッションポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

(観点に係る状況)

平成16年度第3回入学者選抜委員会において、本校の教育の目的に沿って、準学士課程入学希望者、準学士課程編入学希望者及び専攻科入学希望者に対してアドミッションポリシーが定められた。これらは「全学科共通のアドミッションポリシー」、「各学科のアドミッションポリシー」及び専攻科の「アドミッションポリシー」からなる（資料4-1-①-1, 4-1-①-2参照）。

資料4-1-①-1

準学士課程のアドミッションポリシー（入学生・編入学生対象）

求める学生像（アドミッションポリシー）

I. 全学科共通のアドミッションポリシー

呉高専は、次のような人を待っています。

- ①基礎学力が備わっていて、数学、自然科学、情報技術に興味のある人
- ②外国語を進んで学び、国際的な仕事にも興味のある人
- ③何事に対しても責任感があり、積極的に勉学やクラブ活動などに取り組める人
- ④技術やものづくりに興味があり、それらを利用して社会に役立ちたいと考えている人
- ⑤論理的な考え方ができ、多くの人々と意思の疎通ができる人
- ⑥エンジニアやデザイナーを目指す意思が明確な人

II. 各学科のアドミッションポリシー

ア. 機械工学科

- ①自動車やロボットなどの機械の仕組みに興味のある人
- ②コンピュータを利用した機械設計やものづくりに興味のある人
- ③エネルギー利用、機械材料、情報技術に興味のある人

イ. 電気情報工学科

- ①電気エネルギーの発生と制御、電気材料・部品のロボットへの応用と自動制御など幅広い技術を身につけたい人
- ②電子情報技術分野に興味があり、コンピュータの仕組み、プログラミング、通信等の最先端技術を身につけたい人
- ③電気情報関連分野の各種公認資格取得にチャレンジし社会に役立てたい人

ウ. 環境都市工学科

- ①バイオテクノロジー、資源リサイクルなどによる地球環境の保全や自然との共生に興味のある人
- ②道路、橋などの社会基盤施設の建設や景観を含めた都市計画に興味のある人
- ③夢やチャレンジ精神を持ち、公共のためにリーダーとして活躍したい人

エ. 建築学科

- ①居心地の良い住まいや快適な建物を設計する技術を身につけたい人
- ②建築現場で実際に建物を造り上げることに関心のある人
- ③コンピュータを使って図面や画像を作ることに興味のある人

(出典 平成18年度入学者募集要項・入学案内)

資料4-1-①-2

専攻科のアドミッションポリシー

1. 技術や科学の基礎能力があり、さらに高度な技術を身につけたいと考えている人
2. 専門知識及び国際的なコミュニケーションを通して、人類の福祉と社会の進展に貢献しようと考えている人
3. 専門分野の研究を進展し、研究成果を社会に公表したいと考えている人

(出典 平成18年度 専攻科学生募集要項)

本校の教育の目的（教育目標）は「世界に通用する実践力のある開発型技術者の育成（高度な専門知識、プレゼンテーション能力、語学能力を併せもつ人材の育成）」である。専攻科の教育の目的（教育目標）は「世界に通用する創造性豊かな実践力のある開発型技術者の育成（高度な専門知識・能力、高度な研究開発能力、コミュニケーション能力、技術者としての倫理観、エンジニアリングデザイン能力、を併せ持つ人材の育成）」である。「各学科のアドミッションポリシー」はそれぞれの分野の適性を示し、それぞれの分野での「世界に通用する実践力のある開発型技術者の育成」を視野に入れたものとなっている。「全学科共通のアドミッションポリシー」と「専攻科のアドミッションポリシー」がそれぞれ教育の目的とどのように対応するかを資料4-1-①-3に示す。

資料4-1-①-3

本校の教育の目的とアドミッションポリシーの対応

アドミッションポリシー	本校の教育目標の要素
<p>準学士課程，全学科共通</p> <p>①基礎学力が備わっていて，数学，自然科学，情報技術に興味のある人</p> <p>②外国語を進んで学び，国際的な仕事にも興味のある人</p> <p>③何事に対しても責任感があり，積極的に勉学やクラブ活動などに取り組める人</p> <p>④技術やものづくりに興味があり，それらを利用して社会に役立ちたいと考えている人</p> <p>⑤論理的な考え方ができ，多くの人々と意思の疎通ができる人</p> <p>⑥エンジニアやデザイナーを目指す意思が明確な人</p>	<p>：「高度な専門知識」に対応</p> <p>：「語学能力」に対応</p> <p>：「実践力」に対応</p> <p>：「世界に通用する実践力を持つ開発型技術者」に対応</p> <p>：「プレゼンテーション能力」に対応</p> <p>：「世界に通用する実践力を持つ開発型技術者」に対応</p>
<p>専攻科</p> <p>1. 技術や科学の基礎能力があり，さらに高度な技術を身につけたいと考えている人</p> <p>2. 専門知識及び国際的なコミュニケーションを通して，人類の福祉と社会の進展に貢献しようと考えている人</p> <p>3. 専門分野の研究を進展し，研究成果を社会に公表したいと考えている人</p>	<p>：「高度な専門知識・能力，高度な研究開発能力，エンジニアリングデザイン能力」に対応</p> <p>：「コミュニケーション能力，技術者としての倫理観を持つ」に対応</p> <p>：「世界に通用する創造性豊かな実践力のある開発型技術者」に対応</p>

アドミッションポリシーは、平成16年度第3回入学者選抜委員会で決定されたものが平成16年度第3回教員会で全教員に周知された（資料4-1-①-4）。また、アドミッションポリシーが記載された入学生募集要項は毎年各教員に配布されている。

資料4-1-①-4

2. 第3回入学者選抜委員会（問題作成班）報告（6月8日（金））

(1) アドミッションポリシーが披露され、これに基づいて問題作成を行うこととした。

■アドミッションポリシー（入学して欲しい人）

- ◆ 基礎学力が備わっていて、数学、自然科学、情報技術に興味のある人
- ◆ 外国語を進んで学び、国際的な仕事にも興味がある人
- ◆ 何事に対しても責任感があり、積極的に勉学やクラブ活動などに取り組める人
- ◆ 技術やものづくりに興味があり、それらを利用して社会に役立ちたいと考えている人
- ◆ 論理的な考え方ができ、多くの人々と意思の疎通ができる人
- ◆ エンジニアやデザイナーを目指す意思が明確な人

（出典 平成16年度第3回教員会資料）

社会に対しては、『入学者募集要項・入学案内』、『編入学者募集要項』及び『専攻科学生募集要項』に掲載し、入学説明会で説明用プレゼンテーションに示すことで公表されている。また、入学者募集要項とは別に中学生向けのカラー刷りの紹介資料が毎年作成されているが、この中に上述の「全学科共通のアドミッションポリシー」が掲載されている。『入学者募集要項・入学案内』とカラー印刷の資料は中学校訪問の際に、広島県内の135の中学校（平成17年度）に直接届けられている。

さらに、本校webサイト内に『入学者募集要項・入学案内』がPDFファイル形式で <http://www.kure-nct.ac.jp/entra/junior/bosyuu18.pdf> に、そして専攻科のアドミッションポリシーが <http://www.kure-nct.ac.jp/entra/other/index.html> に示されている。ただ、準学士課程編入学者募集のホームページにはアドミッションポリシーが明記されていない。

以上のようにアドミッションポリシーが明確に定められ、また、構成員及び社会に対しても公表されているが、それがどの程度知られているかについての質問紙調査などは行われていないので不明である。アドミッションポリシーの周知の程度の調査は平成18年度に教育改善委員会が行う予定である。

（分析結果とその根拠理由）

分析結果：基準を満たしている。

根拠理由：上述のように本校では、平成17年度の入学生募集以来、教育の目的に沿って求める学生像を記載したアドミッションポリシーが準学士課程入学・編入学希望者及び専攻科入学希望者を対象に明確に定められている。各学科共通のものと学科ごとのものがそれぞれ定められている点が特色であり、優れていると言える。また、アドミッションポリシーは教職員に周知されるとともに、印刷物、ホームページ、中学校訪問を通して広く社会に公表されている。今後の課題は、準学士課程編入学希望者対象の入学案内ホームページにもアドミッションポリシーを掲載することと、必要に応じて、ア

ドミッションポリシーの周知の程度についての調査を構成員あるいは将来の学生を含めた社会に対して行うことである。

観点 4-2-①： アドミッションポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

入学者選抜は資料4-2-①-1及び資料4-2-①-2に示すように、アドミッションポリシーに沿って行われている。準学士課程入学者・編入学者及び専攻科入学者の選抜方法は以下の通りである。なお、留学生は、文部科学省からの推薦を受けた者を受け入れることとしている。

1) 準学士課程入学者選抜方法

1-1) 推薦による入学者選抜方法

面接、作文及び調査書の総合判定によって入学者選抜を行う。面接は個人面接とグループ面接を行う。個人面接は、人物、情緒、態度などから適性を評価しようとするものであるが、グループ面接と作文は平成15年度入学生募集の際に導入された。グループ面接では受験者を3人ごとのグループに分け、学科によって異なる課題を与えて作業後にディスカッションをさせるなど、各学科の専門適性、問題解決能力やコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップについて評価を行う。作文では課題文を与えてその内容を読み取らせ、意見をまとめさせ、論理的思考力や表現力などを評価する。グループ面接の導入によって、学科ごとのアドミッションポリシーに沿った入学者選抜が可能となっている点が特に優れていると言える。配点は [] であり、アドミッションポリシーの基礎学力が備わった者を選抜している。可否は推薦入学判定会議によって決定される。

1-2) 学力による入学者選抜方法

学力検査及び調査書の総合判定によって入学者選抜を行う。学力検査は英語、数学、国語、理科、社会の5教科からなる。可否は合格者判定会議によって決定される。

2) 準学士課程編入学者選抜方法

学力検査、調査書及び面接の総合判定によって行う。学力検査は各学科共通の一般科目の筆記試験(数学・英語)と出願者の出身学校における所属学科の専門科目(機械工学科は機械工作・機械設計・機械製図における基礎的事項及び初歩的応用、電気情報工学科は電磁気・回路理論における基礎的事項及び初歩的応用、環境都市工学科は構造力学・土質力学・水理学における基礎的事項及び初歩的応用、建築学科は構造系・計画系における基礎的事項及び初歩的応用)を行う。ただし、普通科または理数科出身学生の場合は専門科目の試験として理科(高校物理IB)の試験を実施する。可否は編入学試験合格者判定会議によって決定される。

3) 専攻科入学者選抜方法

3-1) 高等専門学校長の推薦による選抜

在学または出身の高等専門学校長から提出された推薦書、調査書及び面接(口頭試問を含む)の内容などを総合して行う。可否は専攻科入学者選抜(推薦)合格者判定会議によって決定される。

3-2) 学力による選抜

学力検査，在学または出身の高等専門学校長から提出された推薦書，調査書，面接及び健康診断書の内容を総合して行う。学力検査は，各専攻共通の英語，数学（微分積分，線形代数）及び専門科目（機械電気工学専攻では，機械工学系の材料力学・熱力学・水力学と電気工学系の電気磁気学・電気回路・電子工学のうち3科目，建設工学専攻では，環境都市工学系の構造力学・土質工学・水理学と建築学系の建築計画学・建築環境工学・建築構造力学のうち2科目）。可否は専攻科入学者選抜試験（学力・前期／後期）合格者判定会議によって決定される。

3-3) 企業等の推薦による社会人特別選抜

企業などから提出された推薦書，調査書，及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して行う。可否は専攻科入学者選抜試験（学力・後期）合格者判定会議によって決定される。ここ2年間は志願者がいない。平成13年度入試で建設工学専攻に1名，また，平成14年度入試で機械電気工学専攻に1名が志願している。

前述のとおり，アドミッションポリシーと入学者選抜方法との対応を資料 4-2-①-1 及び資料 4-2-①-2 に示す。

資料4-2-①-1

アドミッションポリシーと入学者選抜方法との対応—準学士課程—

アドミッションポリシー	推薦	学力	編入学
I. 全学科共通			
①基礎学力が備わっていて、数学、自然科学、情報技術に興味のある人	調査書	調査書 学力検査	調査書 学力検査
②外国語を進んで学び、国際的な仕事にも興味のある人	調査書	調査書 学力検査	調査書 学力検査
③何事に対しても責任感があり、積極的に勉学やクラブ活動などに取り組める人	個人面接	調査書	面接
④技術やものづくりに興味があり、それらを利用して社会に役立ちたいと考えている人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
⑤論理的な考え方ができ、多くの人々と意思の疎通ができる人	作文 グループ面接	調査書	面接
⑥エンジニアやデザイナーを目指す意思が明確な人	個人面接 グループ面接	調査書	面接 調査書
II. 各学科			
ア. 機械工学科			
①自動車やロボットなどの機械の仕組みに興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
②コンピュータを利用した機械設計やものづくりに興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
③エネルギー利用、機械材料、情報技術に興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
イ. 電気情報工学科			
①電気エネルギーの発生と制御、電気材料・部品のロボットへの応用と自動制御など幅広い技術を身につけたい人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
②電磁情報技術分野に興味があり、コンピュータの仕組み、プログラミング、通信等の最先端技術を身につけたい人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
③電気情報関連分野の各種公認資格にチャレンジし社会に役立てたい人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
ウ. 環境都市工学科			
①バイオテクノロジー、資源リサイクルなどによる地球環境の保全や自然との共生に興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
②道路、橋などの社会基盤施設の建設や景観を含めた都市計画に興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
③夢やチャレンジ精神を持ち、公共のためにリーダーとして活躍したい人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
エ. 建築学科			
①居心地の良い住まいや快適な建物を設計する技術を身につけたい人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
②建築現場で実際に建物を造り上げることに興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接
③コンピュータを使って図面や画像を作ることに興味のある人	個人面接 グループ面接	調査書	面接

資料4-2-①-2

アドミッションポリシーと入学者選抜方法との対応—専攻科—

専攻科	推薦	学力	社会人
1. 技術や科学の基礎能力があり、さらに高度な技術を身につけたいと考えている人	推薦書 調査書 面接	学力検査 推薦書 調査書 面接	推薦書 調査書 面接
2. 専門知識及び国際的なコミュニケーションを通して、人類の福祉と社会の進展に貢献しようと考えている人	推薦書 調査書 面接	学力検査 推薦書 調査書 面接	推薦書 調査書 面接
3. 専門分野の研究を進展し、研究成果を社会に公表したいと考えている人	推薦書 調査書 面接	推薦書 調査書 面接	推薦書 調査書 面接

(分析結果とその根拠理由)

分析結果：基準を満たしている。

根拠理由：入学者の選抜は、準学士課程、専攻科ともに推薦、学力選抜で行われ、学科試験の成績のみによる選抜ではなく、推薦書や調査書、あるいは面接の結果などの資料も含めて総合的に評価している。準学士課程推薦入学試験において、作文やグループ面接を行い、本校の求める学生を優先的に選抜する方策をとっている点は優れていると言える。

観点4-2-②： アドミッションポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

平成15年度と平成17年度に、準学士課程の推薦合格者を対象に、入学後の学力と入試での成績の分析が行われた(資料は訪問調査時に提示)。平成17年度の調査では入学後の成績だけでなく担任、学科主任に推薦入学者の学習意欲、生活態度、課外活動、コミュニケーション能力に関するアンケートを行った結果も併せて分析がなされた。こういった入学後成績の追跡調査を踏まえ、準学士課程推薦入試のグループ面接で受験者に課される課題は毎年各学科趣向を凝らしたものとなっており、入学者選抜の改善に役立てられていると言える。ただし、専攻科課程では、上述の準学士課程のような分析が行われたことはない。

(分析結果とその根拠理由)

分析結果：基準を満たしている。

根拠理由：準学士課程入学者の推薦合格者を対象に、入学後の学力と入試成績の分析が行われ、準学士課程推薦入試のグループ面接で受験者に課す課題を毎年充実したものに行っていることから、本校ではアドミッションポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると言える。今後、推薦入学者だけでなく全入学者の入学後の成績追跡調査を行うことが考えられる。また、専攻科課程において同様の調査を行うことも望まれる。

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程において過去5年間、実入学者数が入学定員を大幅に超える又は下回る状況になっておらず、入学定員と実入学者数との関係の適正化は図られていると言える(資料4-3-①-1)。

準学士課程編入学者数も、過去5年間編入学によって定員を大幅に超える又は下回る状況になっておらず、定員と実入学者数との関係の適正化は図られていると言える(資料4-3-①-2)。文部科学省の推薦をもとに受け入れている留学生は第3学年に編入学するが、これによっても、留学生受け入れによって定員を大幅に超える又は下回る状況になっておらず、定員と実入学者数との関係の適正化は図られていると言える(資料4-3-①-3)。

専攻科入学者数は過去5年間実入学者数が入学定員を数名上回る傾向にある(資料4-3-①-4)。しかし学生数が多いことで実験の計画や実施が容易になるなどのプラスの面もある。また、専攻科修了生は修了後に取得した例も含めると全修了生が学位を取得している。専攻科において教育研究設備の不足が問題になったり、教育研究に支障をきたしたりということは、これまでになかった。

資料4-3-①-1

準学士課程各学科定員と過去5年間の実入学者数

学科	定員	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
機械工学科	40	41	40	43	43	44
電気(情報)工学科	40	38	40	40	45	44
環境都市工学科	40	42	42	45	42	43
建築学科	40	44	42	43	43	42

(出典 学生課)

資料4-3-①-2

準学士課程各学科定員と過去5年間の編入学者数

学科	定員	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
機械工学科	40	0 (37)	0 (44)	1 (39)	2 (42)	0 (43)
電気(情報)工学科	40	0 (43)	1 (42)	1 (41)	0 (38)	0 (42)
環境都市工学科	40	0 (42)	0 (42)	0 (38)	0 (39)	0 (44)
建築学科	40	1 (42)	2 (38)	2 (46)	1 (45)	0 (44)

()内の数字は編入学者を含めた当該年度の第4学年学生数

(出典 学生課)

資料4-3-①-3

準学士課程各学科定員と過去5年間の留学生数

学科	定員	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
機械工学科	40	0 (46)	0 (40)	0 (42)	1 (42)	0 (42)
電気(情報)工学科	40	1 (42)	0 (42)	1 (39)	1 (42)	1 (41)
環境都市工学科	40	1 (41)	0 (41)	1 (43)	1 (41)	1 (45)
建築学科	40	0 (39)	1 (43)	0 (42)	0 (44)	0 (43)

() 内の数字は留学生を含めた当該年度の第3学年学生数

(出典 学生課)

資料4-3-①-4

専攻科各専攻定員と過去5年間の実入学者数

学科	定員	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
機械電気工学専攻	8	14	8	17	12	11
建設工学専攻	8	14	11	14	11	10

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

分析結果：基準を満たしている。

根拠理由：資料からも明らかのように、準学士課程では入学定員と実入学者数との関係の適正化は図られていると言える。専攻科では毎年実入学者数が入学定員を超えているが、このことによって専攻科における教育研究設備の不足が問題になったり、教育研究に支障をきたしたりということはない。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

優れた点は以下に挙げるように三点指摘することができる。

まず、アドミッションポリシーについて、各学科共通のものと学科ごとのものがそれぞれ定められている点が特色であり、優れている点と言える。

次に準学士課程推薦入学者選抜に作文とグループ面接を導入している点は優れた点と言える。これは調査書や推薦書の評価を補っている。作文とグループ面接を導入することによって、学科ごとのアドミッションポリシーに沿った入学者選抜が可能となっている。

最後に、推薦入試成績と入学後の成績を追跡調査したことがあり、推薦入試の方法改善、ひいては入学者選抜の改善に役立てたことは評価できる。

(改善を要する点)

アドミッションポリシーが明確に定められ、また、構成員及び社会に対しても公表されているが、それがどの程度知られているかについての質問紙調査を行う必要性があり、平成18年度に教育改善委員会が行う予定である。

(3) 基準4の自己評価の概要

本校はその目的に沿って準学士課程入学生・編入学生，専攻科入学生に対してアドミッションポリシーを明確に定めており，これを構成員に周知するとともに，将来の学生を含めた社会に対しても印刷物，ホームページ，中学校訪問を通して広く社会に公表している。

入学者選抜は，アドミッションポリシーに沿ったものとなるよう，準学士課程，専攻科ともに推薦，学力試験で行われ，そのどちらも学業成績のみによるのではなく，推薦書，調査書，あるいは面接の結果を総合的に評価している。準学士課程推薦入学試験において作文やグループ面接を行い，各学科のアドミッションポリシーにも対応した選抜方法をとっている点は優れていると言える。また，推薦入試成績と入学後の成績を追跡調査して，推薦入試の方法改善，ひいては入学者選抜の改善に役立ててきたことも特色と言える。

各学科定員と実入学者数との関係も，準学士課程では適正に保たれてきた。専攻科では例年実入学者数が定員を数名上回っているが，教育研究に支障をきたしたことはないため，適正な範囲に保たれてきたと考えられる。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到る状況）

本校は機械工学科、電気情報工学科、環境都市工学科、建築学科の4学科からなる。社会のニーズの多様化に対応するため、電気情報工学科は平成14年度従来の電気工学科を電気情報工学科に改組し、エネルギー制御コースと情報通信コースの2コース制を、環境都市工学科は平成16年度から建設システムコースと環境システムコースの2コース制を、建築学科は進学・就職希望によるカリキュラムの一部選択制を導入し、機械工学科は制御分野のカリキュラム充実を実施した。

一般科目と専門科目のバランスの観点からは、各学科ともに、低学年において一般科目を多く配置し、学年があがるにつれて専門科目の比重が高まる。（資料5-1-①-1：キャンパスガイド）。

次に、教育目標に沿った体系性について詳細に分析する。資料5-1-①-2に教育目標とそれに主として対応する科目を示す。

「高度な専門知識」を持つ人材の育成では、全ての学年で実験・実習・実技科目を配置し、専門知識と実務能力の育成を図っている。高学年では選択科目を配し、学生の興味、個性をふまえた専門教育が行われる。これらの科目の内容は学年があがるにつれ高度なものとなっており、最終的には各学科の学習教育目標を満たすレベルに到達する。

「プレゼンテーション能力」を持つ人材の育成では、各学科とも創造演習、校外実習などの科目を組み込み、結果をまとめて発表するなどの機会を提供している。（創造演習、創造製作資料等：5-2-③参照）

「語学能力」を持つ人材の育成については英語が1年～5年で必修、オーラルコミュニケーション（英語）が1年～3年で必修、4年で選択となっている。さらに4、5年で、ドイツ語、中国語、ハングル語、英語の中からひとつを選択できる。また、英語の実務能力を向上させるため、3年生までに実用英語検定準2級、卒業までに2級の取得、工業英検、TOEICの受験を奨励している。とりわけ3年生全員にTOEIC Bridge Ip、4年生全員にTOEIC Ipの受験を必修としている（資料5-1-①-3一般科目教育目標（各学科シラバス）、及び、5-1-②参照）。

(資料 5-1-①-1(1))

付表
別表第1(第13条関係)

一般科目(各学科共通) 第1学年(平成17年度入学生)

	授業科目	単位数	学年別配当					備考		
			1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	人	国語総合(現代文)	2	2						
		国語総合(古典)	1	1						
	文	国語表現	1			1				
		現代文	2		2					
		古典	2		1	1				
	社	倫理	2			2				
		哲学	1				1			
		政治・経済	2			2				
		法学	1				1			
	会	歴史	4	2	2					
		地理	1	1						
		自然	数学A	10	4	3	3			
	科	数学B	7	2	3	2				
		物理	5	2	3					
		化学	5	3	2					
		保健・体育	10	3	3	2	1	1		
	芸術	1	1					美術とする。		
	目	外国語	総合英語Ⅰ	12	4	3	2	2	1	
			総合英語Ⅱ	4				2	2	第二外国語を選択しない者は、履修すること。
		オーラルコミュニケーションⅠ	5	2	2	1				
		第二外国語	4				2	2	ドイツ語、中国語、韓国語から1科目選択すること。 なお、第二外国語を選択しない者は、総合英語Ⅱを履修すること。	
	履修単位数計	78	27	24	16	6	5			
選択科目	日本文学Ⅰ	2				2				
	経済学	2				2				
	数学特論	2				2				
	バイオテクノロジー	2				2				
	国際関係論	2				2				
	オールラルコミュニケーションⅡ	2				2				
	歴史特講	2					2			
	社会学	2					2			
	日本文学Ⅱ	2					2			
	ドイツ語ドイツ文化論	2					2			
	心理学	2					2			
	経営学	2					2			
	開設単位数計	24				12	12			
履修単位数計	4				2	2				
履修単位数合計	82	27	24	16	8	7				

(出典：キャンパスガイド)

(資料5-1-①-1(2))

別表第2 (第13条関係)

機械工学科 第1～4学年(平成17～14年度入学生)

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用物理	4			2	2		実験を含む。
	情報処理	6	1	1	2	2		
	工学倫理	1					1	
	工業英語	2					2	
	材料力学Ⅰ	4			2	2		
	機械力学	1					1	
	材料学	3		1	1	1		
	熱工学	3				2	1	
	熱機関	2					2	
	流体工学	4				2	2	
	加工学	4		1	2	1		
	経営工学	1					1	
	図学	1	1					
	楕円学	1		1				
	機械要素設計	2			1	1		
	機械設計製図	10	2	2	3	3		CADを含む。
	計測工学	2				2		
	メカトロニクス	2				1	1	
制御工学Ⅰ	1					1		
電気工学	1			1				
電子工学	2					2		
創造演習Ⅰ	1		1					
工作実習	7	2	2	3				
工学実験	4				2	2	4年電気工学実験, 5年機械工学実験	
機械工学セミナー	1				1			
卒業研究	9					9		
履修単位数計	83	6	9	17	26	25		
選 択 科 目	人工知能	1					1	
	材料力学Ⅱ	1					1	
	機械振動学	1					1	
	先端材料学	1					1	
	エネルギー工学	1					1	
	トライボロジー	1					1	
	システム工学	1					1	
	制御工学Ⅱ	1					1	
	創造演習Ⅱ	1				1		
	校外実習	1				1		
	創造製作	1				1		
	開設単位数計	11				3	8	
履修単位数計	5				1	4		
履修単位数合計	88	6	9	17	27	29		
特 別 科 目	特別講義A	2				1	1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは、中国・四国国立大学間共同授業で開講する授業科目及び広島県立高等教育機関協議会会員校が指定する授業科目(以下「他大学等が実施する授業科目」という。)をいう。
	特別講義B	2				1	1	
	特別講義C	2				1	1	
	特別講義D	2				1	1	
	開設単位数計	8				4	4	
履修単位数計	0～8				0～4	0～4		

(出典：キャンパスガイド)

(資料5-1-①-1(3))

電気情報工学科 エネルギー制御コース 第1～4学年 (平成17～14年度入学生)								
授業科目	単位数	学年別配当					備考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
必修	応用数学Ⅰ	2			2			
	応用数学Ⅱ	2			2			
	応用物理	2		2				
	電気基礎	2	2					
	電気強固	1	1					
	CAD	1	1					
	情報処理Ⅰ	2	2					
	情報処理Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅲ	2		2				
	電気数学	3		1	2			
	電気・電子計測	2		1	1			
	創造演習	1			1			
	電気電子材料	2			2			
	電気回路	6		2	2	2		
	電気情報工学実験	6		3	3			
	電気磁気学	4			2	2	演習を含む。	
	電子工学	2				2		
	電子回路	2				2		
	制御工学	2				2		
	科目	エネルギー変換工学Ⅰ	2			2		
エネルギーネットワーク工学		2			2			
シーケンス制御		1			1			
エネルギー制御工学演習		1			1			
エネルギー変換工学Ⅱ		2				2		
パワーエレクトロニクス		1				1		
エネルギー発生工学		2				2		
システム工学		2				2		
メカトロニクス		1				1		
工業倫理		1				1		
科目	エネルギー制御工学実験	8			4	4		
	卒業研究	9				9		
	履修単位数計	78	6	9	17	24	22	
	選択	アナログ通信工学	2			2		
		画像工学	1				1	
		電子デバイス	1				1	
		電子回路設計	1				1	
		情報理論	2				2	
		信号理論	1				1	
		信号処理	1			1		
デジタル通信工学		2			2			
超高周波工学		1				1		
電磁界理論		1				1		
科目	電子物性	2				2		
	IC設計工学	2			2			
	アルゴリズム	2			2			
	通信ネットワーク	2				2		
	校外実習	1			1			
	工業英語	1				1		
	開設単位数計	23			10	13		
	履修単位数計	10			3	7		
	履修単位数合計	88	6	9	17	27	29	
	特別科目	特別講義A	2			1	1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A、特別講義B、特別講義C及び特別講義Dとは、他大学等が実施する授業科目をいう。
特別講義B		2			1	1		
特別講義C		2			1	1		
特別講義D		2			1	1		
開設単位数計		8			4	4		
履修単位数計	0～8			0～4	0～4			

(出典：キャンパスガイド)

(資料 5-1-①-1(4))

電気情報工学科 情報通信コース 第1～4学年(平成17～14年度入学生)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用数学Ⅰ	2				2		
応用数学Ⅱ	2				2		
応用物理	2			2			
電気基礎	2	2					
電気御園	1	1					
CAD	1	1					
必修 情報処理Ⅰ	2	2					
情報処理Ⅱ	2		2				
情報処理Ⅲ	2			2			
電気数学	3		1	2			
電気・電子計測	2		1	1			
創造演習	1			1			
電気電子材料	2			2			
電気回路	6		2	2	2		
電気情報工学実験	6		3	3			
電気磁気学	4			2	2		演習を含む。
電子工学	2				2		
電子回路	2				2		
制御工学	2				2		
デジタル通信工学	2				2		
アナログ通信工学	2				2		
信号処理	1				1		
電子物性	2					2	
情報通信工学演習	1				1		
超高周波工学	1					1	
電磁界理論	1					1	
情報理論	2					2	
電子回路設計	1					1	
電子デバイス	1					1	
工業倫理	1					1	
情報通信工学実験	8				4	4	
卒業研究	9					9	
必修単位数計	78	6	9	17	24	22	
選択科目							
ⅠC設計工学	2				2		
アルゴリズム	2				2		
画像工学	1					1	
通信ネットワーク	2					2	
信号処理	1					1	
エネルギー変換工学Ⅰ	2				2		
エネルギーネットワーク工学	2				2		
シーケンス制御	1				1		
エネルギー変換工学Ⅱ	2					2	
パワーエレクトロニクス	1					1	
エネルギー発生工学	2					2	
システム工学	2					2	
メカトロニクス	1					1	
校外実習	1					1	
工業英語	1					1	
選択単位数計	23				10	13	
履修単位数計	10				3	7	
履修単位数合計	88	6	9	17	27	29	
特別科目							
特別講義A	2				1	1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは、他大学等が実施する授業科目をいう。
特別講義B	2				1	1	
特別講義C	2				1	1	
特別講義D	2				1	1	
特別単位数計	8				4	4	
履修単位数計	0～8				0～4	0～4	

(出典：キャンパスガイド)

(資料 5-1-①-1(5))

環境都市工学科 建設システムコース 第1・2学年 (平成17・16年度入学生)

授業科目	単位数	学年別配当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用数学Ⅰ	2				2		
計画数学	1				1		
数値解析	1					1	
応用物理Ⅰ	2			2			
情報処理	5	1	1	1	1	1	
建設材料	3	1	2				
測量	2	1	1				
構造力学Ⅰ	5			3	2		
水理学	5			2	2	1	
土質力学	4		1	2		1	
コンクリート構造	3			1	1	1	
鋼構造	2				2		
河川工学	2				2		
都市計画	1				1		
交通計画	1					1	
環境工学	1					1	
建設施工	3				2	1	
工業火薬学	1					1	
環境工学	2	1	1				
環境衛生工学Ⅰ	1			1			
地球環境化学	1			1			
工業英語	2				1	1	
創造演習	1			1			
設計製図	8				3	5	
実験実習	10	2	3	3	2		
卒業研究	9					9	
応用数学Ⅱ	2				2		
応用物理Ⅱ	1				1		
構造力学Ⅱ	4				2	2	
耐震工学	1					1	
基礎工学	1					1	
構造実験	1					1	
履 修 単 位 数 合 計		88	6	9	17	27	29
特 別 科 目	校外実習	1				1	1 履修修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A、特別講義B、特別講義C及び特別講義Dとは、他大学等が実施する授業科目をいう。
	特別講義A	2			1	1	
	特別講義B	2			1	1	
	特別講義C	2			1	1	
	特別講義D	2			1	1	
開 設 単 位 数 計		9			5	4	
履 修 単 位 数 計		0~9			0~5	0~4	

(出典：キャンパスガイド)

(資料5-1-①-1(6))

建築学科 第1・2学年 (平成17・16年度入学生)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 応用物理	3			2	1		実験を含む。
情報処理	6	1	1	1	2	1	演習を含む。
CAD・CG	2				2		
建築構造	2	1	1				
建築概論	1	1					
建築計画	3		1	1	1		
都市計画	1				1		
建築設計製図Ⅰ	12	1	3	5	3		図学を含む。
造形	3	2	1				
建築史	3			2	1		
建築意匠	1				1		
修 建築構造力学	5		2	2	1		
建築材料	3			2	1		実験を含む。
創造演習	2			2			
鉄筋コンクリート構造	2				2		
鋼構造	2				2		
科 建築地盤工学	1					1	
建築防災工学	1					1	
建築環境工学	3				2	1	
建築設備Ⅰ	2				1	1	
環境設計	1					1	
構造設計Ⅰ(RC)	2					2	
建築法規	2					2	
建築生産	2					2	
ゼミナール	1				1		
工業英語	2				2		
測量学	2					2	
卒業研究	9					9	卒業設計を含む。
履 修 単 位 数 計	79	6	9	17	24	23	
選 応用数学○	2				2		進学希望(○)、就職希望(□)のいずれか4年次に3単位を、5年次に2単位を選択するものとする。
実用英語Ⅰ○	1				1		
福祉住環境□	1				1		
インテリア概論□	1				1		
不動産概論□	1				1		
科 実用英語Ⅱ○	2					2	構造系(*)、計画系(△)のいずれか4単位を選択するものとする。
技術者資格演習□	2					2	
振動工学*	1					1	
構造設計Ⅱ(S)*	1					1	
構造設計Ⅲ*	1					1	
構造工学実験*	1					1	
建築設計製図Ⅱ△	3					3	
建築環境実験△	1					1	
開 設 単 位 数 計	18				6	12	
履 修 単 位 数 計	9				3	6	
履 修 単 位 数 合 計	88	6	9	17	27	29	
特 校外実習	1				1		1 限必修にに必要な単位に含まない。 2 特別講義A、特別講義B、特別講義C及び特別講義Dとは、他大学等が実施する授業科目をいう。
特別講義A	2				1	1	
特別講義B	2				1	1	
特別講義C	2				1	1	
特別講義D	2				1	1	
開 設 単 位 数 計	9				5	4	
履 修 単 位 数 計	0~9				0~5	0~4	

(出典：キャンパスガイド)

(資料 5-1-①-2(1))

教育目標と対応する科目

機械工学科

準学士課程					
目標	学年				
	1	2	3	4	5
高度な専門知識	<ul style="list-style-type: none"> ・機械設計製図 ・工作実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工学 ・材料学 ・機構学 ・機械設計製図 ・工作実習 ・創造演習 I 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料力学 I ・加工学 ・材料学 ・機械要素設計 ・電気工学 ・機械設計製図 ・工作実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料力学 I ・加工学 ・材料学 ・熱工学 ・流体工学 ・機械要素設計 ・計測工学 ・メカトロニクス ・機械設計製図 ・工学実験 ・創造製作 ・創造演習 II ・校外実習 ・機械工学セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料力学 II ・機械力学 I ・機械力学 II ・先端材料学 ・熱機関 ・熱工学 ・エネルギー工学 ・流体工学 ・トライボロジー ・経営工学 ・システム工学 ・人工知能 ・制御工学 I ・制御工学 II ・メカトロニクス ・電子工学 ・工学実験 ・卒業研究 ・工学倫理
プレゼンテーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国語総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・創造製作 ・創造演習 II ・校外実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究
語学力	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション II ・総合英語 II ・第二外国語 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・工業英語 ・総合英語 II ・第二外国語

(出典 機械工学科)

(資料 5-1-①-2(2))

教育目標と対応する科目

電気情報工学科

準学士課程					
目標	学年				
	1	2	3	4	5
高度な専門知識	<ul style="list-style-type: none"> ・数学A ・数学B ・電気基礎 ・電気製図 ・CAD ・情報処理 I 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学A ・数学B ・情報処理 I ・電気数学 ・電気・電子計測 ・電気回路 ・電気情報工学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学 A ・数学B ・応用物理 ・情報処理 II ・電気数学 ・電気・電子計測 ・創造演習 ・電気電子材料 ・電気回路 ・電気情報工学実験 ・電気磁気学 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用数学 I ・応用数学 II ・電気回路 ・電気磁気学 ・電子工学 ・制御工学 ・エネルギー変換工学 I ・エネルギーネットワーク工学 ・シーケンス制御 ・エネルギー制御工学演習 ・エネルギー制御工学実験 ・アナログ通信工学 ・信号処理 ・デジタル通信工学 ・IC設計工学 ・アルゴリズム ・情報通信工学演習 ・情報通信工学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業倫理 ・エネルギー変換工学 II ・パワーエレクトロニクス ・エネルギー発生工学 ・システム工学 ・メカトロニクス ・エネルギー制御工学実験 ・情報通信工学実験 ・画像工学 ・電子デバイス ・電子回路設計 ・情報理論 ・信号理論 ・超高周波工学 ・電磁界理論 ・電子物性 ・通信ネットワーク ・卒業研究
プレゼンテーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国語総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究
語学力	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション II ・総合英語 II ・第二外国語 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・工業英語 ・総合英語 II ・第二外国語

(出典 電気情報工学科)

(資料 5-1-①-2(3))

教育目標と対応する科目

環境都市工学科

準学士課程					
目標	学年				
	1	2	3	4	5
高度な専門知識	<ul style="list-style-type: none"> ・測量 ・環境工学 ・建設材料 ・実験実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・測量 ・環境工学 ・建設材料 ・土質力学 ・実験実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生工学Ⅰ ・地球環境化学 ・コンクリート構造 ・構造力学Ⅰ ・水理学 ・土質力学 ・創造演習 ・実験実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設施工 ・都市計画 ・環境衛生工学Ⅱ ・自然生態学 ・環境保全 ・河川工学 ・環境地盤工学 ・コンクリート構造 ・鋼構造 ・構造力学Ⅰ ・構造力学Ⅱ ・水理学 ・実験実習 ・設計製図 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設施工 ・工業火薬学 ・交通計画 ・環境微生物学 ・気象水文学 ・防災工学 ・環境水理学 ・景観工学 ・コンクリート構造 ・耐震工学 ・基礎工学 ・構造力学Ⅱ ・水理学 ・土質力学 ・環境衛生実験 ・構造実験 ・設計製図
プレゼンテーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国語総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語表現 		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究
語学力	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語Ⅰ ・オーラルコミュニケーションⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語Ⅰ ・オーラルコミュニケーションⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語Ⅰ ・オーラルコミュニケーションⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語Ⅰ ・オーラルコミュニケーションⅡ ・総合英語Ⅱ ・第二外国語 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語Ⅰ ・工業英語 ・総合英語Ⅱ ・第二外国語

(出典 環境都市工学科)

(資料 5-1-①-2(4))

教育目標と対応する科目

建築学科

準学士課程					
目標	学年				
	1	2	3	4	5
高度な専門知識	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計製図 I ・建築概論 ・造形 ・建築構造 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築構造 ・建築計画 ・建築設計製図 I ・造形 ・建築構造力学 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築計画 ・建築設計製図 I ・建築史 ・建築構造力学 ・建築材料 ・創造演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD・CG ・建築計画 ・都市計画 ・建築設計製図 I ・建築史 ・建築意匠 ・建築構造力学 ・建築材料 ・鉄筋コンクリート構造 ・鋼構造 ・建築環境工学 ・建築設備 I ・ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築地盤工学 ・建築防災工学 ・建築環境工学 ・建築設備 I ・環境設計 ・構造設計 ・建築法規 ・建築生産 ・測量学
プレゼンテーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・国語総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語表現 		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究
語学力	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション I 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・オーラルコミュニケーション II ・総合英語 II ・第二外国語 ・工業英語 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合英語 I ・総合英語 II ・第二外国語

(出典 建築学科)

(資料 5-1-①-3)

一般科目教育目標

一般科目概要

今日の科学技術者は、幅広い常識と高度な科学的知識を持つとともに、豊かな想像力と鋭い国際感覚を合わせ持った人間であることが望まれています。高等専門学校はこのような人間の育成をめざして、5年間の一貫教育を行っている高等教育機関です。この目的に沿うために一般教養科目が置かれ、教育課程が編成されています。これは高専のどの専門学科を選択するにしても、共通して必要な一般教養、基礎学力が養えるように配慮されています。工学を学ぶための基礎知識だけでなく、社会人として必要な知識や考え方を身に必要があります。

カリキュラムの構成は学年が進むにつれて一般科目の授業数が少なくなり、専門科目の授業を多く履修するようになっていきます。基礎的な後期中等教育段階から始まり、次第に高度な高等教育段階へと発展して履修されていくようになります。特に4年、5年では選択科目を設け、現代社会の動向に対応した科目や学生自身の志向に応じた科目が選択できるようにしています。

教育目標

1) 国語

国際社会を生きるこれからの工業技術者には、日本人としての教養、豊かな発想を生み出す感性、あらゆる表現の基礎となる日本語コミュニケーション能力が求められる。については、国語教育の目標を次のように設定する。

- ・日本語文化に対する知識と理解を深め、多様な文化を尊重する心と豊かな感性を養う。
- ・日本語表現を正しく的確に理解する力を養う。
- ・日本語によって理論的かつ分かりやすく表現する力を養う。

2) 社会

社会科の分野における基礎的な教養と学力を養成し、社会人として生活するのに不可欠な知識や考え方を身につけさせるとともに、自ら考え、表現する能力を育成することを社会科教育の目標として設定する。

3) 数学

工学を学ぶためだけでなく社会の様々なニーズに対応できる数学的能力（基礎知識、基礎技術、方法論の理解、自ら思考し推論する力、数学的センス等）を身につけさせる。また、大学編入学試験にも対応できる学力の育成に努めて、全体のレベルアップを図る。

4) 理科

専門科目あるいは社会のニーズに対応できるように基礎的な学力を身につけさせる。また、基礎知識のみならず、実験を通して観察、工夫し、これを考察して報告する能力を身につける。自然の諸現象に目を向け、科学的に解明しようとする能力を養う。

5) 保健体育

生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を養い、健康の保持増進のための実践力の育成と、体力の向上を目標とし、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を行う。

6) 英語

学校における英語教育であるので英語の基礎能力を養成することが主目標になる。また、学生に具体的な目標を持たせるために資格試験の受験を奨励する。J A B E Eに対応するため、3年生までには実用英語検定の準2級を、卒業までに実用英語検定の2級を取得することを目指す。また、平成15年から実施する TOEIC による統一試験の結果を踏まえ計画的な英語力向上策を作成して実施する。専攻科の学生は修了までに TOEIC で400点以上の取得を目指す。

7) 第二外国語

高等教育機関では第二外国語の習得は不可欠と考える。他国の文化に触れるだけでなく職業人としてもその必要性は大きい。現在、第二外国語はドイツ語を開設しており、ドイツ語検定にも対応する授業内容とする。

(出典 シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目標である「高度な専門知識」, 「プレゼンテーション能力」, 「語学能力」を併せ持つ人材の育成について, 卒業時の到達目標を具体的に定めたうえで, これに対応するように授業科目の個別の内容, 到達目標を決定し, 目標に達するために段階的な履修が可能となるように, 各授業科目を各学年に適切に配置している。

以上のことから, 本校の準学士課程では, 教育の目的に照らして, 授業科目が学年ごとに適切に配置され, 教育課程の体系性が十分に確保されていると判断する。また, 授業の内容が, 全体として教育課程の編成の趣旨に添って, 教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点5-1-②: 学生の多様なニーズ, 学術の発展動向, 社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば, 他学科の授業科目の履修, 他高等教育機関との単位互換, インターシップによる単位認定, 補充教育の実施, 専攻科教育との連携等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況)

学生の多様なニーズに対応するため, SCS(スペースコラボレーションシステム 衛生通信大学間ネットワーク)を利用した中国四国地区国立大学等共同授業が受講できる。(資料 5-1-②-1 平成17年度中国・四国地区国立大学等共同授業 受講状況)

(資料 5-1-②-1)

平成17年度中国・四国地区国立大学等共同授業 受講状況

講義題目	講師	受講者数
地球温暖化と気象, 自然災害	山口大学 教授 早川 誠而	4
考古学から見た環境と人間	広島大学 助教授 竹廣 文明	4
宍道湖・中海の富栄養化と生態系の変化	鳥取大学 講師 岡本 幹三	2
瀬戸内海における環境問題の歴史と将来展望	愛媛大学 教授 武岡 英隆	1
都市河川環境の現状	島根大学 教授 石賀 裕明	1
防災と環境 ー平成16年台風被害を受けてー	香川大学 教授 長谷川 修一	2
電磁波とその身体などへの影響 ー身近な電磁波についてー	山口大学 助教授 堀田 昌志	5
ガラスと環境の係わり	岡山大学 教授 三浦 嘉也	1
公共事業を環境共生型に変える方策 ー事業評価制度を中心にー	徳島大学 教授 中嶋 信	1
「自然の権利」という環境倫理思想について ー哲学的考察ー	広島大学 助教授 畠中 和生	1
地球温暖化防止とエネルギー選択	高知大学 教授 菅野 光公	2

(出典 学生課)

また、教育ネットワーク中国に加盟し、県内20数校の大学との単位協定を結び共通講座を受講可能としている（資料 5-1-②-2 単位互換科目一覧抜粋）。

(資料 5-1-②-2)

単位互換科目一覧

大学 No.	大学名	科目 No.	正式科目名 <副題>	単位数	開講学期	担当教員名	新規の科目には○	開講機関	開講曜日	開講時間	定員	定員超過時の選考方法
27	呉工業高等専門学校	2701	経営システム工学	2	後期	岩本英久		10/3-2/16	木	14:50-16:30	5	抽選
		2702	資源循環工学	2	前期	山口隆司		4/11-7/25	月	14:50-16:30	10	書類選考

(出典 2005 単位互換履修生募集要項)

さらに、ハワイ大学マウイコミュニティカレッジとは姉妹校となっており、毎年、希望者に対して、語学研修を兼ねた現地学生との交流を実施している。（訪問調査時提示資料 5-1-②-3 Report of the Exchange Program with Maui Community College 2005）また、各学科とも専門と関連する資格とその資格を取得するための条件をシラバスに記載するとともに進路資料室にも掲示し、学生の資格取得を奨励している。（資料 5-1-②-4 各学科シラバス）

(資料 5-1-②-4(1))

機械工学科学生の資格取得について

国家資格は、社会で通用する実力を持っていることの証です。それらの資格を取得することは大きな自信につながり、就職試験にも有利になり、就職後の昇進、給与にも反映します。機械工学科在学中に取得可能な主な資格をいくつか掲げます。

機械工学科では、卒業までにクラスの全員が各種資格を一つ以上取得する目標を掲げています。機械工学科の教員一同が応援しますので、資格取得にチャレンジしてみましょう。

◎工業英語検定試験（文部科学省認定）

3級以上を取得すると、5年工業英語の単位（2単位）が認定されます。成績は、最高点で評価します。4年生までに取得しましょう。

試験日：5月と11月頃、（1月にも実施される場合がある。）

試験地：本校で受験可

受験料：3級→4,600円、2級→6,400円、1級→15,000円

レベル：3級→在学生の工業英語に関する応用知識を有する者

2級→実務経験者を標準とし、工業英語全般の知識を有する者

1級→専門家として実務能力を有する者

機械工学科の数値目標：卒業までに、クラスの10名程度の学生が工業英語検定3級以上の資格を取得する。

問合せ： 灘野教員、岩本教員、または一般科目英語科

◎機械設計技術者試験（3級）

本資格は機械設計能力を向上させ、企業における新人技術者の実務への導入を容易にさせるために、学生の技術水準を適正に評価します。入社後に、設計・開発部門配属へのアピールにつながります。

試験日：11月下旬（願書受付：9月～10月）

受験地：広島市

受験料：3級→8,000円

レベル：3級→在学生の機械設計に関する応用知識を有する者

2級→実務経験者を標準とし、実務経験5年以上が必要

1級→実務経験11年以上が必要

機械工学科の数値目標：卒業までに、クラスの5名程度の学生が機械設計技術者3級の資格を取得する。

問合せ： 河野教員

(資料 5-1-②-4(2) 機械工学科つづき)

◎危険物取扱者試験（乙種）

一般に、機械系の就職先では種々の危険物を取り扱う機会があると思います。その時、この資格を取得しておくと思えば役立つと思います。乙種には第1類から第6類まであります。これらのうち、第4類はガソリン、アルコール類、灯油、軽油、重油、動植物油類等の引火性液体を取り扱うことができます。機械系の学生としては、この乙種4類を取っておくと良いでしょう。

受験資格：特になし

試験日：6月（受験願書配布：3月，受付：4月），11月（受験願書配布：8月，受付：9月）

受験地：呉市，広島市，福山市，三原市，三次市

受験料：3,400円

受験願書配布：各消防署（広署等）

問合せ：八木教員

◎2級ボイラー技士試験

特級ボイラー技士，1級ボイラー技士，2級ボイラー技士の3つの区分があり，特別な経歴がある人以外は，まず取得しなければならない資格が2級です。在学中に資格を取得することができます。この資格を受験する資格としては，広島労働基準局指定の実技講習を修了することが必要です。講習や免許試験は春休みや夏休み中に行われているので，大変受験しやすくなっています。

資格取得の手続きと注意事項

1月頃：各地区のボイラー協会に，実技講習の申し込みを行う。

申し込み先：社団法人 日本ボイラ協会広島支部

3月頃：春休み中に，広島市で3日間の実技講習が2回開催される。1回受ければ，永年有効。

（受講料：12,500円，テキスト代：2,200円）

8月頃：広島市で，免許試験が2回実施される。（費用：8,300円）

不安な人は，免許試験前に受験勉強会（2日間，費用：10,000円）があるので，参加してみると良いでしょう。

免許試験の合格者は，免許申請手続きに従って免許書を受けます。（費用：1,800円）

問合せ：河口教員

◎基本情報技術者試験

将来，情報処理技術者（システムエンジニア，ネットワークエンジニア，CAD技術者等）をめざす学生には，ぜひチャレンジして欲しい資格です。合格率は15%ぐらいです。

試験日：4月頃（受付：1月～2月初旬），10月頃（受付：7月頃）

受験地：広島市，福山市

受験料：5,100円

問合せ：野原教員

(出典 シラバス（機械工学科）)

(資料 5-1-②-4(3))

公認資格試験案内 (電気情報工学科)

● 電気主任技術者(一種、二種、三種)

二種・・・構内：170kV未滿、構外：100kV未滿

三種・・・構内：50kV未滿、構外：25kV未滿、5MVA未滿

(試験方法)

三種(マークシート方式、五肢択一方式、年1回)

理論、電力、機械、法規の科目合格方式、三年間有効(翌年、翌々年)

二種 一次試験：マークシート方式、理論、電力、機械、法規の科目合格方式

二次試験：記述方式、電力・管理、機械・制御の2科目

(推奨 三種、二種)

● 情報処理技術者(情報システム開発・運用側、情報システム利用側、システム監査の3分野に分かれて合計18の試験ある)

ソフトウェア開発技術者試験(中級者対象、年1回、4~6万人受験、合格率10%程度)

基本情報技術者試験(高卒対象、年1回、受験者数約30万人、合格率5~15%、マークシート方式)

(試験方法)

ソフトウェア開発技術者(午前：多肢選択式、ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識)(80問)

午後：記述式、プログラム作成能力(7問)

1回目 春：毎年4月第3日曜日

2回目 秋：毎年10月第3日曜日

基本情報処理開発技術者(午前：多肢選択方式 午後：多肢選択式11問中7問選択)

(推奨 ソフトウェア開発技術者)

● 無線従事者

総合無線通信士(1~3級)

海上無線通信士(1~4級、特殊1~3級、レーダ級の8部門)

陸上無線通信士(1・2級、特殊1~3級、国内電信級の6部門)

アマチュア無線従事者(1~4級の4部門)

2級：出力200W 3級：出力50W 4級：出力20W(電話級)

(推奨 第2級陸上特殊無線技士、第2級陸上無線技士)

● デジタル技術試験(1~4級)

(試験方法)年2回

2級(情報と制御)、3級、4級

受験料：4級：2,500円、3級：3,500円、2級：4,500円

(推奨 3学年：3級、4学年：2級)

● 電気工事士(第二種)

(試験方法)

筆記試験：基礎、配電、配線器具、配線材料、工具、施工、検査、配線図、法令等

技能試験：材料選別試験(筆記試験：写真より必要物品・数量をマークシートに記入)

単位作業試験(作業用工具を持参して作品完成)

(資料 5-1-②-4(4))

公認資格試験案内 (電気工学科)

- 電気主任技術者(一種、二種、三種)
 - 二種・・・構内：170kV未滿、構外：100kV未滿
 - 三種・・・構内：50kV未滿、構外：25kV未滿、5MVA未滿
 (試験方法)
 - 三種(マークシート方式、五肢択一方式、年1回)
 - 理論、電力、機械、法規の科目合格方式、三年間有効(翌年、翌々年)
 - 二種 一次試験：マークシート方式、理論、電力、機械、法規の科目合格方式
 - 二次試験：記述方式、電力・管理、機械・制御の2科目

〈推奨 三種、二種〉

- 情報処理技術者(情報システム開発・運用側、情報システム利用側、システム監査の3分野に分かれて合計13の試験ある)
 - ソフトウェア開発技術者試験(中級者対象、年1回、4~6万人受験、合格率10%程度)
 - 基本情報技術者試験(高卒対象、年1回、受験者数約30万人、合格率5~15%、マークシート方式)
 (試験方法)
 - ソフトウェア開発技術者(午前：多肢選択式、ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識)(80問)
 - 午後：記述式、プログラム作成能力(7問)
 - 1回目 春：毎年4月第3日曜日
 - 2回目 秋：毎年10月第3日曜日
 - 基本情報処理開発技術者(午前：多肢選択方式 午後：多肢選択式11問中7問選択)

〈推奨 ソフトウェア開発技術者〉

- 無線従事者
 - 総合無線通信士(1~3級)
 - 海上無線通信士(1~4級、特殊1~3級、レーダ級の8部門)
 - 陸上無線通信士(1・2級、特殊1~3級、国内電信級の6部門)
 - アマチュア無線従事者(1~4級の4部門)
 - 2級：出力200W 3級：出力50W 4級：出力20W(電話級)

〈推奨 第2級陸上特殊無線技士、第2級陸上無線技士〉

- デジタル技術試験(1~4級)
 (試験方法)年2回
 - 2級(情報と制御)、3級、4級
 - 受験料：4級：2,500円、3級：3,500円、2級：4,500円

〈推奨 3学年：3級、4学年：2級〉

- 電気工事士(第二種)
 (試験方法)
 - 筆記試験：基礎、配電、配線器具、配線材料、工具、施工、検査、配線図、法令等
 - 技能試験：材料選別試験(筆記試験：写真より必要物品・数量をマークシートに記入)
 - 単位作業試験(作業用工具を持参して作品完成)

(出典 シラバス (電気情報工学科))

(資料 5-1-②-4(5))

環境都市工学科

資格への道しるべ

資格とは、技術者に必要とされる一定の技術水準について検査するものであり、資格取得者はその技術力が社会的に認定されたこととなります。環境都市工学科では、各種の資格試験を受験することを推奨していますが、特に下記の資格を取得できるよう、授業や補習によって指導しています。

【測量士・測量士補】

測量士は測量に関する作業計画を作成または実施する、測量士補は作業計画に従い測量に従事するために必要な資格です。環境都市工学科で測量に関する科目を修得して卒業した者には、卒業と同時に測量士補の資格が無試験で与えられます。さらに、卒業後の測量に関する実務経験が通算3年以上あれば申請により測量士の資格が無試験で与えられます。測量士または測量士補は、土地家屋調査士の2次試験が免除されます。

【技術士・技術士補】

技術士は科学技術に関する高度の専門的応用能力を必要とする事項について計画、研究、設計、分析、試験、評価またはこれらに関する指導の業務を行うことができる者です。技術士第一次試験に合格し登録した者は技術士補となり、技術士を補助することができます。実務経験を積んだうえで第二次試験に合格し登録した者は技術士としての業務を行うことができます。技術士の技術部門は、現在20の部門に分かれています。環境都市工学科では、主に建設部門、水道部門、衛生工学部門、環境部門の4部門に関連する科目の教育を行っています。

【土木施工管理技士・土木施工技術者】

土木施工管理技士とは河川、道路、橋梁などの土木工事において、主任技術者または、監理技術者として施工計画を作成し、現場における工程管理、安全管理など工事施工に必要な技術上の管理などを行う技術者のことです。1級、2級土木施工管理技術検定試験に合格すれば、土木施工管理技士になれます。環境都市工学科卒業後2級は実務経験2年以上、1級は5年以上で受験できます。

土木施工技術者試験は将来、土木施工管理技士をめざす卒業見込みの学生（本校5年生）と卒業生で大学在学中の学生（高専専攻科の学生を含む）を対象として実施されています。この試験の合格者は、2年以上の実務経験年数を満たして、2級土木施工管理技術検定試験(学科試験・実地試験)を受験する場合には、学科試験の「土木工学等」、「施工管理法」、「法規」のうち「土木工学等」と「法規」の2科目が免除されます。

【火薬類取扱保安責任者】

火薬類取扱保安責任者は、火薬庫において火薬を貯蔵する場合、火薬類の消費場所(発破現場など)において火薬類を消費する際に、法の規程に基づいて種々の保安に関する職務を行います。工業火薬学の単位取得者は火薬類取扱保安責任者試験のうち、「一般火薬学」の試験が免除され、「法令」のみの受験で資格が取得できます。

【環境計量士】

今や世界的規模で環境保全に対する関心が高まっています。地球上の生物がみな安全に快適に暮らせるような環境を維持していくことは、人間に課せられた使命といえます。環境保全のためには環境汚染物質などの測定分析の技術が必要です。計量士の資格は、これら計量に関する国家資格です。計量士には、環境計量士(濃度関係)、環境計量士(振動関係)、一般計量士の3種類がありますが、環境都市工学科では環境計量士(濃度関係)について主に指導します。

【公害防止管理者】

公害防止管理者資格は、幅広い製造業・電気供給業・ガス供給業等における大気汚染、水質汚濁、騒音又は振動を防止し、環境の保全に貢献する国家資格です。環境都市工学科では、特に水質環境保全に関する公害防止管理の内容について指導します。

(出典 シラバス(環境都市工学科))

(資料 5-1-②-4(6))

建築関係の資格

○が受験できる資格です。

資格名	在学中	卒業後
【建築士系・国家資格】		
一級建築士		4年以上の実務経験
二級建築士		○
木造建築士		○
【その他の国家資格】		
建築設備士		10年以上の実務経験
一級建築施工管理技士		5年以上の実務経験
二級建築施工管理技士		2年以上の実務経験
測量士・測量士補	○	○
宅地建物取引主任者(宅建)	○	○
土地家屋調査士	○	○
不動産鑑定士・鑑定士補	○	1次試験免除
司法書士	○	○
ビル管理技術者(建築物環境衛生管理技術者)		2年以上の実務経験
マンション管理士	○	○
一級土木施工管理技士		5年以上の実務経験(土木関連)
二級土木施工管理技士		2年以上の実務経験(土木関連)
【その他の公的資格】		
建設業経理事務士	○	○
商業施設士(1次試験)		20歳以上
【構造系】		
コンクリート技士		2年以上の実務経験
コンクリート主任技士		4年以上の実務経験
【CAD系】		
CAD利用技術者2級	○	○
建築CADデザイナー3級	○	○
建築CAD検定3級	○	○
【インテリア・福祉系】		
カラーコーディネーター	○	○
色彩士検定	○	○
インテリアコーディネーター (社)インテリア産業協会認定)	○	※H15年度より年齢制限が なくなりました!
インテリアプランナー((財)建築技術教育普及センター認定)		22歳以上
福祉住環境コーディネーター2・3級	○	○
キッチンスペシャリスト(学科)	○	○
DIYアドバイザー	18歳以上	○
マンションリフォームマネージャー		20歳以上
建築物環境衛生管理技術者		2年以上の実務経験

(出典 シラバス(建築学科))

社会からの実用英語に関するニーズに対応するため、先に 5-1-①で述べたように、3年生までに実用英語検定準2級、卒業までに2級の取得を奨励している。2級以上の合格者には総合英語（5年）の単位認定を行っている。工業英検の受験も奨励しており、工業英検3級以上の合格者には工業英語の単位を認定している。また、社会的な認知度の高いTOEICの受験も奨励しており、特に3、4年生に対しては受験を義務づけている。（資料 5-1-②-5：キャンパスガイド、資料 5-1-②-6 単位認定状況、資料 5-1-②-7 TOEIC 受験状況）

(資料 5-1-②-5)

2. 1 1 英語学習、英語検定試験等と単位互換

(1) 英語学習

本校卒業生が、国際社会で活躍できるよう、英語力の向上に力を入れています。英語学習には、授業だけでなく、図書館の「TOEIC対策教材」や情報処理センターなどでパソコン利用のeラーニングシステムを利用した教材を用いて勉強しましょう。

TOEIC とは？

日本の企業、大学で多く採用している英語の試験です。900点満点の試験で得点証明がもらえます。高専在学中に勉強して高得点を得ていると有利です。1年生は、低学年用のTOEIC Bridge 試験が適当です。

本校では、実用英語検定資格、工業英語検定資格やTOEIC試験の受験を奨励しています。

実用英語検定資格、工業英語検定資格を取得するとその奨励策として以下のように授業を受けなくても単位を与える特例（単位互換制度）を設けています。ただし専攻科に進む場合は、JABEEとの関係で現在は認められません。

TOEIC 試験は、低学年では、TOEIC Bridge を高学年では、TOEIC 試験を勧めています。これらは、3、4学年は受験を必須とし、統一試験として校内で実施します。また希望者は、だれでも受験できます。また高得点者には3、2節のような表彰や海外研修の助成があります。

(2) 資格取得届

資格取得をした場合は、資格取得届に資格証明のコピーを添え、学級担任を経て、学校長に提出します。

(3) 成績評価の特例

試験の種類	資格	対象授業科目	対応評価
実用英語技能検定試験	2級以上	総合英語(5学年)	同クラスの最高点と同一または90点とし「優」の学年評価がされる
工業英語能力検定試験	3級以上	工業英語(機械工学科、環境都市工学科のみ)	

(出典 キャンパスガイド)

(資料 5-1-②-6)

単位認定状況 (2005年 7月現在)

レベル	受験者数 (のべ人数)
工業英語	14
総合英語	5

(出典：教務委員会 (7月) 議事録)

(資料 5-1-②-7)

TOEIC 受験状況 (2005年)

レベル	受験者数	平均点
TOEIC IP	235	308.6(990満点)
TOEIC Bridge IP	192	116.9(180満点)

(出典：教務委員会(12月)議事録)

さらに、学生のニーズ、社会からの要請に対応するために、全学科を対象とした「特別講義」としてキャリア開発セミナーⅠ、Ⅱを開設している。キャリア開発セミナーは、社会で活躍するために必要な人間力＝専門知識以外に、行動力、社会性、リーダーシップなどを総合した力をその道のエキスパートである客員教授による講義と地域実践活動（ティーチングアシスタントなど）を通じて養成するもので4、5年生が受講可能となっている。（資料 5-1-②-8 キャリア開発セミナーⅠ、Ⅱシラバス）

また、全ての学科で実働7日以上 of 校外実習（インターンシップ）とその報告をカリキュラムに組み込んでいる。（資料 5-1-②-9 各学科シラバス及び訪問調査時提示資料 5-1-②-10 インターンシップ報告書）

外国人留学生に関しては、特別カリキュラムによる補充教育（資料 5-1-②-11 留学生用時間割表）を行うと共に同級生から1人チューターを付け、彼らが日本での生活に馴染むための支援をしている。（資料 5-1-②-12 呉工業高等専門学校外国人留学生チューターに関する実施要項）

(資料 5-1-②-8(1))

キャリア開発セミナー I シラバス

【科目名】 キャリア開発セミナー I (Career Development Seminar I)		
【学年、学科名】	(本科4年次以上において)学科および学年を問わない	
【必修・選択、単位数、期間】	特別講義、1単位(付加単位)、前期	
【担当教員】	中島 敏光(客員教授)、平本 正文(客員教授)、溝上 裕二(客員教授)、市坪 誠(環境都市工学科)、佐賀野 健(一般科目)、山岡 俊一(環境都市工学科)	
【授業の目的及び概要】 卒業後に社会で活躍するには、専門的知識以外に、行動力、社会性、リーダーシップなどの総合的な能力である人間力が必要である。地域貢献活動に必要な能力、社会人として必要な知識および能力を、そのエキスパートである客員教授による講義と、地域実践活動(ティーチングアシスタントなど)を通じて養成する。また、実践活動については、ワークショップの実践とレポート等による指導を受ける。		
達成目標	地域連携・地域貢献活動に参加する。 活動に必要な能力、社会人として必要な知識などを理解する。 地域活動の実施と発表をとおして、積極性、実践力、表現力、指導力および社会性などを身につける。 人間力・地域力育成を踏まえたキャリア開発を実施しこれを体得する。	
【教科書】	なし	
【参考書等】	必要に応じて、プリント等を配布する	
【授業方法】	講義、実践活動、レポート、発表	
	【項 目】	
	【内 容】	
後 期	第1週 ガイダンス	1.ガイダンス(授業の目指していること)
	第2週 ワークショップ	2.活動に必要な能力、社会人として必要な能力を理解すること
	第3週 実践活動(地域連携活動)	3.ティーチングアシスタントの実践を行うこと
	第4週 実践活動(地域連携活動)	"
	第5週 実践活動(地域連携活動)	"
	第6週 まとめワークショップ	4.実践活動をまとめ、次のアクションにつながるチェックを行うこと
	第7週 中間報告	5.ゲームによる気づき
	第8週 実践活動(地域連携活動)	6.ティーチングアシスタントの実践を行うこと
	第9週 実践活動(地域連携活動)	"
	第10週 実践活動(地域連携活動)	"
	第11週 実践活動(地域連携活動)	"
	第12週 まとめワークショップ	7.実践活動の意義を理解し活動内容を取りまとめること
	第13週 発表	8.とりまとめた内容を発表し、他の活動も理解すること
	第14週 公開發表	9.実践活動の意義を広く周知し地域に還元すること
	第15週 まとめ	10.人間力・地域力育成を踏まえたキャリア開発を体得すること
【カリキュラムの中での位置づけ】 社会活動に必要な能力は、学科、学年を問わないものであり、卒業までの希望の学年で行うことができる。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 なし		
【この科目と同時に学ぶ科目】 なし		
【評価方法・基準】 評価方法:講義の出席(20%)、講義での演習の評価(20%)、実践活動の態度(30%)、およびレポート(20%)、実践報告会による成果報告書(10%)により行う。 最終評価点=(講義出席100点)×20%+(講義演習100点)×20%+(実践活動100点)×30%+(レポート100点)×20%+(成果報告100点)×10% 評価基準:講義の参加状況、講義での演習の評価、成果報告内容、実践報告のプレゼンテーションにより総合的に評価し60点以上を合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 連絡:市坪 誠(環境都市工学科4階) 内線:8486 地域連携活動および客員教授に対する連絡・質問等も対応する。放課後等適宜相談のこと。		

(出典 シラバス)

(資料 5-1-②-8(2))

キャリア開発セミナーⅡシラバス

【科目名】 キャリア開発セミナーⅡ(Career Development Seminar Ⅱ)	
【学年、学科名】	(本科4年次以上において)学科および学年を問わない
【必修・選択、単位数、期間】	特別講義、1単位(付加単位)、後期
【担当教員】	中島 敏光(客員教授)、平本 正文(客員教授)、清上 裕二(客員教授)、市坪 誠(環境都市工学科)、山岡 俊一(環境都市工学科)
【授業の目的及び概要】 卒業後に社会で活躍するには、専門的知識以外に、行動力、社会性、リーダーシップなどの総合的な能力である人間力が必要である。地域貢献活動に必要な能力、社会人として必要な知識および能力を、そのエキスパートである客員教授による講義と、地域実践活動(ティーチングアシスタントなど)を通じて養成する。また、実践活動については、ワークショップの実践とレポート等による指導を受ける。	
達成目標	地域連携・地域貢献活動に参加する。 活動に必要な能力、社会人として必要な知識などを理解する。 地域活動の実施と発表をとおして、積極性、実践力、表現力、指導力および社会性などを身につける。 人間力・地域力育成を踏まえたキャリア開発を実施しこれを体得する。
【教科書】	なし
【参考書等】	必要に応じて、プリント等を配布する
【授業方法】	講義、実践活動、レポート、発表
	【項目】
後期	【内容】
第1週	ガイダンス
第2週	ワークショップ
第3週	実践活動(地域連携活動)
第4週	実践活動(地域連携活動)
第5週	実践活動(地域連携活動)
第6週	まとめワークショップ
第7週	中間報告
第8週	実践活動(地域連携活動)
第9週	実践活動(地域連携活動)
第10週	実践活動(地域連携活動)
第11週	実践活動(地域連携活動)
第12週	まとめワークショップ
第13週	発表
第14週	公開発表
第15週	まとめ
	1.ガイダンス(授業の目指していること) 2.活動に必要な能力、社会人として必要な能力を理解すること 3.ティーチングアシスタントの実践を行うこと " " 4.実践活動をまとめ、次のアクションにつながるチェックを行うこと 5.ゲームによる気づき 6.ティーチングアシスタントの実践を行うこと " " " 7.実践活動の意義を理解し活動内容を取りまとめること 8.とりまとめた内容を発表し、他の活動も理解すること 9.実践活動の意義を広く周知し地域に還元すること 10.人間力・地域力育成を踏まえたキャリア開発を体得すること
【カリキュラムの中での位置づけ】 社会活動に必要な能力は、学科、学年を問わないものであり、卒業までの希望の学年で行うことができる。	
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 なし	
【この科目と同時に学ぶ科目】 なし	
【評価方法・基準】 評価方法:講義の出席(20%)、講義での演習の評価(20%)、実践活動の態度(30%)、およびレポート(20%)、実践報告会による成果報告書(10%)により行う。 最終評価点=(講義出席100点)×20%+(講義演習100点)×20%+(実践活動100点)×30%+(レポート100点)×20%+(成果報告100点)×10% 評価基準:講義の参加状況、講義での演習の評価、成果報告内容、実践報告のプレゼンテーションにより総合的に評価し60点以上を合格とする。	
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 連絡:市坪 誠(環境都市工学科4階) 内線:8486 地域連携活動および客員教授に対する連絡・質問等も対応する。放課後等適宜相談のこと。	

(出典 シラバス)

(資料 5-1-②-9(1))

校外実習シラバス

【科目名】	校外実習(Practice Outside the Campus)		JABEE
【学年、学科名】	4学年、機械工学科		
【必修・選択、単位数、期間】	選択、1単位、前期		
【担当教員】	八木 良尚、森 貞雄		
【学習・教育目標】: D	【JABEE基準1(1)】: ●		
【授業の目的及び概要】	<p>校外実習は、企業等の現場の実状に触れることにより技術に対する社会の要請を知るとともに、学問の意義を認識すること、学問と生産の関連を体験することにより自己能力を開発する基礎を養うことおよび技術者としての問題意識を養い卒業研究における自立性を高めることを目的としている。多くの受入れ企業では、学内では見られない最新鋭の機械や設備を使用した教育メニューにより実習を行っており、エンジニアとしての自覚や工学的センスを養成するのに寄与している。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業等の現場を経験し、技術者としての問題意識を芽生えさせ、問題解決力を身につけること。 2. 派遣企業において与えられた業務を遂行する中で、社会のニーズへの取り組み方を身に付けること。 3. 校外実習の報告書の作成・提出、発表の準備および校外実習報告会での発表と質疑応答ができること。 		
【教科書】	なし		
【実習方法】	夏季休業中に、夏季実習を実施している企業において実習を体験する。(原則として2週間) 夏季実習終了後に報告書の提出及び報告会での発表を義務づける。		
	【項目】	【内容】	
前 期	第1週	実習受け入れ機関の選定・	<p>1. 高専で学んだ専門知識、技術の集大成 [25時間、実験の計画・遂行能力と結果の考察能力の養成(1)]</p> <p>・企業の職種の調査および研究を行うと同時にどんな仕事を体験したいかを真剣に考えて、派遣企業を選</p> <p>・内容は派遣企業に一任</p> <p>・実習終了後、校外実習の報告書の作成・提出、発表の準備および校外実習報告会での発表</p>
	第2週	申し込み(4月～7月)	
	第3週		
	第4週	実習受け入れ機関に学生派遣	
	第5週	(夏期休業中、7月～9月)	
	第6週		
	第7週	校外実習報告書の提出・校外	
	第8週	実習報告会(10月)	
	第9週		
	第10週	実習時間：1日8時間で7日以上	
	第11週		
	第12週		
	第13週		
	第14週		
	第15週		
	第16週		
【カリキュラムの中での位置づけ】	<p>派遣機関によって必要な学問が異なるが、基本的には3学年前期までに学んだ機械工学に関連する専門科目で得た知識が役立つこともある。また、この校外実習の経験が特に5学年の卒業研究および専攻科の特別研究に取り組む上での大きな推進力となると考えられる。</p>		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】	特になし		
【この科目と同時に学ぶ科目】	特になし		
【評価方法・基準】	<p>評価方法: 派遣先機関の評価(50%)、校外実習報告書の評価(機械工学科全教員による評価の平均)(25%)および報告会の発表態度評価(出席教員複数による評価の平均)(25%)によって総合評価。</p> <p>最終評価=派遣先機関の評価(100点)×0.5+報告書評価(100点)×0.25+発表態度評価(100点)×0.25</p> <p>評価基準: 評価方法の最終結果が60%以上であれば合格とする。</p>		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】	<p>学校外であるので、全て自分の責任で処理をする必要がある。一社会人である自覚を持って、行動することが求められる。学生だからという甘えは許されないことを十分に自覚する必要がある。質問等が生じた場合には派遣機関の担当者に直ぐに聞くこと、分からないことはそのときに解決することが大切である。派遣先が決まったら、さらに派遣予定機関の業務内容を十分に調べておくこと。派遣期間中は次の日にやることを下調べをしておくこと。派遣機関において指示された業務に早く慣れ、実習目標を達成するよう努力すること。毎日の業務終了後に反省と次の日の復習及び目標を考えたこと。校外実習終了後は出来るだけ早い時期に報告書をまとめておくこと。</p>		

(出典 シラバス)

(資料 5-1-②-9(2))

校外実習シラバス

【科目名】	校外実習(Internship)		JABEE
【学年, 学科名】	4学年, 電気情報工学科		
【必修・選択, 単位数, 期間】	選択, 1単位, 前期		
【担当教員】	黒木 太司		
【学習・教育目標】: E	【JABEE基準1(1)】:(e),(g),(h)		
【授業の目的及び概要】	5学年で行なう卒業研究の基礎を身につけ, 卒業研究を行なうための準備をする科目である。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現場の実状に触れることによって技術に対する社会の要請を知るとともに, 学問の意義を再確認する。 2. 学問と生産の関連を体験することにより自己の能力を開発する基礎を養う。 3. 技術者としての問題意識を養い, 卒業研究における自主性を高める。 		
【教科書】	「校外実習の手引き」(呉高専 電気工学科)		
【参考書等】			
【授業方法】			
	【項目】	【内容】	
前 期	校外実習希望調査	4月中	1. 夏季休業期間を利用して実習を行なう。
	実習機関への申し込み	5月～	
校外実習事前教育	7月中		
校外実習の実施	7～9月		
実習報告会	10月		
【カリキュラムの中での位置づけ】 校外の実習機関で就職体験を行なう科目。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】			
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】 評価方法: 校外実習機関の担当責任者の報告書(30%), 履修学生の実習報告書(40%), 校外実習報告会(30%)を複数の教員で総合的に評価する。 評価基準: 本科目において設定した目標を6割以上達成している学生を合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 生産現場で実習体験を行なうことになるので, 安全には十分注意すること, 就職前に学問と実践を体験することにより, 学問の意義を再認識することができます。また, 就職先を決定する際の大きな決定要因となりますので, できるだけ多くの学生が参加して下さい。			

(出典 シラバス)

(資料 5-1-②-9(3))

校外実習シラバス

【科目名】	校外実習(Practice Outside the Campus)		JABEE
【学年, 学科名】	4学年, 環境都市工学科		
【必修・選択, 単位数, 期間】	選択, 1単位, 前期		
【担当教員】	中野修治(学科主任), 重松尚久(4年担任)		
【学習・教育目標】: H	【JABEE基準1(1)】: d-7		
【授業の目的及び概要】 建設現場, 構造設計または官庁などの現場の実情にふれ, 学んでいる技術が社会の中でどのように生かされているかを肌で認識し, 勉学の意義, 社会の要請, 最新の技術, 自己の社会での責任などを学ぶ。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣機関で与えられた業務の内容を理解し, 遂行する。 2. 派遣機関の内容や与えられた業務の内容を報告書にまとめ, 発表することができる。 3. 職業を選択するために企業の情報を調べ, 理解することができる。 		
【教科書】	なし		
【参考書等】	なし		
【授業方法】	夏季休業中にインターンシップを実施している企業, 官庁, 公団等において, 実習を行う。実習期間は, 原則として2週間。		
	【項目】	【内容】	
前 期	受入機関の選定 (4月～6月)	受入機関の選定(4月～6月) ・受入機関の選択を行う。 ・選択した受入期間に申込みを行う。	
	受入機関で実習 (8月～9月夏季休業期間中)	実習の実施(8月～9月夏季休業期間中) ・受入機関で実習を行う。 ・日誌を付ける。	
	校外実習報告書の作成 (実習終了後)	校外実習報告書の作成(実習中および終了後) ・受入機関の業務内容や実施した業務の内容などに関する報告書を作成する。	
	校外実習報告会 (10月)	校外実習報告会(10月) ・受入機関の業務内容や実施した業務の内容などを発表する。	
【カリキュラムの中での位置づけ】 学校で学習する技術が社会でどのように生かされているかを実際の業務を体験することによって学ぶ科目である。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 一般基礎科目およびそれまでに開設されている全専門科目			
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】 評価方法: 派遣先機関の評価(60%), 報告書および発表の評価(40%)によって評価する。 評価基準: 達成目標の60%を達成している学生を合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 ・質問がある場合には担当者に直ぐ聞き, 学校への報告・連絡を確実に行うこと。 ・派遣先では一社会人としての自覚を持って行動すること。 ・インターンシップの経験が5学年の卒業研究, 専攻科の特別研究, 就職先の選択を行う上で貴重な力となる。			

(出典 シラバス)

(資料 5-1-②-9(4))

校外実習シラバス

【科目名】		校外実習(Practice Outside the Campus)
【学年、学科名】		4学年、建築学科
【必修・選択、単位数、期間】		選択、1単位(付加単位)、前期
【担当教員】		篠部 裕、間瀬 実郎
【授業の目的及び概要】		
学生企業等の建築実務を体験することにより、学校で学習している専門知識や技術と建築実務がどのように関係しているかを学習する。学校で学習した専門知識の意義や有効性、或いは理論と実務のギャップなどを校外実習での経験を通して明確に把握することにより、専門意識や職業意識を高めることを目的とする。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習受け入れ企業等について事前に関し、企業の業務概要を把握する。 2. 学校で学習している専門知識と実務がどのように関係しているかをできる。 3. 校外実習の内容を報告書として作成するとともに、口頭で学習成果を発表し、質疑応答ができる。 	
【教科書】	なし	
【参考書等】	なし	
【授業方法】	建築関係の企業に出向き、建築実務を体験学習する。実習期間は、夏季休業中の2週間を当てることを基本とする。	
	【項目】	【内容】
前 期	実習受け入れ企業の事前調査	実習対象である企業の業務内容に関する事前調査を行い、企業の業務内容を把握する。
	校外実習の実施 校外実習の報告	実習先の企業で、指導責任者の指示に従って建築業務を遂行する。 業務終了後、毎日実習記録を作成し、翌日の実務内容の要点や諸課題を明確に整理しておく。 報告書は、所定の書式にしたがって作成する。
【カリキュラムの中での位置づけ】		
3年次までに学習した専門知識や技術を活かし、学校での学習内容が実務にどのように関係しているかを学習する。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 3年次までの全ての専門科目		
【この科目と同時に学ぶ科目】		
【評価方法・基準】		
評価方法: 実務先の企業の指導責任者の評価(40%)、報告書(30%)、口頭発表(30%)により総合評価する。 評価基準: 本科目において設定した達成目標を6割以上達成している学生を合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】		
業務内容に関する疑問点は指導責任者に適宜質問し、業務の目的を明確に理解したうえで、目的の成果が得られるように努力すること。また、実習先の企業等の業務上の機密事項や安全な業務の遂行に関しては、細心の注意を払うこと。なお、本科目は付加単位であり、卒業認定の単位数に含まれないものである。 学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことは極めて重要なことです。学校の授業では専門知識や技術の理論については教授しますが、その多くは教科書を通しての内容であり、実在する建築を通じたものではありません。この点、校外実習は実際の建築業務を通じた学習が可能であり、普段の学校の授業では学習できない本物に触れることのできる貴重な科目であると言えます。各自が、実務とは何か、技術者の社会的責任とは何かなど明確な目的意識を持ち、建築実務に関わる様々な情報を吸収してください。 本科卒業後すぐに就職を予定している学生は、将来の就職先や職種、キャリアプランを決める上で極めて有効であり、就職希望者はこの校外実習の履修を推奨します。		

(出典 シラバス)

(資料 5-1-②-11)

留学生用時間割表

平成17年度 留学生用授業時間割表(前期)

		3E		3C		4M		4E		4C		5E		5C		
		留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	
月	1		数A 左古		土力I		体育 (孫)		信号処 板東		構力I		電気 工学		製図 バ	
	2		数B (橋本)		小進		応数II 京免		体育 (孫)		中野		黒木		山口	
	3		情処III デ		数B 赤池		メカトロ		電気 磁気		中野		精工I	環境演習	ドイツ語	
	4		田中		構力I 竹村・堀口		野原		山崎		中野		横瀬	市坪	周藤	
	5		電気 磁気		水産I		総合英 高島		実験		ドイツ語		通信		環境演 山口	
	6		野村(博)		黒川(岳)		応数I		デ 山崎 横瀬 井上 三島		周藤		板東		製図	
	7	一般演習 小助川	古典 (内田)	一般演習 小助川	古典 新美		深澤				河川		物性			橋本
	8										黒川(岳)		植田			
火	1		オーラル 川尻		数A 左古		針刺		電気回路		応数I		信号 処理		工 工 工 工 工 工 工 工	
	2	自習	政経 (重政)	環境演習 山岡	表現 小助川		吉村		黒木		森		野村(博)		森 森 森 森 森 森 森 森	
	3		電気数		環境工学		設計		ドイツ語		コンクリI		エネ発			
	4		山崎		山口 市坪		中迫		周藤		竹村		(西野)			
	5		実験 デ		総合英 中山		応数III 京免		応数III		総合英 川尻		電気演習	自習	一般選択	一般選択
	6		野村(利) 藤井(敏)		応物I		製図 セ		森		実験		黒木	一般選択	環境演習 市坪	一般選択
	7		井上 三島		野村(高)						小堀 森			体育 佐賀野		総合英 MM江口
	8						中迫									
水	1		数B (橋本)		コンクリI 竹村		情処 バ		電子 回路		機工I		総合英 川尻		工 工 工 工 工 工 工 工	
	2	一般演習 左古	政経 (重政)	一般演習 左古	倫理 岩根		野原 上寺		野村(博)		橋本					
	3	日本語 (海生)	倫理	日本語 (海生)	政経 (重政)	日本語 (海生)	一般選択		日本語 (海生)		日本語 (海生)		一般選択			卒業 研究
	4		岩根		(重政)								卒業 研究			卒業 研究
	5		数A 左古		情処I バ橋本	機械演習 山岡・藤井	ドイツ語		電子 工学		体育 (渡辺)		全教員			全教員
	6		LHR		LHR	自習	周藤		横瀬		環境演 山口					
	7								IC設計 デ							
	8								(山内)							
木	1		応物		体育		流体		シーケンス		施工I		パワエレ	環境演習 市坪	哲学 岩根	
	2		野村(高)		(渡辺)		京免		藤井(敏)		重松		黒木 三島		体育 佐賀野	
	3		体育		総合英 中山		加工				機工I		卒業 研究		製図 バ	
	4		(岩田)		数A 左古		河野		総合英 MM高島		機工I		全教員		山口	
	5		電気回路		数B 赤池		材料 吉村		制御 工学		製図		実験 植田		長城	
	6		藤井(敏)		実験		材力I		山崎				野村(利) 野村(博)		市坪	
	7		総合英 江口		小堀 重松		鹿野		アルゴリズム デ		竹村		野村(利) 野村(博)		実験 山口 山岡	
	8								田中 井上				板東			
金	1		電子 材料		オーラル MM中山		応物		デジタル 通信		電気演習 野村(利)		ドイツ語		工 工 工 工 工 工 工 工	
	2		植田		数A 左古		森		田中		横瀬		周藤		橋本	
	3		数A 左古		構力I		総合英 MM高島		自習		法学 (上原)		総合英 川尻		河川	
	4		総合英 江口		竹村	機械演習 山岡・藤井	法学 (上原)		応数I		都市計 小堀・山岡		システム 工学		黒川(岳)	
	5	電気演習 横瀬	表現 小助川	自習	倫理 岩根		材料 吉村		操縦		自習		(高尾)		卒業 研究	
	6		演習 デ		製図		熱工		エネ産		水産I				全教員	
	7		藤井(敏)		小堀 山岡		河川		野村(利)		黒川(岳)		自習			
	8	日本語 (未定)		日本語 (未定)		日本語 (未定)		日本語 (未定)		日本語 (未定)		日本語 (未定)		日本語 (未定)		日本語 (未定)

※ セ:情報処理センター パ:パソコン演習室 デ:E科情報処理演習室 MM:マルチメディア教室

(出典 学生課)

(資料5-1-②-12)

○呉工業高等専門学校外国人留学生チューターに関する実施要項

平成16年4月1日

(趣旨)

1 [呉工業高等専門学校外国人留学生規則第6条](#)に規定するチューターについての実施細則は、この要項の定めるところによる。

(指導期間・時間)

2 留学生に対するチューターの指導、助言を行う期間は、休業期間中を除き、おおむね1日1時間、週6時間とする。

(指導報告)

3 チューターは、毎月、指導報告書([第1号様式](#))を作成し、指導教員を経由して、翌月の5日までに学生課教務係へ提出する。

(指導時間数報告書)

4 学生課教務係は、チューターから提出された指導報告書に基づき、チューター指導時間数報告書([第2号様式](#))を作成し、会計課に提出する。

(謝金)

5 チューターに対する謝金は、予算の範囲内で第4に定める報告書に基づき支給する。

(その他)

6 この要項に定めるもののほか、チューターに関し必要な事項は、その都度外国人留学生委員会で協議して定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

科学技術の進歩に伴い、より高度な専門分野や学際領域分野の内容を扱う必要性が高まったことから近隣大学との単位互換を行っている。また、国際化への対応として姉妹校との交流、実用英語検定、工業英検の単位認定、TOEICの受験奨励などを行っている。

また、実業界への対応としてインターンシップを活用している。さらに留学生のニーズに対応するため、日本語や日本語文化に対応した特別のカリキュラムを用意すると共にチューター制度による支援も行っている。

以上のことから、本校の準学士課程は、学生のニーズ、学術の発展方向、社会からの要請等に対して教育課程の編成を十分に配慮していると考ええる。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。
 (例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点に係る状況)

まず「高度な専門知識」を持つ人材の育成という観点から各学科の教育内容を検討する。専門科目の履修を目的とした科目群では、専門的な知識から高いレベルの実践力までの修得を可能とするため、授業形態として講義、演習、実験・実習が採用されている。原則として低学年では基礎的な知識を中心に教授する講義科目（主として自然系一般科目）とし、高学年ではより専門的な高いレベルを教授する講義科目の比率が高まるという構成になっている。職業上の能力の育成に関する科目群として演習、実験、実習科目が、各学年に配置されている。これらの講義、演習、実験科目で得た知識・技能を総合的に発揮し活用・育成する場として卒業研究（演習・実験・実習科目の内9単位）が課されている(資料5-2-①-1：科目群別の履修単位数)。

(資料5-2-①-1)

科目群別の履修単位数 (各学科 H17 年度シラバスより作成)

機械工学科 (H17-14 年度入学生対象)

科目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
専門講義	1	3	9	19	18
専門演習・実験・実習	5	6	8	8	11
一般科目(自然系)	11	11	5	0	0
一般科目(人文系)	16	13	11	8	7

電気情報工学科 エネルギー制御コース (H17-14 年度 入学生対象)

科目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
専門講義	2	4	11	18~21	16
専門演習・実験・実習	4	5	6	6~9	13
一般科目(自然系)	11	11	5	0	0
一般科目(人文系)	16	13	11	8	7

電気情報工学科 情報通信コース (H17-14年度 入学生対象)

科目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
専門講義	2	4	11	20~23	15
専門演習・実験・実習	4	5	6	4~7	14
一般科目(自然系)	11	11	5	0	0
一般科目(人文系)	16	13	11	8	7

環境都市工学科 建設システムコース (H17, 16年度入学生対象)

科目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
専門講義	2	4	12	21	13
専門演習・実験・実習	4	5	5	6	16
一般科目(自然系)	11	11	5	0	0
一般科目(人文系)	16	13	11	8	7

環境都市工学科 環境システムコース (H17, 16年度入学生対象)

科目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
専門講義	2	4	13	21	13
専門演習・実験・実習	4	5	4	6	16
一般科目(自然系)	11	11	5	0	0
一般科目(人文系)	16	13	11	8	7

建築学科 (H17, 16年度入学生対象)

科目 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
専門講義	2	4	9	18	16~12
専門演習・実験・実習	4	5	8	9	12~16
一般科目(自然系)	11	11	5	0	0
一般科目(人文系)	16	13	11	8	7

全学科をとおして、講義・実技を主体とする専門基礎科目，専門科目に加え，創造性，与えられた課題を主体的・積極的に解決する実践的能力及び計画的に仕事を進めて期限内に仕事を終える能力を養成する科目として創造演習，創造製作及び卒業研究などが配されている（資料5-2-①-2）。

機械工学科3年の工作実習は，UF0 キャッチャー，モグラたたき，卓上ボール盤，空き缶プレスの中から製作したいものを選び，昨年度の製作例を参考に改善すべき点を自分で見つけ，自分自身のア

アイデアで改良設計を行い、実際に製作するものである。従来の設計を批判的に見て、問題点、すなわち、改良課題を見つけ出す能力及び計画的に仕事を進めて期限内に仕事を終える能力を養うことができる。改良内容についてのプレゼンテーションを行い、アイデアや説明の良い点、悪い点を互いに批評している（資料 5-2-①-3 工作実習の様子 出典：HP 呉高専日誌(2005. 5. 19)）。創造制作，創造演習においてはそれらの能力のさらなる向上が図られ、それらの集大成が卒業研究で成されている。

電気情報工学科のシーケンス制御では、工業用のシーケンサを用いて、グループと個人がそれぞれ違ったゲームを1週間で開発し、実演及びプレゼンテーションを行う実技を含んだ講義である。始めに、グループ単位で1つずつのゲームを開発する。ゲーム開発の過程ではゲームのアイデアを批評したり、実現可能か検討したり、ゲームの構想から実機での開発、問題点の解決法を見だし、レポート作成からプレゼンテーションまでの一連の作業を1週間という短時間で計画的に行う。その後個人が考えた班のゲームとは異なるゲームに関し同様の作業をする。これにより、グループおよび個人で2度実践することで、創造性、実践的能力、計画性などの能力が大きく向上でき、実社会に出てもすぐに応用ができる実務能力が養える（資料 5-2-①-4 シーケンス制御の様子 出典 呉高専日誌(2005. 8. 4)）。

環境都市工学科3年の創造演習では、学生が自ら研究テーマを設定し、文献資料やインターネットによる調査、および各種実験またはアンケートを行うことによって得られた成果を報告書にまとめ、研究内容・成果を発表している。これにより、自らの問題提起に対する問題解決能力、そしてプレゼンテーション能力を身につける。また5学年の実験実習では、バルサ材を使ったトラスのブリッジコンテストを行っている。3, 4 学年で習得した構造力学及び情報処理の講義で得た知識を生かし、もっとも強いトラス橋を制作することを目指して、強度計算、製作、そして載荷実験を行う。自由な発想で製作した構造物を、実際に壊すことにより、通常の授業では得られない何かが得られる（資料 5-2-①-5 ブリッジコンテスト）。

建築学科の建築設計製図 I では、低学年で図学や製図法を学習した後、戸建て住宅、集合住宅など徐々に大規模な建築や公共性のある建築を設計対象に設定し、基本設計レベルの図面が作成できる能力を習得できる学習内容としている。また、複数学年で指導教員を複数として、少人数教育を実施している。

(資料 5-2-①-2)

実践的能力，計画的に仕事を進める能力養成をする科目

学科	科目名	学年	内容
機械工学科	工作実習	1, 2, 3	各種工作機械の原理・基本的操作方法の学習（1, 2年） 機械加工， 鋳造， エンジンの分解・組立実習， 及び， 与えられた課題を製作し， 出来を競う競技会・報告会の実施（3年）
	創造演習 I	2	競技課題を克服するロボットの製作， 及び， 製作したロボットによる競技会， 報告会の実施
	創造製作	4	学んだ知識を総合的に用いた， 課題の設計・製作
	創造演習 II	4	自然科学に関するプログラムの作成
	校外実習	4	企業等の現場を経験

	卒業研究	5	与えられたテーマに取り組む中で、4年生までに学んだ知識や体験を総合的に理解・活用出来る能力を身につけること
電気情報工学科	創造演習	3	自分でテーマを設定し、それについて調査し、問題点を見つけ、その解決を図り、成果を報告する。
	シーケンス制御	4	工業用シーケンサーで、各自考案したゲームを作り実演する。ゲームの面白さ、工夫点などを採点し競い合う実践的授業
	校外実習	4	企業等の現場を経験
	卒業研究	5	与えられたテーマに取り組む中で、4年生までに学んだ知識や体験を総合的に理解・活用出来る能力を身につけること
環境都市工学科	創造演習	3	自ら課題設定を行い、それについて調査・研究を実施しプレゼンテーションを行う。
	実験実習	5	ブリッジコンテスト等
	校外実習	4	企業等の現場を経験
	卒業研究	5	与えられたテーマに取り組む中で、4年生までに学んだ知識や体験を総合的に理解・活用出来る能力を身につけること
建築学科	創造演習	3	ブリッジコンテスト (紙で作った橋の強度を競い合う) 旅行リーフレットの製作
	建築設計製図 I	1, 2, 3, 4	2世代住宅の設計など自由な発想を生かせる課題を通しての図面の描き方を学習
	造形	1, 2	身の回りの空間を把握し、作品として表現する技術を養う。作品の製作意図を的確に発表する。
	校外実習	4	企業等の現場を経験
	卒業研究	5	与えられたテーマに取り組む中で、4年生までに学んだ知識や体験を総合的に理解・活用出来る能力を身につけること

(資料 5-2-①-3)

工作実習の様子 出典 呉高専日誌(2005. 5. 19)

2005年5月19日(木)

担当 上寺 哲也

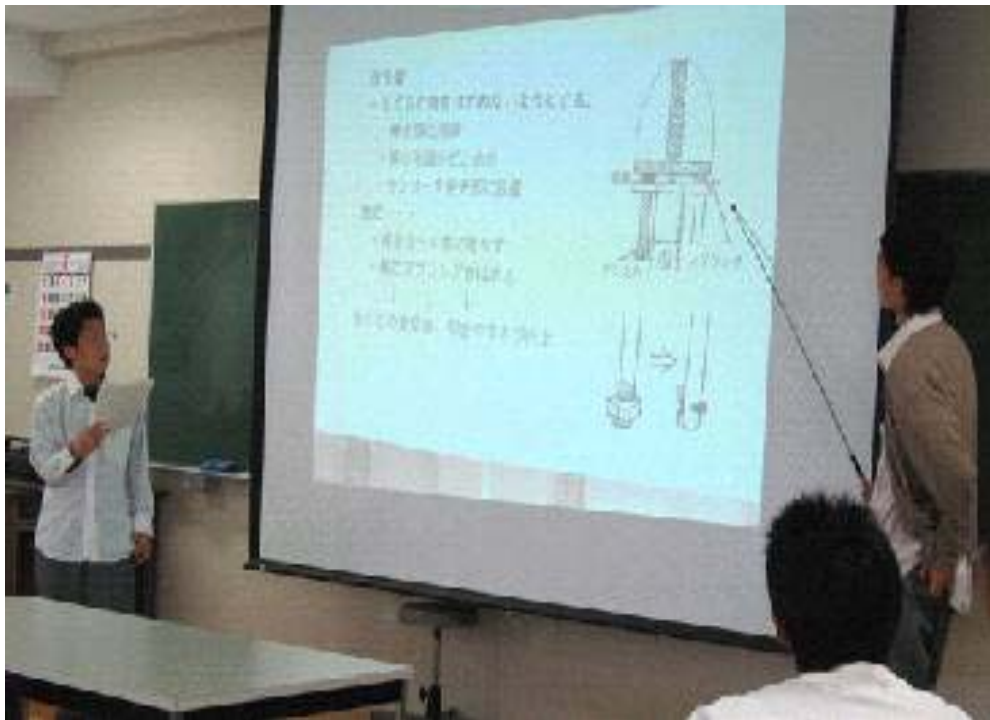
機械工学科3年生では、

前期:UFO キャッチャー, モグラたたき, 卓上ボール盤, 空き缶プレスの中から製作したいものを選び, 昨年度の製作例を参考に自分自身で改良設計を行う.

後期:工作実習(総合実習)で実際に製作する.

という, 総合的な授業があります.

17日は製図を描く前に, 「どの部分が悪いのか」「どのように改良するのか」を各チーム(20チーム)ごとにプレゼンテーションを行いました.



上の写真はモグラたたきのヘッド部分の改良案を説明しています。昨年の悪い点を自分たちはどのような方法で改良する予定なのかを, なるべくわかりやすく説明しています。

(資料 5-2-①-4)

シーケンス制御の様子 出典 呉高専日誌(2005. 8. 4)

2005年8月4日(木)

担当 藤井 敏則

今日は4年生のシーケンス制御の授業での最後の発表の日でした。

シーケンス制御は自動車用「信号」やエレベーターなどで、知らず知らずのうちにお世話になっているものです。

工業用のシーセンサーでゲームを作成するという課題をエネルギー制御コースの全員と情報通信コースの授業を選択した学生が行います。

ゲームの概要をOHPで発表した後、実際にゲームが同様に動作するかを実演します。そして、シーセンサーに組んだプログラムの重要なところを説明します。ゲームが面白いのか、工夫をしているかが採点の重要なポイントになるのですが、1週間(約10時間)でプログラムを作成するのは大変です。

このシーケンス制御の授業を受けた学生は、すぐにでも日本のほとんどの工場にもあるシーセンサーを使うことが出来るという、社会に出たらすぐ役に立つ最も実践的な授業の一つです。

4年生はインターンシップで企業実習を行うのですが、昨年は4人の学生がシーセンサーをインターンシップで扱い、実習でもすぐさま役に立ちました。

これまでの優秀作品は高専祭や学校見学会で展示されています。ぜひ、シーケンス制御のゲームをしていってください。





発表の様子，今日は5人が発表しました。



実演中，テスターはいつも仏円君が担当です。



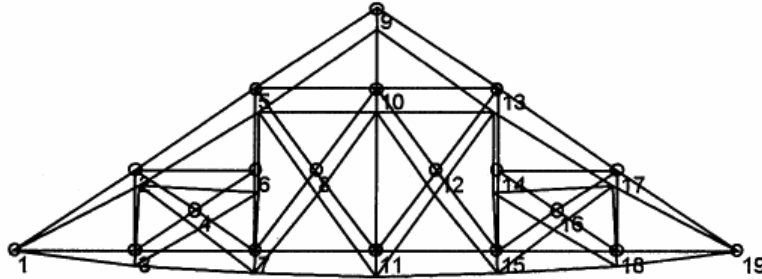
2種類のシーケンス実験装置があります。

(出典 呉高专日誌)

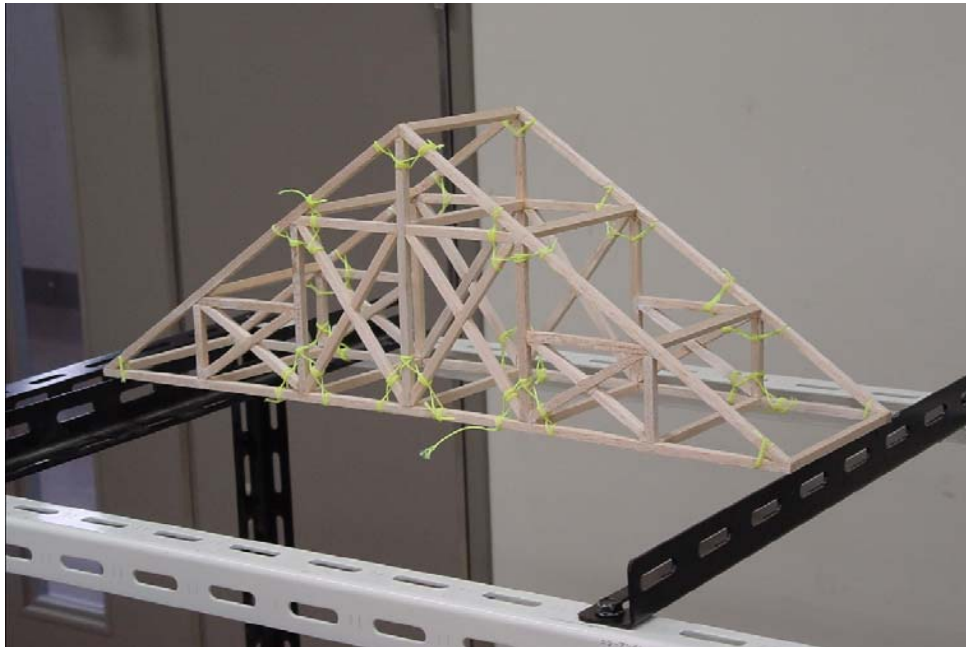
(資料 5-2-①-5)

ブリッジコンテスト

強度計算例



作品例



(出典 建築学科)

また、情報機器の活用能力の育成を目的とした科目が各学科とも1年から配置され、コンピュータを実際に使う能力を身につけられるようになっている(資料 5-2-①-6 情報処理能力養成をする科目)。

さらに、「高度な専門知識」を養うための基礎科目となる数学に関しては、平成17年度より1,2年生に対して定期試験の結果より、学生の学力レベルに応じて専攻科生のティーチングアシスタントによる補充授業を行っている(資料 5-2-①-7)。これにより、学生間の数学力の格差が是正され、以後の基礎科目及び専門科目の学習効率の向上が期待できる。

(資料 5-2-①-6)

情報処理能力養成をする科目

学科	科目名	学年
機械工学科	情報処理	1, 2, 3, 4
電気情報工学科	情報処理 I, II, III	1, 2, 3
環境都市工学科	情報処理	1, 2, 3, 4, 5
建築学科	情報処理	1, 2, 3, 4, 5

(資料 5-2-①-7)

数学補習実施報告 (平成 17 年 11 月分)

平成 17 年 11 月 29 日

- I. 実施日： 平成 17 年 11 月 2 日、9 日、16 日の計 3 回
 II. 時 間： 15 時 15 分から約 90 分間
 III. 対象者： H17 前期末試験にて、数学 A または数学 B の評価が 50 未満の 1・2 年生全員

1M	1E	1C	1A	合計	1・2 年合計
4 名	2 名	3 名	5 名	14 名	
2M	2E	2C	2A	合計	40 名
8 名	6 名	9 名	3 名	26 名	

IV. 受講状況：

実施日	受講者数	1A の数	備考
11 月 2 日	39	15	1 名不参加
11 月 9 日	36	16	4 名不参加
11 月 16 日	36	15	4 名不参加

(出典 教員会資料)

「プレゼンテーション能力」を持つ人材の育成という観点からは、先に述べた創造演習、創造制作、校外実習の科目で報告書の作成、成果発表を織り込むこと、卒業研究における論文作成および卒業研究発表会でのパワーポイントによる発表をすることにより持続的に能力の養成を図っている。

また、専門科目だけではなく、一般科の科目においてもプレゼンテーション能力の育成を授業に取り込んでいる。例えば、日本文学Ⅱ（5年選択科目、全学科共通）では、学生の自主的な学習を誘導することにより学生の興味を引き出し、学習意欲を高めるとともにプレゼンテーション能力を育成する工夫がなされている（資料5-2-①-8：日本文学Ⅱ テキスト及び発表例）。

(資料 5-2-①-8)

日本文学Ⅱ テキスト及び発表例

日本文学Ⅱ・和歌発表テキスト

①

なぎさの院にてさくらを見てよめる

- 1 世中にたえてさくらのなかりせば春の心はのどけからまし
人にあひてあしたによみてつかはしける
- 2 ねぬる夜の夢をはかなみまどろめばいやはかなにもなりまざるかな
五条のきさいの宮のにしのたいにすみける人にほいにはあらでものいひわたりけるを、む月のとをかあまりになむほかへかくれにける、あり所はききけれどえ物もいはで、又のとしのはる、むめの花さかりに月のおもしろかりける夜、こぞをこひてかのにしのたいにいきて月のかたぶくまであばらなるいたじきにふせりてよめる
- 3 月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして
やまひしてよわくなりける時よめる
- 4 つひにゆくみちとはかねてききしかどきのふけふとはおもはざりしを
惟喬のみこのもとにまかりかよひけるを、かしらおろしてをのといふ所に侍りけるに正月にとぶらはむとてまかりたりけるに、ひえの山のふもとなりければ雪いとふかかりけり、しひてかのむろにまかりいたりてをがみけるにつれづれとしていと物がなしくてかへりまうできてよみておくりける
- 5 わすれては夢かと思ふおもひきや雪ふみわけて君を見むとは

—————中略

調べ方

- ・分からない語句
 - 日本国語大辞典（図書館・新美）
 - 角川古語大辞典（図書館閉架・新美（予定））
 - 川柳大辞典（新美）
- ・人名
 - 川柳大辞典
 - 国書人名辞典（新美）
 - 日本古典文学大辞典（新美）
 - 和歌大辞典（新美）

- ・百人一首の注釈
新美研究室にあり。

百人一首の注釈のコピーを張り付ける。

HP上の犬百人一首

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/0042/image/01/0042s001.html>

①発表の用意をする。

②授業で指摘されたこと、わかったことなどを含め、発表資料を作り直して、ワードファイルかtext ファイルを新美 (niimi@kure-nct.ac.jp) までメール (もしくはフロッピー) で送る。

※呉高専研究報告に投稿する予定ですので、責任を持ってきっちりやってください。

発表について

- ・発表資料は、基本的にB4一枚(裏表)に収めること。
- ・発表資料をクラスの人数分用意しておくこと。
(前日までに教員室(普通科棟3階)に来れば印刷します)
- ・発表時間二十五分。質疑応答二十分を目安とする。

聞く側

- ・配られた評価表に点数を書き付ける。
- ・質疑で質問が出なかった場合、当てるので当てられた学生は必ず何か質問をすること。

調査をするために

I 【作者】

『和歌大辞典』『日本古典文学大辞典』『国史大辞典』『国書人名辞典』などの記述を突き合わせて、必要と思われる事柄を、自分で簡潔にまとめる。

II 【出典】

『新編国歌大観』CD-ROM を使う。(新美教員室にあり)

※ 出典はほとんど勅撰集

—————以下略

(出典 一般科目)

「語学能力」を持つ人材の育成という観点からは、コミュニケーション手段としての英語力を身に付けることが重要と考えている。これに対応するため次のような工夫がなされている。

パソコン、視聴覚機器を備えたマルチメディア教室を利用し、個々の学生のレベルに合わせリーディング、リスニングの学習が進められるような工夫がなされている。

また、学生は利用登録することにより、e-learning 教材を利用した総合英語学習を進めることができる(7-1-④参照)。e-learning 教材は授業で利用するとともに、登録した学生は自由に利用し英語力を養うことができる。

(分析結果とその根拠理由)

学校教育法上の目的である「深く専門の学芸を教授し」、「職業に必要な能力を育成する」について及び本校の教育目標である「高度な研究能力」、「プレゼンテーション能力」、「語学能力」とい

う目標を達成するために、講義、演習、実習、実験を適切に組み合わせて、授業の目的とする能力を身につけさせる工夫を行っている。また、学習指導法の工夫も行っている。

以上のことから、本校の準学士課程では教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習などの授業形態のバランスが適切であり、教育内容に応じた学習指導の工夫がなされている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。
 (観点に係る状況)

本校では養成する人材像や卒業時に身につけるべき資質・学力を学科ごとに定めておりシラバスの作成に当たってもこのことを十分に留意している。各学科は学習科目の関連及び養成する人材像や卒業時に身につけるべき資質・学力の関係が一見して分かるように図表にまとめられている(資料5-2-②-1 出典 各学科シラバス)。また各科目ごとの様式は(資料5-2-②-2 出典 機械工学科シラバス)のようになっている。「授業の目的及び概要」で授業の全体像を明らかにするとともに「達成目標」で当該科目における具体的な到達目標を明らかにしている。

学習項目と内容では、何について、どれくらいの期間学ぶのかを明らかにするとともに、学習内容の詳細を記載し、学生が一見して当該科目の学習内容を理解できるようにしている。

さらに「カリキュラムの中での位置づけ」、「この科目を学ぶために必要な科目」、「この科目と同時に学ぶ科目」を記載することにより他の科目との関連を明らかにしている。

「評価方法・基準」の項目では成績評価の方法、基準を明らかにしている。

シラバスの内容に関しては、科目間連絡会議等で各科目での学習内容の連携を保つような仕組みになっている(資料5-2-②-3 科目間教員ネットワーク連絡会議 教員会資料2)。

シラバスは年度初めに学生に配布される。授業がシラバスどおりに実施されているか否かは教員・学生に関するアンケートで確認するようになっている。また、定期試験がシラバスどおりに行われているかどうかの教員による相互チェックも行われている(資料5-2-②-4,5)。その結果をみると教員自身、学生共にほぼシラバスどおりの授業ができていることが分かる。

(資料 5-2-②-1(1))

機械工学科の学習・教育目標

機械工学科および専攻科機械工学コースでは以下のような学習・教育目標を掲げ、JABEE（日本技術者教育認定機構）の基準に対応した教育をめざしています。

(A) 豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力

- (1) 人文科学、社会科学、外国語の学習を通して、文学、歴史、文化、人生観、法律、経済、国際関係などに関する幅広い知識を身につけるとともに、国際的視野を持った豊かな人間性を身につける。
- (2) 「技術者倫理」等の学習を通して、技術が社会と自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての社会に対する責任感を自覚しながら、人類の福祉と地域社会・国際社会の進展に貢献できる能力を身につける。
- (3) 「日本語コミュニケーション」等の学習を通して、日本語による論理的な記述・口頭発表・討議ができる能力を身につける。また、「英語コミュニケーション」、「上級工業技術英語」等の学習および TOEIC の受験、姉妹校交流などを通して、英語でコミュニケーションできる基礎能力を身につける。

(B) コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、事象の解析や機械の設計・製作に応用できる能力

線形代数、微積分学、確率・統計等の数学、物理学、化学等の自然科学およびプログラミング、シミュレーション等の情報技術に関する基礎知識を身につけるとともに、それらの知識を機械分野の構造・熱・流体・振動等の解析や機械の研究・開発、設計・製作、生産技術、制御等に応用していくことができる能力を身につける。

(C) 技術者としての専門知識を習得し、自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力

機械工学の主要分野である「材料と構造」、「運動と振動」、「エネルギーと流れ」、「情報と計測・制御」、「設計と生産・管理」、「機械とシステム」に関する専門知識を身につけるとともに、自然環境の修復や環境負荷の低減などを考えながら、技術的課題に幅広く対応できる能力を身につける。

(D) 実験・実習、製図等の体験的学習を習得し、豊かな創造力を持って、主体的・積極的に問題を解決する能力

- (1) 「工学実験」、「特別実験」の学習を通して、専門知識の理解を深めるとともに、与えられた現実の諸問題を主体的・積極的に解決する実践的能力および計画的に仕事を進めて期限内に仕事を終える能力を身につける。
- (2) 「創造演習」、「創造製作」、「校外実習」、「インターンシップ」、「機械設計製図」の学習を通して、未知なる問題に対して、数学、自然科学、情報技術、専門知識などを統合してチャレンジし、解決していくデザイン能力および創造力を身につける。

(E) 自主的に実験等を遂行し、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力

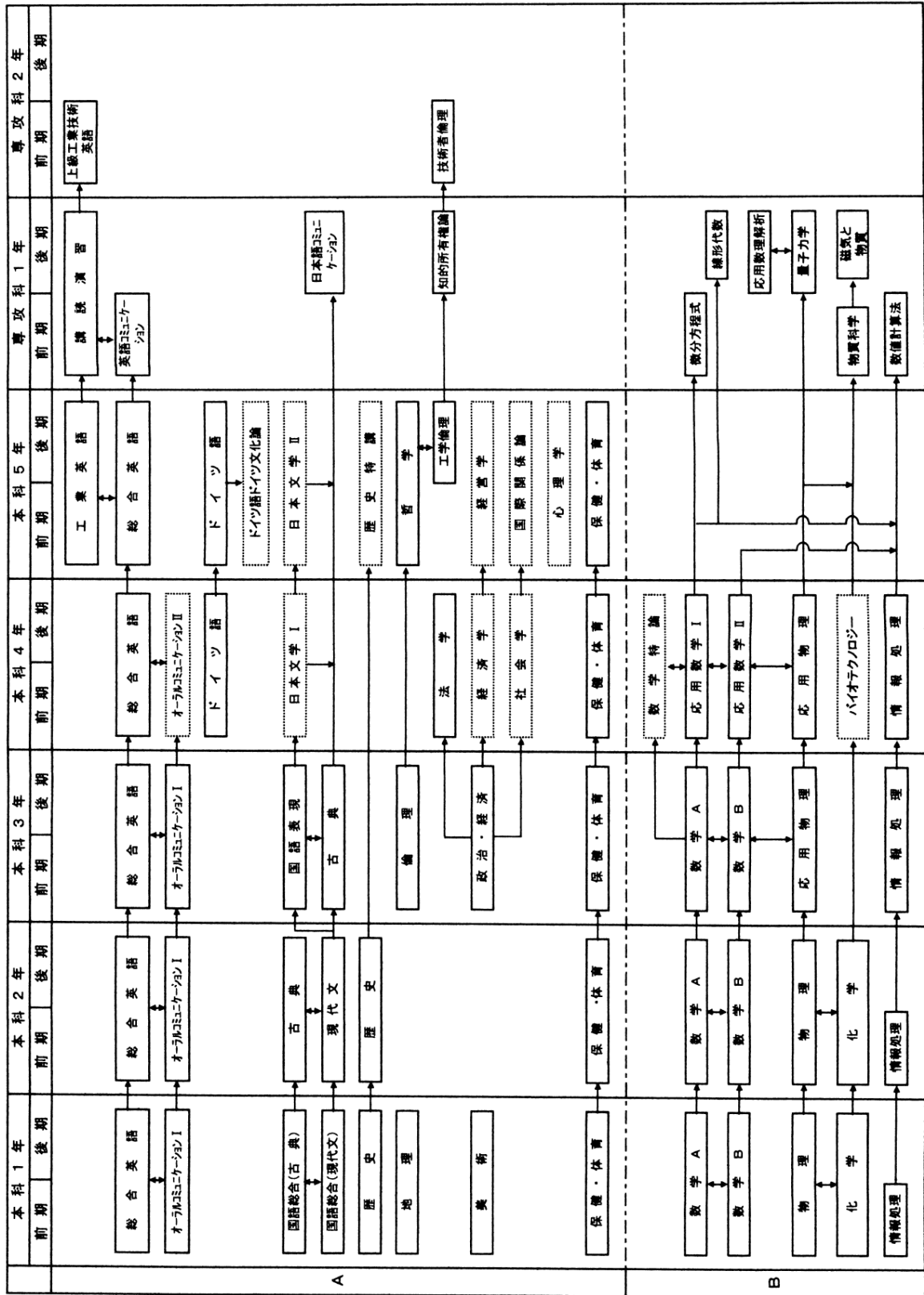
- (1) 「卒業研究」に取り組むことにより、特定分野の専門知識を深めるとともに、変化の速い情報社会に対応できるように、自主的に継続して仕事ができる能力を身につける。
- (2) 「特別研究」に取り組むことにより、実験等を計画的に遂行し、実験データや計算データを工学的に解析・考察して報告書に論理的にまとめることができる能力を身につける。また、「特別研究」の成果を学協会等で口頭発表することにより、専門分野に関するプレゼンテーションができる能力を身につける。

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(2))

(機械工学科)

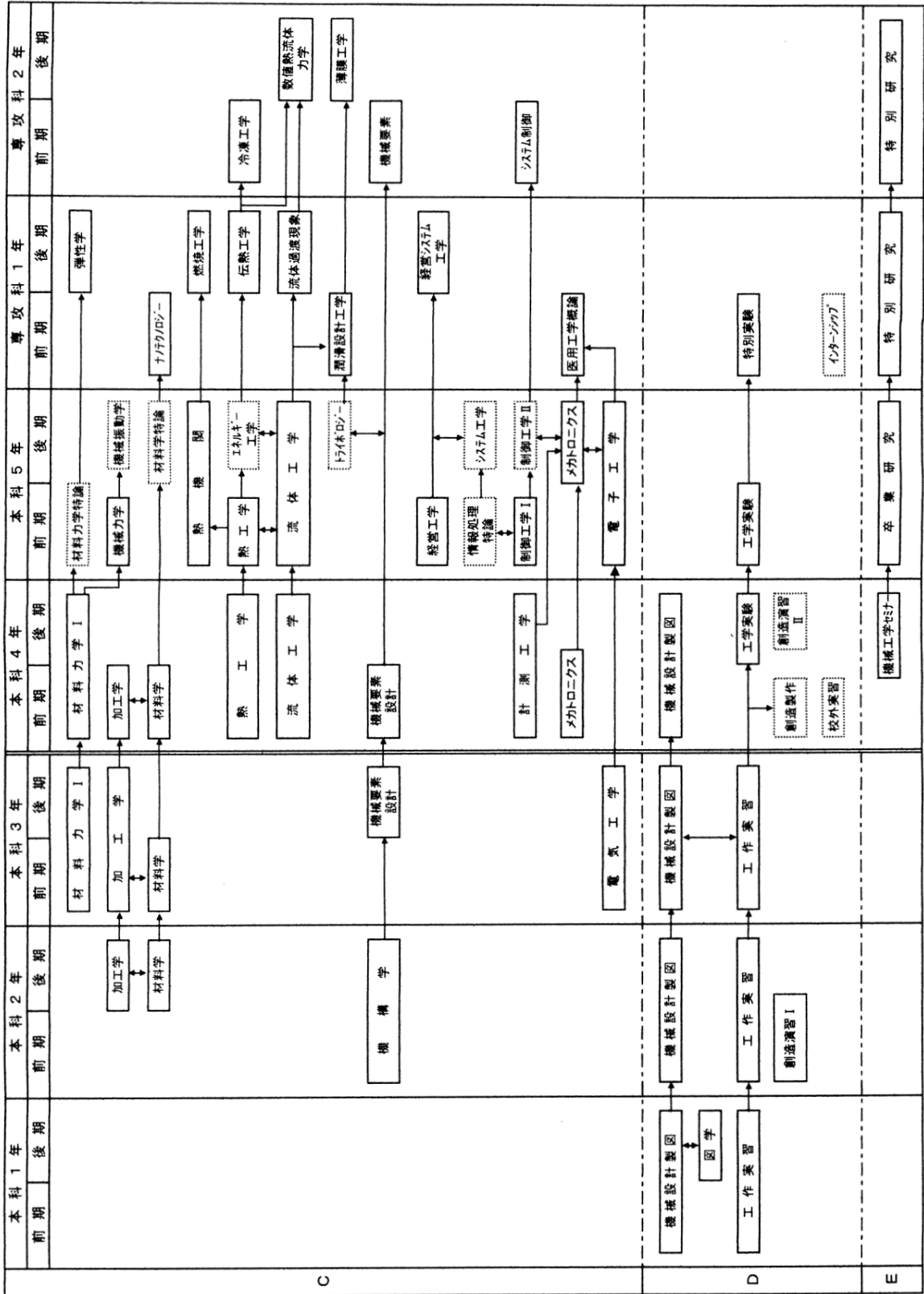
機械工学科・専攻科機械工学コースの授業科目系統図



(出典 シラバス)

(資料5-2-②-1(3))

(機械工学科)



注) 1) 〇〇〇は選択科目
 2) BおよびCは、Dと密接に関連している。
 3) 平成17年度4学年以下は、材料力学特論→材料力学Ⅱ、材料科学特論→先端材料科学、情報処理特論→人工知能となる。

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(4))

電気情報工学科の教育目標

電気情報工学科、及び専攻科機械電気専攻電気系においては「多岐にわたり発展する電気・電子・情報・通信・制御工学分野における基礎学力と創造力を備えた開発型技術者を育成する」ことを教育目標とし、その具体的目標は以下の通りである

A 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること。

電気情報工学の分野で活躍するためには、数学や物理などの基礎科目の他に、電気磁気学、電気回路、電子工学、電気計測などの基礎科目の修得が必要不可欠である。このような基礎学力を身につけることを目標とする。

B 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して、より高度なエネルギー制御分野の知識を身につけること。

エネルギー制御分野は電力の発生、輸送、エネルギーの変換、及びそれらの制御に関する技術を扱う学問領域である。この分野の基礎、及び応用科目であるエネルギー発生工学、電力系統工学、エネルギー変換工学、制御工学等の実践的なカリキュラムの習得を通して、高度なエネルギー制御工学の知識を身につけることを目標とする。

C 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して、より高度な情報通信分野の知識を身につけること。

情報通信分野は情報源の電気信号への変換、処理、伝送、及びそれらの回路化、システム化に関する技術を扱う学問領域である。この分野の基礎、及び応用科目である情報工学、電子工学、通信工学、電子回路等の実践的なカリキュラムの習得を通して、高度な情報通信工学の知識を身につけることを目標とする。

D 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を具備し、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること。

グローバル化した変化の早い情報化社会では、生涯にわたって自らが新たな知識や情報を取得し、自主的に継続して学習することが重要である。また技術者として生涯にわたり、自然や社会との関わりにおいて、責任ある判断と行動を保ち続けることも重要である。このような技術者としての倫理観と国際化社会に対応するための能力を、技術者倫理、総合英語、日本語コミュニケーションなどの習得を通して身につけることを目標とする。

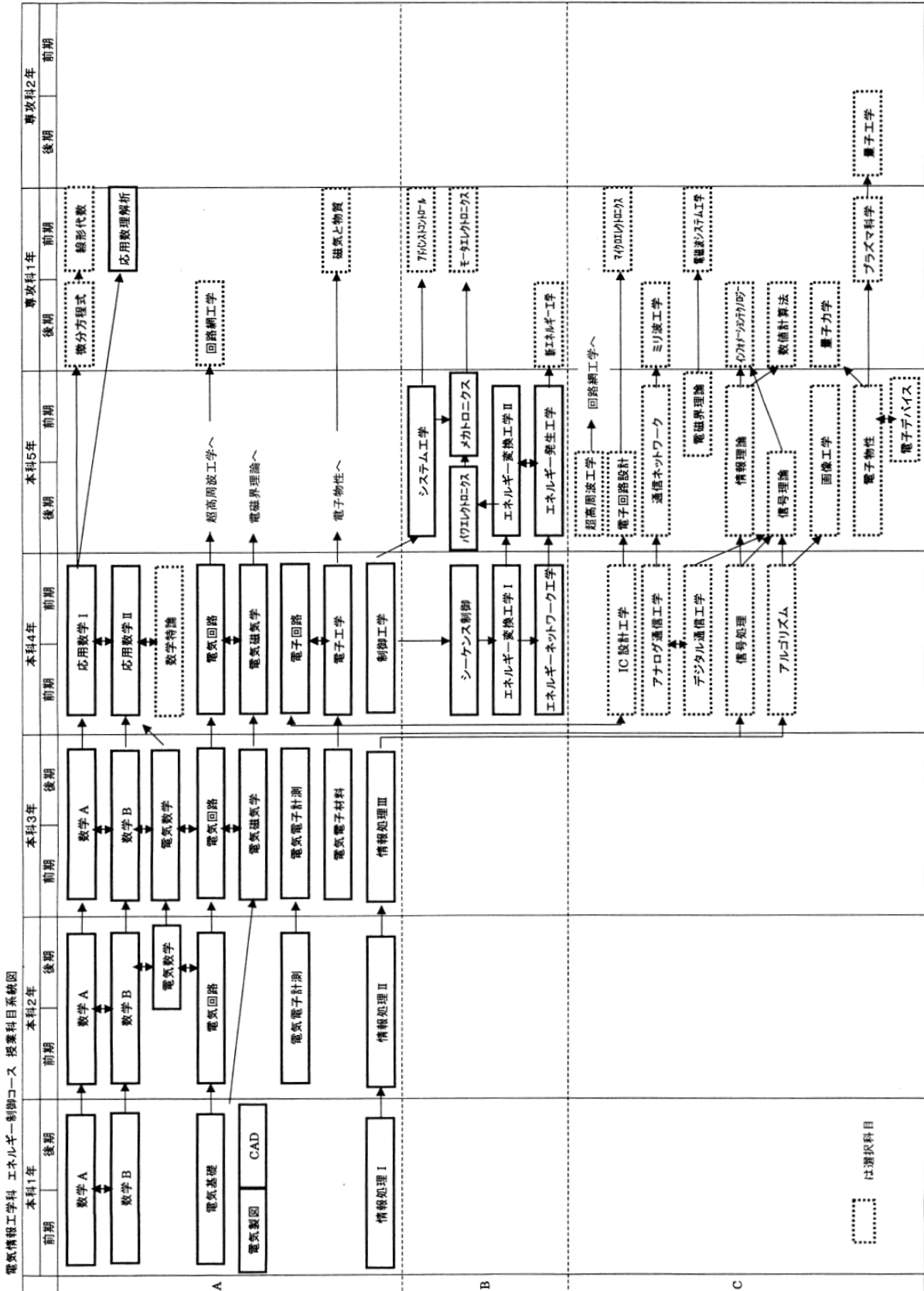
E 創造力をもとに、合理的な計画をたてる能力、それを遂行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること。

未知の問題を解決するため、これを自らの考えで、筋道をたてて計画的に取り組み、実現可能な解を見つけ出してゆく能力を、校外実習、卒業研究などの科目の習得を通して身につけることを目標とする。

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(5))

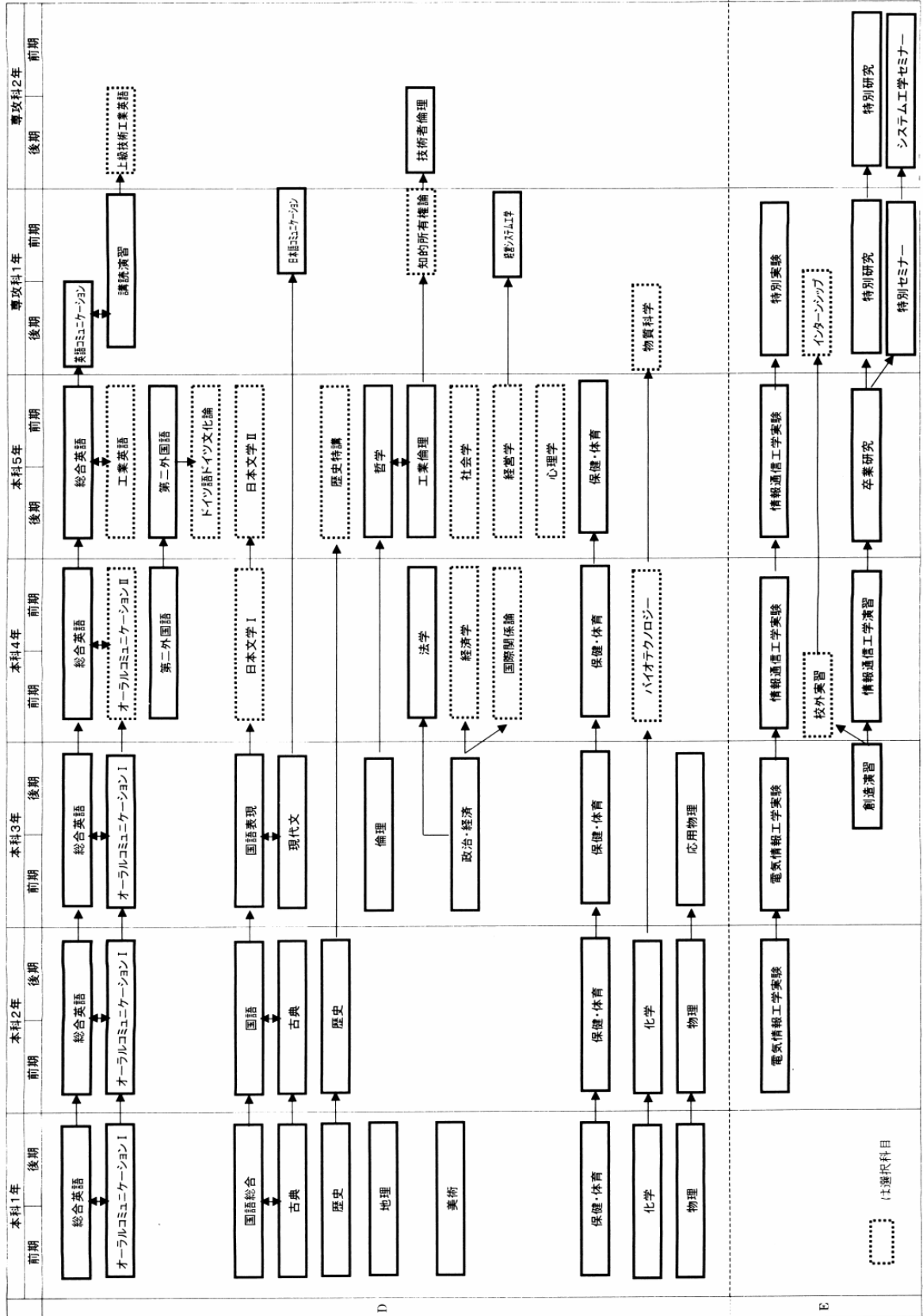
(電気情報工学科)



(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(6))

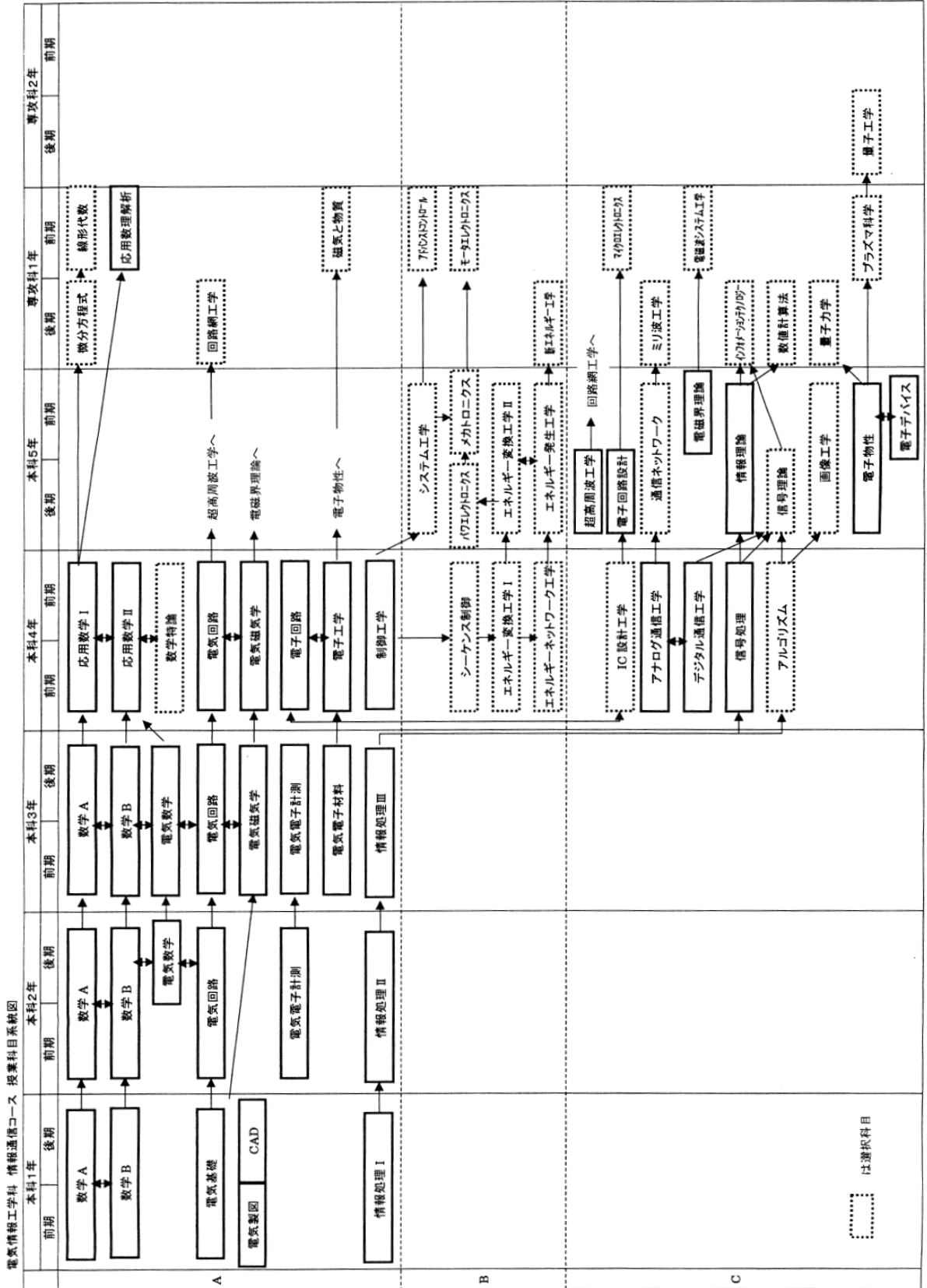
(電気情報工学科)



(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(7))

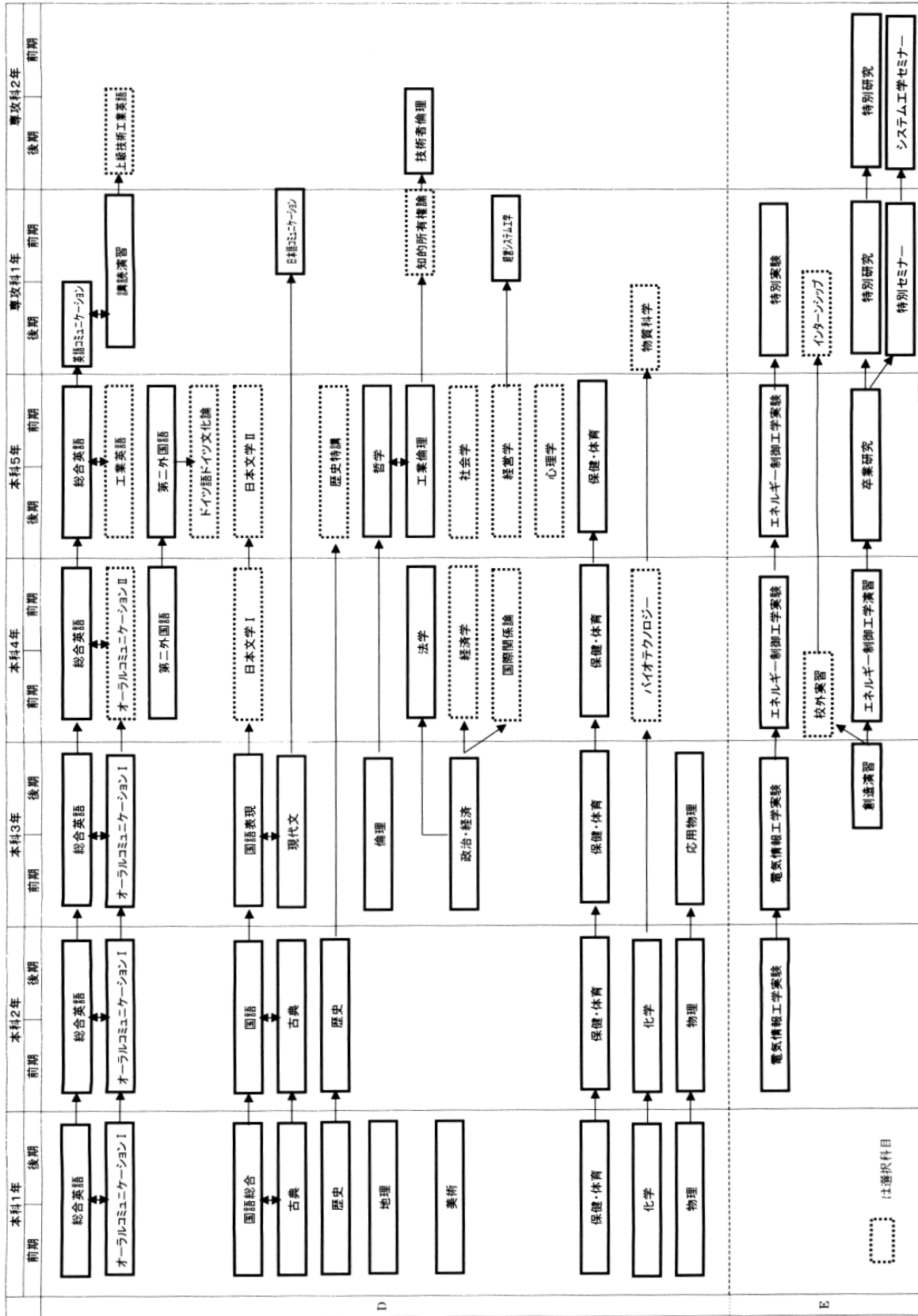
(電気情報工学科)



(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(8))

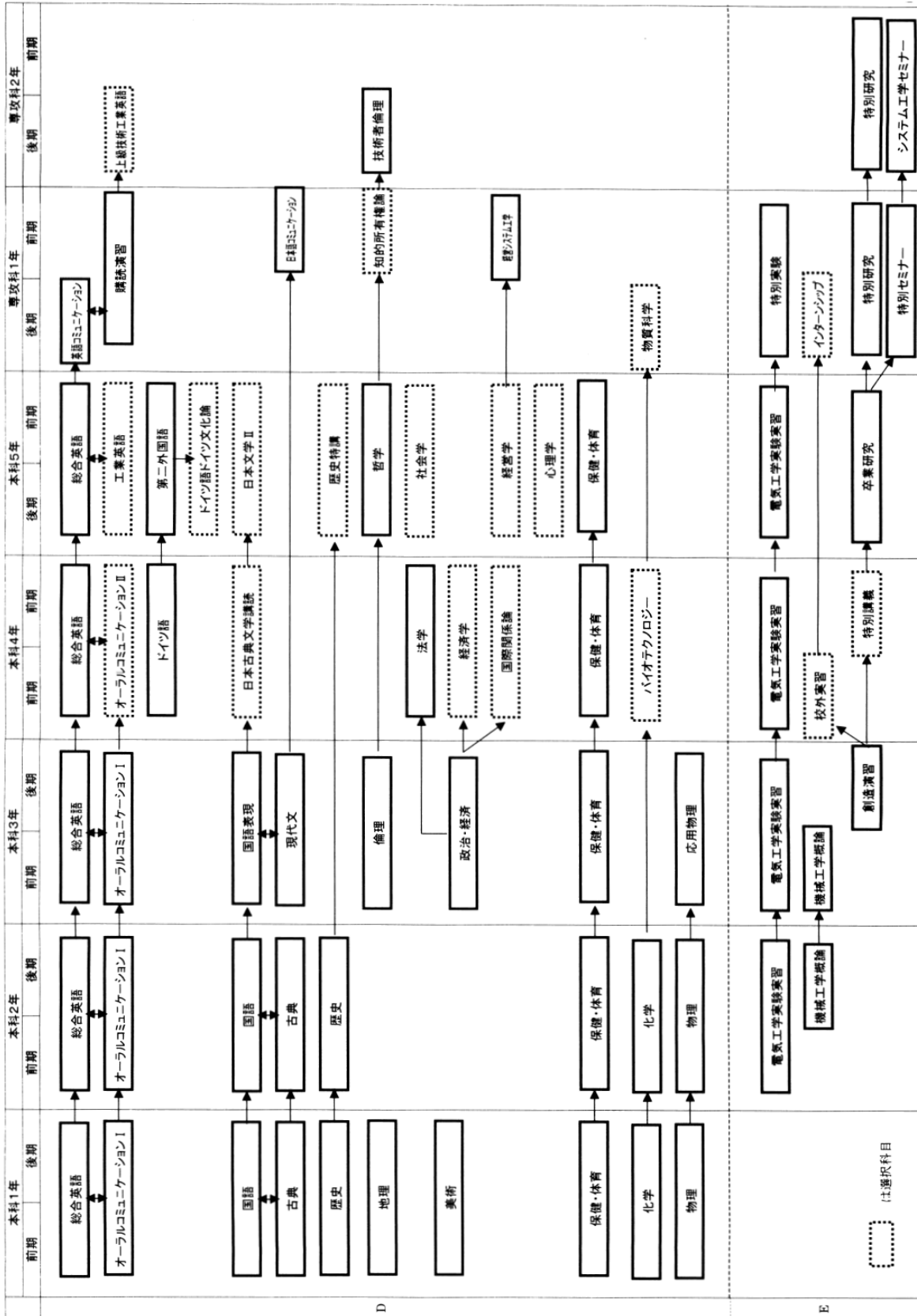
(電気情報工学科)



(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(10))

(電気情報工学科)



(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(11))

環境都市工学科の学習・教育目標

豊かな教養と国際性

(A) 自然現象を理論的に取り扱えるように、数学・自然科学・情報技術を身につける。

工学の基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する基礎的な知識を修得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを修得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させる能力を育成する。

(B) 国際的な視野と幅広い教養および技術者としての倫理観を身につける。

異文化を理解し、総合的に物事を判断できる幅広い教養と、工学に携わる者として求められる倫理観を身に付ける。また、外国語の学習を通して、国外の書物の講読、国外の技術者とのコミュニケーションが可能な語学力を身につけることを目的とする。

(C) 事業内容や意見等を正確に相手に伝えることができる表現力、プレゼンテーション能力を身につける。

自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができる表現力、プレゼンテーション能力を育成する。授業におけるレポート・設計書の作成、卒業研究・特別研究論文の作成を通して、論理的な記述・表現が出来るようになることを目的とする。

建設・環境分野の基礎知識・能力

(D) 事業の計画、設計、施工および維持にいたるまでの一貫した作業を責任を持ってやり遂げられる素養を身につける。

社会基盤整備に関わる事業の計画、調査、設計、施工、維持管理に関わる専門分野の内容を習得し、責任を持って事業をやり遂げる能力を身につける。

(E) 環境保全のための分析、評価能力を身につける。

環境の恵沢の享受と継承、健康で文化的な生活の確保と向上に寄与する環境保全・都市空間デザインに関する基礎的知識・能力を修得する。

(F) 環境に配慮した社会基盤整備を行う能力を身につける。

環境に配慮し安全で快適な社会を形成するための社会基盤施設の整備に必要な、構造物の材料特性や力学特性に関する基礎的知識・能力を修得する。

建設・環境分野の創造力・応用力

(G) 専門分野の知識を習得し、豊かな創造力を持って、問題に立ち向かえる能力を身につける。

建設・環境分野の基礎的専門知識を基にして卒業研究および特別研究に取り組むことにより、未知なるものへのチャレンジ精神と創造力および多様な問題に対する解決能力を身につける。

(H) 国家資格にも対応する実践的な技術を身につける。

実験実習、設計製図、現場見学を通して、建設・環境分野の技術を体得するとともに、その技術と理論とを対応させて理解する。また、建設・環境分野に関する国家資格にも対応した実践的能力を身につける。

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(12))

(環境都市工学科)

環境都市工学科授業科目系統図(平成16年度以降入学生適用)

学習 教育 目標	本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	数学A	数学B	数学A	数学B	数学A 数学B	数学A 数学B	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論	微分方程式 線形代数	微分方程式 線形代数		
	物理	化学	物理 化学	物理 化学	応用物理Ⅰ 情報処理	応用物理Ⅰ 情報処理	応用物理Ⅱ ハイブリッド 情報処理 計画数学	応用物理Ⅱ ハイブリッド 情報処理 計画数学	情報処理 計画数学	情報処理 計画数学	物質科学 環境情報処理 応用解析法	物質科学 環境情報処理 応用解析法		
(B)	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ	総合英語 オーラルコミュニケーションⅡ 工業英語 ドイツ語	総合英語 オーラルコミュニケーションⅡ 工業英語 ドイツ語	総合英語 工業英語 ドイツ語	総合英語 工業英語 ドイツ語	英語 コミュニケーション 講読演習	英語 コミュニケーション 講読演習		上級工業 技術英語	
	歴史 地理	歴史	政治・経済	歴史	経済学 社会学 法学	経済学 社会学 法学	歴史特講 経営学 国際関係論 心理学 哲学	歴史特講 経営学 国際関係論 心理学 哲学	工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化 歴史特講 経営学 国際関係論 心理学 哲学	工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化 歴史特講 経営学 国際関係論 心理学 哲学				知的所有権論 技術者倫理
(C)	古典 国語総合	古典 現代文	古典 国語表現	古典 国語表現	日本古典文学講読	日本古典文学講読	日本古典文学講読	日本古典文学講読	日本古典文学講読			日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	

(出典 シラバス)

(資料5-2-②-1(13))

(環境都市工学科)

環境都市工学科授業科目系統図(平成16年度以降入学生生適用)

学習 教育 目標	本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(D)	測量		測量		建設施工 都市計画	建設施工 都市計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	都市地域計画			応用建設施工 [シラバス] [シラバス]	
(E)	環境工学		環境衛生工学I 地球環境化学		環境衛生工学I 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学I 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生生物学 気象水文学 防災工学 環境水理学 景観工学	環境衛生生物学 気象水文学 防災工学 環境水理学 景観工学	空間デザイン論 環境デザイン 資源循環工学 環境人間工学				環境デザイン	
(F)	建設材料		建設材料		コンクリート構造 鋼構造 構造力学I 構造力学II 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学I 構造力学II 水理学 土質力学	耐震工学 基礎工学 構造力学II 水理学 土質力学	耐震工学 基礎工学 構造力学II 水理学 土質力学	建設材料論 [シラバス] [シラバス]				耐震構造 [シラバス]	
(G)														
(H)	実験実習		実験実習		実験実習	実験実習	卒業研究 環境衛生実験 構造実験 設計製図	卒業研究 環境衛生実験 構造実験 設計製図	特別研究 特別実験 [シラバス]				特別研究	

必修科目
選択科目

(出典 シラバス)

(資料5-2-②-1(15))

(環境都市工学科)

環境都市工学科授業科目系統図(平成15年度以前入学生適用)

学習 教育 目標	本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(D)	測量		測量		測量 測量	測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量
(E)					環境工学 環境工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学	環境衛生工学 水質浄化工学 河川工学
(F)					コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	コンクリート構造Ⅰ 構造力学Ⅰ
(G)					測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量
(H)					測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量	測量 測量

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(16))

(建築学科)

表 学習・教育目標を達成するための授業科目の流れ

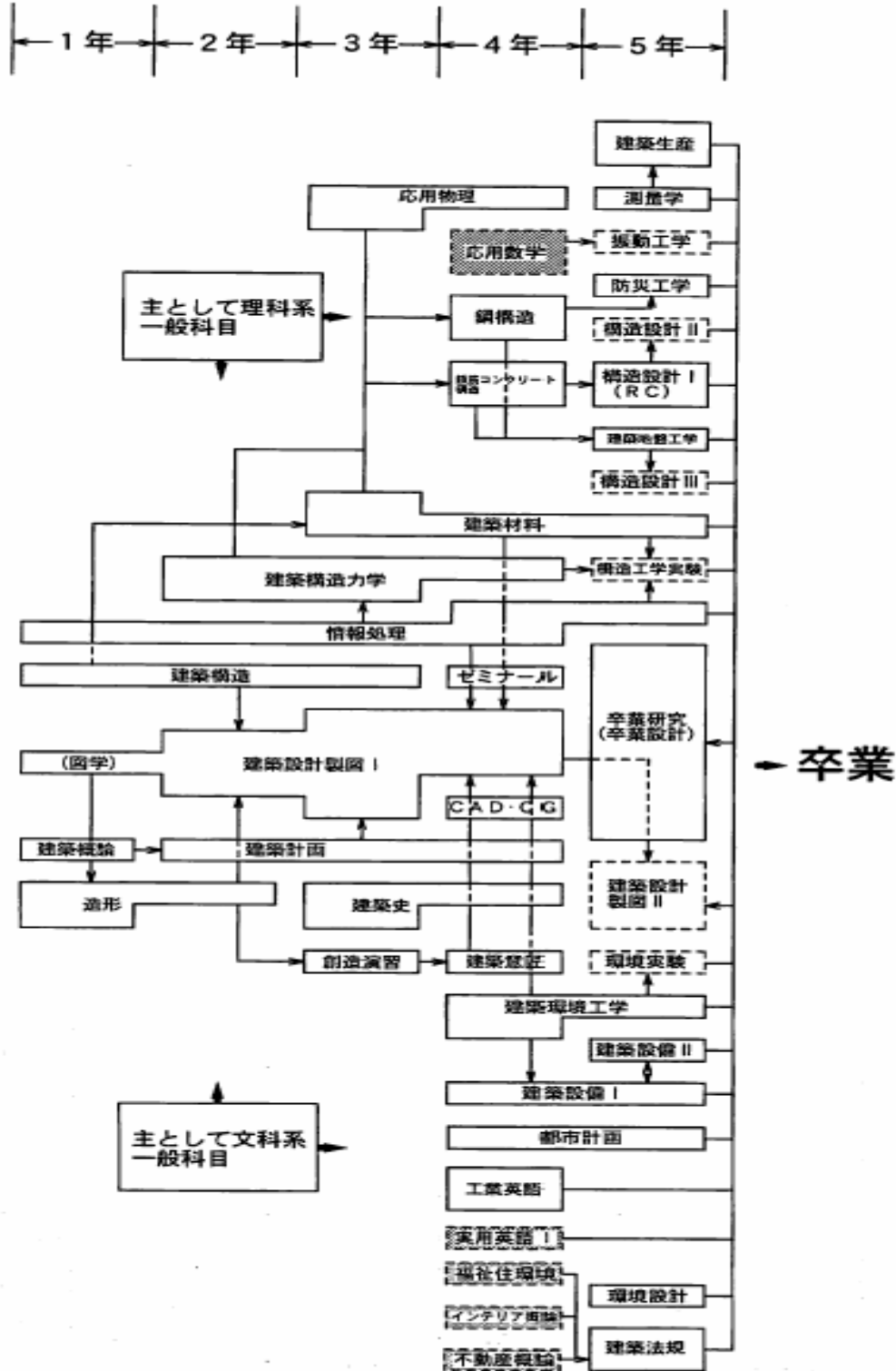
	本科					専攻科			
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年		
	JABEE対応プログラムの学年								
共通基礎	(A) 豊かな教養と倫理観をもつ技術者の育成	国語総合(古典)、歴史、地理、保健、体育	古典、歴史、保健、体育	古典、倫理、政治・経済、体育	法学、体育、日本文学Ⅰ、国際関係論、経済学	哲学、体育、日本文学Ⅱ、歴史特講、経営学、社会学、心理学	知的所有権	技術者倫理	
	(B) 国際的なコミュニケーション能力をもつ技術者の育成	国語総合(現代文)、総合英語Ⅰ、オーラルコミュニケーションⅠ	現代文、総合英語Ⅰ、オーラルコミュニケーションⅠ	国語表現、総合英語Ⅰ、オーラルコミュニケーションⅠ	総合英語Ⅰ・Ⅱ、工業英語、ドイツ語、実用英語Ⅰ、オーラルコミュニケーションⅡ	総合英語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語、ドイツ語・ドイツ文化論	英語コミュニケーション、日本語コミュニケーション、語彙演習	上級工業英語	
	(C) 工学の基礎的な知識をもち情報化社会に対応できる能力	数学A、数学B、物理、化学、情報処理	数学A、数学B、物理、化学、情報処理	数学A、数学B、情報処理、応用物理	数学特論、バイオテクノロジー、応用物理、応用数学、情報処理、CAD・CG	情報処理	微分方程式、数値計算法、環境情報処理、経営システム工学、線形代数、応用数理解析、物質科学、複素と物質、資源循環工学、微生物学		
包括的な専門知識・能力	(D) 総合的な視点から建築技術を捉える能力	建築概論、建築設計製図Ⅰ	建築設計製図Ⅰ	建築設計製図Ⅰ、創造演習	建築設計製図Ⅰ、不動産概論	建築設計製図Ⅱ、建築法規、構造設計Ⅰ、構造設計Ⅱ、構造設計Ⅲ、測量、卒業研究	設計演習	設計演習	
	(E) 建築学に関する基礎的な専門知識とその応用能力	E1計画	造形	造形、建築計画	建築計画、建築史	建築計画、建築意匠、都市計画、インテリア概論、福祉住環境	都市計画	都市・地域計画、空間デザイン論	環境デザイン
		E2環境				建築環境工学、建築設備Ⅰ	環境設計、建築環境工学、建築設備Ⅰ、建築設備Ⅱ	環境アセスメント、環境人間工学	
		E3構造	建築構造	建築構造、建築構造力学	建築構造、建築構造力学、建築材料	建築構造力学、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、建築材料、建築地盤工学	建築防災工学、振動工学、建築地盤工学	建設材料論、応用解析法	各種コンクリート系構造
	(F) 理論と現実を対応させながら建築技術を捉える能力				(校外実習)	構造工学実験、建築環境実験、建築生産	インターンシップ、特別実験	学外セミナー、人間温熱生理	
	(G) 知識の習得に対して主体的、計画的に取り組むことができる能力					卒業研究	特別研究	特別研究	
	(H) 情報技術を活用した創造的、実践的なデザイン能力							デザイン論、耐震構造	

注：(A)～(G)は本科の学習・教育目標、(A)～(H)はJABEEプログラムを想定した学習・教育目標である。

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-1(17))

建築学科授業科目系統図



□ は必修科目で、□ が選択科目を示し、その上下の幅は単位数を示す
 なお、選択科目のうち ▨ は進学希望者が、▩ は就職希望者が選択する。

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-2)

シラバスの例

【科目名】		熱機関(Thermal Engines)	JABEE
【学年、学科名】		5学年、機械工学科	
【必修・選択、単位数、期間】		必修、2単位、通年	
【担当教員】		河口 勇治	
【学習・教育目標】		【JABEE基準1(1)】: d-2	
【授業の目的及び概要】			
機械技術者に必要とされる熱機関に関する基礎的知識と技術について理解することを目的とする。熱機関には火花点火機関(ガソリン機関)・圧縮点火機関(ディーゼル機関)・蒸気原動機等がある。これらの熱機関について、構造と性能および排気対策などについて学習する。			
達成目標			
1. 火花点火機関の燃焼、吸排気系、点火装置、排気性能等に関する現象が考察できること。 2. 圧縮点火機関の燃焼、燃料噴射装置、燃焼室、排気性能等に関する現象が考察できること。 3. 蒸気原動機の原理や仕組みに関する現象が考察できること。			
【教科書】 廣安・宝路・大山共著「改訂内燃機関」(コロナ社)			
【参考書等】			
【授業方法】 読書を基本とする。			
		【項目】	【内容】
前 期	第1週	緒論	1. 熱機関[43.3時間、機械とシステム(4)] 内燃機関の作動原理、内燃機関の分類と特徴 理論空気サイクル、オットーサイクル、ディーゼルサイクル 各理論空気サイクルの熱効率の比較、実際のサイクル 正味出力と正味平均有効圧力、熱効率 内燃機関の燃料、石油の精製 ガソリン機関用燃料、ディーゼル機関用燃料 火花点火機関の燃焼 圧縮点火機関の燃焼 4サイクル機関の容積効率 弁装置 2サイクル機関の作動、過給 機関の要求混合比 均一混合機関、層状給気機関 ロータリ機関 点火装置 燃料噴射装置 噴霧特性 燃焼室の形式 ガソリン機関排出ガスに影響する因子 ガソリン機関の排出ガス対策 ディーゼル機関の排出ガス規制とその対策 潤滑の問題、潤滑油、潤滑法、ピストンリング 内燃機関の熱勘定、ピストンの膨張と熱応力、冷却システム ボイラの構造と種類 ボイラの性能 蒸気タービン
	第2週	"	
	第3週	サイクルと熱効率	
	第4週	"	
	第5週	性能と計測	
	第6週	燃料および燃焼	
	第7週	"	
		中間試験	
	第8週	答案返却・解答説明、燃料および燃焼	
	第9週	燃料および燃焼	
	第10週	吸気および排気装置	
	第11週	"	
	第12週	"	
	第13週	火花点火機関	
	第14週	期末試験	
第15週	答案返却・解答説明、火花点火機関		
後 期	第16週	火花点火機関	
	第17週	"	
	第18週	圧縮点火機関	
	第19週	"	
	第20週	"	
	第21週	内燃機関の環境対策	
	第22週	"	
		中間試験	
	第23週	内燃機関の環境対策	
	第24週	潤滑油および潤滑法	
	第25週	内燃機関の冷却	
	第26週	蒸気原動機	
	第27週	"	
	第28週	"	
	第29週	学年末試験	
第30週	答案返却・解答説明		
【カリキュラムの中での位置づけ】			
熱機関は自動車、農業機械、建設機械等の原動機として広く利用されている。熱工学を基礎として、火花点火機関、圧縮点火機関および蒸気原動機について学習する。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 熱工学(4学年)			
【この科目と同時に学ぶ科目】 流体工学			
【評価方法・基準】			
評価方法: 4回の定期試験(100%)により評価する。 中間成績=中間試験100点満点、期末成績=期末試験100点満点 前期総合評価点=(前期中間成績+前期末成績)/2、後期総合評価点=(後期中間成績+学年末成績)/2 最終評価点=(前期総合評価点+後期総合評価点)/2 評価基準: 本科目において設定した達成目標を80%以上達成している学生を合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
熱意を持って学習に取り組んでもらいたい。質問がある場合には、放課後やオフィスアワーを利用して積極的に質問に くこと。			

(出典 シラバス)

(資料 5-2-②-3)

科目間教員ネットワーク

科目間教員ネットワーク構成員

平成17年4月1日現在

科目間 学科	数学と 専門科目	理科と 専門科目	外国語と 専門科目	国語と 専門科目	社会と 専門科目	専門科目と 専門科目	備 考
一般科	黒川 赤池	笠松 小山	◎川尻 高島 中山 江口	小助川 新美	◎宇根 木原		
機 械	(応用数学) 森 ◎深澤 京免 中迫	(応用物理) 森 野村(高) 八木 河口	灘野 岩本	河野 山田	吉村 上寺	八木 ◎野原	
電気情報	山崎 藤井(敏)	横瀬 ◎横沼	植田 三島	野村(利) 野村(博)	大西 井上	黒木 板東	
環境都市	中野 橋本	黒川 山口	森脇 竹村	市坪 堀口	重松 山岡	小堀 山口	
建 築	福原 門前	藤井(健) 正野崎	松野 篠部	◎石井 仁保	岡本	(美術) 間瀬	
計	12名	12名	11名	10名	9名	8名	
開催予定月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	
開催月日	①16.6.29 ②16.9.27	①16.8.2 ②16.10.27	①16.9.22	①16.10.25	①16.12.7	①17.4.4	

◎：会議開催世話人

◆第2回目以降開催予定

科目間 学科	数学と 専門科目	理科と 専門科目	外国語と 専門科目	国語と 専門科目	社会と 専門科目	専門科目と 専門科目	備 考
開催予定月	平成17年 3月	平成17年 4月	平成17年 5月	平成17年 6月	平成17年 7月	平成17年 9月	
開催月日							

(出典 教育改善委員会)

(資料 5-2-②-4)

アンケート項目

回答用紙(学生による評価アンケート)

座学用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください

授業科目		
担当教員名		
学科・学年		
番号	1	2
授業科目番号		
担当教員番号		

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。		
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない		
2	この授業を理解できますか ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる ③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない		
3	授業に準備や工夫がなされていると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない		
4	質問をしているか、あるいは質問をする気になりますか ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ		
5	この教員に熱意は感じられますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない		
6	成績評価は学力や努力を適切に反映していると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない		
7	教員の声や説明方法、黒板への板書などはどうですか ⑤良い ④ほぼよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い		
8	教員は授業に遅れたり、休講にしたり、プリント学習にしたり、自習にしたりすることがありますか ⑤まったくない ④ほとんどない ③半数回はある ②多い ①かなり多い		
9	授業はシラバスとおりに行われましたか ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下		
10	この授業の総合評価をしてください ⑤良い ④ほぼよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い		
	意見があれば、評価しようとする授業名, 教員名の欄に、この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名
			番号
			1
			2
			授業科目番号

(出典 教務委員会)

(資料 5-2-②-5)

学内における成績評価点検指針

目的

定期試験やレポートの内容が、各プログラムの学習・教育目標に合致したものであるか、またその評価が適切に行われているかを、複数の教員間で点検することを目的とする。

実施時期

本科：前期末および学年末試験終了後に行う。
専攻科：各科目の期末試験終了後に行う。

対象科目

全科目について実施する。

実施要領

一般科目および各学科専門科目において、関連科目を担当する複数の教員からなる授業科目点検ワーキンググループを組織し、このワーキンググループ内で成績評価の点検を行う。点検結果は別紙に示す成績評価点検シートに記入後、学科内に保存するとともに、教育改善委員会委員長にも提出する。なお非常勤講師担当科目の成績評価点検は世話教員が担当する。

点検事項

- 当該期間の授業の進行状況とシラバスとのチェック
- 試験問題内容と科目の達成目標との整合性
- シラバス評価方法・基準による成績評価の妥当性(最終評価が60点前後の答案のチェック)
- エビデンスの確認

授業科目点検ワーキンググループの構成例

たとえば電気情報工学科の場合は、学科内カリキュラム検討委員会を組織しているが、この検討委員会のもと、各関連科目を担当する 3~4 名の教員からなる 12 ワーキンググループ(基礎系、電磁気系、物性系、情報系、通信系、電子回路系、機器系、電力系、制御系、エネルギー制御実験系、情報通信実験系、その他)が構成されている。

別紙 成績評価点検シート

_____年度_____末試験

科目名_____、学科_____、学年_____、担当教員名_____

成績評価点検日時_____年_____月_____日_____時~_____時

【点検結果】

以下4項目の質問に対し、該当する項目を残して下さい

点検項目	点 検 結 果			
	授業科目 担当教員	点検委員	点検委員	点検委員
		氏名	氏名	氏名
当該期間の授業の進行状況とシラバスとは整合性がとれていますか？	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満
試験問題内容と科目の達成目標との整合性はとれていますか？	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満
シラバス評価方法・基準による成績評価は妥当ですか？ (60点前後の答案のチェック)	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満	80%以上 60%以上 60%未満
エビデンスは残っていますか？	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ

【点検結果に対する教科担当教員のコメント】 以下に記入して下さい

(出典 教育改善委員会)

(分析結果とその根拠理由)

本校のシラバスは科目ごとの具体的な到達目標と、学科ごとに身につけるべき資質・学力との関係が学生に十分に理解されるように留意して作成されており、授業内容と評価方法についても明確に記載されている。また、授業がシラバスどおりに行われているか否かもアンケートや教員による相互チェックで確認されるようになっている。

以上のことから、本校の準学士課程では、教育課程編成の趣旨に添ったシラバスが作成され、活用されている。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

各学科ともに創造性を育成するためのプログラムが科目に組み込まれている(5-2-①-2 参照)。これらの科目は、ものづくりを通して、創造性、計画性、実践力、判断力を養うことを目的としている。

例えば、機械工学科では機械工学科3年の工作実習において、学生自らのアイデアで改良・設計・製作を行わせる中で、従来の設計を批判的に見て、問題点を見つけ出す能力を引き出すことや改良内容についてのプレゼンテーションにおいて、アイデア等に関する議論をさせることによって創造性を育んでいる(資料5-2-①-3 工作実習の様子 HP 呉高専日誌(2005.5.19))。また、建築学科では、創造性を育むための科目として、創造演習(3年)を開講している。また、これ以外にも建築設計製図において、独創的な視点で建築を設計・提案できる能力を習得するように努めており、建築設計製図Ⅳ(4年)では、毎年、全国高等専門学校デザインコンペティションの課題を取り入れた演習課題を実施している(訪問調査時提示資料5-2-③-1 ブリッジコンテスト 建築学科 創造演習)。

校外実習(インターンシップ)は、選択、必修は学科により異なるが、各学科とも第4学年において実施している。実習期間は最低7日以上で、夏休み期間中に実施し、実習終了後内容の詳細を報告書にまとめることを義務づけている。校外実習受け入れ先は、実習が単なるアルバイトとならないよう専門との関連性のチェックを教務委員会で受けるようになっている(資料5-2-③-2 教務委員会議事録、資料5-2-③-3 インターンシップ選択学生数)。

(資料5-2-③-2(1))

第5回教務委員会報告

日時 平成17年8月3日(水) 15:05~16:12
場所 第1ゼミナール室
出席者 福原, 江口, 深澤, 森脇, 周藤, 河口, 横沼, 門前
欠席者 小堀, 野町, 川野

(記録-川上)

議題

1. 校外実習について
教務主事から資料1により説明があり, 了承した。
なお, 単位認定については, 今年度より後期に入り, 実施結果をみて認定する。
2. 中学生の来訪や中学校への派遣について
教務主事から資料2により説明があった。
3. 後期授業時間割について
教務主事から資料3により説明があり, 学生用は各クラスのボックスへ入れて担任から周知することとした。
また, 全教員へメールで報告することとした。
4. 呉工業高等専門学校教務規則の改正について
教務主事から資料4により説明があり, 了承した。
5. 呉工業高等専門学校学業成績評価・履修の特例に関する内規の改正について
教務主事から資料5により説明があり, 了承した。
6. 学生による授業評価アンケートについて
教務主事から8月5日のHRで実施する予定である旨報告があった。
7. その他
周藤委員より, 18年度以降の第2外国語開講科目調査の報告があった。これをもとに次回以後検討することとした。

報告事項

1. 教室のエアコン管理について (資料6)
教務主事から資料6により, 警告するなどの指導行ったことの報告があった。
2. 平成17年度四国地区国立高等専門学校教員研究集会参加報告について
深澤教務主事補より平成17年7月28日(木)~29日(金)に開催された研究集会への参加報告があった。

以上

(出典 教務委員会)

(資料5-2-③-2(2))

教務委員会議事録

資料1

機械工学科

NO.	学生氏名	実習機関	実習期間	実日数	実習地・住所
1		富士重工株式会社	8/22(月)-8/31(水)	8	〒373-8555 群馬県太田市スバル町1-1
3		未定			
4		前川製作所	8/22(月)-9/2(金)	10	〒302-0118茨城県守谷市立沢2123
5		JFEスチール(株)	9/4(日)-9/17(土)	14	〒721-8510福山市綱管町1番地
6		(株)ヤクルト本社福山工場	9/5(月)-9/14(水)	8	〒729-0112福山市神村町5253番地
7		NTTファシリティーズ中国支店	8/22(月)-8/30(火)	7	〒730-0004広島市中区東白鳥町14-15
8		(株)ヤクルト本社福山工場	9/5(月)-9/14(水)	8	〒729-0112福山市神村町5253番地
9		矢崎総業(株)	8/31(水)-9/13(火)	10	〒437-1494静岡県小笠郡大東町国包1360
10		JFEスチール(株)	9/4(日)-9/17(土)	14	〒721-8510福山市綱管町1番地
12		ダイキン工業(株)	8/22(月)-9/2(金)	10	〒530-0034大阪市北区錦町4-82
13		キャステム株式会社	8/17(水)-8/24(水)	7	〒720-0004福山市御幸町中津原1812
15		(株)ジャパンアウトソーシング	8/18(木)-8/31(水)	10	〒451-0074名古屋市中区西区万代町2-21
16		パナソニックソリューションズ(株)	8/16(火)-8/26(金)	9	佐賀県鳥栖市立石町長蕨441-13
18		津田工業(株)	8/22(月)-9/2(金)	10	〒441-1201愛知県宝飯郡一宮町大字東上字土橋80
19		(株)ディスコ	8/22(月)-8/30(火)	7	〒737-0198呉市広文化町1-23
20		旭化成(株)	8/22(月)-8/30(火)	7	〒712-8633岡山県倉敷市湖通3-13
22		東邦テナックス(株)	8/22(月)-9/2(金)	10	〒411-8720静岡県東郡長泉町上土狩234
23		NTTファシリティーズ中国支店	8/22(月)-8/30(火)	7	〒730-0004広島市中区東白鳥町14-15
25		日立ビアメカニクス(株)	8/17(水)-8/30(火)	10	〒243-0488海老名市上今泉2100
29		(株)日本製鋼所広島製作所	8/18(木)-8/26(金)	7	〒736-8602広島市安芸区船越南1
30		旭化成(株)	8/22(月)-8/30(火)	7	〒712-8633岡山県倉敷市湖通3-13
32		日立ビアメカニクス(株)	8/17(水)-8/30(火)	10	〒243-0488海老名市上今泉2100
33		国土交通省中国地方整備局	9/5(月)-9/16(金)	10	
34		(株)ディスコ	8/22(月)-8/30(火)	7	〒737-0198呉市広文化町1-23
36		(株)中電工	8/22(月)-8/30(火)	7	広島市西区上天満町1-15
37		ダイキン工業(株)	8/22(月)-9/2(金)	10	〒530-0034大阪市北区錦町4-82
38		三菱重工株式会社広島製作所	9/5(月)-9/16(金)	10	〒733-8553広島市西区観音新町4-6-22
39		東部工業技術センター			
40		国土交通省中国地方整備局	8/29(月)-9/9(金)	10	
41		株式会社タマディック	未定	7	〒
42		(株)ミツトヨ広島事業所	8/22(月)-9/2(金)	10	〒737-0112呉市広古新聞6-8-20
43		日産ディーゼル技術研究所	8/16(火)-8/27(土)	10	〒362-0046埼玉県上尾市1-1

(出典 教務委員会)

(資料 5-2-③-2(3))

教務委員会議事録

電気工学科

5		NHK広島放送局	8/22(月)-8/29(月)	7	広島市中区大手町2-10-11
12		㈱インターフェース	8/29(月)-9/9(金)	10	広島市南区京橋町10-21
15		三菱電機(株) 情報技術総合研究所	8/29(月)-9/9(金)	10	鎌倉市大船5-1-1
18		㈱ジェイバック 竹原カンパニー	9/20(火)-9/30(金)	8	竹原市忠海長浜2-1-1
19		㈱ジェイバック 竹原カンパニー	9/20(火)-9/30(金)	8	竹原市忠海長浜2-1-1
20		三菱重工機広島製作所	9/5(月)-9/16(金)	10	広島市西区観音新町4-6-22
21		富士機械工業株	9/1(木)-9/9(金)	7	東広島市八本松町飯田2丁目7-1
22		NHK広島放送局	8/22(月)-8/29(月)	7	広島市中区大手町2-10-11
24		㈱コトブキソリューション	9/26(月)-9/30(金)	5	呉市中通2-6-6
25		㈱コトブキソリューション	9/26(月)-9/30(金)	5	呉市中通2-6-6
26		㈱ジャパンアウトソーシング	8/18(木)-8/31(水)	10	名古屋市西区万代2-21
27		パナソニックファクトリーソリューションズ株式会社	8/16(火)-8/26(金)	9	島根市立石町長瀬441-13
29		㈱NHKテクニカルサービス 中国	8/22(月)-8/29(月)	7	広島市中区大手町2-10-11
30		新日本無線株式会社	9/12(月)-9/22(木)	8	埼玉県上福岡市福岡2-1-1
32		㈱コトブキソリューション	9/26(月)-9/30(金)	5	呉市中通2-6-6
33		NTTファシリティーズ 中国支店	9/1(木)-9/10(月)	9	広島市中区東白島14-15
34		NTTファシリティーズ 中国支店	9/1(木)-9/10(月)	9	広島市中区東白島14-15
35		㈱クロストーク	8/22(月)-9/2(金)	10	広島市南区翠1-9-20
36		NHKテクニカルサービス 中国支	8/22(月)-8/29(月)	7	広島市中区大手町2-10-11
41		中部電力㈱	8/8(月)-8/12(金)	5	名古屋市東区東新町1
42		㈱コトブキソリューション	9/26(月)-9/30(金)	5	呉市中通2-6-6

※ 実日数5日間の学生は、単位として認められないことを了承済み。

※※ 公文書発行せず

環境都市工学科

1		株式会社 荒谷建設コンサルタント	9/5~9/16	10	
2		株式会社 荒谷建設コンサルタント	9/12~9/27	10	
3		国土交通省	8/29-9/9	10	
4		呉市役所			

建築学科

1		岩本秀三設計事務所	8/16~	10	呉市中央
2		未定			
3		大成建設	8/22~		未定
4		未定			
5		未定			
6		遠藤建築スタジオ	9/1(木)-9/30(金)	20	〒733-0001 広島市西区大芝2-10-24 CUI

(出典 教務委員会)

(資料 5-2-③-3)

インターンシップ選択学生数 (教務課資料)

年度	機械	電気情報	環境都市	建築	合計
H15	23	39	4	3	69
H16	33	32	2	7	74
H17	32	16	3	4	55

(出典 学生課)

インターンシップにより実社会で働くことの厳しさ、喜びを体感することで卒業後の社会生活への心の準備ができることが期待できる。また、プレゼンテーション能力の向上を目的として実習報告会を開催している(訪問調査時提示資料 5-1-②-8 インターンシップ報告書 平成17年度)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では各学科において、特に創造性を育むことを目的としたプログラムを含む科目が複数用意され、各学年において創造性を喚起する工夫がなされている。

インターンシップについては、単なるアルバイトで終わらないよう、事前に、受け入れ先、実習内容を教務委員会でチェックし、事後に実習内容をまとめ報告書を提出させるようにしている。

以上のことから本校の準学士課程では創造性を育む教育の工夫、インターンシップの活用が十分に行われている。

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績の評価に関しては呉工業高等専門学校教務規則第3章8条～20条に、進級・卒業認定に関しては第4章21条～26条に規定されている(資料 5-3-①-1 教務規則抜粋)。

進級・卒業に必要な条件(第21条)は、(1)当該学年に係わる全ての授業科目を履修していること、(2)当該学年における未習得科目の合計数、当該学年も含めた未習得科目の累積単位数が規定以下であること、(3)当該学年の特別活動及び学校行事の出席がいずれも2/3以上であること、の3つである。

(資料 5-3-①-1)

呉工業高等専門学校教務規則抜粋

学業第3章 学業成績の評価

(学業成績の評価)

第8条 学業成績は、平素の学習状況、出席状況及び試験成績を総合して決定するものとする。ただし別表の資格取得者については別に定める。

(定期試験)

第9条 定期試験(以下「試験」という。)は、毎学期末及び毎学期の中間に、各授業科目につき行うことを原則とする。

(定期試験実施時期)

第10条 試験の実施時期は、次のとおりとする。

区分

実施時期

学期末に行う試験(期末試験)

前期

8月9日までの適宜の時期

後期

3月1日までの適宜の時期

学期の中間に行う試験(中間試験)

毎学期の中間の適宜の時期

(定期試験時間割の決定及び発表)

第11条 定期試験時間割は、その試験を実施する日の10日前までに定め、校内掲示場に掲示して発表するものとする。

(定期試験問題)

第12条 各授業科目担当教員は、定期試験問題を作成し、学生課教務係長がその印刷、保管及び出納に当たるものとする。

(遅刻した場合等の取扱い)

第13条 試験に遅刻した場合等の取扱いは、次の各号に掲げるとおりとする。

- 1) 試験に遅刻した場合は、受験を許可しないことがある。
- 2) 受験者の退室は、試験開始後30分以上経過しなければ認めない。
- 3) 答案を提出しない者に対しては、当該試験の成績は零点とする。

(欠席者の取扱い)

第14条 試験に欠席した者の取扱いは、次の各号に掲げるとおりとする。

- 1) 正当な理由で試験に欠席した者に対しては、原則として別途試験を行うものとする。
- 2) 正当な理由がなく試験に欠席した者に対しては、当該試験の成績は零点とする。
- 3) 懲戒処分のため受験できなかった者に対しては、当該試験の成績は零点とする。

(学年成績の評価方法)

第15条 各授業科目の学年成績は、各学期の学業成績の年間総合とする。

(学業成績の評価区分)

第16条 学業成績の評価は、100点満点をもって示し、評語は、優、良、可及び不可の4種とし、評語の評点区分は次のとおりとする。ただし、第21条により卒業を認められた者については、60点未満であっても可として取り扱う。

評語	優	良	可	不可
評点	100～80	79～65	64～60	59～0

(授業科目の合格)

第17条 授業科目の合格は、学年成績が60点以上で、かつ、出席時数が年間授業時数の3分の2以上の場合とする。

2 休学者が復学した場合の出席時数は、同一学年在籍中に出席した時数の合計とする。ただし、重複期間の出席時数は加算しない。

(採点票)

第18条 各授業科目担当教員は、各定期試験終了後、次の各号により採点票(第2号様式)に学業成績の評点を記入し、これを学生課教務係長に回付するものとする。

- 1) 各学期の中間にあつては、試験を実施した授業科目のその期間の学業成績
- 2) 前期末にあつては、前期期間の学業成績

3) 後期末にあつては、学年成績
(成績の通知)

第 19 条 各学期の期末試験を終了した場合は、その成績を通知票(第 3 号様式)に記入し、保護者に通知するものとする。

(学生指導要録)

第 20 条 学生指導要録(第 4 号様式)を備え付け、学年成績及び評語を記入するものとする。

進級及び卒業の認定

(進級及び卒業認定の基準)

第 21 条 次の各号に掲げる条件をすべて満たす者の、進級又は卒業を認めるものとする。

- 1) 当該学年に係る所定の授業科目をすべて履修していること。
- 2) 当該学年における未修得科目の合計単位数及び当該学年も含めた未修得科目の累積単位数が次に示す単位数以下であること。

	当該学年	累積
1 年	8	
2 年	8	10
3 年	8	10
4 年	7	10
5 年	5	10

3) 当該学年の特別活動及び学校行事の出席がいずれも 3 分の 2 以上であること。

未履修科目は、事情により進級認定会議又は卒業認定会議において未修得と認定することがある。また、特別活動又は学校行事の出席が 3 分の 2 に達しない場合でも特別の事情があるものについては、上記会議によって 3 分の 2 以上出席したと同等に扱うことがある。

科目の履修、未履修とは、年間授業時数の 3 分の 2 以上を出席したか否かについていうものとする。

科目の修得、未修得とは、履修の上、試験等の評価を受けて合格点を得たか否かについていうものとする。

(追認)

第 22 条 進級を認められた者の当該年度における未修得科目及び進級を認められなかった者の前年度の未修得科目については、追認のための試験(その他の措置を含む。)を次学年において行うものとする。ただし、第 5 学年における未修得科目については、卒業研究以外の全科目の当該学年成績において未修得科目の合計単位数が 7 以下の者に対し、卒業認定会議の資料作成時まで、追認の試験を行うものとする。

実技、実験、実習等を伴う科目については、原則として追認は行わない。ただし、科目の内容及び未修得となった事情等から、追認の機会を与えることが適当と認められる場合は、あらかじめ教務主事に連絡して追認を行うことができる。

追認のための試験を受けることを希望する者は、所定の期日までに授業科目担当教員及び学級担任を経由して学生課教務係長へ追認試験願(第 5 号様式)を提出するものとする。

第 23 条 前条のほか、追認試験の時期、方法については、別に定めるものとする。

第 24 条 追認による合格の評点は、可の範囲内とする。

(留年)

第 25 条 第 21 条第 1 項に規定する進級及び卒業認定の基準を 1 号でも満たさない

者は、原級に留まり、当該学年に係る所定の授業科目をすべて再履修するものとする。ただし、特別に認められた科目については単位の修得を認め、再履修を免除することができるものとする。

2 引き続き2回原級に留まる者は、学則第56条第2号に該当する者とみなし退学させる。ただし、休学により原級に留まった場合はこの限りでない。

(進級、卒業、留年の審議及び認定)

第26条 校長は、進級、卒業及び留年について教員会の審議に付し、認定するものとする。

(在学年限)

第27条 最長在学年限は、7年とし、以後の在学を認めない。ただし、休学により進級できなかった年度は、在学年限に通算しない。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

進級・卒業認定の条件について上記規則の内容をまとめたものがキャンパスガイドに記載されている(資料 5-3-①-2 キャンパスガイド 2.10 進級、留年、追認試験、卒業・学年修了要件)。進級・卒業の認定は、それぞれ進級認定会議、卒業認定会議において慎重に行っている。

(資料 5-3-①-2(1))

進級留年，追認試験，卒業・学年修了要件

- ・30分以上経過しないと退出できません。
- ・正当な理由が無く欠席した場合や答案を提出しないものは0点とします。
- ・違反行為をしたものは全科目を0点とします。

(3) 試験を欠席した場合の扱い

- ・やむをえない理由以外で試験を欠席した場合は0点とします。
- ・理由がある場合(公認欠席の場合，急病の場合で診断書を提出して認められた場合)は別途に試験を受けることができます。ただし学年末で試験を実施することができない場合は，それまでの定期試験と平素の学習状況を考慮した見込み点が与えられます。

2. 7 試験以外の成績評価

シラバスに指示された提出物やショートテストが評価対象となります。

また，実験・実習・実技科目では，試験の行われのないものもあり，試験の他に実技，レポート，平素の学習態度などが評価されます。

2. 8 学業成績の評価区分

学業成績の評価区分

就職，進学のための試験や手続きの際に添付する「成績証明書」における学業成績の評価は，「優，良，可」の3段階の標語によります。「不可」は，空白のまま記入されません。

評価	評点	単位取得の判定
優	100点～80点	合格
良	79点～65点	
可	64点～60点	
不可	59点以下	不合格

2. 9 学業成績の通知

- ・中間，期末の各試験結果は，その各科目ごとに100点満点のものを学級担任を通じて学生に通知します。
- ・前期末，学年末の結果は保護者に通知されます。

2. 10 進級，留年，追認試験，卒業・学年修了要件

(1) 進級の条件

進級のためには，下表の条件を満たす必要があります。

進級・卒業の条件

	1年	2年	3年	4年	5年
進級に必要な未修得科目単位	8以下	8以下	8以下	7以下	5以下
進級に必要な未修得科目累積単位		10以下	10以下	10以下	10以下
学校行事の出席	2/3以上				
特別活動(LHR)の出席	2/3以上				

(2) 追認試験

(資料 5-3-①-2(2))

進級留年，追認試験，卒業・学年修了要件

- ・未修得単位の科目について翌年度再試験を受けることができます。
- ・5学年の場合は学年末試験の結果，未修得科目数が7以下の場合希望により，卒業認定会議の資料作成時までの1週間程度の間に行われます。
- ・実技，実験，実習を伴う科目については原則として行いません。

(3) 留年

- ・2年連続して原級にとどまることはできません。
- ・最大7年間在学できます。ただし休学期間は除きます。

2. 1 1 英語学習，英語検定試験等と単位互換

(1) 英語学習

本校卒業生が，国際社会で活躍できるよう，英語力の向上に力を入れています。英語学習には，授業だけでなく，図書館の「TOEIC対策教材」や情報処理センターなどでパソコン利用のeラーニングシステムを利用した教材を用いて勉強しましょう。

TOEIC とは？

日本の企業，大学で多く採用している英語の試験です。900点満点の試験で得点証明がもらえます。高専在学中に勉強して高得点を得ていると有利です。1年生は，低学年用のTOEIC Bridge 試験が適当です。

本校では，実用英語検定資格，工業英語検定資格やTOEIC試験の受験を奨励しています。実用英語検定資格，工業英語検定資格を取得するとその奨励策として以下のように授業を受けなくても単位を与える特例（単位互換制度）を設けています。ただし専攻科に進む場合は，JABEEとの関係で現在は認められません。

TOEIC試験は，低学年では，TOEIC Bridge を高学年では，TOEIC試験を勧めています。これらは，3，4学年は受験を必須とし，統一試験として校内で実施します。また希望者は，だれでも受験できます。また高得点者には3，2節のような表彰や海外研修の助成があります。

(2) 資格取得届

資格取得をした場合は，資格取得届に資格証明のコピーを添え，学級担任を経て，学校長に提出します。

(3) 成績評価の特例

試験の種類	資格	対象授業科目	対応評価
実用英語技能検定試験	2級以上	総合英語(5学年)	同クラスの最高点と同一または90点とし「優」の学年評価がされる
工業英語能力検定試験	3級以上	工業英語(機械工学科，環境都市工学科のみ)	

2. 1 2 留学，休学，退学，身上異動，住居異動などの届

- ・海外留学する場合は，ホームページ（学内限定版）にある「呉工業高等専門学校学生留学要項」，及び「留学要項の実施に係る申合せ事項」によります。
- ・病気等で3ヶ月以上欠席するような場合は，学級担任と相談し，医師の診断書等を添えて休学届を提出してください。休学可能期間などは（巻末付録3）「呉工業高等専門学校学則」を

(出典 キャンパスガイド)

成績評価の一貫性については、シラバス記載の成績評価が実際に実施されているか、試験問題がシラバスの内容にふさわしいものか、を教員相互でチェックするシステムを立ち上げ、平成17年前期から実施している（5-2-②参照、資料5-2-②-5）。

また、科目の評価において、試験のあと答案を返却し、採点基準を明らかにすることで学生に意見申し立ての機会を与えることにより採点ミスをなくすようにしている。

（分析結果とその根拠理由） 成績評価、進級・卒業の認定に関する規則を定め、その内容をシラバス、キャンパスガイドにより学生への周知を図っている。また成績評価については、一貫性を教員相互でチェックするシステムが存在する。進級、卒業認定については判定会議を設けて、慎重且つ厳格な運営を行っている。

以上のことから、本校の準学士課程では、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

本校においては人間の素養の涵養を目的として1年～3年の全学科で、週1単位時間のホームルームの時間を設けている（資料5-4-①-1：平成17年度前期時間割）。クラス担任はホームルーム活動（特別活動）の実施計画を期始めに作成し、それに従って1年間ホームルーム活動を実施する（資料5-4-①-2：特別活動実施計画表、資料5-4-①-3 特別活動実施記録）。これに加えて資料に示す学校行事を15日間程度実施している（5-4-①-4：学校行事一覧）。

(資料 5-4-①-2)

特別活動実施計画表 [平成 17 年度 前期]

(2 学年 建築学科, 学級担任名 中山 文)

	実施日	テーマ	実施方法	場所, 利用施設	使用, 準備物品
1	4月6日	新学期をむかえて	担任の話 委員選出、クラス写真撮影	HR	
2	4月13日	これからの学校生活について	担任の話、LHR 計画、読書	HR	本
3	4月20日	球技大会に向けて	球技大会メンバー決め、 生活習慣調査	HR	生活習慣調査書
4	4月27日	新学期がはじまり数週間経って	担任の話 クラス全体での話し合い	HR	作文用紙、住所録、緊急連絡網
5	5月11日	将来について	ドキュメンタリー番組鑑賞	視聴覚教室	録画ビデオ
6	5月25日	前期中間試験にむけて	担任の話	HR	
7	6月8日	人権学習	合同 HR、講演	視聴覚教室	
8	6月15日	保護者懇談会について	調査	HR	資料
9	6月22日	前期中間試験について	担任の話	HR	成績表
10	6月28日	スポーツ	卓球	第1体育館	
11	7月6日	スポーツ	バドミントン	第2体育館	
12	7月13日	遠足について	担任の話	HR	資料
13	7月20日	前期末試験の心がまえ、身なり指導について	担任の話	HR	
14	8月3日	前期の反省	担任の話、アンケート記入	HR	作文用紙
15	月日				
16	月日				
17	月日				
18	月日				

(出典 学生課)

(資料 5-4-①-3)

特別活動実施記録 [平成 17 年度]

学級名	建築学科1年	学級担任	中山 文
実施日	4月 6日 (水)		
欠席学生氏名	[REDACTED]		
記 録			
テーマ	新学期をむかえて		
実施概要	2年生になってこれからの1年、どのような学校生活を送るべきかなどの話をする。昨年度、各委員がクラスのためにおこなってきたことなど、一人ひとりについて話をし、今年度のクラス委員を選出していった。その後、場所を移してクラス写真をとる。		
担任所見 その他	もう1日時間をおいた結果、クラス委員はすべて立候補で決めることができた。新学期になり、多少身なりの気になる学生も出てきたが、再度、昨年からの本校のとりくみについて確認し、クラス写真をとる際にはきちんとした格好で全員がそろった。		
実施日	4月 13日 (水)		
欠席学生氏名	なし		
記 録			
テーマ	これからの学校生活について		
実施概要	クラスでのLHR計画をたてる。スポーツの競技について、またこの時間を使って何をしたいかなどの意見を聞いた。その後、こちらで選定した『ありえない日本語』(ちくま新書、2005)の序章を朗読し、日頃学生が使用している言葉について考える時間を作った。		
担任所見 その他	LHRをクラスでどのように使うかなど、やはり担任の方がある程度ひっぱっていく必要があるように感じる。また朗読した内容は「ありえない」という言葉についてだったが、この言葉の使い方が良いのかどうか、学生たち自身で考える機会にはなったのではないだろうか。		
実施日	4月 20日 (水)		
欠席学生氏名	なし		
記 録			
テーマ	球技大会に向けて		
実施概要	保健体育委員による昨日の委員会報告によって、急遽来月実施の「球技大会」のメンバーを決めることにした。人数が揃わなかったので、少し時間をおくことにする。その後、「生活習慣調査」をおこない、最近の学校生活をふりかえる機会をもった。		
担任所見 その他	球技大会のメンバーについては、しばらく時間を置くことにした。「生活習慣調査」については、それぞれ普段の生活を思い起こしながら、真剣にこたえていた様子であった。		

(出典 特別活動実施記録)

(資料 5-4-①-4)

学校行事一覧 学校行事出席簿より抜粋

学校行事 機械工学科 第4学年 担任 森 貞雄	対面式・始業式	球技大会(午前)	球技大会(午後)	校長講話	特別見学	特別見学	特別見学	特別見学	特別見学	姉妹校交流研修	姉妹校交流研修	姉妹校交流研修	姉妹校交流研修	姉妹校交流研修	体育祭(午前)	体育祭(午後)	文化行事	高専祭準備(午前)	高専祭準備(午後)	高専祭(午前)	高専祭(午後)	高専祭(午前)	高専祭(午後)	高専祭(午前)	高専祭(午後)	駅伝大会(午前)	駅伝大会(午後)	終業式	出席回数	欠席回数
	4	5	5	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	1	1	3	
番号	氏名																													
	[Redacted]																													

(出典 学校行事出席簿)

特別行事については、例えば3年次のステップキャンパスは、学生が集団の中で主体性をもって行動することの重要性を認識すると共に、そこでの体験を通して人間的に成長することを期待している。また、4年次の特別見学旅行では、国内外の工場、建築物、文化施設、文化遺産等を見学することで、技術者として、一人の人間としての見聞を広めることが期待できる(資料 5-4-①-4 ステップキャンパス実施要項, 訪問調査時提示資料 5-4-①-5 第1回ステップキャンパス報告書, 資料 5-4-①-6 特別見学旅行行き先一覧)。

(資料5-4-①-4)

第1回ステップキャンパス実施要項

1 目的

高専の学生生活において、第3学年は、これまで第一、二学年で高専生活に慣れて、これから第四、五学年で大きく飛躍するための重要な時期である。「ステップキャンパス」とは、高専生活を三段飛びにたとえて、第一、第二学年で「ホップ」し、第四、五学年で大きく「ジャンプ」するために「ステップ」を踏む第三学年を充実したものにする目的で実施する。

この重要な時期に、気分転換とあわせて対話の機会を持ち、有意義な高専生活をおくる契機となることを目的とし、次の目標を掲げる。

- ①学校と都会を離れ、自然環境の中でさまざまな野外活動を満喫し、心身ともに爽やかな気分を味わせる。
- ②学生諸君全体が主体性を持ち行動することにより、責任感と充実感を培い、学生時代の良き思い出を作らせる。
- ③ともすれば安易になりがちな学生生活を反省する機会を得るとともに、後半の高専生活を有意義に過ごさせる。

2 主催

呉工業高等専門学校

3 期 日

平成17年10月12日(水)・13日(木)・14日(金)

4 場 所

野呂山および呉高専

5 参 加 者

学 生 第3学年 171名(男子141名・女子30名)〔留学生含む〕

教職員 9名

宇根俊範(学生主事) 吉村敏彦(学生主事補) 小助川元太(学生主事補)

佐賀野健(学生主事補) 京免進(M科担任) 野村博昭(E科担任)

橋本堅一(C科担任) 岡本二郎(A科担任) 山口敏典(学生係員)

6 活動計画書 別紙のとおり

7 行 程

10月12日(水) 川尻駅集合⇒登山⇒山頂(昼食, レクリエーション)⇒下山⇒川尻駅解散

雨天時(呉高専) 午前 映画鑑賞, 午後 レクリエーション

10月13日(木) 呉高専: 「しゃべり場」(座談会)

10月14日(金) 呉高専: 午前 料理大会, 午後 ミニ運動会(雨天時: 室内競技)

8 経 費 別紙のとおり

以下略

(出典 学生課)

(資料5-4-①-6)

特別見学旅行行き先一覧

学科	機械	電気情報	環境都市	建築
H15年度	東京	ハワイ島	グアム島	東京
H16年度	東京	東京	ハワイ島	北海道
H17年度	グアム島	大阪・グアム島	台湾	ハワイ島

(出典 学生課)

1年～3年に関してはホームルームの時間を設けることで学習以外の活動に90単位時間以上の時間を確保している。4年～5年に対しては、特にホームルームの時間は設けていないが、上述の学校

行事を実施することで人間性の素養の涵養を図っている。1年～3年対象のホームルームと、全学年対象の学校行事は2／3以上の出席を義務づけている（資料5-4-①-7 教務規則第21条1の(3)）。

(資料5-4-①-7)

教務規則第21条 抜粋

1. 次の各号に掲げる条件を全て満たす者の、進級又は卒業を認めるものとする。

中略

(3) 当該学年の特別活動及び学校行事の出席がいずれも2／3以上であること。

後略

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

また、一部学校行事を行う前には学生のボランティア活動として学校周辺の掃除などを行うよう指導することにより、学校行事の一部を地域住民を交えた行事とするなど地域社会の一員としての自覚を喚起するようにし、ボランティア活動を通じて指導力、人間力を育てている（資料5-4-①-8 地域貢献、資料5-4-①-9 地域との教育連携）。

(資料5-4-①-8)

地域貢献

呉高専学生会、広島県民会議表彰を受ける。

呉高専の学生会は、このほど社団法人青少年育成広島県民会議から「模範活動団体」として表彰された。これは地域貢献をモットーに、学校周辺の一斉清掃や町民体育大会の協力参加、呉市主催行事参加など、地域に根ざした積極的な活動が評価されたものである。



(出典：文教速報6765号(2005年7月13日))

(資料 5-4-①-9)

地域との教育連携

呉高専学生が先生役として教育連携を実施



呉高専は、従来より地域に学ぶ生徒及び学生の人間力，理系基礎学力の向上を目的として，地域ニーズを踏まえた教育連携支援学生の育成事業を実施し，地域の教育機関とのコミュニケーションを図る機会を提供している。

今回は，隣接する呉市立阿賀中学校長の呼びかけにより，呉高専学生14人が先生役として国語，英語，数学の科目別に三教室に分かれ，中学3年生計40人に夏休みの宿題を教えた。

中学生からは「教え方が上手で，質問しやすかった。」と，また，高専生は「教えるのは初めてだったが，うまくいって自信につながった。」と大好評であった。

呉高専は，今後も引き続き地域と一体となり，科学大好きという将来有為な科学技術系人材を育成することにより地元密着型のモノづくり産業を育成し，地域に貢献していくこととしている。

(出典:文教速報6787号(2005年9月9日))

(分析結果とその根拠理由)

学習時間の他に90単位時間以上の時間が人間の素養の涵養を目的として確保されており，その時間は計画的に活用されている。

以上のことから，本校の教育課程の編成においては，人間の素養の涵養がなされるように配慮されている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校では全学年に対して学級担任を決め，担任によるきめ細かな生活指導を行っている (資料 5-

4-②-1 学級担任表)。また、学生に対して学校行事(球技大会、体育祭り、高専祭など)や学生会活動を通して自主性、実行力、協調性を育てている。

特に平成17年度以降、学生の情操教育の一環として、全学生対象の「文化行事」を新設し、平成17年度においては呉市文化ホールにおいて劇団イングによる演劇「エディ」を鑑賞し、成果を上げた(資料5-4-②-2)。

「高度な専門能力」を持つ人材の育成に関しては、高専ロボットコンテスト(ロボコンチーム)、プログラミングコンテスト(計算機部)、全国ゼロハンカーレース(自動車部)などへ参加を奨励し、持てる知識・体力を発揮し目的に向かう過程を通して高度な専門能力が養われるよう配慮している(資料5-4-②-3 ロボットコンテスト、資料5-4-②-4 プログラミングコンテスト、資料5-4-②-5 ゼロハンカーレース)。

(資料5-4-②-1)

学級担任表

平成17年度 ホームルームについて

H17.4.1

学 科 学 年	機械工学科	電気情報工学科 電気工学科	環境都市工学科	建築学科	
1 年	野原 稔 普通教室棟3階 (44名)	山崎 勉 普通教室棟1階 (44名)	黒川 康宏 普通教室棟1階 (44名)	新美 哲彦 普通教室棟1階 (42名)	
2 年	岩根 三邦 普通教室棟3階 (45名)	笠松 義隆 普通教室棟2階 (48名)	高島 裕臣 普通教室棟2階 (42名)	中山 文 普通教室棟2階 (44名)	
3 年	京免 進 機械工学科棟3階 (42名)	野村 博昭 電気情報工学科棟1階 (41名)	橋本 堅一 環境都市工学科棟2階 (45名)	岡本 二郎 建築学科棟3階 (43名)	
4 年	森 貞雄 機械工学科棟3階 (43名)	黒木 太司 電気情報工学科棟3階 (42名)	重松 尚久 環境都市工学科棟2階 (44名)	間瀬 実郎 建築学科棟3階 (44名)	
5 年	河口 勇治 機械工学科棟2階 (37名)	藤井 敏則 電気情報工学科棟3階 (35名)	市坪 誠 環境都市工学科棟3階 (35名)	正野崎 昭二 建築学科棟1階 (39名)	

(出典 学生課)

(資料5-4-②-2)

第1回文化行事 劇団イング公演「エディ」の鑑賞

今日は呉高専では初めての行事、〈第1回文化行事〉がありました。

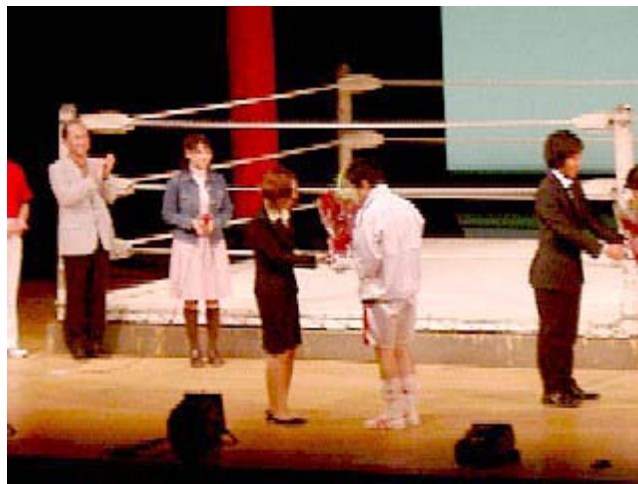
今年は呉市文化ホールで劇団イング公演「エディ」の鑑賞を行いました。

劇の内容は、ガッツ石松や赤井英和ら有名なボクサーを多く育て、日本人の世界チャンピオンを6人も育てたという伝説のトレーナー、エディ・タウンゼント氏のお話です。物語は、エディ氏の最後の弟子で彼の育てた6人目の世界チャンピオン、井岡弘樹の初防衛戦とエディ氏の

死を廻るエピソードとなっており、2人を中心に、さまざまな人たちの生き方を描く、笑いあり、アクションあり、涙ありの、本当に素晴らしいお芝居でした。



井岡の恋人、知佳役の田中香子（よしこ）さんによるキャスト紹介の後、学生会長の石井君と副会長の中田さんが井岡役の木村拓矢さんと松本役の黒川進一さんに花束を渡しました。そのときに石井君が言った、「テレビを見るのとは違い、実際に目の前で演じているのを見るので迫力がある」（そういう主旨のことを言っていたと思う。そうだよ、石井君？）というのは本当ですね。演劇鑑賞というのは、やはりライブなのです。とくにエディ役の藤井つとむさん、さすがベテラン。エディさんの思いがビンビン伝わってきました。



井岡が光なら、影にあたる松本役の黒川さん。なかなかの男前です。（終了後のロビーで、中学生の女の子が、「松本役の俳優さん、カッコ良かった！」と言っていました）そして、知佳役の田中さん。とても可愛らしい方です。お2人にはいろいろとお世話になりました。この写真は打ち合わせのときスナップです。



役者さんとお話をすると、本当に勉強になります。自分の好きなことを仕事にするというのは、端から見ると大変羨ましく見えますが、その反面、厳しい道です。本当に覚悟が必要です。迫真の演技はそういうプロ意識から来るのでしょうか。学生諸君には、今回の劇の内容だけでなく、彼らの真剣な姿からも人の生き方を学んでほしいと思います。

本当に素晴らしい演技を私たちにを見せてくださった劇団イングの皆さん、ありがとうございました。



クリックすると拡大します。

さて、本日は呉高専の学生だけではなく、保護者の皆さん、そして、呉市教育委員会の協力を得て、二河中学校、両城中学校の生徒さんたちと一般市民の皆さんをご招待しました。来年度は何をするか未定ですが、また、市内の中学校の生徒さんや一般市民の皆さんをご招待する予定です。ぜひご参加ください。

最後に、ご協力いただいた先生方と事務の方々、学生会長の石井君、副会長の中田さん、文化委員長の小早川君、副委員長の出口さん、ありがとうございました。

(出典：呉高専日誌)

(資料 5-4-②-3)

ロボットコンテスト

2005年10月22日(土)～23日(日)

担当 吉村 敏彦

ロボットコンテスト中国地区大会

10月22日(土)～23日(日), 高専ロボコン2005中国地区大会が柳井市体育館で開催されました。今年の競技は, ロボットの障害物競走です。手動ロボットがバトンをもって「はしご」をくぐり抜け, 平均台を通過してハードルを越えるという競技です。さらに, 手動ロボットがバトンを自動ロボットに渡し, 自動ロボットが壁をよじのぼって, ゴールにバトンを入れて終了です。

初日の10月22日(土)は, ロボットの計量・計測の後, リハーサルとテストランが行われました。呉高専Aチーム(写真1枚目)と呉高専Bチーム(写真2枚目)は, ロボットの綿密な調整を行い, テストランに望みました。テストランでお披露目された各高専のロボットは, どれもユニークな動きを見せていました。ただし, バトンを自動ロボットに渡すことができる手動ロボットは数少なく, 今年の競技はかなり難易度が高いようです。





(出典：呉高専日誌)

資料 5-4-②-4

プログラミングコンテスト

2005年10月11日(火)

担当 藤井 敏則

第16回プログラミングコンテストが鳥取県の米子市の米子コンベンションセンターで開催されました。

<10/9の様子>・<10/10の様子>

課題部門・自由部門・競技部門があり、呉高専は競技部門に参加しました。今年のテーマは「君のハートは100GHz(がいな)」という題で、オリジナルの画像とハート形に切り抜いた100マイの画像があり、このハート形の画像がオリジナル画像のどこの位置にあるのかをコンピュータで探索するという内容でした。

ハート形の画像には色を変えたり、回転させたり、偽物の画像も多数あり昨年と比べるとかなり高度なプログラミングの能力が求められます。例年は研修旅行と重なり、ぶっつけ本番ということが多かったのですが、今年は久しぶりに前日に入ることが出来予行演習も無事できました。

しかしながら、予備のBプランに変更して確実に取りに行く作戦にでたものの、1回戦では接続できたはずのPCがサーバとつながらず、「1ハート」しかとれませんでした。

敗者復活戦でも同様に、始めサーバにつながらず、ちょっと時間がかかってしまったが、Bプランが功を奏して「8ハート」取ることが出来、「2回戦進出だ」と思ったら、和歌山高専と同

じ点数で、2回戦進出決定戦を2高専だけで行うこととなりました。

2高専だけなのでBプランがMCさんにつっこまれて、「紙に○とか△とか書いてありますねー」、「5分経ったら入力する」、「この紙は乱数表？画像の座標？」と、会場の笑いと拍手を受け最も盛り上がったのではないのでしょうか。

100 TFlops×3の戦いは和歌山高専に軍配が上がりました。来年に向けてがんばりましょう。



控え室でプログラミングしている様子



予行演習の様子



1回戦の様子(1ハート5位でした。)



敗者復活戦の様子(2位で通過と思ったのだけど・・・)

(出典：呉高专日誌)

(資料 5-4-②-5)

ゼロハンカーレース

2005年8月23日(火)

担当 野村 高広

自動車部「ゼロハンカーレース大会，学生クラス優勝， 2連覇達成」

平成17年8月20日(土)車検，21(日)大会

「全日本手作りゼロハンカーレース大会 2005」が広島県甲山町において開催されました。エントリーされた60台の手作りゼロハンカーが小雨のなか激闘を交えた。このレースに出場する車は駆動源としてゼロハン(0.05リッター)のエンジンを使用し、車体は全て手作りです。ダートコースであることから、剛性を考えて車体の設計をしないと途中で部品が壊れてリタイアとなります。





自動車部では、部活動の一環として、この大会に毎年参加しています。今回の大会においては、学生クラス（エントリー21台）において、2台出場し、2台ともに決勝に進出することができました。2台とも決勝に残るのは、今回初めてです。決勝戦では、1台（赤色）は走行中に溶接部分の破損から発生したトラブルで白煙と共にリタイヤとなりました。（かなり目立っていました。）ドライバーの機械工学科2年埴下君、決勝まで進んだのに惜しいところですが、次回はこの経験が生かされるはずです。もう1台（青色）は前を走る2台を追い抜き優勝となりました。ドライバーの機械工学科4年吉岡君は学生クラス2連覇となりました。おめでとう御座います。皆さんの日々の努力の成果ですね。



ドライバーの吉岡君と埴下君、そして部のメカニックの皆さん、本当にご苦労様でした。今回も少なからず反省点はあります。来年に向けて、安定したマシン作りにコツコツ頑張っていきましょう。



最後に、会場まで来て頂き、ご支援して頂いた自動車部 OB の中本さん、埴さん、松井さん、藤高さん、そして、機械工学科教員の上寺先生、有り難う御座いました。また、大会出場まで、ご協力して頂いた、教職員の皆様に感謝いたします。

追伸：レースの詳細については、自動車部のHPに2005 レポートとして掲載する予定です。

(出典：呉高专日誌)

「プレゼンテーション能力」を持つ人材の育成に関しては、学生のボランティア活動（周辺小中学校への教育指導など5-4-①参照）を通してプレゼンテーション能力を育てている。

「語学力」を持つ人材の育成に関しては、多数の留学生との交流（里親会、チューター制度）を通じて、英語等外国語の有用性を認識させるとともに学生の国際性を養うようにしている（5-1-②参照）。

(分析結果とその根拠理由)

「高度な専門知識」を持つ人材の育成のためにはロボコン、プロコン、ゼロハンカーレースなどへの参加をとおして高度な専門知識の育成が図られている。また「プレゼンテーション能力」を持つ人材の育成に関しては、学生のボランティア活動等を通じてプレゼンテーション能力の育成がなされている。さらに「語学力」を持つ人材の育成のため留学生との交流が図られている。

以上のことから、本校における学生指導は、教育の目的に照らして人間の素養の涵養が図られるように適切に実施されている。

<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

まず、本校専攻科の構成を概観する。専攻科は機械電気工学専攻、建設工学専攻の2専攻からなる。さらに、機械電気工学専攻は「機械工学コース」と「電気情報コース」に、建設工学専攻は「環境都市工学プログラム」と「建築学コース」分かれている。この4つのコースまたはプログラムは、それぞれ、本科の機械工学科、電気情報工学科、環境都市工学科、建築学科に対応する、より高度な学問・技術体系を教育するようになっている。各系の教育内容について詳細にみると、それぞれ本科5年までに学ぶ専門科目をより高度化した内容を専攻科で学習するようになっている。機械工学コースの例を資料5-5-①-1 専攻科シラバス 授業科目系統図に示す。また、この系統図によって、専攻科の科目を学習する際前提となる本科の科目を学生に認識させている。他の系についても同様な系統図が専攻科シラバスに記載されている。

(分析結果とその根拠理由)

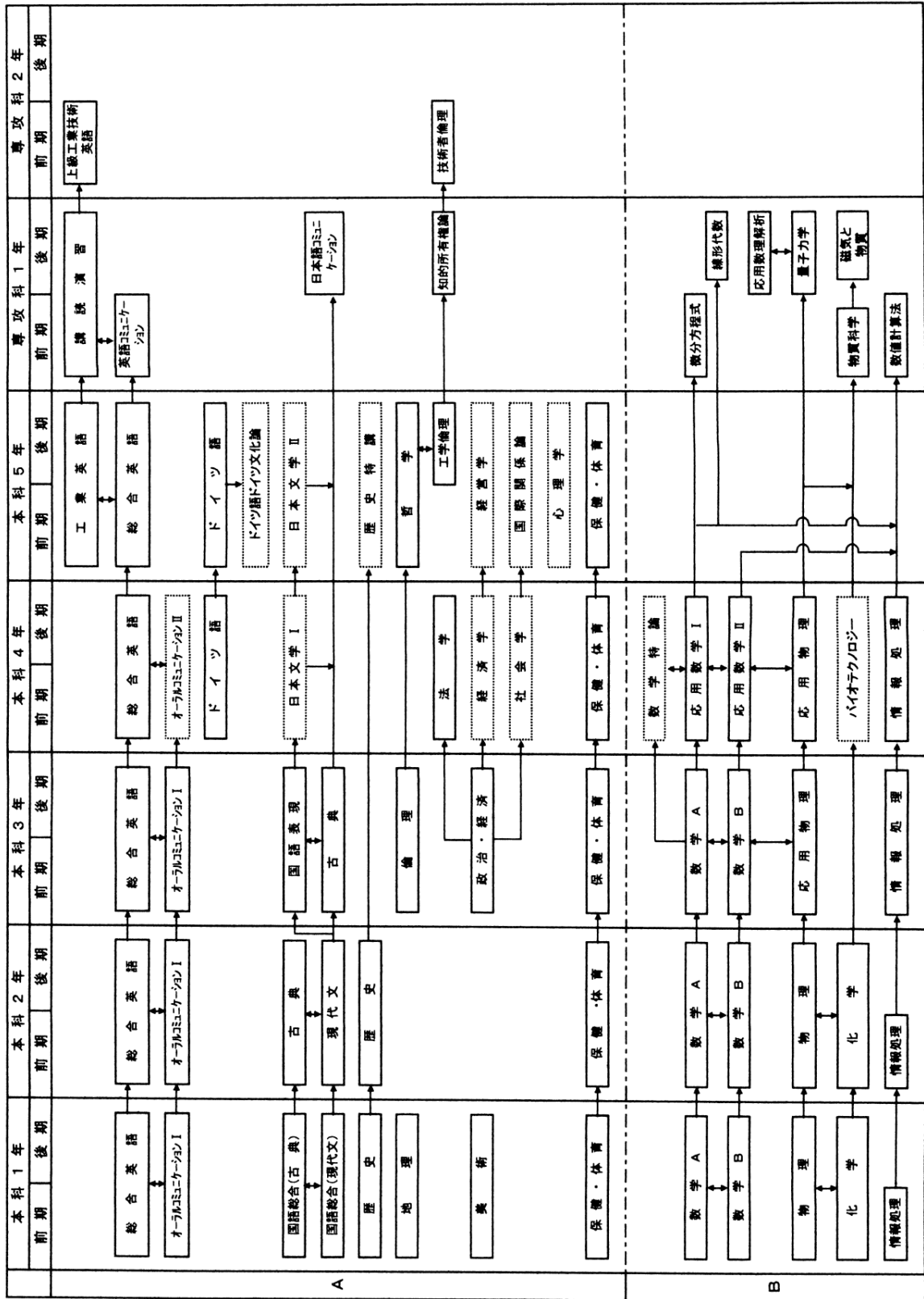
専攻科の各系の教育内容は、本科準学士課程の各学科に対応した、より高度な教育を提供するようになっており、本科科目との関連はシラバスにより学生に周知が図られている。

以上のことから、本校における専攻科教育課程は、準学士課程の教育との連携を考慮したものになっている。

(資料 5-5-①-1(1))

授業科目系統図

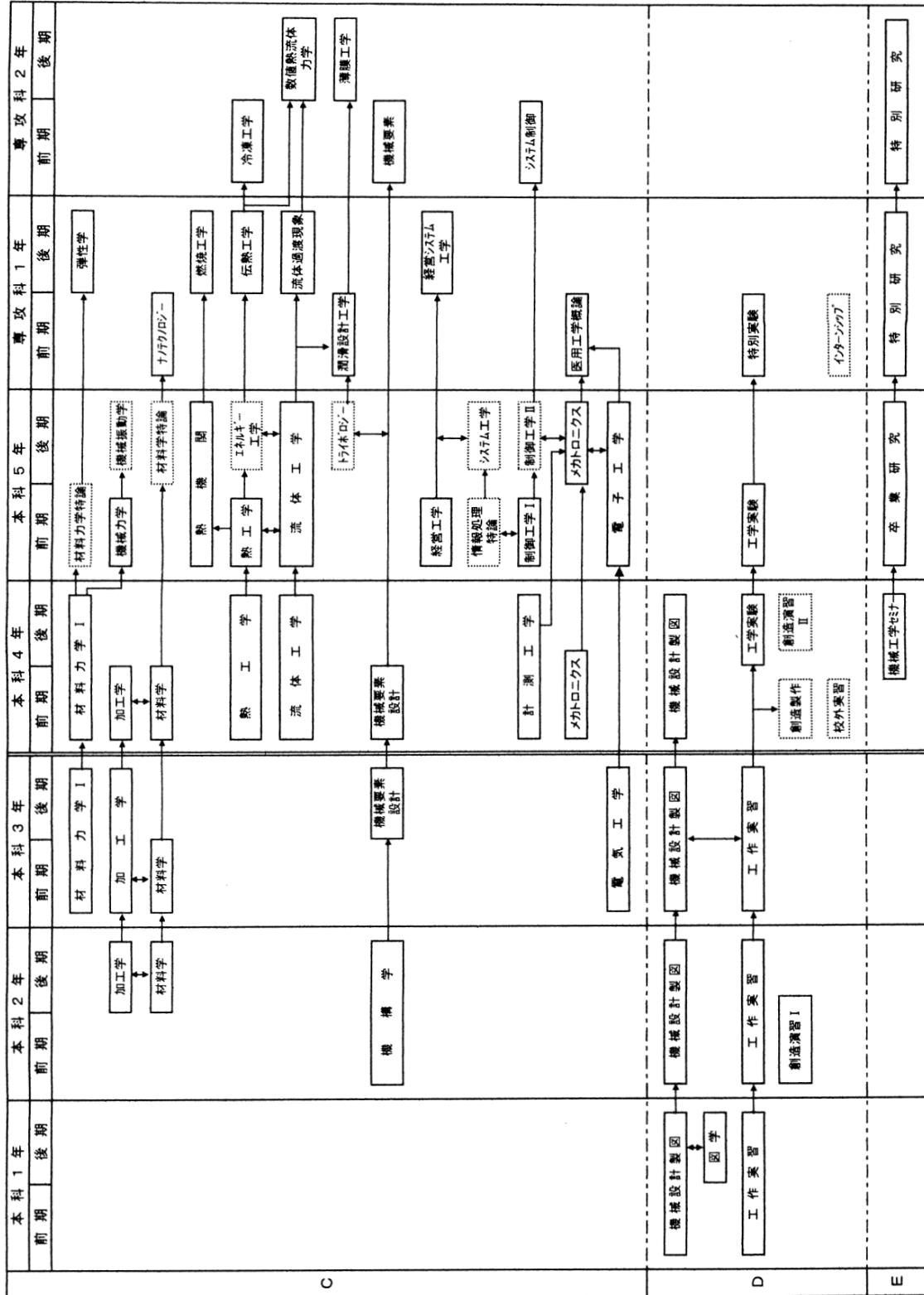
機械工学科・専攻科機械工学コースの授業科目系統図



(出典 シラバス)

(資料 5-5-①-1(2))

授業科目系統図



注) 1) [...] は選択科目
 2) BおよびCは、Dと密接に関連している。
 3) 平成17年度4学年以下は、材料力学特論→材料力学II、材料学特論→先端材料学、情報処理特論→人工知能となる。

(出典 シラバス)

(資料 5-5-①-1(3))

授業科目系統図

学習・教育目標とJABEE基準に主体的に対応する科目

基準1の1)	学習・教育目標	(a)		(b)		(c)		(d)				(e)		(f)	(g)	(h)
		地球環境に 多面的に物 事を考える能 力とその素養	技術が社会お よび自然に及 ぼす影響・効果 に関する理解 力や責任など、 技術者として社 会に対する責 任を自覚する能 力(技術者倫 理)	数学・自然科学 に関する知識 とそれらを活用 できる能力	数学・自然科学 に関する知識 とそれらを活用 できる能力	運動と振動	情報と制御・制 御	設計と生産・ 管理	機械とシステム	理の科学・技 術・情報を利用 して社会の要 求を解決する ためのデザイン 能力	日本語による論理的 な記述力、口頭発表 力、討論などのコ ミュニケーション能力 および国際的に通 用するコミュニケーション 基礎能力	変化に対し て自主的 継続的に学 習できる能 力	与えられた 制約の下で 計画的に仕 事を遂げる能 力			
(A)	豊かな教養と技 術者としての備 えを持つ、国 際的に行動でき る能力	数学 法文学 日本語 歴史 経済学 社会学 国際関係論 心理学	技術者倫理 工学倫理 知的所有権論													
(B)	コンピュータ技 術・数学・自然科 学の基礎を習得 し、導線の設計・ 制作に活用でき る能力			線形代数 微分方程式 応用数学Ⅱ 応用物理												
(C)	技術者としての 専門知識を習得 し、自然と共存し ながら機械工学 の分野で幅広く 対応できる能力			応用数学Ⅰ 数学特論 応用数学Ⅱ 量子力学 熱力学と物質 物理科学 ハイブリッド/ 情報処理 数値計算法	材料力学 機械振動学 材料力学特論 弾性学 材料学 材料学特論 ナノテクノロジー 材料設計工学 熱力学	熱工学(M4-M5) I&M-I-工学 伝熱工学 燃焼工学 冷凍工学 流体現象学 数値熱流体力学	情報処理特論 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ システム制御 電子工学 医用工学特論	機械要素設計 機械要素 加工学 薄層工学 精密工学 精密システム 工学								
(D)	実験・実習・製図 等の体験的学習 を習得し、豊かな 創造力を持って、 主体的・構造的 に問題を解決す る能力															
(E)	自主的に実験等 を遂行し、データ を解析・考察し て、発表や討論 ができる能力															

注)○: 積極的に対応

(出典 シラバス)

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

各専攻とも、専門科目の中でも基礎的な科目（専門基礎科目）を1学年に多く配置し、専門科目は1、2学年に比較的分散して配置されている（資料5-5-②-1 専攻科シラバス抜粋）。これは、基礎科目の学習が専門科目の学習においても活かされるようにとの配慮からである。また、特別研究は1、2年ともに配置されているが、2学年の比重が高い。学力、実行力、自主性等がより高レベルに達した高学年ほど、先端技術課題に、直接、多くの時間係わることにより技術者としての素養を養うことが可能、且つ、必要と考えるからである。

各専攻系における本校学習目標とそれに主として対応する科目の一覧を資料5-5-②-2に示す。講義科目は高度な専門性を有するためその多くが選択科目となっているが、自然科学の基礎となる科目、コミュニケーション能力や技術者としての倫理観を養う科目及び実験科目、演習科目の一部及び特別研究を必須としている（資料では必修科目を下線太字で示した）。

各科目の内容については、専攻科の目標をより具体的に示すため専攻系ごとに定めている「学習教育目標」（資料5-5-②-3 専攻科 STUDIES&CAMPUSLIFE）を最終的な到達点として専門科目の授業の内容が具体的に定められている。また学習教育目標と専門科目との対応（機械工学コースの例）を資料5-5-②-4に示す。他コースにおいても同様の対応表がシラバスに記載されている。

(資料 5-5-②-1(1))

教育課程表
(平成15年度以降入学生用)

専門基礎科目

	授 業 科 目	単 位	学 年 別 開 設 単 位 数				備 考	
			1 学 年		2 学 年			
			前	後	前	後		
専 門 修	日本語コミュニケーション	2		2				
	英語コミュニケーション	2	2					
	応用数理解析	2		2				
	技術者倫理	2			2			
	経営システム工学	2		2				
	履 修 単 位 数 計	10	2	6	2			
基 礎 科 目 選 択	上級工業技術英語	2			2			
	微分方程式	2	2					
	線形代数	2		2				
	数値計算法	2	2					
	量子力学	2		2				
	磁気と物質	2		2				
	知的所有権論	2		2				
	環境アセスメント	2	2					
	物質科学	2	2					
	資源循環工学	2	2					
	環境人間工学	2	2					
	開 設 単 位 数 計	22	12	8	2			
	履 修 単 位 数 計		12 以上					

注) 専門基礎科目は、両専攻の共通科目です。

(出典 シラバス (専攻科))

(資料 5-5-②-1(2))

機械電気工学専攻 専門科目

	授業科目	単位数	学年別開設単位数				備考
			1 学年		2 学年		
			前期	後期	前期	後期	
必 修	機械電気専攻特別研究	12	2	2	4	4	
	機械電気専攻特別実験	2	2				
	機械電気専攻講義演習	2	1	1			
	履修単位数計	16	5	3	4	4	
専 門 科 目	弾性学	2		2			
	伝熱工学	2		2			
	流体過渡現象	2		2			
	数値熱流体力学	2				2	
	潤滑設計工学	2	2				
	機械要素	2			2		
	薄膜工学	2				2	
	医用工学概論	2	2				
	燃焼工学	2		2			
	ナノテクノロジー	2	2				
	システム制御	2			2		
	冷凍工学	2			2		
	回路網工学	2	2				
	モーターエレクトロニクス	2		2			
	ミリ波工学	2	2				
	プラズマ科学	2		2			
	電磁波システム工学	2		2			
	量子工学	2			2		
	インフォメーションテクノロジー	2	2				
	マイクロエレクトロニクス	2		2			
	新エネルギー工学	2	2				
	アドバンストコントロール	2		2			
	機械電気専攻特別セミナー	2	1	1			
システム工学セミナー	2			1	1		
インターンシップ	2	2					
	開設単位数計	50	17	19	9	5	
	履修単位数計		24 以上				
	開設単位数合計	98	36	36	17	9	
	履修単位数合計		62 以上				

(出典 シラバス (専攻科))

(資料 5-5-②-1(3))

建設工学専攻 専門科目

	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 開 設 単 位 数				備 考
			1 学 年		2 学 年		
			前 期	後 期	前 期	後 期	
専 修	建設専攻特別研究	12	2	2	4	4	
	建設専攻特別実験	2		2			
	建設専攻講義演習	2	1	1			
	履 修 単 位 数 計	16	3	5	4	4	
門 選 科 目	デザイン論	2				2	
	都市・地域計画	2	2				
	環境デザイン	2			2		
	環境地盤力学	2		2			
	環境情報処理	2	2				
	地盤・構造物・変形工学	2				2	
	微生物学	2	2				
	空間デザイン論	2		2			
	建設弾塑性力学	2		2			
	建設材料論	2	2				
	応用解析法	2	2				
	各種コンクリート系構造	2				2	
	耐震構造	2			2		
	テラメカニクス	2				2	
	応用水理学	2			2		
	応用建設施工	2			2		
	人間温熱生理	2				2	
	設計演習Ⅰ	2	2				
	設計演習Ⅱ	2			2		
	学外セミナー	2			1	1	
インターンシップ	2	2					
開 設 単 位 数 計	42	14	6	11	11		
履 修 単 位 数 計		24 以上					
開 設 単 位 数 合 計	90	31	25	19	15		
履 修 単 位 数 合 計		62 以上					

(出典 シラバス (専攻科))

(資料 5-5-②-2)

目標	機械工学コース		電気情報コース	
	学年		学年	
	1	2	1	2
高度な専門知識・能力	<ul style="list-style-type: none"> 弾性学 ナノテクノロジー 燃焼工学 伝熱工学 潤滑設計工学 経営システム工学 	<ul style="list-style-type: none"> 振動工学 冷凍工学 数値熱流体力学 薄膜工学 機械要素 システム工学 医用工学概論 	<ul style="list-style-type: none"> 微分方程式 線形代数 応用数理解析 回路網工学 磁気と物質 アドバンスコントロール モータエレクトロニクス 新エネルギー工学 マイクロエレクトロニクス ミリ波工学 電磁波システム工学 インフォメーションテクノロジー 数値計算法 量子力学 プラズマ科学 	<ul style="list-style-type: none"> 量子工学
高度な研究開発能力	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 創造工学演習 特別実験 インターンシップ 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 特別実験 インターンシップ 特別セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 システム工学セミナー
エンジニアリングデザイン能力	<ul style="list-style-type: none"> 創造工学演習 インターンシップ 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 特別実験 	
技術者としての倫理観	<ul style="list-style-type: none"> 知的所有権論 	<ul style="list-style-type: none"> 技術者倫理 	<ul style="list-style-type: none"> 知的所有権論 	<ul style="list-style-type: none"> 技術者倫理
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> 日本語コミュニケーション 英語コミュニケーション 講読演習 	<ul style="list-style-type: none"> 上級工業技術英語 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語コミュニケーション 英語コミュニケーション 講読演習 	<ul style="list-style-type: none"> 上級工業技術英語
目標	環境都市プログラム		建築学コース	
	学年		学年	
	1	2	1	2
高度な専門知識・能力	<ul style="list-style-type: none"> 都市・地域計画 空間デザイン論 環境アセスメント 資源循環工学 環境人間工学 建設材料論 建設弾塑性力学 環境地盤力学 	<ul style="list-style-type: none"> 応用建設施工 環境デザイン 耐震構造 テラメカニクス 応用水理学 システム工学 	<ul style="list-style-type: none"> 都市・地域計画 空間デザイン論 環境アセスメント 環境人間工学 建設材料論 応用解析法 	<ul style="list-style-type: none"> 設計演習 環境デザイン 各種コンクリート系構造 学外セミナー 人間温熱生理 デザイン論 耐震構造
高度な研究開発能力	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 特別実験 インターンシップ 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究 特別実験 インターンシップ 	<ul style="list-style-type: none"> 特別研究
エンジニアリングデザイン能力	<ul style="list-style-type: none"> 空間デザイン論 特別研究 学協会における研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> 環境デザイン 特別研究 学協会における研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> 空間デザイン論 特別研究 学協会における研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> 環境デザイン 特別研究 学協会における研究発表
技術者としての倫理観	<ul style="list-style-type: none"> 知的所有権論 経営システム工学 環境アセスメント 資源循環工学 インターンシップ 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 技術者倫理 インターンシップ 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 知的所有権論 経営システム工学 環境アセスメント 資源循環工学 インターンシップ 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> 技術者倫理 インターンシップ 特別研究
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> 日本語コミュニケーション 英語コミュニケーション 講読演習 	<ul style="list-style-type: none"> 上級工業技術英語 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語コミュニケーション 英語コミュニケーション 講読演習 	<ul style="list-style-type: none"> 上級工業技術英語

太字下線: 必修科目

(資料 5-5-②-3(1))

学習教育目標

○学習・教育目標

本専攻科の機械電気工学専攻「機械系」、機械電気工学専攻「電気系」、建設工学専攻「環境都市工学系」及び建設工学専攻「建築系」では以下のようなプログラム名と学習・教育目標を掲げています。

(1) 機械電気工学専攻「機械系」のプログラム名と学習・教育目標

プログラム名：機械工学コース(機械系入学者全員を履修対象者とする。)

(A) 豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力

- (1) 人文科学、社会科学、外国語の学習を通して、文学、歴史、文化、人生観、法律、経済、国際関係などに関する幅広い知識を身につけるとともに、国際的視野を持った豊かな人間性を身につける。
- (2) 「技術者倫理」等の学習を通して、技術が社会と自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての社会に対する責任感を自覚しながら、人類の福祉と地域社会・国際社会の進展に貢献できる能力を身につける。
- (3) 「日本語コミュニケーション」等の学習を通して、日本語による論理的な記述・口頭発表・討議ができる能力を身につける。また、「英語コミュニケーション」、「上級工業

(資料 5-5-②-3(2))

技術英語」等の学習およびTOEICの受験、姉妹校交流などを通して、英語でコミュニケーションできる基礎能力を身につける。

(B) コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、事象の解析や機械の設計・製作に応用できる能力

線形代数、微積分学、確率・統計等の数学、物理学、化学等の自然科学およびプログラミング、シミュレーション等の情報技術に関する基礎知識を身につけるとともに、それらの知識を機械分野の構造・熱・流体・振動等の解析や機械の研究・開発、設計・製作、生産技術、制御等に適用していくことができる能力を身につける。

(C) 技術者としての専門知識を習得し、自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力

機械工学の主要分野である「材料と構造」、「運動と振動」、「エネルギーと流れ」、「情報と計測・制御」、「設計と生産・管理」、「機械とシステム」に関する専門知識を身につけるとともに、自然環境の修復や環境負荷の低減などを考えながら、技術的課題に幅広く対応できる能力を身につける。

(D) 実験・実習・製図等の体験的学習を習得し、豊かな創造力を持って、主体的・積極的に問題を解決する能力

(1) 「工学実験」、「特別実験」の学習を通して、専門知識の理解を深めるとともに、与えられた現実の諸問題を主体的・積極的に解決する実践的能力および計画的に仕事を進めて期限内に仕事を終える能力を身につける。

(2) 「創造演習」、「創造製作」、「校外実習」、「インターンシップ」、「機械設計製図」の学習を通して、未知なる問題に対して、数学、自然科学、情報技術、専門知識などを統合してチャレンジし、解決していくデザイン能力および創造力を身につける。

(E) 自主的に実験等を遂行し、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力

(1) 「卒業研究」に取り組むことにより、特定分野の専門知識を深めるとともに、変化の速い情報社会に対応できるように、自主的に継続して仕事ができる能力を身につける。

(2) 「特別研究」に取り組むことにより、実験等を計画的に遂行し、実験データや計算データを工学的に解析・考察して報告書に論理的にまとめることができる能力を身につける。また、「特別研究」の成果を学協会等で口頭発表することにより、専門分野に関するプレゼンテーションができる能力を身につける。

(2) 機械電気工学専攻「電気系」のプログラム名と学習・教育目標

プログラム名：電気情報工学コース（電気系入学者全員を履修対象者とする。）

電気情報工学科及び専攻科機械電気専攻電気系においては「多岐にわたり発展する電気・電子・情報・通信・制御工学分野における基礎学力と創造力を備えた開発型技術者を育成する」ことを教育目標とし、その具体的目標は以下の通りである。

(A) 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること。

電気情報工学の分野で活躍するためには、数学や物理などの基礎科目の他に、電気磁気学、電気回路、電子工学、電気計測などの基礎科目の修得が必要不可欠である。このような基礎学力を身につけることを目標とする。

(B) 電気情報工学の実践的な技術者教育を通して、より高度なエネルギー制御分野の知識を身につけること。

エネルギー制御分野は電力の発生、輸送エネルギーの変換及びそれらの制御に関する技術を扱う学問領域である。この分野の基礎及び応用科目であるエネルギー発生工学、電力系統工学、エネルギー変換工学、制御工学等の実践的なカリキュラムの修得を通して、高度なエネルギー制御工学の知識を身につけることを目標とする。

(資料 5-5-②-3(3))

(C) 電気情報工学の実践的な技術者教育を通して、より高度な情報通信分野の知識を身につけること。

情報通信分野は情報源の電気信号への変換、処理、伝送及びそれらの回路化、システム化に関する技術を扱う学問領域である。この分野の基礎及び応用科目である情報工学、電子工学、通信工学、電子回路等の実践的なカリキュラムの修得を通して、高度な情報通信工学の知識を身につけることを目標とする。

(D) 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を具備し、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること。

グローバル化した変化の速い情報化社会では、生涯にわたって自らが新たな知識や情報を取得し、自主的に継続して学習することが重要である。また、技術者として生涯にわたり、自然や社会との関わりにおいて、責任ある判断と行動を保ち続けることも重要である。このような技術者としての倫理観と国際化社会に対応するための能力を、技術者倫理、総合英語、日本語コミュニケーションなどの修得を通して身につけることを目標とする。

(E) 創造力をもとに、合理的な計画を立てる能力、それを遂行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること。

未知の問題を解決するため、これを自らの考えで、筋道をたてて計画的に取り組み、実現可能な解を見つけ出してゆく能力を、校外実習、卒業研究などの科目の修得を通して身につけることを目標とする。

(3) 建設工学専攻「環境都市工学系」のプログラムと学習・教育目標

プログラム名：環境都市工学プログラム（環境都市工学系入学者全員を履修対象者とする。）

豊かな教養と国際性

(A) 自然現象を理論的に取り扱えるように、数学・自然科学・情報技術を身につける。

工学の基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する基礎的な知識を修得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを修得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させる能力を育成する。

(B) 国際的な視野と幅広い教養および技術者としての倫理観を身につける。

異文化を理解し、総合的に物事を判断できる幅広い教養と、工学に携わる者として求められる倫理観を身につける。また、外国語の学習を通して、国外の書物の講読、国外の技術者とのコミュニケーションが可能な語学力を身につけることを目的とする。

(C) 事業内容や意見等を正確に相手に伝えることができる表現力、プレゼンテーション能力を身につける。

自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができる表現力、プレゼンテーション能力を育成する。授業におけるレポート・設計書の作成、卒業研究・特別研究論文の作成を通して、論理的な記述・表現が出来るようになることを目的とする。

建設・環境分野の基礎知識・能力

(D) 事業の計画、設計、施工および維持にいたるまでの一貫した作業を責任を持ってやり遂げられる素養を身につける。

社会基盤整備に関わる事業の計画、調査、設計、施工、維持管理に関わる専門分野の内

(資料 5-5-②-3(4))

容を習得し、責任を持って事業をやり遂げる能力を身につける。

(E) 環境保全のための分析、評価能力を身につける。

環境の恵沢の享受と継承、健康で文化的な生活の確保と向上に寄与する環境保全・都市空間デザインに関する基礎知識・能力を修得する。

(F) 環境に配慮した社会基盤整備を行う能力を身につける。

環境に配慮し安全で快適な社会を形成するための社会基盤施設の整備に必要な、構造物の材料特性や力学特性に関する基礎的知識・能力を修得する。

建設・環境分野の創造力・応用力

(G) 専門分野の知識を習得し、豊かな創造力を持って、問題に立ち向かえる能力を身につける。

建設・環境分野の基礎的専門知識を基にして卒業研究および特別研究に取り組むことにより、未知なるものへのチャレンジ精神と創造力および多様な問題に対する解決能力を身につける。

(H) 国家資格にも対応する実践的な技術を身につける。

実験実習、設計製図、現場見学を通して、建設・環境分野の技術を体得するとともに、その技術と理論とを対応させて理解する。また、建設・環境分野に関する国家資格にも対応した実践的能力を身につける。

(4) 建設工学専攻「建築系」のプログラム名と学習・教育目標

プログラム名：建築学コース（建築系入学者全員を履修対象者とする。）

呉高专建築学科では平成16年度下記に示す学習・教育目標を新たに設定し、学生に対する技術者教育を実施することになった。(A)～(G)は建築学科本科の学習・教育目標で、(A)～(H)は専攻科を含めた学習・教育目標である。建築学科の授業はこの学習・教育目標を達成するために行われる。学生はこの学習・教育目標をしっかりと頭に入れて、日々建築学を学習すること。

共通基礎

(A) 豊かな教養と倫理観をもつ技術者の育成

科学技術の向上と国民経済の発展に資する技術者に必要な豊かな教養と倫理観をもつ技術者を育成する。倫理観については、技術者が直面する倫理問題の概要や技術者が背負うことになる責任の重さを知り、これに対処するための基本的な姿勢を育成する。

(B) 国際的なコミュニケーション能力をもつ技術者の育成

建築技術に関わる動向を国際的な視野から捉え、英語を用いて国際的な建築業務を遂行できる基礎的なコミュニケーション能力を育成する。また、自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができるプレゼンテーション能力を育成する。

(C) 工学の基礎的な知識をもち情報化社会に対応できる能力

工学の基礎となる数学、物理、情報技術に関する基礎的な知識を修得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを修得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させる能力を育成する。

建築学の包括的、基礎的な専門知識・能力

(D) 総合的な視点から建築技術を捉える能力

(資料 5-5-②-3(5))

建築技術者には、自然科学や社会科学などの教養を基礎に、総合的な視点から建築の各専門分野の知識や技術を捉えながら専門業務を遂行することが求められる。建築学分野の全般にわたる総合的な建築教育はその基本であり、様々な知識や技術を相互に関連付けながら総合的な視点から捉え、知識や技術を活用する姿勢や基礎的な能力を育成する。

(E) 建築学に関する基礎的な専門知識とその応用能力

以下の3つの専門分野における基礎的な専門知識とその応用能力を修得する。

E1 建築設計・計画:造形および空間創造のための基礎能力, 建築を創るための基礎知識, ハンドワークやオーラルコミュニケーションを中心とした表現・伝達技術を修得する。

E2 建築環境・設備:建築環境や建築設備に関する基礎的な知識・能力を修得する。

E3 建築構造:建築構造の仕組みとその特徴, 材料, 安全や機能を確保するための方法, 建築防災に関わる専門知識, 構造理論と実践との調和の必要性について修得する。

(F) 理論と現実を対応させながら建築技術を捉える能力

各専門分野において修得した知識が机上の空論にならないように, 実験, 模型の制作, 現地踏査, 現場見学を通して, 建築の実体的な現象を捉え, それが理論とどのようにリンクしているかを理解する能力を修得する。

(G) 知識や技術の修得に対して主体的, 計画的に取り組むことができる能力

実務では与えられた課題や問題を, 自分の実行能力や与えられた時間内に与えられた設備や施設などを考慮しながら, 自らの判断の下に最良の成果を得ることが求められる。主体的, 計画的に問題解決に取り組むための技術者に必要な基本的な姿勢や能力を, 研究や演習, 実験を通して育成する。

建築学の特定領域の高度な専門知識・能力

(H) 情報技術を活用した創造的, 実践的なデザイン能力

既習の建築学の基礎的な専門知識や技術をより高度に応用・発展させながら, 多様な社会のニーズに対応できる技術者となるために, 最先端の情報技術を活用した創造的, 実践的なデザイン能力を育成する。

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料 5-5-②-4)

学習目標と専門科目の対応 (専攻科機械工学コースシラバス)

		専攻科1年		専攻科2年	
		前期	後期	前期	後期
A	豊かな教養と技術者との倫理観を持って、国際的に行動できる能力	講読演習 英語コミュニケーション	講読演習 日本語コミュニケーション 知的所有権論	上級技術英語 技術者倫理	
B	コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、事象の解析や機械の設計・製作に応用できる能力	微分方程式 物質科学 数値計算法	線形代数 応用数理解析 量子力学 磁気と物質		
C	技術者としての専門知識を習得し、自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力	ナノテクノロジー 潤滑設計工学 医用工学概論	弾性学 燃焼工学 流体過渡現象 経営システム工学	冷凍工学 機械要素 システム制御	数値流体力学 薄膜工学
D	実験・実習・製図等の体験的学習を習得し、豊かな想像力を持って、主体的・積極的に問題を解決する能力	工学実験		特別実験 インターンシップ	
E	自主的に実験等を遂行し、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究

(分析結果とその根拠理由)

学生の到達レベルに応じて専門基礎科目，専門科目，特別研究の時間が割り当てられており，学生の到達レベルに応じた教育が受けられるように工夫されている。また，科目ごとの具体的内容は専攻・系ごとに定めた教育目標に沿ったものとなっている。

以上のことから，本校における専攻科教育課程は，教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程の体系性が確保されている。

観点 5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

学生の多様なニーズ及び学術の発展に対応するため，専攻科生は専攻する系の授業の他に次に示す3種の授業の受講が可能（単位認定）となっている。

(1) 本校専攻科の異なる系で開講される授業

(2) SCS を利用した中国四国地区国立大学等共同授業

(3) 教育ネットワーク中国に加盟し，県内20数校の大学との単位協定を結んでいる共通講座

また，専攻科生には学会での発表を義務づけ，査読付き論文の投稿も奨励している（資料 5-5-③-1 STUDIES&CAMPUS LIFE）。

(資料 5-5-③-1)

Ⅱ 履修要項

1. 修業年限, 授業科目, 単位

2. 特別研究

- ・研究成果は, 関連学会及び専攻科論文集等で発表することを義務づけ, プレゼンテーション能力の向上を図る。

(出典 STUDIES&CAMPUSLIFE)

さらに, 積極的に学生のニーズに対応するため, 専攻科学生を対象としたカリキュラム (学習・教育目標, 授業科目, 授業時間割等) に対する要望調査のためのアンケートを平成 17 年 7 月に実施し, それに対する回答を 10 月に公開した。現在アンケート結果をもとに対応を検討中である。

また, 社会からの英語力向上に対するニーズに対応するため, TOEIC 等の外部評価に耐え得る英語力取得を要求するとともに資料 5-5-③-2 専攻科シラバス抜粋), 専攻科特別研究のアブストラクトを英文とすることを義務づけた (別添資料 5-5-③-3 専攻科特別研究論文, 専攻科特別研究中間発表論文執筆要領 専攻科委員会)。

社会からの要請に対応するため, 2 週間以上 (平成 18 年度以降, 長期インターンシップを導入) のインターンシップとその報告をカリキュラムに組み込んでいる (訪問時提示資料 5-5-③-4 インターンシップ報告書平成 17 年度, 5-5-③-5 専攻科インターンシップ報告会の様子 呉高専日誌 2005.10.19, 28)。平成 18 年度からはより長期 (4 週間, 8 週間) のインターンシップを可能とするためカリキュラムが改編された (資料 5-③-6 インターンシップシラバス)。

(資料 5-5-③-2)

JABEE (日本技術者認定機構) について

本シラバスは全科目 JABEE 対応になっています。

ここで, JABEE について簡単に説明をしておきます。

1. JABEE (日本技術者認定機構) とは

- ・
- ・

中略

- ・
- ・

2. 要求される基準

- ・
- ・

中略

- ・
- ・

また, 国際的な承認を得ることが目的のひとつであるので, 外国語の外部評価 (TOEIC 等) に耐えられる学習が要求される。

- ・
- ・

後略

(出典 シラバス (専攻科))

(資料 5-5-③-3(1))

専攻科特別研究論文（2年次生）
専攻科特別研究中間発表論文（1年次生）
執筆要領

平成17年12月7日 専攻科委員会承認

1. 提出期限等

- (1) 特別研究発表日
 2年次生：2月10日（金）
 1年次生の中間発表：2月下旬から3月上旬の間に各系で実施する。
- (2) 印刷原稿提出期限
 2年次生：発表会の1週間前までに原稿1部
 1年次生（中間発表）：発表会の1週間前までに原稿1部
 ※発表会のコピー原稿は、必要部数を当日までに準備すること。
- (3) 提出先
 所属系の専攻科長補
- (4) 論文集作成のための取りまとめ
 2年次生：野村専攻科長補
 1年次生：山口専攻科長補

2. 原稿規格と組み方

- (1) 原稿用紙はA4判とする。
- (2) 原稿枚数は原則6ページとするが、4ページまたは8ページでも構わない。偶数ページを基本とする。それ以外のページ数は認めない。
- (3) 原稿にページ番号を記載しない。ただし、原稿用紙右上隅にページ番号を鉛筆で記入すること
- (4) 本文は2段組で構成する。1行あたり22文字で1頁は51行、2段組とする。
- (5) 専攻科特別研究論文集（以下、2年次生と表す）の場合、第1ページ目は表題、氏名・所属、英文要旨、キーワードの記載分だけ本文記入が削減される。
- (6) 専攻科特別研究中間発表論文集（以下、1年次生と表す）の場合、第1ページ目は表題、氏名・所属の記載分だけ本文記入が削減される。
- (7) 上端・下端マージン20 mm、左端・右端マージン20 mm、段組の中央マージン10 mmとする。

3. 論文の構成

論文の構成は下記による。2年次生、1年次生のレイアウト例をそれぞれ参照して記入すること。

- (1) 表題と氏名・所属
- (2) 英文要旨 (Abstract) *2年次生のみ
- (3) キーワード (Keywords) *2年次生のみ
- (4) 本文（本文は図・表・写真を含め、まえがき、本論、結語、参考文献などで構成する）

4. 表題と氏名・所属

- (1) 2年次生は表題と氏名について和文、英文ともに記載する。1年次生は和文のみ記載する。所属については2年次生、1年次生とも和文のみ記載する。

(資料 5-5-③-3(2))

- (2) 表題は、和文表題を先に、その下行に英文表題を記載する。副題がある場合は、改行をして括弧内に記載する。氏名の場合も同様順序とする。
- (3) 氏名・所属は、所属専攻および系を先に、その下行に氏名および所属研究室を記載する。系および研究室は、それぞれ専攻および氏名に続けて括弧内に記載する。
- (4) 和文表題は、第1ページ目、第1行目の中央に18ポイントのゴシック体で記載する。和文副題は14ポイントのゴシック体で記載する。
- (5) 英文表題は、和文表題の下行の中央に14ポイントのTimes系フォントで記載する。英文副題は、12ポイントのTimes系フォントで記載する。
- (6) 和文氏名・所属は、12ポイントの明朝体で記載する。英文氏名は、12ポイントのTimes系フォントで記載する。

5. 英文要旨 (Abstract) *2年次生のみ

- (1) 論文の内容の主要な点を200～300語程度で簡潔にまとめ、本文の前に添える。
- (2) 英文要旨は、10ポイントのTimes系フォントで記載する。

6. キーワード (Keywords) *2年次生のみ

- (1) キーワードは、英文を先に、その下行に和文を5語程度記載する。
- (2) 英文キーワードは、9ポイントのTimes系イタリック体フォントで記載する。
- (3) 和文キーワードは、9ポイントの明朝体で記載する。
- (4) キーワードの原稿の組み方に関しては、レイアウト例を参照すること。

7. 本文

- (1) 本文は、10ポイントの明朝体で記載する。
- (2) 図・表・写真は、本文枠内に収まるように掲載する。
- (3) 図・表・写真には、内容を明確に表す表題を必ず付けること。図・写真の表題は、図・写真の下行に、表の表題は、表の上行に記載すること。
- (4) 表題には、図・表・写真ごとに通し番号を付ける。

8. 参考文献

参考文献の記載方法は以下の通りである。

- (1) 論文等の場合「著者名：表題、誌名、Vol, No. , 掲載ページ、発行年月」の順とする。
- (2) 単行本の場合「著(編)者名：書名、発行所名、発行年」の順とする。
- (3) 著者名は必ず姓で記す。著者が多い場合には、筆頭者以外は「ほか〇名」で省略することもできる。
- (4) 欧文の場合には、筆頭者は姓を先に記す。また、連名者は「et al.」で省略することもできる。
- (5) 発行年月日は、原則として西暦で「1995.1」「1995.2」のように記す。

9. その他

- (1) 提出された原稿は、版下原稿となるので、十分推敲した上で提出すること。
- (2) 原稿の組み方等の詳細は、レイアウト例を参照すること。

(出典 専攻科委員会)

(資料 5-5-③-5)

専攻科インターンシップ報告会の様子

2005年10月19日(水)

担当 井上 浩孝

インターンシップ報告会

10月17日(月), 5時限目から8時限目の実験演習の時間に, 電気情報工学科4学年, 専攻科生による校外実習報告会がありました。本科四年生は特別見学のグアムから帰って来たばかりで真っ黒に日焼けした状態でまだ通常の生活に戻りきる矢先の発表で資料の準備が大変のようでした。



各自, 夏休み中に企業で仮想就職して学んだことをそれぞれの言葉でプレゼンテーションしました。結果発表終了後, いつもは反対に教卓に立って講義をされている先生方からするどい質問があり, 白熱した討論となりました。私の通学した普通高校や大学ではこのような体験はできなかったので, 呉高専のみなさんは実践的開発技術者として即戦力として働くための準備としてこのような校外実習, および報告会をさせてもらえてうらやましいなと思いながら発表を聴きました。

建築学科卒業研究・設計中間発表会および 専攻科インターンシップ報告会開催

本日, 建築学科の卒業研究・設計中間発表会を行いました。(写真①②)

3月にはどの学科も卒業研究の発表会を行いますが, 建築学科は卒業設計もあるため, 例年この時期に中間発表を行っています。

発表は, 1人あたり約5分程度で, 質疑応答が4分程度です。共同研究の場合, 人数に応じて発表時間, 質疑応答時間も増えます。パソコンでPowerPointでプレゼンテーションを作成し, 映し出しながら発表を行います。

スーツ姿に身をつつみ, どの学生も緊張していました。いろいろなアドバイスを受けていました。中には厳しいコメントもあり戸惑いもあったことと思いますが, 受けた質問やアドバイスを活かしてよりよい研究を今後行ってくれることと期待しています。

卒業研究の発表の後, 続いて専攻科建設工学専攻1年生(建築系)が夏季休業中にインターンシップに行った報告会を行いました。(写真③)

国土交通省, 呉市役所, 設計事務所などに行った報告でした。インターンシップから得た経験, そして報告会の質疑応答の経験を今後活かしてくれることを期待しています。



①PowerPoint を使用して発表しています



②写真手前の先生から質問を受けています



③インターンシップの報告をしています

(出典 呉高専日誌)

(資料 5-5-③-6 (1))

機械電気工学専攻 (機械)

【科目名】		インターンシップ (Internship)	JABEE
【学年、専攻名】		1 学年, 機械電気工学専攻機械系	
【必修・選択, 単位数, 期間】		選択, 2~8単位, 前期(夏季休業中) ただし, JABEE「機械工学コース」プログラム修了要件として2単位の修得が必要である。	
【担当教員】		野村 高広, 特別研究指導教員(中・長期間の場合)	
【学習・教育目標】: D		【JABEE基準1(1)】: e	
【授業の目的及び概要】			
<p>企業等における就業体験を通して, 実社会の技術的課題等に取り組むことにより, 高専本科で学んだことを発展させるとともに, 専攻科における学修の意義を認識させ, 以下のような, 社会が要求する技術者としての基本的能力等を養うことを目的とする。</p> <p>(1) 実践的技術者感覚・研究開発能力(研究開発プロセスの修得) (2) 自主性・創造性・デザイン能力 (3) 計画的に仕事を進め, 期限内に終わることができる能力 (4) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力</p> <p>なお, インターンシップの教育効果を高めるため, できるだけ長期間の履修を推奨する。</p>			
達成目標	<p>1. 設定された技術的課題等について, 自主的・計画的に取り組むことができること。</p> <p>2. 実習内容・成果をまとめ, 期限内にインターンシップ日誌・報告書を提出することができること。</p> <p>3. 実習内容・成果に関して, 要領よく発表や質疑応答ができること。</p>		
【教科書】			
【参考書等】			
【実習方法】 企業や大学等のテーマに沿った実習を行う。 中・長期間の場合には, 受け入れ機関と打合せを行い, テーマを設定する。			
	【項 目】	【内 容】	
前 期	<p>1. インターンシップ受け入れ機関の選定・申し込み・打合せ</p> <p>2. 事前学習</p> <p>3. 受け入れ機関における実習</p> <p>4. インターンシップ日誌・報告書の提出</p> <p>5. インターンシップ報告会での発表</p>	<p>【1. (3) 実験の計画・遂行能力と結果の考察能力の養成】</p> <p>1. 受け入れ機関から要求された必要知識の事前学習</p> <p>2. 実習内容の習得, 日誌の作成</p> <p>3. 実習内容に関する報告書の作成</p> <p>4. 実習内容に関するプレゼンテーション</p>	
【カリキュラムの中での位置づけ】			
受け入れ機関によって必要な学問が異なるが, 本科・専攻科における専門科目で得た知識を利用し, 社会の要求を解決するために必要なデザイン能力の必要性・重要性を体験する。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科5学年までに学んだ機械工学の基礎となる科目			
【この科目と同時に学ぶ科目】 創造工学演習, 特別研究			
【評価方法・基準】			
<p>評価方法: 派遣先機関の評価(50%), 校外実習報告書の評価(関係教員複数による評価の平均)(25%)および報告会の発表態度(出席教官複数による評価の平均)(25%)によって総合的に評価する。</p> <p>評価基準: 評価方法の最終結果が60%以上であれば合格とする。</p>			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
<p>学校外であるので, 全て自分の責任で処理をする必要がある。一社会人である自覚を持って, 行動することが求められている。学生だからという甘えは許されないことを十分に自覚する必要がある。質問等が生じた場合には, 実習先の担当者に直ぐに聞くこと。分からないことはそのときに解決することが大切である。なお, 実習期間中は必ず傷害保険に加入すること。</p> <p>履修期間は, 7月24日(月)~9月29日(金)とし, 履修実日数(1日8時間で換算)と単位数の対応は次の通りとする。</p> <p>12日~22日...2単位 (短期) 23日~33日...4単位 (中期) 34日~44日...6単位 (中期) 45日以上...8単位 (長期)</p> <p>なお, 2単位を超える修得単位数に対応して, プログラム修了要件に直接関係しない次の選択科目の履修が不要となる。 S2後期 振動工学, S1後期 燃焼工学, S2後期 冷凍工学, S2前期 医用工学概論</p>			

(出典 シラバス)

(資料 5-5-③-6 (2))

機械電気工学専攻 (電気)

【科目名】 インターンシップ(電気系) (Business Experience)		JABEE
【学年、専攻名】 1学年、機械電気工学専攻		
【必修・選択、単位数、期間】 選択、2～8単位、前期		
【担当教員】 横瀬 義雄 (代表)		
【学習・教育目標】:E 【JABEE基準1(1)】:(e), (g), (h)		
【特別研究の目的及び概要】 校外実習機関(企業や大学等)において、夏期休業中に実習を行い、技術に対する社会の要請を習得すると共に学問の意義を認識し、エンジニアとしての自主性を養成する。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先から要求された必要知識を予習すること。 2. 実習内容を習得すると共に自主性を養成すること。 3. 実習日誌の作成を通して日々の実習を把握すること。 	
【教科書】	実習先で配布される学術図書等	
【参考書等】	実習先で配布される学術雑誌等	
【授業方法】	学外諸機関にて実習を行う。	
	【項目】	【内容】
前期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の概要説明 2. 実習先の希望調査 3. 実習先の調整 4. 事前教育 5. 実習実施 6. 実習のまとめ 7. 実習報告会 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習概要 インターンシップの趣旨と概要説明 2. 実習先の調整 実習先調査、受け入れ条件把握 3. 事前教育 実習先からの要求事項把握 4. 実習のまとめと、報告会実施
【カリキュラムの中での位置づけ】 文献講読のためには、本科で学んだ電気、電子、情報、通信、制御各専門科目の知本科、専攻科で習得したすべての教科が必要となる、総合的な科目である		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科、専攻科で学んだ全教科		
【この科目と同時に学ぶ科目】 特別研究、特別セミナー		
【評価方法・基準】 評価方法: 学外実習機関の指導責任者による所見及び実習報告書(50%)、実習発表会(50%)の内容を総合的に評価する。 評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば可、70%以上で良、80%以上で優とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 なるべく将来就職したい会社を選ぶこと。また実習期間中は傷害保険に必ず加入すること。学問と生産の関連を体験することにより、自己能力を開発する基礎を養うことを望む。 履修期間は、短期(2単位):12～22日、中期(4単位):23～33日、中期(6単位):34～44日、長期(8単位):45日以上とする。		

(出典 シラバス)

(資料 5-5-③-6 (3))

建設工学専攻 (環境都市)

【科目名】	インターンシップ(Internship)		JABEE
【学年・専攻名】	1学年、建設工学専攻		
【必修・選択・単位数・期間】	選択、2~8単位、前期		
【担当教員】	山口 隆司		
【学習・教育目標】:H	【JABEE基準1(1)】:d-4		
【授業の目的及び概要】	民間企業および公的機関において、学外実習を実施し、最新の技術、研究内容、マネジメントなどに触れ、技術者としての指導力、協調性、実践力などを身につけることおよび人間的な幅を広げることを目的とする。夏期休業中に民間企業や公的機関で2~4週間行う。実習機関の指導者による評価をいただくとともに、実習報告書を作成し、実習発表会でプレゼンテーションを行う。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.技術者としての指導力、協調性、実践力が身についている。 2.実習報告書が作成されている。 3.報告会でプレゼンテーションが行われている。 4.実習先の情報に関する守秘義務が守られている。 		
【教科書】			
【参考書等】	6月初めに各系の専攻科長補(または専攻科長)から実習先の案内を配布する。6月中に実習先を決定し、7月中旬から9月上旬の内2~4週間実習を実施する。終了後、実習報告書を作成し提出する。9月中に実習報告会でプレゼンテーションを行う。		
【授業方法】	6月初めに各系の専攻科長補(または専攻科長)から実習先の案内を配布する。6月中に実習先を決定し、7月中旬から9月上旬の内2~4週間実習を実施する。終了後、実習報告書を作成し提出する。9月中に実習報告会でプレゼンテーションを行う。		
	【項目】	【内容】	
前期	6月上旬 実習先の紹介と資料配布 6月下旬 実習先の決定 7月中旬 ~ 2~4週間の実習 9月上旬 9月上旬 報告書の提出 9月下旬 報告会で発表	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業および公的機関において、学外実習の実施 ・実習内容を考慮し、関連のテキストや文献に目を通しておく ・積極的に技術、研究内容、マネジメント方法などを吸収する ・行った実習内容の記録作成 ・実習報告書の作成 ・実習報告会でプレゼンテーションを行う 	
	【カリキュラムの中での位置づけ】		
	学内の講義などでは得にくい技術や研究内容および人間関係に触れることによって、社会人となる心構えを修得するものである。		
	【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 実習内容に関連する専門科目や実験方法		
	【この科目と同時に学ぶ科目】		
	【評価方法・基準】		
	評価方法: 実習機関行った評価、実習報告書の評価及びプレゼンテーションの評価を総合して評価する。実習機関が勤務態度、実習結果について行った評価を50%、複数教官により実習報告書のまとめ方10%、報告書の内容10%、発表会における内容10%、発表態度10%および質疑応答10%の割合で評価する。		
	評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば合格とする。		
	【連絡事項・注意事項・メッセージ】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に実習を実施すること。実習内容は日ごとにノートにメモしておくこと。実習先で得られた情報に関する守秘義務は必ず守ること。したがって、報告書に記載する内容についても実習機関と打ち合わせをおこなっておくこと。 ・インターンシップが終了すると、一回り大きくなったことを見せてほしい。 		

(出典 シラバス)

(資料 5-5-③-6 (4))

建設工学専攻 (建築)

【科目名】	インターンシップ (Internship)		JABEE
【学年、専攻名】	1学年		
【必修・選択、単位数、期間】	選択, 2単位, 4単位, 6単位, 8単位のいずれか, 前期		
【担当教員】	岡本 二郎		
【学習・教育目標】:F	【JABEE基準1(1)】:d5		
【実習の目的及び概要】	民間企業および公的機関において、インターンシップを実施し、最新の技術、研究内容、マネジメントなどに触れ、技術者としての幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を持つために必要不可欠な基礎知識・能力を身につけること、および指導力、協調性、実践力など人間的な幅を広げることを目的とする。概ね夏期休業中に民間企業や公的機関でインターンシップを行う。実習機関の指導者による評価をいただくとともに、インターンシップ報告書を作成し、インターンシップ発表会でプレゼンテーションを行う。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を持つための基礎知識・能力が身に付いている。 2. 実習報告書が作成されている。 3. 報告会でプレゼンテーションが行われている。 4. 実習先の情報に関する守秘義務が守られる。 		
【教科書】			
【参考書等】			
【実習方法】	6月初めに専攻科長補からインターンシップ受入れ機関の紹介と資料を配布する。6月中に受入れ機関を決定し、7月下旬から10月上旬の期間内でインターンシップを実施する。終了後、インターンシップ報告書を作成し提出する。10月中にインターンシップ発表会でプレゼンテーションを行う。		
	【項目】	【内容】	
前 期	6月上旬 受入れ機関の紹介と資料配付	1. インターンシップ受入れ機関の選定・申込	
	6月下旬 受入れ機関の決定	2. 事前学習	
	7月下旬 2~4週間の実習	3. インターンシップ受入れ機関での技術、研究体験	
	~ インターンシップ期間(履修実日数)と単位数	4. インターンシップ報告書の作成	
	10月上旬 12日~22日(2単位)	5. インターンシップ発表会でのプレゼンテーション	
	23日~33日(4単位)		
	34日~44日(6単位)		
	45日以上(8単位)		
	10月上旬 報告書の提出		
	10月下旬 報告会で発表		
【カリキュラムの中での位置づけ】	学内の講義などでは得にくい最新技術や研究内容および人間関係に触れることによって、理論と現実を対応させることが出来る実践的的社会人となる心構えを習得するものである。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】	実習内容に関連する専門科目や実験方法など		
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】	<p>評価方法: インターンシップ受入れ機関が勤務態度、インターンシップ成果について行った評価を50%、複数教員によりインターンシップ報告書のまとめ方10%、報告書の内容10%、発表会における発表内容10%、発表態度10%および質疑応答10%の割合で評価する。</p> <p>評価基準: インターンシップ受入れ機関の行った評価、インターンシップ報告書の評価及びプレゼンテーションの評価を総合して、本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。</p>		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】	<p>積極的にインターンシップを実施すること。履修内容は日ごとにノートにメモしておくこと。インターンシップ受入れ機関で得られた情報に関する守秘義務は必ず守ること。したがって、報告書に記載する内容についても受入れ機関と打ち合わせを行っておくこと。</p> <p>インターンシップを実施したことにより、技術者として一回り大きくなったことを見せてほしい。</p>		

(出典 シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

科学技術の進歩に伴い、より高度な専門分野や学際領域分野の内容を扱う必要性が高まったことから近隣大学との単位互換を行っている。また、国際化への対応として TOEIC の受験を奨励している。また、実業界への対応としてインターンシップを活用している。

以上のことから、本校の専攻科課程は、学生のニーズ、学術の発展方向、社会からの要請等に対して教育課程の編成を十分に配慮し、専攻科設置目的に合致している。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。
 (例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

本校の専攻科課程では、準学士課程で修得した基礎学力および専門基礎知識などを礎として、準学士課程よりも高いレベルの研究開発能力、技術者倫理観、コミュニケーション能力を併せ持つ技術者の育成を教育目標としている。この教育目標に照らして各専攻の学習・教育目標が定められており、それを満足できるように、各専攻で講義、演習、実験、実習の授業形態が採用されている。学ぶべき講義科目は、準学士課程に比較して高い専門性を持ち、その多くが選択科目となっているが、学習・教育目標から逸脱した選択がなされない様に、自然科学の基礎となる科目、コミュニケーション能力や技術者としての倫理観を養う科目及び実験科目、演習科目の一部及び特別研究を必須としている(資料5-6-①-1 シラバス教育課程表)。この必須科目の単位数は26単位で、卒業に必要な単位(62単位以上)の約40%である。また、モデルケースについても学生に公開されている(資料5-6-①-2(1), (2): 講義履修モデル・STUDIES & CAMPUS LIFE 抜粋)。これによって、学生がバランス良く単位を取得できるカリキュラムとなっている。

専攻科課程の学習指導方法については、「高度な専門知識・能力」、「高度な研究開発能力」を養うため、準学士課程に比較して少人数指導できめ細かな指導が行われている。研究開発能力において欠かせない自律的行動力を伸ばすため、各セミナー科目においてゼミ形式授業が採用され、また長期インターンシップの選択を奨励している。「コミュニケーション能力」の涵養には英語習得が不可欠であるが、上級工業英語で行われる通常の英語授業形態に加え(資料5-6-①-3: 上級工業英語シラバス)、講読演習では専門分野または研究分野の英語文献の読解とプレゼンテーション(資料5-6-①-4: 講読演習シラバス)、英語コミュニケーションではe-learningを利用した自学自習の授業形態を取っている(資料5-6-①-5: 英語コミュニケーション シラバス)。さらにゼミ形式の授業やインターンシップでは発表の機会を設けプレゼンテーション能力の向上を図っている。技術者倫理観の育成に関しては、知的所有権論および技術者倫理を必修とし、特に技術者倫理においては対話・討論型授業となる様工夫されている(資料5-6-①-6: 技術者倫理シラバス)。「エンジニアリングデザイン能力」に関しては特別研究、特別実験などで、課題解決のための問題点の分析、解決策の立案、コスト計算及び設計、製作、結果の評価までの総合力を養成するようになっている。

(資料5-6-①-1(1))

教育課程表

機械電気工学専攻(平成17年度生適用)

	単位数	学年別開設単位数				備 考	
		1学年		2学年			
		前期	後期	前期	後期		
専 門 科 目	日本語コミュニケーション	2		2			
	英語コミュニケーション	2	2				
	応用数理解析	2		2			
	技術者倫理	2			2		
	経営システム工学	2		2			
	履 修 単 位 数 計	10	2	6	2		
	基 礎 科 目	上級工業技術英語	2			2	
		微分方程式	2	2			
		線形代数	2		2		
		数値計算法	2	2			
量子力学		2		2			
磁気と物質		2		2			
知的所有権論		2		2			
環境アセスメント		2	2				
物質科学		2	2				
資源循環工学		2	2	2			
環境人間工学	2	2					
開 設 単 位 数 計	22	12	8	2			
履 修 単 位 数 計			12以上				
専 門 科 目	機械電気専攻特別研究	12	2	2	4	4	
	機械電気専攻特別実験	2	2				
	機械電気専攻講義演習	2	1	1			
	履 修 単 位 数 計	16	5	3	4	4	
	弾性学	2		2			
	伝熱工学	2		2			
	流体渦現象	2		2			
	数値熱流体力学	2			2		
	潤滑設計工学	2	2				
	機械要素	2			2		
	薄板工学	2			2		
	医用工学概論	2	2				
	燃機工学	2		2			
	ナノテクノロジー	2	2				
	システム制御	2			2		
	冷凍工学	2			2		
	回路網工学	2	2				
	モーターエレクトロニクス	2		2			
	ミリ波工学	2	2				
	プラズマ科学	2		2			
	電磁波システム工学	2		2			
	量子工学	2			2		
	インフォメーションテクノロジー	2	2				
	マイクロエレクトロニクス	2		2			
	新エネルギー工学	2	2				
	アドバンスコントロール	2		2			
	機械電気専攻特別セミナー	2	1	1			
	システム工学セミナー	2			1	1	
	インターンシップ	2	2				
	開 設 単 位 数 計	50	17	19	9	5	
	履 修 単 位 数 計			24以上			
	開 設 単 位 数 合 計	98	36	36	17	9	
	履 修 単 位 数 合 計			62以上			
	特 別 科 目	特別講義A	2			2	1 2 履修修了に必要な単位に含まない。 特別講義A～Dとは、中国・西国国立大学間 共同授業で開講する授業科目、教育ネットワー ク中国会員校が指定する授業科目（以下「他大 学等が実施する授業科目」という。）及び校長 が別に指定する授業科目を示す。
		特別講義B	2			2	
特別講義C		2			2		
特別講義D		2			2		
開 設 単 位 数 計		8			8		
履 修 単 位 数 計			0～8				

(資料5-6-①-1(2))

建設工学専攻(平成17年度生適用)

授業科目		単位数	学年別開設単位数				備考
			1学年		2学年		
			前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	必修	日本語コミュニケーション	2		2		
	必修	英語コミュニケーション	2	2			
	必修	応用数理解析	2		2		
	必修	技術者倫理	2			2	
	必修	経営システム工学	2		2		
	必修	履修単位数計	10	2	6	2	
	選択	上級工業技術英語	2			2	
	選択	微分方程式	2	2			
	選択	線形代数	2		2		
	選択	数値計算法	2	2			
	選択	量子力学	2		2		
	選択	磁気と物質	2		2		
	選択	知的所有権論	2		2		
	選択	環境アセスメント	2	2			
	選択	物質科学	2	2			
選択	資源循環工学	2	2				
選択	環境人間工学	2	2				
選択	開設単位数計	22	12	8	2		
選択	履修単位数計		12以上				
専門科目	必修	建設専攻特別研究	12	2	2	4	4
	必修	建設専攻特別実験	2		2		
	必修	建設専攻講義演習	2	1	1		
	必修	履修単位数計	16	3	5	4	4
	選択	デザイン論	2				2
	選択	環境デザイン	2			2	
	選択	都市・地域計画	2	2			
	選択	環境地盤力学	2		2		
	選択	環境情報処理	2	2			
	選択	地盤構造物変形工学	2				2
	選択	微生物学	2	2			
	選択	空間デザイン論	2		2		
	選択	建設弾塑性力学	2		2		
	選択	建設材料論	2	2			
	選択	応用解析法	2	2			
	選択	各種コンクリート系構造	2				2
	選択	耐震構造	2			2	
	選択	セラメカニクス	2				2
	選択	応用水理学	2			2	
	選択	応用建設施工	2			2	
	選択	人間温熱生理	2				2
	選択	設計演習Ⅰ	2	2			
	選択	設計演習Ⅱ	2			2	
	選択	学外セミナー	2			1	1
	選択	インターンシップ	2	2			
選択	開設単位数計	42	14	6	11	11	
選択	履修単位数計		24以上				
開設単位数合計		90	31	25	19	15	
履修単位数合計			62以上				
特別科目	特別講義A	2			2		1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A～Dとは、他大学等が実施する授業科目及び校長が別に指定する授業科目を示す。
	特別講義B	2			2		
	特別講義C	2			2		
	特別講義D	2			2		
	開設単位数計	8				8	
履修単位数計		0～8					

(資料5-6-①-2(1))

(1) 機械電気工学専攻 講義履修モデル (選択の例)

	授業科目	単位数	履修学期				実験 実習 区分	機械系	電気系	担当	
			1年		2年						
			前	後	前	後					
専 門 基 礎 科 目	日本語コミュニケーション	2		2			○	○			
	英語コミュニケーション	2	2				○	○			
	応用数理解析	2		2			○	○			
	技術者倫理	2			2		○	○			
	経営システム工学	2		2			○	○			
	履修単位数計	10	2	6	2		10	10			
	上級工業技術英語	2			2		○	○			
	微分方程式	2	2				○	○			
	線形代数	2		2			○	○			
	数値計算法	2	2				○	○			
	量子力学	2		2			○	○			
	磁気と物質	2		2							
	知的所有権論	2	2				○	○	集中講義		
	環境アセスメント	2	2								
	物質科学	2	2								
	資源循環工学	2	2								
	環境人間工学	2	2								
	開設単位数計	22	12	8	2						
	履修単位数計		12以上					12	12		
専 門 科 目	必	機械電気専攻特別研究	12	2	2	4	4	実験	○	○	
	必	機械電気専攻特別実験	2	2				実験	○	○	
	必	機械電気専攻講義演習	2	1	1			演習	○	○	
		履修単位数計	16	5	3	4	4		16	16	
	選	弾性学	2		2				○		瀧野
	選	伝熱工学	2		2				○		八木
	選	流体過渡現象	2		2				○		京免
	選	数値熱流体力学	2				2		○		野村(高)
	選	潤滑設計工学	2	2					○		河野
	選	機械要素	2			2			○		瀧野
	選	薄膜工学	2				2		○		中迫
	選	医用工学概論	2	2					○		岩本
	選	燃焼工学	2		2				○		河口
	選	ナノテクノロジー	2	2					○		吉村
	選	システム制御	2			2			○		山田
	選	冷凍工学	2			2			○		八木
	選	回路網工学	2	2						○	藤井(敏)
	選	モーターエレクトロニクス	2		2					○	横沼
	選	ミリ波工学	2	2						○	黒木
	選	プラズマ科学	2		2					○	山崎
	選	電磁波システム工学	2		2					○	植田
	選	量子工学	2			2				○	植田
	選	インフォメーションテクノロジー	2	2						○	(新任教員の予定)
	選	マイクロエレクトロニクス	2		2					○	野村(博)
	選	新エネルギー工学	2	2						○	横沼
	選	アドバンスコントロール	2		2					○	藤井(敏)
	選	機械電気専攻特別セミナー	2	1	1			演習	○		黒木他
	選	システム工学セミナー	2			1	1	演習	○		黒木他
	選	インターンシップ	2	2							
	開設単位数計	50	17	19	9	5					
	履修単位数計		24以上					24	24		
開設単位数合計		98	36	36	17	9					
履修単位数合計			62以上					62	62		
特別 科目	特別講義A	2			2		1 課程修了に必要な単位に含まない。				
	特別講義B	2			2		2 特別講義A 特別講義B 特別講義C、特別講義Dとは中国・四国国立大学間共同授業で開講する授業科目及び広島県高等教育機関協議会会員校が指定する授業科目をいう。				
	特別講義C	2			2						
	特別講義D	2			2						
	開設単位数計	8			8						
履修単位数計			0~8								

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料5-6-①-2(2))

(2) 建設工学専攻 講義履修モデル (選択の例)

専攻	科目	授業科目	単位数	履修学期				実験 実習 区分	環境都市系		建築系		担当
				1年		2年			環境 計画	材料 構造	環境計 画	構造	
				前	後	前	後						
基礎科目	必修	日本語コミュニケーション	2		2			○	○	○	○		
		英語コミュニケーション	2	2				○	○	○	○		
		応用数理解析	2		2			○	○	○	○		
		技術者倫理	2			2		○	○	○	○		
		経営システム工学	2		2			○	○	○	○		
		履修単位数計	10	2	6	2		10	10	10	10		
	選択	上級工業技術英語	2			2		○	○	○	○		
		微分方程式	2	2				○	○	○	○		
		線形代数	2		2			○	○	○	○		
		数値計算法	2	2						○	○		
		量子力学	2		2								
		磁気と物質	2		2					○	○		
		知的所有権論	2	2				○	○	○	○	集中講義	
		環境アセスメント	2	2				○	○	○	○	藤井(健)	
		物質科学	2	2				○	○	○	○		
		資源循環工学	2	2				○	○	○	○	山口	
環境人間工学	2	2				○	○	○	○	石井			
開設単位数計	22	12	8	2									
履修単位数計		12以上 22以上					16	16	16	16			
専門科目	必修	建設専攻特別研究	12	2	2	4	4	実験	○	○	○	○	
		建設専攻特別実験	2		2			実験	○	○	○	○	
		建設専攻講義演習	2	1	1			演習	○	○	○	○	
		履修単位数計	16	3	5	4	4		16	16	16	16	
	選択	デザイン論	2				2				○		間瀬
		環境デザイン	2			2			○		○		間瀬
		都市・地域計画	2	2					○	○	○	○	篠部
		環境地盤力学	2		2				○	○	○	○	小堀
		環境情報処理	2	2					○	○		○	中野
		地盤・構造物・変形工学	2				2				○	○	福原
		微生物学	2		2				○	○	○		山口
		空間デザイン論	2	2					○	○	○		市坪
		建設弾塑性力学	2		2				○			○	橋本
		建設材料論	2	2					○	○	○	○	竹村
		応用解析法	2	2					○	○			中野
		各種コンクリート系構造	2				2					○	松野
		耐震構造	2			2				○			福原
		テラメカニクス	2				2			○	○		重松
		応用水理学	2			2				○	○		黒川
		応用建設施工	2			2				○	○	○	森脇
	人間温熱生理	2				2				○	○	石井	
	設計演習Ⅰ	2	2				演習			○	○	松野	
	設計演習Ⅱ	2			2		演習			○		岡本	
	学外セミナー	2			1	1	演習			○	○		
インターンシップ	2	2					○	○	○	○			
開設単位数計	42	14	6	11	11								
履修単位数計		24以上 40以上					26	26	26	26			
開設単位数合計	90	31	25	19	15								
履修単位数合計		62以上					68	68	68	68			
特別科目	特別講義A	2			2								
	特別講義B	2			2								
	特別講義C	2			2								
	特別講義D	2			2								
	開設単位数計	8			8								
履修単位数計		0~8											

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料5-6-①-3)

【科目名】 上級工業技術英語 (Advanced Technical English)		JABEE
【学年、専攻名】 2学年, 機械電気工学専攻(電気工学系)		
【必修・選択, 単位数, 期間】 選択, 2単位, 前期		
【担当教員】 中山 文		
【学習・教育目標】: D 【JABEE基準1(f)】: a, b, f		
【授業の目的及び概要】 文法は、言語を理解するためにはもっとも大事なものである。この授業の目的は、「英語力」をつけることである。英語力には読む・書く・聞く・話すなどのさまざまな力が含まれるが、すべての基本となるべき「文法」をはじめとする「基礎」を確実に身につけ、実際に使えるようにする。		
達成目標	1. 基本的な文法事項を整理して、身につけること。 2. 各Chapterの項目にしたがって、TOEICテスト形式のリスニングとリーディング問題にとりくみ、文法事項を再確認すること。	
【教科書】 藤岡克則 他: Essential Reading for the TOEIC® Test(金星堂)		
【参考書等】		
【授業方法】 演習を基本とするので、授業中は各自課題にとりくみ発表する。その後、解説していく。		
	【項目】	【内容】
前 期	第1週 Unit1	主語と動詞
	第2週 Unit2, 3	自動詞と他動詞、時制
	第3週 Unit4, 5	助動詞、冠詞と名詞
	第4週 Unit6, 7	形容詞、副詞
	第5週 Unit8, 9	前置詞、進行形
	第6週 Unit10, 11	完了形、受動態
	第7週 Unit12, 13	比較、接続詞
	第8週 Unit14, 15	不定詞、分詞
	第9週 Unit16, 17	動名詞と不定詞、関係詞
	第10週 Unit18, 19	仮定法、話法と間接疑問
	第11週 Unit20	there構文、仮主語と仮目的語、否定語と倒置
	第12週 復習	
	第13週 復習	
	第14週 期末試験	
	第15週 答案返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】 英語力はさまざまな形で問われるものであり、また専門的知識を身につけるうえでも必要である。外国の文献を通して、より多くの知識を身につけるための英語力をつける科目である。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 1学年前期必修の「英語コミュニケーション」		
【この科目と同時に学ぶ科目】		
【評価方法・基準】 評価方法: 期末試験(70%)と小テストや課題など(30%)により評価する。 最終評価点=(期末試験100点)×0.7+(小テストまたは課題30点分) 評価基準: 本科目において設定した達成目標の60%以上達成している学生を合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 授業は基本的に演習形式であり、内容確認のための小テストもおこなうので、授業への出席を原則とする。英語力をつけるためには、日頃からの積み重ねが大事である。		

(出典 シラバス)

(資料5-6-①-4(1))

【科目名】 機械電気専攻講読演習 機械系(Applied Physics)		JABEE
【学年, 学科名】 1学年, 機械電気工学専攻機械系		
【必修・選択, 単位数, 期間】 必修, 2単位, 通年		
【担当教員】 京免 進 野原 稔 山田 祐士		
【学習・教育目標】: A 【JABEE基準1(1)】: f		
【授業の目的及び概要】 社会の国際化が進み, 英語の文献を読む機会が増えてきている。このため, まず英語で書かれた論文を読み, その内容を理解することを目的とする。そして, その中で用いられている表現方法について学習し, 科学技術英語における理解と表現力を養う。		
達成 目標	1. 文献の構成を理解する能力 2. 文献の和訳と内容の理解ができること 3. 口頭発表力や討議などのできるコミュニケーション能力	
【教科書】 外国文献		
【参考書等】		
【授業方法】 外国文献および著書について翻訳し, その内容を理解して発表を行う。		
	【項目】	【内容】
前 期	第1週 文献(流体)の紹介	1. 文献(流体)講読 2. 文献(機械要素)講読 3. 文献(制御)講読
	第2週 講読	
	第3週 //	
	第4週 //	
	第5週 //	
	第6週 //	
	第7週 //	
	第8週 //	
	第9週 //	
	第10週 //	
	第11週 //	
	第12週 //	
	第13週 //	
	第14週 //	
	第15週 //	
	第16週 文献(機械要素)の紹介	
	第17週 講読	
	第18週 //	
	第19週 //	
	第20週 //	
	第21週 //	
	第22週 //	
	第23週 文献(制御)の紹介	
	第24週 講読	
	第25週 //	
	第26週 //	
	第27週 //	
	第28週 //	
	第29週 //	
	第30週 //	
【カリキュラムの中での位置づけ】 本科5学年までに学んだ流体工学, 機械要素設計および制御工学Ⅰ・Ⅱを基礎として, 流体, 機械要素および制御に関する英文の文献を講読する。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科4, 5学年で学んだ流体工学, 機械要素設計および制御工学Ⅰ・Ⅱ		
【この科目と同時に学ぶ科目】 流体過渡現象, 数値熱流体力学, 機械要素		
【評価方法・基準】 評価方法: 各教官が翻訳能力40%, レポート60%の割合で評価する。 評価基準: 本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 分からないことを持ち越すと次の講義が分からなくなるので放課後などを利用して随時相談のこと。		

(出典 シラバス)

(資料5-6-①-4(2))

【科目名】 機械電気専攻講読演習(電気系)(Readings in Technical Literatures)		JABEE
【学年, 専攻名】 1学年		
【必修・選択, 単位数, 期間】 必修, 2単位, 通年		
【担当教員】 横瀬 義雄 (代表)		
【学習・教育目標】:D		【JABEE基準1(1)】: (a), (b), (f)
【特別研究の目的及び概要】 各指導教員の専門分野や研究テーマの中から、学生の能力にあった海外の文献を選定し、これを講読することにより外国語に対する理解力や表現力を養う。		
達成目標	1. 関連の文献や著書を熟読し、理解に努めること。 2. プリゼンテーション能力の向上に努めるとともに、他の人の発表時は随時質問すること。 3. 演習における議論の内容を確認し、関連した文献の調査を行うこと。	
【教科書】	各研究分野における学術図書等	
【参考書等】	各研究分野における学術雑誌等	
【授業方法】	指導教官とよく吟味して関連の文献や著書を選定し、研究室内でセミナーを行う。	
	【項目】	【内容】
前 期	第1週 題材の選定	1. 題材の選定 講読演習の題材を把握し、選定する。 2. 講読演習の実施 講読演習を行い外国語に対する理解力や表現力を養う。
	第2週 講読演習の実施	
	第3週 //	
	第4週 //	
	第5週 //	
	第6週 //	
	第7週 //	
	第8週 //	
	第9週 //	
	第10週 //	
	第11週 //	
	第12週 //	
	第13週 //	
	第14週 //	
	第15週 //	
後 期	第16週 //	
	第17週 //	
	第18週 //	
	第19週 //	
	第20週 //	
	第21週 //	
	第22週 //	
	第23週 //	
	第24週 //	
	第25週 //	
	第26週 //	
	第27週 //	
	第28週 //	
	第29週 //	
	第30週 //	
【カリキュラムの中での位置づけ】 外国論文の講読を行うためには、本科で学んだ電気、電子、情報、通信、制御各専門科目の知識の他、英語、国語力が必要である。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科、専攻科で学んだ全教科		
【この科目と同時に学ぶ科目】 特別研究、特別セミナー		
【評価方法・基準】 評価方法: 演習における発表内容(60%)、課題の取り組み方(40%)を総合的に評価する。 評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば可、70%以上で良、80%以上で優とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 常にグローバルな視野を持った技術者をめざし、外国論文の読解力、その内容説明のための国語力の向上に努めることを望む。		

(出典 シラバス)

(資料5-6-①-4(3))

【科目名】 建設専攻講読演習 (Applied physics)		JABEE
【学年、専攻名】 1学年、建設工学専攻		
【必修・選択、単位数、期間】 必修、2単位、通年		
【担当教員】 竹村 和夫、小堀 慈久、重松 尚久		
【学習・教育目標】:B 【JABEE基準1(1)】:f		
【授業の目的及び概要】 近年、研究段階および研究結果の公表時に英語力が要求されている。したがって、建設工学、計画学、建築設計に関する技術英文および英文文献を紹介し、とくに科学技術英語に対する理解力と表現力を養うことを目的としている。指導教官の下で少人数で、専門分野および特別研究の内容に関する外国文献や書籍の講読を行う。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文等の構成を理解できる。 2. 論文の内容を理解できる。 3. 複数の論文の内容をまとめることができる。 4. 簡単な技術英文が作成できる。 	
【教科書】 外国図書および外国文献		
【参考書等】		
【授業方法】 外国書籍および外国文献を用いて翻訳し、その内容を理解し、発表を行う。		
	【項目】	【内容】
前 期	第1週 外国図書や文献の紹介	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文等の構成の理解 2. 論文の内容および結果の理解 3. 論文の表現方法の理解 4. 発表のまとめを提出
	第2週 講読	
	第3週 "	
	第4週 "	
	第5週 "	
	第6週 "	
	第7週 "	
	第8週 発表	
	第9週 外国図書や文献の紹介	
	第10週 講読	
	第11週 "	
	第12週 "	
	第13週 "	
	第14週 "	
	第15週 発表	
後 期	第16週 外国図書や文献の紹介	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文等の構成の理解 2. 論文の内容および結果の理解 3. 論文の表現方法の理解 4. 発表のまとめの提出 5. 簡単な技術英文を作成
	第17週 講読	
	第18週 "	
	第19週 "	
	第20週 "	
	第21週 "	
	第22週 "	
	第23週 発表	
	第24週 外国図書や文献の紹介	
	第25週 講読	
	第26週 "	
	第27週 "	
	第28週 "	
	第29週 "	
	第30週 発表	
【カリキュラムの中での位置づけ】 技術英文の理解およびその内容を特別研究に関連づけるための演習であり、簡単な技術英文を作成できるようにする。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科5学年までに学ぶ各系の専門科目		
【この科目と同時に学ぶ科目】		
【評価方法・基準】 評価方法: 各教官が予習30%、和訳能力40%、レポート30%の割合で評価する。 評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 疑問点は積極的に指導教官に質問する。分からない箇所を次週まで持ち越さないようにしてほしい。 技術英文は文学書などと比較して構文が難しいと思う。最初は慣れない専門用語が多発するが書物を調べてほしい。後はスムーズに訳せるようになる。		

(出典 シラバス)

(資料5-6-①-4(4))

【科目名】 建設専攻講読演習 (Readings in Technical Literature)		JABEE	
【学年, 専攻名】 1学年, 建設工学専攻			
【必修・選択, 単位数, 期間】 必修, 2単位, 通年			
【担当教員】 藤井 健, 篠部 裕, 松野 一成, 石井 仁			
【学習・教育目標】:B 【JABEE基準1(1)】:g			
【演習の目的及び概要】 近年, 研究段階および研究結果の公表時に英語力が要求されている。したがって建築学に関する技術英文および英文文献を活用し, とくに科学技術英語に対する理解力と表現力など国際的コミュニケーション能力を養うことを目的としている。担当教員の下で少人数で, 専門分野および特別研究の内容に関する英語文献や書籍の講読を自主的, 継続的に学習する。			
達成目標 1. 論文等の構成を理解できる。 2. 論文の内容および結果を理解できる。 3. 論文の表現方法を理解できる。 4. 発表のまとめが提出されている。			
【教科書】 英語図書および英語文献 【参考書等】 【演習方法】 課題の英語図書および英語文献を和訳し, その内容を理解し, 発表を行う。			
【項目】			
前 期	第1週	英語図書や文献の紹介1	【内容】 講読図書や文献 1. V.O.Knudsen & C. M.Harris 著 「Acoustical Designing in Architecture」(藤井担当) 2. Catherine Macdermott 著 「Design museum c21th」(篠部担当) 3. G.N.J.KANI : The Riddle of Shear Failure and Its Solution, ACI Journal April, 1964, pp.441-466(松野担当) 4. Louis Hellman 著 「Architecture for beginners」(石井担当)
	第2週	講読1	
	第3週	講読2	
	第4週	講読3	
	第5週	講読4	
	第6週	講読5	
	第7週	講読6	
	第8週	発表, 英語図書や文献の紹介2	
	第9週	講読1	
	第10週	講読2	
	第11週	講読3	
	第12週	講読4	
	第13週	講読5	
	第14週	講読6	
	第15週	発表	
後 期	第16週	英語図書や文献の紹介3	
	第17週	講読1	
	第18週	講読2	
	第19週	講読3	
	第20週	講読4	
	第21週	講読5	
	第22週	講読6	
	第23週	発表, 英語図書や文献の紹介4	
	第24週	講読1	
	第25週	講読2	
	第26週	講読3	
	第27週	講読4	
	第28週	講読5	
	第29週	講読6	
	第30週	発表	
【カリキュラムの中での位置づけ】 技術英文の理解力, 表現力の能力を向上を目指し, 特別研究や学協会での論文において簡単な技術英文を作成できるようにする演習である。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科5学年までに学ぶ各系の専門科目			
【この科目と同時に学ぶ科目】 英語コミュニケーション			
【評価方法・基準】 評価方法: 各担当教員が予習30%, 和訳能力40%, リポート30%の割合で評価する。 評価基準: 各担当教員の評価を総合して, 本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 疑問点は積極的に担当教員に質問する。分からない箇所を次週まで持ち越さないようにしてほしい。 技術英文は文学書などと比較して構文が易しいと思う。最初は慣れない専門用語が多発するが書物を調べてほしい。後はスムーズに訳せるようになる。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-①-5)

【科目名】		英語コミュニケーション(English Communication)	JABEE
【学年、専攻名】		1学年, 機械電気工学専攻(電気系)	
【必修・選択, 単位数, 期間】		必修, 2単位, 前期	
【担当教員】		高島 裕臣	
【学習・教育目標】: C1		【JABEE基準1(1)】: a, f	
【授業の目的及び概要】			
<p>今日, 技術者は, 母語でのコミュニケーション能力だけでなく, 英語など国際的に使用される言語でのコミュニケーション能力を持っている必要がある。英語コミュニケーション能力の測定で近年よく利用されているのはTOEIC®であるが, 目安は, 専攻科卒業までにTOEIC®スコア400を達成できることと言える。</p> <p>この授業ではTOEIC®対策という形式を取りながら英語運用能力の底上げを目的とするものである。特に, コミュニケーションの基礎となる語彙力増強, 基本的な文法知識の定着, リスニング力, リーディング力向上のための訓練を行う。</p>			
達成目標	教科書各章の重要語彙を覚えること 教科書各章の文法事項について理解を深めること 問題演習を通じてリーディング力を高めること 問題演習を通じてリスニング力を高めること		
【教科書】	塚野壽一他(著). Power-up Steps for the TOEIC® Test. (成美堂)		
【参考書等】	ALC NetAcademy「初級・中級者のためのTOEIC®テストスコアアップコース」		
【授業方法】	CALL教室使用マルチメディア語学演習。問題演習の提出課題を課し, 内容と重要項目を解説する。		
【項 目】		【内 容】	
前 期	第1週	概要説明, Chapter 1, NetAcademy利用説明	各回の授業で次の演習を行う。 1. Key Vocabulary (重要語句)の学習 2. 教科書のリスニング問題演習(提出課題)と解説 3. 文法事項の学習, 問題演習(提出課題), 解説 4. 英文読解問題の演習(提出課題)と解説 5. ALC NetAcademy 初中級コース「リスニングコース」演習 6. ALC NetAcademy 初中級コース「リーディングコース」演習
	第2週	Chapter 2, NetAcademy Unit 1	
	第3週	Chapter 3, NetAcademy Unit 2	
	第4週	Chapter 4, NetAcademy Unit 3	
	第5週	Chapter 5, NetAcademy Unit 4	
	第6週	Chapter 6, NetAcademy Unit 5	
	第7週	Chapter 7, NetAcademy Unit 6	
	第8週	Chapter 8, NetAcademy Unit 8	
	第9週	Chapter 9, NetAcademy Unit 9	
	第10週	Chapter 10, NetAcademy Unit 10	
	第11週	Chapter 11, NetAcademy Unit 11	
	第12週	Chapter 12, NetAcademy Unit 12	
	第13週	Chapter 13, NetAcademy Unit 13	
	第14週	期末試験	
	第15週	答案返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】			
専攻科入学までに英語関連科目で学んできたことを活かしつつ, 英語運用能力(速さと正確さ)を伸ばすための科目			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 専攻科入学までの英語関連科目			
【この科目と同時に学ぶ科目】 なし			
【評価方法・基準】			
評価方法: 期末試験の結果, 問題演習プリント(提出課題)及びNetAcademyの演習取組状況で評価する。			
評価基準: 期末試験結果60%, 問題演習プリント20%, NetAcademy演習取組の評価20%で評価点を算出し, 60を超えていれば合格とする。欠席により提出されなかった課題は0点とし, 次回授業時までに提出すれば8割を得点とする(以後は未提出とみなす)。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
英語運用能力は君たちの未来を開く鍵となる。熱意を持って学習に取り組むこと。授業時はもちろん, 放課後やオフィスアワーも利用し積極的に質問すること。学習チェックシートで, 理解度や疑問点等を調査する。講義への出席率は100%を原則とし, 欠席した場合も欠席した回の演習課題をNetAcademyでの演習も含め, 次回授業時までに全て提出せねばならない。理由は問わず未提出は0ポイントとし, 次回授業時までに提出すれば8割を得点とする。6回以上欠席すれば, いかなる場合も不可とする。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-①-6)

【科目名】		技術者倫理 (Engineering Ethics)	JABEE
【学年, 専攻名】		2学年 (機械電気工学専攻 電気系)	
【必修・選択, 単位数, 期間】		必修, 2単位, 前期	
【担当教員】		井藤 壯太郎(非常勤講師)	
【学習・教育目標】:(D)		【JABEE基準1(1)】: (a), (b), (f)	
【授業の目的及び概要】 現代社会で国際的に活躍できる技術者には、専門的知識ばかりでなく豊かな教養と強い倫理観に加え優れたコミュニケーション能力が必要である。本授業では、身近な問題あるいは水俣病や地球温暖化問題などの事例の中に存在する「倫理的問題」を通して、倫理についての基本的な考え方を理解し、倫理観を養成することを目的とする。また色々な事例について、自分の考えをまとめ、発表し、相手の意見を聞き、討論することも学ぶ。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な問題の中に「倫理的問題」を見出すことができ、また説明できる 2. 倫理あるいは技術者倫理に関する重要な用語/概念を理解し、説明できる。 3. 倫理的問題について自分の考えを的確にまとめて発表でき、また他人の意見も理解できる 4. いくつかの事例について、その中に含まれる倫理的問題を認識でき、自分の考えをまとめ、討論できる 		
【教科書】	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
【参考書等】	必要に応じてプリントを配布する。		
【授業方法】	板書、プリントにより、各種の事例については、ビデオを使用し、下記の内容を講義する。グループ討論や発表も行う。		
	【項目】	【内容】	
前 期	第1週	はじめに (シラバスの説明)	
	第2週	身のまわりの倫理的問題	
	第3週	身のまわりの倫理的問題(討論・発表)	
	第4週	学習・教育目標	
	第5週	技術者倫理(ビデオによる事例紹介)	
	第6週	製造物責任法(PL法)	
	第7週	中間試験	
	第8週	水俣病と水俣病訴訟(ビデオによる事例紹介)	
	第9週	水俣病と水俣病訴訟(討論・発表)	
	第10週	ギルベイン・ゴールド(仮想事例紹介)	
	第11週	ギルベイン・ゴールド(討論・発表)	
	第12週	地球温暖化問題	
	第13週	技術者倫理についてのまとめ	
	第14週	期末試験	
	第15週	答案返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】 技術者として必要な倫理観を養成する科目である。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 法学、哲学、日本語コミュニケーションなど			
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】 評価方法: 期末試験(60%)、中間試験(20%)、レポート・発表(20%)により、達成目標の達成度を評価する。 達成目標1, 2, 4 は期末試験と中間試験により、達成目標3, 4 はレポート・発表により評価する。 評価基準: 各達成目標が60%以上達成されていると判断されれば合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 自分の頭でしっかりと考え、討論を通じて他人の意見もよく理解できるようになることを望む。			

(出典 シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程における教育目的に照らし、各専攻とも講義、演習、実験、実習の授業形態のバランスがとれる様にカリキュラムが組まれている。また、教育目的および在学中に修得すべき能力・資質に合わせて、適切な授業形態を選択することで学習指導方法に工夫がなされている。

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程において、各専攻共に創造性育成に配慮された科目が組み込まれている。専攻科課程1学年においては、自主性と創造性の喚起・向上を目的として、外部から講師を招き泊まり込みの研修会を実施している。研修では、学生が数グループに別れ、いくつかのテーマについて討論を行い、結果をまとめて発表する。また、討論の手法（「マトリックス図法」など）について講義も含まれている。この短時間での集中的な討論、発表、質疑応答体験を通じて、自主性と創造性の喚起・向上が養われる（資料5-6-②-1：専攻科生研修会実施計画）。さらに、夏季休業中に最低2週間以上のインターンシップを行っており（資料5-6-②-2：インターンシップ シラバス）、各専攻ともこれを推奨し、多くの学生が外部研究所もしくは企業へ研修に出ている（資料5-6-②-3：インターンシップ報告書抜粋）。この成果は、報告書にまとめられるとともに成果発表会が実施され、複数教員による評価が行われている（資料5-6-②-4：発表会プログラムおよび評価シート）。また、同時に研修先担当者からの所見も成績評価に反映され（資料5-6-②-5：所見見本）、創造力・プレゼンテーション能力・実行力を総合的に評価している。

(資料5-6-②-1)

専攻科生研修会実施計画

1. 目的

専攻科設置当初より専攻科生に対しては自主性を重んじてきた。しかしながら、初等・中等教育の現状では少なからず指示待ち人間を造ってきた傾向は否めない。

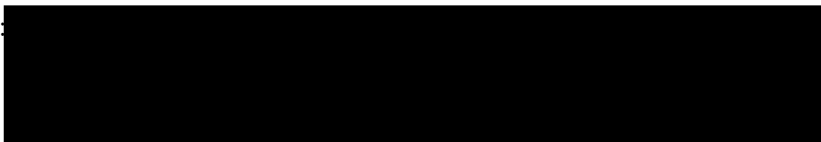
一方、物造りを主体とする専攻科教育においては創造性を涵養することは極めて重要なことである。したがって、専攻科生の自主性と創造性の喚起とその向上を目的とし実施するものである。

2. 参加者：専攻科1年次生21名

専攻科長補（野村，横瀬，山口，石井）

専攻科長，専門員（事前準備及び期間中のサポート）

3. 講師



金沢工業大学客員教授，大阪大学客員教授

4. 日程：平成17年7月7日（木）～7月8日（金） 1泊2日

5. 場所：第1ゼミナール室（図書館棟2階）

6. スケジュール
別紙のとおり

7. その他

- ・食事は、各自で行う。
- ・7月7日(木)の宿泊場所は誠心館(和室・第1研修室)の予定(シュラフ準備)

◎ 7日(木)の集合時間及び集合場所等

- 集合時間：午前8時30分
- 集合場所：第1ゼミナール室(図書館棟2階)
- 携行品：筆記用具, 洗面用具, 着替等各自で必要と思われるもの

専攻科生研修会日程

第1日目 7月7日(木)：

8：30 集合

- (1) 9:00~10:00 講義： 本研修の基本的考え方と内容構成
- (2) 10:00~11:20 「要約記述・発表」の講義・実習 ⇒事前課題「大切(重要)な物事」
- (3) 11:20~12:00 講義： 「メモシステム」の奨め
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- (4) 13:00~17:00 講義・討論, 発表, Q&A, コメント：
「マトリックス図法」を活用した討論 ⇒事前課題「大切(重要)な物事」
- 17:00~18:00 夕食・休憩
- (5) 18:00~22:00 講義・討論： 時間延長 任意(討論し切ること)
「和而不同討論」 ⇒自分は何のために学業(仕事)をするのか
(注)テーマの変更可(絞込みテーマ, 別の重要テーマ)

第2日目 7月8日(金)：

8：20 集合

- (6) 8:30~11:00 (5)の討論結果のまとめ(OHP 2枚)
- (7) 11:00~12:00 (5)の討論結果の発表, Q&A, コメント
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- (8) 13:00~14:30 個人発表のまとめ： ⇒自分の今後の方向と本学科の活用
- (9) 14:30~16:30 個人発表(2分), およびQ&A・コメント(2分)
- (10) 16:30~17:30 講義： 今後の展開について, 総合講評(含 教員コメント)
解散

(出典 学生課)

(資料5-6-②-2(1))

インターンシップ (機械電気工学専攻機械工学コース)

【科目名】 インターンシップ (Business Experience)		JABEE	
【学年, 学科名】 1学年, 機械電気工学専攻機械系 【必修・選択, 単位数, 期間】 必修, 2単位, 前期 【担当教員】 野村 高広 【学習・教育目標】: C 【JABEE基準1(1)】: ●			
【授業の目的及び概要】 インターンシップは、夏季休業中に企業または研究機関における技術体験を通じて実践的技術感覚を体得し、技術体験で得た成果を特別研究等の学修に生かすことを目的とする。インターンシップ期間は原則として2週間以上とする。インターンシップ終了後には報告書を提出し、インターンシップ報告会での発表を義務づける。			
達成目標	1. 科学・技術・情報を使用して社会の要求を解決する能力 2. 受け入れ機関で実習を行うため人との協調性を養うこと 3. 計画的に実験を行いこれをまとめる能力		
	【教科書】 【参考書等】 【実習方法】 各企業や大学のテーマに沿った実習を行う。		
	【項目】	【内容】	
前 期	第1週	1. インターンシップ受け入れ機関の	1. 受け入れ機関から要求された必要知識の事前学習 2. 実習内容の習得と同時に自主性の養成 3. 実習内容に関する報告書の作成 4. 実習内容に関するプレゼンテーション
	第2週	選定・申し込み	
	第3週	2. 事前学習	
	第4週	3. 受け入れ機関における技術体験	
	第5週	4. インターンシップ報告書の作成	
	第6週	5. インターンシップ報告会での発表	
	第7週		
	第8週		
	第9週		
	第10週		
	第11週		
	第12週		
	第13週		
	第14週		
	第15週		
【カリキュラムの中での位置づけ】 受け入れ機関によって必要な学問が異なるが、基本的には本科・専攻科で学んだ機械工学に関連する専門科目で得た知識が大いに役立つこともある。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科5学年までに学んだ機械・電気工学の基礎となる科目			
【この科目と同時に学ぶ科目】 潤滑設計工学, 医用工学概論, ナノテクノロジー, 講義演習, 特別研究			
【評価方法・基準】 評価方法: 派遣先機関の評価(50%), 校外実習報告書の評価(関係教官複数による評価の平均)(25%)および報告会の発表態度(出席教官複数による評価の平均)(25%)によって総合的に評価する。 評価基準: 評価方法の最終結果が60%以上であれば合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 学校外であるので、全て自分の責任で処理をする必要がある。一社会人である自覚を持って、行動することが求められる。学生だからという甘えは許されないことを十分に自覚する必要がある。 質問等が生じた場合には、実習先の担当者に直ぐに聞くこと、分からないことはそのときに解決することが大切である。なお、実習期間中は必ず傷害保険に加入すること。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-2(2))

インターンシップ (機械電気工学専攻電気情報工学コース)

【科目名】	インターンシップ(電気系) (Business Experience)		JABEE
【学年, 専攻名】	1学年		
【必修・選択, 単位数, 期間】	選択, 2単位, 前期		
【担当教員】	横瀬 義雄 (代表)		
【学習・教育目標】:E	【JABEE基準1(1)】:(e), (g), (h)		
【特別研究の目的及び概要】			
校外実習機関(企業や大学等)において、夏期休業中に実習を行い、技術に対する社会の要請を習得すると共に学問の意義を認識し、エンジニアとしての自主性を養成する。			
達成目標	1. 実習先から要求された必要知識を予習すること。 2. 実習内容を習得すると共に自主性を養成すること。 3. 実習日誌の作成を通して日々の実習を把握すること。		
【教科書】	実習先で配布される学術図書等		
【参考書等】	実習先で配布される学術雑誌等		
【授業方法】	学外諸機関にて実習を行う。		
	【項目】	【内容】	
前 期	第1週	実習の概要説明	
	第2週	実習先の希望調査	
	第3週	"	
	第4週	実習先の調整	
	第5週	事前教育	
	第6週	"	
	第7週	"	
	第8週	"	
	第9週	実習実施	
	第10週	"	
	第11週	"	
	第12週	"	
	第13週	実習のまとめ	
	第14週	"	
	第15週	実習報告会	
後 期	第16週		
	第17週		
	第18週		
	第19週		
	第20週		
	第21週		
	第22週		
	第23週		
	第24週		
	第25週		
	第26週		
	第27週		
	第28週		
	第29週		
	第30週		
【カリキュラムの中での位置づけ】			
文献講読のためには、本科で学んだ電気、電子、情報、通信、制御各専門科目の知本科、専攻科で習得したすべての教科が必要となる、総合的な科目である			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科、専攻科で学んだ全教科			
【この科目と同時に学ぶ科目】 特別研究、特別セミナー			
【評価方法・基準】			
評価方法: 学外実習機関の指導責任者による所見及び実習報告書(50%)、実習発表会(50%)の内容を総合的に評価する			
評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば可、70%以上で良、80%以上で優とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
なるべく将来就職したい会社を選ぶこと。また実習期間中は傷害保険に必ず加入すること。学問と生産の関連を体験することにより、自己能力を開発する基礎を養うことを望む。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-2(3))

インターンシップ (建設工学専攻環境都市工学コース)

【科目名】	インターンシップ (Internship)		JABEE
【学年, 専攻名】	1学年, 建設工学専攻		
【必修・選択, 単位数, 期間】	選択, 2単位, 前期		
【担当教員】	山口 隆司		
【学習・教育目標】: H	【JABEE基準1(1)】: d-4		
【授業の目的及び概要】	民間企業および公的機関において、学外実習を実施し、最新の技術、研究内容、マネジメントなどに触れ、技術者としての指導力、調性、実践力などを身につけることおよび人間的な幅を広げることを目的とする。夏期休業中に民間企業や公的機関で2～4週間行う。実習機関の指導者による評価をいただくとともに、実習報告書を作成し、実習発表会でプレゼンテーションを行う。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者としての指導力、協調性、実践力が身に付いている。 2. 実習報告書が作成されている。 3. 報告会でプレゼンテーションが行われている。 4. 実習先の情報に関する守秘義務が守られる。 		
【教科書】			
【参考書等】	6月初めに各系の専攻科長補(または専攻科長)から実習先の案内を配布する。6月中に実習先を決定し、7月中旬から9月上旬の内2～4週間実習を実施する。終了後、実習報告書を作成し提出する。9月中旬に実習報告会でプレゼンテーションを行う。		
【授業方法】			
	【項目】	【内容】	
前 期	6月上旬 実習先の紹介と資料配付	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業および公的機関において、学外実習の実施 ・実習内容を考慮し、関連のテキストや文献に目を通しておく ・積極的に技術、研究内容、マネジメント方法などを吸収する ・行った実習内容の記録作成 ・実習報告書の作成 ・実習発表会でプレゼンテーションを行う 	
	6月下旬 実習先の決定		
7月中旬 ~ 2～4週間の実習			
9月上旬 報告書の提出			
9月上旬 報告書の提出			
9月下旬 報告会で発表			
【カリキュラムの中での位置づけ】	学内の講義などでは得にくい技術や研究内容および人間関係に触れることによって、社会人となる心構えを習得するものである。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】	実習内容に関連する専門科目や実験方法など		
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】	<p>評価方法: 実習機関行った評価、実習報告書の評価及びプレゼンテーションの評価を総合して評価する。実習機関が勤務態度、実習果について行った評価を50%、複数教官により実習報告書のまとめ方10%、報告書の内容10%、発表会における発表内容10%、発表態度10%および質疑応答10%の割合で評価する。</p> <p>評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば合格とする。</p>		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に実習を実施すること。実習内容は日ごとにノートにメモしておくこと。実習先で得られた情報に関する守秘義務は必ず守ること。したがって、報告書に記載する内容についても実習機関と打ち合わせを行っておくこと。 ・インターンシップが終了すると、一回り大きくなったことを見せてほしい。 		

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-2(4))

インターンシップ (建設工学専攻建築学コース)

【科目名】	インターンシップ (Internship)	JABEE
【学年, 専攻名】	1学年	
【必修・選択, 単位数, 期間】	選択, 2単位, 前期	
【担当教員】	石井 仁	
【学習・教育目標】:F	【JABEE基準1(1)】:d5	
【実習の目的及び概要】 民間企業および公的機関において、学外実習を実施し、最新の技術、研究内容、マネジメントなどに触れ、技術者としての幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を持つために必要不可欠な基礎知識・能力を身につけること、および指導力、協調性、実践力など人間的な幅を広げることを目的とする。夏期休業中に民間企業や公的機関で2~4週間実習を行う。実習機関の指導者による評価をいただくとともに、実習報告書を作成し、実習発表会でプレゼンテーションを行う。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を持つための基礎知識・能力が身に付いている。 2. 実習報告書が作成されている。 3. 報告会でプレゼンテーションが行われている。 4. 実習先の情報に関する守秘義務が守られる。 	
【教科書】		
【参考書等】		
【実習方法】	6月初めに専攻科長補から実習先の案内を配布する。6月中に実習先を決定し、7月中旬から9月上旬の内2~4週間実習を実施する。終了後、実習報告書を作成し提出する。9月中に実習発表会でプレゼンテーションを行う。	
	【項目】	【内容】
前期	6月上旬 実習先の紹介と資料配付 6月下旬 実習先の決定 7月中旬 ~ 2~4週間の実習 9月上旬 9月上旬 報告書の提出 9月下旬 報告会で発表	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の選定・申込 2. 事前学習 3. 実習先での技術、研究体験 4. 実習報告書の作成 5. 発表会でのプレゼンテーション
【カリキュラムの中での位置づけ】 学内の講義などでは得にくい最新技術や研究内容および人間関係に触れることによって、理論と現実を対応させることが出来る実践的社會人となる心構えを習得するものである。		
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 実習内容に関連する専門科目や実験方法など		
【この科目と同時に学ぶ科目】		
【評価方法・基準】 評価方法: 実習機関が勤務態度、実習成果について行った評価を50%、複数教員により実習報告書のまとめ方10%、報告書の内容10%、発表会における発表内容10%、発表態度10%および質疑応答10%の割合で評価する。 評価基準: 実習機関の行った評価、実習報告書の評価及びプレゼンテーションの評価を総合して、本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 積極的に実習を実施すること。実習内容は日ごとにノートにメモしておくこと。実習先で得られた情報に関する守秘義務は必ず守ること。したがって、報告書に記載する内容についても実習機関と打ち合わせを行っておくこと。インターンシップを実施したことにより、技術者として一回り大きくなったことを見せてほしい。		

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-3)



平成17年度 インターンシップ報告書

専攻科生

氏名	専攻	学年	企業等名	実習期間
[Redacted]	機械電気工学専攻	1	古川電気工業(株)	平成17年8月29日～9月19日
	機械電気工学専攻	1	シャープ(株)	平成17年8月22日～9月14日
	機械電気工学専攻	1	シャープ(株)	平成17年8月22日～9月14日
	建設工学専攻	1	国土交通省中国技術事務所	平成17年8月22日～9月2日
	建設工学専攻	1	(株)加藤組	平成17年8月1日～8月12日
	建設工学専攻	1	国土交通省中国技術事務所	平成17年8月1日～8月12日
	建設工学専攻	1	国土交通省三次河川国道事務所	平成17年8月1日～8月12日
	建設工学専攻	1	呉市住宅課	平成17年8月17日～8月30日
	建設工学専攻	1	呉市住宅課	平成17年8月1日～8月12日
	建設工学専攻	1	サポーズデザインオフィス 建築設計事務所	平成17年8月1日～8月12日
	建設工学専攻	1	呉市ポートピアパーク	平成17年8月1日～8月14日
	建設工学専攻	1	国土交通省三次河川国道事務所	平成17年8月1日～8月12日

実施状況

(出典 インターンシップ報告書)

(資料5-6-②-4)

発表会プログラムおよび評価シート

インターンシップ報告会（専攻科1年）
平成17年11月 9日（水）専攻科棟講義室（1）
建設工学専攻（環境系）

発表者	指導教員	実習先	題 目	発表時間	質疑時間
	小堀 慈久	国土交通省中国技術事務所	太田川の水質調査	10分	5分
	重松 尚久	株式会社 加藤組	国道の維持工事		
	山岡 俊一	国土交通省中国技術事務所	化学法による骨材のアルカリシリカ反応性		

専攻科特別研究評価シート（環境系）

評価教員名 _____ 集計結果 _____

下記項目について、いずれも10点満点で評価してください。

発表者 XXXXXXXXXX 集計点= 92 →評価： 可

実習	
実習結果	50

発表会評価

評価教員	発表内容	発表態度	質疑応答
小堀 慈久	8	9	9
重松 尚久	8	9	8
山岡 俊一	8	8	8

実習報告書評価

評価教員（専攻）	まとめ方	内容
山口 隆司	8	9

発表者 XXXXXXXXXX 集計点= 94 →評価： 評価可

実習	
実習結果	50

発表会評価

評価教員	発表内容	発表態度	質疑応答
小堀 慈久	8	9	9
重松 尚久	9	9	9
山岡 俊一	9	9	10

実習報告書評価

評価教員（専攻）	まとめ方	内容
山口 隆司	9	8

発表者 XXXXXXXXXX 集計点= 90 →評価： 評価可

実習	
実習結果	50

発表会評価

評価教員	発表内容	発表態度	質疑応答
小堀 慈久	9	8	7
重松 尚久	7	8	6
山岡 俊一	8	8	7

実習報告書評価

評価教員（専攻）	まとめ方	内容
山口 隆司	8	9

(出典 環境都市工学科)

(資料5-6-②-5)

第4号様式(第14条関係)

平成 17年 9月 10日

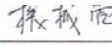

インターンシップ証明書

呉工業高等専門学校長 殿

インターンシップ機関 

インターンシップ責任者名  

下記のとおり当機関においてインターンシップを履修したことを証明します。

学校等	呉工業高等専門学校  配属		工学専攻	第 / 学年		
氏名			期	H17年 8月 22日 ~ H17年 9月 14日		
インターンシップ 学生の配属 先組織名	技術本部 デバイス技術研究所 第2研究室		間	インターンシップ(報告書の作成時間を含む) 実日・時間数 17日 12.5時間		
インターン シッ プ 内 容	・シリコンエフ用フィルムの設計製作の研修 ・同社インターネットの調査・評価					
当機関におけ る履修の評価	専門的知識・技術の吸収力及び応用力	<input checked="" type="checkbox"/> 優れている	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> やや劣る	<input type="checkbox"/> 劣る
	コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 優れている	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> やや劣る	<input type="checkbox"/> 劣る
	プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 優れている	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> やや劣る	<input type="checkbox"/> 劣る
	協 調 性	<input checked="" type="checkbox"/> 優れている	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> やや劣る	<input type="checkbox"/> 劣る
	実習目標の達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 優れている	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> やや劣る	<input type="checkbox"/> 劣る
出欠状況	出 勤	欠 勤	遅 刻	早 退		
	17日	0日	0回	0回		
その他 特記事項	今後本人を指導するうえでの所見等 ・独立身辺している為自立能力を高めて欲しい ・国語・英語能力を向上させて欲しい } ← 今後会社で活躍できる 能力として					

(出典 学生課)

機械電気工学専攻では、特別セミナー及びシステム工学セミナーにおいて、各自で設定した題材を元に設計や開発を前提として調査研究を行い、この成果をプレゼンテーションおよび討論する教育方法が採られている(資料5-6-②-6:特別セミナー シラバス, 資料5-6-②-7:システム工学セミナー シラバス)。建設工学専攻では、デザイン論, 環境デザイン, 設計演習IIにおいて、基礎知識・方法論の学習後にそれらを応用した制作・デザインを行うことで、理解度の向上とともに創造性の育成をしている(資料5-6-②-8:デザイン論シラバス, 資料5-6-②-9:環境デザイン シラバス, 資料5-6-②-10:設計演習IIシラバス)。

(資料5-6-②-6)

【科目名】 機械電気専攻特別セミナー(電気系)(Seminars of Topics)		JABEE	
【学年・専攻名】 1学年			
【必修・選択, 単位数, 期間】 選択、2単位、通年			
【担当教員】 横瀬 義雄 (代表)			
【学習・教育目標】:E 【JABEE基準1(1)】:(e), (g), (h)			
【特別研究の目的及び概要】 電気、電子、通信、情報、制御工学に関する文献や著書などを講読あるいは輪講し、それらの内容に関する考察結果の発表と討論をゼミナール形式で行う。専門分野の新しい知識を得るとともに、工学研究の手法を実践的に養う。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野の文献や著書を熟読し、理解に努めること。 2. プリゼンテーション能力の向上に努めるとともに、他の人の発表時は随時質問すること。 3. セミナーにおける議論の内容を確認し、関連した文献の調査を行うこと。 		
【教科書】 各研究分野における学術図書等			
【参考書等】 各研究分野における学術雑誌等			
【授業方法】 指導教官とよく吟味して専門分野の文献や著書を選定し、研究室内で演習を行う。			
	【項目】	【内容】	
前 期	第1週	題材の選定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 題材の選定 セミナーの題材を把握し、選定する。 2. セミナーの実施 セミナーを行い議論の仕方や、理解力・表現力を養う。
	第2週	セミナーの実施	
	第3週	〃	
	第4週	〃	
	第5週	〃	
	第6週	〃	
	第7週	〃	
	第8週	〃	
	第9週	〃	
	第10週	〃	
	第11週	〃	
	第12週	〃	
	第13週	〃	
	第14週	〃	
	第15週	〃	
後 期	第16週	〃	
	第17週	〃	
	第18週	〃	
	第19週	〃	
	第20週	〃	
	第21週	〃	
	第22週	〃	
	第23週	〃	
	第24週	〃	
	第25週	〃	
	第26週	〃	
	第27週	〃	
	第28週	〃	
	第29週	〃	
	第30週	〃	
【カリキュラムの中での位置づけ】 文献講読のためには、本科で学んだ電気、電子、情報、通信、制御各専門科目の知識の他、英語、国語力が必要である。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科、専攻科で学んだ全教科			
【この科目と同時に学ぶ科目】 特別研究、特別セミナー			
【評価方法・基準】 評価方法: セミナーにおける発表内容(60%)、課題の取り組み方(40%)を総合的に評価する。 評価基準: 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば可、70%以上で良、80%以上で優とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 各演習を通して、題材に関する討論や議事の仕方の習得や、プレゼンテーションのための国語力の向上に努めることを望む。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-7)

【科目名】 システム工学セミナー(電気系)(Seminars on System Engineering)		JABEE	
【学年、専攻名】	2学年		
【必修・選択、単位数、期間】	選択、2単位、通年		
【担当教員】	横瀬 義雄 (代表)		
【学習・教育目標】:E	【JABEE基準1(1)】:(e), (g), (h)		
【特別研究の目的及び概要】			
各指導教官の専門分野に関するシステム応用関連の文献や著書などを講読し、システムの設計、及び構築等の実践的な開発能力を養う。			
達成目標	1. システム応用関連の文献や著書を熟読し、理解に努めること。 2. プリゼンテーション能力の向上に努めるとともに、他の人の発表時は随時質問すること。 3. セミナーにおける議論の内容を確認し、関連した文献の調査を行うこと。		
【教科書】	各研究分野における学術図書等		
【参考書等】	各研究分野における学術雑誌等		
【授業方法】	指導教官とよく吟味してシステム関連の文献や著書を選定し、研究室内でセミナーを行う。		
	【項目】	【内容】	
前 期	第1週	題材の選定	1. 題材の選定 セミナーの題材を把握し、選定する。 2. セミナーの実施 セミナーを行い議論の仕方や、理解力・表現力を養う。
	第2週	セミナーの実施	
	第3週	〃	
	第4週	〃	
	第5週	〃	
	第6週	〃	
	第7週	〃	
	第8週	〃	
	第9週	〃	
	第10週	〃	
	第11週	〃	
	第12週	〃	
	第13週	〃	
	第14週	〃	
	第15週	〃	
後 期	第16週	〃	
	第17週	〃	
	第18週	〃	
	第19週	〃	
	第20週	〃	
	第21週	〃	
	第22週	〃	
	第23週	〃	
	第24週	〃	
	第25週	〃	
	第26週	〃	
	第27週	〃	
	第28週	〃	
	第29週	〃	
	第30週	〃	
【カリキュラムの中での位置づけ】			
文献講読のためには、本科で学んだ電気、電子、情報、通信、制御各専門科目の知識の他、英語、国語力が必要である。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 本科、専攻科で学んだ全教科			
【この科目と同時に学ぶ科目】 特別研究、講読演習			
【評価方法・基準】			
評価方法： セミナーにおける発表内容(60%)、課題の取り組み方(40%)を総合的に評価する。			
評価基準： 達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば可、70%以上で良、80%以上で優とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
各セミナーを通して、題材に関する討論や議事の仕方の習得や、プレゼンテーションのための国語力の向上に努めることを望む。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-8)

【科目名】		デザイン論 (Design of Architecture)	JABEE
【学年、専攻名】		専攻科2年、建設工学専攻	
【必修・選択、単位数、期間】		選択、2単位、後期	
【担当教員】		間瀬 実郎	
【学習・教育目標】:H		【JABEE基準1(1)】:d(2) ,d1	
【授業の目的及び概要】			
<p>本科目は、情報技術を利用した創造的、実践的なデザイン能力を育成するため、概念的レベルでの建築デザイン手法を習得し、それを映像によって表現する技術を身につけることを目的としている。</p> <p>現代建築のよく見かける、スーパーフラット、パターン、偶然性を利用したデザインなどをキーワードに、概念的な建築を設計し、図化する。これを手がかりに、現代の建築における、デザイン上の様々な理論をディスカッションし、設計を充実させる。最終的には映像(動画)による表現によって、設計した建築を表現し、プレゼンテーションする。</p> <p>このような授業内容によって、デザイン探求のための三次元思考能力や建築のデザインを創り出す能力を、情報技術をベースに習得し、実践的で高度なデザイン技術を養成する。</p> <p>またデザイン探求のための3次元思考能力、建築の歴史と倫理、芸術、技術、人文科学を応用する能力、美的かつ技術的な要求を満足するデザイン能力、建築デザインに関連した純粋芸術への理解を目標とする。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. モダニズム以降のデザインの潮流を再度分析し、細かいレベルで理解する。 2. パターンや偶然性のデザインを行うためのツールを作成する。 3. 概念的な設計課題に対する回答を短期間にできるようにする。 4. 設計した建築を映像で表現できる技術を習得する。 		
【教科書】 Premiere関連の解説書(必要なページをプリントとして配布)			
【参考書等】 新建築、GA、a+uなどの現代建築を扱った建築専門雑誌、デザインの現場、美術手帖等			
【授業方法】 モダニズム以降のデザイン潮流を再度分析する。パターンや偶然性のデザインのためのツールを作成する。新しい建築をデザインするためのアプローチを紹介し、これに関連した課題をツールを活用して解き、作品としてまとめる。最終的に作品は、映像メディアとして表現する。以上のプロセスを担当教員が指導し、学生が課題をこなすことで、目標とする能力を養成する。			
		【項目】	【内容】
前 期	第1週	授業内容の概説	<ol style="list-style-type: none"> 1. メタポリズム、ポストモダニズム、ハイテック様式、デコンストラクティビズム、スーパーフラット、パターンの書く分析は、学生が分担してレポートを作成し、授業中に発表する。これに質疑応答し、指導教員からのコメントと補足をうける。 2. パターン・偶然性デザインのためのツールは課題趣旨を理解し、簡単なマケットを制作する。 3. 概念的な設計課題は現実性はある程度度外視して、短期間で構想力を養う課題である。ツールを活用して課題を仕上げるのが好ましい。 4. 映像作品は概念的な設計課題を映像で表現する。
	第2週	メタポリズムの分析・ポストモダニズムの分析	
	第3週	ハイテック様式の分析・デコンストラクティビズムの分析	
	第4週	スーパーフラット、パターン、偶然性デザインの分析	
	第5週	パターン・偶然性デザインのためのツール制作	
	第6週	概念的な建築設計課題1	
	第7週	提出	
	第8週	概念的な建築設計課題2	
	第9週	提出	
	第10週	映像ソフトの使い方説明	
	第11週	映像作品制作	
	第12週	提出	
	第13週	提出	
	第14週	期末試験	
	第15週	答案返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】			
本科目は、学習教育目標の仲でも特定領域にあたり、これまでに学んだ知識や技術を総合的に活用して、創造的、実践的なデザインを実践するものである。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】		本科:造形、建築計画、建築設計製図Ⅰ・Ⅱ、建築意匠、建築史、情報処理、CAD・CG	
【この科目と同時に学ぶ科目】		専攻科:環境デザイン	
【評価方法・基準】			
<p>評価方法: ツール10%、概念的な設計課題とその映像作品20%、期末試験70%で評価する。</p> <p>評価基準: ツールは趣旨、利用性、完成度で評価する。概念的な設計課題と映像作品は、作品の構想力、意匠性、映像の完成度で評価する。</p> <p>成績は達成目標の60%が達成できたと判断すれば合格とする。</p> <p>欠席は減点の対象とする。</p>			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
本科目の受講の際にはハードディスクが40G以上のノートパソコンが必要であるため、必ず用意すること。日頃から建築をはじめデザイン一般に関する書籍、雑誌を見ることを心がける。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-9)

【科目名】	環境デザイン (Environmental Design)		JABEE
【学年・専攻名】	専攻科2年、建設工学専攻		
【必修・選択、単位数、期間】	選択、2単位、前期		
【担当教員】	間瀬 実郎		
【学習・教育目標】:E	【JABEE基準1(1)】:d3, e		
【授業の目的及び概要】			
<p>本科目は、これまでに学習してきた建築に関する基礎的な専門知識を活かし、更に大きいスケールでの空間の設計手法に応用する能力を養う。そのためランドスケープをデザインする際の基本的な知識と設計手法を、実践的な設計課題を通して習得する。</p> <p>通常の建築の設計では、平面図、断面図といったヒューマンスケールで空間や形を計画してゆく。建築の学生はこのようなスケールでの設計には慣れていますが、もう少し大きいスケール、あるいは大きい視点での空間を設計する機会が少ない。建築を単にボリュームとして扱い、地形、道路、樹木などのいわゆる外郊的な要素を配置することで、出来上がる空間、すなわちランドスケープの設計も建築の学生によっては重要なスキルといえる。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ランドスケープデザインと建築デザインの違いを理解する。 2. 国内外のランドスケープアーキテクチャの実例を学習する。 3. 実際のランドスケープアーキテクチャの作品を設計し、建築とランドスケープとの関係を体得する。 4. 作品のプレゼンテーション能力を習得する。 		
【教科書】	Landscape architecture paysagist, Yves Brunier(必要なページをプリントとして配布)		
【参考書等】	画像処理ソフト(Photoshop, UltraKID, VectorWorksなど)の参考書		
【授業方法】	建築とランドスケープアーキテクチャのスケール感覚の違いを説明した後、具体的な事例をスライドで紹介する。課題作品の制作にあたっては、周辺とのつながりを調査し、コンセプトメイキング、模型制作、平面図制作、図面レイアウト・プレゼンテーション、講評会を行う。		
		【項目】	【内容】
前 期	第1週	授業内容の概説	<ol style="list-style-type: none"> 1. ランドスケープを設計する場合のスケール感や、建築物の省略具合などを説明する。 2. 事例紹介では、国内外の著名なランドスケープアーキテクチャを解説する。 3. スケール感覚の短期課題では、概念的なランドスケープを設計し、スケール感覚を養う。 4. ランドスケープ課題では、ある程度の広さの敷地に、建築、道路、植栽、駐車場、公園を配置した総合的なランドスケープの課題をこなし、プレゼンテーションする。 5. 期末試験では、事例に関する問題や、短期設計的な問題を出題する。
	第2週	建築とランドスケープのスケール感	
	第3週	事例紹介 灰塚アースワーク関連	
	第4週	事例紹介 ラビレット公園	
	第5週	事例紹介 ポインビドゥセンター	
	第6週	スケール感覚の短期課題	
	第7週	スケール感覚の短期課題	
	第8週	ランドスケープ課題制作説明	
	第9週	課題制作	
	第10週	課題制作	
	第11週	課題制作	
	第12週	課題制作	
	第13週	課題締切り・講評会	
	第14週	期末試験	
	第15週	答案返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】			
ランドスケープアーキテクチャデザインのあり方を理解、習得する科目。建築意匠、環境設計などの科目の基礎的専門知識を駆使して、都市という環境の中でデザインが実際どのように役立てられているかを理解する。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】			
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】			
<p>評価方法: 短期課題10%、ランドスケープ課題20%、期末試験70%で評価する。</p> <p>評価基準: 課題は構想力、意匠性、表現力、完成度で総合的に評価する。</p> <p>成績は達成目標の60%が達成できたと判断すれば合格とする。</p> <p>欠席は減点の対象とする。</p>			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】			
日頃から建築とランドスケープとの関係を意識する。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-②-10)

【科目名】 設計演習Ⅱ (Planning and Drawing Ⅱ)		JABEE
【学年、専攻名】 2 学年		
【必修・選択、単位数、期間】 選択、2 単位、前期		
【担当教員】 岡本 二郎		
【学習・教育目標】 : D		【JABEE基準 1 (1)】 : d 1
【授業の目的及び概要】 建築設計・計画に関する包括的、基礎的な専門知識・能力を養う科目として位置づけられる。専攻科における最終学年であること を踏まえ、設計演習Ⅱでは都市空間あるいは都市環境の構成を意識した地区計画、市街地再開発などの新たな課題に取り組む。その 過程で建築と社会との関わり方について考え、コンセプトに反映させる。評価はその点にウェイトを置く。前期の期間中に、応募資 格も含めて応募の可能性のあるコンペ(全国高等専門学校デザインコンペ、セントラル嗣子国際建築設計競技など)があれば、短期 課題として積極的に取り入れる。		
達成 目標	1.地区計画、市街地再開発レベルの設計が出来るようになる。 2.設計を考える上で、建築と社会との関わり方について考慮してコンセプトを構想する。 3.専攻科の設計課題の集大成として完成度の高い作品に仕上げる。	
【教科書】	使用しない。必要な資料等については配布する。	
【参考書等】	使用しない	
【授業方法】	課題内容を理解した上で、まず資料の収集からはじめ、場合によっては敷地の検討も行う。ディスカッションを重ね、計 画案のチェックを行う。課題内容に沿った建築内容が決まった段階でレポートを提出させる。次の段階で建築設計のエスキ スを提出させ、最終的に完成された設計図を提出させる。	
	【項 目】	【内 容】
前 期	第1週 市街地再開発計画の課題説明	1.課題の目的と内容を理解する。
	第2週 課題の検討	2.課題を検討し、資料として何が必要であるか検討する。
	第3週 資料収集	3.目的に添って資料の収集に努め、可能なら実際に敷地に出向く。
	第4週 レポート提出	4.資料をもとにレポートをまとめる。
	第5週 エスキス検討	5.エスキスの検討する。
	第6週 エスキス検討	6.エスキスを提出する。
	第7週 エスキス提出	7.エスキスのチェックを受け、再度エスキスの検討に入る。
	第8週 エスキスチェック	8.図面作成に入る。
	第9週 図面作成	9.図面を提出する。
	第10週 図面作成	10.講評会のプレゼンテーションを検討する。
	第11週 図面作成	11.講評会での意見を参考にする。
	第12週 図面作成	
	第13週 図面作成	
	第14週 図面提出	
	第15週 講評会	
【カリキュラムの中での位置づけ】 設計演習は専攻科で学ぶ多くの科目に関連し、それらの知識を生かして課題に取り組む演習である。 【この科目を学ぶために先行して理解する必要の 建築計画 (本科2~4学年) 建築設計製図Ⅰ・Ⅱ (本科2~5学年) 設計演習Ⅰ(専攻科1学年)、都市計画(本科4年)、都市・地域計画(専攻科1年) 【この科目と同時に学ぶ科目】 環境デザイン		
【評価方法・基準】 評価方法：配点基準は、通常課題をエスキス(20%)、及び提出図面(80%)とし、それらを総合評価する。 但し、コンペ応募が可能な場合の配点基準は、通常課題×0.6+コンペ課題×0.4として計算して総合評価する。 評価基準：レポート及びエスキスの評価基準は設計課題の取り組み方、課題に対する発想及びそれぞれの達成度について評価する。 図面の評価基準は、①設計課題の取り組み方、②設計内容と図面構成、③図面の表現方法、④図面の完成度などを 主眼として評価する。本科目において設定した達成目標を60%以上、達成している者を合格とする。		
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 課せられたレポート及びエスキスは、評価に反映してくるので必ず提出すること。図面が期限内に提出できなかった場合は不可 とする。また出席状況を重視するので、欠席しないようにすること。 図面の完成度は、課題に対して取り組む態度や課題の完成に要した時間によって大きく差が出てくる。課題に積極的に取り組む姿 勢を求める。		

(出典 シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

本校において、創造性育成に対する工夫がなされた科目が各専攻で複数用意されており、特別研究以外でも創造性育成に対して配慮されたカリキュラムとなっている。また、準学士課程より長期かつ高いレベルのインターンシップを行うことにより、創造力・プレゼンテーション能力・実行力を総合的に育成している。

以上のことから、本校専攻科課程において創造性育成を目的とした教育方法の工夫及びインターンシップの活用は十分なされており、教育目的が目指す人材育成に役立っている。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

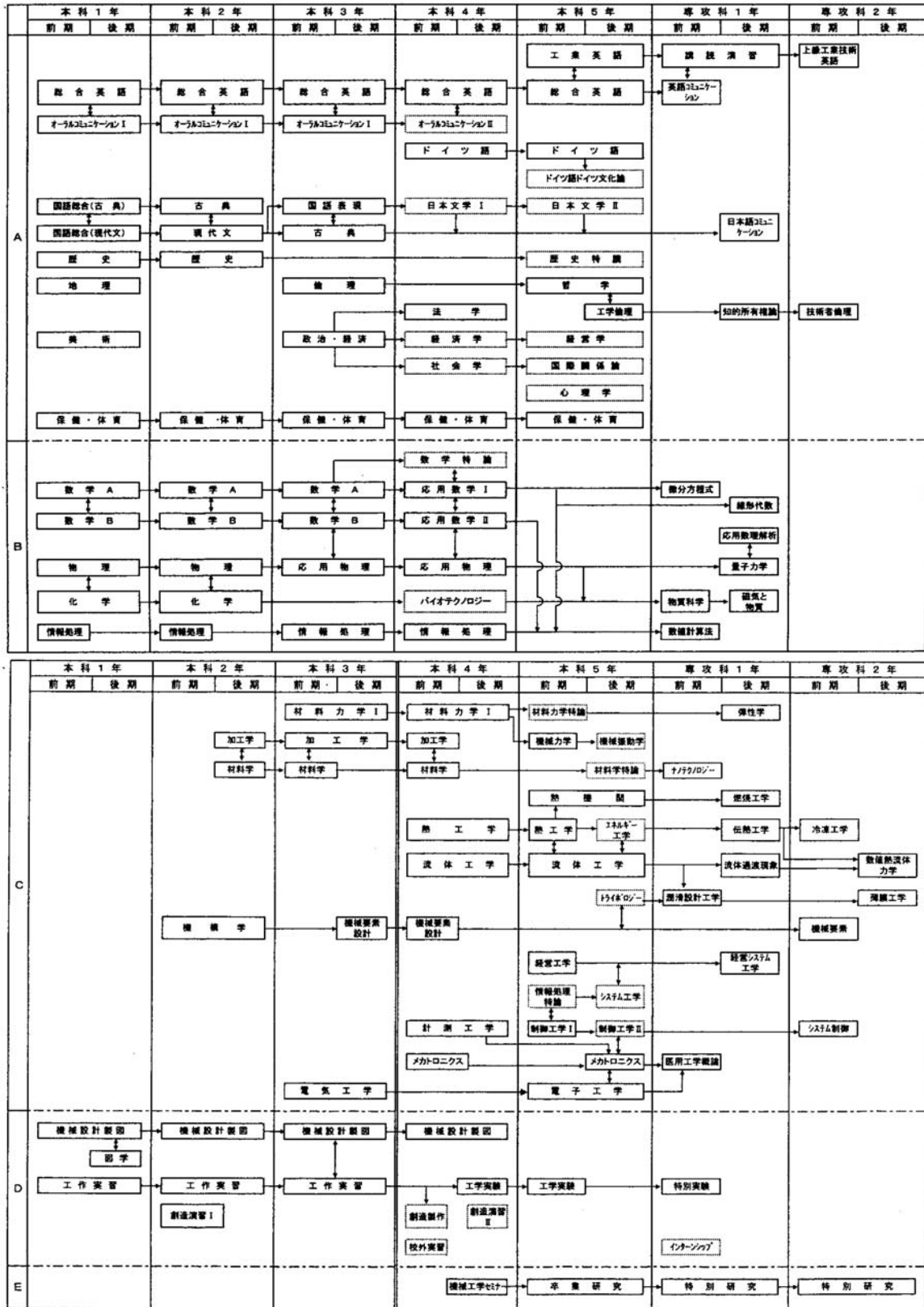
(観点に係る状況)

本校専攻科課程では、養成すべき人材像や修了時に身に付けるべき資質・能力・学力を学習・教育目標として定め、これに基づいてシラバス作成が行われている。専攻科課程用シラバスは、開講全科目について作成され、冊子にて教員および学生に配布され、その内容を開示している。まず、各専攻各コースにおける学習・教育目標と科目の対応が、各専攻各コースごとにシラバス中に図表としてまとめられ、履修科目選択において利用されている(資料5-6-③-1(1)～(4)：各コース授業科目系統図、資料5-6-③-2(1)～(4)：各コース教育目標とカリキュラムの対応)。

各科目のシラバスには、授業の目的および概要、達成目標、教科書・参考書・授業方法、学習項目および内容、カリキュラム中での位置づけ、評価方法・基準の欄が設けられている(資料5-6-③-3：シラバスの一例)。授業の目的および概要では、授業の目的と全体像を明らかにし、達成目標では身に付けるべき具体的な能力及び要件が示される。教科書・参考書・授業方法では、当該科目で主に使用するテキスト、副読本や参考書を示すと共に、授業形態等が示される。学習項目及び内容においては、学習時期と学習内容との対応が具体的に示される。カリキュラム中での位置づけでは、他の専門科目との関連・連携や復習すべき科目について示される。そして、評価方法・基準では、各試験や提出物等と成績評価方法との関連及び比重が示され、同時に単位取得の基準となる評価割合について示される。このように、各専攻各コースのシラバスは、学習・教育目標および他の科目との関連が明確に示され、予習・復習において有効に活用されるように作成されている。平成18年度より、ホームページにおいてシラバスの全内容が公開される。各授業の実施状況とシラバスの対応については、授業評価アンケート中にシラバスとの対応評価項目が入っており、学生からの実施状況評価を受けるシステムとなっている(資料5-6-③-4：授業評価アンケート座学用抜粋、資料5-6-③-5：授業評価アンケート実験・実習用抜粋)。

(資料5-6-③-1(1))

機械工学科・専攻科機械工学コース
機械工学科・専攻科機械工学コースの授業科目系統図



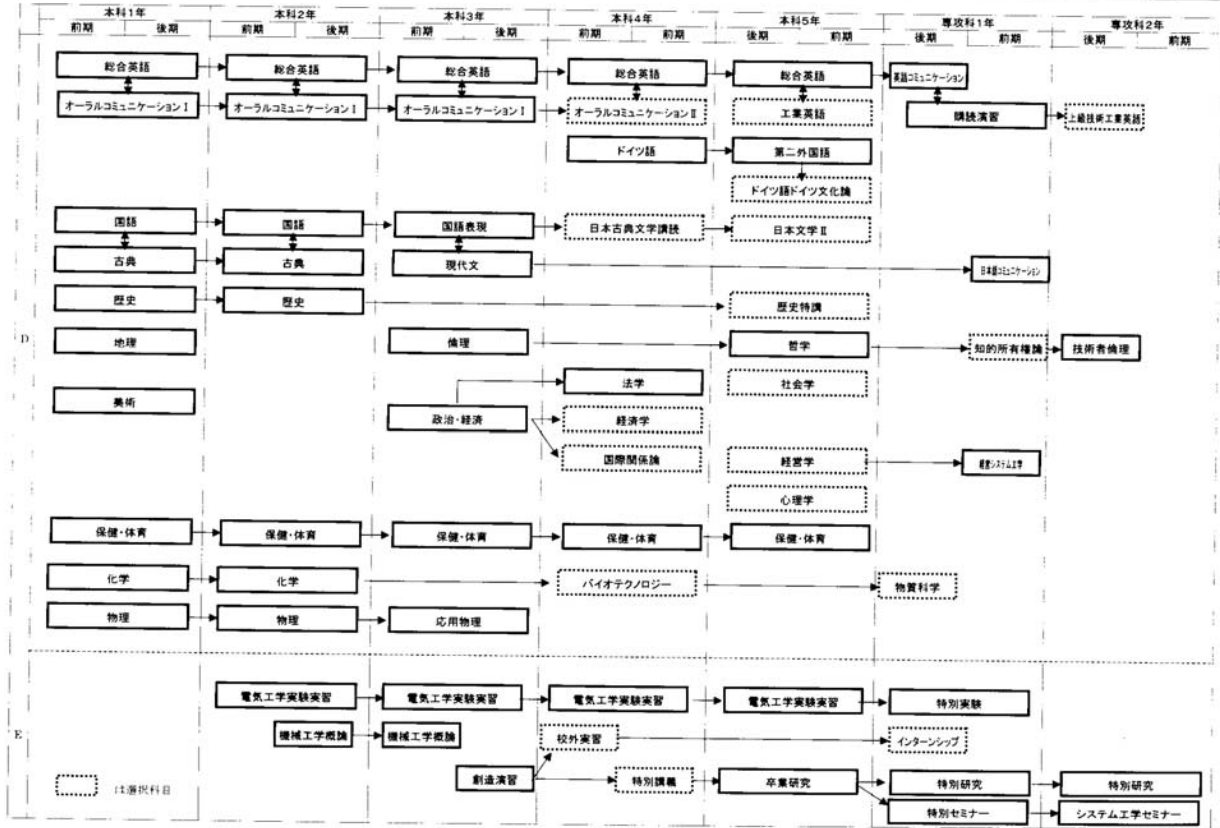
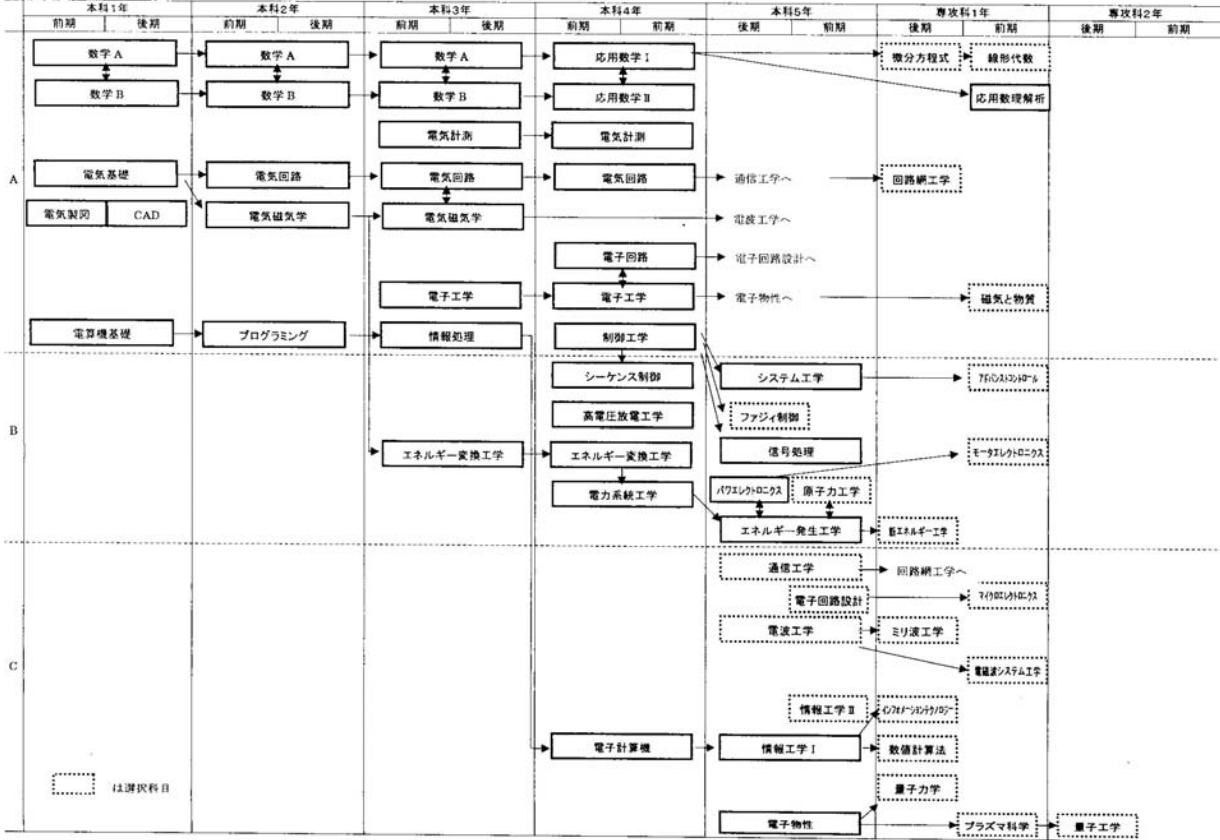
注) 1) [] は選択科目 2) BおよびCは、Dと密接に関係している。 2) BおよびCは、Dと密接に関係している。
3) 平成17年度4学年以下は、材料力学特論→材料力学Ⅱ、材料科学特論→先端材料科学、情報処理特論→人工知能となる。

(出典 シラバス)

(資料5-6-③-1(2))

電気工学科

電気工学科 授業科目系統図

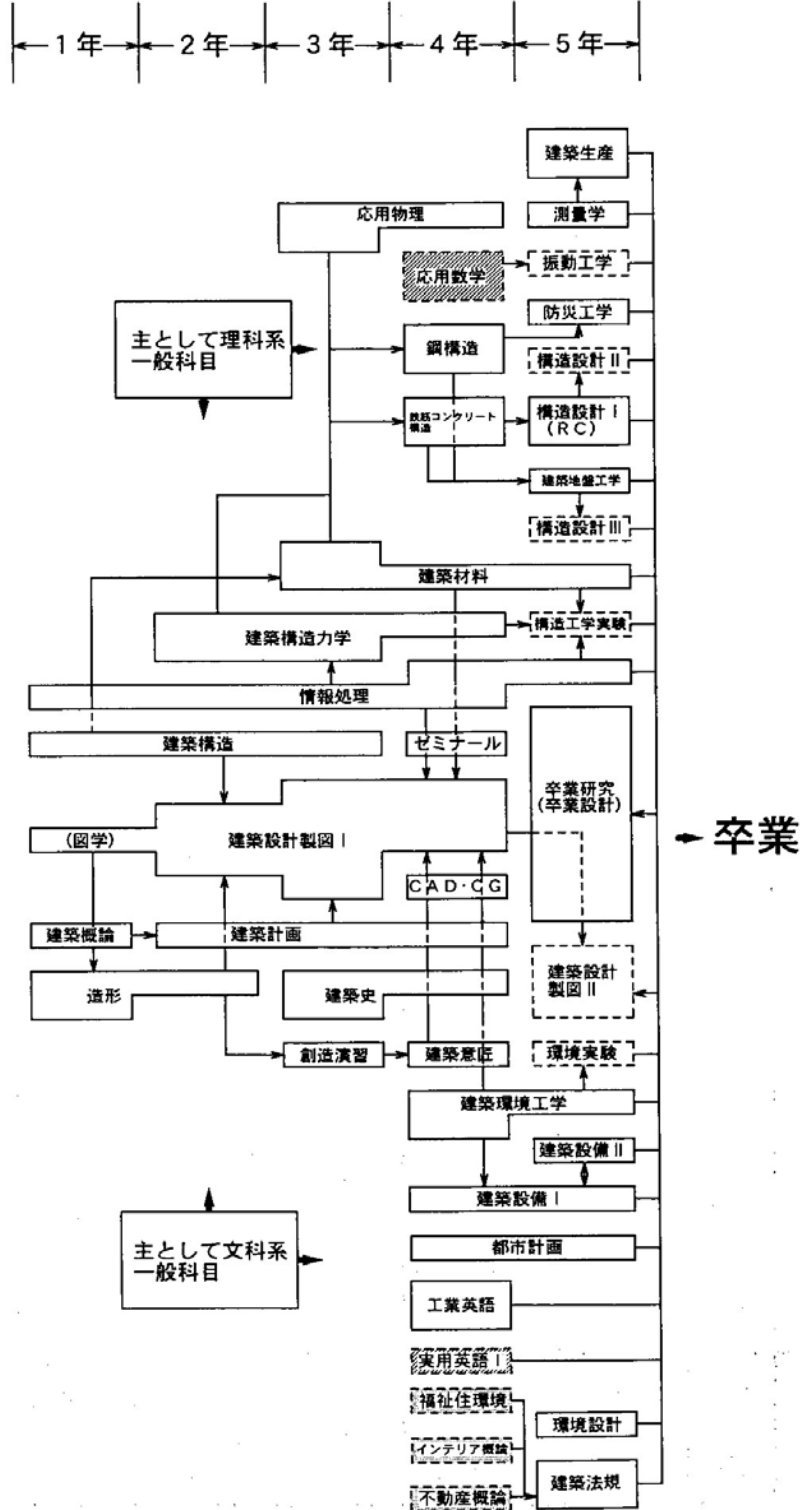


(出典 シラバス)

(資料5-6-③-1(4))

建築学科

建築学科授業科目系統図



□ は必修科目で、--- が選択科目を示し、その上下の幅は単位数を示す
 なお、選択科目のうち ▨ は進学希望者が、▩ は就職希望者が選択する。

(出典 シラバス)

(資料5-6-③-2(1))

機械工学科

学習・教育目標とJABEE基準に主体的に対応する科目

学習・教育目標	基準1の(1)	(a)	(b)	(c)	(d)						(e)	(f)	(g)	(h)	
		他学的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力(技術者倫理)	数学、自然科学、情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力	該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に活用できる能力(機械および機械関連分野)	(d-1) 数学についての基礎的知識、数値計算などの応用能力と確率・統計の基礎、および自然科学については物理学の基礎に関する知識						(d-2) 機械工学の主要分野(材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム)のうち各プログラムが重要と考える分野に関する知識と、それらを問題解決に活用できる能力	(d-3) 実験等計画・実行し、結果を総括し、それを工学的に発表する能力	種々の科学・技術・情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	日本語による論理的な記述力、口頭発表力、対人協働のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
分類	目標				材料と構造	運動と振動	エネルギーと流れ	情報と計測・制御	設計と生産・管理	機械とシステム					
(A)	豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力	哲学 法学 日本古典文学 読書 歴史特講 経済学 社会学 国際関係論 心理学	技術者倫理 工学倫理 知的所有権論												
(B)	コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、事業の解析や機械の設計・製作に活用できる能力			応用数学Ⅰ 数学特論 応用数理解析 量子力学 確率と物質 物質科学 パワエレクトロニクス 情報処理 数値計算法	線形代数 微分方程式 応用数学Ⅱ 応用物理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(C)	技術者としての専門知識を習得し、自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(D)	実験・実習・製図等の体験的学習を習得し、豊かな創造力を持って、主体的・積極的に問題を解決する能力					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(E)	自主的に実験等を実行し、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注)○:付随的に対応

(出典 シラバス)

(資料5-6-③-2(2))

電気工学科

教育目標とカリキュラムの対応 電気工学科

学習・教育目標	授業科目名					
	本科4年	本科5年	専攻科1年		専攻科2年	
			前期	後期	前期	後期
(A) 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論(選) 電気回路 電気計測 制御工学 電子工学 電子回路		微分方程式 回路網工学	応用数理解析 線形代数 磁気と物質		
(B) 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して、より高度なエネルギー制御分野の知識を身につけること	エネルギー変換工学 高電圧放電工学 電力系統工学 シーケンス制御 特別講義	パワーエレクトロニクス エネルギー発生工学 システム工学 信号処理 原子力工学(選) ファジー制御(選)	新エネルギー工学	モータエレクトロニクス 77Vシステム		
(C) 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して、より高度な情報通信分野の知識を身につけること	電子計算機 電気工学実験実習	電子物性 情報工学Ⅰ 情報工学Ⅱ(選) 通信工学(選) 電波工学(選) 電子回路設計(選) 電気工学実験実習	数値計算法 ミリ波工学 フォトニックデバイス 量子力学	電磁波システム工学 マイクロ波工学 プラズマ科学		量子工学
(D) 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を具備し、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること	法学 保健・体育 総合英語 ドイツ語 国語特講(選) 社会学(選) 経営学(選) パワエレクトロニクスⅡ(選) オランダ語Ⅱ(選)	哲学 保健・体育 総合英語 ドイツ語 中国古代文化(選) ドイツ語文化(選) 国際関係論(選) 心理学(選) 経営学(選) 歴史特講(選)	英語コミュニケーション 物質科学 機械電気専攻講義演習	日本語コミュニケーション 知的所有権論 機械電気専攻講義演習		技術者倫理 上級工業技術実習
(E) 創造力をもとに、合理的な計画を立てる能力、それを実行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること	校外実習(選) 電気工学実験実習	電気工学実験実習 卒業研究	機械電気専攻特別研究 機械電気専攻特別実験 機械電気専攻特別セミナー インターンシップ	機械電気専攻特別研究 機械電気専攻特別セミナー	機械電気専攻特別研究 システム工学セミナー	機械電気専攻特別研究 システム工学セミナー

(出典 シラバス)

(資料5-6-③-2(4))

建築学科

表 建築学科の学習・教育目標とJABEEの学習・教育目標と対応科目の関係

学習・教育目標	基準1(1)の知識・能力												
	(a)		(b)	(c)	(d) 建築学および建築学関連分野における分野別要件					(e)	(f)	(g)	(h)
	地球的環境から多面的に物事を考える能力とその高度		技術者が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)	数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力	(d1) 建築設計・計画に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d2) 建築環境・設備に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d3) 建築構造に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d4) 建築生産(材料・施工を含む)に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d5) 法規4分目以外の包括的、基礎的な専門知識・能力	(2) 建築にかかわる特定領域の高度な専門知識・能力	種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討論等コミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力	自主的、能動的に学習できる能力
(A) 豊かな職業と倫理観をもつ技術者の育成	○ (国際関係)		◎ (法学、哲学、技術者倫理、知的所有権) ○ (歴史、特許、社会学、経済学、経営学、日本文学Ⅰ・Ⅱ、心理学)										
(B) 国際的なコミュニケーション能力をもつ技術者の育成											◎ (工業英語、総合英語、実用英語Ⅰ、ドイツ語、ドイツ語ドイツ文化論、オーストラリアコミュニケーションⅡ、上級工業技術英語、日本語コミュニケーション、英語コミュニケーション)	○ (講義演習)	
(C) 工学の基礎的知識をもち情報化社会に対応できる能力の育成	○ (基礎環境実習)		○ (経営システム工学)	◎ (応用物理、応用数学、数学特論、情報処理、CAD・CG、環境情報処理、応用数理解析、線分方程式、線形代数、数値計算法)、○ (物理科学、電気と物質、バイオテクノロジー、農生物学)									
(D) 総合的な視点から建築技術を捉える能力				◎ (建築設計計画Ⅰ・Ⅱ、設計演習Ⅰ・Ⅱ)	○ (構造設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)		○ (建築材料、測量)	○ (建築法規、学外セミナー)				○ (卒業研究)	○ (卒業研究)
(E) 建築学に関する基礎的な専門知識とその応用能力	E1計画			◎ (建築計画、建築史、建築意匠)				◎ (都市計画、都市・地域計画、環境デザイン、空間デザイン)					
	E2環境	◎ (環境設計、環境アセスメント)			◎ (建築環境工学、建築設備Ⅰ・Ⅱ、環境人間工学)								
	E3構造				◎ (建築構造力学、鉄筋コンクリート造、鋼構造、建築地震工学、建築防災工学、建築工学、応用解析法、地震・構造物、実地工学、各種コンクリート系構造)		○ 建築地盤工学						
(F) 理論と実習を対応させながら建築技術を捉える能力					○ (建築環境実習、人間環境学)	○ (構造工学実験)	◎ (建築生産、建設材料論)	○ (インターシップ)		◎ (特別実験)		○ (特別実験)	
(G) 知識や技術の取得に対して主体的、計画的に取り組むことができる能力										○ (卒業研究、特別研究)	○ (卒業研究、特別研究)	◎ (特別研究)	
(H) 情報技術を活用した創造的、実践的なデザイン能力				○ (デザイン論)	○ (創発構造)				◎ (デザイン論、耐震構造)				

◎: 主体的に含んでいる ○: 付随的に含んでいる

※ ()内はJABEEプログラム認定を要する科目

(出典 シラバス)

(資料5-6-③-3)

【科目名】 モーターエレクトロニクス(Motor Electronics)		JABEE	
【学年, 専攻名】 1学年, 機械電気工学専攻			
【必修・選択, 単位数, 期間】 選択, 2単位, 後期			
【担当教員】 横沼 実雄			
【学習・教育目標】: この位置		【JABEE基準1(1)】:(d)-(3)	
【授業の目的及び概要】 家電製品, OA, FAの進歩・普及により, 各種電動機(モーター)の使用総数は拡大の一途にあり, 高度化したモーター制御には対象となるモーターに合わせたパワーエレクトロニクス技術が必要となる。本講義では, 制御用モーター, 電力用半導体素子, 回路技術について取り上げ, モーター制御のためのパワーエレクトロニクス技術について理解することを目的とする。講義の前半は, モーターエレクトロニクスにおいて使用されるモーターおよび電力用素子について, 特長および使用に適する条件等を説明する。講義の後半は教科書を中心に, DCおよびACモーター制御回路を中心に, 各種障害等への対策まで実際の応用例を交えて講義を行う。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なモーターおよび電力用素子について, 特長および使用条件等を理解し, 必要な計算や検討が行えること。 2. 各種DCおよびACモーター制御回路の動作および特長を理解し, 設計に必要な計算が行えること。 3. 各種障害等への対策を検討できること。 		
【教科書】 宮入 庄太 著「基礎パワーエレクトロニクス」(丸善), プリント			
【参考書等】 「トランジスタ技術Special No.61特集モータ制御&応用技術入門 :いろいろなモータとその駆動法を理解しよう」(CQ出版)			
【授業方法】 教科書の内容を元に, 特に各種のモーターを制御する際の注意点や回路構成の違いなどを講義する。補足資料や代表的な計算例題などは, プリントを配布して説明する。			
【項目】		【内容】	
前 期	第1週	概説	1. 制御対象となるモーターの種別と特長
	第2週	各種モーターの構造, 動作原理, 特長	2. 電力用半導体素子の種別, 動作および特長
	第3週	代表的な電力用半導体素子	3. 整流回路, DCチョップパ回路のDCモーターへの応用
	第4週	最近の高い電力用半導体素子	4. 交流電圧制御回路, インバータ回路のACモーターへの応用
	第5週	各種整流回路	5. 各種障害の原因とその対策
	第6週	DCチョップパ回路 1(動作と特長)	
	第7週	DCチョップパ回路 2(計算と応用例)	
	第8週	DCモーター制御回路への応用	
	第9週	交流電圧制御回路	
	第10週	インバータ回路 1(各種回路の動作と特長)	
	第11週	インバータ回路 2(計算と応用例)	
	第12週	ACモーター制御回路への応用	
	第13週	各種障害とその対策	
	第14週	期末試験	
	第15週	答案返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】 パワーエレクトロニクス応用の一分野であり, 応用範囲も広く, 大小合わせて事例の多い分野である。エネルギー変換工学, 電子工学, 電子回路を基礎として成り立つため, 総合的な理解度の確認ともなる。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 エネルギー変換工学, 電子工学, 電子回路, パワーエレクトロニクス			
【この科目と同時に学ぶ科目】			
【評価方法・基準】 評価方法: 期末試験および小テスト, 提出された課題レポートについて総合的に評価する。 評価基準: 第14週目を実施する期末試験の結果を60%, 小テスト20%, 課題レポート20%の割合で評価する。達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 本科のパワーエレクトロニクスが理解できているものとして, モーター制御を中心にして講義を進めていく。様々な知識を必要とし, 応用分野が広い技術であるので, 学ぶにも活用するにも有意義な科目である。講義中の演習および小テストで, 必要な計算がすぐに行えるように関数電卓は必須である。また, 必要があれば教科書以外の書籍を持ち込んで構わない。			

(出典 シラバス)

(資料5-6-③-4)

回答用紙(学生による評価アンケート)

座学用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください

授業科目		
担当教員名		
学科・学年		
番号	1	2
授業科目番号		
担当教員番号		

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。		
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない		
2	この授業を理解できますか ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる ③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない		
3	授業に準備や工夫がなされていると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない		
4	質問をしているか, あるいは質問をする気になりますか ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ		
5	この教員に熱意は感じられますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない		
6	成績評価は学力や努力を適切に反映していると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない		
7	教員の声や説明方法, 黒板への板書などはどうですか ⑤良い ④ほぼよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い		
8	教員は授業に遅れたり, 休講にしたり, プリント学習にしたり, 自習にしたりすることがありますか ⑤まったくない ④ほとんどない ③年数回はある ②多い ①かなり多い		
9	授業はシラバスとおりに行われましたか ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下		
10	この授業の総合評価をしてください ⑤良い ④ほぼよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い		
	意見があれば, 評価しようとする授業名, 教員名の欄に, この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名
			番号
			授業科目番号
			1
			2

(出典 教務委員会)

(資料5-6-③-5)

回答用紙(学生による評価アンケート)

実験・実習用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください。

授業科目名		
担当教員名		
学科・学年		
番号	1	2
授業科目番号		
担当教員番号		

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。		
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない		
2	この授業を理解できますか ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない		
3	指導書やプリント(体育の場合は, 模範演技など)は実習・実験内容を理解するのに役立ちましたか 5)大変役立つ 4)役立つ ③普通 ②あまり役立たなかった ①役立たなかった		
4	質問をしているか, あるいは質問をする気になりますか ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ		
5	この教員に熱意は感じられますか ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない		
6	成績評価は態度や努力を適切に反映していると思いますか ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない		
7	教員の声や説明方法などはどうですか ⑤良い ④ほぼよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い		
8	提出レポートや作品に対しての講評や評価は適切でしたか。 ⑤適切だった ④ ほぼ適切だった ③普通 ②不満 ①かなり不満		
9	授業はシラバスとおりに行われましたか ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下		
10	この授業の総合評価をしてください ⑤良い ④ほぼよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い		
	意見があれば, 評価しようとする授業名, 教員名の欄に, この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名
		学科・学年	番号
			1
			2

(出典 教務委員会)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程では, 学習・教育目標と各授業との対応, 授業内容等を明示した適切なシラバスが作成され, 冊子にて教員および学生に配布・開示している。平成18年度からは, ホームページ上でも公開・開示される。各授業の実施状況とシラバスの対応について, 授業評価アンケートにて学生からの評価をうけるシステムとなっている。

以上より, 適切な内容のシラバスが作成・開示され, 単位履修や予習・復習において十分に活用されている。

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

特別研究においては、特別研究学習時間報告書により特別研究の進捗状況や今後の研究予定を確認している（資料5-7-①-1）。専攻科1年生終了時で中間発表を義務づけ、研究の進捗状況を途中の段階でチェックし、「中間発表論文集」としてまとめている（中間発表論文集は訪問調査時に資料提示）。さらに、修了時の研究成果は「特別研究論文集」としてまとめている（特別研究論文集は訪問調査時に資料提示）。それぞれの評価においては複数の教員で評価を行っている（資料5-7-①-2）。

また、専攻科の修了要件として学会発表を義務づけており、それらを実施している（専攻科学生の学会発表一覧は訪問調査時に資料提示）。研究テーマの決定法については、本校出身の学生に対しては受験時に研究分野の希望を述べさせ、入学時に学生と相談して専攻科長補が指導教員を決定し、指導教員の指導のもとに各学生の研究テーマを選択している（専攻科特別研究の研究題目と指導教員名は訪問調査時に資料提示）。

（分析結果とその根拠理由）

特別研究学習時間報告書による、きめ細かいチェックや、学会発表等の義務づけにより、一定レベル以上の研究指導がなされている。

(資料5-7-①-1)

特別研究学習時間報告書

平成16年度 特別研究・特別実験・講読演習 学習時間

指導教員名 ()

専攻 () 学生番号 () 氏名 ()

日付	曜日	学習時間	学習内容
/	月	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	火	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	水	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	木	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	金	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	土	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	日	<p>指導教員(在) 学習時間 () 時間</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

週間の総学習時間 () 時間

(出典 環境都市工学科)

(資料5-7-①-2)

専攻科特別研究成果評価シート

専攻科特別研究評価シート

評価教員名 _____

下記項目について、いずれも10点満点で評価してください。

発表者 [REDACTED]

指導教員による評価

指導教員	研究への取組方	理解度	創造性	達成度
竹村和夫				

発表原稿評価

評価教員	構成	文章力	図表のまとめ方
橋本堅一			
堀口 至			

発表会評価

評価教員	発表内容	質疑応答	発表態度
橋本堅一			
山口隆司			
堀口 至			

発表者 [REDACTED]

指導教員による評価

指導教員	研究への取組方	理解度	創造性	達成度
黒川岳司				

発表原稿評価

評価教員	構成	文章力	図表のまとめ方
小堀慈久			
重松尚久			

発表会評価

評価教員	発表内容	質疑応答	発表態度
小堀慈久			
森脇武夫			
重松尚久			

発表者 [REDACTED]

指導教員による評価

指導教員	研究への取組方	理解度	創造性	達成度
重松尚久				

発表原稿評価

評価教員	構成	文章力	図表のまとめ方
森脇武夫			
黒川岳司			

発表会評価

評価教員	発表内容	質疑応答	発表態度
小堀慈久			
森脇武夫			
黒川岳司			

(出典 環境都市工学科)

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

専攻科の単位時間は1時間を50分とし、講義は15時間を、演習は30時間を、実験・実習は45時間を、インターンシップは45時間を1単位とし、学生に周知している(資料5-8-①-1, 資料5-8-①-2)。学生の出席状況は授業時間ごとに担当教員が指導手帳などに記入し、成績提出時に授業時間数と学生ごとの欠席時数を報告することで、学生が実際に所定の時間数以上を受講していることが確認できるようになっている(資料5-8-①-3)。各学年で学生が履修する授業科目は、学則第38条(別表第3)に規定されている。履修科目の選択は、各専攻の教育プログラムに必要な科目を履修する必要があるため、専攻科長補がきめ細かい指導を実施している。各科目の学業成績は100点満点とし、評点が60点以上の科目を単位取得の判定を合格とし、59点以下を不合格としている(資料5-8-①-1)。成績証明書における評価は、評点が60点以上を優・良・可の3段階の評語で記載されている(資料5-8-①-4)。科目ごとの単位数や評価方法、評価基準はシラバスに明記し、年度当初学生に周知している(資料5-8-①-5)。試験内容やレポート等は保管されており、全て他教員が点検して、授業内容と成績評価が適切に実施されていることを確認している。専攻科の修了認定条件は学則第42条に規定されている。修了認定は、教員や関係事務職員が出席する専攻科修了認定会議で、成績評価の分布表や出席状況を示す資料をもとに、修了認定条件を確認しながら審議し、校長が行っている(資料5-8-①-6 訪問調査時提示資料)。

(資料5-8-①-1)

呉工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則抜粋

第2条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間をもって1単位とする。
- (3) 実験及び実習については、45時間をもって1単位とする。
- (4) インターンシップについては、45時間の授業をもって1単位とする。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料5-8-①-2)

(3) 授業時間と単位

専攻科における授業科目の1単位の授業時間は、1時間を50分単位とし、次の基準の通りです。


- ・講 義 : 15時間を1単位とする
- ・演 習 : 30時間を1単位とする
- ・実験、実習 : 45時間を1単位とする
- ・インターンシップ : 45時間を1単位とする

(出典 STUDIES & CAMPUS LIFE)

(資料 5-8-①-3)

成績採点表の例

~~平成17年度(後期)履修届一覧表~~
平成17年度(後期)成績採点表

授業科目	単位数	担当教員	開講期
応用数理解析	2	森 貞雄 	後期
授業時間数	30	時間	

機械電気工学専攻 第1学年					建設工学専攻 第1学年				
履修	学生番号	氏名	欠席時数	成績	履修	学生番号	氏名	欠席時数	成績
	■■■■■	■■■■■		91		■■■■■	■■■■■	7.6	69
	■■■■■	■■■■■		92		■■■■■	■■■■■	4.3	84
	■■■■■	■■■■■	8.3	82		■■■■■	■■■■■	8.3	69

(出典 機械工学科)

(資料 5-8-①-4)

(4) 成績評価

出席日数 2 / 3 以上のものに対して評価を行います。
評点と評価及び単位認定の判定は、次のとおりです。

評 価	評点	100~80	79~70	69~60	59 以下
	評語	優	良	可	不可
	判定	合格			不合格

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料 5-8-①-5)

【科目名】		応用数理解析 (Applied Analysis)	JABEE
【学年、専攻名】		1学年、建設工学専攻	
【必修・選択、単位数、期間】		必修、2単位、後期	
【担当教員】		森 貞雄	
【学習・教育目標】:c		【JABEE基準1(1)】:c	
【授業の目的及び概要】 古典力学と量子力学の橋渡しとして重要な役割を果たす解析力学を講義する。自然の法則が、変分原理により、簡単に、美しく記述できることを述べる。			
達成目標	1. ニュートンの運動方程式とラグランジュの方程式、ハミルトンの方程式が等価であることを理解する。 2. 変分原理からラグランジュの方程式、ハミルトンの方程式が導けることを理解する。 3. ラグランジュの方程式、ハミルトンの方程式を適用して簡単な問題が解ける。		
【教科書】		量子力学を学ぶための解析力学入門(高橋康) 講談社サイエンティフィック	
【参考書等】		便利な変分原理(岡崎誠) 共立出版	
【授業方法】 基本事項について講義し、抽象的な数学表現の理解を深めるために、具体的な問題や応用問題による演習を適宜実施する。			
		【項目】	【内容】
前 期	第1週	ラグランジュの方程式と正準方程式	1. ニュートンの運動方程式とラグランジュの方程式の同等性を理解する。 2. ニュートンの運動方程式と正準方程式の同等性を理解する。 3. 変分原理を理解する。 3. ラグランジュの方程式を変分原理から導く。 4. 正準方程式を変分原理から導く。
	第2週	＃	
	第3週	＃	
	第4週	変分原理とラグランジュの方程式	
	第5週	＃	
	第6週	＃	
	第7週	＃	
	第8週	変分原理と正準方程式	
	第9週	＃	
	第10週	＃	
	第11週	＃	
	第12週	量子力学との関連	
	第13週	＃	
	第14週	期末試験	
	第15週	返却・解答説明	
【カリキュラムの中での位置づけ】 機械電気工学専攻と建設工学専攻の両専攻において、力学の集大成を目指すもので、それぞれの分野において基礎を構成し、応用が可能な科目である。			
【この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目】 微積分、力学			
【この科目と同時に学ぶ科目】 量子力学			
【評価方法・基準】 評価方法：期末試験を70%、演習・レポートを30%で評価する。ただし、レポート提出は必須である。 評価基準：達成目標の60%以上が達成出来ていると判断すれば合格とする。			
【連絡事項・注意事項・メッセージ】 レポートの提出は評価割合とは関係なく必須であると考えている。すなわち、レポート提出無しの場合期末試験満点でも単位は取得できない。授業をやむをえず欠席した場合、授業においてレポートが課されたか否かは自分で確認すること。			

(出典 シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

単位時間、学生が学年ごとに履修すべき授業科目、成績評価方法と単位認定規定、修了条件が学則に明示されており、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定されている。全学生に配布するシラバスやSTUDIES & CAMPUS LIFEを通じて、学生に周知されている。また、他教員による解答用紙やレポート等の点検により、これらの規定に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されていることが確認されている。修了認定が適切に実施されていることが、修了認定会議で、全教員により確認されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

JABEE（日本技術者教育認定機構）受審に関連して、成績評価方法についての関心が高まり、学生にも理解しやすいようにシラバスやキャンパスガイドを整備したこと。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程においては教育の目的に照らして授業科目が学年ごとに適切に配置されており、講義、演習、実験、実習科目のバランスも考慮されている。学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に応じるべく他高等教育機関との単位互換、SCSの利用、インターンシップの単位認定が行われている。教育の内容、達成目標、評価方法はシラバスに記載され、学年初めに教員、学生全員に配布される。創造演習、創造製作、卒業研究などの科目では特に創造性を育むことを主眼においた指導がなされている。また、人間の素養の涵養のため特別活動や学校行事、クラブ活動を通しての指導がなされている。

専攻科の教育課程は準学士課程との連携を考慮されたもので教育の目的に照らして必修、選択科目が適切に配置され、準学士課程の教育を受けて、さらに高度な教育がなされている。専攻科では、特に、学生・社会のニーズに応えるべく、2週間以上8週間までの長期インターンシップを実施している。また、中間発表、学会発表を義務付けることにより専攻科にふさわしい高度な研究内容の指導が行われていることを確認している。

成績評価や単位認定は、定められた規定に従い厳粛になされ、そのことが修了認定会議で教員全員により確認される。また、成績評価、単位認定の規定はシラバス、キャンパスガイドを通して学生に周知されている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、高いレベルの専門技術・知識を有すると共に、豊かな教養・国際性を備え、優れた創造力・実行力を持つ技術者の育成を目指し、準学士課程及び専攻科課程の学生に対して教育が行われている。本校の理想とする技術者育成のため、学校全体での教育理念と教育目標を掲げ、また準学士課程各学科別及び専攻科各専攻コースにおいて、それぞれの専門及び課程に合わせた学習・教育目標を設定し（資料6-1-①-1-(a)～(d)：準学士課程シラバス各学科学習・教育目標，資料6-1-①-2-(a)～(d)：専攻科課程シラバス各系学習・教育目標と基準1の(1)の(a)～(h)との対応），シラバス等で準学士課程及び専攻科学生に周知している。また、進級・卒業・修了に必要な条件については、シラバス及びキャンパスガイド等において学生に周知されている（資料6-1-①-3-(a)～(d)：準学士課程キャンパスガイド及び専攻科課程 STUDIES & CAMPUS LIFE：卒業・修了要件，資料6-1-①-4-(a)～(e)：準学士課程シラバス2. 進級・卒業認定単位表，資料6-1-①-5-(a)～(d)：準学士課程及び専攻科課程シラバス 各学科 授業科目系統図）。この学生の達成状況を把握・評価するため、準学士課程学生に対しては教務委員会（資料6-1-①-6：教務委員会規則抜粋），専攻科学生に対しては専攻科委員会（資料6-1-①-7：専攻科委員会規則抜粋）が授業評価アンケートを前・後期に分けて行っている（資料6-1-①-8：授業評価アンケート用紙座学用抜粋，資料6-1-①-9：授業評価アンケート用紙実験・実習用抜粋）。授業評価アンケート結果は各科目担当教員にフィードバックされ、また担当教員の意見と共にとりまとめられた上で、各ホームルームでの閲覧及び学内掲示により学生への結果公開がなされている。このアンケートの項目内には、授業評価の他に自己の達成度評価を問う項目もあるが、より詳しく各学生の達成状況を評価するため、平成17年度から教務委員会の管轄で達成度評価アンケートを準学士課程4，5年生及び専攻科課程の全科目で行い、担当教員が授業改善に役立っている（資料6-1-①-10-(a)～(e)：各学科「授業の理解度（学習・教育目標の達成度）自己点検シート」）。本校では、創造力・実行力を育成するため準学士課程の卒業研究及び専攻科課程の特別研究の指導に力を入れているが、これについても卒業研究評価アンケート及び特別研究評価アンケートを行い（資料6-1-①-11：教育環境に関する学生評価アンケート用紙準学士課程学生用抜粋，資料6-1-①-12：教育環境に関する学生評価アンケート用紙専攻科生用抜粋），達成状況の把握に努めている。平成18年度以降は、教育改善委員会が授業評価アンケートを始めとした上述の達成状況調査を管轄し（資料6-1-①-13：教育改善委員会規則抜粋及び組織連携図），その調査・検討結果を基に教務委員会及び専攻科委員会が実働する体制となる。準学士課程学生の達成度に対して、進級判定会議及び卒業判定会議において、単位修得数，履修時間，卒業研究の評価などにより達成状況を適切に評価し（資料6-1-①-14：教務規則第3章及び第4章抜粋），進級及び卒業を判定している。また同様に、専攻科学生の達成度に対して修了判定会議において、単位修得数，履修時間，特別研究論文の評価などにより達成状況を適切に評価し、専攻科修了を判定している。

(資料6-1-①-1-(a))

機械工学科の学習・教育目標

機械工学科および専攻科機械工学コースでは以下のような学習・教育目標を掲げ、JABEE（日本技術者教育認定機構）の基準に対応した教育をめざしています。

(A) 豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力

- (1)人文科学, 社会科学, 外国語の学習を通して, 文学, 歴史, 文化, 人生観, 法律, 経済, 国際関係などに関する幅広い知識を身につけるとともに, 国際的視野を持った豊かな人間性を身につける。
- (2)「技術者倫理」等の学習を通して, 技術が社会と自然に及ぼす影響・効果を理解し, 技術者としての社会に対する責任感を自覚しながら, 人類の福祉と地域社会・国際社会の進展に貢献できる能力を身につける。
- (3)「日本語コミュニケーション」等の学習を通して, 日本語による論理的な記述・口頭発表・討議ができる能力を身につける。また, 「英語コミュニケーション」, 「上級工業技術英語」等の学習および TOEIC の受験, 姉妹校交流などを通して, 英語でコミュニケーションできる基礎能力を身につける。

(B) コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、事象の解析や機械の設計・製作に応用できる能力

線形代数, 微積分学, 確率・統計等の数学, 物理学, 化学等の自然科学およびプログラミング, シミュレーション等の情報技術に関する基礎知識を身につけるとともに, それらの知識を機械分野の構造・熱・流体・振動等の解析や機械の研究・開発, 設計・製作, 生産技術, 制御等に応用していくことができる能力を身につける。

(C) 技術者としての専門知識を習得し、自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力

機械工学の主要分野である「材料と構造」, 「運動と振動」, 「エネルギーと流れ」, 「情報と計測・制御」, 「設計と生産・管理」, 「機械とシステム」に関する専門知識を身につけるとともに, 自然環境の修復や環境負荷の低減などを考えながら, 技術的課題に幅広く対応できる能力を身につける。

(D) 実験・実習, 製図等の体験的学習を習得し、豊かな創造力を持って、主体的・積極的に問題を解決する能力

- (1)「工学実験」, 「特別実験」の学習を通して, 専門知識の理解を深めるとともに, 与えられた現実の諸問題を主体的・積極的に解決する実践的能力および計画的に仕事を進めて期限内に仕事を終える能力を身につける。
- (2)「創造演習」, 「創造製作」, 「校外実習」, 「インターンシップ」, 「機械設計製図」の学習を通して, 未知なる問題に対して, 数学, 自然科学, 情報技術, 専門知識などを統合してチャレンジし, 解決していくデザイン能力および創造力を身につける。

(E) 自主的に実験等を遂行し、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力

- (1)「卒業研究」に取り組むことにより, 特定分野の専門知識を深めるとともに, 変化の速い情報社会に対応できるように, 自主的に継続して仕事ができる能力を身につける。
- (2)「特別研究」に取り組むことにより, 実験等を計画的に遂行し, 実験データや計算データを工学的に解析・考察して報告書に論理的にまとめることができる能力を身につける。また, 「特別研究」の成果を学協会等で口頭発表することにより, 専門分野に関するプレゼンテーションができる能力を身につける。

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-1-(b))

電気情報工学科の教育目標

電気情報工学科、及び専攻科機械電気専攻電気系においては「多岐にわたり発展する電気・電子・情報・通信・制御工学分野における基礎学力と創造力を備えた開発型技術者を育成する」ことを教育目標とし、その具体的目標は以下の通りである

A 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること。

電気情報工学の分野で活躍するためには、数学や物理などの基礎科目の他に、電気磁気学、電気回路、電子工学、電気計測などの基礎科目の修得が必要不可欠である。このような基礎学力を身につけることを目標とする。

B 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して、より高度なエネルギー制御分野の知識を身につけること。

エネルギー制御分野は電力の発生、輸送、エネルギーの変換、及びそれらの制御に関する技術を扱う学問領域である。この分野の基礎、及び応用科目であるエネルギー発生工学、電力系統工学、エネルギー変換工学、制御工学等の実践的なカリキュラムの習得を通して、高度なエネルギー制御工学の知識を身につけることを目標とする。

C 電気情報工学科の実践的な技術者教育を通して、より高度な情報通信分野の知識を身につけること。

情報通信分野は情報源の電気信号への変換、処理、伝送、及びそれらの回路化、システム化に関する技術を扱う学問領域である。この分野の基礎、及び応用科目である情報工学、電子工学、通信工学、電子回路等の実践的なカリキュラムの習得を通して、高度な情報通信工学の知識を身につけることを目標とする。

D 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を具備し、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること。

グローバル化した変化の早い情報化社会では、生涯にわたって自らが新たな知識や情報を取得し、自主的に継続して学習することが重要である。また技術者として生涯にわたり、自然や社会との関わりにおいて、責任ある判断と行動を保ち続けることも重要である。このような技術者としての倫理観と国際化社会に対応するための能力を、技術者倫理、総合英語、日本語コミュニケーションなどの習得を通して身につけることを目標とする。

E 創造力をもとに、合理的な計画をたてる能力、それを遂行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること。

未知の問題を解決するため、これを自らの考えで、筋道をたてて計画的に取り組み、実現可能な解を見つけ出してゆく能力を、校外実習、卒業研究などの科目の習得を通して身につけることを目標とする。

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-1-(c))

環境都市工学科の学習・教育目標

豊かな教養と国際性

(A) 自然現象を理論的に取り扱えるように、数学・自然科学・情報技術を身につける。

工学の基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する基礎的な知識を修得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを修得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させる能力を育成する。

(B) 国際的な視野と幅広い教養および技術者としての倫理観を身につける。

異文化を理解し、総合的に物事を判断できる幅広い教養と、工学に携わる者として求められる倫理観を身に付ける。また、外国語の学習を通して、国外の書物の講読、国外の技術者とのコミュニケーションが可能な語学力を身につけることを目的とする。

(C) 事業内容や意見等を正確に相手に伝えることができる表現力、プレゼンテーション能力を身につける。

自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができる表現力、プレゼンテーション能力を育成する。授業におけるレポート・設計書の作成、卒業研究・特別研究論文の作成を通して、論理的な記述・表現が出来るようになることを目的とする。

建設・環境分野の基礎知識・能力

(D) 事業の計画、設計、施工および維持にいたるまでの一貫した作業を責任を持ってやり遂げられる素養を身につける。

社会基盤整備に関わる事業の計画、調査、設計、施工、維持管理に関わる専門分野の内容を習得し、責任を持って事業をやり遂げる能力を身につける。

(E) 環境保全のための分析、評価能力を身につける。

環境の恵沢の享受と継承、健康で文化的な生活の確保と向上に寄与する環境保全・都市空間デザインに関する基礎的知識・能力を修得する。

(F) 環境に配慮した社会基盤整備を行う能力を身につける。

環境に配慮し安全で快適な社会を形成するための社会基盤施設の整備に必要な、構造物の材料特性や力学特性に関する基礎的知識・能力を修得する。

建設・環境分野の創造力・応用力

(G) 専門分野の知識を習得し、豊かな創造力を持って、問題に立ち向かえる能力を身につける。

建設・環境分野の基礎的専門知識を基にして卒業研究および特別研究に取り組むことにより、未知なるものへのチャレンジ精神と創造力および多様な問題に対する解決能力を身につける。

(H) 国家資格にも対応する実践的な技術を身につける。

実験実習、設計製図、現場見学を通して、建設・環境分野の技術を体得するとともに、その技術と理論とを対応させて理解する。また、建設・環境分野に関する国家資格にも対応した実践的能力を身につける。

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-1-(d))

建築学科 学習・教育目標

4. 学習・教育目標

建築学科では本科生(1年生から5年生)に対して以下のような学習・教育目標の設定し、学生が建築技術者として必要な専門知識や技術を修得できるような専門教育を実施しています。

(A) 豊かな教養と倫理観をもつ技術者の育成

科学技術の向上と国民経済の発展に資する技術者に必要な豊かな教養と倫理観をもつ技術者を育成する。倫理観については、技術者が直面する倫理問題の概要や技術者が背負うことになる責任の重さを知り、これに対処するための基本的な姿勢を育成する。

(B) 国際的なコミュニケーション能力をもつ技術者の育成

建築技術に関わる動向を国際的な視野から捉え、英語を用いて国際的な建築業務を遂行できる基礎的なコミュニケーション能力を育成する。また、自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができるプレゼンテーション能力を育成する。

(C) 工学の基礎的な知識をもち情報化社会に対応できる能力

工学の基礎となる数学、物理、情報技術に関する基礎的な知識を修得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを修得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させて能力を育成する。

(D) 総合的な視点から建築技術を捉える能力

建築技術者には、自然科学や社会科学などの教養を基礎に、総合的な視点から建築の各専門分野の知識や技術を捉えながら専門業務を遂行することが求められる。建築学分野の全般にわたる総合的な建築教育はその基本であり、様々な知識や技術を相互に関連付けながら総合的な視点から捉え、知識や技術を活用する姿勢や基礎的な能力を育成する。

(E) 建築学に関する基礎的な専門知識とその応用能力

以下の3つの専門分野における基礎的な専門知識とその応用能力を修得する。

E1 建築設計・計画: 造形および空間創造のための基礎能力、建築を創るための基礎知識、ハンドワークやオーラルコミュニケーションを中心とした表現・伝達技術を修得する。

E2 建築環境・設備: 建築環境や建築設備に関する基礎的な知識・能力を修得する。

E3 建築構造: 建築構造の仕組みとその特徴、材料、安全や機能を確保するための方法、建築防災に関わる専門知識、構造理論と実践との調和の必要性について修得する。

(F) 理論と現実を対応させながら建築技術を捉える能力

各専門分野において修得した知識が机上の空論にならないように、実験、模型の制作、現地踏査、現場見学を通して、建築の実体的な現象を捉え、それが理論とどのようにリンクしているかを理解する能力を修得する。

(G) 知識や技術の修得に対して主体的、計画的に取り組むことができる能力

実務では与えられた課題や問題を、自分の実行能力や与えられた時間内に与えられた設備や施設などを考慮しながら、自らの判断の下に最良の成果を得ることが求められる。主体的、計画的に問題解決に取り組むための技術者に必要な基本的な姿勢や能力を、研究や演習、実験を通して育成する。

(資料6-1-①-1-(d) 続き)

また、本科4年生から専攻科2年生まで(プログラム名:建築学コース)は、上記7つの学習・教育目標加えて、高度な専門的知識・能力を修得するための学習・教育目標(H)を設定し、専門教育を実施しています。

(H) 情報技術を活用した創造的、実践的なデザイン能力

既習の建築学の基礎的な専門知識や技術をより高度に応用・発展させながら、多様な社会のニーズに対応できる技術者となるために、最先端の情報技術を活用した創造的、実践的なデザイン能力を育成する。

現在の学習・教育目標は、平成14年度から建築学科で検討が重ねられ、社会のニーズや学生や卒業生の意見などをもとに平成15年度に決定されたものです。これらの学習・教育目標については建築学科棟や教室の掲示板上にも掲示されています。

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-2-(a))

学習・教育目標とJABEE基準に主体的に対応する科目

学習・教育目標	分類	目 標	(a)	(b)	(c)	(d)						(e)	(f)	(g)	(h)	
			地球の視点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者として社会に對する責任を自覚する能力(技術者倫理)	数学、自然科学、情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力	該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを用いて問題解決に活用できる能力(機械および機械関連分野)						種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討論などのコミュニケーション能力	変化に對して自主的・継続的に学習できる能力	与えられた制約の下で計画的に仕事を遂行する能力
						(d-1)	(d-2)	(d-3)	材料と構造	運動と振動	エネルギーと流れ					
(A) 豊かな教養と技術者としての倫理観を持って、国際的に行動できる能力		哲学 法学 日本古典文学 講義 歴史特講 経済学 経営学 社会学 国際関係論 心理学	技術者倫理 工学倫理 知的所有権論											日本語コミュニケーション 英語コミュニケーション 総合英語 オーラルコミュニケーションII 工業英語 上級工業技術英語 論議演習 ドイツ語I ドイツ語II 文化論		
(B) コンピュータ技術・数学・自然科学の基礎を習得し、専攻の解析や機械の設計・製作に応用できる能力				応用数学I 数学特論 応用数理 解析 量子力学 確率と物質 物質科学 パワエレクトロニクス 情報処理 数値計算法	離散代数 微分方程式 応用数学II 応用物理											
(C) 技術者としての専門知識を習得し、自然と共存しながら機械工学の分野で幅広く対応できる能力						材料力学 材料力学特論 弾性学 材料学 材料学特論 ナノテクノロジー 流体設計工学	機械力学 機械振動学	熱工学(M4-M5) エネルギー工学 応用工学 製図工学 冷凍工学 流体工学(M4) 実体流体力学 熱伝達流体力学	情報処理特論 計測工学 制御工学I 制御工学II システム制御 電子工学 医用工学概論	機械要素設計 機械要素 加工学 薄板工学 経営工学 経営システム工学	熱機関 流体工学(M5) 応用工学 システム工学					
(D) 実験・実習・習得等の体験的学習を習得し、豊かな創造力を持って、主体的・積極的に問題を解決する能力														機械設計習得 製造演習II 製造製作 技術実習 イノベーション		工学実験 特別実験
(E) 自主的に実験等を行い、データを解析・考察して、発表や討議ができる能力														特別研究		卒業研究

注)○:付随的に対応

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-2-(b))

電気情報工学科 エネルギー制御コース

学習・教育 目標	授業科目名					
	本科4年	本科5年	専攻科1年		専攻科2年	
			前期	後期	前期	後期
(A) 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論(選) 電気磁気学 電気回路 電気計測 制御工学 電子工学 電子回路		微分方程式 回路網工学	応用数理解析 線形代数 磁気と物質		
(B) 電気情報工学の実践的な技術者教育を通して、より高度なエネルギー制御分野の知識を身につけること	エネルギー変換工学Ⅰ 材料・制御工学 エネルギー発生工学 シーケンス制御	エネルギー変換工学Ⅱ パワーエレクトロニクス エネルギー発生工学 システム工学 メカトロニクス	新エネルギー工学	モーター・電力 7D/Aシステム		
(C) 電気情報工学の実践的な技術者教育を通して、より高度な情報通信分野の知識を身につけること	アナログ通信工学(選) デジタル通信工学(選) 信号処理(選) IC設計工学(選) アルゴリズム(選)	画像工学(選) 電子デバイス(選) 電子回路設計(選) 情報理論(選) 超高周波工学(選) 電磁界理論(選) 電子物性(選) 通信ネットワーク(選)	数値計算法 ミリ波工学 インフォメーション/量子力学	電磁波システム工学 パワーエレクトロニクス プラズマ科学	量子工学	
(D) 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を具備し、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること	法学 保健・体育 総合英語 ドイツ語 国際特講(選) 社会学(選) 経済学(選) Nイノベーション(選) グローバルコミュニケーションⅡ(選)	工業英語(選) 工業倫理 哲学、保健・体育 総合英語、ドイツ語 中国古代文化(選) ドイツ語文化(選) 国際関係論(選) 心理学(選) 経営学(選) 歴史特講(選)	英語コミュニケーション 物質科学 機械電気専攻講義演習	日本語コミュニケーション 知的所有権論 機械電気専攻講義演習	技術者倫理 上級者工業技術英語	
(E) 創造力をもとに、合理的な計画をたてる能力、それを遂行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること	エネルギー制御工学実験 エネルギー制御工学演習 校外実習(選)	エネルギー制御工学実験 卒業研究	機械電気専攻特別研究 機械電気専攻特別実験 機械電気専攻特別セミナー インターンシップ	機械電気専攻特別研究 機械電気専攻特別セミナー	機械電気専攻特別研究 システム工学セミナー	機械電気専攻特別研究 システム工学セミナー

電気情報工学科 情報通信コース

学習・教育 目標	授業科目名					
	本科4年	本科5年	専攻科1年		専攻科2年	
			前期	後期	前期	後期
(A) 電気情報工学の分野で活躍するための基礎学力を身につけること	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数学特論(選) 電気磁気学 電気回路 電気計測 制御工学 電子工学 電子回路		微分方程式 回路網工学	応用数理解析 線形代数 磁気と物質		
(B) 電気情報工学の実践的な技術者教育を通して、より高度なエネルギー制御分野の知識を身につけること	エネルギー変換工学Ⅰ(選) 材料・制御工学(選) エネルギー発生工学(選) シーケンス制御(選)	エネルギー変換工学Ⅲ(選) パワーエレクトロニクス(選) エネルギー発生工学(選) システム工学(選) メカトロニクス(選)	新エネルギー工学	モーター・電力 7D/Aシステム		
(C) 電気情報工学の実践的な技術者教育を通して、より高度な情報通信分野の知識を身につけること	アナログ通信工学 デジタル通信工学 信号処理 IC設計工学(選) アルゴリズム(選)	電子デバイス 電子回路設計 情報理論 超高周波工学 電磁界理論 電子物性 信号処理(選) 画像工学(選) 通信ネットワーク(選)	数値計算法 ミリ波工学 インフォメーション/量子力学	電磁波システム工学 パワーエレクトロニクス プラズマ科学	量子工学	
(D) 国際感覚を兼ね備えた豊かな教養と誰からも尊敬される人徳を具備し、日本語でも英語でも自分の考えを伝えることのできるようなコミュニケーション能力を身につけること	法学 保健・体育 総合英語 ドイツ語 国際特講(選) 社会学(選) 経済学(選) Nイノベーション(選) グローバルコミュニケーションⅢ(選)	工業英語(選) 工業倫理 哲学、保健・体育 総合英語、ドイツ語 中国古代文化(選) ドイツ語文化(選) 国際関係論(選) 心理学(選) 経営学(選) 歴史特講(選)	英語コミュニケーション 物質科学 機械電気専攻講義演習	日本語コミュニケーション 知的所有権論 機械電気専攻講義演習	技術者倫理 上級者工業技術英語	
(E) 創造力をもとに、合理的な計画をたてる能力、それを遂行する行動力、自ら進んで未知の問題を解決する能力を身につけること	情報通信工学実験 エネルギー制御工学演習 情報通信工学演習 校外実習(選)	情報通信工学実験 卒業研究	機械電気専攻特別研究 機械電気専攻特別実験 機械電気専攻特別セミナー インターンシップ	機械電気専攻特別研究 機械電気専攻特別セミナー	機械電気専攻特別研究 システム工学セミナー	機械電気専攻特別研究 システム工学セミナー

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-2-(d))

表 建築学科の学習・教育目標と J A B E E の学習・教育目標と対応科目の関係

学習・教育目標	基準 1 (1) の知識・能力												
	(a)	(b)	(c)	(d) 建築学および建築学関連分野における分野別要件					(e)	(f)	(g)	(h)	
地球の視点から多面的に物事を考える能力とその実用	○ (国際関係論)	○ (法学、哲学、技術倫理、知的財産権) ○ (歴史、社会学、経済学、経営学、日本文学 I・II、心理学)	数学、自然科学および情報技術に関する知識とその応用できる能力	(d1) 建築設計・計画に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d2) 建築環境・設備に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d3) 建築構造に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d4) 建築生産 (材料・施工を含む) に関する包括的、基礎的な専門知識・能力	(d5) 定規 4 分画以外の包括的、基礎的な専門知識・能力	(2) 建築にかかわる特定領域の高度な専門知識・能力	様々な科学、技術および情報を利用して社会的要求を解決するためのデザイン能力	日本語による論理的な記述能力、口頭発表力、討論等のコミュニケーション能力および国際的に適用するコミュニケーション基礎能力	自主的、継続的に仕事を遂行できる能力	考えられた制約の下で計画的に仕事を遂行する能力
(A) 豊かな教養と倫理観をもつ技術者の育成	○ (国際関係論)	○ (法学、哲学、技術倫理、知的財産権) ○ (歴史、社会学、経済学、経営学、日本文学 I・II、心理学)											
(B) 国際的なコミュニケーション能力をもつ技術者の育成													○ (工業英語、総合英語、実用英語 I、ドイツ語、ドイツ語ドイツ文化論、オンラインコミュニケーション II、上級工業技術英語、日本語コミュニケーション、英語コミュニケーション)
(C) 工学の基礎的な知識をもち情報化社会に対応できる能力の育成	○ (環境環境学)	○ (経営システム工学)	○ (応用物理、応用数学、数学特論、情報処理、CAD・CG、環境情報処理、応用数値解析、微分方程式、線形代数、数値計算法)、○ (物質科学、電気と物質、バイオテクノロジー、微生物学)										
(D) 総合的な視点から建築技術を探る能力				○ (建築設計製図 I・II、設計演習 I・II)	○ (構造設計 I・II、III)	○ (建築材料、測量)	○ (建築法規、学外セミナー)					○ (卒業研究)	○ (卒業研究)
(E) 建築学に関する基礎的な専門知識とその応用能力	E1 計画			○ (建築計画、建築史、建築意匠)					○ (都市計画、都市・地域計画、環境デザイン、空間デザイン)				
	E2 環境	○ (環境設計、環境アセスメント)		○ (建築環境工学、建築設備 I・II、環境人間工学)									
	E3 構造				○ (建築構造力学、鉄筋コンクリート造、鋼構造、建築地震工学、建築防災工学、建築防災工学、応用解析法、地盤・構造物・支保工学、各種コンクリート系構造)	○ (建築地盤工学)							
(F) 理論と実用を対応させながら建築技術を探る能力				○ (建築環境実験、人間環境生理)	○ (構造工学実験)	○ (建築生産、建設材料論)	○ (インターシップ)			○ (特別実験)		○ (特別実験)	
(G) 知識や技術の取得に対して主体的、計画的に取り組むことができる能力										○ (卒業研究、特別研究)	○ (卒業研究、特別研究)	○ (特別研究)	
(H) 情報技術を活用した創造的、実践的なデザイン能力				○ (デザイン論)	○ (創発構造)				○ (デザイン論、計算構造)				

○: 主体的に営んでいる ○: 計画的に営んでいる ※ ()内は J A B E E プログラム設定を基とした科目

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-3-(a))

2. 10 進級、留年、追認試験、卒業・学年修了要件

(1) 進級の条件

進級のためには、下表の条件を満たす必要があります。

進級・卒業の条件

進級に必要な未修得科目単位	1年	2年	3年	4年	5年
		8以下	8以下	8以下	7以下
進級に必要な未修得科目累積単位		10以下	10以下	10以下	10以下
学校行事の出席	2/3以上				
特別活動 (LHR) の出席	2/3以上				

(出典 キャンパスガイド)

(資料6-1-①-3-(b))

「機械工学コース」プログラム修了要件

1. 本校の機械工学科又はこれと同等の学科を卒業していること。ただし、他の高等教育機関から本校専攻科に入学した者については、本校機械工学科の卒業に相当すると認定されること。
2. 専攻科において62単位以上、本科4、5学年を含めて124単位以上取得していること。
3. 別表に定める単位取得要件を満たしていること。
4. 本科4、5学年を含めて、人文科学、社会科学等の科目（語学系科目を含む）で250時間以上、数学、自然科学、情報技術系科目で250時間以上、専門科目で900時間以上かつ合計1800時間以上の学習時間を経ていること。
5. 学協会において研究発表を行っていること。
6. 学士（工学）の学位を取得していること。

別 表

学習・教育目標	単 位 取 得 要 件
A-1	法学、哲学、一般選択科目（5学年）のうち2科目以上取得していること。
A-2	技術者倫理を取得していること。
A-3	日本語コミュニケーションおよび英語コミュニケーションを取得していること。
B-1	応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、線形代数、微分方程式、応用数理解析のうち4科目以上取得していること。
B-2	応用物理、量子力学、磁気と物質、物質科学のうち3科目以上取得していること。
B-3	情報処理または数値計算法を取得していること。
C	材料力学、弾性学、材料学、ナノテクノロジー、潤滑設計工学、機械力学、熱工学（4学年）、熱工学（5学年）、伝熱工学、流体工学（4学年）、数値熱流体力学、計測工学、システム制御、機械要素設計、機械要素、加工学、経営工学（計17科目）のうち、15科目以上取得していること。
D-1	創造演習Ⅱ・創造製作・校外実習のうち1科目を取得していること。
D-2	機械設計製図、工学実験（4学年）、工学実験（5学年）および特別実験を取得していること。
E	卒業研究および特別研究を取得していること。

* 機械工学コースの修了認定は、機械工学科の議を経て、専攻科修了認定会議で審議される。

* この修了要件は、平成16年度専攻科入学生から適用する。

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料6-1-①-3-(c))

「電気情報工学コース」プログラム修了要件

1. 本校の電気工学科又はこれと同等の学科を卒業していること。ただし、他の高等教育機関から本校専攻科に入学した者については、本校電気工学科の卒業に相当すると認定されること。
2. 専攻科において62単位以上、本科4, 5学年を含めて124単位以上取得していること。
3. 別表に定める単位取得要件を満たしていること。
4. 本科4, 5学年を含めて人文科学, 社会科学等の科目(語学系科目を含む)を250時間以上, 数学, 自然科学, 情報技術系科目を250時間以上, 専門科目を900時間以上かつ合計1800時間以上の学習時間を経ていること。
5. 学協会において研究発表を行っていること。
6. 学士(工学)の学位を取得していること。

別 表

学習・教育目標	単 位 取 得 要 件
A	<ul style="list-style-type: none"> ・本科における数学・自然科学・情報技術系科目(応用数学 I, II, 数学特論)を4単位以上取得していること ・本科専門基礎科目(電気回路, 電気計測, 制御工学, 電子工学, 電子回路)を8単位以上取得していること。 ・専攻科における数学・自然科学・情報技術系科目(線形代数, 応用数理解析, 線形代数, 磁気と物性)を4単位以上取得していること。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・本科におけるエネルギー制御関連専門科目を10単位以上取得していること。 ・専攻科におけるエネルギー制御関連専門科目を4単位以上取得していること
C	<ul style="list-style-type: none"> ・本科における数学・自然科学・情報技術系科目(電子計算機, 情報工学 I, II)を4単位以上取得していること。 ・本科における情報通信関連専門科目を4単位以上取得していること。 ・専攻科における情報通信関連専門科目を10単位以上取得していること。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・本科における人文科学・社会科学等の科目(法学, 哲学, 保健体育, 総合英語, ドイツ語, 一般選択)を10単位以上取得すること ・専攻科における人文科学・社会科学等の科目である英語コミュニケーション, 日本語コミュニケーション, 及び技術者倫理を受講し, 6単位取得していること。 ・専攻科における関連専門科目(講読演習, 経営システム工学, 知的所有権論)を4単位以上取得すること。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・本科における電気工学実験実習, 卒業研究を受講し, 16単位取得すること。 ・専攻科における特別実験, 特別研究を受講し, 14単位取得すること。 ・専攻科における関連専門科目(インターンシップ, 特別セミナー, システム工学セミナー)を4単位以上取得すること。

* 電気情報工学コースの修了認定は、電気情報工学科の議を経て、専攻科修了認定会議で審議される。

* この修了要件は、平成16年度専攻科入学生から適用する。

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料6-1-①-3-(d))

「環境都市工学プログラム」修了要件

1. 本校の環境都市工学科又はこれと同等の学科を卒業していること。ただし、他の高等教育機関から本校専攻科に入学した者については、本校環境都市工学科の卒業に相当すると認定されること。
2. 専攻科において62単位以上、本科4, 5学年を含めて124単位以上修得していること。
3. 別表に定める単位取得要件を満たしていること。
4. 本科4, 5学年を含めて、人文科学, 社会科学系科目(語学系科目を含む)250時間以上, 数学, 自然科学, 情報技術系科目250時間以上, 専門科目900時間以上かつ合計1800時間以上の学習時間を経ていること。
5. 学協会において研究発表を行っていること。
6. 学士(工学)の学位を取得していること。

別 表

学習・教育目標	単 位 取 得 要 件
A-1	応用数学系科目(応用数学Ⅰ, 数値解析, 応用数学Ⅱ, 数学特論, 微分方程式, 線形代数)のうち6単位以上取得していること。
A-2	自然科学系科目(応用物理Ⅱ, バイオテクノロジー, 応用数理解析, 物質科学, 微生物学)のうち4単位以上取得していること。
A-3	情報技術系科目(情報処理Ⅰ, 情報処理Ⅱ, 環境情報処理, 応用解析法, 数値計算法)のうち4単位以上取得していること。
B-1	外国語科目(総合英語, オーラルコミュニケーションⅡ, 工業英語, ドイツ語, 英語コミュニケーション, 上級工業技術英語, 講読演習)のうち8単位以上取得していること。
B-2	人文・社会科学系科目(法学, 哲学, 経済学, 社会学, 本科5年の一般選択科目, 知的所有権論)のうち4単位以上取得していること。
B-3	技術者倫理を取得していること。
C	日本語コミュニケーションを取得していること。
D-1	施工系科目(建設施工Ⅰ, 建設施工Ⅱ, 交通システム工学, 道路工学, 工業火薬学, 計測, 応用建設施工, テラメカニクス)のうち2単位以上取得していること。
D-2	計画系科目(都市計画, 交通計画, 建設計画, 都市地域計画)のうち2単位以上取得していること。
E	環境系科目(環境衛生工学, 水資源工学, 防災工学, 河川工学, 景観工学, 環境アセスメント, 資源循環工学, 環境デザイン)のうち4単位以上取得していること。
F-1	材料系科目(コンクリート構造Ⅰ, コンクリート構造Ⅱ, 建設材料論)のうち2単位以上取得していること。
F-2	構造系科目(構造力学Ⅰ, 構造力学Ⅱ, 橋工学Ⅰ, 橋工学Ⅱ, 建設弾塑性力学, 耐震構造)のうち2単位以上取得していること。
F-3	水理系科目(水理学Ⅰ, 水理学Ⅱ, 港湾工学, 応用水理学)のうち2単位以上取得していること。
F-4	土質系科目(土質力学Ⅱ, 応用地質学, 環境地盤力学)のうち2単位以上取得していること。
G	特別研究を取得していること。
H	特別実験とインターンシップを取得していること。

*環境都市工学プログラムの修了認定は、環境都市工学科の議を経て、専攻科修了認定会議で審議される。

*この修了要件は、平成16年度専攻科入学生から適用する。

(出典 STUDIES&CAMPUS LIFE)

(資料6-1-①-4-(a))

一般科目 (各学科共通) 第1学年 (平成17年度入学生)

	授業科目	単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	人	国語総合 (現代文)	2	2					
	国語総合 (古典)	1	1						
	文	国語表現	1		1				
	現代文	2		2					
	古典	2		1	1				
	倫理	2			2				
	哲学	1					1		
	社	政治・経済	2			2			
	法学	1				1			
	会	歴史	4	2	2				
	地理	1	1						
	自然	数学A	10	4	3	3			
	数学B	7	2	3	2				
	物理	5	2	3					
	化学	5	3	2					
	保健・体育	10	3	3	2	1	1		
	芸術	1	1					美術とする。	
	外国語	総合英語Ⅰ	12	4	3	2	2	1	
		総合英語Ⅱ	4				2	2	第二外国語を選択しない者は、履修すること。
		オーラルコミュニケーションⅠ	5	2	2	1			
第二外国語		4				2	2	ドイツ語、中国語、韓国語から1科目選択すること。 なお、第二外国語を選択しない者は、総合英語Ⅱを履修すること。	
履修単位数計		78	27	24	16	6	5		
選択科目	日本文学Ⅰ	2				2			
	経済学	2				2			
	数学特論	2				2			
	バイオテクノロジー	2				2			
	国際関係論	2				2			
	オーラルコミュニケーションⅡ	2				2			
	歴史特講	2					2		
	社会学	2					2		
	日本文学Ⅱ	2					2		
	ドイツ語ドイツ文化論	2					2		
	心理学	2					2		
	経営学	2					2		
	開設単位数計		24				12	12	
	履修単位数計		4				2	2	
履修単位数合計		82	27	24	16	8	7		

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-4-(b))

機械工学科 第1～4学年(平成17～14年度入学生)

授 業 科 目	単位数	学年別配当					備 考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
必 修 科 目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用物理	4			2	2	実験を含む。	
	情報処理	6	1	1	2	2		
	工学倫理	1					1	
	工業英語	2					2	
	材料力学Ⅰ	4			2	2		
	機械力学	1					1	
	材料学	3		1	1	1		
	熱工学	3				2	1	
	熱機関	2					2	
	流体工学	4				2	2	
	加工学	4		1	2	1		
	経営工学	1					1	
	図学	1	1					
	機構学	1		1				
	機械要素設計	2			1	1		
	機械設計製図	10	2	2	3	3	CADを含む。	
	計測工学	2				2		
	メカトロニクス	2				1	1	
制御工学Ⅰ	1					1		
電気工学	1			1				
電子工学	2					2		
創造演習Ⅰ	1		1					
工作実習	7	2	2	3				
工学実験	4				2	2	4年電気工学実験, 5年機械工学実験	
機械工学セミナー	1				1			
卒業研究	9					9		
履修単位数計	83	6	9	17	26	25		
選 択 科 目	人工知能	1					1	
	材料力学Ⅱ	1					1	
	機械振動学	1					1	
	先端材料学	1					1	
	エネルギー工学	1					1	
	トライボロジー	1					1	
	システム工学	1					1	
	制御工学Ⅱ	1					1	
	創造演習Ⅱ	1				1		
	校外実習	1				1		
	創造製作	1				1		
開設単位数計	11				3	8		
履修単位数計	5				1	4		
履修単位数合計	88	6	9	17	27	29		
特 別 科 目	特別講義A	2				1	1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは, 中国・四国国立大学間共同授業で開講する授業科目及び広島県高等教育機関協議会会員校が指定する授業科目(以下「他大学等が実施する授業科目」という。)をいう。
	特別講義B	2				1	1	
	特別講義C	2				1	1	
	特別講義D	2				1	1	
	開設単位数計	8				4	4	
履修単位数計	0~8				0~4	0~4		

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-4-(c))

電気情報工学科 エネルギー制御コース 第1～4学年 (平成17～14年度入学生)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2			2		
	応用数学Ⅱ	2			2		
	応用物理	2		2			
	電気基礎	2	2				
	電気製図	1	1				
	CAD	1	1				
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2	2				
	情報処理Ⅲ	2		2			
	電気数学	3	1	2			
	電気・電子計測	2	1	1			
	創造演習	1		1			
	電気電子材料	2		2			
	電気回路	6	2	2	2		
	電気情報工学実験	6	3	3			
	電気磁気学	4		2	2		演習を含む。
	電子工学	2			2		
	電子回路	2			2		
	制御工学	2			2		
	エネルギー変換工学Ⅰ	2			2		
	エネルギーネットワーク工学	2			2		
	シーケンス制御	1			1		
	エネルギー制御工学演習	1			1		
	エネルギー変換工学Ⅱ	2				2	
	パワーエレクトロニクス	1				1	
	エネルギー発生工学	2				2	
	システム工学	2				2	
メカトロニクス	1				1		
工業倫理	1				1		
エネルギー制御工学実験	8			4	4		
卒業研究	9				9		
履修単位数計	78	6	9	17	24	22	
選択科目	アナログ通信工学	2			2		
	画像工学	1				1	
	電子デバイス	1				1	
	電子回路設計	1				1	
	情報理論	2				2	
	信号理論	1				1	
	信号処理	1			1		
	デジタル通信工学	2			2		
	超高周波工学	1				1	
	電磁界理論	1				1	
	電子物性	2				2	
	IC設計工学	2			2		
	アルゴリズム	2			2		
	通信ネットワーク	2				2	
	校外実習	1			1		
工業英語	1				1		
開設単位数計	23			10	13		
履修単位数計	10			3	7		
履修単位数合計	88	6	9	17	27	29	
特別科目	特別講義A	2			1	1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A、特別講義B、特別講義C及び特別講義Dとは、他大学等が実施する授業科目をいう。
	特別講義B	2			1	1	
	特別講義C	2			1	1	
	特別講義D	2			1	1	
	開設単位数計	8			4	4	
履修単位数計	0～8			0～4	0～4		

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-4-(c) 続き)

電気情報工学科 情報通信コース 第1～4学年(平成17～14年度入学生)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2			2		
	応用数学Ⅱ	2			2		
	応用物理	2		2			
	電気基礎	2	2				
	電気製図	1	1				
	CAD	1	1				
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	情報処理Ⅲ	2			2		
	電気数学	3		1	2		
	電気・電子計測	2		1	1		
	創造演習	1			1		
	電気電子材料	2			2		
	電気回路	6		2	2	2	
	電気情報工学実験	6		3	3		
	電気磁気学	4			2	2	演習を含む。
	電子工学	2				2	
	電子回路	2				2	
	制御工学	2				2	
	デジタル通信工学	2				2	
	アナログ通信工学	2				2	
	信号処理	1				1	
	電子物性	2					2
	情報通信工学演習	1				1	
	超高周波工学	1					1
	電磁界理論	1					1
	情報理論	2					2
電子回路設計	1					1	
電子デバイス	1					1	
工業倫理	1					1	
情報通信工学実験	8				4	4	
卒業研究	9					9	
履修単位数計	78	6	9	17	24	22	
選択科目	IC設計工学	2			2		
	アルゴリズム	2			2		
	画像工学	1				1	
	通信ネットワーク	2				2	
	信号処理	1				1	
	エネルギー変換工学Ⅰ	2			2		
	エネルギーネットワーク工学	2			2		
	シーケンス制御	1			1		
	エネルギー変換工学Ⅱ	2				2	
	パワーエレクトロニクス	1				1	
	エネルギー発生工学	2				2	
	システム工学	2				2	
	メカトロニクス	1				1	
	校外実習	1				1	
	工業英語	1				1	
開設単位数計	23				10	13	
履修単位数計	10				3	7	
履修単位数合計	88	6	9	17	27	29	
特別科目	特別講義A	2			1	1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは, 他大学等が実施する授業科目をいう。
	特別講義B	2			1	1	
	特別講義C	2			1	1	
	特別講義D	2			1	1	
	開設単位数計	8			4	4	
履修単位数計	0～8				0～4	0～4	

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-4-(d))

環境都市工学科 建設システムコース 第1・2学年 (平成17・16年度入学生)

授 業 科 目	単位数	学年別配当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用数学Ⅰ	2				2		
計画数学	1				1		
数値解析	1					1	
応用物理Ⅰ	2			2			
情報処理	5	1	1	1	1	1	
建設材料	3	1	2				
測量	2	1	1				
構造力学Ⅰ	5			3	2		
水理学	5			2	2	1	
土質力学	4		1	2		1	
コンクリート構造	3			1	1	1	
鋼構造	2				2		
河川工学	2				2		
都市計画	1				1		
交通計画	1					1	
景観工学	1					1	
建設施工	3				2	1	
工業火薬学	1					1	
環境工学	2	1	1				
環境衛生工学Ⅰ	1			1			
地球環境化学	1			1			
工業英語	2				1	1	
創造演習	1			1			
設計製図	8				3	5	
実験実習	10	2	3	3	2		
卒業研究	9					9	
応用数学Ⅱ	2				2		
応用物理Ⅱ	1				1		
構造力学Ⅱ	4				2	2	
耐震工学	1					1	
基礎工学	1					1	
構造実験	1					1	
履 修 単 位 数 合 計	88	6	9	17	27	29	
特 別 科 目	校外実習	1			1		1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは, 他大学等が実施する授業科目をいう。
	特別講義A	2			1	1	
	特別講義B	2			1	1	
	特別講義C	2			1	1	
	特別講義D	2			1	1	
	開 設 単 位 数 計	9			5	4	
	履 修 単 位 数 計	0~9			0~5	0~4	

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-4-(d) 続き)

環境都市工学科 環境システムコース 第1・2学年 (平成17・16年度入学生)

授 業 科 目	単位数	学年別配当					備 考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
必 修	応用数学Ⅰ	2				2		
	計画数学	1				1		
	数値解析	1					1	
	応用物理Ⅰ	2			2			
	情報処理	5	1	1	1	1	1	
	建設材料	3	1	2				
	測量	2	1	1				
	構造力学Ⅰ	5			3	2		
	水理学	5			2	2	1	
	土質力学	4		1	2		1	
	コンクリート構造	3			1	1	1	
	鋼構造	2				2		
	河川工学	2				2		
	都市計画	1				1		
科 目	交通計画	1					1	
	景観工学	1					1	
	建設施工	3				2	1	
	工業火薬学	1					1	
	環境工学	2	1	1				
	環境衛生工学Ⅰ	1			1			
	地球環境化学	1			1			
	工業英語	2				1	1	
	創造演習	1			1			
	設計製図	8				3	5	
	実験実習	10	2	3	3	2		
	卒業研究	9					9	
	環境保全	2				2		
	自然生態学	1				1		
目	環境地盤工学	1				1		
	環境衛生工学Ⅱ	1				1		
	環境微生物学	1					1	
	防災工学	1					1	
	気象水文学	1					1	
	環境水理学	1					1	
	環境衛生実験	1					1	
	履 修 単 位 数 合 計	88	6	9	17	27	29	
	特 別 科 目	校外実習	1				1	1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは, 他大学等が実施する授業科目をいう。
		特別講義A	2				1	
特別講義B		2				1		
特別講義C		2				1		
特別講義D		2				1		
開 設 単 位 数 計		9				5	4	
履 修 単 位 数 計	0~9				0~5	0~4		

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-4-(e))

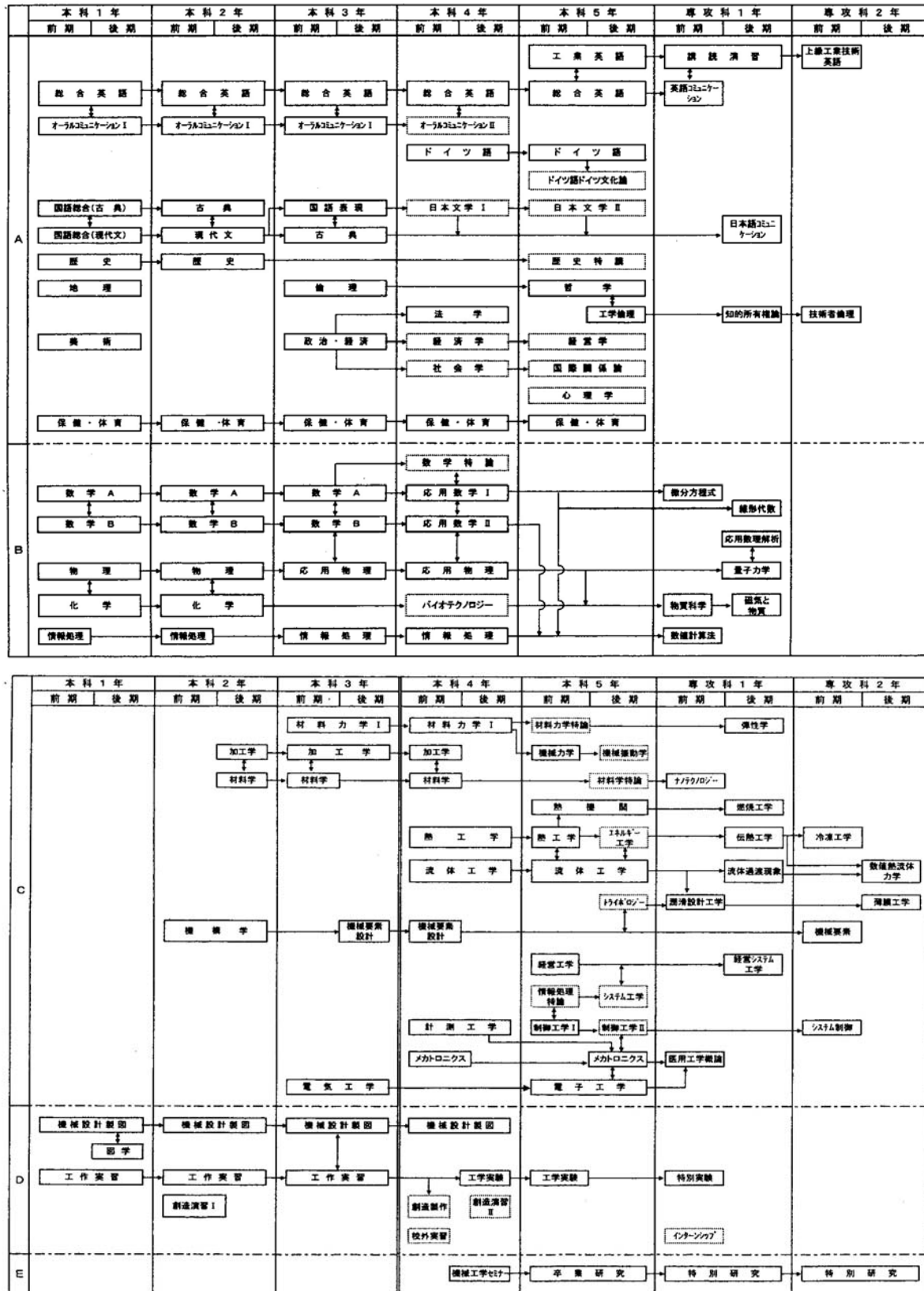
建築学科 第1・2学年(平成17・16年度入学生)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用物理	3			2	1		実験を含む。
情報処理	6	1	1	1	2	1	演習を含む。
CAD・CG	2				2		
建築構造	2	1	1				
建築概論	1	1					
建築計画	3		1	1	1		
都市計画	1				1		
建築設計製図Ⅰ	12	1	3	5	3		図学を含む。
造形	3	2	1				
建築史	3			2	1		
建築意匠	1				1		
建築構造力学	5		2	2	1		
建築材料	3			2	1		実験を含む。
創造演習	2			2			
鉄筋コンクリート構造	2				2		
鋼構造	2				2		
建築地盤工学	1					1	
建築防災工学	1					1	
建築環境工学	3				2	1	
建築設備Ⅰ	2			1	1		
環境設計	1					1	
構造設計Ⅰ(RC)	2					2	
建築法規	2					2	
建築生産	2					2	
ゼミナール	1				1		
工業英語	2				2		
測量学	2					2	
卒業研究	9					9	卒業設計を含む。
履修単位数計	79	6	9	17	24	23	
応用数学○	2				2		進学希望(○), 就職希望(□)のいずれか4年次に3単位を, 5年次に2単位を選択するものとする。
実用英語Ⅰ○	1				1		
福祉住環境□	1				1		
インテリア概論□	1				1		
不動産概論□	1				1		
実用英語Ⅱ○	2					2	構造系(*), 計画系(△)のいずれか4単位を選択するものとする。
技術者資格演習□	2					2	
振動工学*	1					1	
構造設計Ⅱ(S)*	1					1	
構造設計Ⅲ*	1					1	
構造工学実験*	1					1	
建築設計製図Ⅱ△	3					3	
建築環境実験△	1					1	
開設単位数計	18				6	12	
履修単位数計	9				3	6	
履修単位数合計	88	6	9	17	27	29	
校外実習	1				1		1 課程修了に必要な単位に含まない。 2 特別講義A, 特別講義B, 特別講義C及び特別講義Dとは, 他大学等が実施する授業科目をいう。
特別講義A	2				1	1	
特別講義B	2				1	1	
特別講義C	2				1	1	
特別講義D	2				1	1	
開設単位数計	9				5	4	
履修単位数計	0~9				0~5	0~4	

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-5-(a))

機械工学科・専攻科機械工学コースの授業科目系統図



注) 1) [] は選択科目
 2) BおよびCは、Dと密接に係っている。
 3) 平成17年度4学年以下は、材料力学特論→材料力学II、材料学特論→先端材料学、情報処理特論→人工知能となる。

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-5-(b))

電気情報工学科 エネルギー制御コース 履修科目系統図													
本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
数学A	数学A	数学A	数学A	数学A	数学A	応用数学I				微分方程式			
数学B	数学B	数学B	数学B	数学B	数学B	応用数学II				線形代数			
		電気数学		電気数学		数学特論				応用数理解析			
電気基礎	電気回路	電気回路	電気回路	電気回路	電気回路	電気回路		超高周波工学へ		回路網工学			
電気製図 CAD		電気磁気学		電気磁気学		電気磁気学		電磁界理論へ					
	電気電子計測	電気電子計測		電子回路		電子回路		電子物性へ		磁気と物質			
情報処理I	情報処理II	情報処理III		電子工学		電子工学							
				制御工学		制御工学							
						システム工学		システム工学		760150401			
						シーケンス制御		シーケンス制御		760150402			
						エネルギー変換工学I		エネルギー変換工学II		760150403			
						エネルギーネットワーク工学		エネルギー発生工学		760150404			
								超高周波工学		回路網工学へ			
						IC設計工学		電子回路設計		760150405			
						アナログ通信工学		通信ネットワーク		ミリ波工学			
						デジタル通信工学		電磁界理論		電磁システム工学			
						信号処理		情報理論		760150406			
						アルゴリズム		信号理論		数値計算法			
								画像工学		量子力学			
								電子物性		760150407			
								電子デバイス		プラズマ科学			量子工学

電気情報工学科 エネルギー制御コース 履修科目系統図 (続)													
本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語		総合英語		英語コミュニケーション			
オールラウンドコミュニケーションI	オールラウンドコミュニケーションI	オールラウンドコミュニケーションI	オールラウンドコミュニケーションI	オールラウンドコミュニケーションI	オールラウンドコミュニケーションII	オールラウンドコミュニケーションII		工業英語		講義演習			上級技術工業英語
					第二外国語	第二外国語		第二外国語					
						ドイツ語ドイツ文化論		ドイツ語ドイツ文化論					
						日本文学I		日本文学II					
										英語コミュニケーション			
						国語総合		国語表現					
						古典		古典					
						歴史		歴史					
						地理		地理					
						美術		美術					
						保健・体育		保健・体育		保健・体育			
						化学		化学					
						物理		物理					
						電気情報工学実験		電気情報工学実験		エネルギー制御工学実験		エネルギー制御工学実験	特別実験
													インターンシップ
						校外実習		校外実習					
						創造演習		創造演習		エネルギー制御工学演習		卒業研究	特別研究
													特別セミナー
													システム工学セミナー

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-5-(b) 続き)

電気情報工学科 情報選修コース 授業科目系統図		本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	
A	数学 A	数学 A	数学 A	数学 A	数学 A	数学 A	数学 A	応用数学 I	微分方程式	線形代数						
	数学 B	数学 B	数学 B	数学 B	数学 B	数学 B	数学 B	応用数学 II		応用数理解析						
	電気基礎	電気数学	電気回路	電気回路	電気回路	電気回路	電気回路	電気回路	超高周波工学へ	回路網工学						
	電気製図 CAD	電気電子計測	電気電子計測	電気電子計測	電気電子計測	電気電子計測	電子回路	電子回路	電磁界理論へ							
		電気電子材料	電気電子材料	電気電子材料	電気電子材料	電子工学	電子工学	電子工学	電子物性へ							
	情報処理 I	情報処理 II	情報処理 III	情報処理 III	情報処理 III	制御工学	制御工学	制御工学								
B																
C																
D	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	総合英語	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	
	オールラウンドコミュニケーション I	オールラウンドコミュニケーション I	オールラウンドコミュニケーション I	オールラウンドコミュニケーション I	オールラウンドコミュニケーション I	オールラウンドコミュニケーション II	オールラウンドコミュニケーション II	第二外国語	第二外国語	第二外国語	第二外国語	第二外国語	第二外国語	第二外国語	第二外国語	
	国語総合	国語	国語	国語	国語	国語表現	国語表現	日本文学 I	日本文学 I	日本文学 II	日本文学 II	日本文学 II	日本文学 II	日本文学 II	日本文学 II	
	古典	古典	古典	古典	現代文											
	歴史	歴史	歴史	歴史												
	地理				倫理											
	美術				政治・経済											
	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	
	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	化学	
	物理	物理	物理	物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	応用物理	
E																

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-5-(c))

環境都市工学科授業科目系統図(平成16年度以降入学生適用)

学習教育目標	本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	数学A 数学B 物理 化学 情報処理	数学A 数学B 物理 化学 情報処理	数学A 数学B 応用物理Ⅰ 情報処理	数学A 数学B 応用物理Ⅱ ハイブリッド 情報処理 計画数学	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅡ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅢ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅣ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅤ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅥ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅦ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅧ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅨ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育
(B)	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ 歴史 地理 美術 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ 歴史 地理 美術 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅠ 政治・経済 倫理 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅡ 工業英語 ドイツ語 経済学 社会学 法学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅢ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅣ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅤ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅥ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅦ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅧ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅨ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅩ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅪ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育	総合英語 オーラルコミュニケーションⅫ 工業英語 ドイツ語 ドイツ語・ドイツ文化論 歴史特論 経営学 国際関係論 心理学 哲学 保健・体育
(C)	古典 国語総合	古典 現代文	古典 国語表現	日本古典文学講読	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション	日本語 コミュニケーション

環境都市工学科授業科目系統図(平成16年度以降入学生適用)

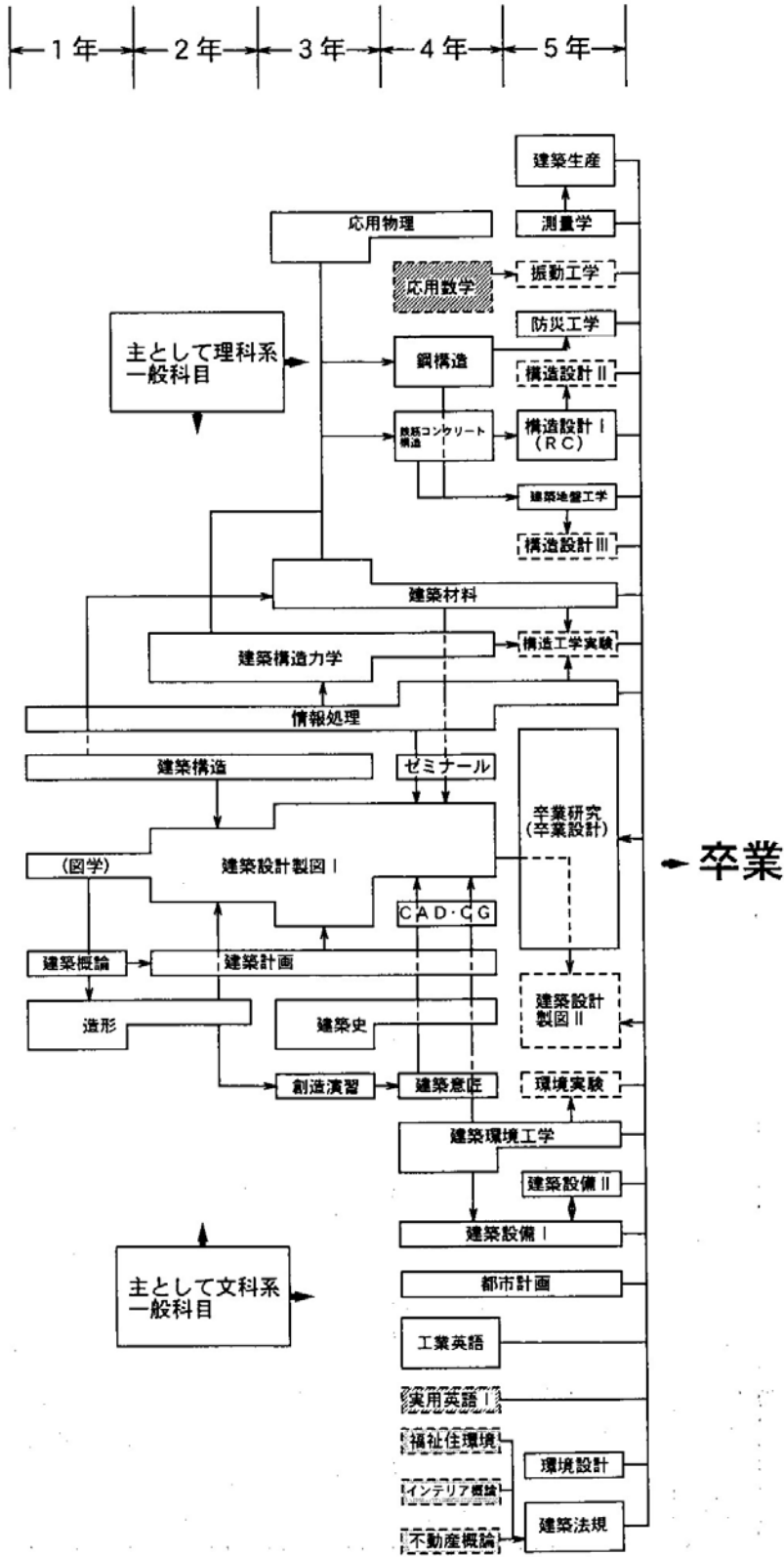
学習教育目標	本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(D)	測量	測量					建設施工 都市計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	建設施工 工業火災学 交通計画	
(E)	環境工学	環境工学	環境衛生工学Ⅰ 地球環境化学	環境衛生工学Ⅱ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅲ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅳ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅴ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅵ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅶ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅷ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅷ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅷ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅷ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅷ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学	環境衛生工学Ⅷ 自然生態学 環境保全 河川工学 環境地盤工学
(F)	建設材料	建設材料	コンクリート構造 構造力学Ⅰ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	コンクリート構造 鋼構造 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 水理学 土質力学	
(G)			創造演習	創造演習	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
(H)	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	実験実習	

必修科目 選択科目

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-5-(d))

建築学科授業科目系統図



□ は必修科目で、□ が選択科目を示し、その上下の幅は単位数を示す
 なお、選択科目のうち ▨ は進学希望者が、▩ は就職希望者が選択する。

(出典 シラバス)

(資料6-1-①-6)

○呉工業高等専門学校教務委員会規則

平成16年4月1日

(設置)

第1条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、校長の命を受け、教務に関する重要事項を協議する。

第3条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 教育課程に関すること。
- (2) 授業及び試験実施に関すること。
- (3) 学校行事に関すること。
- (4) 入学、進学及び卒業に関すること。
- (5) 出欠席に関すること。
- (6) 学生指導要録に関すること。
- (7) 学生の課外教育に関すること。
- (8) 学生の見学及び学外実習に関すること。
- (9) 授業改善・基礎学力の向上に関すること。
- (10) その他教務に関し必要と認められること。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料6-1-①-7)

○呉工業高等専門学校専攻科委員会規則

平成16年4月1日

(設置)

第1条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、校長の命を受け、専攻科に関する重要事項を協議する。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- (3) 入学者選抜に関すること。
- (4) 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- (5) 試験及び学業成績に関すること。
- (6) 地域連携教育に関すること。
- (7) その他専攻科の教育、研究及び厚生に関すること。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料6-1-①-8)

回答用紙(学生による評価アンケート)

座学用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください

授業科目							
担当教員名							
学科・学年							
番号	1	2	3	4	5	6	7
授業科目番号							
担当教員番号							

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。	授業科目名	担当教員名	番号	授業科目番号	担当教員番号
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか。 ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない					
2	この授業を理解できますか。 ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる ③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない					
3	授業に準備や工夫がなされていると思いますか。 ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない					
4	質問をしているか, あるいは質問をする気になりますか。 ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ					
5	この教員に熱意は感じられますか。 ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない					
6	成績評価は学力や努力を適切に反映していると思いますか。 ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない					
7	教員の声や説明方法, 黒板への板書などはどうですか。 ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い					
8	教員は授業に遅れたり, 休講にしたり, プリント学習にしたり, 自習にしたりすることがありますか。 ⑤まったくない ④ほとんどない ③年数回はある ②多い ①かなり多い					
9	授業はシラバスとおりに行われましたか。 ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下					
10	この授業の総合評価をしてください。 ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い					
	意見があれば, 評価しようとする授業名, 教員名の欄に, この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名	番号	授業科目番号	担当教員番号
				1		

(出典 教務委員会)

(資料6-1-①-9)

回答用紙(学生による評価アンケート)

実験・実習用

太線枠内の評価しようとする授業名, 教員名の欄に記入してください。

授業科目名		
担当教員名		
学科・学年		
番号	1	2
授業科目番号		
担当教員番号		

質問	授業についての評価を5段階で答えてください。	授業科目名	担当教員名	学科・学年	番号	授業科目番号
1	この授業にあなたは興味や意欲を感じますか。 ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない					
2	この授業を理解できますか。 ⑤よく理解できる ④ほぼ理解できる ③半分くらい理解できる ②あまり理解できない ①全然理解できない					
3	指導書やプリント(体育の場合は, 模範演技など)は実習・実験内容を理解するのに役立ちましたか。 ⑤大変役立った ④役立った ③普通 ②あまり役立たなかった ①役に立たなかった					
4	質問をしているか, あるいは質問をする気になりますか。 ⑤はい ④まあ ③特に ②あまり ①いいえ					
5	この教員に熱意は感じられますか。 ⑤強く感じる ④感じる ③普通 ②あまり感じない ①感じない					
6	成績評価は態度や努力を適切に反映していると思いますか。 ⑤強く思う ④思う ③普通 ②あまり思わない ①思わない					
7	教員の声や説明方法などはどうですか。 ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い					
8	提出レポートや作品に対する講評や評価は適切でしたか。 ⑤適切だった ④ ほぼ適切だった ③普通 ②不満 ①かなり不満					
9	授業はシラバスとおりに行われましたか。 ⑤90%以上 ④80%くらい ③70%くらい ②50%くらい ①30%以下					
10	この授業の総合評価をしてください。 ⑤良い ④まあよい ③普通 ②あまりよくない ①悪い					
	意見があれば, 評価しようとする授業名, 教員名の欄に, この授業を評価した根拠, 補足, その他感じていることを自由に書いてください	授業科目名	担当教員名	学科・学年	番号	授業科目番号
					1	
					2	

(出典 教務委員会)

(資料6-1-①-10-(a))

一般科目

授業理解度点検シート（日本文学Ⅰ）

平成18年（ ）月（ ）日

（ ）科（ ）番 氏名（ ）

単元・作品名（ 御伽草子『酒呑童子』 ）テキストp.（ ）～（ ）

本日の発表者（ ）（ ）（ ）

1. 授業への取り組み。

ア 真面目に取り組んだと思う。 イ だいたい真面目に取り組んだと思う。

ウ ときどき集中していなかったときもあった。

エ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。

2. 内容の理解について。

ア 最初からだいたい理解していた。

イ 最初は理解できなかったが、授業を通して理解することができた。

ウ あまり理解できなかった。 エ 理解できなかった

3. 発表者について。

一番いい発表だったと思う人は誰か？（ ）

4. 本日の発表範囲で疑問に思ったところ、質問したいことを書きなさい。

5. 簡単な感想を書きなさい。（本文の内容、発表など）

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

(出典 一般科目)

(資料6-1-①-10-(b))

機械工学科

学習・教育チェックシート() H18. x. x (x)

番号 氏名 _____

1. 今日の授業内容は、何%理解できたと思いますか。

() %

2. 今日の授業のための予習時間と、前回の授業の復習時間はどれくらいですか。

今日の授業のための予習時間 : ()分

前回の授業の復習時間 : ()分

3. 今日の授業内容のキーワードは何だと思いますか。(複数でもO.K.)

4. 今日の自分の学習への取り組みはどうであったと思いますか。該当項目を○印で囲んで下さい。

非常に良かった 良かった 普通 良くなかった 非常に悪かった

5. 今日の授業内容に関する質問事項や授業に関する要望事項等があれば、何でも書いて下さい。

(出典 機械工学科)

(資料6-1-①-10-(c))

電気情報工学科

授業の理解度（学習・教育目標の達成度）自己点検シート

科目名		学 年		番号		氏名	
担当教員		単 位 数		必修・選択		前期・後期・通年	
点 検 日	年 月 日	学習姿勢		理 解 度		%	
予習時間	分	復習時間		分	自己評価	優・良・可・不	
授業の要点 (キーワード)							
理解できなかつた・難しかつた内容							
質問、要望							
点 検 日	年 月 日	学習姿勢		理 解 度		%	
予習時間	分	復習時間		分	自己評価	優・良・可・不	
授業の要点 (キーワード)							
理解できなかつた・難しかつた内容							
質問、要望							
点 検 日	年 月 日	学習姿勢		理 解 度		%	
予習時間	分	復習時間		分	自己評価	優・良・可・不	
授業の要点 (キーワード)							
理解できなかつた・難しかつた内容							
質問、要望							
点 検 日	年 月 日	学習姿勢		理 解 度		%	
予習時間	分	復習時間		分	自己評価	優・良・可・不	
授業の要点 (キーワード)							
理解できなかつた・難しかつた内容							
質問、要望							

(出典 電気情報工学科)

(資料6-1-①-10-(d))

環境都市工学科

授業の理解度（学習・教育目標の達成度）自己点検シート

出席番号：_____ 学生氏名：_____

科目名：_____

教員氏名：_____ 学年：_____ 前期・後期・通年 単位数：_____ 必修・選択

点検期日：_____年_____月_____日

- ・授業の要点：授業のキーワード（複数可）を書きなさい。
- ・授業の理解度：授業を何%理解できましたか。（ _____ ）%
→ 理解できなかった点：
- ・授業に関する質問および要望事項

点検期日：_____年_____月_____日

- ・授業の要点：授業のキーワード（複数可）を書きなさい。
- ・授業の理解度：授業を何%理解できましたか。（ _____ ）%
→ 理解できなかった点：
- ・授業で理解できなかった点，授業に関する質問および要望事項

点検期日：_____年_____月_____日

- ・授業の要点：授業のキーワード（複数可）を書きなさい。
- ・授業の理解度：授業を何%理解できましたか。（ _____ ）%
→ 理解できなかった点：
- ・授業で理解できなかった点，授業に関する質問および要望事項

(出典 環境都市工学科)

(資料6-1-①-10-(e))

建築学科

学習達成度 自己点検シート

2006年度

科目名		学年		番号		学生名	
教員名		必修・選択		単位数		期間	
点検期日	月 日	授業実施日	/ ~ /			授業時間計	時間
授業の出席状況	全て出席・欠課あり・遅刻あり			学習姿勢	良い・普通・悪い		
授業の理解度	60%未満・60~80%未満・80%以上						
授業で理解できなかった内容							
授業に対する質問や要望事項							
点検期日	月 日	授業実施日	/ ~ /			授業時間計	時間
授業の出席状況	全て出席・欠課あり・遅刻あり			学習姿勢	良い・普通・悪い		
授業の理解度	60%未満・60~80%未満・80%以上						
授業で理解できなかった内容							
授業に対する質問や要望事項							
点検期日	月 日	授業実施日	/ ~ /			授業時間計	時間
授業の出席状況	全て出席・欠課あり・遅刻あり			学習姿勢	良い・普通・悪い		
授業の理解度	60%未満・60~80%未満・80%以上						
授業で理解できなかった内容							
授業に対する質問や要望事項							
点検期日	月 日	授業実施日	/ ~ /			授業時間計	時間
授業の出席状況	全て出席・欠課あり・遅刻あり			学習姿勢	良い・普通・悪い		
授業の理解度	60%未満・60~80%未満・80%以上						
授業で理解できなかった内容							
授業に対する質問や要望事項							

注) 半期科目は2週間に1回、通年科目は4週間に1回、年間それぞれ8回程度実施することを基本とする。

(出典 建築学科)

(資料6-1-①-11)

平成 17 年度 教育環境に関する学生評価アンケート調査用紙
本科生用

■卒業研究指導について

20. 表3 専門学科教員 から卒業研究担当教員の番号（3桁）を表1から選び選び記入してください。
21. 卒業研究の指導テーマは適切でしたか。
 1) 適切であった 2) ほぼ適切 3) やや適切 4) 適切でなかった
22. 卒業研究で受けた指導による成果はありましたか。
 1) 満足できる成果であった 2) ほぼ満足できる成果であった
 3) やや不満足な成果であった 4) 不満足な成果であった

(出典 自己点検等管理委員会専門小委員会)

(資料6-1-①-12)

平成 17 年度 教育環境に関する学生評価アンケート調査用紙
専攻科生用

II 専攻科の教員指導の評価

■特別研究の指導

2. 表3 専門学科教員 から特別研究担当教員の番号（3桁）を選び記入してください。
3. 特別研究で与えられたテーマおよび内容は適切でしたか。
 1) 適切であった 2) ほぼ適切であった
 3) やや適切でなかった 4) 適切でなかった
4. 特別研究で受けた指導による成果はありましたか。
 1) 満足できる成果であった 2) ほぼ満足できる成果であった
 3) やや不満足な成果であった 4) 不満足な成果であった

(出典 自己点検等管理委員会専門小委員会)

(資料6-1-①-13)

○呉工業高等専門学校教育改善委員会規則

平成16年4月1日

(設置)

第1条 呉工業高等専門学校に教育プロセスと教育環境(以下「教育プログラム」という。)の点検・評価, 改善を行うため, 呉工業高等専門学校教育改善委員会(以下「委員会」という。)を置く。

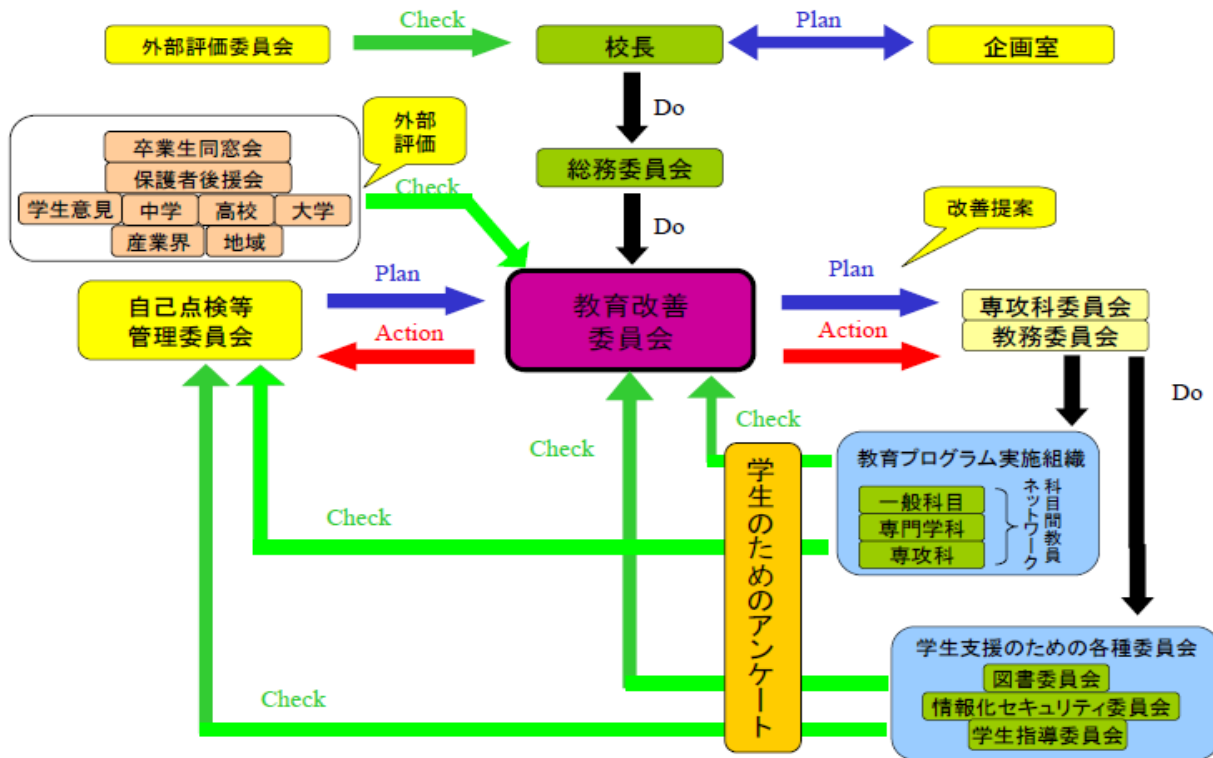
(任務)

第2条 委員会は, 次の各号に掲げる事項を点検・評価し, 改善の提言及び提案を行う。

- (1) 学習目標及び教育目標に関すること。
- (2) 教育プログラムの継続的な改善に関すること。
- (3) 教育の内容と質の保証に関すること。
- (4) 社会の要求や学生の要望に照らした教育プログラムの点検・評価, 改善に関すること。
- (5) 日本技術者教育認定, 認証評価, 外部評価等に関すること。
- (6) FDの企画, 実行及び事後評価に関すること。
- (7) 授業評価の活用に関すること。
- (8) 教育プログラムのレビュー, アウトカムズ評価に関すること。
- (9) その他教育の改善に関し必要と認められること。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

呉高専教育改善システム



(出典 教育改善委員会)

(資料6-1-①-14)

○呉工業高等専門学校教務規則

平成16年4月1日

第3章 学業成績の評価

(学業成績の評価)

第8条 学業成績は、平常の学習状況、出席状況及び試験成績を総合して決定するものとする。ただし別表の資格取得者については別に定める。

(定期試験)

第9条 定期試験(以下「試験」という。)は、毎学期末及び毎学期の中間に、各授業科目につき行うことを原則とする。

(定期試験実施時期)

第10条 試験の実施時期は、次のとおりとする。

区分		実施時期
学期末に行う試験(期末試験)	前期	8月9日までの適宜の時期
	後期	3月1日までの適宜の時期
学期の中間に行う試験(中間試験)		毎学期の中間の適宜の時期

(定期試験時間割の決定及び発表)

第11条 定期試験時間割は、その試験を実施する日の10日前までに定め、校内掲示場に掲示して発表するものとする。

(定期試験問題)

第12条 各授業科目担当教員は、定期試験問題を作成し、学生課教務係長がその印刷、保管及び出納に当たるものとする。
(遅刻した場合等の取扱い)

第13条 試験に遅刻した場合等の取扱いは、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 試験に遅刻した場合は、受験を許可しないことがある。
- (2) 受験者の退室は、試験開始後30分以上経過しなければ認めない。
- (3) 答案を提出しない者に対しては、当該試験の成績は零点とする。
(欠席者の取扱い)

第14条 試験に欠席した者の取扱いは、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 正当な理由で試験に欠席した者に対しては、原則として別途試験を行うものとする。
- (2) 正当な理由がなく試験に欠席した者に対しては、当該試験の成績は零点とする。
- (3) 懲戒処分のため受験できなかった者に対しては、当該試験の成績は零点とする。
(学年成績の評価方法)

第15条 各授業科目の学年成績は、各学期の学業成績の年間総合とする。

(学業成績の評価区分)

第16条 学業成績の評価は、100点満点をもって示し、評語は、優、良、可及び不可の4種とし、評語の評点区分は次のとおりとする。ただし、第21条により卒業を認められた者については、60点未満であっても可として取り扱う。

評語	評点
優	100~80
良	79~65
可	64~60
不可	59~0

(授業科目の合格)

第17条 授業科目の合格は、学年成績が60点以上で、かつ、出席時数が年間授業時数の3分の2以上の場合とする。

2 休学者が復学した場合の出席時数は、同一学年在籍中に出席した時数の合計とする。ただし、重複期間の出席時数は加算しない。

(採点票)

第18条 各授業科目担当教員は、各定期試験終了後、次の各号により採点票(第2号様式)に学業成績の評点を記入し、これを学生課教務係長に回付するものとする。

- (1) 各学期の中間にあつては、試験を実施した授業科目のその期間の学業成績
- (2) 前期末にあつては、前期期間の学業成績
- (3) 後期末にあつては、学年成績
(成績の通知)

第19条 各学期の期末試験を終了した場合は、その成績を通知票(第3号様式)に記入し、保護者に通知するものとする。

(学生指導要録)

第20条 学生指導要録(第4号様式)を備え付け、学年成績及び評語を記入するものとする。

第4章 進級及び卒業の認定

(進級及び卒業認定の基準)

第21条 次の各号に掲げる条件をすべて満たす者の、進級又は卒業を認めるものとする。

- (1) 当該学年に係る所定の授業科目をすべて履修していること。
- (2) 当該学年における未修得科目の合計単位数及び当該学年も含めた未修得科目の累積単位数が次に示す単位数以下であること。

＼	1年	2年	3年	4年	5年
当該学年	8	8	8	7	5
累積	／	10	10	10	10

(3) 当該学年の特別活動及び学校行事の出席がいずれも3分の2以上であること。

2 未履修科目は、事情により進級認定会議又は卒業認定会議において未修得と認定することがある。また、特別活動又は学校行事の出席が3分の2に達しない場合でも特別の事情があるものについては、上記会議によって3分の2以上出席したと同等に扱うことがある。

3 科目の履修、未履修とは、年間授業時数の3分の2以上を出席したか否かについていうものとする。

4 科目の修得、未修得とは、履修の上、試験等の評価を受けて合格点を得たか否かについていうものとする。
(追認)

第22条 進級を認められた者の当該年度における未修得科目及び進級を認められなかった者の前年度の未修得科目については、追認のための試験(その他の措置を含む。)を次学年において行うものとする。ただし、第5学年における未修得科目については、卒業研究以外の全科目の当該学年成績において未修得科目の合計単位数が7以下の者に対し、卒業認定会議の資料作成時まで、追認の試験を行うものとする。

2 実技、実験、実習等を伴う科目については、原則として追認は行わない。ただし、科目の内容及び未修得となった事情等から、追認の機会を与えることが適当と認められる場合は、あらかじめ教務主事に連絡して追認を行うことができる。

3 追認のための試験を受けることを希望する者は、所定の期口までに授業科目担当教員及び学級担任を経由して学生課教務係長へ追認試験願(第5号様式)を提出するものとする。

第23条 前条のほか、追認試験の時期、方法については、別に定めるものとする。

第24条 追認による合格の評点は、可の範囲内とする。
(留年)

第25条 第21条第1項に規定する進級及び卒業認定の基準を1号でも満たさない者は、原級に留まり、当該学年に係る所定の授業科目をすべて再履修するものとする。ただし、特別に認められた科目については単位の修得を認め、再履修を免除することができるものとする。

2 引き続き2回原級に留まる者は、学則第56条第2号に該当する者とみなし退学させる。ただし、休学により原級に留まった場合はこの限りでない。
(進級、卒業、留年の審議及び認定)

第26条 校長は、進級、卒業及び留年について教員会の審議に付し、認定するものとする。
(在学年限)

第27条 最長在学年限は、7年とし、以後の在学を認めない。ただし、休学により進級できなかった年度は、在学年限に通算しない。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においては、授業評価アンケート、達成度評価アンケートにより、各科目に対する達成度の自己評価を行っている。また、進級判定会議及び卒業判定会議において、個々の学生の修得単位数や卒業研究の評価により、学習・教育目標の達成度状況を適切に把握・評価して、進級及び卒業の認定を行っている。専攻科課程においては、授業評価アンケートにより、各科目に対する達成度の自己評価を行っている。修了判定会議において、個々の学生の修得単位数や特別研究の評価により、学習・教育目標の最終達成度状況を適切に把握・評価して、修了の認定を行っている。以上のことから本校は、学習・教育目標の達成状況の把握・評価するための適切な取組を行っている。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、準学士課程第4・第5学年と専攻科課程においてJABEE取得の有無に関わらず、全学科でJABEEに準拠した基準により単位取得・成績評価、卒業(修了)時の成績評価を行い、第1～第3学年でも、JABEE準拠の成績評価は義務付けられていないものの、JABEE対応科目と同様の方法で明確な成績評価を行っている。また、各種資格の取得を積極的に推奨するなどしている(資料6-1-②-1-(a)～(d)：準学士課程シラバス 公認資格試験案内、資料6-1-②-2：資格試験関連の蔵書リスト)。

本校は上述のように積極的に教育に取り組んでいるが、その成果を検証するための資料として、まず、準学士課程と専攻科課程の卒業(修了)者数、進学者数、就職者数及び主な就職先と進学先に関する資料を挙げる(資料6-1-②-3：出典：平成17年度要覧)。就職・進学率は、ほぼ100%であり、就職者のほとんどが専門を生かした分野に進み、進学者も難関大学に進学できていることから、本校の教育目標(準学士課程は「世界に通用する実践力のある開発型技術者の育成」、専攻科は「世界に通用する創造性豊かな実践力のある開発型技術者の育成」)が達成されていることがうかがえる。

次に、準学士課程の卒業研究、専攻科課程の特別研究の状況を概観することによっても、本校教育目標が達成されていることがうかがえる。準学士課程の卒業研究は、各学科とも卒業研究概要集を作成して発表会を実施しており、各発表において質疑応答も含めて聴講教員複数から評価される。また、専攻科課程の特別研究は、各専攻とも中間発表会及び最終の発表会を実施し、それぞれの発表会で研究概要集を作成している。各発表に対しての評価は、複数の聴講教員によって、発表時の質疑応答も含めて総合的に行われる。これに加え、特別研究内容についての学会発表が専攻科課程修了要件の一つとなっている(資料6-1-②-4：各専攻学会発表一覧)。準学士課程の卒業研究論文及び専攻科課程の特別研究論文は、過去5年間は各学科で保存され、内容等の検証が可能になっている(訪問時間閲覧資料：卒業研究論文、特別研究論文及び概要集)。

最後に、本校では、教育成果が総合的に要求される各種コンペティションへの参加を推奨している。優秀な成績を収めた例としては、全日本ゼロハンカーレースで平成16、17年度に学生クラスで連続優勝した例や、中国地区英語弁論大会で平成15年度のスピーチ部門、平成16年度の暗唱部門、平成17年度のスピーチ部門で優勝者を輩出するなどの例があり、各種コンペティションに参加した学生は優秀な成績を収めている。資料6-1-②-5「表彰一覧」にそれ以外の例を挙げる。

(資料6-1-②-1-(a))

機械工学科学生の資格取得について

国家資格は、社会で通用する実力を持っていることの証です。それらの資格を取得することは大きな自信につながり、就職試験にも有利になり、就職後の昇進、給与にも反映します。機械工学科在学中に取得可能な主な資格をいくつか掲げます。

機械工学科では、卒業までにクラスの全員が各種資格を一つ以上取得する目標を掲げています。機械工学科の教員一同が応援しますので、資格取得にチャレンジしてみましょう。

◎ 工業英語検定試験（文部科学省認定）

3級以上を取得すると、5年工業英語の単位（2単位）が認定されます。成績は、最高点で評価します。4年生までに取得しましょう。

試験日：5月と11月頃、（1月にも実施される場合がある。）

試験地：本校で受験可

受験料：3級→4,600円、2級→6,400円、1級→15,000円

レベル：3級→在学生の工業英語に関する応用知識を有する者

2級→実務経験者を標準とし、工業英語全般の知識を有する者

1級→専門家として実務能力を有する者

機械工学科の数値目標：卒業までに、クラスの10名程度の学生が工業英語検定3級以上の資格を取得する。

問合せ：灘野教員，岩本教員，または一般科目英語科

◎ 機械設計技術者試験（3級）

本資格は機械設計能力を向上させ、企業における新人技術者の実務への導入を容易にさせるために、学生の技術水準を適正に評価します。入社後に、設計・開発部門配属へのアピールにつながります。

試験日：11月下旬（願書受付：9月～10月）

受験地：広島市

受験料：3級→8,000円

レベル：3級→在学生の機械設計に関する応用知識を有する者

2級→実務経験者を標準とし、実務経験5年以上が必要

1級→実務経験11年以上が必要

機械工学科の数値目標：卒業までに、クラスの5名程度の学生が機械設計技術者3級の資格を取得する。

問合せ：河野教員

(資料6-1-②-1-(a) 続き)

◎ 危険物取扱者試験（乙種）

一般に、機械系の就職先では種々の危険物を取り扱う機会があると思います。その時、この資格を取得しておくと思えば役立つと思います。乙種には第1類から第6類まであります。これらのうち、第4類はガソリン、アルコール類、灯油、軽油、重油、動植物油類等の引火性液体を取り扱うことができます。機械系の学生としては、この乙種4類を取っておくと良いでしょう。

受験資格：特になし

試験日：6月（受験願書配布：3月，受付：4月），11月（受験願書配布：8月，受付：9月）

受験地：呉市，広島市，福山市，三原市，三次市

受験料：3,400円

受験願書配布：各消防署（広署等）

問合せ：八木教員

◎ 2級ボイラー技士試験

特級ボイラー技士，1級ボイラー技士，2級ボイラー技士の3つの区分があり，特別な経歴がある人以外は，まず取得しなければならない資格が2級です。在学中に資格を取得することができます。この資格を受験する資格としては，広島労働基準局指定の実技講習を修了する必要があります。講習や免許試験は春休みや夏休み中に行われているので，大変受験しやすくなっています。

資格取得の手続きと注意事項

1月頃：各地区のボイラー協会に，実技講習の申し込みを行う。

申し込み先：社団法人 日本ボイラ協会広島支部

3月頃：春休み中に，広島市で3日間の実技講習が2回開催される。1回受ければ，永年有効。

（受講料：12,500円，テキスト代：2,200円）

8月頃：広島市で，免許試験が2回実施される。（費用：8,300円）

不安な人は，免許試験前に受験勉強会（2日間，費用：10,000円）があるので，参加してみると良いでしょう。

免許試験の合格者は，免許申請手続きに従って免許書を受けます。（費用：1,800円）

問合せ：河口教員

◎ 基本情報技術者試験

将来，情報処理技術者（システムエンジニア，ネットワークエンジニア，CAD技術者等）をめざす学生には，ぜひチャレンジして欲しい資格です。合格率は15%ぐらいです。

試験日：4月頃（受付：1月～2月初旬），10月頃（受付：7月頃）

受験地：広島市，福山市

受験料：5,100円

問合せ：野原教員

(出典 シラバス)

(資料6-1-②-1-(b))

公認資格試験案内 (電気情報工学科)

● 電気主任技術者(一種、二種、三種)

二種・・・構内：170kV 未満、構外：100kV 未満

三種・・・構内：50kV 未満、構外：25kV 未満、5MVA 未満

(試験方法)

三種(マークシート方式、五肢択一方式、 年 1 回)

理論、電力、機械、法規の科目合格方式、 三年間有効(翌年、翌々年)

二種 一次試験：マークシート方式、理論、電力、機械、法規の科目合格方式

二次試験：記述方式、電力・管理、機械・制御の 2 科目

〈推奨 三種、二種〉

● 情報処理技術者(情報システム開発・運用側、情報システム利用側、システム監査の 3 分野に分かれて合計 13 の試験ある)

ソフトウェア開発技術者試験(中級者対象、年 1 回、4~6 万人受験、合格率 10%程度)

基本情報技術者試験(高卒対象、年 1 回、受験者数約 30 万人、合格率 5~15%、マークシート方式)

(試験方法)

ソフトウェア開発技術者(午前：多肢選択式、ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識)(80 問)

午後：記述式、プログラム作成能力(7 問)

1 回目 春：毎年 4 月第 3 日曜日

2 回目 秋：毎年 10 月第 3 日曜日

基本情報処理開発技術者(午前：多肢選択方式 午後：多肢選択式 11 問中 7 問選択)

〈推奨 ソフトウェア開発技術者〉

● 無線従事者

総合無線通信士(1~3 級)

海上無線通信士(1~4 級、特殊 1~3 級、レーダ級の 8 部門)

陸上無線通信士(1・2 級、特殊 1~3 級、国内電信級の 6 部門)

アマチュア無線従事者(1~4 級の 4 部門)

2 級：出力 200W 3 級：出力 50W 4 級：出力 20W(電話級)

〈推奨 第 2 級陸上特殊無線技士、第 2 級陸上無線技士〉

● デジタル技術試験(1~4 級)

(試験方法)年 2 回

2 級(情報と制御)、3 級、4 級

受験料：4 級：2,500 円、3 級：3,500 円、2 級：4,500 円

〈推奨 3 学年：3 級、4 学年：2 級〉

● 電気工事士(第二種)

(試験方法)

筆記試験：基礎、配電、配線器具、配線材料、工具、施工、検査、配線図、法令等

技能試験：材料選別試験(筆記試験：写真より必要物品・数量をマークシートに記入)

単位作業試験(作業用工具を持参して作品完成)

(出典 シラバス)

(資料6-1-②-1-(c))

資格への道しるべ

資格とは、技術者に必要とされる一定の技術水準について検査するものであり、資格取得者はその技術力が社会的に認定されたこととなります。環境都市工学科では、各種の資格試験を受験することを推奨していますが、特に下記の資格を取得できるよう、授業や補習によって指導しています。

【測量士・測量士補】

測量士は測量に関する作業計画を作成または実施する、測量士補は作業計画に従い測量に従事するために必要な資格です。環境都市工学科で測量に関する科目を修得して卒業した者には、卒業と同時に測量士補の資格が無試験で与えられます。さらに、卒業後の測量に関する実務経験が通算3年以上あれば申請により測量士の資格が無試験で与えられます。測量士または測量士補は、土地家屋調査士の2次試験が免除されます。

【技術士・技術士補】

技術士は科学技術に関する高度の専門的応用能力を必要とする事項について計画、研究、設計、分析、試験、評価またはこれらに関する指導の業務を行うことができる者です。技術士第一次試験に合格し登録した者は技術士補となり、技術士を補助することができます。実務経験を積んだうえで第二次試験に合格し登録した者は技術士としての業務を行うことができます。技術士の技術部門は、現在20の部門に分かれています。環境都市工学科では、主に建設部門、水道部門、衛生工学部門、環境部門の4部門に関連する科目の教育を行っています。

【土木施工管理技士・土木施工技術者】

土木施工管理技士とは河川、道路、橋梁などの土木工事において、主任技術者または、監理技術者として施工計画を作成し、現場における工程管理、安全管理など工事施工に必要な技術上の管理などを行う技術者のことです。1級、2級土木施工管理技術検定試験に合格すれば、土木施工管理技士になれます。環境都市工学科卒業後2級は実務経験2年以上、1級は5年以上で受験できます。

土木施工技術者試験は将来、土木施工管理技士をめざす卒業見込みの学生（本校5年生）と卒業生で大学在学中の学生（高専専攻科の学生を含む）を対象として実施されています。この試験の合格者は、2年以上の実務経験年数を満たして、2級土木施工管理技術検定試験(学科試験・実地試験)を受験する場合には、学科試験の「土木工学等」、「施工管理法」、「法規」のうち「土木工学等」と「法規」の2科目が免除されます。

【火薬類取扱保安責任者】

火薬類取扱保安責任者は、火薬庫において火薬を貯蔵する場合、火薬類の消費場所(発破現場など)において火薬類を消費する際に、法の規程に基づいて種々の保安に関する職務を行います。工業火薬学の単位取得者は火薬類取扱保安責任者試験のうち、「一般火薬学」の試験が免除され、「法令」のみの受験で資格が取得できます。

【環境計量士】

今や世界的規模で環境保全に対する関心が高まっています。地球上の生物がみな安全に快適に暮らせるような環境を維持していくことは、人間に課せられた使命といえます。環境保全のためには環境汚染物質などの測定分析の技術が必要です。計量士の資格は、これら計量に関する国家資格です。計量士には、環境計量士(濃度関係)、環境計量士(振動関係)、一般計量士の3種類がありますが、環境都市工学科では環境計量士(濃度関係)について主に指導します。

【公害防止管理者】

公害防止管理者資格は、幅広い製造業・電気供給業・ガス供給業等における大気汚染、水質汚濁、騒音又は振動を防止し、環境の保全に貢献する国家資格です。環境都市工学科では、特に水質環境保全に関する公害防止管理の内容について指導します。

(出典 シラバス)

(資料6-1-②-1-(d))

建築関係の資格

○が受験できる資格です。

資格名	在学中	卒業後
【建築士系・国家資格】		
一級建築士		4年以上の実務経験
二級建築士		○
木造建築士		○
【その他の国家資格】		
建築設備士		10年以上の実務経験
一級建築施工管理技士		5年以上の実務経験
二級建築施工管理技士		2年以上の実務経験
測量士・測量士補	○	○
宅地建物取引主任者(宅建)	○	○
土地家屋調査士	○	○
不動産鑑定士・鑑定士補	○	1次試験免除
司法書士	○	○
ビル管理技術者(建築物環境衛生管理技術者)		2年以上の実務経験
マンション管理士	○	○
一級土木施工管理技士		5年以上の実務経験(土木関連)
二級土木施工管理技士		2年以上の実務経験(土木関連)
【その他の公的資格】		
建設業経理事務士	○	○
商業施設士(1次試験)		20歳以上
【構造系】		
コンクリート技士		2年以上の実務経験
コンクリート主任技士		4年以上の実務経験
【CAD系】		
CAD利用技術者2級	○	○
建築CADデザイナー3級	○	○
建築CAD検定3級	○	○
【インテリア・福祉系】		
カラーコーディネーター	○	○
色彩士検定	○	○
インテリアコーディネーター (社)インテリア産業協会認定)	○	※H15年度より年齢制限が なくなりました!
インテリアプランナー((財)建築技術教育普及センター認定)		22歳以上
福祉住環境コーディネーター2・3級	○	○
キッチンスペシャリスト(学科)	○	○
DIYアドバイザー	18歳以上	○
マンションリフォームマネージャー		20歳以上
建築物環境衛生管理技術者		2年以上の実務経験

(出典 シラバス)

(資料6-1-②-2)

資格試験関連の蔵書リスト

TOEIC参考書・問題集リスト

2003.11

- ・図書館閲覧室中央(就職用図書の際)に置いてありますのでご利用下さい。
- ・付録のCDも貸出できます。

書名	著者	出版者	請求記号	出版年	登録ID
TOEIC test 奪取模試	小林薫監修；浅見ハートハツまか著	アスク語学事業部	830.79/A-86	2002.9	90025506
TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集	The Chauncey Group International著	国際ビジネスコミュニケーション協会	830.79/C-36	2003.1	90025397
TOEICテストスコアアップの基本:TOEICテスト専門校講師が教える	Alice Chung著	高橋書店	830.79/C-65	2003.6	90025491
TOEICテストトレーニングブック<ホキョウ>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025517
TOEICテストトレーニングブック<ホキョウ>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025518
TOEICテストトレーニングブック<クワマ>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025519
TOEICテストトレーニングブック<クワマ>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025520
TOEICテストトレーニングブック<リーディング>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025521
TOEICテストトレーニングブック<リーディング>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025522
TOEICテストトレーニングブック<リスニング>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025523
TOEICテストトレーニングブック<リスニング>編	千田潤一著	増進会出版社	830.79/C-71	1999.5	90025524
TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集	The Chauncey Group International著	国際ビジネスコミュニケーション協会	830.79/E-24	2003.1	90025495
TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集	The Chauncey Group International著	国際ビジネスコミュニケーション協会	830.79/E-24	2003.1	90025496
TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集	The Chauncey Group International著	国際ビジネスコミュニケーション協会	830.79/E-24	2003.1	90025497

(出典 呉高専ホームページ)

(資料6-1-②)-3)

■ 平成17年3月卒業生・修了者の求人数及び就職状況 Job Offers and Employment

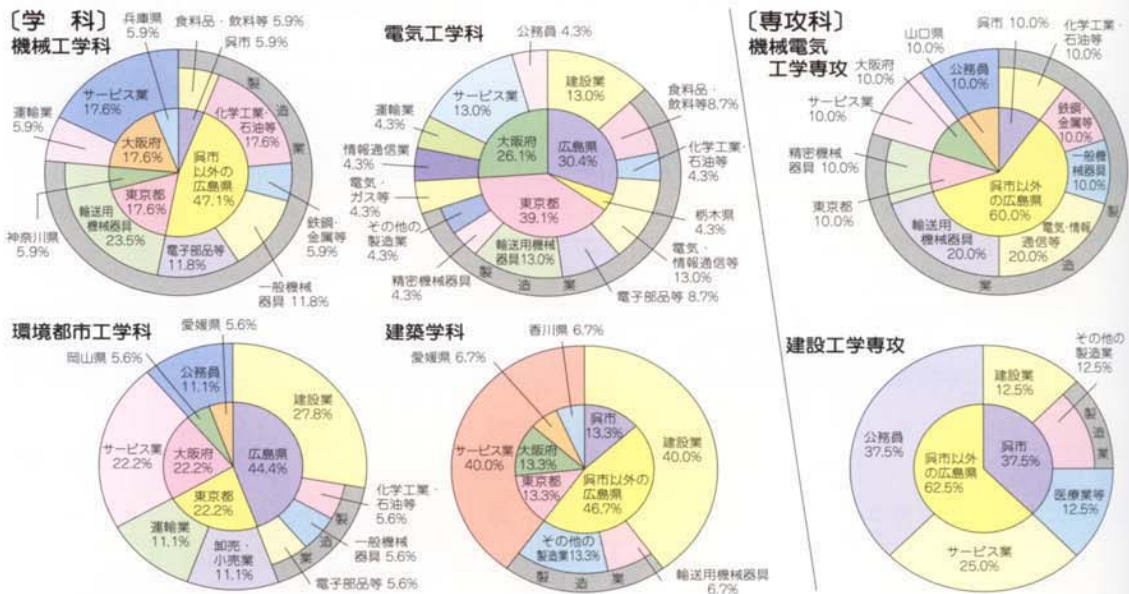
○ 求人数及び就職状況 Number of Applicants and Employment Rate

区分	Classification	卒業・修了者数 Number of Graduates	就職希望者数 Applicants	求人数 Job Offers	就職者数 Number of Employment	求人倍率 Job Offers Rate	就職率 Employment Rate
学科	機械工学科 Dept. of Mechanical Engineering	37 (2)	17 (2)	386	17 (2)	22.7	100.0
	電気工学科 Dept. of Electrical Engineering	39 (7)	23 (6)	388	23 (6)	16.9	100.0
	環境都市工学科 Dept. of Civil and Environmental Engineering	36 (12)	18 (6)	163	18 (6)	9.1	100.0
	建築学科 Dept. of Architecture and Structural Engineering	40 (17)	18 (10)	178	15 (9)	9.9	83.3
	合計 Total	152 (38)	76 (24)	1115	73 (23)	14.7	96.1
専攻科	機械電気工学専攻 Advanced Mechanical and Electrical Engineering Course	17	11	233	10	21.2	90.9
	建設工学専攻 Advanced Architecture and Civil Engineering Course	13 (3)	9 (3)	129	8 (2)	14.3	88.9
	合計 Total	30 (3)	20 (3)	362	18 (2)	18.1	90.0

() : 女子学生内数 () : Number of Females within Total

○ 産業別就職状況 (外側), 地域別就職状況 (内側) Industrial Classification (outside) Location of Companies (inside)

Industrial Classification (outside) Location of Companies (inside)



■ 通学状況別学生数 Students Residence

平成17年5月1日 (As of May 1, 2005)

区分	Classification	学年 Year	1年 1st Yr.	2年 2nd Yr.	3年 3rd Yr.	4年 4th Yr.	5年 5th Yr.	専攻科 A.E.F.	合計 Total
自宅	Home		103 (17)	112 (25)	116 (19)	105 (17)	74 (22)	25 (4)	535 (104)
学寮	Dormitory		70 (12)	63 (9)	50 (11)	58 (6)	61 (11)	9	311 (49)
下宿その他	Lodging and others		1	4 (1)	5	10 (1)	11 (2)	9 (1)	40 (5)
合計	Total		174 (29)	179 (35)	171 (30)	173 (24)	146 (35)	43 (5)	886 (158)

() : 女子学生内数 () : Number of Females within Total

(資料6-1-②-3続き)

■ 大学編入学及び専攻科入学状況 Status of University Transfer Admissions and Honors Course Admissions

大 学 University	学 科 Department	年度 Year		'03				'04				'05			
		機 械	電 気	環 境 部	建 築	機 械	電 気	環 境 部	建 築	機 械	電 気	環 境 部	建 築		
北海道大学	Hokkaido University				1										
北見工業大学	Kitami Institute of Technology			1											
室蘭工業大学	Muroran Institute of Technology	1												1	
東北大学	Tohoku University							1					1		
図書館情報大学	University of Library and Information Science	1													
筑波大学	University of Tsukuba	1						1							
宇都宮大学	Utsunomiya University					1									
東京工業大学	Tokyo Institute of Technology												1		
東京農工大学	Tokyo University of Agriculture and Technology												2		
電気通信大学	The University of Electro-Communications												1		
山梨大学	University of Yamanashi			1											
横浜国立大学	Yokohama National University					1									
長岡技術科学大学	Nagaoka University of Technology				1			1	2				3	3	
金沢大学	Kanazawa University				1										
豊橋技術科学大学	Toyohashi University of Technology	1		1	2	1				3	1		1	3	
名古屋工業大学	Nagoya Institute of Technology									1			1		
岐阜大学	Gifu University												1		
静岡大学	Shizuoka University											1			
三重大学	Mie University									2			1		
京都芸工科大学	Kyoto Institute of Technology								1						
大阪大学	Osaka University								1				1	1	
神戸大学	Kobe University			1											
奈良女子大学	Nara Women's University												1		
鳥取大学	Tottori University				1										
岡山大学	Okayama University			1	1					2		1		1	
広島大学	Hiroshima University	1			2	4		1	1	1	3		1	3	
山口大学	Yamaguchi University				1					2		1	1	1	
香川大学	Kagawa University													1	
愛媛大学	Ehime University			1	1					1		2		1	
九州大学	Kyusyu University				1										
九州工業大学	Kyusyu Institute of Technology			2				1	1			1		1	
佐賀大学	Saga University					2									
熊本大学	Kumamoto University	1	1	1						1	2	1		1	
大分大学	Oita University						1				1			2	
琉球大学	Ryukyu University											1			
前橋工科大学	Maebashi Institute of Technology													1	
滋賀県立大学	The University of Shiga Prefecture													1	
姫路工業大学	Himeji Institute of Technology			1											
大阪府立大学	Osaka Prefecture University							1							
広島市立大学	Hiroshima City University	1													
北九州市立大学	The University of Kitakyushu													1	
立命館大学	Ritsumeikan University					1									
大阪芸術大学	Osaka University of Arts						1								
広島工業大学	Hiroshima Institute of Technology					1									
小計		7	8	16	11	3	7	9	10	12	13	12	13		
専攻科						1									
札幌市立高等専門学校	Sapporo School of The Arts						1								
宮城工業高等専門学校	Miyagi College of Technology							1							
奈良工業高等専門学校	Nara College of Technology														
呉工業高等専門学校	Kure College of Technology	1	9	7	7	6	8	4	8	3	7	3	4	7	
小計		10	7	7	7	9	4	8	3	7	3	4	7		
合計	Total	17	15	23	18	12	11	17	13	19	16	17	20		

■ 専攻科生の大学院入学状況 Status of Graduate School Admissions for Honors Students

大 学 University	学 科 Department	年度 Year		'03		'04		'05	
		機 電	建 設	機 電	建 設	機 電	建 設		
東京工業大学	Tokyo Institute of Technology							1	
長岡技術科学大学	Nagaoka University of Technology	1							1
豊橋技術科学大学	Toyohashi University of Technology				1				
名古屋工業大学	Nagoya Institute of Technology						1		
岡山大学	Okayama University							1	1
広島大学	Hiroshima University						1		1
山口大学	Yamaguchi University				1				
九州工業大学	Kyusyu Institute of Technology	1							
鹿児島大学	Kagoshima University							1	
東北工業大学	Tohoku Institute of Technology	1							
早稲田大学	Waseda University					2		3	
合計	Total	3	2	2	2	6	3		

(出典 平成17年度要覧)

(資料6-1-②)-4)

各専攻学会発表一覧 (一部を抜粋)

講演者・著者	表題	発表機関	年月
機械系			
河野正来 瀬野宏正 中迫正一 岡本浩一	二円筒試験における生分解性合成潤滑油の焼付き強さ	日本設計工学会中国支部講演論文集, No. 22, 広島, pp. 39-43.	2005年6月
加東弘行 吉村敏彦 稲見和則 山下洋司	カーボンナノチューブの電界イオン顕微鏡による評価と カーボンマイクロセルの生成に関する研究	日本機械学会中国四国学生会 第34回卒業研究発表講演会 講演前刷集, 広島, p. 45	2004年3月
T. Yoshimura Y. Yamashita K. Inami H. Kato T. Tsutsumoto	Productin of Carbon Mesocell by Arc Electric Discharge	Japanese Journal of Applied Physics	2004年4月
加東弘行 竹下和則 山下洋司 吉村敏彦 石橋博文	カーボンナノ材料の作製と紫外線放射に関する研究	日本機械学会第12回機械材料・材料加工技術講演 会講演論文集、熊本、p. 31	2004年11月
加東弘行 吉村敏彦	Spherical Carbon Particle Produced by Arc Electric Discharge	第22回日韓国際セラミックスセミナー、名古屋、 P46	2005年11月
瀬野宏正 中迫正一 河野正来 辰見洋和 中井裕教 坂口俊之 山田和弥	スラスト・ワシヤ試験におけるメカニカルシールの潤滑特 性	設計工学, No. 21, 40巻, 5号 (2005), pp. 242-248.	2004年6月
瀬野宏正 中迫正一 河野正来 辰見洋和	スラスト・ワシヤ試験機におけるメカニカルシールの潤滑 特性 (油性剤・耐摩耗剤を添加した冷凍機油の場合)	日本機械学会講演論文集, No. 065-1, 広島.	2004年9月
瀬野宏正 中迫正一 河野正来 榎一将	移動熱源による複合表面改質層の瞬間温度上昇 (有限要素法による数値解析)	日本設計工学会中国支部講演論文集, No. 22, 広島, pp. 44-49	2005年6月
瀬野宏正 中迫正一 河野正来 堀 健治	金型の冷却に関する基礎的研究 (噴流式冷却管によるスポット冷却)	日本設計工学会中国支部講演論文集, No. 22, 広島, pp. 33-38.	2004年2月
瀬野宏正 河野正来 中迫正一 堀 健治	金型の冷却に関する基礎的研究 (噴流式冷却管によるスポット冷却)	日本機械学会講演論文集, No. 065-1, 広島.	2004年6月
真鍋雅英 野村高広	外管冷却・内管加熱した同心長方形管内の自然対流熱伝達	日本機械学会中国四国学生会 第35回学生員卒業 研究発表講演会講演前刷集、松山、p. 106	2005年3月
野村高広 京免 進 真鍋雅英	表計算を利用した熱流体現象の数値解析	日本工学教育協会 平成17年度 工学・工業教 育研究講演会講演論文集、東広島、p. 348-349	2005年10月
早稲田圭 吉村敏彦 佐藤一教 賣山 登	ウォータージェットピーニングによるフレット疲労の 評価	日本機械学会第12回機械材料・材料加工技術講演 会講演論文集、熊本、p. 235	2004年11月
吉村敏彦 早稲田圭 矢賀 優 高垣真人 佐藤一教 賣山 登	ウォータージェットピーニングにおけるキャビテーション噴 流の評価とフレット疲労抑制への応用	噴流工学, Vol. 21, No. 3, pp. 16-23	2004年9月
早稲田圭 吉村敏彦 佐藤一教 田口善規	ウォータージェットピーニングによるフレット疲労 抑制に関する研究	日本機械学会中国四国学生会 第35回学生員卒業研究発表講演会講演前刷集、 松山、p. 61	2005年3月
早稲田圭 吉村敏彦 佐藤一教 田口善規	空中ウォータージェットピーニングにおけるキャビテー ション噴流の評価とフレット疲労抑制への応用	日本機械学会平成17年度材料力学部門講演会講 演論文集、福岡、P8	2005年11月
電気系			
黒木太司 石川嶺平 米山務	双方向出力端子を有する60GHz帯NRDガイドガン発振器の実 験	電子情報通信学会マイクロ波研究会, pp. 23-26 (岩手)	2004年10月
F. Kuroki S. Ishikawa M. Kimura T. Yoneyama,	New Packaging Structure of Microstrip Line for Low- loss NRD Guide Integrated Circuits at 60 GHz	Electronic Proceedings of National Radio Science Meeting 87-9, p. 82 (Boulder in USA)	2005年1月
黒木太司 石川嶺平 木村実人 米山務	不要モードを抑制したNRDガイドモードサブプレサの設計	電子情報通信学会総合大会 (大阪)	2005年3月

(資料6-1-②-5)

表彰者一覧 (平成17年度卒業・修了生分)

表 彰 者

学業成績優秀賞

機械工学科
電気工学科
環境都市工学科
建築学科
機械電気工学専攻
建設工学専攻

皆勤賞

機械工学科
電気工学科
環境都市工学科
建築学科

精勤賞

機械工学科
電気工学科
環境都市工学科
建築学科

特別賞

機械電気工学専攻 (団 体) ソフトテニス部
日本機械学会高山賞
機械工学科
日本設計工学会武蔵学次賞優秀学生賞
機械工学科
電気・情報関連学会中国支部長賞
電気工学科
土木学会中国支部長賞
環境都市工学科
全国高専土木工学会近藤賞
環境都市工学科
日本建築学会中国支部優秀卒業生
建築学科
日本建築学会中国支部優秀卒業生設計作品
建築学科
日本機械学会中国四国学生会学生員卒業研究発表講演会優秀発表賞
機械電気工学専攻
日本建築学会中国支部構造賞・卒業研究賞
建設工学専攻

(出典：平成17年度表彰者一覧)

(分析結果とその根拠理由)

本校学生の就職・進学率は、ほぼ 100%であり、そのほとんどが専門を生かした分野に進んでいる。進学者も難関大学に進学しており、本校の教育目標が達成されていることがうかがえる。また、準学士課程の卒業研究、専攻科課程の特別研究の状況を概観することによっても、教育目標が達成されていることがわかる。卒業研究について、専攻科に進学した学生は卒業研究に関連した研究を継続して学会で発表しており、十分なレベルであると言える。また、専攻科課程では、学会発表を行うことが修了要件の一つとされ、国際会議での発表例もあることから十分なレベルであると言える。また、学生は積極的に各種コンペティションに参加しており、高専ロボットコンテスト、高専プログラミングコンテストだけでなく、全日本ゼロハンカーレース、鳥人間コンテストなど一般コンペティションへの参加も多い。中でも全日本ゼロハンカーレースと中国地区高専英語弁論大会では、連続して優秀な成績を残している。以上のことから、教育の成果や効果が上がっていると言える。

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

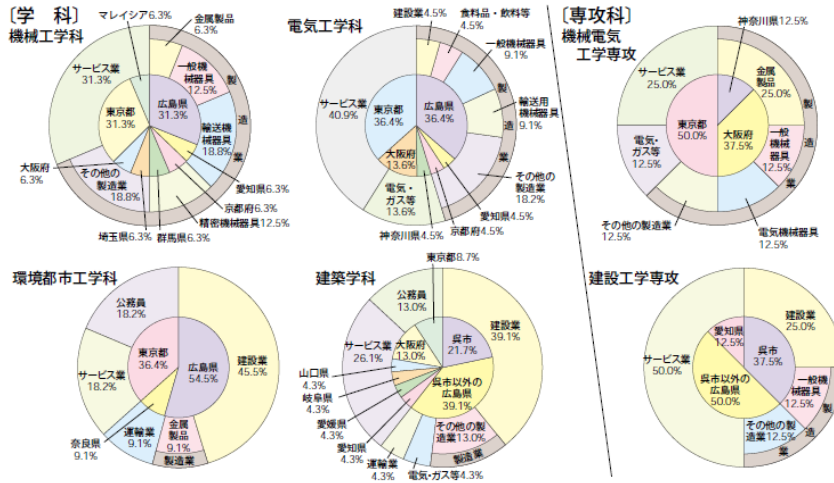
（観点に係る状況）

準学士課程において、各学科とも就職率・進学率は、ほぼ100%である（前出 資料6-1-②-3）。平成17年度卒業生の産業別就職状況によると、機械工学科と電気工学科では製造業を中心とした状況になっており、また環境都市工学科と建築学科では建設業、製造業、公務員が半数を越える状況となっている（資料6-1-③-1：産業別就職状況・要覧）。これらの進路状況は、教育目的で目指す人材像として相応しい進路先である（資料6-1-③-1）。専攻科課程においても、この状況は変わらず、やはり教育目的で目指す人材像に相応しい内容である。進学先については、準学士課程において、ほとんどが国公立大学及び専攻科を中心として理工系学部へ、また専攻科課程では国立大学及び私立大学の理工系修士課程に進学している（前出 資料6-1-②-3）。進学についても、本校の教育目的において目指す人材像に相応しい進路先である。

(資料 6-1-③-1)

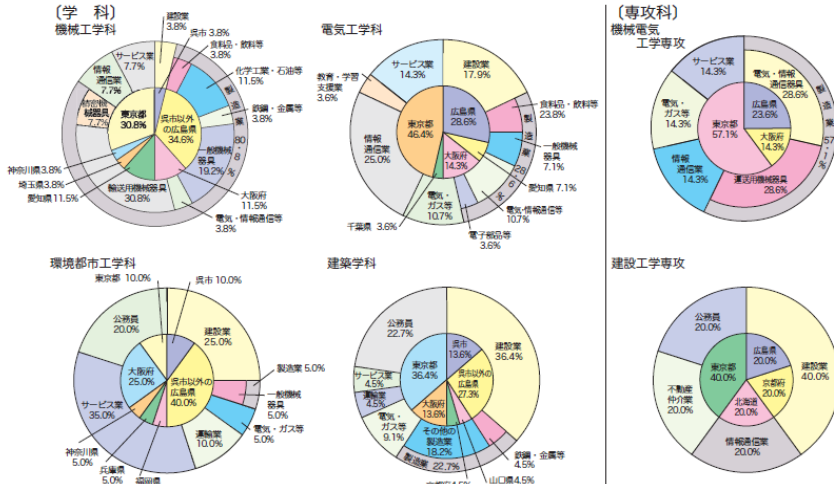
■ 平成15年3月卒業生・修了者の求人数及び就職状況 Job Offers and Employment

○ 産業別就職状況(外側), 地域別就職状況(内側) Industrial Classification (outside) Location of Companies (inside)



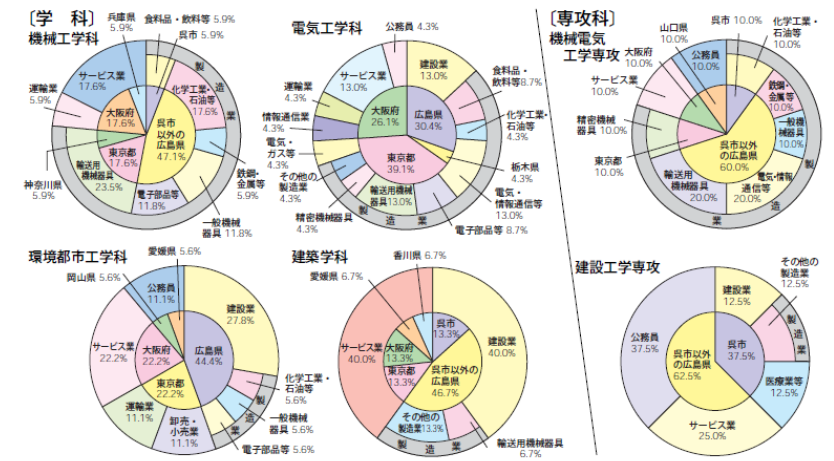
■ 平成16年3月卒業生・修了者の求人数及び就職状況 Job Offers and Employment

○ 産業別就職状況(外側), 地域別就職状況(内側) Industrial Classification (outside) Location of Companies (inside)



■ 平成17年3月卒業生・修了者の求人数及び就職状況 Job Offers and Employment

○ 産業別就職状況(外側), 地域別就職状況(内側) Industrial Classification (outside) Location of Companies (inside)



(出典 各年度要覧抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

就職先及び進学先は、各学科及び各課程に関わらず、いずれも本校の教育目的において目指す人材像として相応しい進路状況となっており、就職率・進学率がほぼ100%であることから教育の成果が上がっている。また、就職先については、業種・地域が多様化しており、広く社会及び産業界に貢献しており、これについても教育の効果が上がっている。

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、豊かな教養と創造力・実行力を身につけ、高いレベルの専門知識を活かして幅広い方面で社会に貢献しうるエンジニアの育成を目指し、学習・教育目標を定めて技術者教育を行っている(前出 資料6-1-①-1, 資料6-1-①-2)。この学習・教育目標を達成するために、教員・学生双方による授業評価アンケート、公開授業後の複数教員での評価・検討を行い(資料6-1-④-1:公開授業評価用紙)、教育内容・方法の改善について検討している。平成14年度と16年度の学生による授業評価アンケートの比較によると、一般科目及び専門学科科目双方で概ね改善傾向を示している(前出 資料6-1-①-9, 前出 資料6-1-①-10, 資料6-1-④-2:平成16年度「学生・教員による授業アンケート」報告書(準学士課程・専攻科) 抜粋)。特に、専門学科の実験・実習系科目については、座学に比べ大きな改善が見られている。また、目標に対する到達度を学生自身が評価するために、以前から一部学科で行っていた(学習・教育目標の達成度)自己点検シートによるアンケートを、平成17年度から準学士課程4, 5年生及び専攻科課程の全科目で行っている(前出 資料6-1-①-10)。ただし、卒業時に身につけるべき学力、資質、能力を達成したかどうかについて学生に直接評価をさせたことは、平成14年度に卒業生アンケートを実施したがその後行っていないので、平成18年度教育改善委員会が実施する予定である。

(資料6-1-④-1)

公開授業チェックシート(授業観察者用)

[氏名]

記入要領

各チェック項目に対して、YES の場合 回答欄に ○ を、NO の場合 × を、回答不可の場合 / を記入する。また、単純に YES・NO で答えられない場合、さらに細かくコメントしたい場合などは備考欄に記入する。

(チェック1)授業の始めに

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	授業の始めに授業の概略を学生に示しているか		
2	授業の始めに前回の授業と関連させているか(簡単な復習など)		

(チェック2)説明の仕方について

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	説明は学生にわかりやすいか(論理的か、図や例を示しているか、など)		
2	授業が単調にならないように変化をつけているか		
3	授業内容の重要性に応じて声に強弱をつけるなどしているか		
4	黒板の板書は読みやすいか		

(チェック3)質問について

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	学生への質問は、学生の理解を深める助けになっているか		
2	学生からの質問に対して、理解できるように、丁寧に、熱心に答えたか		
3	全学生が聞き取れるように必要に応じて答えを反復したか		

(チェック4)教員の授業態度について

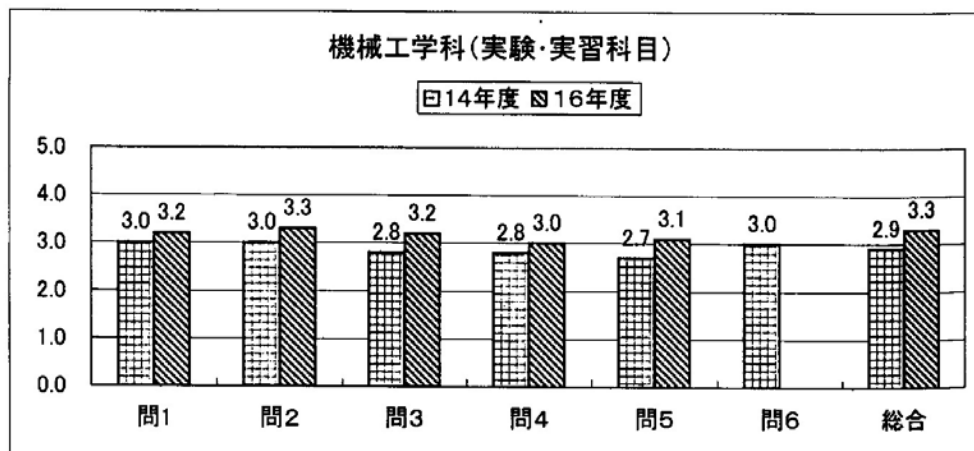
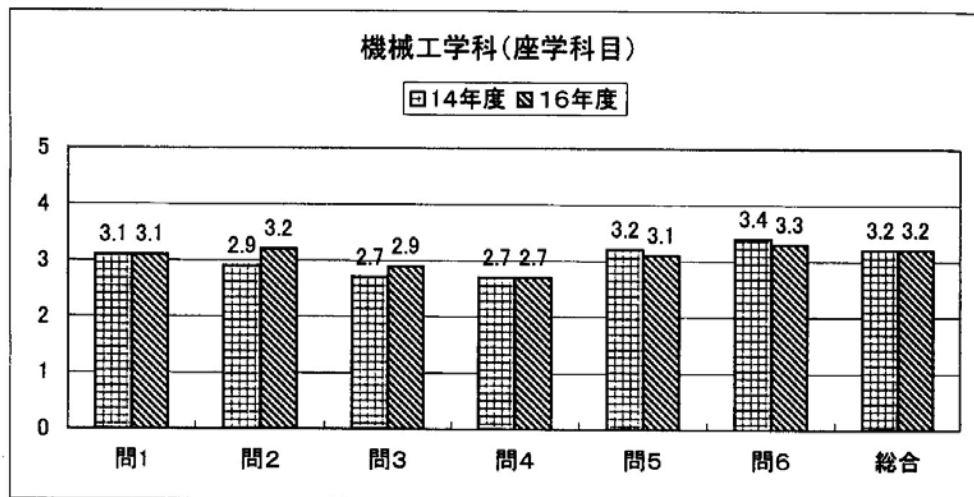
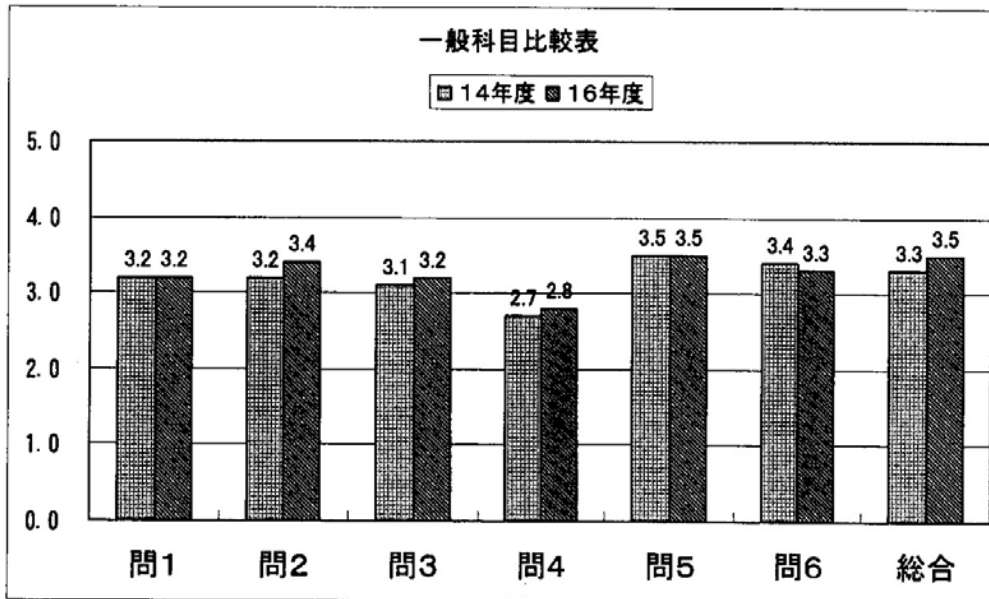
	チェック項目	回答欄	備考欄
1	教員の声ははっきり聞き取れるか		
2	話す速度は適切か。学生がノートをとるのに適切な速さか		
3	学生の方向を見て話をしているか		
4	寝ていたり、アルバイトをして授業に集中していない学生を注意しているか		

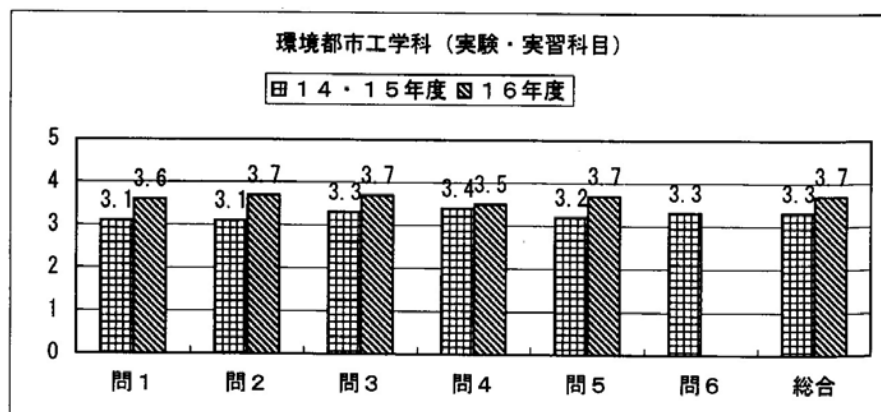
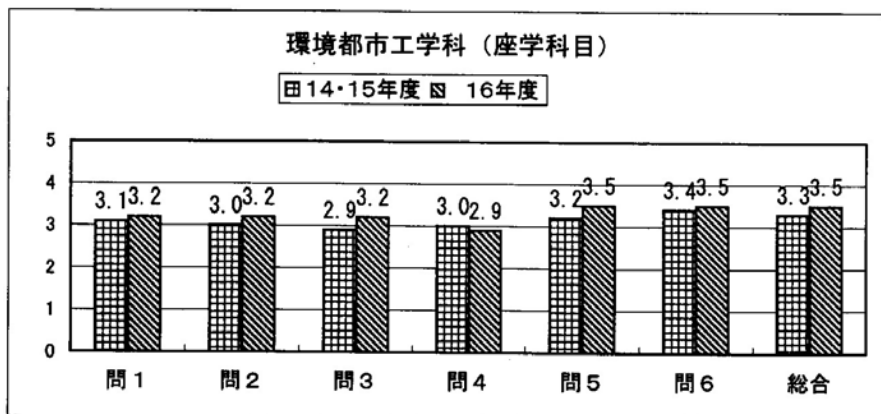
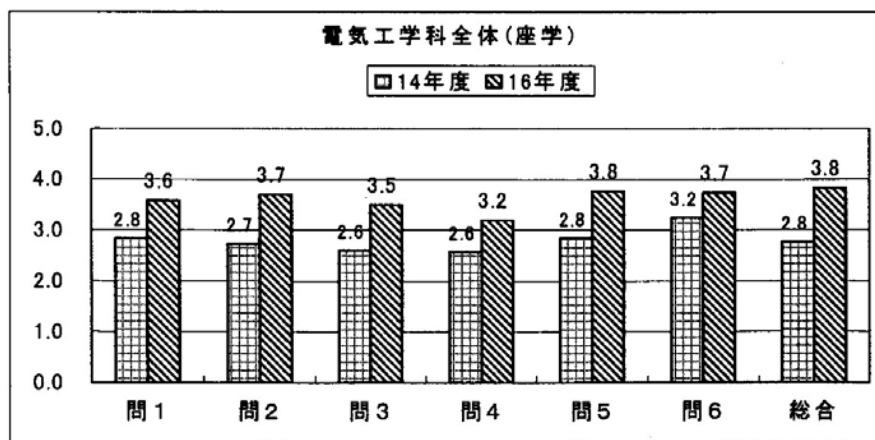
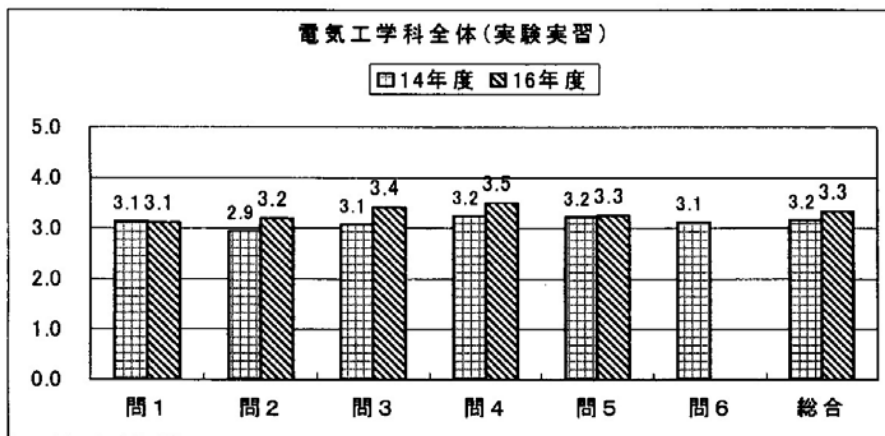
(チェック5)授業の終りに

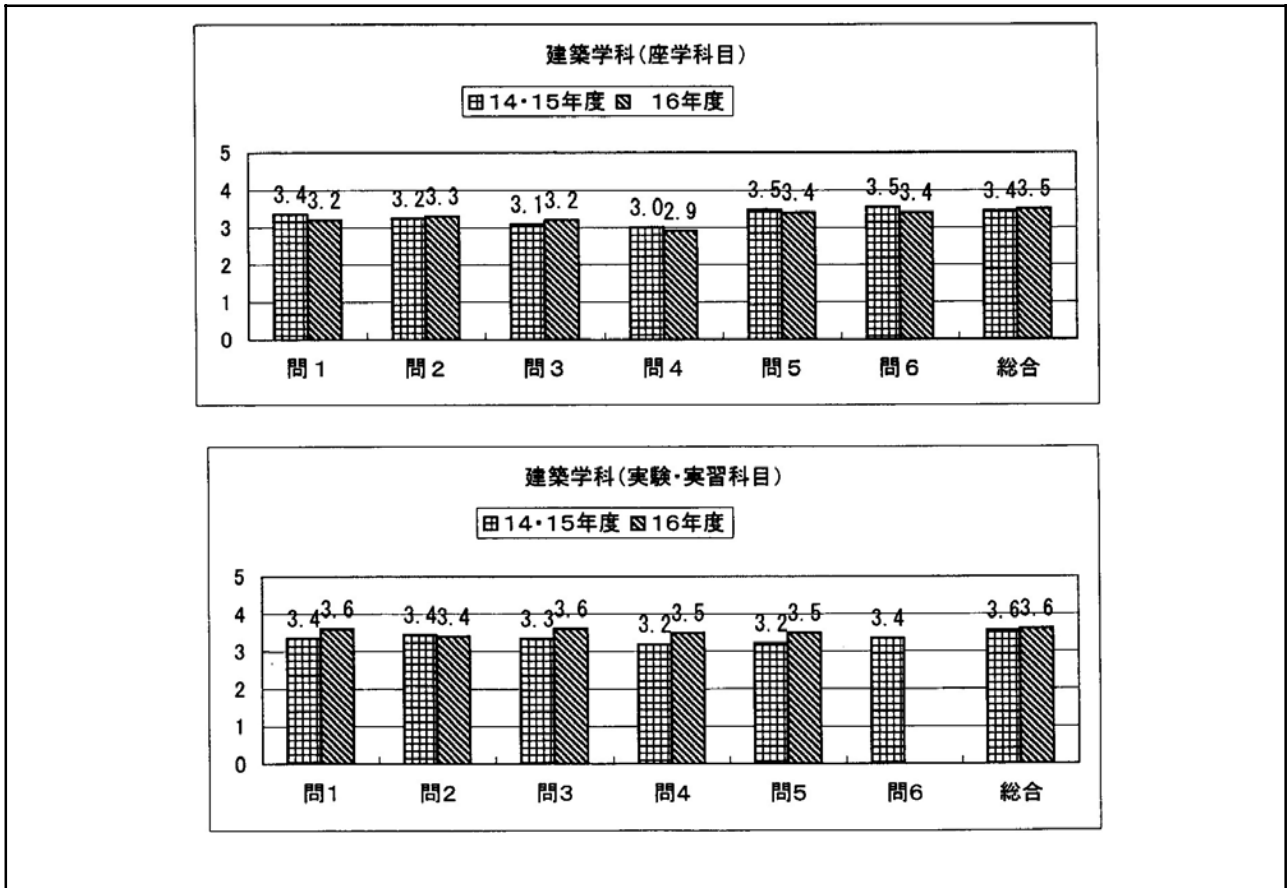
	チェック項目	回答欄	備考欄
1	授業の最後にまとめを行っているか		
2	授業を次回の授業と関連させることを行っているか		

(チェック6): その他、良かった点

(資料6-1-④-2)







(分析結果とその根拠理由)

平成14年度からの授業評価アンケートでは全体的に評価の向上が見られ、短期的評価ではあるが、教育方法等の改善により教育の成果や効果が上がってきている。授業評価アンケートの他に公開授業、自己点検シート調査を行い、学習・教育目標に対しての達成度評価及び教育内容・方法等の改善に努めているが、これら取り組みが始まったばかりであり、教育の成果や効果を十分に確認しうる全体的・系統的な結果が得られていない。この点については、アンケート等の調査・検討を継続することと、平成18年度以降は、教育改善委員会が達成状況の調査・検討を管轄し、その結果を基に教務委員会及び専攻科委員会が実働する新しい体制となることで、改善が図られる。また、卒業時に身につけるべき学力、資質、能力を達成したかどうかについて平成14年度に卒業生アンケートを行ったが、今後さらに行っていく。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

在学時に身に付けるべき学力・資質・能力について、卒業生・修了生の就職先及び企業への訪問もしくは卒業生、修了生及び企業人事担当の来校時などに、聞き取り調査を積極的に行っている（資料6-1-⑤-1：面談記録用紙【訪問時提示資料】）。企業訪問時には、卒業生・修了生の能力や職場での様子、また今後採用時に必要となる資質・能力などについても担当者ごとに報告書にまとめられ、その情報は進路指導にも活かされている（資料6-1-⑤-2：平成16年度会社訪問実施計画等抜粋【訪

問時提示資料】)。また、卒業生全体に対してアンケートを行い、平成14年5月にまとめられた自己点検・評価報告書において、本校での教育内容に対する評価、今後の教育内容等への要望について調査がなされ、その結果はカリキュラムの改善等に生かされている（【訪問時提示資料】）。企業対象の一斉アンケートによる系統的な調査結果はないものの、個別の企業訪問時などでの聞き取りによると概ね評価は高く、またそれを反映してか就職率も高い。

(資料6-1-⑤-1)

平成 年 月 日

面談記録 (No.)

会社名

記入者

会社概要	総合 通信 電力 制御 ソフト ハード 医療 設備 製造 設計 開発 工程管理 サービス メンテ 派遣 建設 食品・機械 医薬 化学 交通 小売						資本金
							従業員
							平均年齢
高専採用数	応募	高専	その他(備考)	専攻科生 可否	過年度卒業生 可否		
	今春			女子学生 可否	夏期実習の受入 可否		
	来春						
勤務予定地	海外 全国 関東 中京 関西 県内 地元						
応募選考	書類の受付	随時、 / まで					
	郵送先	本社 支社 工場		phone:	fax:		
		部		御名前:			
	書類の種類	指定一式、履歴書、卒業見込証明書、成績証明書、健康診断書(公)、推薦書、その他()					
	選考場所	場所:		日時:			
	選考方法 面接、適性(), 筆記(専、常、英、小論、)						
OBの近況							
Home page							

(資料6-1-⑤-2)

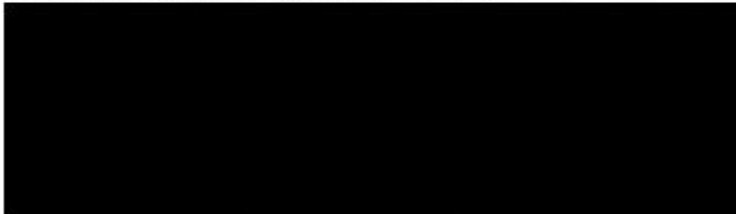
学 生 主 事	学 生 課 長	学 務 専 門 員	学 生 係 長	学 生 係

平成17年3月29日

会社訪問・求人依頼結果報告書

電気情報工学科 藤井敏則

1. 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)



5/9から11にかけて行われる採用試験に受験する■■■■■の話を中心に行った。「一年生から硬式野球部所属して活躍していること」、「3、4年では高専祭の実行委員を行って、高専祭をやり遂げたこと」、「成績は10番以内で良いこと」、「父親が以前国鉄に勤務しており、現在はボーダフォンに勤務していること」、「■■■■■の希望は通信関連であること」などの話をした。担当マネージャーの■■■■■は、■■■■■のお父さんを知っているということ、また、親戚が阿賀南にいること、■■■■■先生が広島大学に勤務していた頃に同じ研究室に配属されたということもあり、なごやかに話が進んでいった。

■■■■■が呉高専を訪問した際に■■■■■と少し話をしており好印象であったことを伺った。採用試験では面接、SPI、筆記試験(専門)があるが、SPIが足切りに使われる程度でそれほど重点はおかれず、面接が非常に重要である。面接で重視されることは「コミュニケーション能力」、「明るさ」、「元気」、「積極性」などがあげられ、志望動機や学生時代にやったことも当然聞かれ、自己アピールがうまくできるようになってほしいと希望された。






■■■■■が4月に入ってから、履歴書などの書類を持ち、呉高専を訪問する予定。また、今年内定をいただいた■■■■■のお礼もした。

2. 関西電力株式会社



今年採用試験に受験する■■■■■のことを話をした。「4年間柔道部に在籍して、昨年度は個人で全国大会に行ったこと」、「成績は10番以内で良いこと」などの話をし、非

(資料6-1-⑤-2続き)

学生主事	学生課長	学務専門員	学生係長	学生係
				

平成 17 年 3 月 25 日

依頼文不要

会社訪問実施計画について

このことについて、下記のとおり実施してよいか伺います。

記

1. 期間 平成 17 年 3 月 28 日 (月) ~~平成 17 年 3 月 29 日 (火)~~
2. 訪問者 電気情報工学科 氏名 藤井 敏則
3. 訪問先

訪問月日時	会社名	〒	住所	備考
3/28 10:30~	関西電力	530-8270	大阪市北区中之島3-6-16	
3/28 16:30~	中部電力	461-8680	名古屋市東区東新町1番地	
3/28 9:00~	JR西日本	530-8241	大阪市北区芝田=丁目4-24	
3/28 14:30	Sony ECMS-宮市	491-0192	愛知県-宮市大字高田字池尻6番地	

- 注) 1. 事前に、この会社訪問実施計画を学生係へ提出してください。
 2. 旅行命令伺は、庶務係へ提出してください。(この計画書の写を添付)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生及び企業人事担当への意見聴取等の取組については、継続的に聞き取り調査が行われることで十分に機能している。教育成果・効果などの検証については自己点検・評価報告書などで行われており、個別的には成果を上げているが、体系的なデータを基にした評価・検討は継続的にはなされていない。このため、今後も卒業生及び企業へのアンケート調査・検討が、継続的に行われることが必要であり、教育改善委員会が実施を企画検討している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

就職先及び進学先は、いずれも教育目的で目指す人材像として相応しい進路先である。また、各学科、各専攻科課程とも、ほぼ100%の就職率と進学率である。卒業研究については、一部の学生については専攻科進学後早期に本人による学会発表もあり、内容的にも十分なレベルにある。専攻科の特別研究についても、修了要件として学協会による発表を入れており、全員が在学中に発表を行っている。また、一部専攻科生は国際会議での発表も行っており、内容的に十分なレベルにあるといえる。

(改善を要する点)

専攻科課程修了生や準学士課程卒業生へのアンケートは、まだ実施回数が少なく、継続的な調査が必要である。また、教育の成果及び効果についても、全体的・系統的な結果が少なく、これらについても継続的な調査の必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

単位の取得、卒業・修了時の成績等の評価については、準学士課程においてはJABEE基準に準拠し、専攻科課程においてはJABEE基準に対応した基準と教務規則で適切に行われている。資格取得に関しては、各学科とも積極的に推奨している。就職先及び進学先は、いずれも本校の目指す人材像にふさわしい進路先であり、各学科、各専攻科課程とも、ほぼ100%の就職率と進学率である。準学士課程の卒業研究及び専攻科課程の特別研究については、国内外で発表を行うなど、共に十分な内容となっている。総合的な資質・能力が問われる各種コンペティションに対しても、各学科とも積極的に参加を奨励し、優秀な成績を上げている。以上のことから、本校では教育成果や効果が上がっている。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

学習を進める上でのガイダンスとして、入学時には準学士課程・専攻科ともに学習を含む学生生活全般についてのオリエンテーション(資料7-1-①-1, 資料7-1-①-2)及び学生の学習にとって重要な施設である図書館や情報処理センターについてのガイダンス(資料7-1-①-3, 資料7-1-①-4)が整備され、実施されている(資料7-1-①-5)。コース制を導入している電気情報工学科, 環境都市工学科においては、学生のコース選択時にガイダンスを整備・実施している(資料7-1-①-6)。留学生には留学生オリエンテーション, 編入学生には編入学生オリエンテーションが実施されている。年間の授業に関しては各科目のシラバス(資料7-1-①-7 訪問調査時提示)によって授業計画が示され、学生の自主的学習の一助としている。

学生の自主学習を進める上での相談・助言については、準学士課程学生に対しては全学年で採用されているクラス担任があたり(資料7-1-①-8), 専攻科学生に対しては4名の専攻科長補があたっている。加えて全教員がオフィスアワーを設けて(資料7-1-①-9), 担当科目に関する相談を受け付ける体制を整備し、機能している(資料7-1-①-10)。また、年間授業においては定期的に学習理解度チェックシートを学生が記述し(資料7-1-①-11), 授業担当教員に対して学生が相談できるようにしている。その他メールによる学習相談にも対応できるようシラバス及びホームページに教員のメールアドレスを掲載している(資料7-1-①-12)。

(資料7-1-①-1)

平成17年度入学説明会日程表

日時 3月7日(月)		行 事 内 容	時 刻	
①	受付	[第1体育館南側] ○入学届提出、入寮届提出、資料受領	9:30 ~	
			10:30	
②	全体説明会(保護者同伴)	[第1体育館(教務関係・学生生活関係説明)・視聴覚教室(学生寮関係説明)] ○教務関係説明 教務主事 10:30~10:45 ○学生生活関係説明 学生主事 10:45~11:00 ○学生寮関係説明 寮務主事 11:10~12:00 (学生寮関係説明は入寮希望者が対象です。) ※終了後は、適宜、制服等の採寸をしてください。	10:30 ~ 12:00	
	③ 学科別説明会(保護者同伴)		○機械工学科 - 機械工学科棟3階・製図室 ○電気情報工学科 - 電気情報工学科棟3階・E5HR ○環境都市工学科 - 環境都市工学科棟4階・製図室 ○建築学科 - 建築学科棟2階・第1製図室	13:00 ~
	④ 制服等の採寸及び予約・学生証用の写真撮影・辞書の購入			⑤ 通学証明書等申込 (交通機関を利用して通学する者) [図書館棟1階 学生課学生係]
⑥	入学料・授業料免除及び奨学金について (希望者・該当者のみ) [図書館棟1階 視聴覚教室] ○入学料及び授業料免除等申込 ○日本学生支援機構奨学金受給決定者(中学校で申請済)の手続	⑦ 特別相談コーナー(希望者のみ) 教務主事関係: 図書館棟2階 第2ゼミ室 ○授業等に関する相談 ○その他の相談 学生主事関係: 図書館棟1階 視聴覚教室 ○授業料免除等に関する相談 ○奨学金に関する相談 ○学生生活に関する相談 寮務主事関係: 第1寮1階 寮会議室 ○学生寮に関する相談	14:00 ~ 15:30	
			解 散	

注1) 昼食は、食堂を利用することができますが、混み合いますので、なるべく弁当を持参して来校してください。
2) 12:10から14:00まで図書館棟1階の視聴覚教室を昼食会場として開放します。
3) ①~④が済めば解散です。⑤~⑦は希望者・該当者のみ対象です。

(出典 学生課)

(資料7-1-①-1)

平成17年度新入生オリエンテーション日程表

日時 4月6日(水)・7日(木)		行 事	場 所
4月6日(水)	8:35~9:25	寮生対象ガイダンス(寮務主事、寮務係長)(寮生のみ)	視聴覚教室
	9:25~9:35	休 息	
	9:35~9:45	点呼、資料配付等	#
	9:45~10:00	寮務主事ガイダンス	#
	10:00~10:50	校歌、学生歌練習(学級教員)	#
	10:50~11:30	クラス写真撮影	図書館棟1階談話室
	11:30~12:15	ホームルーム	HR
	12:15~13:00	休 息(昼食)	
	13:00~13:40	図書館オリエンテーション	視聴覚教室
	13:40~14:20	教務主事ガイダンス	#
14:20~14:40	休 息		
14:40~15:10	情報処理センターガイダンス(倫理に関する)	#	
4月7日(木)	8:35~9:25	ホームルーム	HR
	9:25~9:30	休 息	
	9:30~10:20	各学科のオリエンテーション(学科主任)	#
	10:20~10:30	休 息	
	10:30~	学生主事ガイダンス	視聴覚教室
	~12:15	学生会、クラブ紹介	#
	12:15~13:00	休 息(昼食)	グラウンド及び体育館
	13:00~15:40	スポーツ(M・Eはソフトボール、Cはバスケットボール、Aはソフトバレーボール、クラス内対抗) (雨天の場合は、バスケットボール又はソフトバレーボール)	(雨天の場合は体育館)
		心電図測定 (12:50~13:00まで編入学生)	保健室
		(13:00から機械、電気、環境、建築、女子学生の順に実施)	(名札の回収)

(出典 学生課)

(資料7-1-①-1)

平成17年4月7日 (木)
(10:30～)

新入生オリエンテーションにおける学生主事ガイダンス

学生主事

新入生オリエンテーションにおける学生主事ガイダンスでは、下記について概略説明をしたいと思います。各担任教官におかれましても必要と思われる補足説明をお願いいたします。

記

1. 基本的な生活習慣について
 - (1) 礼儀正しい生活について
挨拶の励行、礼儀を重んじる、思いやりの心を持つ、人に迷惑をかける行動
 - (2) 規則正しい生活習慣について
正しい生活のリズム
 - (3) 土・日の休日の有効活用について
クラブ活動、図書館の利用、予習・復習の学習時間に当てる
アルバイトなどには使わない
2. 学校生活について (学生便覧 P71～)
 - (1) 学生証, 通学証明書, 学割
 - (2) 学校行事, 学級会, 学生活動への積極的な参加
 - (3) 課外 (クラブ) 活動への積極的な参加
 - (4) HRロッカー, 男子更衣室・女子更衣室の利用
 - (5) 掲示による連絡, クラス別・クラブ別のメールボックスによる連絡
3. 福利厚生関係について (学生便覧 P77～)
 - (1) 保健室, 学生相談室, 静心館, 学生食堂, 売店などの利用
 - (2) 諸納付金の免除, 奨学金, 保険
 - (3) アルバイト
4. 学生の心得 (校則, 補導関係) について (学生便覧 P129～)
 - (1) 服装
 - (2) 運転免許, 単車通学
 - (3) 飲酒, 喫煙の禁止
 - (4) 破廉恥行為など

*今年度は、この時間帯で学生会によるクラブ紹介もあります。やや時間が少なめのようなので前日の校歌・学生歌の練習時間 (私が担当。50分) も少し利用させていただきます。

(資料7-1-①-2)

専攻科オリエンテーション説明内容 (4月5日 (火))

1. 前期履修届について

履修届の提出締切りは、4月12日 (火) です。学生課専門員へ提出してください。
担当教員欄は、必ず記入してください。
2. 健康診断について
 - ・4/7 (木) の胸部X線撮影：専攻科1年生の該当者は■■■■君だけです。
15：30から図書館棟前で行われます。
 - ・4/12 (火) の心電図の検査：12：50から専攻科生1年生となっています。
 - ・その他は、日程表のとおり。
3. 前期使用教科書の販売について

別紙教科書一覧の教科書を、4月5日 (火) 12時から13時の間、図書館棟ロビーで広書房が販売します。
4. 車両通学等承認申請について

希望者は、承認願に任意保険契約書のコピーを添付して、各系の専攻科長補に車両・マフラーの音等をチェックしてもらい確言忍印を押印してもらった後、4月15日 (金) までに学生課へ提出してください。
承認された場合、所定の駐車場 (専攻科棟東側駐車場) に置いてください。
寮の前には、一時的でも絶対に駐車してはいけません。(バイク、自転車も。)
5. 住居届の提出について

記入して、4月5日 (火) のオリエンテーション時に提出してください。
在学証明書の住所は、入学手続きの書頭に記入されていた住所になっておりますので、支障がある場合は、申し出てください。
6. 学生証について

有効期間は、2年間です。
学生証で学割、在学証明書の交付を受けることができます。図書館棟1階に証明書自動発行機が設置されておりますので、利用してください。(平日9：00～17：00)
JR等で通学する場合は、学生係で証明書をもらってください。
8. 授業料免除申請及び日本学生支援機構の奨学金について

授業料免除申請を希望する者は、4月8日 (金) までに学生係に申し込みをしてください。
日本学生支援機構の奨学金については、後日、掲示でお知らせします。
9. 学生への連絡事項について

専攻科棟1階の掲示板により連絡しますので、毎日確認してください。
メールによる連絡も併用しますので】研究室等のパソコンでも見る習慣をつけてください。
郵便物・配付物等は、学生課前のメールボックスに入れておきますので、当番等により毎日確認に来てください。
10. 大学院募集要項の閲覧について

各大学大学院の募集要項を学生課事務室隣の「進路資料室」にファイルしていますので、利用してください。
【参考】大学院進学状況 14年度 5名 15年度 4名 16年度 9名
11. 学会等出席に伴う旅費の援助について

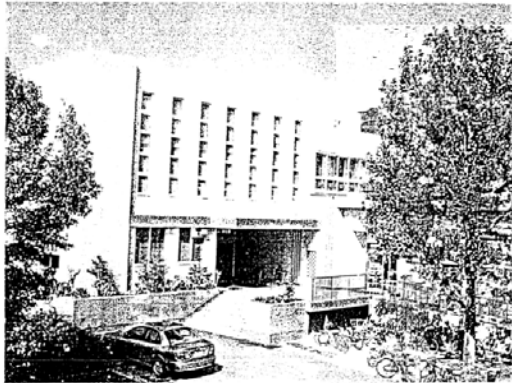
学会、研究発表に出席する者には、後援会から年1回、2万円を限度に交通費及び宿泊費が補助されます。次の書類を揃えて、学生課に提出してください。
旅費は、報告書提出後、届出の呉信用金庫の口座に振り込まれます。(現金では支給されません。)

 - 専攻科生研究発表出席旅費支給申請書 (指導教員の押印必要)
 - ※学会名等、開催場所・期日・内容等がわかる書類を添付すること。
 - 口座振込申出書 (呉信用金庫の本支店に限ります。)
 - 専攻科生研究発表出席旅行報告書 (終了後、速やかに提出すること。)
12. 個人宛の通知は、携帯メールを利用しますので、希望する者は、下記のアドレスに表題と本文に「学生番号、専攻名 (系) 氏名」を送信してください。
学生課専門員 (川野) アドレス : kawano@kure-nct.ac.jp
13. 専攻科棟玄関カードキーについて
14. 校内メールアドレスについて

(資料7-1-①-3)

図書館の利用ガイドンス

<< 平成17年度 >>



呉工業高等専門学校図書館
〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11
TEL : 0823-73-8406
E-mail : tosho@kure-nct.ac.jp
URL : http://www.lib.kure-nct.ac.jp

目次

1 利用方法	1ページ
2 開館時間と開館日	1ページ
3 貸出・返却	1ページ
4 館内閲覧	2ページ
5 書庫への入室	2ページ
6 蔵書検索	3ページ
7 文献複写サービス	3ページ
8 レファレンスサービス	4ページ
9 視聴覚コーナーの利用	4ページ
10 購入希望図書の申込み	4ページ
11 図書の配架方法	5ページ
12 図書館ホームページ	6ページ
13 OPACでの図書・雑誌の探し方	7ページ
14 日本十進分類法, 関連索引	11ページ

(資料7-1-①-4)

情報処理センター 利用の手引き

情報処理センター

【注意事項】

- 情報処理センターの利用に関しては、情報処理センター利用細則およびセンター利用心得をよく読み、利用してください。
- 情報処理センターを授業以外で使用する場合には、必ず利用前に必要事項を記入し、使うパソコンの専断札を使用するパソコンの上において使用してください。専断札を盗がらに使用している場合には、情報処理センターの利用を中止させます。
- 終了時には、机に当たったことがある場合には、利用前にそのことを記入してください。また、専断札は元通りに返すべく返出してください。
- Linuxの使用は授業で使用している方のみ使用できます。それ以外の方は利用できない設定にはしていません。間違えてLinuxを起動してしまった場合は、[システム]をクリックして[停止]を選択してください。
- パソコン本体のハードディスクへの書き込みやインストールは禁止されています。書き込みやインストールをした場合、アクセスログによって誰が行ったかはすぐわかるようになっていきます。この場合情報処理センターの使用を禁止する場合があります。
- Windows2000でシャットダウン、もしくはLinuxで停止を選択して終了した場合、パソコン本体の電源は自動的に切れますが、モニタの電源は自動で切れません。モニタの電源を必ず切ってから退室してください。
- 印刷を行う場合には、ファオルトのプリンタが必ずしも近くにあるプリンタになっていないとは限りません。したがってWordやExcelなどで印刷を行う場合にはツールバーにある印刷アイコンを使用せず、必ず「ファイル」メニューの「印刷」を選択して出力プリンタの設定を出力したいプリンタにして印刷してください。その他のソフトについても同様にしてください。また、自分が出したものであることがわかるようにヘッダーもしくは印刷内容に、学籍番号または学科や学年、氏名などを記入してから印刷するようにしてください。
- 印刷用紙がない場合は、情報処理センター技術職員もしくは管理学生にその旨を連絡し、必要な枚数をもらってください。
- 一冊退室する場合でも、必ずパソコンを終了させてください。終了させていないパソコンがある場合、強制的に終了させます。
- パソコンの解像度を変更した場合には、必ず元の解像度に戻してください。

※ 情報処理センター管理のサーバ等に存在する個人のデータは、卒業・退学後1ヶ月には削除いたします。また、メンテナンス等によりデータが削除される場合がありますので、重要なデータは個人個人でフロッピーディスク等に保存してください。

情報処理センター利用細則

- 【目的】
第1条 この規則は呉工業高等専門学校情報処理センター規則の第8条の規定に基づき、呉工業高等専門学校情報処理センター及びパソコンセンター（以下「センター」という。）の利用に関して必要な事項を定めるものとする。
- 【利用の範囲】
第2条 センターは教育及び研究その他の必要と認められる業務に限り利用することができる。
- 【利用者の資格】
第3条 センターを利用できるものは、次の通りである。
一 本校教職員
二 本校の学生（本邦生、専攻科生、留学生、研究生、聴講生、科目等履修生）
三 非常勤講師（本校学生の指導のためにセンターを利用するものに限る）
四 外国人研究者及び外国人受任研修員（呉工業高等専門学校外国語学系外国人受任研修員及び呉工業高等専門学校外国語学系外国人受任研修員に認められたものに限る）
五 本校と提携関係にある他校の教職員（研究用等）
六 その他情報処理センター長（以下「センター長」という。）が適当と認めるもの
- 【利用の手続き】
第4条 センターを利用するときは、センターに購入付けの利用記録簿に必要な事項を記入する。
一 利用者は「センター利用心得」を遵守しなければならない。
二 授業以外の利用がセンターを利用するためには、利用申請書をセンター長に提出して利用許可を得なければならない。
- 【利用の時間】
第5条 センター長は、次の各号に該当するときは、センターの利用を認めないことがある。
一 利用内容がセンターの設置目的に違反するとき
二 利用者がその権利を濫用したとき
三 センターの管理運営に支障を生じさせたとき、または生じさせるおそれがあるとき
四 その他センター長が、利用申請書と認めるとき
- 【利用の時間】
第6条 センターの利用時間は、次の通りである。
一 平日 8時30分から17時まで（一般利用時間）
二 平日 7時から20時まで（学習利用時間）
三 1日の授業をすべて修了した学生が出席する日は閉館とする
四 試験期間中はセンター運営室を開放しない
五 センター長が閉館を認めないときは閉館することもある
- 【利用者の協力】
第7条 センター長はセンターの運営管理に関して、利用者の協力を求めることができる。
- 【経費の負担】
第8条 センターの利用にかかる経費は別に定める。
- 【罰則】
第9条 この規則の違反は、情報処理委員会を構成して、センター長が行う。この場合違反した学生は、その学生による一般利用時間等（昼休みや放課後17時まで）や学習時間等（17時～20時）の閉館を一部禁止することができる。また、センターの運営に支障を生じさせた学生は当該閉館の処分を行うことがある。
- センター利用心得
1. 情報処理センター長の許可なくコンピュータの設定および書き替えないこと
2. 教育目的以外のソフトは利用しないこと
3. ゲームは一切禁止とする（印刷機やゲームも禁止）
4. 盗んでいるときは窃盗利用の力を要する
5. 情報処理センター内へ飲食物の持ち込みおよび飲食はしないこと
6. 使用済みの紙類はすべて回収すること
7. 一人で複数のコンピュータを使用しないこと
8. 椅子などはもの損傷にかまわず
9. 椅子が壊れた場合は、センター長に報告し、センター技術職員、教職員がいずれかに報告すること。報告しない場合は、発見されたものと同様とする。
10. すでに壊れている場合は必ず報告すること。
11. 非常事態に発生しないこと
- 「学習記録簿」の記入
第10条 一人1台のパソコンで、課題、学習などの記録を取る
- 「学習記録簿」の活用
第11条 情報処理センター運営室の入り口で、席の学生（専攻科生）に学生証を提示し、利用簿に記入し、利用カードを交付する。
第12条 利用カードに対応した番号のパソコンに利用カードを挿入すればそのパソコンが利用可能となる。
- 【注意】
卒業・退学になった時点で、「学習記録簿」の権利はなくなる。したがって、卒業・退学後1ヶ月以内に学習記録簿を返さなければならない。利用記録簿を返さずに、パソコンを使っている学生は、席の学生に利用記録簿を返すよう注意させられ、返さなければ閉館される。

(資料7-1-①-5)

平成18年度新入生オリエンテーション出席状況

学 科 (学生数)	4月6日	4月7日	全体出席率
機 械 工 学 科 (45人)	44	45	98.8 パーセント
電気情報工学科 (46人)	46	46	
環境都市工学科 (42人)	40	41	
建 築 学 科 (40人)	40	40	

(出典 学生課)

(資料7-1-①-6)

電気情報工学科第3学年の保護者の皆様へ

平成17年5月30日
電気情報工学科主任 植田義文

電気情報工学科のエネルギー制御コース及び情報通信コースの振り分けについて

保護者の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、呉工業高等専門学校電気工学科は、平成14年度に文部科学省の認可を得て、電気工学科から電気情報工学科に改組することが出来ました。これにより、電気情報工学科では、従来から重点を置いてきた電力・電気機器工学に加えて、電子・情報・制御といった広範囲な分野を網羅することが出来るものと期待されます。具体的には、第3学年までは従来通り電気・電子・情報・通信・制御分野の基礎教育を行い、第4学年よりエネルギー制御コースと情報通信コースの専門教育を行うこととなります。

学年進行に伴い平成18年4月より皆様のお子さまにおかれましてはエネルギー制御コースと情報通信コースの何れかを選択することとなります。コース分けにつきましては、同封致しましたコース分け規定に基づいて行いたいと思いますので、何卒ご理解の上宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

第4学年進級に伴うコース分け
(エネルギー制御コース、情報通信コース)の規定

(1) コース学生数について

電気情報工学科においては、第4学年の、各コース構成学生数を以下のとおりとする。

- エネルギー制御コース (20名程度)
- 情報通信コース (20名程度)

(2) 選抜方法について

- a. 学生のコース別希望
- b. 第(1)項で述べた人数を超えた場合は、教員の指導により調整する。
- c. 上記a及びbによっても決定できない場合は、第3学年前期末試験の成績により決定する。

(3) コース分けの時期について

- a. 第3学年保護者にコース分けの趣旨を7月上旬までに連絡する。
- b. 第3学年学生にコース分けの説明会を7月中旬までに行う。
- c. 第3学年学生にコース選択希望調査を10月下旬までに実施する。
- d. 11月下旬にコース分けの決定・発表を行う。

「学級担任マニュアル」もくじ

目 次

1. 年度当初の業務 1

- (1) HRの確認1
- (2) 掲示物等の準備1
- (3) 担任クラスの確認2
- (4) 入学説明会・入学式当日の懇談（1学年）2
- (5) 始業式当日のホームルーム3
- (6) 各委員の決定3
- (7) クラス写真撮影時の注意3
- (8) 進番・清掃当番業務の確認と徹底4
- (9) 連絡網の作成4
- (10) 掲示板の使用（週番業務）5
- (11) 特別活動（LHR）計画の策定手順と実施（1～3学年）5
- (12) 年度当初に学生に伝えること6
- (13) その他6

2. 日常の業務 7

- (1) 出席状況の把握7
- (2) 『出席簿』の管理7
- (3) 『学級日誌』の管理7
- (4) 座席表の作成・席替えの実施7
- (5) 公認欠席等の手続き8
- (6) 学習状況の把握9
- (7) 学生への絡連絡10
- (8) 学級通信の作成（任意）10
- (9) 学級費・旅行代金の積み立て（任意）10
- (10) 問題行動などへの対応10
- (11) いじめへの対応（重要）11
- (12) 不登校への対応（重要）11
- (13) メンタルヘルスについて11
- (14) 定期試験時の教室整備12
- (15) 不正行為の防止12
- (16) 特別活動、学校行事の出欠12
- (17) 教室利用の指導12
- (18) エアコンの管理と指導（6月下旬～8月上旬）12
- (19) 長期休業前後のHRでの指導13

3. 保護者への対応13

- (1) 出席状況の把握と保護者への連絡13
- (2) 問題行動や不登校への対応13
- (3) 学級別個別懇談会の計画と実施13
- (4) 成績の送付14
- (5) 保護者への配布物14

4. 中途退学を希望する学生への対応14

5. 台風などによる臨時休校への対応15

6. 年間行事に関する業務・指導15

- (1) 各種学校行事15
- (2) 遠足（1・2・5学年のみ）15
- (3) 高専祭15

7. 資格試験の受験指導16

- (1) 各種資格試験受験のススメ16
- (2) TOEIC（TOEIC Bridge）受験のススメ16

8. 終業式前後の業務16

- (1) 終業式前の指導16
- (2) 始業式の連絡16
- (3) 教室の清掃と私物の処理16
- (4) 進級が危ぶまれる学生への対応16
- (5) 原級留置が決定した学生への対応17
- (6) 文集の作成（任意）17

9. 学年係の役割17

(資料7-1-①-9)

平成17年度後期オフィスアワー一覧表

学科	氏名	月	火	水	木	金	場所	備考
一般科目	小助川 元太		15:45~17:15				管理棟3F教員室	
	新美 哲彦		15:45~17:15				普通科棟3F教員室	
	岩根 三邦	15:45~17:15					普通科棟3F教員室	
	宇根 俊範					15:45~17:15	管理棟3F教員室	
	岡中 正三		16:00~17:00		16:00~17:00		普通科棟3F教員室	
	左古 悦雄		15:45~17:15				管理棟2F教員室	会議等で不在の場合はなし。
	赤池 祐次	15:50~16:35				15:50~16:35	管理棟2F教員室	会議等のときは実施しない
	黒川 康宏					15:45~17:15	管理棟3F教員室	
	笠松 義隆				15:00~17:00		普通科棟2F教員室	
	小山 通榮		15:45~17:15				普通科棟1F教員室	不在の場合第2普通科棟1F化学実験室
	谷岡 憲三	15:30~17:00					第1体育館教員室	
	佐賀野 健				15:45~16:45		第1体育館教員室	会議・出張の際は設置しない。
	川尻 武信		16:00~17:00			16:00~17:00	管理棟2F教員室	
	江口 誠	16:00~17:00			16:00~17:00		専攻科棟4F教員室	
中山 文		16:00~17:00			16:00~17:00	管理棟3F教員室		
高島 裕臣	16:00~17:00			16:00~17:00		専攻科棟4F教員室	会議などがあるときは設置できない	
周藤 剛士	16:00~17:00					管理棟3F教員室		
機械工学科	遊野 宏正		16:00~17:00	16:00~17:00		16:00~17:00	機械工学科棟2F教員室	曜日を指定しているが、いつでも可
	京免 進	15:45~17:15					機械工学科棟2F教員室	
	八木 良尚			15:00~17:00			専攻科棟3F教員室	会議の時は設置しない
	河野 正来	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟2F教員室	
	森 貞雄			15:00~			環境都市工学科棟3F教員室	
	吉村 敏彦	15:45~17:00	15:45~17:00		15:45~17:00		機械工学科棟2階教員室	会議や出張時は設置しない
	野原 稔	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟3F教員室	
	河口 勇治	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟2F教員室	
	深澤 謙次	15:45~17:15					第2普通教室棟3F教員室	その他在室時は可(ただし会議のときは設置しない)
	岩本 英久			15:00~17:00		15:50~17:00	機械工学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	中迫 正一	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟3F教員室 研究室	会議・出張の時は設置しない
	野村 高広	16:00~17:00			16:00~17:00		専攻科棟3F教員室	在室時は、いつでも。
	山田 祐士							
	上寺 哲也				16:00~17:15	16:00~17:15	環境都市工学科棟3F教員室	来客等以外は在室時はいつでも可
電気情報工学科	野村 利英				16:00~17:00	16:00~17:00	電気情報工学科棟2F教員室	空いているときはいつでも
	植田 義文	16:45~17:15		16:00~17:00	16:45~17:15		電気情報工学科棟2F教員室	会議等は除く;時間指定外の在室時は可
	黒木 太司	16:00~17:00			16:00~17:00	16:00~17:00	電気通信実験室	時間外でも在室時は対応可能
	野村 博昭	16:00~17:00	16:00~17:00			16:00~17:00	電気情報工学科棟2F教員室	時間外でも在室時は対応可能
	田中 誠	15:50~17:00				15:50~17:00	電気情報工学科棟1F教員室	
	山崎 勉	16:00~17:00	16:00~17:00				電気情報工学科棟2F教員室	
	藤井 敏則	16:00~17:00				16:00~17:00	電気情報工学科棟2F教員室	
	横瀬 義雄	16:00~17:00			16:00~17:00		電気情報工学科棟2F教員室	
	横沼 実雄				16:00~17:15	16:00~17:15	電気情報工学科棟2F教員室	会議等の場合は除く。在室時 可
	板東 能生	16:00~17:15			16:00~17:15	16:00~17:15	電気情報工学科棟3F教員室/ 電子物件実験室	
	井上 浩孝			15:00~17:00		15:45~17:00	電気情報工学科棟2F教員室	水曜日が会議の時は設置しない
	三島 智和		16:00~17:00			15:00~16:00	電気情報工学科棟3F教員室	
	竹村 和夫	16:00~17:00				16:00~17:00	環境都市工学科棟2F教員室	
	小堀 慈久							
環境都市工学科	中野 修治							
	森脇 武夫				15:50~17:15		環境都市工学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	橋本 堅一	16:00~17:00			16:00~17:00		環境都市工学科棟4F教員室	在室時はいつでも可
	市坪 誠	16:00~17:00	16:00~17:00				環境都市工学科棟4F教員室	在室時はいつでも可
	山口 隆司	12:25~12:55	12:25~12:55	12:25~12:55			環境都市工学科棟2F教員室	その他適時
	重松 尚久	15:45~17:00				15:45~17:00	環境都市工学科棟4F教員室	
	黒川 岳司			14:50~15:50		15:50~17:00	環境都市工学科棟4F教員室	在室時はいつでも可
	山岡 俊一	15:45~17:00				15:45~17:00	専攻科棟4F教員室	会議や出張等の場合は事前に兼替日を掲示する
	堀口 至	16:00~17:00				16:00~17:00	環境都市工学科棟3F教員室	会議、出張などの場合は変更する
	藤井 健		16:00~17:15		16:00~17:15	16:00~17:15	建築学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
建築学科	福原 安洋	16:00~18:00					建築学科棟2F教員室	
	正野崎 昭二		16:00~17:15				建築学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	篠部 裕				15:45~17:15		建築学科棟2F教員室	
	門前 勝明	16:00~17:00			16:00~17:00		建築学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	岡本 二郎	16:00~17:00	16:00~17:00				建築学科棟2F教員室	
	間瀬 実郎	16:00~18:00	17:00~18:00		17:00~18:00		建築学科棟2階教員室	但し会議がある場合は不可
	石井 仁	15:45~17:15		15:00~17:15			建築学科棟3F教員室	水曜日が教員会の時は設置しない
	松野 一成				15:45~17:15		建築学科棟2階教員室	在室時はいつでも可
仁保 裕	16:15~17:15				16:15~17:15	建築学科棟2F教員室		

(出典 学生課)

(資料 7-1-①-10)

平成16年度 オフィスアワーの集計結果について

下表は提出された昨年度のオフィスアワー実績表のデータを学科別に集計した表である。各学科共、約 2/3 の教員が実績表の記入を行っており、全体で 44 名の教員からデータの提出があった（昨年度校長を除いた教員数 66 名）。以下に、気がついた点についてまとめる。

- (1) 「時間」の記入について
記入の仕方が人によって異なる。
(例) 16:00, 1, 45 分, 14:50-15:00
- (2) 内容について
学生の学習に関するものに限定している教員とすべてについて記入している教員がある。

表 1: 学科別集計表

一般科目				機械工学科				電気情報工学科			
No.	記入数			No.	記入数			No.	記入数		
	前期	後期	計		前期	後期	計		前期	後期	計
1	0	28	28	1	20	7	27	1	117	17	134
2	0	2	2	2	24	8	32	2	4	4	8
3	8	8	16	3	22	19	41	3	12	5	17
4	22	20	42	6	59	9	68	4	9	17	26
5	14	6	20	7	19	22	41	5	5	5	10
6	0	13	13	8	12	10	22	6	13	8	21
7	0	14	14	9	16	9	25	7	45	26	71
8	17	12	29	10	8	0	8	8	2	2	4
9	8	11	19	11	0	4	4	計	207	84	291
10	0	11	11	計	180	88	268				
11	7	11	18								
12	16	0	16								
計	92	136	228								

環境都市工学科				建築学科			
No.	記入数			No.	記入数		
	前期	後期	計		前期	後期	計
1	12	12	24	1	20	8	28
2	26	15	41	2	13	6	19
3	0	8	8	3	21	12	33
4	49	14	63	4	16	8	24
計	87	49	136	5	0	14	14
				6	8	0	8
				7	6	5	11
				8	18	17	35
				9	49	22	71
				計	151	92	243

単位は時間

(資料7-1-①-11)

授業チェックシート (歴史・歴史特講)

学年 クラス 氏名

点検期日 年 月 日

- ・今回の授業は何パーセント理解できましたか? パーセント
- ・今回の授業内容のキーワードは何だと思いますか (複数回答可)
- ・授業に関する質問および要望事項

(出典 一般科目)

(資料7-1-①-12)

環境都市工学科
Department of Civil and Environmental Engineering
Last Update: 2004/9/27

スタッフ

専任スタッフ

職名	氏名	E-mail, Phone	専門分野	担当科目	備考
教授 (工学博士)	竹村 和夫	takemura@kure-nct.ac.jp 0823-73-8482	コンクリート工学	コンクリート構造Ⅰ・Ⅱ, 構造力学Ⅰ, 設計製図, 工業英語, 建設材料論	専攻科長
教授 (博士(工学))	小堀 勉久	kobori@kure-nct.ac.jp 0823-73-8476	地盤工学	土質力学Ⅰ, 港湾工学, 都市計画, 建設計画, 応用地質学, 防災工学, 設計製図, 環境地盤力学	情報処理センター長 C5担任
教授 (博士(工学))	中野 修治	nakano@kure-nct.ac.jp 0823-73-8477	構造工学	構造力学Ⅰ・Ⅱ, 情報処理Ⅱ, 環境情報処理, 応用解析法	環境都市工学科主任
教授 (工学博士)	森脇 武夫	moriwaki@kure-nct.ac.jp 0823-73-8478	地盤工学	土質力学Ⅰ・Ⅱ, 道路工学, 情報処理Ⅰ, 測量, 創造演習, 工業英語, 設計製図, 応用建設施工	C4担任
教授 (博士(工学))	橋本 堅一	hasimoto@kure-nct.ac.jp 0823-73-8479	構造工学	構工学Ⅰ・Ⅱ, 情報処理Ⅰ, 数値解析, 測量, 設計製図, 建設弾塑性力学	
助教授 (博士(工学))	市坪 誠	ichitubo@kure-nct.ac.jp 0823-73-8486	景観工学	建設材料, 測量, 景観工学, 環境工学, 空間デザイン論	
講師 (博士(工学))	黒川 岳司	kurokawa@kure-nct.ac.jp 0823-73-8481	環境水理学	水理学Ⅰ・Ⅱ, 河川工学, 水資源工学, 応用水理学	事務主事補
助手 (博士(工学))	山岡 俊一	yamagaki@kure-nct.ac.jp 0823-73-8955	都市計画学	交通計画, 都市計画, 設計製図, 実験実習, 創造演習, 卒業研究	情報処理センター長補
助手 (博士(工学))	堀口 至	horiguchi@kure-nct.ac.jp 0823-73-8483	コンクリート工学	構造力学Ⅰ, 設計製図, 実験実習, 創造演習, 卒業研究	
技官	加藤 省二	kato@kure-nct.ac.jp 0823-73-8484		実験実習	
技官	深田 朋洋	fukada@kure-nct.ac.jp 0823-73-8484		実験実習	

出典 呉高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程及び専攻科ともに学習を進める上での定期的なガイダンスが実施され、クラス担任制、オフィスアワー、学習チェックシート等により学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

学生の自主的学習に供される施設としては図書館、情報処理センターがある。

学生が自主的に使用できるパソコンは情報処理センターに48台、電気情報工学科 情報処理演習室50台、図書館に5台。その他、学生寮内にも、学生寮ロビー5台、女子寮多目的室2台、男子2寮多目的室5台、男子4寮自習室4台が設置されてある。上記のパソコンの使用時間は概ね授業終了後20時（学生寮は23時）まで開放しており利用状況は資料のとおりである。（資料7-1-②-1）。

図書館には平成17年度現在、蔵書約70,000冊、新聞、雑誌、AV、インターネットが利用できるパソコンを備えた情報検索コーナーあり。学生の利用に際しては入学時に利用案内として「図書館のしおり」が配布されている（資料7-1-②-2）。学生の利用時間は午前9時～午後8時（平日）、午前10時～午後3時半（土曜日）であるが、定期試験の約1週間前からは平日のみ午後9時まで延長開館している。利用状況は資料のとおりである（資料7-1-②-3）。

厚生施設、コミュニケーションスペースとしては、集会室、談話室、合宿研修所などがあり、他にも売店、学生食堂、飲料等の自動販売機コーナー3箇所がある。また、各棟には談話室が整備され、授業の合間、昼休憩時、放課後に利用されている。課外教育の共同施設として合宿研修所等があり、教員の指導の下、クラブの夏季・春季合宿に利用されている（資料7-1-②-4）。その他、教育環境の整備状況は資料のとおりである。

(資料7-1-②-1)

情報処理センター利用細則

(趣旨)

第1条 この規則は呉工業高等専門学校情報処理センター規則の第8条の規定に基づき、呉工業高等専門学校情報処理センター及びマイコンセンター（以下「センター」という。）の利用に関して必要な事項を定めるものとする。

(利用の範囲)

第2条 センターは教育及び研究その他の必要と認められる業務に限り利用することができる。

(利用者の資格)

第3条 センターを利用できるものは、次の通りである。

- 一 本校教職員
- 二 本校の学生（本科生、専攻科生、留学生、研究生、聴講生、科目等履修生）
- 三 非常勤講師（本校学生の教育のためにセンターを利用するものに限る）
- 四 外国人研究者及び外国人受託研修員（呉工業高等専門学校外国人研究者受入規則及び呉工業高等専門学校外国人受託研修員規則に定められたものに限る）
- 五 本校主催の行事の参加者（学校見学会、公開講座など）
- 六 その他情報処理センター長（以下「センター長」という。）が適当と認めるもの

(利用手続き)

第4条 センターを利用するときは、センターに備え付けの利用記録簿に必要事項を記入する。

- 一 利用者は「センター利用心得」を遵守しなければならない。
- 二 前条第6号のものがセンターを利用するためには、利用申請書をセンター長に提出して利用許可を得なければならない。

(利用の制限)

第5条 センター長は、次の各号に該当するときは、センターの利用を認めないことがある。

- 一 利用内容がセンターの設置目的に違反するとき
- 二 利用者がこの細則に違反したとき
- 三 センターの管理運営に支障を生じさせるとき、または生じさせるおそれがあるとき
- 四 その他センター長が、利用不相当と認めるとき

(利用時間)

第6条 センターの利用時間は、次の通りである。

- 一 平日8時30分から17時まで（一般利用時間帯）
- 二 平日17時から20時まで（学習利用時間帯）
- 三 1日の授業をすべてカットする学校行事がある日は閉館とする
- 四 試験期間中はセンター演習室を開放しない
- 五 センター長が開館を認めないときは閉館することもある

(利用者の協力)

第7条 センター長はセンターの運営管理に関して、利用者の協力を求めることができる。

(経費の負担)

第8条 センターの利用にかかる経費は別に定める。

(細則の改廃)

第9条 この細則の改廃は、情報処理委員会の議を経て、センター長が行う。

この心得に反した場合、その学生による一般利用時間帯（昼休みや放課後17時まで）や学習時間帯（17時～20時）の利用を一定期間禁止することがある。また、センターの運営に著しい障害を生じさせた学生には厚生補導的処分を行うことがある。

センター利用心得

1. 情報処理センター長の許可なくコンピュータの設定および書き替えはしないこと
2. 授業中は授業以外の学生は入室しないこと
3. 教育目的以外のソフトは利用しないこと
4. ゲームは一切禁止とする（OS附属のゲームも禁止）
5. 混んでいるときは勉強利用の方を優先すること
6. 情報処理センター内へ飲食物の持ち込みおよび飲食はしないこと
7. 使用済みの紙は各自もって帰ること
8. 一人で複数のコンピュータを使用しないこと
9. 使用したコンピュータの電源は各自で切って帰ること
10. 椅子などはもとの位置にかえすこと
11. 操作ミスによるシステム破壊などは速やかにセンター長（補）、センター技術職員、教務係のいずれかに報告すること。報告がない場合は、故意に行ったものと判断する。
12. すでに壊れている場合は必ず報告すること。
13. 非常識な行為はしないこと

「学習時間帯」では上記利用心得のほか以下に以下の件も遵守すること。条件に反した使い方をしている学生は係の学生や教員により退室させられる。

1. 一人1台のパソコンで、課題、自習などの勉強に限る

「学習時間帯」利用手続：

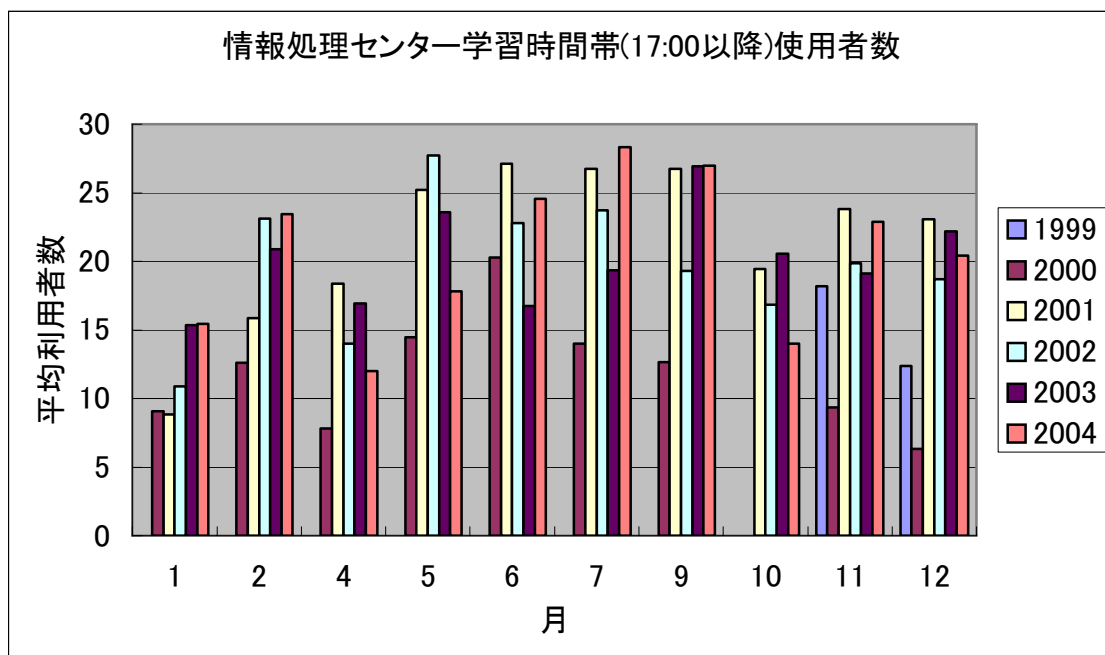
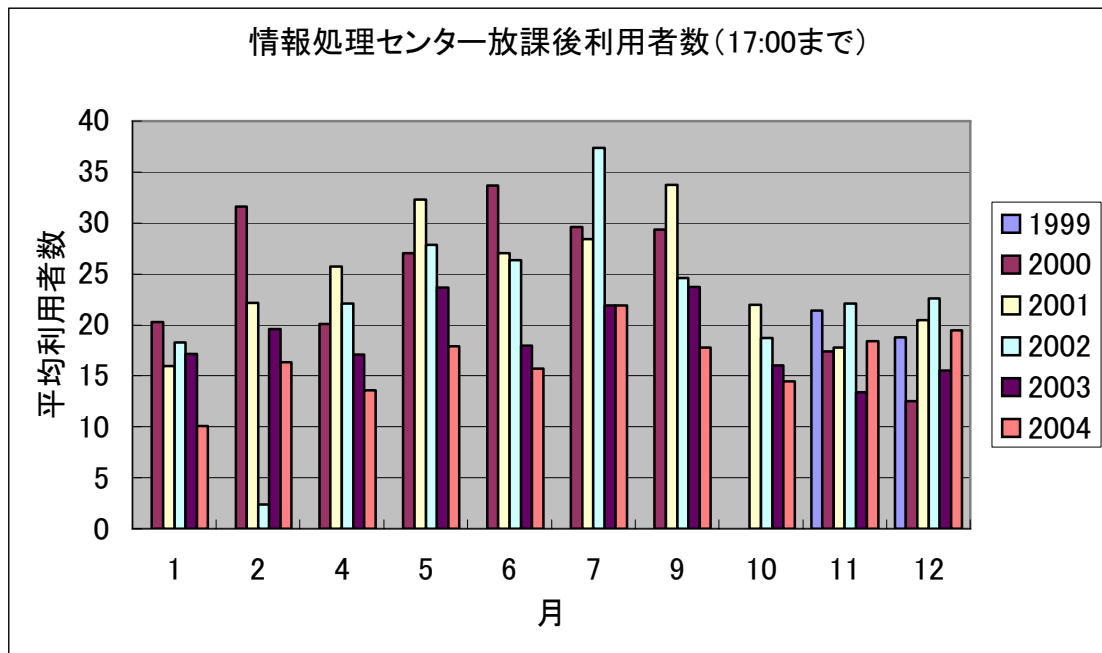
1. 情報処理センター演習室の入り口で、係りの学生（専攻科生）に学生証を提示し、利用簿に記入し、利用カードを受け取る。
2. 利用カードに対応した番号のパソコンに利用カードを添付すればそのパソコンが利用可能となる。

【注意】

午後5：00になった時点で、「学習時間帯」の利用に変わる。したがって、午後5：00以降利用を続けたい学生は、利用手続きをとらなければ利用できない。利用手続きをとらずに、パソコンを使っている学生は、係りの学生に利用手続きをとるよう注意をされたり、退室を勧告される。

(出典 情報処理センター利用の手引き)

(資料7-1-②-1)



(出典 情報処理センター)

(資料7-1-②-2)

「図書館利用の手引き2006」内容の一部

【開館時間】

	平日	土曜日
授業期	9:00~20:00	10:00~15:30
休業期	9:00~17:00	閉館

終日授業が行われない日は、休業期と同じ扱いです。
 なお、試験時間割発表日から試験最終日前日まで
 は、平日は9:00~21:00まで、土曜日・日曜日は
 10:00~17:30まで開館しています。

【閉館日】

◎ 日曜日、国民の祝日
◎ 年末年始（12月29日～1月4日）
◎ 臨時閉館（その都度掲示します。）

【館外貸出】

◆館外貸出の冊数と期間

	授 業 期	休 業 期
一般学生	3冊以内	5冊以内 休業期間中
卒研学生	5冊以内 14日以内	
専攻科生		14日以内
教職員	3冊以内	
一般公開利用者(学外者)		14日以内

- *1 雑誌の貸出冊数・期間は上記にかかわらず、3冊、7日以内です。
- *2 一般公開利用者の方々へは雑誌の貸出をしていません。
- *3 最新号の雑誌貸出は一夜貸出手続きをしてください。

◆貸出期限の更新（延長手続き）

引き続き利用を希望する場合は、“本”を持参して
 手続きをしてください。1回延長できます。

◆一夜貸出

雑誌の最新号は一晚借り出せます。「一夜貸出図書請求票」に必要事項を記入し、係員へ提出してください。

3冊以内	閉館1時間前から翌日開館1時間以内まで
------	---------------------

【情報検索】

パソコンで学内の図書・雑誌の所蔵検索や、インターネットから学術情報の検索が行えます。

【文献複写サービス】

学習・研究のために、図書館の所蔵する資料を複写することができます。(著作権法に基づいて)

	学内者	学外者
複写料金（1枚）	20円	35円

【視聴覚資料】

図書館内で、DVD、LD、CDの視聴ができます。
 なお、所蔵リストはカウンターと呉高専図書館ホームページに準備しています。

【レファレンス・サービス】

「こんな本を読みたいが、見つからない」、「調べたいことがあるが、どの資料を見たらよいか分からない」ときには、係員にお尋ねください。

☆図書館への要望☆

◆購入希望図書の申込み

図書館へ備付けを希望する図書がありましたら、カウンターの「購入希望図書申込書」に必要事項を記入し、提出してください。

☆図書館からのお願い☆

- ◆返却期限は守ってください。返却が遅れると次の貸出が制限されるので注意してください。
- ◆図書館は、市民の方々にも利用してもらっています。一人一人が気持ちよく利用できるように、マナーを守りましょう。
- ◆図書館を利用するうえで、不明な点がありましたら遠慮なく、カウンターでお尋ねください。

☆☆皆さんの利用をお待ちしています。☆☆

(出典 図書館利用の手引き)

(資料7-1-②-3)

平成16年度図書統計

1 利用(開館日数 257日)

貸出冊数・人員

上段:冊数
下段:人員

区分 学年	機 械 工学科	電気情報 工学科	電 気 工学科	環境都市 工学科	建 築 学 科	機械電気 工学専攻	建設工学 専 攻	合 計
1 年	378 165	292 112	/	139 75	129 58	/	/	938 410
2 年	170 77	263 78	/	101 31	191 67	/	/	725 253
3 年	193 77	182 64	/	101 41	182 71	/	/	658 253
4 年	248 97	/	665 202	373 109	923 228	/	/	2,209 636
5 年	335 105	/	703 207	318 105	525 165	/	/	1,881 582
専攻1年	/	/	/	/	/	47 20	72 23	119 43
専攻2年	/	/	/	/	/	230 70	154 41	384 111
学生計	1,324 521	737 254	1,368 409	1,032 361	1,950 589	277 90	226 64	6,914 2,288
教 員	/	/	/	/	/	/	/	182 60
職 員	/	/	/	/	/	/	/	246 70
学外者	/	/	/	/	/	/	/	59 24
合 計	/	/	/	/	/	/	/	7,401 2,442

*教員分は非常勤講師も含む。

入館者数

学生	教員	職員	学外者	合計
26,973	315	66	192	27,546

*教員分は非常勤講師も含む.学生は聴講生も含む

「なお、実験・実習用アンケートは、質問6を回答する必要はありません。」
 「また、複数の教員で担当している科目では、それぞれ該当の先生のところに記入してください。」

4. 提出期限・場所

8月8日（月）までに、「座学用アンケート」と「実験・実習用アンケート」に分け、提出用封筒に入れて、教務係に提出してください。

（出典 教務委員会）

（資料7-1-③-2）

学生アンケートの有望事項に対する教務委員会関係事項の回答

平成17年2月
 教務委員会

多くの種類の意見があったが、複数以上の学生から要望のあった項目について回答した。

(1) カリキュラムや教育指導に関する要望

「授業内容を詳しく、わかりやすくしてほしい」、「補習授業をして欲しい」、「質問に快く答えて欲しい」

多くの授業では、授業内容に関して、学習項目を以前より多少減らして、レベル的には、クラス中程度に合わせている場合が多いと思う。ただし中学時代に比べて数学などでは、十分納得できないうちに進むと思うかもしれないが、高専や大学では自宅学習によって復習してこれを補うことが学習の考え方が中学時代と同じではついてこれられなくなるのは当然である。また復習しても理解できない場合は個人的に教員に質問をすることも不可欠である。1学年のとき勉強方法について教員からこのようなことを言われても身につけていない学生が多いように思われるのは残念である。

また補習授業を期待している人もいるが、本当に受けてほしい人が受けない場合や個人的に対応しにくい場合がある。そのためにオフィスアワーを設定しているので利用してほしい。放課後の課外活動も大切であるが授業の理解を第一に考えた学生生活であることが大切である。

教員の方も学生が気軽に質問できるよう心がけるが、学生の進んで質問するという積極性にも期待する。また質問に対して敢えて突き放すような言い方をする教員もいるが、口とは異なり教員の本意ではない。しかし教員側も誤解されないよう心がけることにする。

(2) 進級及び試験に関する事項

「不合格点の見直し」、「留年制度の見直し・廃止」、「追試をその学年ですて欲しい」

不合格点を下げても、先生の学生に望む学力レベルは変わらないと思うし、実際に現在でも低学年の場合、テストの素点はかなり低くても最終的に合格点になっている場合が多いと思う。したがって不合格点を下げることによって先生の方の下駄を考えたりする罪悪感も減り気は楽になるが留年が減るとは考えられない。

本来高校以上では、学校設置基準に取得すべき単位が決められており、学力によって留年制度がある。本校でも一定の学力を保証する必要がある、安易に単位認定ができないので留年制度は廃止できない。

本校では、英語資格などによる付加単位を増やし、取得単位数を基準に進級させる（現在は未修得単位によっている）ことも検討する必要がある。

「評価はもっと厳しくすべきだ」という意見もあったように、呉高専から一歩外に出たときのことを考えると安易にレベルを下げることは避けたい。

「追試をその学年ですて欲しい」ということに対しては、前期科目の場合は、夏季休暇中に学習して、10月あたりに実施するよう規定を改めることは検討したい。後期科目に対しては、3月中に実施することになるが、進級判定会議までには、時間がないため難しいであろう。

(3) 授業に関する事項

「レポート提出物が多い、時期が重複する」、「英語のレベル向上を」、「必要なさそうな授業の検討」、「選択科目を増札充実」、「資格習得にもう少し力を入れてほしい」、「数学や物理など専門教科の前に学習できるように順番を考えて欲しい」

レポート、提出物が多いという意見があったが、これも試験のみで学力をみることはできないのでやむをえない。工学系の大学は、実験も多くレポートが多いのが普通で、クラブと両立に悩んだりアルバイトをするゆとりが無かったりということは一般的である。提出時期が重複するという意見は、提出締め切りが定期試験近くに設定されることが多いためであろう。先生の方は、試験前の締め切りを避けるように心がける必要がある。また学生の力も締め切りぎりぎり

りまで貯めないで計画的にレポート作成をする習慣が必要である。

「英語のレベル向上を」という意見が、3学年以上に出ている。これも英語の重要性が話題になっていることやTOEICテストで現状を認識できた結果であろう。本校でも英語力の増強は、重要事項と考えている。英語の資格やTOEICテストの得点向上についても勉強方法についてももっと指導する。

英語の授業時間を増やす必要もある。そのためには他の授業科目の振り替えることになりすぐには難しい。

本校ではH17より自習できるシステムとして、4, 5学年ではALC社のe-learningの利用を考えている。また学習コンテンツも2つに増やしたので利用してほしい。各自が英語学習は時間をかけて、単語や文法を習得するしか道が無いことを肝に銘じて努力してほしい。高校生の場合も個々の実力は自宅学習時間に比例して決まっていると思う。本校には大学編入希望者の他は受験という目標が無いが、代わりに各自で趣味に関する本を英語で読むとか、外国旅行を目指すとか動機付けをしてほしい。

「必要なさそうな授業がある」という指摘があるが、高専は、専門科目の授業時間数が多いため、教養など幅広く授業ができないというのが現実である。目先のことを考えず幅広い知識を学ぶ姿勢も大切と思う。

選択科目について、まず第二外国語では、社会のニーズを考えて、H18の4学年から希望者数に応じて中国語と韓国語を加えて選択できるように検討している。またH17より、E, C, A科での4, 5学年では、選択科目を増やすことにしている。

資格習得については、高専の学生にとって必要な資格は何か、またその対処法について学科ごとに指導に力を入れたいと思う。

「数学や物理など専門教科の前に学習できるように順番を考えて欲しい」という意見はもっともである。しかし低学年の専門科目の代わりに数学、物理を集中すると、高専に入っても専門の内容に触れることができず学習の動機付けが薄くなるという不満が出る。また現在の低学年での専門科目を高学年に移すと高学年の時間数が多くなりクラブなどできなくなるという矛盾がある。そこで現在授業がよりスムーズに行くように教育改善委員会において「科目間ネットワークWG」を設けて調整検討をしている。

(4) 休憩時間について

今年度は途中で休憩時間を修正したこともあり、関心が深いと思う。休憩時間は学生を中心に決めてある。長い方がゆっくりできるし体育の着替えなどにも都合がよい。しかし一方で放課後の時間が少なくなりクラブ活動が十分できないという意見が出る。中学校でもすべて5分間の学校もあったと思う。大学では、100分授業を基本にして、休憩時間を10～20分としている。これらを参考にして学生にとって都合のよい休憩時間にしたいと思っている。

(出典 教務委員会)

(分析結果とその根拠理由)

各種アンケートを実施・集計することで、学生のニーズが的確に把握されている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

資格試験支援としては、各学科で推奨する資格試験をさだめ、シラバス(前掲P268～P272)を通じて学生に奨励している(資料7-1-④-1)。英語検定試験(実用英語検定と工業英語検定)については英語科教員の主導による受験体制が整備されている(資料7-1-④-2)。またTOEICに対しては、準学士課程1・2・5年生の希望者、3・4年生と専攻科生の全員が校内で受験する環境が整備されている

(資料7-1-④-3)。さらにTOEIC対応のe-learningシステムを構築し、学内のどのパソコンからもアクセスできる体制が整備されている(資料7-1-④-4)。図書館には資格取得とTOEIC関連の書籍が整備されている。

外国留学のための支援体制としては、「呉高専学生留学要項」及び「留学事項の実施に係る申し合

わせ事項」があり、ホームページで公開している（資料7-1-④-5）。毎年10月に協定校であるハワイ大学のマウイコミュニティカレッジとの交流研修を整備している（資料7-1-④-6）。

(資料7-1-④-1)

■ 資格，検定

本校在学中又は卒業後一定期間の実務経験を積むことにより，各種国家試験等の受験資格が得られます。学科別の主に取得可能な公認資格は，次のとおりです。

機 械 工 学 科：工業英語検定試験，基本情報技術者試験，機械設計技術者試験，乙種危険物取扱者試験，ボイラー技士（二級）試験

電 気 情 報 工 学 科：電気主任技術者（一種，二種，三種），ソフトウェア開発技術者試験，基本情報技術者試験，無線従事者，デジタル技術検定（1級から4級），電気工事士（第二種）

環 境 都 市 工 学 科：測量士，測量士補，土木施工技術者，土木施工管理技士，火薬類取扱保安責任者試験，技術士，技術士補

建 築 学 科：建築士（1級，2級），木造建築士，インテリアプランナー，一級建築施工管理技師，建築設備士，技術士（建設部門），技術士補，インテリアコーディネータ，宅地建物取引主任者，土地家屋調査士，マンション管理士，建築積算資格者

(出典：平成17年度要覧)

(資料7-1-④-2)

★英語資格試験団体受験案内★

实用英検

- 試験日■ 1次試験 平成18年1月29日(日)
2次試験 平成18年2月26日(日) ※学年末試験終了後です。
- 会場■ 呉工業高等専門学校 (※受験生が10名以上の場合に実施可能)
- 受験級(受験料)■ ! 団体受験だとお得です!
2級 (4,100円 → 3,900円)
準2級 (3,600円 → 3,400円)
- 申込〆切■ 平成17年12月19日(月) 午後5:15
- 受験料支払〆切■ 平成17年12月21日(水) 午後5:15

工業英検

- 試験日■ 平成18年1月28日(土) 通常の回と異なり、試験は午後です。
- 会場■ 呉工業高等専門学校 (※受験生が10名以上の場合に実施可能)
- 受験級(受験料)■
3級 (4,600円)
4級 (2,000円)
- 申込〆切■ 平成18年1月12日(木) 午後5:15
- 受験料支払〆切■ 平成18年1月13日(金) 午後5:15

■申込方法■

★手順はどちらの試験も同様です★

- > 申し込み締切までに高島教員室(専攻科棟4F)に申込みに来て下さい。
- > 申し込み締切時間以降に、志願者が10名以上かどうか確認してください。
高島教員室前にて掲示物で発表します。受験料を持って来るとよいです。
- > なお、試験実施可否決定後は申し込みキャンセルは受け付けられません。
- > 受験料は手続き上の誤りを防ぐためおつりのないよう^に持ってくること!
おつり用の両替金はありません。支払い締切を守ってください。
- > 实用英検では、一次試験免除の人が申し込んだ場合も一次試験に出席して下さい。試験当日、志願票を記入する必要があります。

(資料7-1-④-3)

TOEIC Bridge IPテスト受験案内

平成17年7月12日
教務主事 福原 安洋

1・2年生のみなさんへ

今年もTOEIC Bridgeの団体特別受験制度(IP:Institutional Program)によるテストを本校で実施することになりました。定期テストなどとは異なり、自分の総合的な英語力(英語によるコミュニケーション能力)を知る絶好の機会です。TOEIC Bridge公開テストと比較すると、TOEIC Bridge IPテストは、

- 本校で受験できる
- 受験料が公開テスト(¥4,200)の半額

という大きなメリットがあり、成績優秀者には表彰制度もありますので、是非受験して下さい。

受験を希望する学生は、申し込み用紙に必要事項を記入し、受験料を添えて8月5日(金)までに教務係に提出して下さい。詳細は以下の通りです。

実施日: 10月3日(月)午後(13:00開始予定)
受験料: ¥2,100(消費税込み)
締め切り: 8月5日(金) 午後5時
提出先: 教務係

きりとり

TOEIC Bridge IPテスト 申し込み用紙

平成17年 月 日

(1・2)年 クラス(M E C A) ()番

名前()

TOEIC IPテスト受験案内

平成17年7月12日
教務主事 福原 安洋

5年生のみなさんへ

今年もTOEICの団体特別受験制度(IP:Institutional Program)によるテストを本校で実施することになりました。定期テスト等とは異なり、自分の総合的な英語力(英語によるコミュニケーション能力)を知る絶好の機会です。TOEIC公開テストと比較すると、TOEIC IPテストは、

- 本校で受験できる
- 受験料が公開テスト(¥6,615)の半額以下

という大きなメリットがあり、成績優秀者には表彰制度もありますので、是非受験して下さい。

受験を希望する学生は、申し込み用紙に必要事項を記入し、受験料を添えて8月5日(金)までに教務係に提出して下さい。詳細は以下の通りです。

実施日: 10月3日(月)午後(13:00開始予定)
受験料: ¥3,000(消費税込み)
締め切り: 8月5日(金) 午後5時
提出先: 教務係

きりとり

TOEIC IPテスト 申し込み用紙

平成17年 月 日

5年 クラス(M E C A) ()番

名前()

(資料7-1-④-3)

平成17年6月

平成17年度英語統一試験の実施について

保護者の皆様へ

教務主事 (副校長) 福原 安洋

1. 英語統一試験実施の意義

本校の教育には、平素からご理解・ご協力を頂きありがとうございます。

さて、ご承知のように、我が国の産業も急速に国際化しており、これを担う高専及び大学卒業生には高い英語力が要求されているのが現状です。しかしながら、産業界または進学する大学からは、高専卒業生の英語力の低さを指摘されております。英語力の向上には、学生個々の普段からの努力が不可欠であることは言うまでもありませんが、同時にその実力を客観的に確認することも必要です。

そこで本校では、平成15年度から学生の英語力アップのために英語統一試験を実施しており、本年度は10月3日(月)の午後(午前中は始業式・授業)を予定しております。本校で実施するテストは、世界約60ヶ国で実施され、大学の卒業・大学院進学要件や企業の昇進条件等に最も多く採用されている「TOEIC(トイーック)」です。

2. 本校でのTOEIC受験について

一昨年度は全学年がTOEIC(1~3学年は「TOEIC Bride(トイーック・ブリッジ)」)を受験し、今年度は、昨年度と同様、3学年・4学年・専攻科生が受験することになっております。他の学年に関しては希望者のみではありますが、英語力を定期的に確認するという意味でも、毎年の受験を強くお勧めします。

尚、本校の学生は団体特別受験制度(Institutional Program, 略称IP)によってTOEIC(またはTOEIC Bridge)を受験してもらっています。そのため、試験は本校で実施し、受験料も低く設定されております。

3. TOEICに向けて

学生に対しては、本校では試験に向けて以下の学習方法を勧めています。

- 中学の英語，高専の英語教科書を復習する。
- ラジオ・テレビの英会話・英語講座等を継続的に利用する。
- 図書館の「TOEIC参考書コーナー」を利用する。または，同種のを書店で購入する。
- 昨年度から本校に導入された，マルチメディア型英語学習システム「ALC Net Academy（アルクーネットアカデミー）」を利用する。

4. 表彰・報奨制度

3学年，4学年それぞれの成績優秀者（上位5名，その他の学年は特に優秀と認められる者）には表彰制度があります。また，これとは別に，3学年の成績優秀者で翌年度のマウイ姉妹校交流研修に参加する学生には，費用を一部負担する制度もあります。

5. 受験料

受験料につきましては，10月下旬頃に保護者の口座から授業料と一緒に引き落としをするよう現在準備を進めておりますが，詳細につきましては後日ご連絡申し上げます。

また，3学年，4学年，専攻科生以外の学生の受験希望につきましては，後日各クラスの担任から照会致します。各学年の個別の受験料につきましては，以下のとおりです。

学年	受験者種別	テスト種別	受験料
1学年	希望者	TOEIC Bridge	2,100円
2学年	希望者	TOEIC Bridge	2,100円
3学年	全員	TOEIC Bridge	2,100円
4学年	全員	TOEIC	3,000円
5学年	希望者	TOEIC	3,000円
専攻科	全員	TOEIC	3,000円

6. トーイック (TOEIC) / トーイック・ブリッジ (TOEIC Bridge) について

■ トーイック / トーイック・ブリッジとは

トーイック (TOEIC) とは Test of English for International Communication (国際コミュニケーションのための英語能力検定テスト) の略で，国際社会における英語コミュニケーション能力を正確に測るために開発された信頼性の高い試験です。トーイックを利用している企業は多く海外出張の人材選抜や人事異動の資料などに使われています。

トーイック・ブリッジはトーイック (TOEIC) の架け橋 (Bridge) として初中級者のために作られたテストです。

■ トーイック / トーイック・ブリッジの内容

両テストともにリスニングとリーディングの2つのセクションで構成されています。トーイックではリスニングの100問を45分，リーディングの100問を75分で解答しなければなりません。トーイック・ブリッジではリスニングの50問を25分，リーディングの50問を35分で解答しなければなりません。1問を解答する時間は極めて短くスピードと瞬時の判断が必要になります。

■ トーイック / トーイック・ブリッジの得点

両テストともに評価は合否でなく得点で表されます。受験者個人に成績証明が渡されると同時に学校全体の平均点などから自分の実力を知ることができます。

トーイックの最高点は990点でトーイック・ブリッジの最高点は180点です。トーイックの得点により評価が5段階のレベルに分けられています。860点以上が最高のレベルで英語で十分なコミュニケーションができると評価されます。一番下のレベルは220点以下でコミュニケーションができるまでに至っていないと評価されます。

ある企業では海外に派遣する人にトーイック720点を要求したり，また，ある企業では課長昇進の条件の中にトーイック600点を入れています。高専生の場合は専攻科を修了するまでに400点以上を取るのが望ましいと言えます。

トーイック・ブリッジの得点にかかわらずトーイックは受験できますが，トーイック・ブリッジで160点に達した場合，トーイックの受験を勧めています。

(資料7-1-④-4)

英語学習促進のためのe-learningシステム（ALC Net Academy）の導入

昨年度末に英語学習のためのe-learningシステムとしてALC教育社の“Net Academy”を導入し、今年度5月18日に専攻科学生、教員を対象とした説明会を行った。その後、専攻科学生による試験利用が始まった。このシステムは、英語学力の底上げによるTOEICでの得点力向上のため、全国150の大学、約30の高専（平成15年度の実績）で利用されている定評ある英語自習システムである。

(1) e-learningシステム利用の目的

専攻科修了時の英語学力目標を、TOEICスコア400（英検準2級取得者の平均TOEICスコア）とし、これを達成できるよう英語学習に励む機会と教材とを提供するものである。E-learningのコンセプトは、「いつでもできる」ということであり、e-learningシステム導入は、学生が授業時間外にも英語に触れるきっかけ作りとなるものと考えられる。

(2) システムの利用方法

現在、利用登録者は、校内LANにアクセスできるパソコンを使えば授業期間、長期休業期間を問わず、いつでも利用できる。システムに接続して学習すると、各学習者の学習履歴や演習得点が記録される仕組みとなっている。

(3) e-learningシステムの試験運用

初年度は、専攻科生と5年生が自習形式で利用することとした。専攻科では授業時間に利用法などについて解説し、英語科目の履修中に達成すべき目標進捗率（30%、など）を掲げ、それを達成するよう促した。

(4) Net Academyの特徴

単なる問題演習ではなく、英文の読解、聴解を繰り返し行い、じっくりと基礎力養成を行うことに重点を置いているのが他の英語e-learning教材と異なる特徴である。TOEIC得点向上だけにとどまらない実力の養成ができるような教材内容となっている。また英単語帳作成機能があるなど、効果的な英語学習法を身につけられるよう工夫されている。

今後は、今年度試験運用を行って見た上での反省を踏まえて、次年度からこのシステムを授業内で利用していけるかどうかなどについて検討する。このシステムの利用を、呉高専生の英語学力向上、ひいてはTOEICスコアの向上につなげたいと考えている。

(資料7-1-④-5)

○呉工業高等専門学校学生留学要項

平成16年4月1日

(趣旨)

第1 この要項は、呉工業高等専門学校学則第28条の規定に基づき呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)の学生の外国の高等学校又は大学(以下「外国学校等」という。)への留学の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(留学の許可)

第2 校長は、次の各号に掲げる要件を満たしている場合において、これを許可することができる。

- (1) 留学しようとする外国学校等が、正規の教育機関であり体系的な教育課程を有していること。
- (2) 前号の外国学校等から、当該学生が在籍することの許可を得ていること。
- (3) 留学の目的及び理由等が当該学生にとって教育上有益であること。

(留学許可手続)

第3 留学を希望する学生は、学級担任及び所属学科の学科主任を経て、原則として留学しようとする日の3月前までに留学願(第1号様式)に、次の各号に掲げる書類を添えて校長に願出しなければならない。

- (1) 留学しようとする外国学校等の沿革、規模、教育方針及び教育課程等が記載されている書類
- (2) 前号に定める外国学校等への入学許可を証明する書類
- (3) その他校長が必要と認める書類

(留学期間等)

第4 当該学生の留学期間は、10月以上1年以内とする。ただし、留学期間中において、やむを得ない事情があると認められるときは、留学期間の短縮又は延長(1年以内に限る。)を許可することがある。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、留学期間変更願(第2号様式)を校長に提出し、その許可を得なければならない。

3 前2項による留学の期間は、本校の修業年限に含めるものとする。

(終了報告及び復帰)

第5 当該学生は、留学期間が終了したときは、速やかに学級担任及び所属学科の学科主任を経て校長に留学終了報告書(第3号様式)、外国学校等の長が発行する単位修得証明書及び成績証明書等を提出しなければならない。

2 復帰の際の学年については、教務委員会の議を経て、校長が決定する。

(単位修得の認定)

第6 留学期間中の単位の認定は、個々の科目については行わず、当該学生が外国学校等において良好に学習をしたと認められる場合には、単位修得証明書及び成績証明書等に基づき30単位を超えない範囲で一括認定することができる。

2 第4第2項の規定に基づき留学期間の短縮を許可された場合において、当該留学期間が第4第1項に定める期間に満たなくなったときは、原則として前項の単位の認定は行わないものとする。

(留学の取消し)

第7 校長は、当該学生が次の各号の一に該当する場合は、当該外国学校等の長と協議の上、留学の許可を取り消すことができる。

- (1) 履修の見込みがないと認められるとき。
- (2) 当該外国学校等の規則等に違反し、留学の取り消しを求められたとき。
- (3) その他留学の目的に著しく反する行為があると認められたとき。

(雑則)

第8 この要項の定めるもののほか、この要項の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料7-1-④-6)

平成17年4月13日

第4学年保護者各位

呉工業高等専門学校
教務主事 福原 安洋

ハワイ大学マウイ校姉妹校交流研修のご案内

謹啓 保護者の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、海外の学生との交流や外国語の研修などは、国際化に対応した行事として、本校でも重要な教育の一環として位置づけているところです。

本校では長年にわたり、国内（東京・大阪など）の研究所や工場を見学する特別見学旅行を第4学年時に実施して参りましたが、平成10年度より従来の特別見学旅行との選択で本校の姉妹校であるハワイ大学マウイ校（Maui Comity College, 以下MCC）への姉妹校交流研修を実施しております。この研修では、MCCでの交流や、現地学生宅へのホームステイを通じて、生きた英語を学びながら、異文化交流を体験することができます。また、オーラルⅢ受講者は、現地学生とのEメールによる交流を続けます。

MCC姉妹校交流研修は、各学科（機械、電気情報、環境都市、建築の第4学年）の希望学生により実施し、教員2名が引率する予定です。

MCC姉妹校交流研修への参加を希望しない場合には、各学科の特別見学旅行に参加することとなります。特別見学旅行は学科単位で実施する予定で、現在、各学科の学級担任を中心として計画が進められているところです。

MCC姉妹校交流研修につきましては今年度も概ね添付資料の内容で実施致します。参加を希望される学生の保護者の方は、別紙同意書を5月16日（月）までに、学生を通じて学生課教務係までご提出下ようお願い致します。

なお、今後の世界情勢の変化により、やむなく中止となる場合も考えられますので、念のため申し添えます。

謹白

(分析結果とその根拠理由)

資格試験について各学科で推奨する試験を定め、TOEIC試験、英語検定試験等に対する支援体制は整備されている。ハワイ大学マウイコミュニティカレッジとの交流研修により外国留学のための支援体制も機能しており、本校は資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能している。

観点7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

留学生に対する学習支援としては各留学生に学生チューターを配置し（資料7-1-⑤-1）、留学生用の特別カリキュラムが編成され（資料7-1-⑤-2）、一部特別科目を各学科で準備し、個人指導を実施している。その単位は第二外国語や哲学などの単位と互換している。さらに日本語・日本事情、一般科目演習を開講し、日本語能力の向上や日本文化に対する理解を深めることができるよう支援している。

留学生の居住空間である1寮・6寮にはパソコンを設置し、編入学生に対しては、編入学ガイダンスを実施している。(資料7-1-⑤-3)

(資料7-1-⑤-1)

平成17年度後期留学生と指導学生(チューター)一覧

留 学 生			指導学生	国籍
学 科	学 年	氏 名	氏 名	
電気工学科	5			ベトナム
環境都市工学科	5			ベトナム
機械工学科	4			マレーシア
電気情報工学科	4			ベトナム
環境都市工学科	4			カンボジア
電気情報工学科	3			ラオス
環境都市工学科	3			ベトナム

平成17年度前期留学生と指導学生(チューター)一覧

留 学 生			指導学生	国籍
学 科	学 年	氏 名	氏 名	
電気工学科	5			ベトナム
環境都市工学科	5			ベトナム
機械工学科	4			マレーシア
電気情報工学科	4			ベトナム
環境都市工学科	4			カンボジア
電気情報工学科	3			ラオス
環境都市工学科	3			ベトナム

(資料7-1-⑤-2)

平成17年度 留学生用授業時間割表(後期)

()は非常勤講師 H17.10.1から実施

	3E		3C		4M		4E		4C		5E		5C		
	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	留学生	一般	
月	1	数A 左吉		応物I		体育 (孫)		信号処 板東		情処I バ		電感 工学		土力 森	
	2	数B (橋本)		野村(高)		応数II 京免		体育 (孫)		中野		黒木		森	
	3	情処III デ		数B 赤池		機工 セミナー		電気 磁気		橋本 小		情工I	環境演習	ドイツ語	
	4	田中		橋力I 竹村・道口		全教員		山崎		橋本 小		横瀬	市坪	周藤	
	5	電気磁		水理I		応数I		実験		ドイツ語		通信		総合英 MM江口	
	6	野村(博)		黒川(房)		深澤		デ		周藤		板東		製図	
	7	電気演習 横瀬	古典 (内田)	自習	古典 新美		総合英 高島		山崎 横瀬 井上三島		実験 黒川(岳) 山崎		物性		森脇
	8												植田		森脇
火	1	オールラ ルMM川尻		数A 左吉		新演II セ		電気回路		施工I		信号 処理		防炎 小	
	2	一般演習 江口	秋経 (重政)	一般演習 江口		山田		黒木		重松		野村(博)		小	
	3	電気数		創造演 習森脇 山崎 道口		流体		ドイツ語		橋力I		エネ発		計測	
	4	山崎				京免		周藤		中野		(久保田)		森脇	
	5	実験 デ		測量		応数II 京免		応数II		総合英 川尻 実験 小池・森脇		電気演習 黒木	一般選択	自習	一般選択
	6	野村(博) 藤井(敏)		森脇		製図 バ		森				黒木	環境演習 市坪	一般選択	
	7	井上 三島		総合英 中山		野村(高) 上寺				交通 計画 小池 山崎		体育 佐賀野		環境衛 山口	
	8														
水	1	数B (橋本)		コンクリ I竹村		情処 バ野原 上寺		電子 回路		応数I		総合英 川尻		森脇 森	
	2	自習	秋経 (重政)	環境演習 山崎				野村(博)		森				卒業 研究	
	3	日本語 (海生)	倫理 (海生)	日本語 (海生)	秋経 (重政)	日本語 (海生)	一般選択	日本語 (海生)	一般選択	日本語 (海生)	一般選択				卒業 研究
	4														
	5	数A 左吉		情処I バ橋本		機械演習 森脇・山崎・上寺		ドイツ語		電子 工学		体育 (渡邊)		全教員	全教員
	6	LHR		LHR		自習		周藤		横瀬		環境衛 山口			
	7									IC設計 デ (山内)					
	8														
木	1	応物		体育 (渡邊)		工学 実験 バ		工学 演習 全教員		数値 解析 七 橋本		卒業 研究	環境演習 市坪	哲学 岩根 体育 佐賀野	
	2	野村(高)										全教員		建設 計画	
	3			総合英 中山		野原 岩本 山田 上寺		総合英 高島 総合英 MM高島		製図		実験		小池	
	4			数A 左吉		計測 吉村		制御 工学		重松 道口		植田 野村(博) 野村(博)		建設 法規 (橋本)	
	5	電気回路		数B 赤池		材力I		山崎		橋本		橋本		実験 中野 道口	
	6	藤井(敏)		実験											
	7	総合英 江口		小池 重松		龍野		アルゴリズム デ 田中 井上		橋本					
	8														
金	1	気子 材料		オールラ ルMM中山		熱工		デジタル 通信		応数II 森脇	工英 竹村 交通 重松	電気演習 野村(博) 横瀬 横瀬	ドイツ語		
	2	植田		数A 左吉		河口		田中					周藤	卒業 研究	
	3	数A 左吉		橋力I		総合英 MM高島	自習	法学 (上原)		総合英 川尻					
	4	総合英 江口		竹村		機械演習 森脇・山崎・上寺		法学 (上原)		野村(博) 小池・山崎					
	5	一般演習 岡中	表現 小池川	一般演習 岡中	倫理 岩根	計測 吉村		深澤	自習	法学 (上原)		システム 工学 (高尾)		全教員	
	6		計測		土力I		応物 森脇 深澤		エネ要		水理I				
	7		板東		小池		野村(高)		野村(博)		黒川(岳)		自習	哲学 岩根	
	8	日本語 (吉本)		日本語 (吉本)		日本語 (吉本)		日本語 (吉本)		日本語 (吉本)		日本語 (吉本)		日本語 (吉本)	

※ セ:情報処理センター バ:パソコン演習室 デ:E科情報処理演習室 MM:マルチメディア教室

(出典 学生課)

(資料7-1-⑤-3)

平成16年度 呉工業高等専門学校編入学生の手引

□ 編入学手続

1 手続期間

3月22日(月)から3月23日(火)まで。

持参する場合は、8時30分から17時
まで。郵送する場合は、3月23日(火)
までに必着のこと。

2 手続場所

呉工業高等専門学校(呉市阿賀南2-2-11)

3 提出書類

① 編入学届

② 誓約書

保証人は独立の生計を営む成年者とし、
うち1名は保護者としてください。
本人、保護者、保証人はそれぞれ自筆
で記載してください。

③ 卒業証明書及び成績証明書、出欠の記録

(出身高等学校で発行したもの。)

④ 学生記録原簿 2部(裏面は記入しないでください。)

⑤ 写真 3枚

上半身脱帽、最近3ヶ月以内に撮影したもの。
3枚のうち2枚は縦6cm×横4.5cmとし、
学生記録原簿に貼付し、他の1枚(学生証用)
は縦3.5cm×横3cmとし、裏面に学科・氏名を
記入してください。

⑥ 領収証書返送用封筒

郵送により手続きする場合のみ必要。
宛先を記入し、80円切手を貼付して
ください。

4 納付金

① 入学科 84,600円

② 授業料 114,000円(前期分)

注1) 前期分の授業料を、入学手続期間に納入しない
ときは、平成16年4月中に納入することになり
ます。

注2) 在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時
から新授業料が適用されます。

注3) 編入学手続を終えた者が、3月31日までに
入学を辞退した場合には、納付した者の申し出に
より、当該授業料相当額は返還します。

5 手続方法

上記の「提出書類」及び「納付金」を取りそろえて提出
してください。

なお、郵送により手続きをする場合には、納付金は「普
通郵便為替(受取人欄は記入しないでください。)」とし、
提出書類と同一封筒にて提出してください。(必ず書留と
し、封筒表面に「入学手続書類及び納付金在中」と朱書し
てください。)

【送付先】

〒737-8506 呉市阿賀南2-2-11

呉工業高等専門学校 学生課教務係 宛

6 その他

正当な理由なく期日までに編入学手続きを行わないと
きは編入学を許可しません。

□ 編入学式

平成16年4月8日(木)午前8時45分から本校におい
て編入学式を挙行しますので、必ず午前8時35分までに学
生課教務係に集合し、係員の指示を受けてください。

服装は平服(編入学式にふさわしい服装)を着用してくだ
さい。

13時30分から編入学生オリエンテーションを行いま
すので、第1ゼミナール室(図書館棟2階)に集合してくだ
さい。

□ 諸証明、教材購入に関すること

1 学生証及び在学証明書は、編入学式当日に交付します。

2 JR以外の通学定期券を購入する場合は、通学証明書が
必要なので、編入学手続の際に学生課学生係に申し込
み編入学式当日学生係窓口で受け取ってください。

3 編入学式当日、学生課教務係において教科書の販売をし
ますので、各自購入してください。

□ その他

次の各号に該当する事項により、入学料または授業料の
納付が著しく困難で免除を受けたい者は、入学手続期間
中に、学生課学生係まで申し出てください。

① 入学料の免除について

- ・入学前1年以内において、入学する者の主たる学資負担者が
死亡し、または入学する者若しくは主たる学資負担者が風水
害等の災害を受けた場合。
- ・前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある
場合。

② 入学料の徴収猶予について

- ・経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ、
学業優秀と認められる場合。
- ・入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学す
る者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限
までに納付が困難であると認められる場合。
- ・その他やむを得ない事情があると認められる場合。

③ 授業料の免除および猶予について

- ・経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業成績、人
物ともに優秀と認められる場合。
- ・その他特別の事情のあるもの

注：免除希望者は、入学料又は授業料を納付しないでくだ
さい。

(分析結果とその根拠理由)

留学生，編入学生には，ガイダンスを実施し，また各留学生にはチューターを配置するなど，学習支援体制が整備され，機能している。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

学生のクラブ活動に対しては，すべてのクラブに顧問教員を配置し，顧問教員の指導の下活動している。平成17年4月現在体育系21，文科系12のクラブと同好会9が活動している（資料7-1-⑥-1）。クラブ活動に対する支援のため年2回の顧問会議を開催し，クラブ運営，予算配分等が適正に実施されている（資料7-1-⑥-2）。またスポーツリーダーズセミナーを実施し，クラブ活動の活性化に努めている（資料7-1-⑥-3）。

学生会活動に対しても，学生会の各委員会等に顧問教員として学生主事・主事補を配置し（資料7-1-⑥-4），これらの顧問教員の指導・助言のもと高専祭・球技大会・駅伝大会等の学生会活動が実施されている。

(資料7-1-⑥-1)

文 化 部	写 真 部	篠部 裕		
	計 算 機 部	○藤井敏則 井上浩孝		
	文 芸 部	小助川元太		
	国 際 交 流 部	中山 文		
	茶 華 道 部	小山通榮		
	美 術 部	岡本二郎		
	音 楽 部	中野修治		
	吹 奏 楽 部	○赤池祐次	宇根俊範	富田英夫
	無 線 部	○黒川康宏	黒木太司	木原滋哉
	自 動 車 部	○野村高広	河口勇治	
	理 化 学 研 究 部	小山通榮		
	体 育 部	建築デザイン研究部	○間瀬実郎	篠部 裕
硬 式 野 球 部		○上寺哲也	竹村和夫	
バレー部		○黒川岳司	赤池祐次	堀口 至
ソフトテニス部		○山口隆司	石井 仁	山田祐士
卓 球 部		○山岡俊一	橋本堅一	笠松義隆
バスケットボール部		○新美哲彦	灘野宏正	植田義文
バレー部		○佐賀野健	門前勝明	横沼実雄
陸上競技部		○板東能生	谷岡憲三	高島裕臣
柔 道 部		○黒木太司	三島智和	左古悦雄
剣 道 部		○井上浩孝	田中 誠	野村利英 大西義浩
ワンダーフォーゲルスキー部		○黒川康宏	市坪 誠	
サッカー部		○森脇武夫	藤井 健	岩本英久
水 泳 部	○小堀慈久	野村高広	江口 誠	
アーチェリー部	○藤井敏則	松野一成	福原安洋	
ハンドボール部	○河口勇治	野原 稔	川尻武信	
テニス部	○周藤剛士	岩根三邦	仁保 裕	
ラグビー部	○吉村敏彦	森 貞雄	木原滋哉	
空 手 道 部	○野村博昭	深澤謙次		
ソフトボール部	○山崎 勉	京免 進		
バドミントン部	○重松尚久	中迫正一	河野正来	
女子バレー部	○八木良尚	岡中正三		
女子バスケットボール部	○中野修治	正野崎昭二		
同 好 会	映画同好会	周藤剛士	感性工学同好会	市坪 誠
	フォークソング同好会	高島裕臣	釣り同好会	重松尚久
	女子硬式テニス同好会	岩根三邦	吟詠同好会	京免 進
	将棋同好会	横沼実雄	ダンス同好会	市坪 誠
そ の 他	囲碁同好会	野村利英		
	人権問題研究会	宇根俊範		
	インターアクトクラブ	○江口 誠	八木良尚	山岡俊一
	ロボット製作クラブ	○横沼実雄	横瀬義雄	野村高広 板東能生

(出典 学生課)

(資料7-1-⑥-2)

平成17年度第1回顧問会議報告

日 時 平成17年5月27日（金）16：00～16：40
 場 所 第1ゼミナール室（図書館棟2階）
 出席者 宇根，吉村，小助川，佐賀野，各クラブ顧問（文化部・体育部）
 欠席者 中野（音楽部，女子バスケットボール部），黒川（岳）（硬式野球部（高野連チー
 ム）），野町

（記録）小林

議 題

始めに，学生主事から本日の課外教育費と学生指導関係設備に関しては，本校への予算配分は未だであるが，例年どおりの配分があるものとして審議したい旨説明があった。

1. 平成17年度課外教育費の配分について

学生主事から資料1について説明があり，審議の結果次のような案とすることとした。

- 「予算配分（案）」により，今年度配分候補となるクラブのうち，
- ・無線部の要求物品（ミキサ他93,720円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・ソフトテニス部は今年度の学生指導関係設備充実費（資料2）で配分が決定されることが考えられるので課外教育費の配分は行わないこととした。
 - ・バスケットボール部の要求物品（ボールバッグ他141,120円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・ハンドボール部は今年度の学生指導関係設備充実費（資料2）で配分が決定されることが考えられるので課外教育費の配分は行わないこととした。
 - ・文芸部の要求物品（ノートパソコン，199,800円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・サッカー部の要求物品（ゴールネット除く，72,815円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・自動車部の要求物品（交換被膜アーク溶接機のみ，74,200円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・陸上競技部は今年度の学生指導関係設備充実費（資料2）で配分が決定されることが考えられるので課外教育費の配分は行わないこととした。
 - ・アーチェリー部は予算の関係上課外教育費の配分は行わないこととした。

2. 平成17年度学生指導関係設備充実費の配分について

学生主事から資料2について説明があり，審議の結果 次のような案とすることとした。

- 「予算配分（案）」により，今年度配分候補となるクラブのうち，
- ・ソフトテニス部の要求物品（審判台4台のみ，260,000円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・ハンドボール部の要求物品（ゴール+ゴールネット 330,000円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・陸上競技部の要求物品（プレハブ倉庫の代わりに，助走ランウェイ，93,450円）は経費の配分を認めることとした。
 - ・吹奏楽部，アーチェリー部は予算の関係上 学生指導関係設備充実費の配分は行わないこととした。

3. 平成17年度コーチ謝金の配分について

学生主事から，資料3について説明があり，審議の結果今年度要求があった13クラブに各20時間分の謝金を配分し，余り分については，追加配分の希望のあった6クラブ（硬式野球部（高野連チーム），柔道部，剣道部，アーチェリー部，ハンドボール部，テニス部）に時機を見て再配分することとした。

4. その他

(1) 試験期間中の対外試合参加について

学生主事から，資料4について，審議対象は「休業日のみ」に限定し，参加希望のクラブから「参加希望調書」の提出を求め，その後に学生指導委員会に諮る旨説明があった。その他クラブ顧問から下記のような要望があった。

- ・文科系クラブの部員の確保が困難となっているので，目に見える形で学生にアピールできる場が欲しい。（美術部）
- ・コーチ謝金の予算を今後増やす方向で検討して欲しい。（テニス部）
- ・高専大会の広島会場には現地に宿泊するのではなく，寮生については寮から通わせたい。（柔道部）

(資料7-1-⑥-3)

第37回スポーツリーダーズセミナー実施要項

1. 目的

健全で明朗な学生生活を維持するうえで、スポーツ活動は極めて重要な役割をもつものである。これが組織的、継続的に実施され、一層健全で活発に展開されるために研修を行うことにより、運動部の指導者としての見識を高めることを目的とする。

2. 主催 呉工業高等専門学校

3. 期日 平成18年1月17日（火）～1月18日（水）

4. 会場 広島大西条共同研修センター（東広島市西条町御菌宇 TEL082-423-8436）

5. 参加者および参加者 本校各運動部来年度役員予定者40名、学生会2名、教職員3名

6. 講師および助言者



教職員 宇根俊範・佐賀野健・山口敏典

7. 経費 食費（3食）約1,500円は参加者の個人負担。

8. 日程

第1日 1月17日（火）

13:00 集合・点呼（図書館棟）

13:10 呉高专出発（貸切バス）

14:00 広島大学西条共同研修センター 到着

14:10 スポーツリーダーズセミナー開講式

14:20 広島大学西条共同研修センター オリエンテーション

14:30 講義『スポーツ心理学に関する理論と実習ほか』

講師 [Redacted]

17:30 夕食・入浴

19:00 講義『スポーツコーチ論 ～リーダーとしての心構え～ほか』

講師 [Redacted] 氏

22:00 就寝準備

22:30 消灯・就寝

第2日 1月18日（水）

7:00 起床・清掃

7:30 朝食

8:00 退所準備

8:30 広島大学へ移動（予定）

9:00 講義『トレーニングの理論と実習ほか』

講師 [Redacted] 氏

12:00 昼食（広島大学の学生食堂）

13:00 討論会・反省会

14:10 閉講式

14:30 広島大学 出発

15:30 呉高专着

(資料7-1-⑥-4)

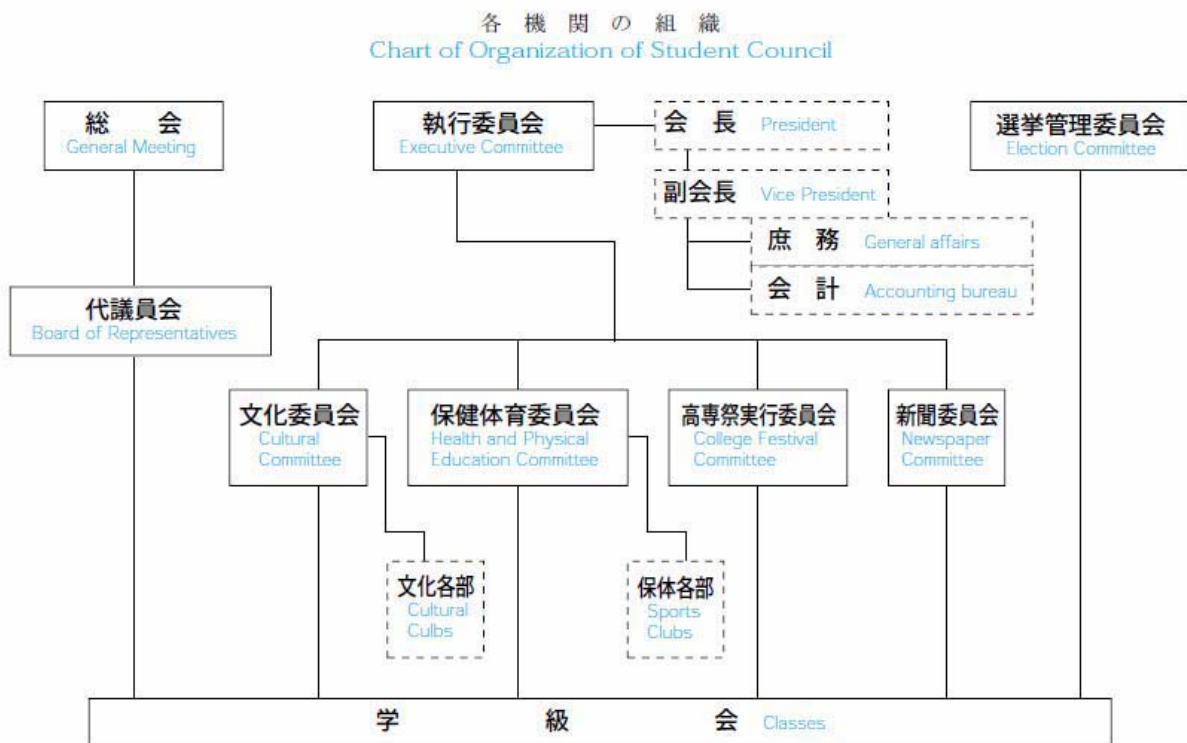
VIII 学生会 Activities of Student Council

学生会は、「会員の自主的活動により，人間形成を助長し，併せて会の自主的運営により，民主的人格を養う。」ことを目的として設けられております。

課外教育活動も盛んに行われ，多くの学生が好きなクラブに入って活動することが望まれています。

毎年秋には，学生達の自主運営による高専祭が3日間開催され，各学科で面白い実験や展示を行います。各種の文化行事や演芸も行われます。

■ 学生会組織 Organization of Student Council



(出典 平成17年度要覧)

(資料7-1-⑥-4)

H17.4.1.

平成17年度学生主事関係役割分担表

教官の役割分担

担当者	役割分担	学生会顧問	学生会役員
学生主事 宇根	全般	代議委員会 執行委員会 会計 庶務	
学生主事 補 吉村	ステップキャンプ 交通関係 就職関係 【進路指導委員会】 ロボコン		
学生主事 補 小助川	高専祭 クラブ紹介・清掃 学生会広報関係 【広報委員会】	高専祭実行委員会 文化委員会 新聞委員会	
学生主事 補 佐賀野	球技大会 体育祭り スポーツリーゼミ 駅伝大会	保健体育委員会 選挙管理委員会	

事務部の役割分担

担当者	役割分担
小林 学生係長	総括
山口さん	体育関係 授業料免除等 後援会 行事関係（球技大会、体育祭り、スポーツリーゼミ、駅伝大会） 課外活動（施設使用願、集会願、部活指導願）
岩佐さん	文化関係（中文連も含む） 奨学金、アルバイト 行事関係（高専祭、ステップキャンプ、ロボコン） 就職関係、各種証明、学生会 広島県学生指導連絡会
国金さん	保健関係

(分析結果とその根拠理由)

クラブ活動・学生会活動ともに顧問教員を配置し、適正な助言・指導の下で活動しており、またクラブ顧問会議やスポーツリーダーズセミナー等により活動の活性化がはかられている。以上のことより、本校は学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の日々の生活に対しての助言・指導に関しては学生指導委員会を中心に全教員があたっている。未成年学生の喫煙・飲酒等の行為に対しては合同ホームルームなどを通じて視聴覚教材を利用しながら禁煙・禁酒教育を実施し、また個人指導も実施している(資料7-2-①-1)。また近年増加するサイバー犯罪に関する視聴覚教材によりIT教育を実施し(資料7-2-①-2)、また学生の身なりや交通安全に関しても指導を行っている(資料7-2-①-3, 資料7-2-①-4)。

学生生活の相談に対応するため学生相談室を設置し、スタッフは相談室長、相談室長補、看護師、非常勤カウンセラー2名で構成されている(資料7-2-①-5)。また、非常勤カウンセラーは毎月1回来校し、カウンセリングを実施している(資料7-2-①-6)。相談室と保健室の利用状況については資料のとおりである(資料7-2-①-7)。学内におけるセクシュアル・ハラスメントにも留意し、数名の相談員をおいている(資料7-2-①-8)。

学生の経済面に係わる支援としては、各種奨学金(日本学生支援機構、民間奨学金など)の斡旋を学生課で行い(資料7-2-①-9)、さらに入学金・授業料の免除制度も実施している(資料7-2-①-10)。また、課外活動に対する経済的支援として遠征費について後援会・学生会による一部援助を実施している(資料7-2-①-11)。

(資料7-2-①-1)

平成16年6月 日

第1学年 担任各位

「1年合同ホームルーム」の実施について(お願い)

学生主事

「1年合同ホームルーム」を下記の通り実施いたします。

つきましては、「14時50分までに視聴覚教室へ集合する」ことを、クラスの学生にご指示くださいますよう、お願いいたします。

記

1・目 時 6月16日(水) 7時限(LHR)

2・場 所 視聴覚教室

3・テーマ 「喫煙と健康」

(資料7-2-①-2)

平成18年 1月18日

指導教官 _____

学生氏名 _____

喫煙処分後の面接指導について

学生主事

1. 謹慎処分終了後の 1月19日(木) から 1月25日(水) までの間、毎日昼休憩時の12時45分までに、下表の2班の先生の所へ行き、面接指導を受けること。
指導教官が不在の場合は、「指導教官不在時」欄の先生の所へ行くこと。
*24日(火)が駅伝大会のとき、指導は免除する。
2. 万一欠席する場合は、学生主事または担任の先生に電話連絡すること。
3. この一週間の面接指導終了後、レポート用紙に感想を書いて担任の先生(後で学生主事へ回付)に提出すること。

指導教官 (1班)

	月	火	水	木	金
指導教官 場 所	宇 根 管理棟 3 F	佐賀野 第1 体育館	吉 村 M棟 2 F	小助川 管理棟 3 F	宇 根 管理棟 3 F
指導教官不在時 場 所	小助川 管理棟 3 F	吉 村 M棟 2 F	宇 根 管理棟 3 F	宇 根 管理棟 3 F	佐賀野 第1 体育館

指導教官 (2班)

	月	火	水	木	金
指導教官 場 所	川 尻 管理棟 2 F	間 瀬 A棟 2 F	市 坪 C棟 4 F	井 上 E棟 2 F	山 田 M棟 1 F
指導教官不在時 場 所	間 瀬 A棟 2 F	井上 E棟 2 F	山 田 M棟 1 F	川 尻 管理棟 2 F	市 坪 C棟 4 F

(資料7-2-①-2)

平成17年6月7日

第1学年 担任各位

「1年合同ホームルーム」の実施について (お願い)

学生主事

「1年合同ホームルーム」を下記の通り実施いたします。
つきましては、「13時55分までに視聴覚教室へ集合する」ことを、クラスの学生にご指示くださいますよう、お願いいたします。

記

1. 日時 6月15日 (水) 6時限 (LHR)
2. 場所 視聴覚教室
3. テーマ 「サイバー犯罪防止」

(資料7-2-①-3)

身なりチェック表, 記入上の注意

学生主事

1月13日の「身なりチェック日」にあたっては、以下の事項に従ってチェックをお願いします。

- ・対象学生は1年生から3年生までです。
- ・身なりチェックは始業時間(8時35分)から終業時間(15時45分)までとさせていただきます。
- ・このチェック表は終日携行してください。(授業中も)
- ・学内に於いて(授業中・休憩時間中など)行き過ぎた身なり(茶髪・ピアス・シャツ出し・その他)の学生に気付いたら、そのシートに学年・学科・氏名を記載し、放課後チェックシートを学生係に提出してください。

*記載例

学科・学年	氏名	重点指導項目			指導項目
		茶髪	ピアス	シャツ出し	
M1	高専 太郎	○			黄色のシャツ着用

チェック項目の詳細は以下の通りです。

- ・シャツ出し・・・・・・裾のラインが直線状のものについては可とする
- ・シャツの色・・・・・・白で無地のもの以外は不可
ただし、ワンポイントの模様程度は可
- ・シャツの形状・・・・・・カッターシャツタイプかポロシャツタイプは可
- ・着こなし・・・・・・ズボンを異常に下げているものは不可
スカート丈が異常に短いものは不可
- ・ピアス・イヤリング・・穴をあけているだけは可
- ・茶髪・・・・・・はっきり地毛でなく染めているのが分かるものだけ不可
- ・その他・・・・・・派手なネクタイの着用は不可
派手な色・柄の入ったセーター・ベスト・カーディガンの着用は不可

(資料7-2-①-4)

平成17年2月14日

第3学年 担任各位

「3年合同ホームルーム」の実施について（お願い）

学生主事

「3年合同ホームルーム」を下記の通り実施いたします。
つきましては、「14時50分までに視聴覚教室へ集合する」ことを、クラスの学生にご指示くださいますよう、お願いいたします。

記

- 1・日 時 2月 23日（水）7時限（LHR）
- 2・場 所 視聴覚教室
- 3・テ マ 「交通安全・免許取得について」

(資料7-2-①-5)

○呉工業高等専門学校学生相談室規則

平成 16 年 4 月 1 日

（設置）

第 1 条 呉工業高等専門学校に学級担任の補助的役割をもち、学生のもつ個人的諸問題について相談に応じ、その解決に適切な援助を行うため、学生相談室を置く。

（業務）

第 2 条 学生相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 個人的問題に関する身上相談
- (2) 学習上の問題に関する相談
- (3) 精神的不適応に関する相談
- (4) 進路に関する相談
- (5) セクシュアル・ハラスメントに関する相談
- (6) その他学生相談に関すること。

（構成）

第 3 条 学生相談室は、相談室長及び相談員をもって構成する。

2 前項の相談員は、呉工業高等専門学校教員のほか、学生相談に関する専門的知識、経験を有する者をもって充てることができる。

（庶務）

第 4 条 学生相談室の庶務は、学生課学生係において処理する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

（出典 呉工業高等専門学校規則集）

(資料7-2-①-6)

学生相談室資料

学生相談室スタッフ紹介

平成18年度学生相談室スタッフ

役職	名前	所属	会える場所
学生相談員	小山 通榮	一般科目	普通科棟1階
学生相談員	市坪 誠	環境都市工学科	環境都市工学科棟4階
看護師	国金 美樹	保健室・学生係	静心館2階
カウンセラー	林 光緒	広島大学・学生相談室	静心館2階
カウンセラー	城田 愛	学生相談室	静心館2階

カウンセラーによる相談は

月二回程度 水曜日 14時45分～18時

来校日時は掲示又はホームページでお知らせします

相談員または看護師による相談はいつでもどうぞ

カウンセラーの来校予定日及び相談予定表

(a)カウンセラー来校予定日

林先生来校予定日		城田先生来校予定日	
予定日	曜日	予定日	曜日
4月12日	水曜日	—	—
5月10日	水曜日	5月17日	水曜日
6月7日	水曜日	6月21日	水曜日
7月5日	水曜日	7月12日	水曜日
8月2日	水曜日	—	—
10月4日	水曜日	10月25日	水曜日
11月1日	水曜日	11月29日	水曜日
—	—	12月20日	水曜日
1月10日	水曜日	1月31日	水曜日
—	—	2月28日	水曜日



(b)予約状況

(出典 呉高専ホームページ)

(資料7-2-①-7)

平成17年度学生相談室・保健室利用状況

月	学生相談室来室数		備考
	利用件数	利用人数	
4	2	2	
5	3	6	
6	6	7	8、22日に実施
7	4	10	
8	0	0	夏季休業
9	0	0	夏季休業
10	2	3	
11	2	3	
12	2	2	
1			
2			
3			
合計	21	33	

月	保健室来室学生数					総数	平常授業日数
	けが等	体調不良等	その他	相談			
4	40	39	26	13	118	20	
5	50	48	49	10	157	19(前期中間試験)	
6	91	70	59	19	239	22(前期中間試験)	
7	35	41	25	16	117	20(前期期末試験)	
8	11	18	16	5	50	5(夏季休業)	
9	2			5	7	0(夏季休業)	
10	73	61	91	9	234	19	
11	45	71	52	6	174	20	
12	30	44	37	9	120	16(後期中間試験、冬季休業)	
1							
2							
3							
合計	377	392	355	92	1216		

(資料7-2-①-8)

セクシュアル・ハラスメントをなくそう

◎ どんなことがセクシュアル・ハラスメントになるのか？

セクシュアル・ハラスメントとは、相手を不快にさせる性的な言動をいいます。

セクシュアル・ハラスメントに該当するかどうかは、基本的には言動の受け手がそれを不快に感じるかどうかによって決まります。

① 性的な発言の例

- ・ スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする。
- ・ 聞くに耐えない卑猥な冗談を交わす。
- ・ 性的な経験について質問する。
- ・ 性的な風評を流したり、性的なからかいの対象とする。
- ・ 「男のくせに・・・」、「女のくせに・・・」などと発言する。

② 性的な行動の例

- ・ ヌードポスター等を教室に貼る。
- ・ 雑誌等の卑猥な写真・記事等をわざと見せたり、読んだりする。
- ・ パソコンのディスプレイに猥褻な画像を表示する。
- ・ 身体を執拗に眺め回す。
- ・ デートにしつこく誘う。
- ・ 性的な内容の電話をかけたり、性的な内容の手紙、Eメールを送る。
- ・ 身体に不必要に接触する。

◎ セクシュアル・ハラスメントの被害にあったら？

① 嫌なことは相手に対して明確に意思表示をしましょう。

セクシュアル・ハラスメントに対しては毅然とした態度をとりましょう、すなわち、はっきりと自分の意思を相手に伝えることが重要です。しかし、背景に上下関係等が存在する場合には直接相手に言いにくい場合が考えられます。そうした場合には手紙等の手段をとるという方法もあります。

② 信頼できる人に相談しましょう。

まず、友人や両親等身近な信頼できる人に相談することが大切です。そこで解決することが困難な場合には、相談員に相談しましょう。

◎ 相談員名簿

※相談者が学生、学生の保護者等の場合

セクシュアル・ハラスメントに関する相談員名簿

所属部署等	役職名	氏名	内線	備考
一般科目	主任	岡中 正三	8 4 3 6	
一般科目	教授	小山 通榮	8 4 3 3	学生相談室長
一般科目	講師	中山 文	8 4 2 8	
機械工学科	主任	八木 良尚	8 9 5 3	
電気情報工学科	主任	植田 義文	8 4 7 0	
環境都市工学科	主任	中野 修治	8 4 7 7	
建築学科	主任	篠部 裕	8 4 9 4	
専攻科	科長	河野 正来	8 4 5 1	
事務部	学生課長	野町 周平	8 4 1 4	
事務部	学生係長	小林 一夫	8 4 1 7	
事務部	看護師	国金 美樹	8 2 0 8	
事務部	寮母	濱下 三輪	8 2 1 9	

※相談者が教職員等の場合

セクシュアル・ハラスメントに関する相談員名簿

所属部署等	役職名	氏名	内線	備考
一般科目	主任	岡中 正三	8436	
一般科目	教授	小山 通榮	8433	
一般科目	講師	中山 文	8428	
機械工学科	主任	八木 良尚	8953	
電気情報工学科	主任	植田 義文	8470	
環境都市工学科	主任	中野 修治	8477	
建築学科	主任	篠部 裕	8494	
専攻科	科長	河野 正来	8451	
事務部	庶務課長	後藤 郁則	8403	教職員相談室長
事務部	会計課長	延原 正憲	8408	
事務部	学生課長	野町 周平	8414	
事務部	看護師	国金 美樹	8208	

(出典 呉高専ホームページ)

(資料7-2-①-9)

日本学生支援機構奨学金受給状況調査

高専番号	36	学校名	呉工業高等専門学校
------	----	-----	-----------

【平成15年度】 (単位:円・人)

区分		希望者数	貸与者数	左の内で緊急採用・応急採用奨学金の貸与人数
無利子	(1~3年生)			
	自宅	新規	16	15
		継続		26
	自宅外	新規	11	6
		継続		39
	(4・5年生)			
	自宅	新規	4	0
		継続		21
自宅外	新規	2	1	
	継続		30	
有利子(4・5年生)				
		新規	6	3
		継続		3
合計		新規	39	25
		継続		119
				0

【平成16年度】 (単位:円・人)

区分		希望者数	貸与者数	左の内で緊急採用・応急採用奨学金の貸与人数
無利子	(1~3年生)			
	自宅	新規	11	10
		継続		26
	自宅外	新規	20	18
		継続		21
	(4・5年生)			
	自宅	新規	0	0
		継続		23
	自宅外	新規	4	3
		継続		38
有利子(4・5年生)				
		新規	4	2
		継続		3
合計		新規	39	33
		継続		111
				0

(記入要領)

※ 区分欄の「新規」とは、当該年度に新規に奨学金を受給されることになった者のことを指す、「継続」は2年目以降の奨学金受給者のことを指す。
 ※ 奨学金の種類(有利子及び無利子、自宅及び自宅外、1~3年生と4・5年生)が変わっても、既に日本学生支援機構の第一種又は第二種奨学金を受給していれば、「継続」欄にカウントするようお願いいたします。

(出典 学生課)

(資料7-2-①-9)

民間等奨学金受給・貸与状況調査

高専番号	36	学校名	呉工業高等専門学校
------	----	-----	-----------

【平成15年度】

(単位:円、人)

奨学団体・組織等名	奨学金名称	月額	給与・貸与の別	希望者数(新規のみ)	受給・貸与者数(新規)	受給・貸与者数(継続)	備考
あしなが育英会	あしなが奨学金	25000	貸与	2	2	1	
(財)日新奨学会	日新奨学会	30000	貸与	1	1	0	専攻科生
広島県教育委員会	広島県高等学校等奨学金	18000	貸与	3	0	0	

【平成16年度】

(単位:円、人)

奨学団体・組織等名	奨学金名称	月額	給与・貸与の別	希望者数(新規のみ)	受給・貸与者数(新規)	受給・貸与者数(継続)	備考
あしなが育英会	あしなが奨学金	25000	貸与	0	0	3	
広島県教育委員会	広島県高等学校等奨学金	18000	貸与	3	2	0	
(財)古岡奨学会	古岡奨学会	15500	給与	1	1	0	
(財)日新奨学会	日新奨学会	30000	貸与	0	0	1	

(記入要領)

- ※ 民間等奨学金とは日本学生支援機構奨学金以外の奨学金を指します。(例:公益法人、地方自治体、学校等)
- ※ 行が足りなかった場合は、随時追加願います。
- ※ 受給・貸与者数が0の場合も申請をした場合は希望者数に人数を記入願います。
- ※ 「希望者数」欄には当該年度の新規希望者を記入願います。

(出典 学生課)

(資料7-2-①-10)

下記のとおりに~~送付~~^{送達}してよいか伺います

平成17年4月13日

学 生 各 位

学 生 主 事

平成17年度日本学生支援機構奨学生の募集について

標記のことについて、下記のとおり募集しますので、希望者は学生係まで応募書類を取りに来て下さい。

記

1. 奨学金の種類と貸与月額

	入学年度	学 年	自 宅 通 学	自 宅 外 通 学
第 一 種	平成15～17年	1～3	21,000	22,500
	平成13～14年	4～5	44,000	50,000
	平成17年	専1	45,000	51,000
	平成16年	専2	44,000	50,000
第 二 種	平成13～14年	4～5	3万・5万・8万・10万の中から1つ選択	
	平成16～17年	専1～専2		

2. 推薦対象 本科生および専攻科生

なお、本科生の推薦可能数は次のとおりです。

- ・ 第一種奨学金（無利子）1～5年
推薦可能数16名（1年生を中心にします。）
- ・ 第二種奨学金（有利子）4～5年生
推薦可能数 5名（4年生を中心にします。）

3. 応募書類配付期間 平成17年4月13日（水）～4月22日（金）

4. 提出期限 平成17年5月9日（月）
（上記以降の受付は行わない。）

(資料7-2-①-10)

授業料免除について（新入生用）

次のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき、選考の上、授業料の『全額』又は『半額』を免除されることがあります。

- ① 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- ② 入学前1年以内に学資負担者が死亡、又は風水害等の被災等、特別の事情により授業料の納付が困難な者

①に該当する場合

収入について

家族構成等により異なりますが、次の例を一応の目安にしてみてください。
 ※ 源泉徴収票の支払金額で、給与所得控除後の金額ではありません。

家族構成等 区分	父（会社員＝給与所得者） 母（専業主婦＝所得なし） 兄（私立大学生で自宅通学） 本人（自宅通学で奨学金なし）	父（会社員＝給与所得者） 母（専業主婦＝所得なし） 兄（公立高校で自宅通学） 本人（自宅通学で奨学金なし）
全額免除	464万円以下（支払金額）	359万円以下（支払金額）
半額免除	648万円以下（支払金額）	544万円以下（支払金額）
不許可	649万円以上（支払金額）	545万円以上（支払金額）

※ 給与所得者以外（自営業・農業）や兄弟姉妹が高校生以下であったり、本人が奨学金を受給している場合は、上記金額よりも低くなります。

成績について

前期は前年度学年末試験、後期は前期末試験の席次が1/2以上を原則としますが、家庭状況により異なります。

なお、新入生の前期分については、入試の成績で判定します。

②に該当する場合

ご相談ください。

注意事項

授業料免除を希望される方は授業料を納付しないでください。（1度納付された授業料は返還できません。）

授業料免除は毎期毎に申請して許可されるものです。（一度許可されても卒業まで免除されるわけではありません。）継続して免除を希望する場合は、2月と7月に申請受付（申請書類配布）をしますので、掲示を確認し、忘れないように申請してください。

なお、入学科は入学手続期間中に納付してください。（入学科免除等希望者は、入学科を納付せず、入学科免除等を希望する旨を速やかに学生課学生係に申し出てください。）

問合・書類提出先

学生課学生係 TEL (0823) 73-8417

(資料7-2-①-11)

呉工業高等専門学校後援会旅費補助基準

(趣旨)

第1 学生が、クラブ活動（呉工業高等専門学校学生会会則第41条の活動をいう。）及び本校が特に認めた特別課外活動に伴い遠征する場合の旅費の補助はこの基準に定めるところによる。

(補助の対象となる遠征等)

第2 保健体育系クラブ活動
補助の対象となる遠征は別表に定めるとおりとし、参加者は、大会要項に定められた人数以内とする。（学外コーチを含む。）

第3 文化系クラブ活動
補助の対象となる遠征は別表に準じ、参加者は学生主事がクラブ顧問教官と協議して定める。

第4 本校が特に認めた特別課外活動
英語弁論大会、ロボットコンテスト、三高専建築シンポジウム及びプログラミングコンテストの実施に伴い補助の対象となる遠征は別表に準じ、参加者は別に定める。

(補助回数)

第5 補助回数は、各大会区分につき年1回とする。ただし、「全国大会又はこれに準ずる大会」のうち、出場権を争う必要がある場合は、1回を加える。

(補助額)

第6 補助額は次のとおりとする。

- (1) 出場選手等の旅費
旅費（バス借上げ料を含む。）及び宿泊料の合計額の6割を補助する。
 - (2) 学外コーチの旅費
旅費（バス借上げ料を含む。）及び宿泊料の合計額を補助する。
- 2 前項の規定にかかわらず、予算の収支状況により、補助率を調整することがある。

付 則

この基準は、平成4年4月1日から施行する。

別表 遠征の対象とする体育大会等一覧表

区 分	大 会 名 等
地 区 大 会	1 専体協主催又は共催の体育大会 2 中国地区高専間の試合で、5校以上が参加し、定期戦として認められているもの
全国大会又はこれに準ずる大会	1 専体協主催又は共催の体育大会 2 全国・西日本の高専間の試合で、定期戦として認められているもの（ただし、地区大会において、団体戦又は個人戦で1位の成績又は代表権を得ていること。）
そ の 他 大 会 等	1 本校が加盟している連盟が主催する大会 2 独自で遠征する場合

注1 「その他大会等」に該当するクラブは「地区大会」、「全国大会又はこれに準ずる大会」のいずれにも参加できないクラブとする。

2 「その他大会等」に該当するクラブについて、1又は2のいずれを選択するかは、前年度末において、学生主事が顧問教官又は担当教官と協議して定めるものとする。

なお、2を選択する場合は、参加人数等の細部について学生主事が顧問教官等と協議し文書化するものとする。

(分析結果とその根拠理由)

本校では学生指導委員会を中心に学生の生活に係わる指導がなされ、学生相談室を通じて学生の相談・助言を行う体制が整備されており、また学生の経済面に係る支援体制も各種奨学金や入学金・授業料免除の制度などにより十分機能している。

観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

留学生に対する生活面での支援については外国人留学生委員会を中心に実施している（資料7-2-②-1）。各留学生に1名の学生チューターを配置し、留学生の相談にいつでも応じる体制をとっている。委員会では留学生に対する教育支援や日々の生活支援について計画実行している（資料7-2-②-2）。また、本校では独自に里親制度を設け（資料7-2-②-3）、里親会の企画する旅行やスポーツ大会などを通じて各留学生に対して里親があらゆる面でバックアップしている（資料7-2-②-4）。留学生は学生寮生活であるが、専用の寮棟を用意しており長期休暇中も滞在可能である。専用シャワーや専用補食室を設置している。これらの支援により、これまでに32名の留学生をラオス、カンボジア、ベトナム、マレーシア等から受け入れ、全員を卒業させ社会に送りだしている。

身体障害者に対する支援としては、バリアフリー化に取り組み、各学科棟・図書館棟の入り口には車椅子用スロープを設置し、自動ドアとしている。また、身体障害者用トイレも設置している。

(資料7-2-②-1)

○呉工業高等専門学校外国人留学生委員会規則

平成16年4月1日

(設置)

第1条 呉工業高等専門学校に、外国人留学生(以下「留学生」という。)に関する重要事項を協議するため、呉工業高等専門学校外国人留学生委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 留学生の教育指導に関すること。
- (2) 留学生の学生生活の支援と指導に関すること。
- (3) 留学生の寮務に関すること。
- (4) その他校長が必要と認めたこと。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (2) 一般科目主任及び各学科主任
- (3) 留学生指導教員
- (4) その他校長が必要と認めた者

2 委員長は、委員会の会議(以下「会議」という。)に学生課長を出席させる。

(任命)

第4条 前条第1項第4号に定める委員(以下「第4号委員」という。)は、校長が任命する。

(任期)

第5条 第4号委員の任期は1年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 第4号委員は、再任することができる。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。

(運営)

第7条 会議は、委員長が招集し、議長となる。

第8条 委員長は、会議で協議した事項を総括して校長に報告し、承認を受けなければならない。
2 校長は、他の委員会等での協議が適当であると認められるときは、関係委員会等にその協議を付託する。

(委員以外の者の出席)

第9条 委員会において必要があると認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、学生課教務係において処理する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料7-2-②-2)

第1回外国人留学生委員会報告

日時 平成17年4月5日(火) 16:09~16:50

場所 第2会議室

出席者 福原, 宇根, 谷岡, 岡中, 八木, 植田, 中野, 篠部, 野村(博), 橋本,
森, 黒木, 重松, 藤井(敏), 市坪, 江口, 深澤, 森脇, 野町, 川野
(記録-川上)

議 題

1. 平成17年度の指導体制について
資料1を一部修正(寮見回りの担当寮生を外国人入寮生の生活規則について(5)の代表寮生に合わせる。見回りマニュアルに、指導事項はホワイトボードへ記入することを追加)のうえ承認した。
2. 留学生の現況について
教務主事より資料2のとおり説明があった。
3. 国費高等専門学校留学生の奨学金支給延長候補者の推薦について
教務主事より資料3のとおり説明があり、協議の結果、推薦順位1位を[黒塗り], 2位を[黒塗り]とした。
4. 卒業した留学生の動向について
教務主事より資料4のとおり説明があった。
なお、機械工学科委員よりこれ以上の動向は調査不能である旨の報告があった。
5. その他
○次のとおり要望があった。
 - ・留学生用自転車として寮の自転車処分時に2台くらいもらえないか。
 - ・寮のブレーカーの容量を上げて欲しい。
 - ・寮にエアコン, お湯の出るシャワーをつけて欲しい。

以上

(出典 外国人留学生委員会)

(資料7-2-②-3)

里親会資料

呉高専留学生里親会発足にあたって

長町 三生

私が、家族を連れて米国ミシガン大学へ研究のために渡ったのは、32年前のことです。ミシガン大学には、いろいろな制度が備わっていて、渡米家族に対しては大学婦人会がボランティア活動として、毎日のように世話をしてくれました。長期に滞在する際には、現地の人々による手厚い付き合いは異国にいることを忘れさせ、文化を知るのに良き機会です。

呉高専の校長として赴任した時に、最初に脳裏をかすめたのは、9名いる留学生への対応がどうなっているかという点でした。幸いにも各受け持ち教官がいろいろ配慮してくれていましたが、やはり彼らにもっともふさわしいのは、日本家庭との交流による精神的支えと日本生活の文化に接触し学ぶという点です。

たまたま知り合いの方を通じて留学生里親会の結成をお願いしましたところ、快く9家族の方から賛同を得ました。心から感謝いたしております。今後、本校の留学生が里親会の皆様とのごく自然なふれあいを通じて、日本人の心の暖かさ、心の広さを学んでいただくことを願っています。

(1996年夏)

(出典 呉高専ホームページ)

(資料 7-2-②-4)

2004 年度の里親会の行事 (4-9 月分)

2004年度の行事

昨年度行った行事です。どの行事も留学生、里親みんなで協力して楽しみました。

<p>歓迎会</p>	<p>4月</p>	<p>ベトナムのズイ君、カンボジアのピソット君、マレーシアのヘルミ君を迎えて、蒲刈のコテージに一泊旅行をしました。綺麗な海を見ながら、みんなで作ったカレーライス、立派な天体望遠鏡で星の勉強...夜遅くまで語り合いました。翌日は水耕栽培のイチゴをおなかいっぱい食べました。心も体も大満足の一泊二日でした。</p>	
<p>お茶会</p>	<p>5月</p>	<p>日本が誇る伝統文化の一つ茶道。今年も浜田先生、お弟子さん方のお世話でお茶会を開いていただきました。慣れない正座で大変でしたが、少しでも日本の伝統を理解したいと何事にも挑戦しています。先生方、本当に有り難うございました。</p>	
<p>交流会</p>	<p>7月</p>	<p>夏休み前に留学生の出身国事情を聞きながら、持ち寄りの料理で昼食会を開きました。</p>	
<p>クッキング</p>	<p>9月</p>	<p>ラオスのカレーとモチ米を使ったデザート、ベトナムの生巻き、カンボジアのチキンサラダ、マレーシアのエビカレー、どれも美味しくできました。</p>	

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対するチューターの配置や居住空間である学生寮における留学生のための設備の配備、また里親会による留学生の生活面・精神面での支援等、適切な支援がされている。

また身体障害者に対するバリアフリー化も進み、障害を持つ学生等への支援も充実してきている。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

1寮(寮事務と女子寮)、2・4寮(準学士課程学生)、5寮(留学生)、6寮(専攻科生)と5棟が設置されている。学生寮の収容定員率は95パーセントで、常にほぼ充足されており、平成17年4月4日現在で311名が入寮している(資料7-2-③-1)。設備としては食堂、浴場に加え、各棟には自習室・補食室・TV室・多目的室・パソコン室(1・2・4・5寮に計16台)洗面洗濯室・乾燥室(女子寮)が設置されて全寮生に共用させている。5寮は留学生専用を使用しているが、女子留学生が希望すれば、1寮(女子寮)の中に、使用可能な施設を設置しており、留学生専用補食室やシャワールームも備えている。

学生の生活の場として機能するために、指導体制としては寮務主事の下に、主事補4名、一般科目を含め各4学科から1名の寮務委員5名に加え、寮務係長、寮務主任及び寮母が寮生の指導を行っている(資料7-2-③-2)。それらの寮関係教職員は朝の巡回指導を行い、共用部分の清掃、居室の整理整頓のチェック、授業の遅刻・体調不良者の適切な処置を行っている。また、全教員の輪番制による宿日直勤務により、寮生の生活指導と救急対応などを行っている。以上の指導は、寮生活状況評価基準(資料7-2-③-3)により各寮生について点数として集計され、担任および保護者と連携を取りながら減点の多い寮生には寮生活指導を行っている。

学生は1年生に配付される寮生活のしおりをもとに生活する。その生活支援のため、一般寮生を指導・支援する寮生として寮生会役員・ライフマスター(以下LMとする)を各階ごとに配置し、寮関係教職員との連携のもと活動している(資料7-2-③-4)。その連携を密にするための会議、幹部会議(寮務主事と寮生会会長・副会長、規律委員長・副委員長)、役員会(寮務主事・主事補と寮生会役員・LM)を1週間に一度開催している。1年に2回の寮生総会も開催し、必要に応じて臨時の全体指導集会を開くことがある。寮生活や規律維持、役員としての自覚の確立ため、寮生指導者研修会を前期後期一回ずつ行っている。この研修会では、全寮生から事前に協議議題をアンケートで募集し、それを役員が選定し協議を行っている。また、前期の努力目標の反省を行い、次期の努力目標を考え日々の生活も行っている。

その他、寮祭、防火訓練、週番勤務による共用部分の清掃戸締まり、朝の点呼報告等寮生の積極的参加と協力体制がある。また、新入生歓迎球技大会、1年生朝の集いの立ち会い、週一回の寮棟清掃、地域奉仕作業等、寮生全役員の自主的活動もある。

保護者との連携を密にするため、寮の機関誌『嶺陽』を年に二回発行し、保護者に対して学生寮の現状と課題や近況報告をしている。6・7月には学生寮保護者懇談会を、夏休みには寮生の出身地4地区に出向き、学生寮地区別懇談会を開催し、寮生活や学校の成績・進路について話合いをもっている(資料7-2-③-5)。

勉学の場として機能するために、生活面では寮生活の日課の中で19時30分から21時30分の間自習時間を設けている(資料7-2-③-6)。この時間帯は、宿直教員が巡回指導を行うだけでなく、学力のあ

る先輩が後輩の勉強にアドバイスするシステム、ティーチングアシスタント活動（TA制度）を行っている（資料7-2-③-7）。そのための設備としては、夏季の猛暑対策として、寮外のエアコン設置場所の増設、福利厚生施設の開放、図書館の開館時間の延長を行った。また各寮棟にインターネット及び校内LANに接続できるパソコンが16台設置されており、宿題などの課題を容易に送信できる。

(資料7-2-③-1)

寮 生 現 員 調

平成17年4月4日現在

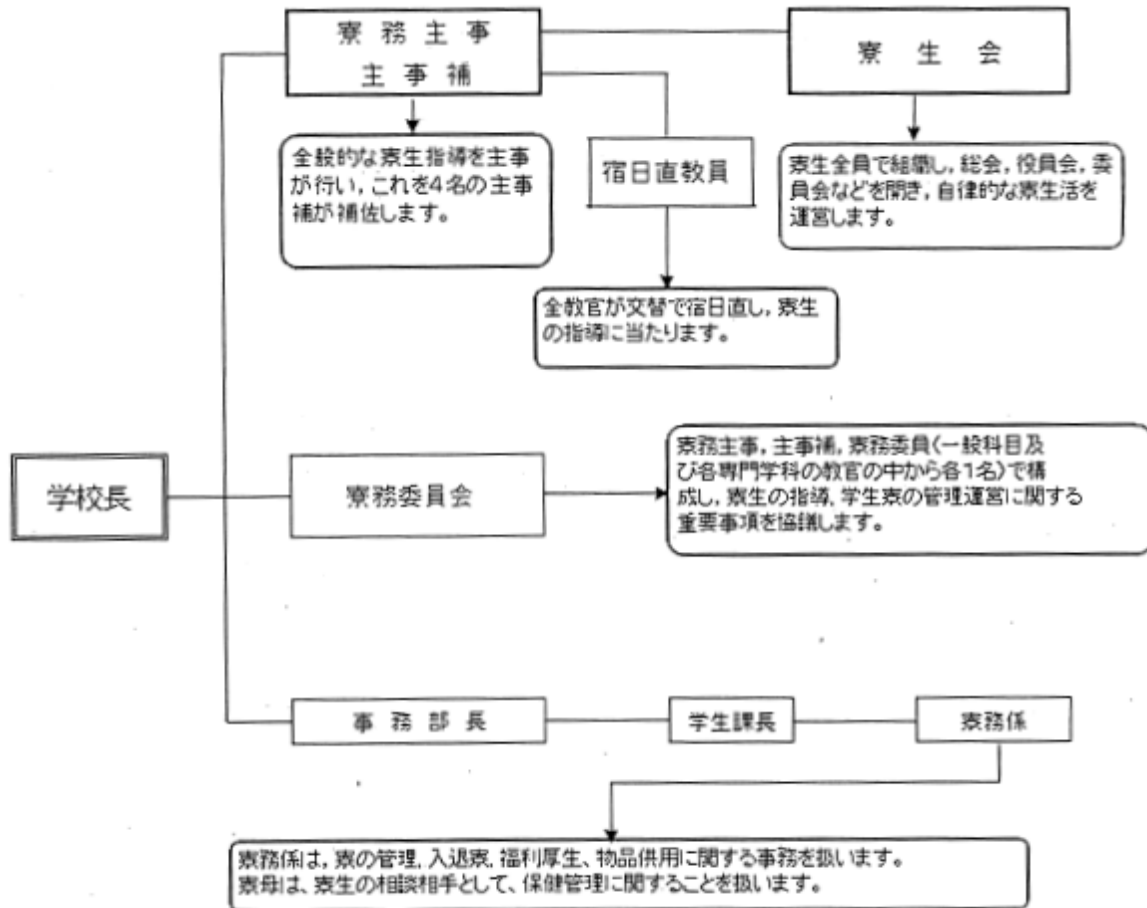
学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年	小計	留 学 生			合 計	専 攻 科 生			
							3年	4年	5年		科	1年	2年	合計
機 械	22 (1)	18 ()	12 ()	18 ()	17 ()	87 (1)		1 ()		88 (1)	機械電気 専攻	4 ()	2 ()	6 ()
電気情報	14 (1)	12 (1)	10 (2)	15 (1)		51 (5)	1 ()	1 ()		53 (5)	建設工学 専攻		3 ()	3 ()
電 気					14 (2)	14 (2)			1 ()	15 (2)	計	4 ()	5 ()	9 ()
環境都市	13 (4)	13 (4)	12 (3)	9 (2)	13 ()	60 (13)		1 ()	1 ()	62 (13)	総 計	311 (49)		
建 築	21 (6)	20 (4)	14 (6)	13 (3)	15 (9)	83 (28)	1 ()			84 (28)				
計	70 (12)	63 (9)	48 (11)	55 (6)	59 (11)	295 (49)	2 ()	3 ()	2 ()	302 (49)				

(資料7-2-③-2)

学寮運営組織

学寮を運営するための組織について、以下に図を示します。

(1) 学生寮運営組織



(資料7-2-③-3)

寮生生活状況評価基準

- 1 減点が6点以上に達した場合は、保護者に生活状況を報告するものとする。
- 2 減点が9点以上に達した場合は、学寮において指導担当教官が保護者と面談するものとする。
- 3 減点が12点以上に達した寮生に対しては、速やかに退寮勧告を行う。
- 4 前年度減点が9点以上の者について、生活状況の改善が見られない場合は、退寮勧告もあり得る。

項 目	減 点 数	備 考
男子点呼遅れ	1点 / 回	22時45分までに帰寮した場合
	3点 / 回	23時30分までに帰寮または確認できた場合。(22時45分までに宿直教員に連絡した場合-1点)
	4点 / 回	23時30分以降帰寮または確認できた場合(22時45分までに宿直教員に連絡した場合-1点)
	5点以上 / 回	所在確認ができない場合
居残り	1点 / 回	
週番点呼不履行	0.5点 / 回	
喫煙・飲酒(確認)	9点 / 回	寮内謹慎5日間。喫煙・飲酒回数は、卒業時まで持ち越し、2回目は退寮
タバコ・吸殻を部屋で発見	2点 / 回	
マージャン・ゲーム等(確認)	2点 / 回	保護者へ送付(パソコンの場合は、許可取消し)
電熱関係の禁止物品所有	3点 / 回	保護者へ送付 禁止物品一覧は、学生便覧参照
電熱関係以外の禁止物品所有	2点 / 回	保護者へ送付 禁止物品一覧は、学生便覧参照
外泊届不正申告	3点 / 回	外泊届提出後の不正在寮等
女子寮点呼遅れ	1点 / 回	21時までに連絡があり、21時30分までに帰寮した場合のみ。
帰寮届不正申告	4点 / 回	1回目:保護者・担任へ連絡 2回目:保護者との面談(主任・担任同席)
行事無断欠席	2点 / 回	寮生会総会、防災避難訓練等参加が義務付けられている行事への事前連絡なしの欠席
朝の巡回チェック(個人・班週番)	0.5点 / 指導票	
共同利用施設に物品放置	0.5点 / 回	主事室で一時保管
途中入室	1点 / 回	
通学生を入室	3点 / 回	
寮週番怠慢	1点 / 回	
風呂かぎ返却遅れ	1点 / 回	
盗食	3点 / 回	
点呼時不正行為	3点 / 回	
不正駐輪(寮敷地内)	1点 / 回	2週間自転車使用禁止
不正駐輪(寮門外)	2点 / 回	1か月間自転車使用禁止
自転車通学	1点 / 回	2週間自転車使用禁止
アルバイト(1~3年生)	3点 / 回	

- 注1 上記以外の違反行為が発覚した場合は、寮務委員会で審議の上、決定する。
- 2 年度合計が6点以上の寮生は、次年度に減点2、9点以上は減点3を繰り越す。
 - 3 申出があれば、清掃活動等を行うことにより、減点が減じられる場合がある。

(資料7-2-③-4)

○呉工業高等専門学校寮生会会則抜粋

平成 16 年 4 月 1 日

第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 呉工業高等専門学校寮生会(以下「本会」という。)と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、寮生相互の日常生活上の共同の問題を協力して処理し、自主的に律することによって、集団生活における責任と義務を自覚し自治能力の向上に努める。

(運営)

第 3 条 本会は、常に校長、寮務主事(以下「主事」という。)及び寮務主事補(以下「主事補」という。)と緊密な関係を保ち、その指導と助言を受け、本会の活動が学校の経営と表裏一体となり、学生寮が円滑にして快適に運営されるように努めなければならない。

(組織)

第 4 条 本会は、[第 2 条](#)の目的を達するため、寮生全員をもって組織する。

2 本会に顧問を置く。顧問は主事及び主事補とする。

(機関及び役員)

第 5 条 本会には、次の機関及び役員を置く。

機関

- (1) 総会
- (2) 役員会
- (3) 委員会

役員

- (1) 寮生会会長(以下「会長」という。)
- (2) 寮生会副会長(以下「副会長」という。) 1 名
- (3) 各委員長(各副委員長を含む。) 各 1 名
- (4) ライフマスター 第 3 寮各階, 第 1 寮及び第 6 寮 各 2 名
第 4 寮及び第 5 寮 各 1 名
- (5) 会計 1 名
- (6) 庶務 1 名

第 2 章 会議

第 1 節 総会

(権限)

第 6 条 総会は、本会の最高議決機関で定期総会と臨時総会とする。

(審議及び議決事項)

第 11 条 総会は、次の事項について審議及び議決する。

- (1) 会則の改廃
- (2) 予算及び決算の承認
- (3) 行事計画の承認
- (4) 役員承認
- (5) その他本会に関する事項

(指導)

第 13 条 総会には、常に主事又は主事補の出席を求めることとし、その指導と助言を受けることができる。また、必要に応じて関係教職員の出席を求め、その指導と助言を受けることができる。

第 2 節 役員会

(権限)

第 14 条 役員会は、本会の最高執行機関とする。

(構成)

第 15 条 役員会は、[第 5 条](#)に定める役員をもって構成する。

(業務)

第 16 条 役員会は、総会の決議事項、委任事項及び役員からの提案事項について協議決定する。

(任務)

第 18 条 役員は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を統括し、本会の代表となる。

- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときはその任務を代行する。
- (3) 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、これを主宰する。
- (4) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故のあるときはその任務を代行する。
- (5) ライフマスターは、その管轄する寮棟を統括し、役員会の議決事項を室長に伝える。また、その室長を指導及び助言し、寮生活の向上に努める。
- (6) 会計は、本会会計の収支に当たる。
- (7) 庶務は、総会及び役員会の記録、その保管、印刷物作成配布、寮史の資料収集及びその保管等に当たる。

第3節 各種委員会等

(組織)

第21条 役員会には、本会の任務を円滑に執行するために、次の委員会及び室長会を置く。

- (1) 規律委員会
 - (2) 厚生保全委員会
 - (3) レクリエーション委員会
 - (4) 図書委員会
 - (5) 室長会
- (規律委員会)

第22条 規律委員会に、委員長及び副委員長1名を置き、ライフマスター及び規律委員をもって構成する。

2 規律委員は、寮生の風紀の向上に努め、日課の励行、清掃及び美化の実施を進める。

(厚生保全委員会)

第23条 厚生保全委員会に、委員長及び副委員長1名を置き、厚生保全委員をもって構成する。

2 厚生保全委員会は、寮生の保健衛生及び食生活の向上に努め、洗面補食室、便所、洗濯室、浴室及び食堂等を衛生管理し、健康的な寮生活の維持に努める。また、寮設備の破損個所を点検し、応急処置を行い、学生課寮務係長に報告し寮内の火災、盗難及び事故の防止に努める。

(レクリエーション委員会)

第24条 レクリエーション委員会に、委員長及び副委員長1名を置き、レクリエーション委員をもって構成する。

2 レクリエーション委員は、寮生のレクリエーションに努める。

(図書委員会)

第25条 図書委員会に、委員長及び副委員長1名を置き、図書委員をもって構成する。

2 図書委員は、寮図書室を管理し、図書の整理、保管、閲覧、帯出及び購入に関することを担当し、かつ、寮生の読書意欲の増進を図る。また、寮文芸誌「こげむすび」の発行及び寮生新聞その他寮生機関紙の発行に関することを担当する。

(室長会)

第26条 室長会は、その管轄のライフマスター及び室長をもって構成する。

2 室長会は、ライフマスターが招集し、その議長を務める。

3 室長会は、その担当する寮生の寮生活が円滑に行われるよう助言及び指導を行う。

4 室長会議長は、室長の要望意見を取りまとめて役員会に提出する。

第3章 週番

(週番の種類及び交代)

第28条 本会の運営を円滑にするため、1週間を勤務とする週番を設ける。

2 週番は、寮週番と班週番との2種類とする。

3 週番の交代は、毎週木曜日の午後10時とする。

4 寮週番の交代は、規律委員長及び規律副委員長が立ち会うものとする。

(寮週番)

第29条 寮週番は、前期は2学年が、後期は1学年が寮室ごとに輪番で当たる。

2 寮週番の勤務は、次のとおりとする。

(1) 平日は、午前7時10分から午前8時25分まで、午後4時30分から午後11時25分までとする。

(2) 土曜日は、午前7時10分から午前8時25分まで、午後1時から午後11時

25分までとする。

(3) 休日は、午前7時50分から午後11時25分までとする。

3 寮週番の任務は、次のとおりとする。

(1) 起床、体操、点呼、登校、静粛時間、入浴及び消灯等の放送を行う。

(2) 1日2回、午前8時と午後10時に点呼簿を集計し、宿直教員へ報告する。

(3) 伝達事項を放送する。

(4) 外泊許可願及び欠食届の受付を取り次ぐ。

(5) 外来者の受付を行う。

(6) 電話の取次ぎ及び新聞の配布を行う。

(7) 娯楽室及び1寮ロビーの清掃並びに浴場の清掃及び管理を行う。

(8) その他必要な事項

(班週番)

第30条 班週番は、第1寮、第3寮(新・旧)、第4寮、第6寮の各階及び第5寮に置き、寮室ごとに輪番で当たる。

2 班週番の任務は、次のとおりとする。

(1) 割当区域内を巡視し、起床、就寝、自習、火気、戸締り及び掃除等を督促する。

(2) 廊下、階段、便所、補食室、洗濯場及び屋上等の清掃及び消灯等を行う。

(3) 1日2回、午前8時と午後10時までに、外泊者及び病人等を調べ点呼簿に記入し、寮週番に報告する。

(4) その他役員会が決定した事項を実施する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料7-2-③-5)

月日	曜	学生寮行事	寮学生会主催・協力行事	学校行事
4月 3日	日	学寮保護者連絡会理事会(10:30) 1寮会議室 開 寮(15:00)		
4日	月	入寮式(13:00)・式終了後入寮 第1体育館 学寮保護者連絡会総会(14:00) "	新入寮生荷物搬入 新入寮生の指導(担当:LM) 新入寮生歓迎夕食会(17:30) 寮食堂	入学式・編入学式
5日	火			始業式・対面式
6日	水	新入寮生ガイダンス(8:40) 視聴覚教室 (中旬)新任教員ガイダンス		新入生オリエンテーション(7日まで)
13日	水	自転車の登録(15日まで)		
16日	土	寮生指導者研修会(午後) 視聴覚教室	新入寮生歓迎行事(午前)	
20日	水		放置自転車の整理	
5月 12日	木		寮学生会総会(16:00) 第1体育館	
18日	金			球技大会・授業カット
30日	月			中間試験(5/30~6/3)
6月 3日	金	夕食時間延長(19:30)8月9日まで		
16日	木	寮棟内外一斉清掃(16:00~)	扇風機配布(清掃後)2寮除く 映画祭(19:00) 第1体育館	
25日	土	学寮保護者懇談会 (中旬・下旬)学年別ミーティング 静心館		保護者懇談会(1)
30日	木		寮学生会長選挙	
7月 1日	金	後期入寮願提出期限		
3日	日	学寮保護者懇談会		保護者懇談会(2)
6日	水			壮行式
8日	金			地区高専体育大会 8~10日
22日	金			22~29日 期末試験
8月 4日	日		大掃除・扇風機回収(2寮除く)	全国高専体育大会 4~7日
5日	金			
7日	日			学校見学会
9日	火	部屋替(役員・LM 13:30)		
10日	水	開 寮(10:00)		
27日	土	地区別懇談会(三原会場9:00・福山会場14:00)		
28日	日	" (三次会場9:00・広島会場14:30)		
10月 2日	日	開 寮(15:00)		
3日	月		寮学生会総会・寮学生会役員交代式 (16:00) 第1体育館	後期授業開始・校長訓話
6日	木			特別見学(4年)11~14日
11日	火			MCC研修(4年)12~18日
12日	水			ステップキャンプ(3年)12~14日
14日	金			遠足(1・2・5年)
25日	火	寮生指導者研修会		体育祭 授業カット
26日	水			高専冬季体育大会 11~15日
11月 11日	金		寮 祭(19:00) 第1体育館	高専祭準備 授業カット
17日	木			学校見学会・高専祭 19~21日まで
18日	金			
19日	土			
21日	月	冬季暖房開始		
12月 2日	金	学寮防災避難訓練(7:20)		
5日	木			中間試験 5~9日
12日	月	継続入寮願用紙配布(16日まで)		
23日	水	閉 寮(10:00)		
1月 9日	月	開 寮(15:00)		
11日	水	継続入寮願提出(16日まで)		
24日	火			駅伝大会
27日	金	継続入寮願結果発表		
2月 14日	火		卒業寮生歓送夕食会(17:30) 寮食堂	期末試験14~22日
21日	火			
3月 1日	水	5年・専攻科寮生学寮退出期限(10:00)		終業式
2日	木			
3日	金	部屋替(9:00~)・閉 寮(15:00)	大掃除	
17日	金			卒業式
19日	土	留学生学寮退出期限		

(資料7-2-③-6)

日 課 表

行事	時刻及び時間	
	平日	休業日
起 床	7時20分	7時20分
ラジオ体操・伝達	7時35分	中止
清 掃 ・ 朝 食	7時40分～8時20分	4月～9月 7時25分～8時30分 10月～3月 8時10分～9時
点 呼	8時	
施 錠	8時40分	
昼 食	12時～13時	
開 錠	15時	
入 浴	17時 ～ 21時30分	
夕 食	17時～19時	4月～9月 17時～18時30分 10月～3月 17時～18時
	前期中間試験終了の日から夏季休業開始の日の前日まで	
	17時～19時30分	17時～19時
自 習	19時30分 ～ 21時30分	
静 粛 時 間	21時40分 ～ 23時	
点 呼	22時10分(男子) , 21時(女子)	
門 限	22時(男子) , 21時(女子)	

(資料7-2-③-7)

勉強相談のお知らせ

前期末試験の時期になりました。下記の学生・役員・LMが勉強の相談にのってくれます。

勉強でわからない所があれば質問等に行ってください。

相談にのれる科目、時間帯は表の通りです。

今年度より、全役員・全LMも勉強相談にのってくれます。

1.木曜日までに、1寮事務室前のボックスの中に、名前・質問事項等を記入して入れておいてください。

2.木曜日21時30分頃自習室(物干し場)に資料を持って来てください。優しく教えてくれます。

3.女子寮生は、女子寮内多目的室です。

お礼の言葉を忘れずに言いましょう。

寮棟	階	室番号	学科・学年	名 前	科 目	曜 日	時 間 帯	備考	
1	2	1207	E・5	[Redacted]	数学A・B、専門科目	火～土	21時～22時30分		
	3	1307	A・5		相談事、専門科目、化学		在室はいつでも、23時まで		
2	1	2112	C・5		数学・専門科目	用事がなければ曜日は関係なし	在室時はいつでも		
	2	2220	E・5		専門科目		在室時はいつでも		
	2	2229	M・5		数学・専門科目	在室時はいつでも			
	3	2302	M・5		数学、物理、専門科目	在室時はいつでも			
	3	2227	M・5		専門、一般	用事がなければ曜日は関係なし	21時～		
	3	2325	C・4		数学、物理(1・3年)	在室時はいつでも			
	3	2329	C・4		化学、数学	用事がなければ曜日は関係なし	21時～		
	4	2412	A・5		数学	火、木	21時～22時		
	5	2504	E・4						
	外		自習室			役員・LM	全教科	木曜日役員会議終了後	21時30分ごろから

(分析結果とその根拠理由)

勉学を含む寮生活のための施設を備え、指導体制が機能している。寮生役員を中心とする自主的活動が機能しており、教職員または、保護者との連携がとれている。かつ、寮生指導情報が一元化され、全教員との指導連携体制が構築されている。

観点 7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

進路指導については進路指導委員会を中心に学生の希望進路が実現できるよう様々な指導が実施されている(資料7-2-④-1)。各学科に進路指導担当者を配置し、学生に対して進路相談・進路指導を行う(資料7-2-④-2)と同時に、企業に対しては企業訪問を実施し、就職状況の情報を集めている。

準学士課程の学生については、3・4学年を対象にした就職準備セミナーでは、就職活動スケジュール、エントリーシートについて指導し(資料7-2-④-3)、公務員希望の学生のために国家公務員試験制度説明会・国立大学法人等職員採用試験説明会を実施し(資料7-2-④-4)進学希望の学生には進学ガイダンス(資料7-2-④-5)が開かれている。4学年修了時にはクラス担任と学生・保護者による進路懇談会を実施し、進路相談に応じている(資料7-2-④-6)。5年生はじめに、教員による面接リハーサルを実施し(資料7-2-④-7)、卒業間近には新社会での心構えなどの講習として就職ガイダンスを開催している。

以上の活動をより体系化して行うため、「呉高专キャリア教育プラン“SAPAR(サパー)”」を策定し、平成18年度より運用している(資料7-2-④-8)。

その他、進路資料室には就職・進学情報を備え、図書室にも就職・進学コーナーを設け資料を揃えている。学生には「進路の手引き」を配布し、各自が進路決定のガイドとして利用している(資料7-2-④-9)。また、これ以外にも各学科で独自に勉強会やセミナーが開かれている。

(資料 7-2-④-1)

○呉工業高等専門学校進路指導委員会規則抜粋

平成 16 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校における学生の進路指導を適正、円滑に実施するため、呉工業高等専門学校進路指導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、次の事項を協議する。

- (1) 職業紹介業務の企画・立案に関する事。
- (2) 就職指導、自由応募指導及び進学指導の企画・立案に関する事。
- (3) 進路資料室の整備に関する事。
- (4) その他進路指導全般に関し必要と認められる事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 学生主事
- (2) 学生主事補(就職担当)及び教務主事補(進学担当)
- (3) 各学科主任
- (4) 専攻科長補(進路担当)
- (5) 第 5 学年及び第 4 学年の学級担任
- (6) 学生課長

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料7-2-④-2)

第2回進路指導委員会報告

日 時 平成17年 9月29日 (木) 14:00～15:10
 場 所 第1ゼミナール室 (図書館棟2階)
 出席者 宇根, 吉村, 深澤, 植田, 篠部, 石井, 河口, 藤井 (敏), 正野崎, 森 間瀬,
 欠席者 八木, 中野, 市坪, 黒木, 重松, 野町

(記録) 小林

議 題

1. 平成17年度進路状況について

資料1に基づいて、今年度の進路・就職状況について各学科、専攻科より次のとおり報告があった。

- ① 機械工学科 (卒業予定者 37名)
 就職内定22名, 進学決定13名, 就職未定 (公務員希望) 1名,
 その他 (留学希望) 1名
- ② 電気工学科 (卒業予定者 35名)
 就職内定13名, 進学決定20名, 就職未定2名
- ③ 環境都市工学科 (卒業予定者 35名)
 就職内定14名, 進学決定13名, 就職未定 (公務員希望) 4名, 進学未定4名,
- ④ 建築学科 (卒業予定者 38名)
 就職内定20名, 進学決定13名, 進学未定5名
- ⑤ 専攻科 (修了予定者 21名)
 就職内定14名, 進学決定5名, 就職未定1名, 進学未定1名

※各学科とも昨年に比べて、企業からの求人数は増加傾向にあるとのこと。

2. 平成18年度進路指導業務日程

18年度の進路指導業務日程について、原案どおり了承された。

なお、「面接リハーサル」と「第2回進路指導委員会」については、17年度の日程に準じて、18年度の行事計画立案時に調整することで了承を得た。

3. 就職ガイダンスについて

計画が決まり次第、学生係へ「就職ガイダンス開催要領」を提出するよう要請した。

4. 平成17年度就職対策費 (後援会費) について

各学科10～11万円を上限に計画するよう要請した。

5. 就職準備セミナーについて

4年生を対象とした「就職準備セミナー」を11月25日 (金), 1月13日 (金) に実施することで了承を得た。

6. 進学ガイダンス (5年生による体験談) について

- ・各学科, 学力試験で大学に合格した5年生 (人数は任意) を人選することとした。
- ・対象は1～4年生の希望者とした。

12月16日 (金) 16時からの実施を予定して、人選等については、後日、吉村委員から各学科主任に依頼することとした。

7. 国家公務員試験制度説明会について

3・4年生・専攻科1年生を対象とした「国家公務員試験制度説明会」を12月 9日 (金) に開催することとした。

8. 内定礼状・推薦書について

推薦書等の「貴社」を「御社」に統一することを再確認した。

9. その他

下記のような意見があり、来年度に向けての検討課題とすることとした。

- ① 「面接リハーサル」の日程を早めて欲しい学科がある。
- ② 「就職ガイダンス」を各学科単位で実施するのではなく、外部から専門家を呼んで全学科共通で実施してはどうか。
- ③ SPI試験 (適正試験) を1年次と4年次に、実施してはどうか。
- ④ 今後、各学科において学生間の縦の人間関係を作り上げるための企画・催しなどが実施されるよう学生主事から各学科に依頼があった。

(出典 進路指導委員会)

(資料 7-2-④-3)

準学士課程4年生，専攻科1年生各位

平成17年度 就職準備セミナー

学生主事補 吉村

下記の日程で平成17年度就職準備セミナーを開催致しますので，受講を希望する学生は，当日視聴覚教室に集合して下さい。

記

第1回就職準備セミナー

日時 11月25日（金）16：00～
場所 視聴覚教室
対象 準学士課程4年生，専攻科1年生
内容 「就職精勤スケジュール」，「自己分析」
「情報収集と会社選び」，「自己PRと志望動機」
「SPI試験」

第2回就職準備セミナー

日時 1月13日（金）16：00～
場所 視聴覚教室
対象 準学士課程4年生，専攻科1年生
内容 「エントリーシートの書き方」，「履歴書の書き方」，
「筆記試験対策」，「面接対策」

就職活動において役に立つ事柄について説明します。来年度就職を希望している学生は，是非参加して下さい。

(資料 7-2-④-4)

準学士課程3・4年生
各位
専攻科1年生

学生主事
専攻科長

国家公務員試験制度説明会の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますので多数ご参加ください。

記

日 時 平成17年12月9日（金）
16：00～17：00
場 所 図書館棟1階 視聴覚教室
講 師 人事院中国事務局第二課試験係長
[REDACTED]

※ 国家公務員試験制度説明会終了後、引き続き中国・四国地区国立大学法人等職員採用試験説明会を開催しますので、こちらも多数ご参加ください。

(資料 7-2-④-5)

準学士課程3年生，4年生各位

平成17年度 進学ガイダンスー5年生による体験談

学生主事補 吉村

下記の日程で平成17年度進学ガイダンスを開催致しますので、受講を希望する学生は、当日視聴覚教室に集合して下さい。

記

タイトル 進学ガイダンスー5年生による体験談（参加は自由）
日時 12月16日（金）16：00～
場所 視聴覚教室
対象 準学士課程3年生，4年生

内容

今年の5年生の中から各学科ごとに数名選び、各自の経験（大学の選び方、勉強の仕方、使用した参考書・問題集など）について話をしてもらいます。発表時間は各学科15分です。

参考になることが多いと思われますので、来年度大学編入を希望している学生は、是非参加して下さい。

(資料7-2-④-6-(a))

平成17年12月 日

4年生保護者各位

呉工業高等専門学校長
福 永 秀 春
(公印省略)

進路懇談会の開催日について (お知らせ)

平素は本校の教育にご理解とご支援をいただき、誠に感謝しております。

さて、新5年生を対象とした、進路等に関する懇談会の日程が下記のとおり決定いたしました。

おって、詳細につきましては担任からご連絡させていただきますが、多忙な時期でもございますので、取り急ぎ開催日等をお知らせいたします。

なお、現時点では進級の認定ができませんので、このお知らせを、4年生全保護者に送付していることをご承知ください。

記

- 1 期 日 平成18年3月24日 (金)
- 2 対 象 新5年生及び保護者
- 3 場 所 各学科棟
- 4 内 容 個人懇談 【就職・進学実施状況説明】
(各学科主任・担任を中心に実施)

(資料7-2-④-6-(b))

整理番号						
進路調査票						
()内は○で囲むこと						
平成 年 月 日現在			昭和 年 月 日生 (男・女)			
学科名 出席番号		ふりがな 氏名				
希望状況 *は学校記入	就職	明確な場合	第1希望			
			第2希望			
	不明確な場合	希望産業等				
	勤務地	第1希望		*産業別	1	
		第2希望		*職業別	2	
進学	明確な場合		第1希望			
			第2希望			
不明確な場合						
参 考	趣味			特技		
	免許			資格		
	長所			短所		
ク ラ ブ 活 動	学 年	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年
	所 属 ク ラ ブ					
	役 職 名					
	各 種 委 員					
緊 急 連 絡 の 場 所	休暇時	TEL ()				
	休暇外	TEL ()				
担 任 所 見 欄						

推 薦 状 況 (学校記入欄)						
推 薦 先	求人票番号	推薦月日	採否	採否月日	備 考	
備 考						

(資料7-2-④-6-(c))

就職についての心得

- 1 学校の推薦は必ず受験すること。官公庁・会社を問わず最初に内定したところに必ず就職するとと。
- 2 学校の推薦を受けて受験し、内定した就職先の変更は、求人先に対する道義上は勿論、本校の信用の上からも厳に慎まなければならないが、万一止むを得ない事情が生じたときは、速やかに学科（学級担任不在の時は学科主任以下同じ）に申し出て指示を仰ぐこと。
 なお、自由応募については、この限りではありません。
- 3 現住所あるいは保護者住所に変更があった場合は、速やかに学科と学生係に連絡すること。
- 4 病気、その他の理由で受験が出来なくなった場合は、必ず事前に学科と

学生係に連絡すること

- 5 受験の結果について、会社等から直接本人宛に連絡があらた場合は、学科及び学生係に連絡すること。
- 6 会社等から直接本人宛に不足書類の提出を求めて来たり、照会があったりした場合は、速やかに学科に報告し指示を仰ぐこと。また書類の発送にあたっては、必ず挨拶状を同封して回答すること。
- 7 健康診断書は、先方からの指示がない限り、学校指定の用紙を使用すること。
- 8 書類の不備は注意してもあるものと考え、担任や第三者に必ず目を通してもらうこと。

(資料7-2-④-7)

面接についての心得

1. 面接では何をどのように評価するか

履歴書、身上書、成績証明書等の記載事項にもとづき質問される。人格、性格、ものの考え方や能力等の内面的なものが、主要な評価対象となる。

服装、目の使い方、話し方、音声、動作、姿勢等を通して観察される。

2. 面接時の質問例

- | | | |
|----------|-------------|------------|
| ・志望理由 | ・自己紹介（自己宣伝） | ・学業成績 |
| ・クラブ活動 | ・得意科目 | ・希望の職種・勤務地 |
| ・友人 | ・趣味 | ・高専生活 |
| ・卒業研究 | ・自分の性格 | ・下宿生活 |
| ・寮生活 | ・会社の業準内容 | ・社長名 |
| ・資本金等 | ・時事問題 | ・専門知識 |
| ・会社側への質問 | | |

3. 面接に対する準備

- ① 自己批判を行なっておくことが大切。先生や友人等にしてもらい、それらの評価をもとに改善に努める。
- ② 正しい青葉づかい、礼儀作法を早くから身に付ける。
- ③ 発声法の研究も大切（はっきりと大きめの声で話す）
- ④ 身上書には、どんな質問や追求を受けても完全に答えられるような確かな事を書き、それらについてしっかりと筋道を通る答弁ができるように研究しておく。また、自分が答えた答えに対して、「なぜ」、「どういう理由で」というように切れ目のない矢つぎ早やの質問がある。

4. 面接に臨んで

呼び出しを受ける前に、もう一度服装その他を点検し、気を落ちつかせる。面接室に入ったら後ろに向いてドアを閉め、正面に向きなおって中央の一人に軽く一礼をする。面接者の前に出て一礼し、先方から問われる前に「呉高専の山田三郎です」というように名乗るのがよい。腰掛けに腰をかけるのは、先方の指示があつてからすべきである。終了後は、椅子を元通りに直し、一礼して退出する。ドアを閉じる前に、室内に向かって軽く一礼した方がよい。

(資料7-2-④-8)

「呉高専キャリア教育プラン“SAPAR (サパー)”」(平成18年度版)より抜粋

2、SAPARについて

(1) SA段階(1・2年生)

- ・この社会にどのような職種(大学)があるかを知る
- ・本校の卒業生がどのような職業(大学)に進んでいるかを知る
- ・自分の適性を知る

具体策

- ・オリエンテーション
(学科主任より、5年間の高専生活の過ごし方やSAPARの説明)
- ・LHR「先輩に聞く」
- ・LHR「自己分析」
- ・適性試験
- ・ファクトリー・オフィスツアー(工場見学等)
- ・「呉高専OB・OG近況報告集」の作成(主に1・2年生むけに)

(2) P段階(3年生)

- ・自分の将来について、どのような職種(大学)に進むか明確に意識する
- ・その進路に進むためにどのような努力が必要か、次年度の計画をたてる。

具体策

- ・合同LHR「就職・進学にむけて」
- ・「編入学試験対策セミナーI(数学・英語)」
- ・LHR「自己分析」
- ・TOEICブリッジ試験

(3) A段階(4年生)

- ・前年度の進路プランを実現に向けて具体的に準備・実行する期間とする。
- ・就職試験・編入学試験に必要な情報の入手
- ・就職試験・編入学試験に必要な基本的知識・マナー等の習得(スタイリスト、化粧の仕方)

具体策

- ・SPIの模擬試験(希望者のみ)
- ・TOEIC試験
- ・「就職準備セミナーI」(「就職活動スケジュール」、「自己分析」
「情報収集と会社選び」、「自己PRと志望動機」、「SPI試験」)
- ・「就職準備セミナーII」(「エントリーシートの書き方」、「履歴書の書き方」、
「筆記試験対策」、「面接対策」)

- ・「就職準備セミナーIII」(ビジネスマナー、面接に必要な一般的マナー、時事問題講座)
- ・「編入学試験対策セミナーII - 5年生による体験談 -」
- ・国家公務員試験制度説明会
- ・国立大学法人等職員採用試験制度説明会
- ・インターンシップ(夏季休業中)
- ・進路懇談会(学年末に実施。保護者・本人・担任の三者懇談)

(4) R段階(5年生)

- ・前年度の実績を踏まえ、目標とする進路を実現させる期間とする
- ・自身の体験を後輩に伝える
- ・新しい社会に飛び込むための事前学習(心構え等)

具体策

- ・面接予ハーサル
- ・就職試験・大学編入学試験とも終了後に報告書を提出
- ・大学編入学試験の問題が入手できれば提出
- ・合格体験記を書く
→上記の3つは進路資料室・学科の両方でこれを閲覧できるように体制をとる。
- ・1年生のLHRで体験談を語る
- ・これから迎える新生活にむけ、社会人(OB・OG)から実体験に基づく話を聞く(就職ガイダンス)

(5) その他(全学年にわたって共通事項)

- ・年度始めに各教室に各学科の前年度の就職・大学編入学実績を掲示
- ・年度始めに各教室に「今年度の進路支援行事カレンダー」を掲示

SAPARのそれぞれの企画内容

LHR「先輩に聞く」

- ・目的=1年生に5年生に実体験に基づく体験談を聞かせることによって、4年後の自分を投影させ、将来に対するの展望を持たせる。

- ・実施方法=1年生の7~12月のHRで5年生の体験談を聞く(就職・進学習いずれも)。1、2回程度実施
*クラス担任は年度始めに学科主任と日程等について協議する
*派遣学生についての人選は学科主任が行い、学生は公認欠席扱いとする

(資料7-2-④-9)

「就職の手引」

目次

- ・就職についての心得.....1
- ・就職支援に関する日程.....2
- ・面接についての心得.....3
- ・就職準備セミナー.....4
- ・公務員について.....6
- ・就職ガイダンス.....10
- ・就職活動についてのQ&A.....11

参考資料

- ・平成16年度就職担当者名簿.....13
- ・進路調査票(記入例).....14
- ・履歴書(記入例).....15
- ・健康診断書について.....16
- ・平成12年度卒業の就職状況.....17
- ・平成13年度卒業の就職状況.....20
- ・平成14年度卒業の就職状況.....23
- ・平成15年度卒業の就職状況.....26
- ・平成15年度求人一覧.....29

「進学の手引」

目次

- ・進学を希望する皆さんへ.....1
- ・大学編入学及び専攻科進学状況(過去3年間).....2
- ・平成15年度大学編入学募集要項リスト.....3
平成16年度用は逐次、進路資料室に張り出します。
- ・大学編入学試験の受験対策・心構え・勉強法のアドバイス.....11

一般科目関連

- 英語.....12
- 数学.....14
- 物理.....16

専門科目関連

- 機械工学科.....17
- 電気工学科.....18
- 環境都市工学科.....22
- 建築学科.....24

(分析結果とその根拠理由)

学生の進路支援は進路指導委員会を中心に体制が整備され、就職セミナー、進学セミナー、面接リハーサルなどの各種支援により、本校では就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

従来の進路指導の充実化をはかるために、呉高专キャリア教育プラン「SAPAR」策定し、運用を開始した。

(改善を要する点)

学生支援はある程度整備されているが、編入学生に対する学生支援の充実化が望まれる。

(3) 基準7の自己評価の概要

本校では各種ガイダンスや学習環境を整備し、学生の学習支援体制が整備されている。また、学生生活・経済面の支援体制も学生指導委員会を中心にきめ細かな生活指導が行われ、奨学金や授業料免除制度による支援も整備されている。課外活動に対しても各クラブ顧問による適切な指導・助言が行われ、留学生、編入学生に対しても施設・設備が整備され、留学生チューター、留学生里親会など十分なバックアップが実施されている。学生寮も学生の生活の場、勉学の場として有効に機能するよう学生への指導体制が構築され、機能している。学生の進路指導は進路指導委員会を中心に各種ガイダンス・セミナー等を実施し、学生の希望する進路決定に十分機能している。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校は、高等専門学校設置基準第23条に基づき、教育環境の改善整備を図っている。具体的には、平成13年の建築学科棟・電気情報工学科棟・機械工学科棟、平成14年に管理棟・普通教室棟・環境都市工学科棟の改修工事に合わせて教室の狭隘化解消工事を施工し、同時に授業内容の変化に対応できるように実験室、製図室、情報処理室等も整備している。それとともに、耐震性などの安全性にも配慮した改善整備を図っている。また、各教室には冷暖房を完備し、快適な教育環境で授業が受けられるようになっている。専攻科学生には学生研究室が用意され常時使用できる。このような取組の成果として、資料に示す主な施設・設備が整備されている(資料8-1-①-1)。資料以外にも、屋外の体育施設として野球場、サッカー場、ラグビー、陸上競技場、テニスコート等を備える。

大型設備の使用状況は資料のとおりである(資料8-1-①-2)。教室等の使用状況は授業時間割表のとおりである(授業時間割表は訪問調査時に資料提示)。実習工場は、工作実習、創造製作、工学実験等の授業での使用に留まらず、各学科の卒業研究用、学術研究用機器の製作など幅広く利用されている(資料8-1-①-3)。本校内にある学生寮は、利用率が95%であり(資料8-1-①-4)、学校の規則ある管理のもとで、学生の快適な日常生活と学習環境を確保している。屋外の体育施設の野球場やテニスコート等は、授業のほか教職員及び学生の福祉厚生用として利用されるだけでなく、公開講座でも使用され、使用料徴収のうえ一般に公開している。

(資料 8-1-①-1)

呉工業高等専門学校 施設の概要

XX 施設の概要 Lands and Buildings

■ 敷 地 Lands

総面積 Total Area	校舎・学寮等敷地				職員宿舎敷地 Personnel Housing Lands
	校舎敷地 Building Site	運動場敷地 Grounds Site	学寮敷地 Dormitory Site	計 Total	
102,514 m ²	53,697 m ²	36,510 m ²	8,317 m ²	98,524 m ²	3,990 m ²

■ 建 物 Buildings

区 分	Classification	構造 Structure	延面積 (m ²)	延面積 (m ²)	
校舎 College Building	普通教室	General Education	R3	585	1,762
	第二普通教室	General Education 2	R3	212	665
	機械工学科	Mechanical Engineering	R3	591	1,765
	電気情報工学科	Electrical Engineering	R3	591	1,765
	建築都市工学科	Architecture and Structural Engineering	R3	591	1,765
	環境都市工学科	Civil and Environmental Engineering	R4	607	2,365
	専攻工学科	Advanced Engineering Faculty	R4	313	954
	実習工場	Factory Practice Workshop	S1	660	660
	実習工場材料置場	Material Storehouse for Workshop	B1	39	39
	情報処理センター	Computer Laboratory	R1	301	301
	仮設実験室	Temporary Laboratory	S1	68	68
	基礎工学実験室	Fundamental Engineering Laboratory	R2	51	92
	女子便所	Lavatory for Women	B1	17	17
	総合教育センター・地域共同テクノセンター	Center for Engineering Education・Center for Technology Research and Development	R4	364	1,426
	図書館 Library	図書館 Library	R2	826	1,728
	管理部 Administration	管理棟	Administration Building	R3	519
警衛所		Guard's office Man's Room	R1	17	17
車庫		Garage	R1, B1	138	138
物産品庫		Storeroom	B1	78	78
燃料庫		Fuel Storehouse	R1	41	41
危険薬品庫		Chemicals Storehouse	B1	30	30
屋外便所		Outdoor Restroom	B1	10	10
〃		Outdoor Restroom	B1	23	23
設備室		Equipment Room	R1	224	224
倉庫		Storeroom	R1	54	54
〃		Storeroom	R1	530	530
〃		Storeroom	B1	10	10
電気室		Electricity Room	S1	28	28
普通教室倉庫		Boiler Room	S1	10	10
機械工学科ボイラー室		Boiler Room	S1	9	9
建築学科ボイラー室		Boiler Room	S1	10	10
電気情報工学科ボイラー室	Boiler Room	S1	10	10	
屋内運動場 Gymnasium	体育館	Gymnasium	S1, B1	1,184	1,184
	第二体育館	Gymnasium 2	S1	880	880
	武道場	Martial Arts Gymnasium	S1	399	399
	水泳プール付属室	Swimming Pool Annex	R1	76	76
福利厚生施設 Welfare Facility	体育器具庫	Storehouse for Physical Education Apparatus	B1	67	67
	〃	Storehouse for Physical Education Apparatus	B1	76	76
	食堂	Cafeteria	B1, R1	302	302
	合宿研修施設洋弓場	Sports Club Facility	R1	234	234
	体育器具庫兼更衣室	Storehouse for Physical Education Apparatus	B1	48	48
	〃	Locker Room	B1	60	60
寄宿舎 Dormitory Facility	学生更衣室	Changing room for students	B1	132	132
	課外実習室	Extracurricular Workshop	B1	125	125
	福利施設	Welfare Building	R2	0	629
	第一寮	Dormitory 1	R4	436	1,283
	第二寮	Dormitory 2	R3	681	2,967
	第三寮	Dormitory 3	R3	290	868
	第四寮	Dormitory 4	R3	110	326
	第五寮	Dormitory 5	R3	234	719
	食堂・浴室	Dormitory Refectory, Bathhouse	R2	608	608
	食品庫	Food Storehouse	B1	20	20
宿舎	洗濯場	Laundry	B1	19	19
	ボイラー室	Boiler Room	R1	133	133
	計	Total		13,671	29,299
	職員宿舎	Personnel Housing (広)	W1, W2	1,363	1,380
〃	Personnel Housing (青山)	R5	284	1,395	

(出典 平成17年度要覧)

(資料 8-1-①-2)

大型設備一覧表

一般科目

- ・ X線解析装置 (自動 X線解析装置システム 理学電機(株)製)
2000年3月31日設置 16,894,500円
- ・ 分光光度計 (光吸収スペクトル測定装置 日本分光製 SGA-1S型)
1996年3月27日設置 10,918,000円
- ・ 語学演習装置 (マルチメディア教育システム)
2003年3月31日設置 19,522,925円
学生の教育に使用

機械工学科

- ・ 内燃機関性能試験装置 (内燃機関性能総合試験装置 東京プラント(株)製 TPS-EDB-30)
2001年3月30日設置 15,970,500円
教員研究及び学生の卒業研究に使用
- ・ 顕微鏡 (X線マイクロアナライザ)
1991年3月28日設置 14,214,000円
教員研究及び学生の卒業研究に使用

電気情報工学科

- ・ 回路試験器 (ミリ波スペクトルアナライザ YHP8566B)
1999年3月25日設置 13,550,000円
教員研究及び学生の卒業研究に使用
- ・ 電子スピン共鳴装置
1996年3月28日設置 14,296,400円
教員研究及び学生の卒業研究に使用
- ・ プリント基板加工システム
2004年3月15日設置 12,525,975円
教員の研究及び学生の卒業研究に使用

環境都市工学科

- ・ 圧縮試験器 (サーボコントロール式ハイマルチ 圓井製作所製 自動三軸試験器)
1991年3月25日設置 11,654,360円
教員研究及び学生の卒業研究に使用
- ・ DNA増幅装置 (マルチキャピラリーDNA解析装置 米国ベックマン・コールター社製 CEQ2)
2002年3月11日設置 10,508,400円
教員研究及び学生の卒業研究に使用
- ・ 環境モニタリングを活用した地域防災教育システム
2006年3月28日設置 10,081,368円
教員の研究及び学生の卒業研究に使用

専攻科棟

- ・ 送受信機装置 (衛生通信大学間ネットワークシステム VSAT局 一式)
1999年11月19日設置 64,347,854円

機械工学科実習工場

- ・ 研削盤・形削盤 (内型複合プレーナ (平削盤) 丸福鉄工所 DP130H-2.5M (G2型電磁・クラッチ駆動))
1982年3月30日設置 18,110,000円
教員研究及び学生の実験・卒業研究に使用
- ・ フライス盤 (マシニングセンタ三菱重工 M-V40A)
1994年3月25日設置 13,724,750円
教員研究及び学生の実験・卒業研究に使用

情報処理センター

- ・ LAN装置 (ATMネットワークシステム)
2000年3月31日設置 10,067,400円
校内及び学生のネットワーク利用に使用
- ・ LAN装置 (情報ネットワークシステム)
2002年3月29日設置 29,707,860円
校内及び学生のネットワーク利用に使用

学生係

- ・ 自動発券機 (証明書自動発行システム)
2000年3月31日設置 10,503,801円

(出典 会計課)

(資料 8-1-①-3)

実習工場利用状況

1. 授業関係

曜日	期	1	2	3	4	5	6	7
月	前期						1 M 工作実習	
	後期						2 M 工作実習	
火	前期						2 M 工作実習	
	後期	4 A 示範実験					1 M 工作実習	
水	前期	5 M 工学実験					5 M 卒業研究	
	後期						5 M 卒業研究	
木	前期						3 M 工作実習	
	後期						3 M 工作実習	
金	前期						5 M 卒業研究	
	後期	5 M 卒業研究						

(注) 1. 4 A 示範実験は 2 週

2. E・C・A 科の卒業研究・特別研究も随時利用している。

2. クラブ関係

○放課後は、自動車部・ロボコン部等が利用する。

3. 工作物依頼関係

○授業のない時間に行っている。平成 15 年度に行った学科別依頼状況を示す。

工 作 物 依 頼 状 況								
	M 科	E 科	C 科	A 科	G 科	学生課	技術室	合計
件 数	11	4	21	3	5	1	14	59
時間数(H)	428	19	179	41	33.5	1	57	758.5

(出典 実習工場利用状況)

(資料 8-1-①-4)

○ 平成 17 年度寮生数

平成 17 年 5 月 1 日現在

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	留学生	合 計
機械工学科	22 (1)	18	12	18	17	1	88(1)
電気情報工学科	14 (1)	12 (1)	10 (2)	15 (1)		2	53(5)
電気工学科					14 (2)	1	15(2)
環境都市工学科	13 (4)	13 (4)	12 (3)	9 (2)	13	3	63(13)
建築学科	21 (6)	20 (4)	14 (6)	13 (3)	15 (9)		83(28)
本 科 生 計	70(12)	63 (9)	48(11)	55 (6)	59(11)	7	302(49)
専 攻 科	4	5					9

()は、内数で女子学生を示す。

(出典 平成 17 年度要覧)

(分析結果とその根拠理由)

平成13年の建築学科棟・電気情報工学科棟・機械工学科棟，平成14年に管理棟・普通教室棟・環境都市工学科棟の改修工事に合わせて教室の狭隘化解消工事を施工し，学生一人当たりの面積を拡大するとともに，耐震性などの安全性にも配慮した教育環境の改善整備を図っており，教育課程の実現にふさわしい施設・設備の整備に取り組んでいる。施設・設備の整備は進んでいるが，今後の教育・研究のさらなる発展及び創造教育を充実させるためには，よりいっそうの整備の充実と効果的利用法等の改善が必要である。

観点 8-1-②： 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

学生が必要とする情報が呉高専のホームページ上に公開され，必要な情報が随時得られる状況が整備されている。情報は主に学習と学生生活に分けられる。学習については全科目のシラバスが公開され，英語学習支援のための e-learning システムが校内端末から利用できる(資料 8-1-②-1)。学生生活については奨学金や学生相談室等の情報が公開されている(資料 8-1-②-2)。とりわけ学内向けのホームページで呉高専キャリア教育プラン「SAPAR」の一環として，進路相談，就職情報，進路情報，各種証明書に関する情報を提供している(資料 8-1-②-3)。

上記の情報ネットワークのセキュリティは，情報化・セキュリティ委員会が管理する(資料 8-1-②-4)。具体的なネットワーク整備状況は以下のとおりである(資料 8-1-②-5)。基幹となるネットワークは 100BASE で，それ以外は 100BASE でネットワーク環境が構築されている。また，外部接続回線速度は 10Mbps である。セキュリティ対策として，ファイアウォールとウィルスゲートウェイを設置しており，各パソコンにはウィルスソフトを導入するなどのセキュリティ対策を行っている。本校では学生が授業や放課後に演習室，図書館，寮のパソコンを利用する際，どのパソコンからでも自分のユーザ環境が利用できるように，学生のユーザデータをネットワークでファイルサーバに保存しており，どの端末からも各自のユーザ環境を利用することが可能である。また，授業時間以外の情報処理センター演習室は開放されており(資料 8-1-②-6)，学生に有効に活用されている(資料 8-1-②-7)。

(資料 8-1-②-1)

「呉高専ホームページ上に公開されたシラバスの目次」

目次		
<p>(はじめに 1.学校の教育理念と教育目標 2.進級・卒業認定、単位互換、付加単位について 3.JABEE(日本技術者教育認定機構)について 4.英語資格試験受験のススメ</p>		
各学科共通 一般科目	概要	
	教育課程表	第1学年及び第2学年 第3学年 第4学年 第5学年
	一般科目 目次一覧表	
	概要	
	学習・教育目標 機械工学科・専攻科機械工学コースの授業科目系統図 機械工学コースの学習・教育目標とJABEE基準1に主体的に対応する科目(2006年度) 資格取得について	
機械工学科	教育課程表	第1学年 第2学年 第3学年、第4学年及び第5学年
	専門科目 目次一覧表	
	ダウンロード(一般科目から専門科目まで)	
	概要	
	学習、教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ エネルギー制御コース授業科目系統図 情報通信コース授業科目系統図 教育目標とカリキュラムの対応 公認資格試験案内	
電気情報工学科	教育課程表	エネルギー制御コース 情報通信コース
	専門科目 目次一覧表	
	ダウンロード(一般科目から専門科目まで)	
	概要	
	学習・教育目標 授業科目系統図(平成16年度以降入学生適用)(平成15年度以前入学生適用) 科目ごとの学習教育目標とJABEE基準1(Ⅰ)の対応 資格への道しるべ	
環境都市工学科	教育課程表	建設システムコース 第1学年、第2学年及び第3学年 環境システムコース 第1学年、第2学年及び第3学年 第4学年及び第5学年
	専門科目 目次一覧表	
	ダウンロード(一般科目から専門科目まで)	
	概要	
	学習・教育目標を達成するための授業科目の流れ 建築学科・専攻科建設工学建築系の授業科目系統図 建築学科の学習・教育目標とJABEEの学習・教育目標と対応科目の関係 学習・教育目標を達成するために必要な専門知識・能力等の具体的な内容と専門科目 建築関係の資格	
建築学科	教育課程表	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年
	専門科目 目次一覧表	
	ダウンロード(一般科目から専門科目まで)	

(出典 呉高専ホームページ)

(資料 8-1-②-2)

「呉高専ホームページ上に公開された学生生活に関する情報の見出し」



(出典 呉高専ホームページ)

(資料8-1-②-3)

呉高専キャリア教育プラン「SAPAR」

[トップ](#)
[サイトマップ](#)

SAPAR

呉高専キャリア教育プラン

[スケジュール](#)
[進路相談](#)
[就職情報](#)
[進路情報](#)
[メッセージ](#)
[各種証明書](#)
[リンク](#)
[ダウンロード](#)
[メルマガ](#)

SAPARとは

5年生

4年生

3年生

2年生

1年生

サパー ニュース

呉高専の学生を対象とした最新情報をお伝えします。
 学生課学生係で受け取った求人票、大学編入学、大学院情報は、各コーナーに随時アップされています。
 こちらの「サパーニュース」は、最新の1ヶ月ものです、過去のニュースは「バックナンバー」を参照してください。

更新日	更新内容
5/18	編入学募集要項
5/16	編入学募集要項
5/10	新着求人票
	編入学問題
5/9	編入学募集要項
5/01	編入学募集要項

(出典 呉高専ホームページ)

(資料8-1-②-4)

○呉工業高等専門学校情報化・セキュリティ委員会規則

平成 16 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校情報化・セキュリティ委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、次の事項を協議する。

- (1) 情報処理教育の充実と研究のための基本計画及び設備計画に関すること。
- (2) 情報セキュリティに関すること。
- (3) 情報化の推進に関すること。
- (4) 情報処理センターの管理運営の基本計画に関すること。
- (5) その他情報化、情報セキュリティに関し必要と認められること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 情報処理センター長
- (2) 情報処理センター長補
- (3) 地域研究主事補のうちから 1 名
- (4) 一般科目及び各専門学科の教員のうちから各 1 名
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 委員長は、委員会の会議(以下「会議」という。)に庶務課長、会計課長及び学生課長を出席させる。

(任命)

第 4 条 前条第 1 項第 4 号及び第 5 号に定める委員(以下「第 4 号等委員」という。)は、校長が任命する。

(任期)

第 5 条 第 4 号等委員の任期は 1 年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 第 4 号等委員は、再任することができる。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、情報処理センター長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。

(運営)

第 7 条 会議は、委員長が招集し、議長となる。

第 8 条 委員長は、会議で協議した事項を総括して校長に報告し、承認を受けなければならない。

(委員以外の者の出席)

第 9 条 委員会において必要があると認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第 10 条 委員会の庶務は、学生課教務係において処理する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

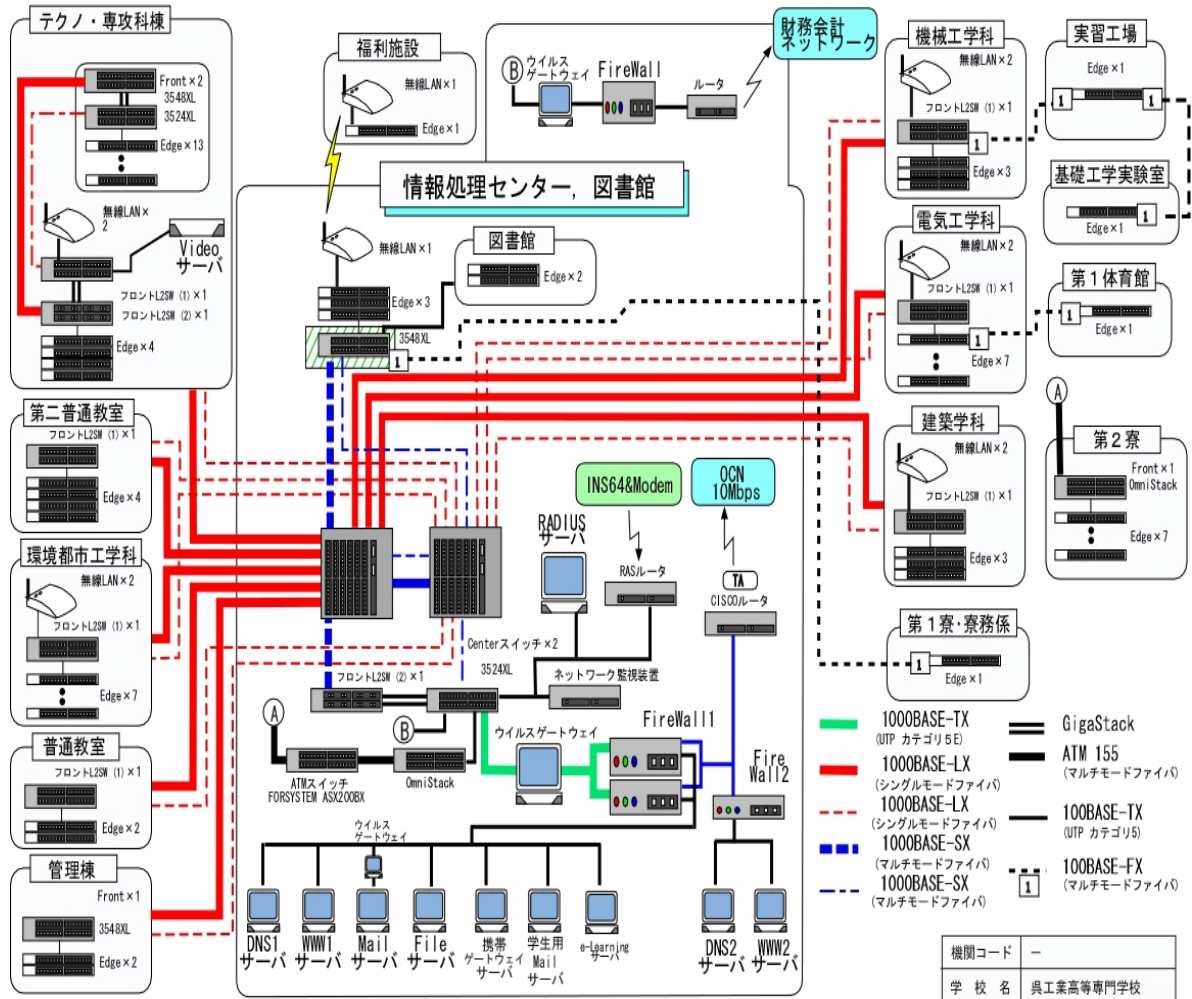
附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(資料 8-1-②-5)

呉工業高等専門学校 ネットワークシステム構成図



(出典 呉工業高等専門学校 ネットワーク構成図)

(資料 8-1-②-6)

平成17年度 情報処理センター利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1		C5 情報処理Ⅱ	C5 構造力学Ⅱ	C4 数値解析	
2		中野	中野	橋本	
3	A5 情報処理	A4 CAD・CG		A3 情報処理	
4	正野崎	間瀬		門前	
5	A4				M3 情報処理
6	設計製図	M3		A4 情報処理	山田・上寺
7	岡本・間瀬	製図		正野崎	
8		中迫			

平成17年度 パソコン演習室利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1	C4 情報処理Ⅰ	M4 情報処理	M4 創造演習Ⅱ	M4	
2	中野	野原	山田	工学実験	
3	A2 造形	C3 創造演習		野原・岩本 山田・上寺	A4 工業英語
4	岡本・仁保	森脇・山岡・堀口	C1 情報処理 森脇		松野
5	S2 数値熱流体力学	M4	C3 情報処理Ⅰ 橋本		
6	野村(高)	製図			C2 情報処理
7	A5 建築防災工学	野村(高)・上寺			市坪
8	門前				

平成17年度 マルチメディア教室利用時間割(後期)

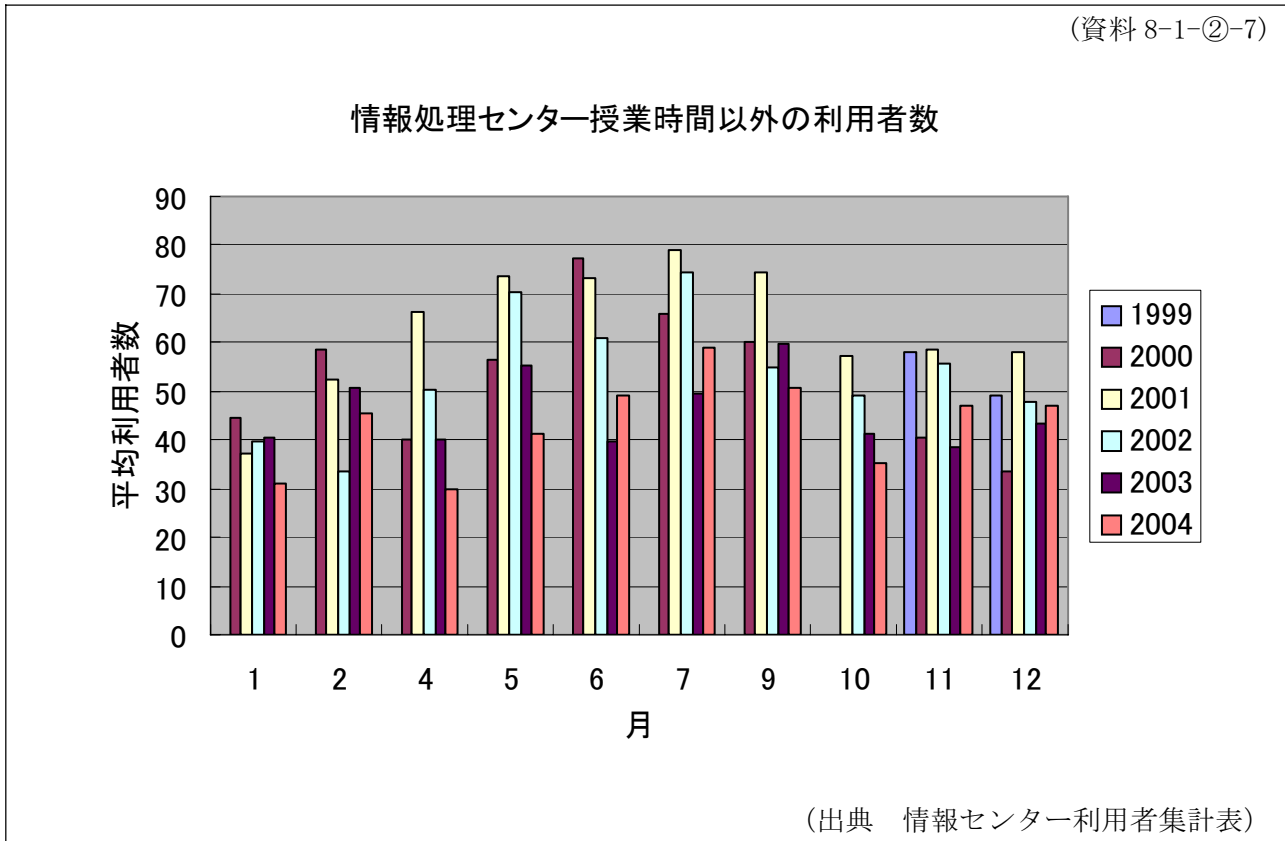
	月	火	水	木	金
1	C2 総合英語 高島	E3 オーラル 川尻		A3 オーラル 中山	C3 オーラル 中山
2	M1 総合英語 江口			M3 オーラル 中山	
3	E2 総合英語 高島	M2 総合英語 中山	4選択 オーラルⅡ	C1 総合英語 川尻	M4 総合英語 高島
4			高島	E4 総合英語 高島	
5	C5 総合英語 江口	S1 英語コミュニケーション		E1 総合英語 江口	A2 総合英語 中山
6	A5 総合英語 江口	高島			A1 総合英語 川尻
7					

平成17年度 E科情報処理演習室利用時間割(後期)

	月	火	水	木	金
1	E1 CAD				E2 情報処理Ⅱ
2	野村(博)・三島	E2			板東
3	E3 情報処理Ⅲ	実験	E1 情報処理Ⅰ		E5 電子回路設計
4	田中	田中・横瀬 井上・三島	板東・井上		横沼
5	E4	E3			
6	実験	実験			
7	山崎・横沼 井上・三島	野村(利)・藤井(敏) 井上・三島	E4 IC設計 (山内)	E4 アルゴリズム 田中・井上	
8					

(出典 呉工業高等専門学校 授業時間割)

(資料 8-1-②-7)



(分析結果とその根拠理由)

現在のネットワーク環境はファイアウォールやウィルスゲートウェイが設置されており、セキュリティ対策も十分なネットワーク環境であり、ネットワーク速度も十分であるといえる。

観点 8-2-①： 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

系統的に資料を整備するため、全教員から購入図書の要望を集め、各学科の委員が要望を集計・調整する。その際、要望は分類項目（1. 人文・社会科学， 2. 自然科学， M. 機械， E. 電気， C. 環境， A. 建築， 4. 共通， 5. 総記）ごとに調整される(資料 8-2-①-1)。その結果、現在所蔵する約 7 万冊の資料は系統的に整備されている(資料 8-2-①-2)。平成 6 年 3 月には CD・LD 資料(資料 8-2-①-3)が利用できる視聴覚コーナーを閲覧室の一角に設置し、視聴覚資料もあわせて整備している。

そのように系統的に整備した資料の有効利用を図るため、以下に述べる様々な工夫をし、資料は有効に活用されている(資料 8-2-①-4)。図書館では、昭和 63 年 4 月に初めてパソコンによる貸出・返却業務を導入し、平成 8 年 3 月には UNIX コンピュータによる本格的な図書館管理システムの運用を開始した。平成 9 年 1 月から図書館ホームページから OPAC を公開し、平成 14 年 3 月には学術情報センターで稼動している新しい通信プロトコル CATP を採用した図書目録所在情報システムを導入して現在に至っている。

図書館ウェブサイトには、新着図書紹介、話題の本掲載などに加えて、情報検索用に国立情

(資料 8-2-①-3)

視聴覚資料

区分	レーザーディスク	コンパクトディスク	DVD
枚数	244	29	237

(出典 平成17年度要覧)

(資料 8-2-①-4)

平成17年5月1日

第 128 号

(1716頁)

○ 平成16年度図書統計

1 利用 (開館日数 257日)

貸出冊数・人員

上段:冊数
下段:人員

区分 学年	機 械 工 学 科	電 気 情 報 工 学 科	電 気 工 学 科	環 境 都 市 工 学 科	建 築 学 科	機 械 電 気 工 学 専 攻	建 設 工 学 専 攻	合 計
1 年	378 165	292 112	/	139 75	129 58	/	/	938 410
2 年	170 77	263 78	/	101 31	191 67	/	/	725 253
3 年	193 77	182 64	/	101 41	182 71	/	/	658 253
4 年	248 97	/	665 202	373 109	923 228	/	/	2,209 636
5 年	335 105	/	703 207	318 105	525 165	/	/	1,881 582
専攻1年	/	/	/	/	/	47 20	72 23	119 43
専攻2年	/	/	/	/	/	230 70	154 41	384 111
学生計	1,324 521	737 254	1,368 409	1,032 361	1,950 589	277 90	226 64	6,914 2,288
教 員	/	/	/	/	/	/	/	182 60
職 員	/	/	/	/	/	/	/	246 70
学 外 者	/	/	/	/	/	/	/	59 24
合 計	/	/	/	/	/	/	/	7,401 2,442

※教員分は非常勤講師も含む。

入館者数

学 生	教 員	職 員	学 外 者	合 計
26,973	315	66	192	27,546

※教員分は非常勤講師も含む。学生は聴講生も含む。

(出典 呉工業高等専門学校学校報 第128号)

(資料 8-2-①-5)

呉高専図書館

呉工業高等専門学校

⇒ TOPページ

情報検索

学内専用の電子ジャーナル、データベースの一覧です。積極적으로ご利用ください。


【電子ジャーナル】(学内専用)

- [SD\(Science Direct\)](#)
 エルゼビアが提供する世界最大の電子ジャーナルサービスです。エルゼビアグループが発行する1,800以上の科学・技術・医学・社会科学分野のジャーナルのうち約1,000誌のフルテキストが利用できます。

【データベース】(学内専用)

- [MathSciNet](#)
 米国数学会が提供する、世界の数学文献をカバーする包括的な書誌・レビューデータベースです。
- [利用マニュアル\(丸善提供\)](#)
- [KANON\(カノン\)](#) 約16,000誌の外国雑誌の目次情報を収録し、目次情報から電子ジャーナルへ直接アクセスできます。
- [JDream](#) JST提供の科学技術全分野のデータベースです。
- [機関別定額制CiNii\(サイニイ\)](#) 国立情報学研究所が提供する情報検索サービスです。

↑ TOPページへ
→ 次のページへ



→お問い合わせ →このサイトについて

呉工業高等専門学校 図書館 Copyright © 2004 Kure College Of Technology. All rights reserved.

(出典 呉高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

十分な資料が所蔵され、明確な整備方針の下で、学習・研究用に供されている。図書整備もその整備方針の下で継続的に実施されており、本校図書館は図書・資料等が系統的に整備され、有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

校舎の改修工事に合わせて教室の狭隘化解消工事を施工し、学生一人当たりの面積を拡大するとともに、耐震性などの安全性にも配慮した教育環境の改善整備を図っている。情報ネットワークについ

では、セキュリティ対策をハード・ソフトの両面から行っており、安全に利用されている。図書館において、学習の利便性に配慮した図書の整備と開架がなされている。学生へPR活動として、学習・研究支援のためのオリエンテーションが計画的に実施されている。また、学習利用への利便性を高めるために、時間外の利用時間の拡大や、図書館ホームページからOPACの公開等、学生を支援することがなされている。

(改善を要する点)

教育課程の実現にふさわしい施設・設備の整備は行われているが、今後の教育・研究のさらなる推進のためには、よりいっそうの整備の充実と効果的利用法等の改善が必要である。

学生寮は、教育寮として教員の指導の下にあるが、老朽化が著しく生活環境が劣悪であり、早急に改修が望まれる。

また、地盤沈下等により校内に雨水が溜まるため、基幹整備が望まれる。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

校舎の改修工事に合わせて教室の狭隘化解消工事を施工し、学生一人当たりの面積を拡大するとともに、耐震性などの安全性にも配慮した教育環境の改善整備を図っており、教育課程の実現にふさわしい施設・設備の整備に取り組んでいる。施設・設備の整備は進んでいるが、今後の教育・研究のさらなる発展及び創造教育を充実させるためには、より一層の整備の充実と効果的利用法等の改善が必要である。

現在のネットワーク環境はファイアウォールやウィルスゲートウェイが設置されており、セキュリティ対策も十分なネットワーク環境であり、ネットワーク速度も十分であるといえる。しかしながら、今日学生寮において各室からLAN接続環境の整備が望まれるが、電源容量不足などの要因で未整備であり、改善が望まれる。

本校図書館においては、十分な資料が所蔵され、明確な整備方針の下で、学習・研究用に供されている。図書整備もその整備方針の下で継続的に実施されており、本校図書館は図書・資料等が系統的に整備され、有効に活用されている。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育の質の向上及び継続的な改善を目的として、平成10年度から学生による授業アンケートとその評価(資料9-1-①-1 訪問調査時に提示)、平成14年度から各教室で定期的に公開授業(資料9-1-①-2)とその評価(資料9-1-①-3)、平成17年度から各授業の達成度評価(資料9-1-①-4)、複数の教員間で行う成績評価点検(別添資料9-1-①-5)を行い、それらの資料を保管している。また試験答案や成績集計表などの成績評価に関わるエビデンスの保管(資料9-1-①-6)、(資料9-1-①-7, 資料9-1-①-8 訪問調査時に提示)も平成11年度から継続的に行っている。またオフィスアワーやロングホームルームの活動状況についてもエビデンスを保管している(資料9-1-①-9, 資料9-1-①-10)。

(資料9-1-①-2)

公開授業の実施計画

実施担当代表者	岡中 正三
授業担当者名	岡中 正三
授業の学科, 学年科目名	建築学科, 第2学年・数学B
日時	平成17年11月9日(水), 2時限(9:30~10:20)
場所	建築学科第2学年・ホームルーム
授業観察者名	左古悦雄, 黒川康宏, 赤池祐次

(資料 9-1-①-3)

公開授業チェックシート(授業観察者用)

[氏名]

記入要領

各チェック項目に対して、YES の場合 回答欄に ○ を、NO の場合 × を、回答不可の場合 / を記入する。また、単純に YES・NO で答えられない場合、さらに細かくコメントしたい場合などは備考欄に記入する。

(チェック1)授業の始めに

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	授業の始めに授業の概略を学生に示しているか		
2	授業の始めに前回の授業と関連させているか(簡単な復習など)		

(チェック2)説明の仕方について

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	説明は学生にわかりやすいか(論理的か、図や例を示しているか、など)		
2	授業が単調にならないように変化をつけているか		
3	授業内容の重要性に応じて声に強弱をつけるなどしているか		
4	黒板の板書は読みやすいか		

(チェック3)質問について

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	学生への質問は、学生の理解を深める助けになっているか		
2	学生からの質問に対して、理解できるように、丁寧に、熱心に答えたか		
3	全学生が聞き取れるように必要に応じて答えを反復したか		

(チェック4)教員の授業態度について

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	教員の声ははっきり聞き取れるか		
2	話す速度は適切か。学生がノートをとるのに適切な速さか		
3	学生の方向を見て話をしているか		
4	寝ていたり、アルバイトをして授業に集中していない学生を注意しているか		

(チェック5)授業の終りに

	チェック項目	回答欄	備考欄
1	授業の最後にまとめを行っているか		
2	授業を次回の授業と関連させるを行っているか		

(資料 9-1-①-4)

授業の理解度 (学習・教育目標の達成度) 自己点検シート

科目名		学年		番号		氏名	
担当教員		単位数		必修・選択		前期・後期・通年	
点検日	年 月 日	学習姿勢				理解度	%
予習時間	分	復習時間		分		自己評価	優・良・可・不
授業の要点 (キーワード)							
理解できなかった・難しかった内容							
質問, 要望							

(資料9-1-①-5)

教育改善委員会資料

学内における成績評価点検指針

目的

定期試験やレポートの内容が、各プログラムの学習・教育目標に合致したものであるか、またその評価が適切に行われているかを、複数の教員間で点検することを目的とする。

実施時期

本科：前期末および学年末試験終了後に行う。

専攻科：各科目の期末試験終了後に行う。

対象科目

全科目について実施する。

実施要領

一般科目および各学科専門科目において、関連科目を担当する複数の教員からなる授業科目点検ワーキンググループを組織し、このワーキンググループ内で成績評価の点検を行う。点検結果は別紙に示す成績評価点検シートに記入後、学科内に保存するとともに、教育改善委員会委員長にも提出する。なお非常勤講師担当科目の成績評価点検は世話教員が担当する。

点検事項

- ▶ 当該期間の授業の進行状況とシラバスとのチェック
- ▶ 試験問題内容と科目の達成目標との整合性
- ▶ シラバス評価方法・基準による成績評価の妥当性(最終評価が60点前後の答案のチェック)
- ▶ エビデンスの確認

授業科目点検ワーキンググループの構成例

たとえば電気情報工学科の場合は、学科内カリキュラム検討委員会を組織しているが、この検討委員会のもと、各関連科目を担当する3～4名の教員からなる12ワーキンググループ(基礎系, 電磁気系, 物性系, 情報系, 通信系, 電子回路系, 機器系, 電力系, 制御系, エネルギー制御実験系, 情報通信実験系, その他)が構成されている。

(出典 教育改善委員会)

(資料 9-1-①-6)

エヴィデンスの保存について

5月27日

教務主事 福原 安洋

前回教員会で説明しましたように、本校では、平成 18 年度高専機関別認証評価の実施決定を機に、授業の学生評価に関係する答案、レポート、出席状況などの保存を行うことになりました。

前期中間試験を控え、周知いただく時間もとれず恐縮ですが、以下に示す教育改善委員会より提案された方法を当面実施いたします。また教務委員会では、6 月 1 日の委員会で説明し、今後の改善等について了解を得たいと考えています。

試験の採点、評価、答案の保存など十分なお配慮をお願いいたします。

なお不明の点につきましては、教務係にお問い合わせください。

(1) 保存の目的

授業改善のため第 3 者でも検討できるように、また担当者の交替によっても学習内容が変わることがないように資料として残す。

(2) 保存するもの

(ア) 全学年、全科目について

(イ) 評価対象となる試験や小テストの答案（試験の都度）またはそのコピー。レポートなどの提出物は 60 点台と 50 点台の採点結果の提出物数件、またはそのコピー。（なお、これらのエヴィデンスは各クラスの出席番号順にファイルする。）

(ウ) 評価の分布もみるため学年（クラス）試験、提出物など全体の成績一覧（評価配分のわかるもの）のコピー

(エ) 試験問題

(オ) 試験の模範解答

(カ) 出席簿のコピー

(キ) シラバス（評価方法の記入があるもの）のコピー

(ク) 教科書（表紙のコピー）、配布プリント

(ケ) 教科書のない場合は、講義ノート、授業計画ノートなどのコピー

(コ) 学習達成度自己点検シート

(3) 保存年数

(ア) H17 年度はじめから

(イ) 今後 5 年間分

(4) 保存方法

(ア) 年度末、または前期末に教育改善委員会の指示する場所へ提出・保存

(5) その他

総合評価の合否判定は授業ごとに納得できるよう明示（シラバスなどに）されていること。

授業態度、出席などの成績評価への考慮の度合いは（特に実験・実技などのように）授業の目的に合うものとする。

(資料 9-1-①-9)

平成17年度後期オフィスアワー実績表

教員名 板東 能生

NO	日時		来室学生			内容
	月日(曜日)	時間	学科	学年	氏名	
1	11/28(月)	17:00	E	5	[Redacted]	通信工学
2	12/1(木)	16:00	E	4		信号処理
3	12/2(金)	16:00	E	3		計測
4	2/6(月)	17:00	E	5		通信工学
5	2/8(水)	15:00	E	4		信号処理
6	2/9(木)	16:30	E	5		通信工学
7	2/10(金)	16:00	E	4		信号処理
8						

(資料9-1-①-10)

平成17年度 特別活動の実施状況

実施日	テーマ	概要	実施場所	欠席
A1 (前期)	4月13日 委員の選定	さまざまな委員の選出を行った。	HR	0
	4月20日 球技大会メンバー決めなど	球技大会のメンバーを決めた。	HR	1
	4月27日 情報処理ガイダンス	情報処理センターの使用法についての説明を受けた。	情報処	0
	5月11日 図書館ガイダンス	図書館の使用法についての説明を受けた。	図書館	0
	5月25日 試験に向けて(生活習慣調査)	試験に向けて、さまざまな注意をした。また生活習慣調査も行った。	HR	0
	6月8日 懇談の日程調整・遠足について	保護者懇談会の日程を調整した。また秋の遠足で行きたいところを募った。	HR	0
	6月15日 一年合同HR	視聴覚教室で、ネット犯罪についてのビデオを見た。	視聴覚室	0
	6月22日 スポーツ サッカー	グラウンドでサッカーを行った。	グラウンド	0
	6月29日 読書	図書館において読書を行った。	図書館	0
	7月6日 遠足について	遠足の際の班分けやスケジュールの取り決めをした。	HR	1
	7月13日 スポーツ ソフトバレー	体育館でソフトバレーを行った。	第2体育館	0
	7月20日 試験に向けて	試験に向けて、留年の仕組みなどを再度説明した。	HR	0
	8月3日 映画鑑賞	中国の映画「山の郵便配達」を見た。	HR	2
A1 (後期)	10月5日 遠足について	遠足について、各班に分かれて話し合いをした。	HR	
	10月12日 カウンセラー講話	カウンセラーの先生が、さまざまなことを話して下さった。	HR	
	10月19日 学校周辺の清掃	学校周辺の清掃を行った。	HR	
	11月2日 高専祭の準備	高専祭についての話し合いを行った。	HR	
	11月9日 読書	図書館で読書を行った。	HR	
	11月16日 高専祭の準備	高専祭の分組についての話し合いを行った。	HR	
	11月30日 試験に向けて	後期中間試験に向けての話をした。	HR	
	12月14日 サッカー	グラウンドでサッカーを行った。	グラウンド	
	12月21日 映画鑑賞	映画「スタンド・バイ・ミー」を見た。	視聴覚室	
	1月11日 読書	図書館で読書を行った。	HR	
1月18日 新年の抱負・駅伝の話し合い	「新年の抱負」を話してもらったが、成績不良者多数のため、急遽、自習とした。	HR		
1月26日 ビデオ(昔のボクシング)	「ビデオ鑑賞」の予定であったが、成績不良者多数のため、急遽自習を行った。	視聴覚室		
2月1日 特別講演	座席料の先生に来ていただき、貴重な話をしていただいた。	HR		
2月8日 試験に向けて	試験に向けての話をした。	HR		
2月22日 映画鑑賞	消防訓練を行った。	HR		
M2 (前期)	4月6日 各委員の選出	クラスの委員、学生会の各委員、その他高専祭の振振店責任者、遠足時の写真係などを決定した。	HR	1
	4月13日 前期特活計画の立案	クラス委員の司会により、昨年の計画を参考にしながら前期分の特活計画を決め、未定部分は担任に一任とした。	HR	1
	4月20日 スポーツ(サッカー)	学生達の選んだサッカーを実施	グラウンド	0
	4月27日 球技大会に備えて	保健体育委員の司会により、近く行われる球技大会の説明と各種目の出場メンバーを決めた。	HR	0
	5月11日 スポーツ(バスケットボール)	学生の決めた計画に従い、第1体育館でチーム対抗の試合をした。	第1体育館	0
	5月25日 前期中間試験に備えて	試験に備えて、担任から注意をした。進級に関して甘い考えを持つことにならないようという点を強調した。	HR	1
	6月8日 2年合同HR(青年期の課題)	2年合同HRで視聴覚教室において、本校カウンセラーの林先生から講話を聞いた。	視聴覚室	0
	6月15日 私のクラブ紹介①	数人の学生が自分の所属しているクラブの紹介や活動について話した。	HR	0
	6月22日 ビデオ視聴	予め決められていた担当学生が持参したビデオ「ジャッカス」をかなりの音量で皆で楽しんだ。	視聴覚室	1
	6月29日 私のクラブ紹介②	6/15の①に続いて、第2回目のクラブ紹介や活動について、前回同様数人が話をした。	HR	1
	7月6日 イベントに楽しむ	情報処理センターで、係員の説明と指導の下に、各自インターネット等を楽しんだ。	情報処	0
	7月13日 成績向上をめざして	成績優秀者に、「自分はどんなことに注意して勉強しているか、成績向上を目指しているか」皆の前で話してもらった。	HR	0
	7月20日 期末試験の備えて	前期末試験を前にして、担任から諸注意や補修その他の伝達をした。	HR	0
8月2日 読書	図書にて各自自分の選んだ本を黙読した。担任としては「きけ、わだつみの声」を推薦した。	HR	1	

(分析結果とその根拠理由)

教育改善に関する体制やアンケート結果を含む教育の現状を的確に評価できる体制が整備されている。さらに公開授業のデータ収集や、授業達成度の点検データ、複数の教員間によって行われた成績評価点検データ、成績評価結果のデータ等の収集・蓄積が行われている。

以上のことから、教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料を十分かつ適切に収集・蓄積しており、適切な評価を実施する体制を十分整備している。

観点9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

平成10年度から授業アンケートを毎年行い，そのアンケート結果及び結果に対する教員のコメントを（資料9-1-①-1，資料9-1-②-1，資料9-1-②-2 訪問調査時に提示）に示すように，全学生及び全教員に報告している。達成度評価点検表（資料 9-1-①-4）により学生の授業目標に対する達成度評価アンケートも随時行い，各教員の授業手法の改善に役立てている。また，自己点検・評価報告書 第6報（資料 9-1-②-3 訪問調査時に提示）のように教育環境に関するアンケートを行い，学生の要望は集計して学生に公開するとともに各種委員会で取り上げられ（資料9-1-②-4），各種委員会からその改善策やコメント等を全学生及び全教員に平成16年度教育環境に関する学生評価アンケート調査要望に対する回答で報告している（資料9-1-②-5 訪問調査時に提示）。さらに各教員はオフィサー（資料 9-1-②-6）を設け，常に学生の意見を聴取する体制を整えている。

教務委員会資料

H16年度 教務関係行事点検アンケート集計結果

資料 3

1. 対面式・始業式、HR/4月8日

(※A:役に立つ B:役に立たない C:どちらともいえない)

	機械			電気			環境			建築			合計			割合(%)		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1年	18	4	19	29	8	8	23	6	11	24	6	13	94	24	51	55.6%	14.2%	30.2%
2年	17	17	7	25	4	9	30	6	8	26	5	12	98	32	36	59.0%	19.3%	21.7%
3年	14	14	7	31	4	6	25	6	10	22	5	10	92	29	33	59.7%	18.8%	21.4%
4年	25	5	9	27	1	7	26	5	3	36	3	4	114	14	23	75.5%	9.3%	15.2%
5年	20	5	11	27	2	9	12	3	7	28	4	6	87	14	33	64.9%	10.4%	24.6%
合計	94	45	53	139	19	39	116	26	39	136	23	45	485	113	176	62.7%	14.6%	22.7%

意見

・必要なことだと思う(7) ・最初のHRはこれからのことを決めるために重要(3) ・HRは必要(3) ・1年を知るために必要(2)
 ・気持の切り替え(2) ・新入生を加えてのスポーツ大会などやっただらいいと思う ・1年生にとっては大切な行事 ・役に立つ
 ・高専に慣れるために必要 ・学校の雰囲気がかかって良い ・役に立たない(4) ・対面式は必要ない(4)
 ・話が長い(4) ・HRのみでよい(2) ・短縮化したらよい ・対面する必要はない ・うるさくて聞こえない ・始業式は放送で良い
 ・教員の話は必要ない ・椅子を使えば静かになる ・時間の無駄 ・髪を染めた先輩を見ると不安になる

2. 新入生オリエンテーション/4月9日～13日

(※A:役に立つ B:役に立たない C:どちらともいえない)

	機械			電気			環境			建築			合計			割合(%)		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1年	29	3	10	33	4	8	32	3	3	32	5	8	126	15	29	74.1%	8.8%	17.1%
2年	25	10	5	26	6	5	32	7	6	37	1	5	120	24	21	72.7%	14.5%	12.7%
3年	22	9	4	30	6	5	24	6	11	24	9	8	100	30	28	63.3%	19.0%	17.7%
4年	26	2	11	29	1	4	29	3	3	36	3	6	120	9	24	78.4%	5.9%	15.7%
5年	26	1	8	33	1	3	16	3	5	32	3	3	107	8	19	79.9%	6.0%	14.2%
合計	128	25	38	151	18	25	133	22	28	161	21	30	573	86	121	73.5%	11.0%	15.5%

意見

・仲良くなれる・親睦が図れる(9) ・学校に慣れるために必要(6) ・役に立つ・必要(4) ・これをきっかけで友達が増えた(2)
 ・学校のこと分かる(2) ・すばらしい企画である ・体育をするのはかなり良い
 ・もう少し遊び目的なものが欲しい ・日数が長すぎる ・緊張の緩和にならない ・親しくなれない ・あってもなくても一緒
 ・級友と意外と話さない ・あまりいいものじゃない ・もう少し落ち着いて進行して欲しかった ・上級生との関わりがあった方が良い
 ・直後はノリが悪いので1ヶ月くらい経ってから実施した方が良い

3. 特別講演「電波で見た宇宙の姿」/5月21日

(※A:役に立つ B:役に立たない C:どちらともいえない)

	機械			電気			環境			建築			合計			割合(%)		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1年	14	18	10	17	13	15	5	23	11	7	24	10	43	78	46	25.7%	46.7%	27.5%
2年	11	22	8	23	8	6	15	13	15	13	21	10	62	64	39	37.6%	38.8%	23.6%
3年	17	11	7	22	10	9	8	15	18	13	16	9	60	52	43	38.7%	33.5%	27.7%
4年	19	8	10	25	2	8	18	9	7	26	1	16	88	20	41	59.1%	13.4%	27.5%
5年	19	5	12	21	2	15	8	4	8	17	10	12	65	21	47	48.9%	15.8%	35.3%
合計	80	64	47	108	35	53	54	64	59	76	72	57	318	235	216	41.4%	30.6%	28.1%

意見

・もっと増やして欲しい(3) ・興味深い内容だった(2) ・勉強になった(2) ・違う分野のことが知れていい ・面白い講演だった
 ・神秘的だった ・知識を増やせる ・興味のある学生は多い ・専門が違っても有益 ・勉強の幅が広がるので必要
 ・あまり聞くことがない話でよかった ・学科別にあるとよい ・日項目にしない珍しいものを見ることが出来る
 ・話を聞いている者が少なく、講演者に失礼(4) ・興味を持ってない(8) ・誰も聞いてない(3) ・話が面白くなかった
 ・興味の持てる内容ならよい(4) ・集中して聞けない(5) ・学生を交えた話にしたらよい ・有名人を希望(12) ・必要ない(2)
 ・もっとお金をかけて欲しい(2) ・語り手が上手いならよい ・講師とテーマによる(2) ・よく見れなかった(2) ・しんどかった
 ・プロジェクトXの方が良い ・話が難しすぎた ・もっと身近なことを取り上げてほしい(2) ・真剣に聞きそうな人を呼ぶべき

(出典 教務委員会)

(資料9-1-②-6)

平成17年度前期オフィスアワー一覧表

学科	氏名	月	火	水	木	金	場所	備考
校長	福永 秀春							
一般科目	小助川 元太		15:45~17:15				管理棟3F教員室	
	新美 哲彦		15:45~17:15				普通科棟3F教員室	
	岩根 三邦							
	木原 滋哉							
	宇根 俊範					15:45~17:15	管理棟3F教員室	
	岡中 正三		16:00~17:00		16:00~17:00		普通科棟3F教員室	
	左古 悦雄		15:45~17:15				管理棟2F教員室	会議等で不在の場合はなし。
	赤池 祐次	15:50~16:35				15:50~16:35	管理棟2F教員室	会議等のときは実施しない
	黒川 康宏					15:45~17:15	管理棟3F教員室	
	笠松 義隆				15:00~17:00			教員室
	小山 通榮		15:45~17:15				普通科棟1F教員室	不在の場合第2普通科棟1F化学実験室
	谷岡 憲三	15:30~17:00					第1体育館教員室	
	佐賀野 健				15:45~16:45		第1体育館教員室	会議・出張の際は設置しない。
	川尻 武信		16:30~17:00			16:00~17:00	管理棟2F教員室	
	江口 誠		16:00~17:00		16:00~17:00		専攻科棟4F教員室	
中山 文	12:20~12:50	15:45~17:15				管理棟3F教員室		
高島 裕臣	16:00~17:00			16:00~17:00		専攻科棟4F教員室	会議などがあるときは設置できない	
周藤 剛士	16~17							
機械工学科	灘野 宏正		16:00~17:00	16:00~17:00		16:00~17:00	機械工学科棟2F教員室	曜日を指定しているが、いつでも可
	京免 進	15:45~17:15						
	八木 良尚			15:00~17:00			専攻科棟3F教員室	会議の時は設置しない
	河野 正来	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟2F教員室	
	森 貞雄			15:00~			環境都市工学科棟3F教員室	
	吉村 敏彦	15:45~17:00	15:45~17:00		15:45~17:00		機械科棟2階教員室	会議や出張時は設置しない
	野原 稔	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟3F教員室	
	河口 勇治	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟2F教員室	
	深澤 謙次	15:45~17:15					第2普通教室棟3F教員室	その他在室時は可(ただし会議のときは設置しない)
	岩本 英久				15:50~17:00	15:50~17:00	機械工学科棟2F教員室	木曜日において、教員室に不在の場合は3階の製図室に居るので3階の製図室にて受付ける。金曜日において、委員会等の会議開催時には設置しない。
	中迫 正一	16:00~17:00			16:00~17:00		機械工学科棟3F教員室 研究室	会議・出張の時は設置しない
	野村 高広	16:00~17:00			16:00~17:00		専攻科棟3F教員室	在室時は、いつでも。
	山田 祐士							
上寺 哲也								
電気情報工学科	野村 利英			15:00~16:00		16:00~17:00	電気情報工学科棟2F教員室	空いているときはいつでも
	植田 義文	16:45~17:15		16:00~17:00	16:45~17:15		電気情報工学科棟2F教員室	会議等は除く;時間指定外の在室時は可
	黒木 太司	16:00~17:00			16:00~17:00	16:00~17:00	電気通信実験室	時間外でも在室時は対応可能
	野村 博昭							
	田中 誠	15:50~17:00				15:50~17:00	電気情報工学科棟1F教員室	
	山崎 勉	16:00~17:00	16:00~17:00				電気情報工学科棟2F教員室	
	藤井 敏則							
	横瀬 義雄	16:00~17:00			16:00~17:00			
	横瀬 実雄				16:00~17:15	16:00~17:15	電気情報工学科棟2F教員室	会議等の場合は除く。在室時 可
	板東 能生	16:00~17:15			16:00~17:15	16:00~17:15	電気情報工学科棟3F教員室/ 電子物性実験室	
	大西 義浩							
	井上 浩孝			15:00~17:00		15:45~17:00	電気情報工学科棟2F教員室	水曜日が会議の時は設置しない
	三島 智和							
環境都市工学科	竹村 和夫	16:00~17:00				16:00~17:00	環境都市工学科棟2F教員室	
	小堀 慈久							
	中野 修治							
	森脇 武夫				15:50~17:15		環境都市工学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	橋本 堅一			13:00~15:00				
	市坪 誠	16時~17時	16時~17時				市坪研究室(環境棟4階)	在室時はいつでも可
	山口 隆司	12:25~12:55	12:25~12:55	12:25~12:55			環境都市工学科棟2F教員研究室	その他適時
	重松 尚久	15:45~17:00				15:45~17:00	環境都市工学科棟4F教員室	
	黒川 岳司							
	山岡 俊一	15:45~17:00				15:45~17:00	専攻科棟4F教員室	会議や出張等の場合は事前に振替日を掲示する
堀口 至			16:00~17:00	16:00~17:00		環境都市工学科棟3F教員室	会議、出張などの場合は変更する	
建築学科	藤井 健	16:00~17:15		16:00~17:15	16:00~17:15		建築学科棟2F教員室	左記以外でも在室時は良いです。
	福原 安洋	14:55~18:00					建築学科棟2F教員室	
	正野崎 昭二	16:00~17:15					建築学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	篠部 裕				15:45~17:15		建築学科棟2F教員室	
	門前 勝明	16:00~17:00			16:00~17:00		建築学科棟2F教員室	在室時はいつでも可
	岡本 二郎	16:00~17:00	16:00~17:00				建築学科棟2F教員室	
	間瀬 実郎	16:00~18:00	17:00~18:00		17:00~18:00			但し会議がある場合は不可
	石井 仁	15:45~17:15		15:00~17:15			建築学科棟3F教員室	水曜日が教員会の時は設置しない
	松野 一成				15:45~17:15			
	富田 英夫							
仁保 裕	16:15~17:15				16:15~17:15	建築学科棟2F教員室		

(分析結果とその根拠理由)

学生による授業評価や教育環境評価を行うとともに、その改善策やコメント等を公表し、自己点検や教育改善に反映させている。

以上のことから、学生の意見聴取を行っており、その結果を自己点検や教育改善に十分反映させている。

観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

呉工業高等専門学校 参与会 第1回報告書（資料9-1-③-1 訪問調査時に提示）のように平成10年から近隣大学工学部長、市長、本校同窓会長等の外部有識者で構成された参与会(平14.9外部評価委員会に改称)を発足させ、定期的に本校の外部評価を行い、その結果を外部評価報告書（資料9-1-③-2 訪問調査時に提示）のようにまとめて学内外に報告（今回で2回目）している。また、外部評価での意見は各種委員会で議論（資料9-1-③-3）している。また自己点検・評価報告書 第5報（資料9-1-③-4 訪問調査時に提示）のような本校卒業生へのアンケート、企業訪問報告書（資料9-1-③-5）に示すような企業へのアンケート等も継続的に行っている。さらに各学科でも、それぞれの教育プログラムに対する企業、中学生、保護者、教職員へのアンケートを随時行っている。電気情報工学科で行われたアンケート例を（資料9-1-③-6、資料9-1-③-7）示す。

(資料 9-1-③-3)

平成 18 年 4 月 3 日

H17 年度外部評価で委員から指摘された教務関連事項

教務主事

1 学外実習

- インターンシップを多く取り入れ、企業にも要請し、現場でのノウハウを身につけさせるなど、教育に重点をかけることが学生の価値を高める。
- 校外実習の参加者が約半数というのはさらに努力の必要がある。

2 教育内容の公開

- シラバスが機械工学科以外外部に対応になっていない。
- 教育理念、アドミッションポリシーに対応した養育内容の分かり易い説明が必要である。

3 進学と就職

- 4年次から、進学と就職のコース制を選択することが考えられる。

4 英語

- 本科生については、実用英検と工業英検が取り入れられているようであるが、大学や社会ではむしろ TOEIC や TOEFL が主流になっているので改善の余地がある。

- TOEIC・TOEIC Bridge は単位認定しているか。またその他の資格や他の機関の単位認定は行っているか。広く学ばせる工夫が必要である。

5 志願者増対策

- 環境都市工学科と建築学科の志願者増が課題である。

(資料9-1-③-5)

平成17年3月29日

会社訪問・求人依頼結果報告書

電気情報工学科 藤井敏則

1. 日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)

鉄道本部 電気部 担当マネージャー (計画) [REDACTED]

鉄道本部 電気部 (計画) [REDACTED]

〒530-8341 大阪市北区芝田2丁目4番24号

Tel:06-6375-8963 Fax:06-6376-6079

e-mail: [REDACTED]

5/9から11にかけて行われる採用試験に受験する [REDACTED] の話を中心に行った。「一年生から硬式野球部所属して活躍していること」、「3,4年では高専祭の実行委員を行って、高専祭をやり遂げたこと」、「成績は10番以内で良いこと」、「父親が以前国鉄に勤務しており、現在はボーダフォンに勤務していること」、「[REDACTED] の希望は通信関連であること」などの話をした。担当マネージャーの [REDACTED] は、[REDACTED] のお父さんを知っているということ、また、親戚が阿賀南にいて、[REDACTED] が広島大学に勤務していた頃に同じ研究室に配属されたということもあり、なごやかに話が進んでいった。

[REDACTED] が呉高専を訪問した際に [REDACTED] と少し話をしており好印象であったことを伺った。採用試験では面接、SPI、筆記試験(専門)があるが、SPIが足切りに使われる程度でそれほど重点はおかれず、面接が非常に重要である。面接で重視されることは「コミュニケーション能力」、「明るさ」、「元気」、「積極性」などがあげられ、志望動機や学生時代にやったことも当然聞かれ、自己アピールがうまくできるようになってほしいと希望された。

[REDACTED] が4月に入ってから、履歴書などの書類を持ち、呉高専を訪問する予定。また、今年内定をいただいた [REDACTED] のお礼もした。

2. 関西電力株式会社

人材活性化 人材開発グループ [REDACTED]

〒530-8270 大阪市北区中之島3丁目6番16号

Tel:06-6441-8821 Fax:06-6446-0024

e-mail [REDACTED]

今年採用試験に受験する [REDACTED] の話をした。「4年間柔道部に在籍して,昨年度は個人で全国大会に行ったこと」,「成績は10番以内で良いこと」などの話をして,非常に好印象であった。

昨年は10名の求人であったが今年35名の採用を予定している。呉高専の電気工学科には2名の求人があったが [REDACTED] の1名だけであることを伝えると残念そうであった。

体育会系,現場のリーダーシップが取れるような人を希望しており,将来は現場のトップとなって欲しい。

採用試験では面接試験が重視される。会社に入ってどんなことがしたいのかパンフレットを熟読して面接で即答できるようにして欲しい。「元気」で「チャレンジ精神」のある学生を採用したい。採用試験は新関電ビルの40階で行う。宿泊するホテルは歩いて15分くらいのところにある。

また,中国電力が行っているような自由応募は考えていないといことであった。

3. ソニーEMCS 株式会社

DisplayGP 人事総務部 人事総務1課 人事労務係長 [REDACTED]

〒491-0192 愛知県一宮市大字高田字池尻6番地 一宮テック

Tel:0586-25-6221 Fax:0586-25-6565

e-mail [REDACTED]

今年採用試験に受験する [REDACTED] のことについての話をした。「1,2年はロボット制作クラブに在籍していたこと」,「昨年度留年して成績は悪かったが,ことしはがんばって20番代に上げ,がんばっていること」,「皆勤であること」などの話をして,好印象であった。

採用試験では面接,SPI,筆記(専門)を行うが,やはり面接重視であり,「元気がある」,「やりたいことがはっきり言える」,「得意分野についていうことができる」など自己アピールできるようにしないと採用しにくいということでした。

1250人が正社員で2500~2600人が委託業者である。工場見学も行ったがSonyのフラットディスプレイはここで全て生産しているといことで,工場内はかなり忙しい状況であった。採用されて1年間は現場で仕事を学び,その後,設計開発業務に就くということであった。

4. 中部電力株式会社

人事部 人事・要員グループ課長 [REDACTED]

〒461-8680 名古屋市東区東新町1番地

Tel:052-973-2161 Fax:052-973-3157

e-mail [REDACTED]

今年採用試験に受験する [REDACTED] のことについての話をした。「無線部でがんばったこと」,「通信関連に興味があること」,「4年間皆勤で健康であること」等の話をした。

通信関連への配属は厳しいでしょう。今年の採用の倍率は2倍前後である。採用試験では面接、適性試験、筆記（専門）を行うが、やはり面接重視であり、技術系の方も参加するので、そこで自己アピールしてほしい。「元気がある」、「コミュニケーション能力がある」などで判断される。面接は2回あり、1回目は3人一組で課長クラスの面接、2回目は確認のための面接で部長クラスが行う。

5. その他

企業としては大学生とくらべあたりはずれが少なく、まじめな高専生は必要とされており、大手企業に採用されるためや、レベルの下がっている学生のフォローするためにも、4年生の担任として次のようなことをする必要性を痛感した。

4年の時点で

- (1) 面接の練習は非常に重要であること。一人当たり5回以上は行うべきである。
- (2) SPIは足切りに使われるので必ず最低ラインは確保できる勉強をすること。
SPI以外にも適性試験があるので各々の適性試験を一度は受験すること。
- (3) 自己PRできるように訓練すること。
- (4) 小論文対策を実施すること。
- (5) 専門試験の対策を行い最低ラインは確保すること
- (6) 後期の初めに進路（会社）を決めること。進学者は3年生の時点

1年から4年にかけて

- (1) 自分をアピールできるものを必ず1つ以上持つように指導する。
運動部、勉強、資格試験、皆勤など
- (2) 夏休みや春休みを利用して資格試験を必ず受験するように指導する。
2年までは初級シスアド、基本情報技術者
3年以降は電験3種、ソフトウェア開発技術者試験
- (3) インターンシップを3年以下でも行なえるようにして、早期に技術者意識にめざめさせる

(資料 9-1-③-6)

中学生のみなさんへ ***** 電気工学科に関するアンケート *****

この度は暑い中、本校にお越し下さりありがとうございます。この機会がみなさんの貴重な「学生体験」になることを期待します。さて本校電気工学科では、より良い学科づくりを目指して現在「学科の改善」を計画中ですが、そのためにはみなさんの貴重な意見が必要になります。つきましては以下のアンケートにご協力のほど、よろしくお願いいたします。

[1] あなたが電気工学科に対していただいているイメージについてお答え下さい？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|----------------------------|---------|
| (1) 電力系中心に学んでいる | (6) その他 |
| (2) 電子系中心に学んでいる | _____ |
| (3) 情報系中心に学んでいる | _____ |
| (4) 電力, 電子, 情報系それぞれ広く学んでいる | _____ |
| (5) 特にイメージしない | _____ |

[2] あなたが電気工学科を選ぶとき, 何を基準にしていますか？ (3つ以内○を付けて下さい。)

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1) 名称がよいから | (7) 家族, 保護者の意見から |
| (2) カリキュラムに興味があるから | (8) その他 |
| (3) 環境, 設備がよいから | _____ |
| (4) 就職などの進路がよいから | _____ |
| (5) 中学校の先生のアドバイス | _____ |
| (6) 友人, 先輩の意見から | _____ |

[3] 電気系学科で中学生に人気があるのはどの学科だと思いますか？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 電気工学科 | (8) 情報通信工学科 |
| (2) 電子工学科 | (9) 総合電気工学科 |
| (3) 情報工学科 | (10) その他 |
| (4) 通信工学科 | _____ |
| (5) 電気電子工学科 | _____ |
| (6) 電子制御工学科 | _____ |
| (7) 電子情報工学科 | _____ |

[4] あなたが入学したい電気系学科をお答え下さい？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 電気工学科 | (8) 情報通信工学科 |
| (2) 電子工学科 | (9) 総合電気工学科 |
| (3) 情報工学科 | (10) その他 |
| (4) 通信工学科 | _____ |
| (5) 電気電子工学科 | _____ |
| (6) 電子制御工学科 | _____ |
| (7) 電子情報工学科 | _____ |

[5] あなたが電気工学科を選択するとき, その主な動機は何ですか？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- (1) 発電, 送電及び配電の分野に興味がある
- (2) 電車のモーターや変圧器などに興味がある
- (3) 電気溶接や放電管などに興味がある
- (4) コンピュータの操作やソフトウェア開発に興味がある
- (5) インターネットなどのコンピュータ通信に興味がある
- (6) 衛星放送や PHS などの無線通信に興味がある
- (7) ステレオアンプやオーディオ機器などに興味がある
- (8) 二足歩行ロボットや犬型ロボット等に興味がある
- (9) ファジィや人工知能などに興味がある
- (10) 半導体や集積回路 LSI などの設計に興味がある
- (11) コンピュータグラフィックスに興味がある

- (12) ゲームソフトの開発に興味がある
- (13) CD, ディスクなどのデジタル記憶媒体に興味がある
- (14) ファインセラミックス等の新素材に興味がある
- (15) バイセンサ, バイコンピュータなどのバイ技術に興味がある
- (16) レザームスやリトゲン等の医療機器に興味がある
- (17) リニアモーターなどの超電導技術に興味がある
- (18) その他

[6] 電気工学科という言葉からあなたは何をイメージしますか？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- (1) エネルギーの発生(発電所など)
- (2) モーター, 発電器
- (3) コンピュータ, ソフトウェア
- (4) 家庭用電化製品(洗濯機, 掃除機など)
- (5) 半導体
- (6) 機械の制御

- (7) 工場などの巨大な電気設備
- (8) 電話, テレビ, 無線通信
- (9) その他

[7] あなたは電気工学科を卒業後, どのような分野に進みたいですか？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- (1) 電力分野(発電所, 変電所, 電気工事など)
- (2) 重電機器(モーター, 発電機, 変電機)
- (3) コンピュータ関連(コンピュータの設計, ソフトウェアの開発, ゲームソフト, コンピュータグラフィック)
- (4) 家庭用電化製品(テレビ, ビデオデッキ, 洗濯機, 掃除機など)
- (5) 半導体産業(LSI 設計)
- (6) 機械の制御(計測器, ロボット)

- (7) 化学薬品(化学プラントの設計)
- (8) 電子, 通信分野(電子機器, デジタル通信, 光・無線通信)
- (9) その他

[8] アンケートにお答え下さりありがとうございました。最後にあなたは男子学生ですか、それとも女子学生ですか？

(1) 男子学生

(2) 女子学生

(出典 電気情報工学科)

***** 電気工学科改組に関するアンケート

保護者/教職員のみなさんへ

本校電気工学科では、より良い学科づくりを目指して現在学科改組を計画中ですが、そのためには保護者、及び教職員のみなさまの貴重な御意見が必要になります。つきましては以下のアンケートにご協力のほど、よろしくお願いいたします。

[1] 中学生が本校電気工学科に対していただいているイメージについて、予想されることをお答え下さい？（3つ以内で○を付けて下さい。）

(1) 電力系中心に学んでいる

(6) その他

(2) 電子系中心学んでいる

(3) 情報系中心に学んでいる

(4) 電力, 電子, 情報系それぞれ広く学んでいる

(5) 特にイメージしない

[2] 中学生が電気工学科を選ぶとき、何を基準にしていると予想されますか？（3つ以内で○を付けて下さい。）

(1) 名称がよいから

(7) 家族, 保護者の意見から

(2) カリキュラムに興味があるから

(8) その他

(3) 環境, 設備がよいから

(4) 就職などの進路がよいから

- (5) 中学校の先生のアドバイス _____
- (6) 友人, 先輩の意見から _____

[3] 電気系学科で中学生に人気があるのはどの学科だと思いますか? (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 電気工学科 | (8) 情報通信工学科 |
| (2) 電子工学科 | (9) 総合電気工学科 |
| (3) 情報工学科 | (10) その他 |
| (4) 通信工学科 | _____ |
| (5) 電気電子工学科 | _____ |
| (6) 電子制御工学科 | _____ |
| (7) 電子情報工学科 | _____ |

[4] お子さま,あるいは生徒のみなさんに入学させたい電気系学科をお答え下さい? (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 電気工学科 | (8) 情報通信工学科 |
| (2) 電子工学科 | (9) 総合電気工学科 |
| (3) 情報工学科 | (10) その他 |
| (4) 通信工学科 | _____ |
| (5) 電気電子工学科 | _____ |
| (6) 電子制御工学科 | _____ |
| (7) 電子情報工学科 | _____ |

[5] 中学生が電気工学科を選択するとき,その主な動機は何と予想されますか? (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| (1) 発電,送電及び配電の分野に興味がある | (12) ゲームソフトの開発に興味がある |
| (2) 電車のモーターや変圧器などに興味がある | (13) CD,ディスクなどのデジタル記憶媒体に興味がある |
| (3) 電気溶接や放電管などに興味がある | (14) ファインセラミックス等の新素材に興味がある |
| (4) コンピュータの操作やソフトウェア開発に興味がある | (15) バイオセンサ, バイオコンピュータなどのバイオ技術に興味がある |
| (5) インターネットなどのコンピュータ通信に興味がある | (16) レーザースやリトゲン等の医療機器に興味がある |
| (6) 衛星放送やPHSなどの無線通信に興味がある | (17) リニアモーターなどの超電導技術に興味がある |
| (7) ステレオアンプやオーディオ機器などに興味がある | (18) その他 |
| (8) 二足歩行ロボットや犬型ロボット等に興味がある | _____ |
| (9) ファジィや人工知能などに興味がある | |
| (10) 半導体や集積回路 LSI などの設計に興味がある | |
| (11) コンピュータグラフィックスに興味がある | |

[6] 電気工学科という言葉から中学生は何をイメージすると予想されますか？（3つ以内で○を付けて下さい。）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| (1) エネルギーの発生(発電所など) | (7) 工場などの巨大な電気設備 |
| (2) モーター, 発電器 | (8) 電話, テレビ, 無線通信 |
| (3) コンピュータ, ソフトウェア | (9) その他 |
| (4) 家庭用電化製品(洗濯機, 掃除機など) | _____ |
| (5) 半導体 | _____ |
| (6) 機械の制御 | _____ |

[7] 電気工学科の卒業生はどのような分野にもっとも多く就職するとお考えですか？（3つ以内で○を付けて下さい。）

- | | |
|--|------------------------------------|
| (1) 電力分野(発電所, 変電所, 電気工事など) | (7) 化学薬品(化学プラントの設計) |
| (2) 重電機器(モーター, 発電機, 変電機) | (8) 電子, 通信分野(電子機器, デジタル通信, 光・無線通信) |
| (3) コンピュータ関連(コンピュータの設計, ソフトウェアの開発, ゲームソフト, コンピュータグラフィック) | (9) その他 |
| (4) 家庭用電化製品(テレビ, ビデオデッキ, 洗濯機, 掃除機など) | _____ |
| (5) 半導体産業(LSI 設計) | _____ |
| (6) 機械の制御(計測器, ロボット) | _____ |

[8] どのような生徒に高専電気工学科を勧められますか？（3つ以内で○を付けて下さい。）

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| (1) 数学, 理科が得意な生徒 | (6) 高専を希望している生徒 |
| (2) 勉強より物作り等手を動かすことが得意な生徒 | (7) 成績から見て高専への合格圏内にいる生徒 |
| (3) 工学系の大学編入を考えている学生 | (8) その他 |
| (4) 研究向きの生徒 | _____ |
| (5) 技術者向きの生徒 | _____ |

[9] 高専の電気工学科において, 今後力を入れてほしい分野をお聞かせ下さい？（3つ以内で○を付けて下さい。）

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (1) コンピュータや情報処理 | (10) コンピュータによる電子制御 |
| (2) 電気の発生, 送配電 | (11) 磁気記録装置 |
| (3) 電気機器(モータ, 変圧器など) | (12) ロボット |
| (4) 半導体, 集積回路 | (13) 超伝導(リニアモーターカーなど) |
| (5) 通信(光通信, デジタル通信, 無線) | (14) その他 |
| (6) 電子回路の設計 | _____ |
| (7) バイ技術 | _____ |
| (8) 新素材(ファインセラミックスなど) | _____ |
| (9) 新しいエネルギー開発 | _____ |

[10] 高専をより保護者や中学校側に理解してもらうためには何が必要ですか？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| (1) 中学生を対象とした公開実験, 体験入学の機会を増やすこと | (4) 地域の企業と共同研究を行いその成果を広く知ってもらう。 |
| (2) 中学関係者を対象とした専門科目の公開授業 | (6) その他 |
| (3) 最新の科学技術に関する解説 | _____ |
| | _____ |
| | _____ |

[11] 電気工学科が改組を行うとすると, 何に重点をおく方がよいと思われますか？ (3つ以内で○を付けて下さい。)

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 学科名称変更 | (7) コース制の導入(電気工学コース, 電子工学コースなど) |
| (2) カリキュラムの改訂 | (8) その他 |
| (3) 専門教育の多様化 | _____ |
| (4) 情報処理教育の専門化 | _____ |
| (5) 設備の充実 | _____ |
| (6) 専門スタッフの充実 | _____ |

[12] その他将来の電気工学科に対するご要望がありましたらお聞かせ下さい。

[13] アンケートにお答え下さりありがとうございました。最後にあなたは保護者の方ですか、それとも教職員の方ですか？

(1) 保護者

(2) 教職員

(出典 電気情報工学科)

***** 電気工学科改組に関するアンケート

各企業の皆様へ

[1] 本校電気工学科に対してどのようなイメージをお持ちですか？（2つ以内選択して○を付けて下さい。）

(1) 電力系中心に学んでいる

(6) その他

(2) 電子系中心学んでいる

(3) 情報系中心に学んでいる

(4) 電力, 電子, 情報系それぞれ広く学んでいる

(5) 特にイメージしない

[2] 電気工学科という名称に対してどのようなイメージをお持ちですか？（1つだけ選択して○を付けて下さい。）

(1) 時代に対応している

(4) その他

(2) 時代に対応していない

(3) 特に思い当たらない

[3] 現在の本校電気工学科の講義内容についてどのようにお感じですか？（添付資料を参考の上, 3つ以内選択して○を付けて下さい。）

(1) 適度に新しい内容を取り込んでいる

(7) その他

(2) 教育内容が古い

(3) 分野が広く, 内容もちょうど良い

(4) 分野は広いが, 内容が浅い

(5) 特定分野に内容が偏っている

(6) よくわからない

[4] 電気工学科学生の知識・学力面について不足していると思われるものは何ですか？（3つ以内選択して○を付けて下さい。）

- | | |
|-------------|---------|
| (1) 特にない | (7) その他 |
| (2) 一般教養 | _____ |
| (3) 専門英語 | _____ |
| (4) 数学力 | _____ |
| (5) 専門知識・学力 | _____ |
| (6) 応用力 | |

[5] 電気・電子系の学生を採用する際、どの学科の卒業生を採用したいと思われませんか？以下の実在する学科の中で、採用したいと思われる学科を3つ選択して○をつけて下さい。

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 電気工学科 | (4) 情報工学科 |
| (2) 電子制御工学科 | (5) 電子情報工学科 |
| (3) 電子工学科 | (6) 制御情報工学科 |

[6] 電気工学科のカリキュラムで今後力を入れるべき分野は何とお考えですか？（添付資料を参考の上、3つ以内選択して○を付けて下さい。）

- | | |
|--------------|---------|
| (1) 電力系分野 | (7) その他 |
| (2) 電気機器系分野 | _____ |
| (3) 電子系分野 | _____ |
| (4) 情報系分野 | _____ |
| (5) 計測・制御系分野 | _____ |
| (6) 通信系分野 | |

[7] 以下の各分野における各科目の必要度について、それぞれ「職務上必要」、「教養として必要」、「将来必要」、「必要ない」の中から1つだけ選択して○を付けて下さい

1. 基礎科目

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
電気基礎				
電気製図				
電気磁気学				
電気回路				
電気・電子計測				
電算機基礎				
プログラミング				
情報処理				
応用数学（フーリエ解析）				
応用数学（ベクトル解析）				

応用数学（統計・確率）				
応用数学（差分法）				
応用物理（ニュートン力学）				
応用物理（熱力学）				
工業英語				
工業倫理				
工業所有権				

2. 電力・エネルギー系科目

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
直流機・変圧器				
誘導機・同期機				
パワーエレクトロニクス				
発変電工学				
送配電工学				
高電圧放電工学				
原子力工学				
太陽電池・燃料電池				

3. 電子工学系科目

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
半導体電子工学				
真空電子工学				
気体(プラズマ)電子工学				
電子物性物理				
量子力学				
超伝導				
半導体デバイス・プロセス				
電子回路(増幅・発振・電源)				
電子回路(パルス回路)				
IC設計技術				
電気・電子材料				

4. 情報系科目

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
離散数学				
ソフトウェア工学				

マルチメディア情報伝達論				
情報理論				
電子計算機				
コンピュータによるシステム構築				
並列計算技術				
知識工学				
感性情報処理				
ニューラルネットワーク				
マンマシンインターフェース				
コンピュータグラフィックス				

5. 制御系科目

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
フィードバック制御工学				
マイクロコンピュータの応用				
システム工学				
シーケンス制御				
ファジィ制御				
ファジィ, ニューロ, カオスの応用				
デジタル信号処理				
モーションコントロール				
プロセス制御理論				
モデリング・システム同定				
メカトロニクス				
ロボット工学				

6. 通信工学系科目

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
アナログ通信方式				
デジタル通信方式				
通信ネットワーク				
信号理論				
交換方式				
画像工学				
音響工学				
アンテナ・電波伝搬				
マイクロ波工学				
光エレクトロニクス				

伝送工学				
アナログ通信用電子回路				
デジタル通信用電子回路				
雑音解析				
環境電磁工学				
通信応用				

7. 実験・卒研

	職務上必要	教養として必要	将来必要	必要ない
電磁気計測実験				
電気機器実験				
電力工学実験				
電子工学実験				
電子回路実験				
制御工学実験				
プログラミング演習				
情報処理演習				
通信工学実験				
学外実習(企業や大学にて)				

[8] 電気工学科の学生にどの程度の専門性が必要と思われますか？（1つだけ選択して○を付けて下さい。）

- | | |
|--|------------------|
| (1) 現在程度でよい（特にコース制は採らず、
各分野について広く勉強する） | (4) その他
_____ |
| (2) コース制（電力コース, 電子情報コース
など）によって深い専門知識・学力を身
につける） | _____ |
| (3) 緩やかなコース制によって, ある程度の
専門性と他分野との境界領域の知識・学
力を身につける | _____ |

[9] 電気・電子系の各分野の中で, 採用するとすれば主にどの分野を専攻した学生を採用したいと思われますか？（3つ以内選択して○を付けて下さい。）

- | | |
|--------------|---------|
| (1) 電力系分野 | (7) その他 |
| (2) 電気機器系分野 | _____ |
| (3) 電子系分野 | _____ |
| (4) 情報系分野 | _____ |
| (5) 計測・制御系分野 | _____ |
| (6) 通信系分野 | |

[10] 電気工学科という名称の変さらについてどのようにお考えですか？（1つだけ選択して○を付けて下さい。）

- | | |
|---------------|-------------|
| (1) 変更する必要はない | (3) どちらでも良い |
| (2) 変更する必要がある | (4) わからない |

(1)の場合, その理由をお聞かせください。

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| (a) 実際のカリキュラムの内容を十分反映し、わかりやすい名称であるから | (d) その他 |
| (b) 他の電子・情報系学科と区別が付きやすいから | _____ |
| (c) 歴史のある基幹学科であるから | _____ |

(2)の場合, その理由をお聞かせください。

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| (a) 実際のカリキュラムの内容を十分反映していない名称であるから | (d) その他 |
| (b) 古く, 時代に合わないイメージを持った名称であるから | _____ |
| (c) 今後の技術の発展を考えたとき, カリキュラムの変更が必要となるから | _____ |

[11] 電気工学科が改組を行うとすると, 何に重点をおく方がよいと思われますか？（3つ以内選択して○を付けて下さい。）

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 学科名称変更 | (7) コース制の導入(電気工学コース, 電子工学コースなど) |
| (2) カリキュラムの改訂 | (8) その他 |
| (3) 専門教育の多様化 | _____ |
| (4) 情報処理教育の専門化 | _____ |
| (5) 設備の充実 | _____ |
| (6) 専門スタッフの充実 | _____ |

[12] その他将来の電気工学科に対するご要望がありましたらお聞かせ下さい。

[13]アンケートにお答え下さりありがとうございました。最後に貴社の御名前をお書きください。

また, 貴社は

以下のどの分野に属しますか? (1つだけ選んで○を付けて下さい。)

御名前: _____

- | | |
|------------|------------|
| (1) 電力関係 | (9) 制御関係 |
| (2) 電気機器関係 | (10) 金属・鉄鋼 |
| (3) 電子材料関係 | (11) 食品 |
| (4) 半導体関係 | (12) 運輸流通 |
| (5) 家電関係 | (13) 化学 |
| (6) 情報関係 | (14) サービス |
| (7) 通信関係 | (15) その他 |
| (8) 計測関係 | _____ |

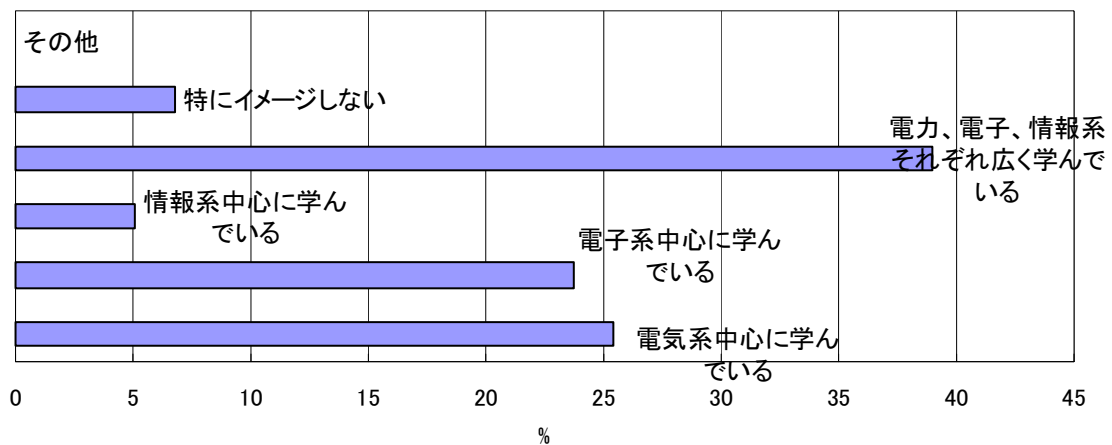
(出典 電気情報工学科)

(資料 9-1-③-7)

関連企業アンケート結果 有効回答社数 45 社

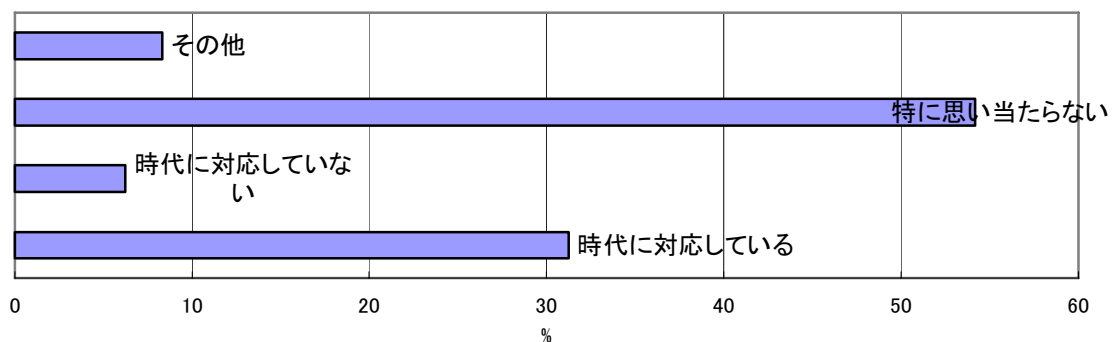
[1]本校電気工学科に対してどのようなイメージをお持ちですか？

(%)	電気系中心に学んでいる	25.4
	電子系中心に学んでいる	23.7
	情報系中心に学んでいる	5.1
	電力,電子,情報系それぞれ広く学んでいる	39.0
	特にイメージしない	6.8
	その他	0



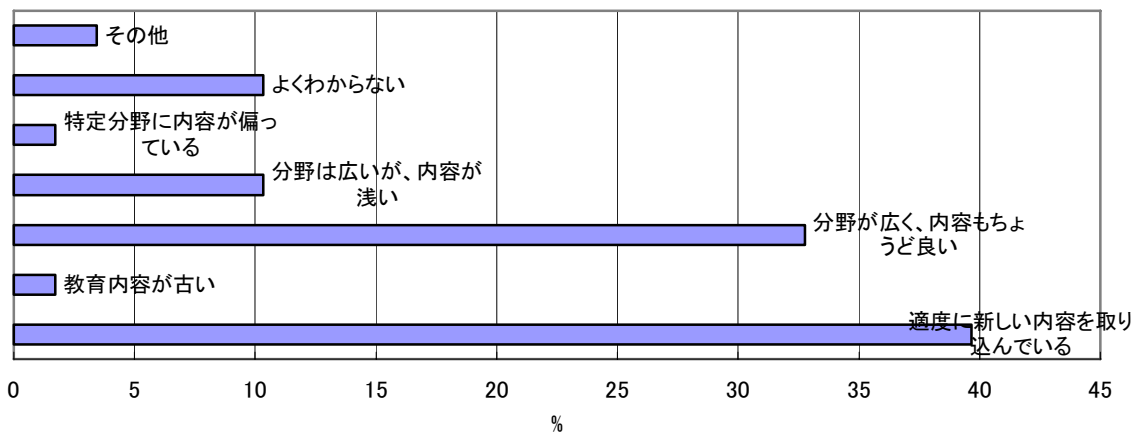
[2]電気工学科という名称に対してどのようなイメージをお持ちですか？

時代に対応している	31.3	(%)
時代に対応していない	6.3	
特に思い当たらない	54.2	
その他	8.3	



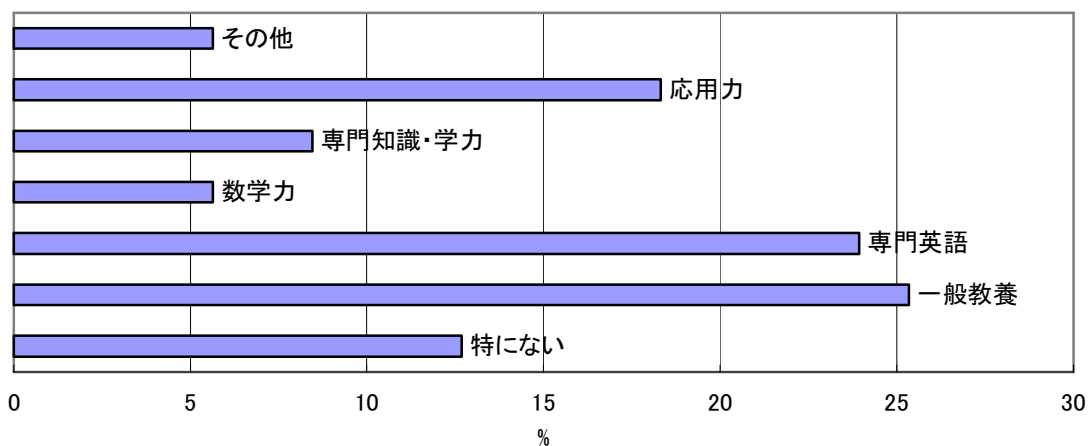
[3]現在の本校電気工学科の講義内容についてどのようにお感じですか？

適度に新しい内容を取り込んでいる	39.7	(%)
教育内容が古い	1.7	
分野が広く、内容もちょうど良い	32.8	
分野は広いが、内容が浅い	10.3	
特定分野に内容が偏っている	1.7	
よくわからない	10.3	
その他	3.4	



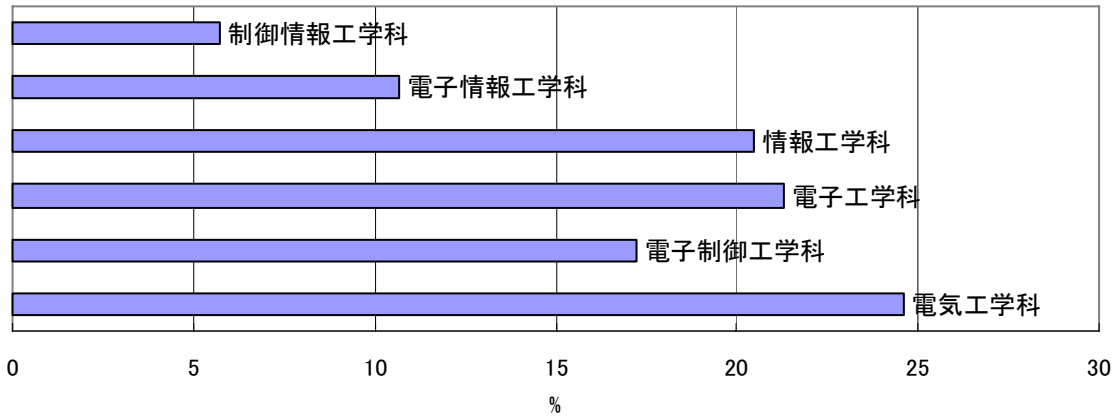
[4]電気工学科学生の知識・学力面について不足していると思われるものは何ですか？

特にない	12.7	(%)
一般教養	25.4	
専門英語	23.9	
数学力	5.6	
専門知識・学力	8.5	
応用力	18.3	
その他	5.6	



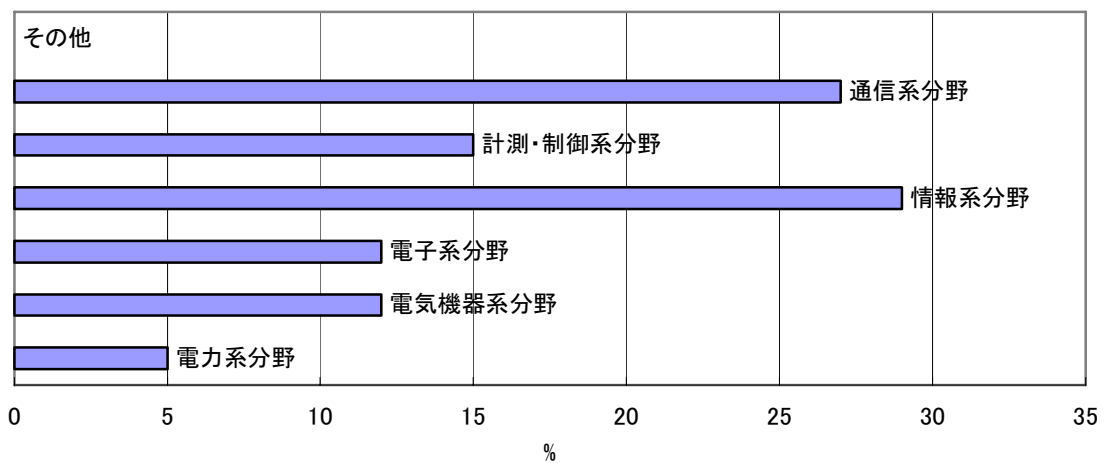
[5] 電気・電子系の学生を採用する際、どの学科の卒業生を採用したいと思いますか？

電気工学科	24.6	(%)
電子制御工学科	17.2	
電子工学科	21.3	
情報工学科	20.5	
電子情報工学科	10.7	
制御情報工学科	5.7	



[6] 電気工学科のカリキュラムで今後力を入れるべき分野は何とお考えですか？

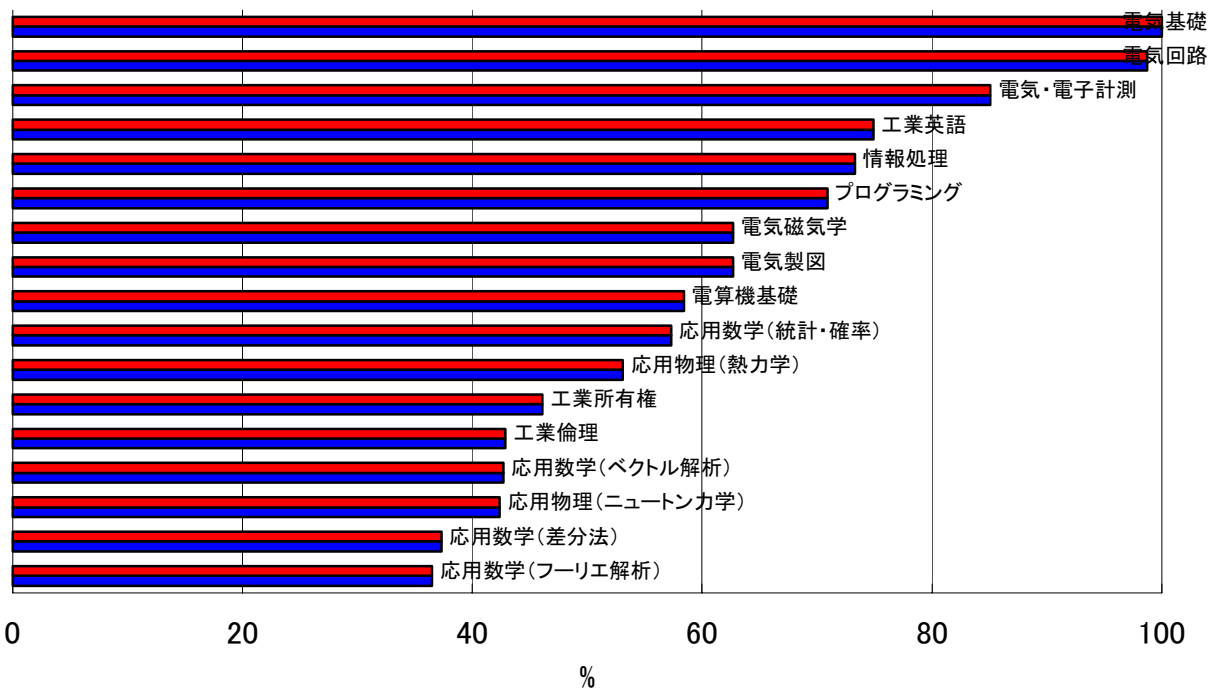
電力系分野	5	(%)
電気機器系分野	12	
電子系分野	12	
情報系分野	29	
計測・制御系分野	15	
通信系分野	27	
その他	0	



[7]以下の内容における各科目の必要度

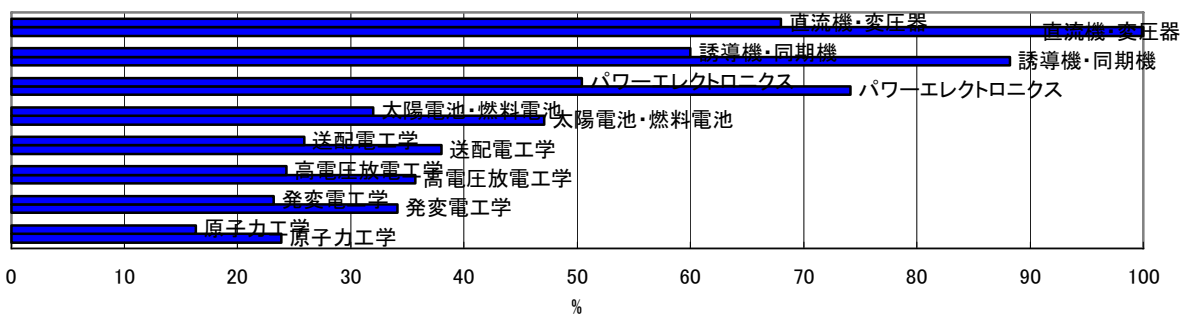
1. 基礎科目

	必要性(%)	
	分野	全体
電気基礎	100.0	100.0
電気回路	98.7	98.7
電気・電子計測	85.1	85.1
工業英語	74.9	74.9
情報処理	73.3	73.3
プログラミング	70.9	70.9
電気製図	62.7	62.7
電気磁気学	62.7	62.7
電算機基礎	58.4	58.4
応用数学(統計・確率)	57.3	57.3
応用物理(熱力学)	53.1	53.1
工業所有権	46.1	46.1
工業倫理	42.9	42.9
応用数学(ベクトル解析)	42.7	42.7
応用物理(ニュートン力学)	42.4	42.4
応用数学(差分法)	37.3	37.3
応用数学(フーリエ解析)	36.5	36.5



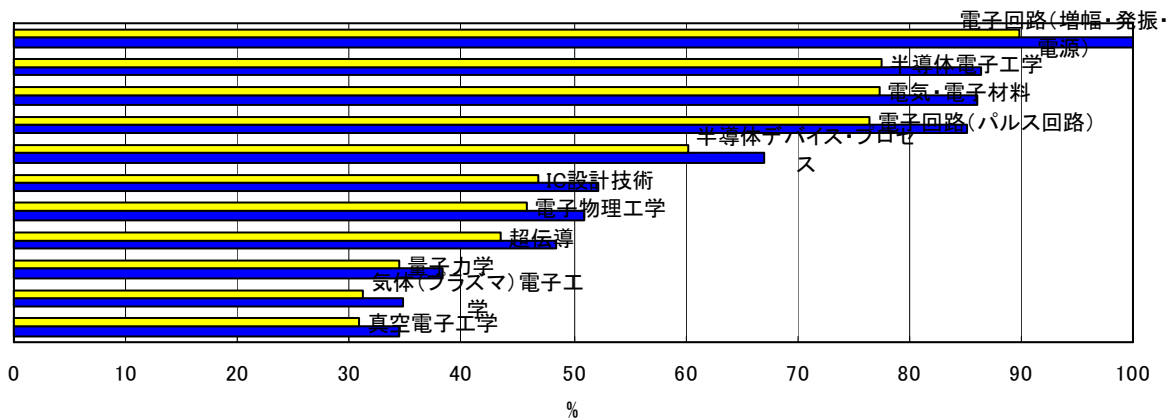
2. 電力・エネルギー系科目

	必要性(%)	
	分野	全体
直流機・変圧器	100.0	68.0
誘導機・同期機	88.2	60.0
パワーエレクトロニクス	74.1	50.4
太陽電池・燃料電池	47.1	32.0
送配電工学	38.0	25.9
高電圧放電工学	35.7	24.3
発変電工学	34.1	23.2
原子力工学	23.9	16.3



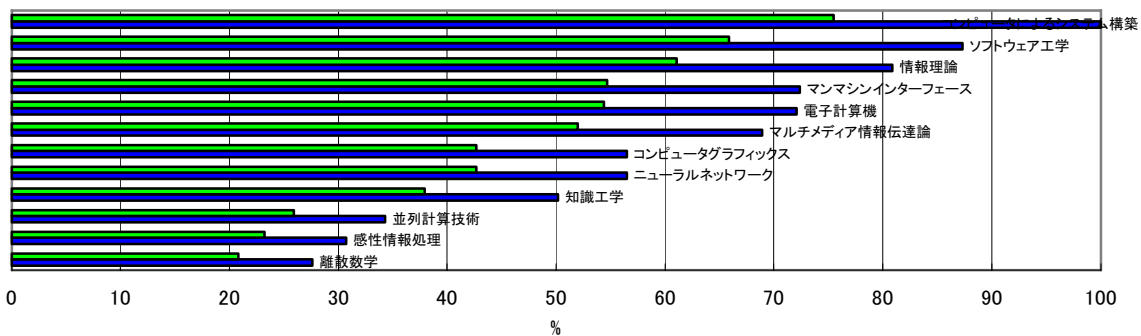
3. 電子工学系科目

	必要性(%)	
	分野	全体
電子回路(増幅・発振・電源)	100.0	89.9
半導体電子工学	86.4	77.6
電気・電子材料	86.1	77.3
電子回路(パルス回路)	85.2	76.5
半導体デバイス・プロセス	67.1	60.3
IC設計技術	52.2	46.9
電子物理学	51.0	45.9
超伝導	48.4	43.5
量子力学	38.3	34.4
気体(プラズマ)電子工学	34.7	31.2
真空電子工学	34.4	30.9



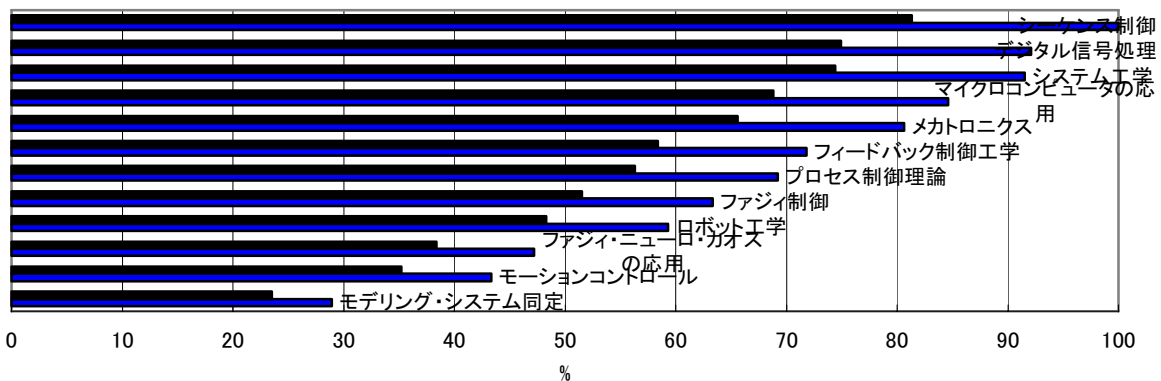
4. 情報系科目

	必要性(%)	
	分野	全体
コンピュータによるシステム構築	100.0	75.5
ソフトウェア工学	87.3	65.9
情報理論	80.9	61.1
マンマシンインターフェース	72.4	54.7
電子計算機	72.1	54.4
マルチメディア情報伝達論	68.9	52.0
ニューラルネットワーク	56.5	42.7
コンピュータグラフィックス	56.5	42.7
知識工学	50.2	37.9
並列計算技術	34.3	25.9
感性情報処理	30.7	23.2
離散数学	27.6	20.8



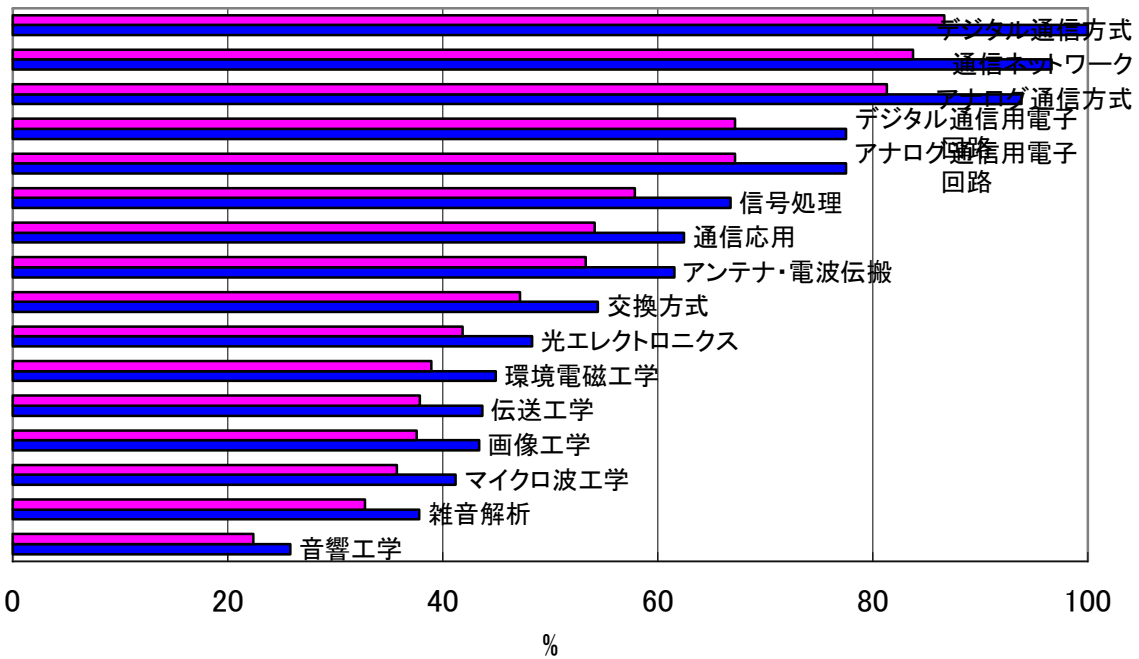
5. 制御系科目

	必要性(%)	
	分野	全体
シーケンス制御	100.0	81.3
デジタル信号処理	92.1	74.9
システム工学	91.5	74.4
マイクロコンピュータの応用	84.6	68.8
メカトロニクス	80.6	65.6
フィードバック制御工学	71.8	58.4
プロセス制御理論	69.2	56.3
ファジィ制御	63.3	51.5
ロボット工学	59.3	48.3
ファジィ・ニューロ・カオスの応用	47.2	38.4
モーションコントロール	43.3	35.2
モデリング・システム同定	28.9	23.5



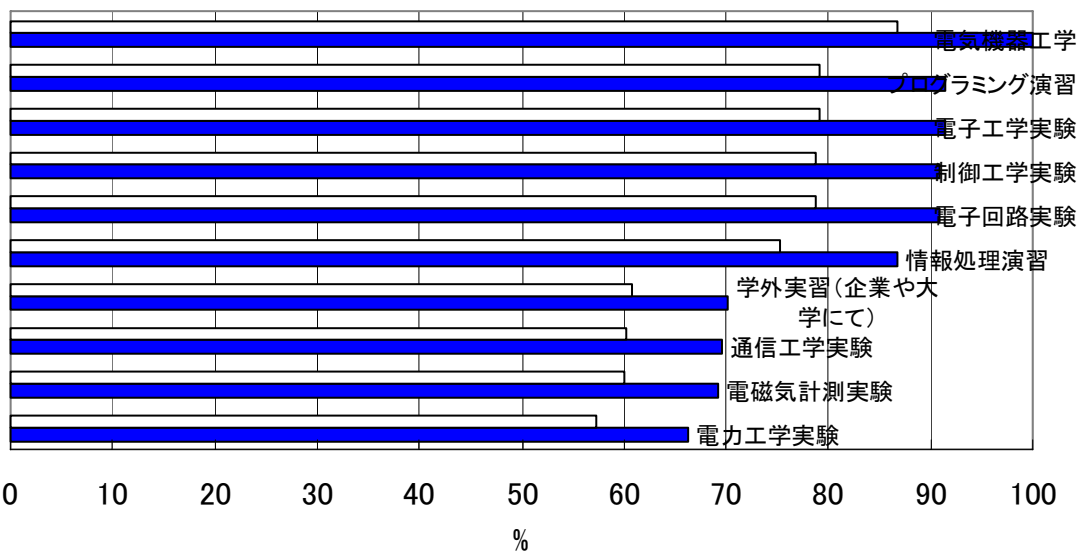
6. 通信工学系科目

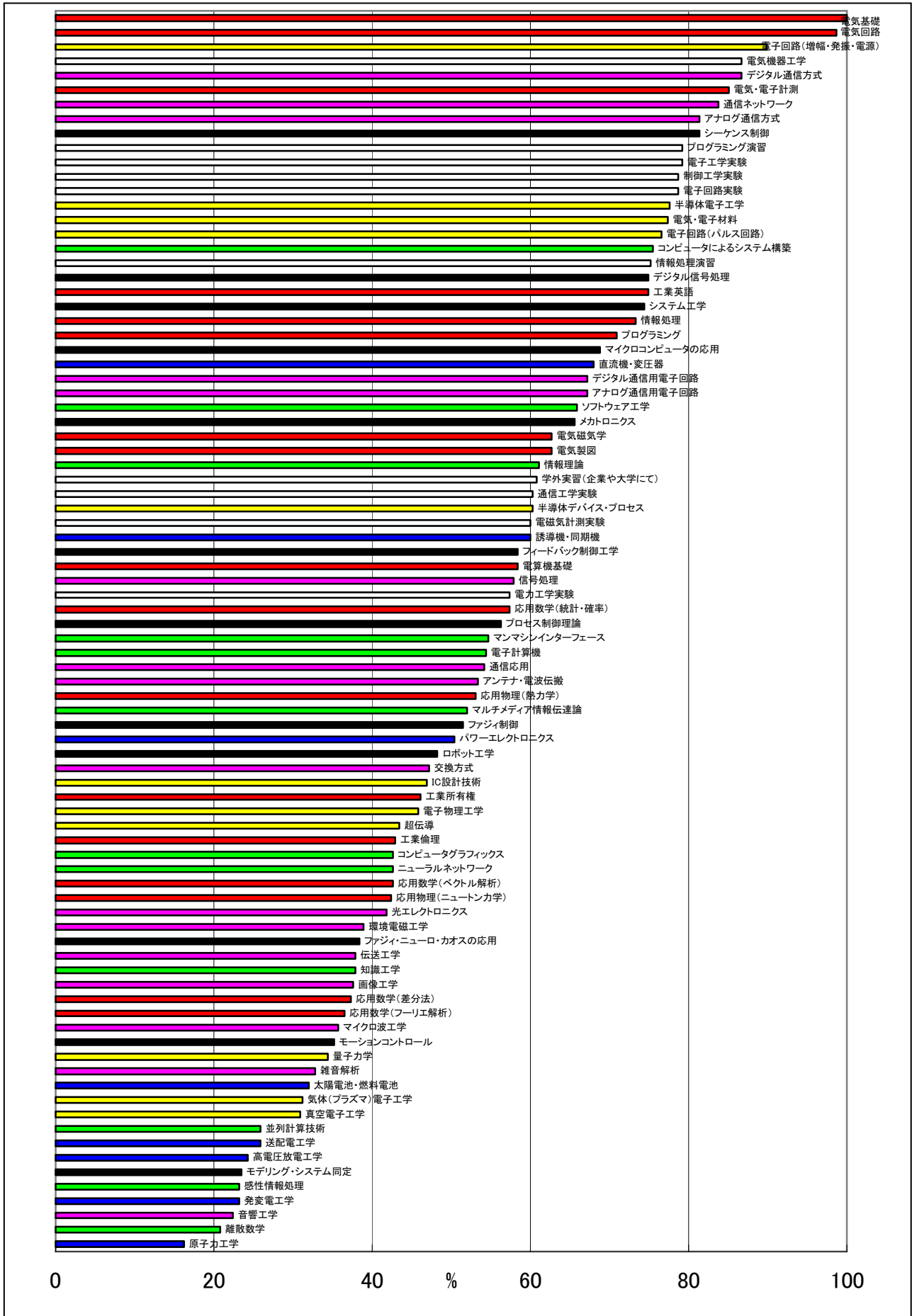
	必要性(%)	
	分野	全体
デジタル通信方式	100	86.7
通信ネットワーク	96.6	83.7
アナログ通信方式	93.8	81.3
アナログ通信用電子回路	77.5	67.2
デジタル通信用電子回路	77.5	67.2
信号処理	66.8	57.9
通信応用	62.5	54.1
アンテナ・電波伝搬	61.5	53.3
交換方式	54.5	47.2
光エレクトロニクス	48.3	41.9
環境電磁工学	44.9	38.9
伝送工学	43.7	37.9
画像工学	43.4	37.6
マイクロ波工学	41.2	35.7
雑音解析	37.8	32.8
音響工学	25.8	22.4



7. 実験・卒研

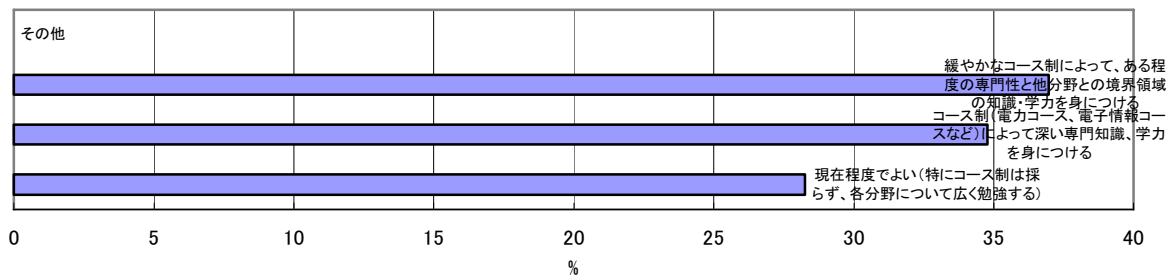
	必要性(%)	
	分野	全体
電気機器工学	100.0	86.7
電子工学実験	91.4	79.2
プログラミング演習	91.4	79.2
電子回路実験	90.8	78.7
制御工学実験	90.8	78.7
情報処理演習	86.8	75.2
学外実習(企業や大学にて)	70.2	60.8
通信工学実験	69.5	60.3
電磁気計測実験	69.2	60.0
電力工学実験	66.2	57.3





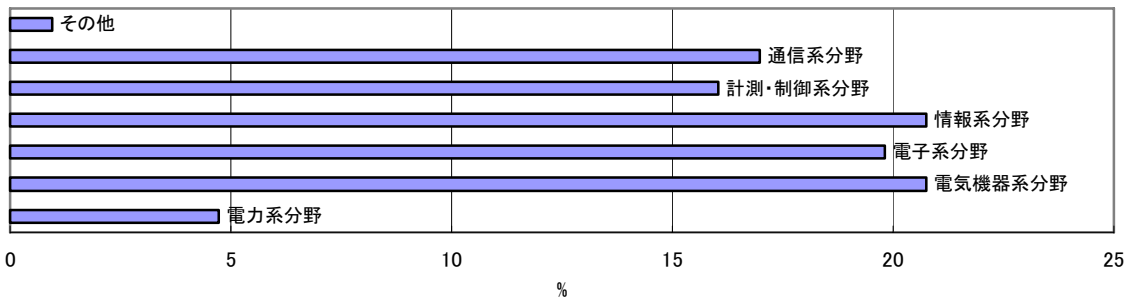
[8] 電気工学科の学生にどの程度の専門性が必要と思われますか？

現在程度でよい(特にコース制は採らず,各分野について広く勉強する)	28.3	(%)
コース制(電力コース,電子情報コースなど)によって深い専門知識,学力を身につける	34.8	
緩やかなコース制によって,ある程度の専門性と他分野との境界領域の知識・学力を身につける	37.0	
その他	0	



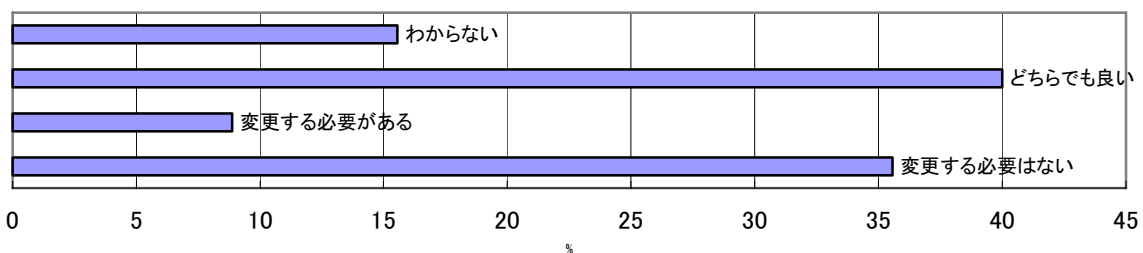
[9] 電気・電子系の各分野の中で,採用するとすれば主にどの分野を専攻した学生を採用したいと思われますか？

電力系分野	4.7	(%)
電気機器系分野	20.8	
電子系分野	19.8	
情報系分野	20.8	
計測・制御系分野	16.0	
通信系分野	17.0	
その他	0.9	



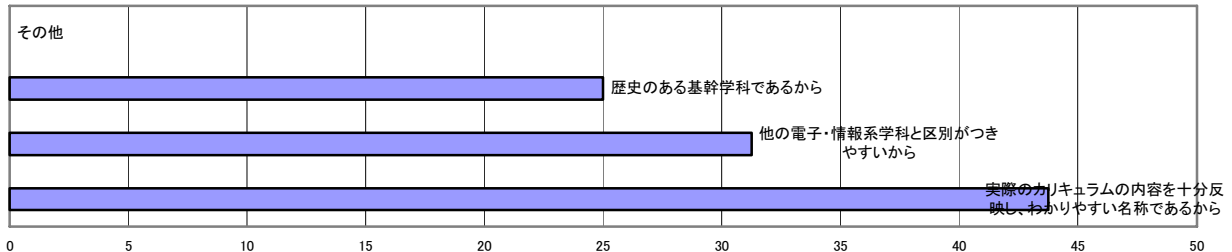
[10] 電気工学科という名称の変さらについてどのようにお考えですか？

変更する必要はない	35.6	(%)
変更する必要がある	8.9	
どちらでも良い	40.0	
わからない	15.6	



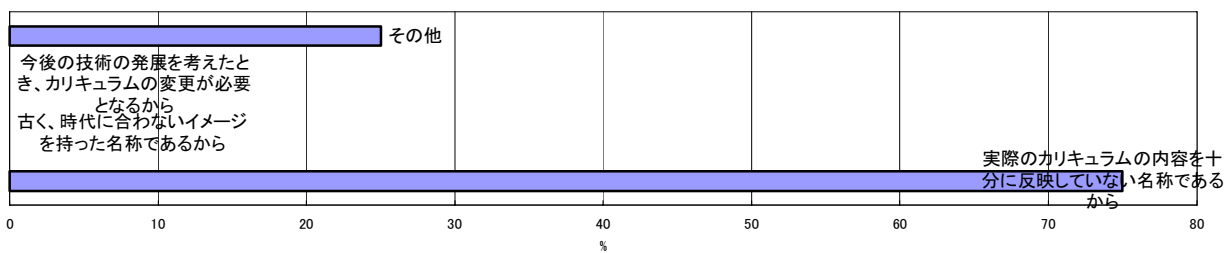
(1)の場合,その理由をお聞かせください。

実際のカリキュラムの内容を十分反映し,わかりやすい名称であるから	43.8	(%)
他の電子・情報系学科と区別が付きやすいから	31.3	
歴史のある基幹学科であるから	25.0	
その他	0	



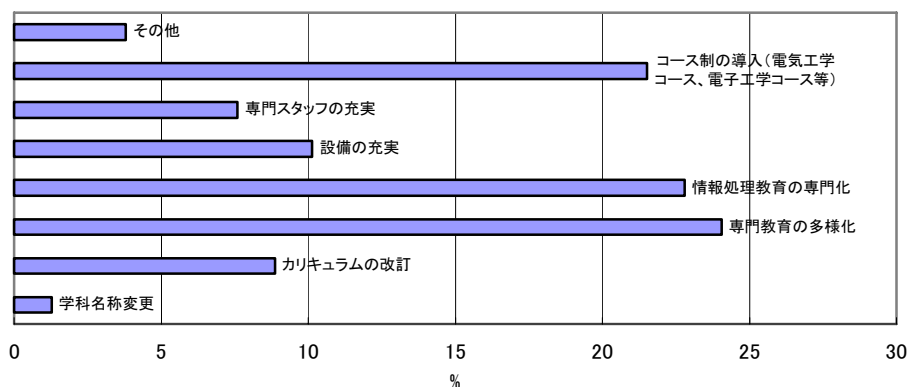
(2)の場合,その理由をお聞かせください。

実際のカリキュラムの内容を十分に反映していない名称であるから	75.0	(%)
古く,時代に合わないイメージを持った名称であるから	0	
今後の技術の発展を考えたとき,カリキュラムの変更が必要となるから	0	
その他	25.0	



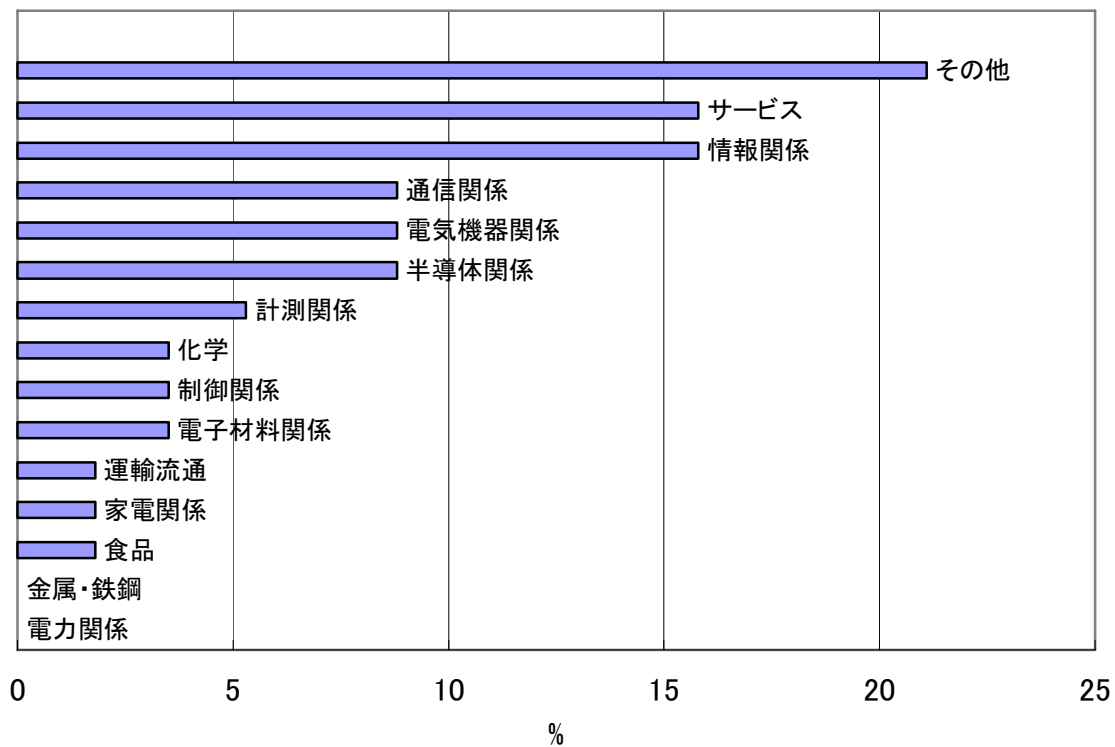
[11] 電気工学科が改組を行うとすると,何に重点をおく方がよいと思われますか?

学科名称変更	1.3	(%)
カリキュラムの改訂	8.9	
専門教育の多様化	24.1	
情報処理教育の専門化	22.8	
設備の充実	10.1	
専門スタッフの充実	7.6	
コース制の導入(電気工学コース,電子工学コース等)	21.5	
その他	3.8	



[13] アンケートにお答え下さりありがとうございました。最後に貴社の御名前をお書きください。また、貴社は以下のどの分野に属しますか？

その他	21.1	(%)
情報関係	15.8	
サービス	15.8	
半導体関係	8.8	
電気機器関係	8.8	
通信関係	8.8	
計測関係	5.3	
電子材料関係	3.5	
制御関係	3.5	
化学	3.5	
食品	1.8	
家電関係	1.8	
運輸流通	1.8	
電力関係	0	
金属・鉄鋼	0	



(出典 電気情報工学科)

(分析結果とその根拠理由)

学外の有識者、近隣の中学校、企業、保護者、教職員等から、継続的にアンケートを行い、その意見を自己点検や教育改善に十分反映させている。

以上のことから、学外関係者の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直し等具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

自己点検等管理委員会を中心として、教育環境に関する学生評価アンケートを行い、その改善策等を(資料9-1-②-4)に示すように検討している。また本校の教育改善委員会規則(資料9-1-④-1)、本校の教育改善システム図(資料9-1-④-2)に示すように、教育改善委員会を中心として、教務委員会、専攻科委員会、自己点検小委員会と連携をとりながら、科目間ネットワーク会議資料(9-1-④-3)を定期的に開催し、議論された結果をもとに、教育の質の向上や教育課程の見直し等を行っている(資料9-1-④-4や資料9-1-④-5)。外部評価に対する改善も、呉工業高等専門学校参与会 第1回報告書Q&A(資料9-1-④-6 訪問調査時に提示)に示すように行われている。

さらに各科で定期的に公開授業(資料 9-1-①-2)を行い、かつ複数の観察者(教員)は公開授業チェックシート(資料9-1-①-3)をもとに、各教員の授業手法を評価、また授業担当教員は評価された公開授業チェックシートを参考に、授業改善に努めている。

一方、教員の学生に対する成績評価に関しては、成績評価点検指針(資料9-1-①-5)のように複数の教員で成績評価点検を行い、各教員の科目成績評価に対する妥当性を点検し、成績評価の透明性を高めている。

(資料9-1-④-1)

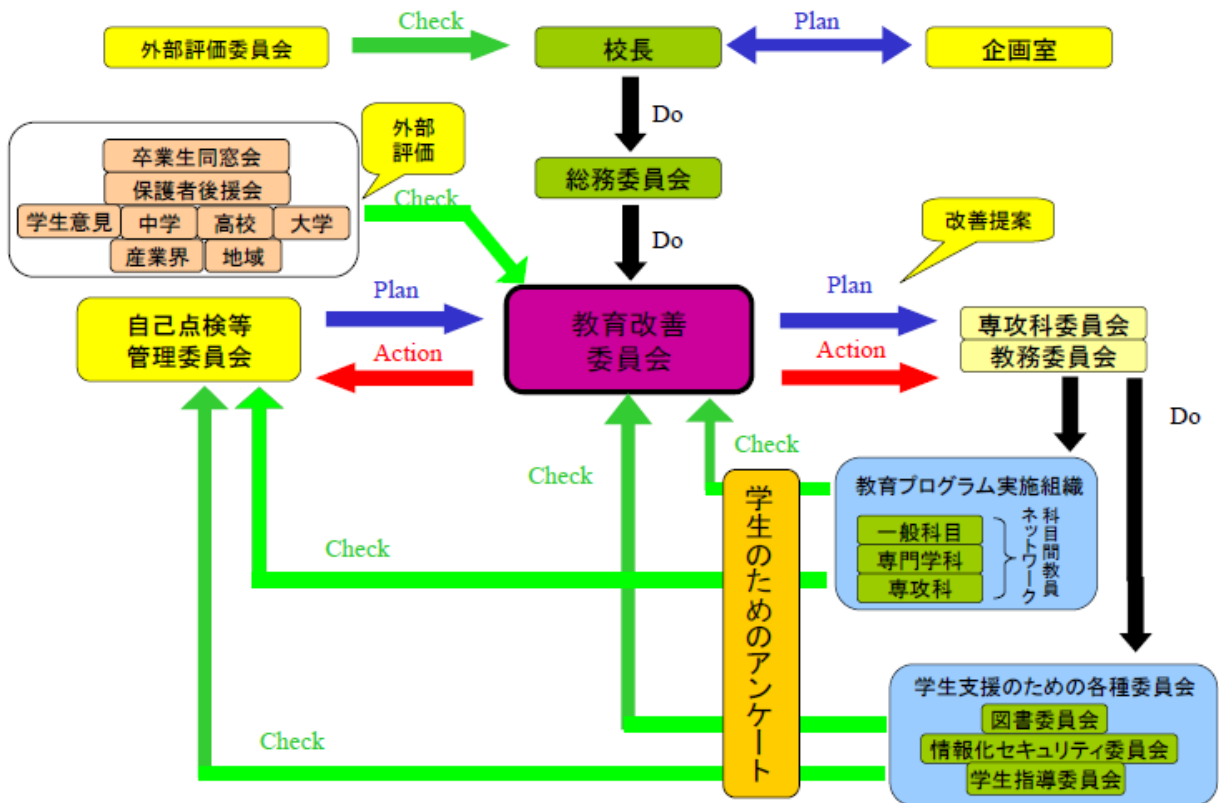
○呉工業高等専門学校教育改善委員会規則 新旧対照表 (案)

旧	新
<p>呉工業高等専門学校技術者教育改善推進委員会規則</p> <p>(設置)</p> <p>第1条 呉工業高等専門学校に教育プロセスと教育環境（以下「教育プログラム」という。）の点検・評価、改善を行うため、<u>呉工業高等専門学校技術者教育改善推進委員会</u>（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を点検・評価し、改善の提言及び提案を行う。</p> <p>(1) 学習目標及び教育目標に基づく<u>教育の実施</u>に関すること。</p> <p>(2) 教育プログラムの継続的な改善に関すること。</p> <p>(3) 教育の内容と質の保証に関すること。</p> <p>(4) 社会の要求や学生の要望に照らした教育プログラムの点検・評価、改善に関すること。</p> <p>(5) <u>日本技術者教育認定機構（JABEE）その他外部機関による評価のうち教育プログラムの改善</u>に関すること。</p> <p>(6) <u>その他技術者教育の改善推進に関し必要と認められること。</u></p> <p>(組織)</p> <p>第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。</p> <p>(1) 教員 若干名</p> <p>(2) 庶務課長及び学生課長</p> <p>(3) その他校長が必要と認めた者</p> <p>(任命)</p> <p>第4条 前条第1号及び第3号に定める委員は、校長が任命する。</p> <p>(任期)</p> <p>第5条 第3条第1号及び第3号に定める委員の任期は、1年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>2 第3条第1号及び第3号に定める委員は、再任することができる。</p> <p>(委員長)</p> <p>第6条 委員会に委員長を置き、第3条第1号に定める委員のうち校長が指名した者をもって充てる。</p> <p>2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。</p> <p>(運営)</p> <p>第7条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、議長となる。</p> <p>第8条 委員長は、会議で協議した事項を総括して校長に報告し、承認を受けなければならない。</p> <p>(委員以外の者の出席)</p> <p>第9条 委員会において必要があると認められた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。</p> <p>(庶務)</p> <p>第10条 委員会の庶務は、学生課において処理する。</p>	<p>呉工業高等専門学校教育改善委員会規則</p> <p>(設置)</p> <p>第1条 呉工業高等専門学校に教育プロセスと教育環境（以下「教育プログラム」という。）の点検・評価、改善を行うため、<u>呉工業高等専門学校教育改善委員会</u>（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を点検・評価し、改善の提言及び提案を行う。</p> <p>(1) 学習目標及び教育目標に関すること。</p> <p>(2) 教育プログラムの継続的な改善に関すること。</p> <p>(3) 教育の内容と質の保証に関すること。</p> <p>(4) 社会の要求や学生の要望に照らした教育プログラムの点検・評価、改善に関すること。</p> <p>(5) <u>日本技術者教育認定、認証評価、外部評価等に関すること。</u></p> <p>(6) <u>FDの企画、実行及び事後評価に関すること。</u></p> <p>(7) <u>授業評価の活用に関すること。</u></p> <p>(8) <u>教育プログラムのレビュー、アウトカムズ評価に関すること。</u></p> <p>(9) <u>その他教育の改善に関し必要と認められること。</u></p> <p>(組織)</p> <p>第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。</p> <p>(1) 教員 若干名</p> <p>(2) 庶務課長及び学生課長</p> <p>(3) その他校長が必要と認めた者</p> <p>(任命)</p> <p>第4条 前条第1号及び第3号に定める委員は、校長が任命する。</p> <p>(任期)</p> <p>第5条 第3条第1号及び第3号に定める委員の任期は、1年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>2 第3条第1号及び第3号に定める委員は、再任することができる。</p> <p>(委員長)</p> <p>第6条 委員会に委員長を置き、第3条第1号に定める委員のうち校長が指名した者をもって充てる。</p> <p>2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。</p> <p>(運営)</p> <p>第7条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、議長となる。</p> <p>第8条 委員長は、会議で協議した事項を総括して校長に報告し、承認を受けなければならない。</p> <p>(委員以外の者の出席)</p> <p>第9条 委員会において必要があると認められた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。</p> <p>(庶務)</p> <p>第10条 委員会の庶務は、学生課において処理する。</p> <p>附 則 この規則は、平成17年4月1日から施行する。</p>

(出典 庶務課)

(資料9-1-④-2)

呉高専教育改善システム



(出典 教育改善委員会)

(資料 9-1-④-3)

科目間教員ネットワーク構成員

平成 17 年 4 月 1 日現在

科目間 学科	数学と 専門科目	理科と 専門科目	外国語と 専門科目	国語と 専門科目	社会と 専門科目	専門科目と 専門科目	備考
一般科	黒川 赤池	笠松 小山	◎川尻 高島 中山 江口	◎小助川 新美	◎宇根 木原		
機 械	(応用数学) 森 ◎深澤	(応用数学) 森 ◎野村 (高)	灘野 岩本	河野 山田	吉村 上寺	八木 ◎野原	
	京免 中迫	八木 河口					
電気情報	山崎 藤井(敏)	横瀬 横沼	植田 三島	野村(利) 野村(博)	大西 井上	黒木 板東	
環境都市	中野 橋本	黒川 山口	森脇 竹村	市坪 堀口	重松 山岡	小堀 山口	
建 築	福原 門前	藤井(健) 正野崎	松野 篠部	石井 仁保	岡本	(美術) 間瀬	
計	12 名	12 名	11 名	10 名	9 名	8 名	
開催予定月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
開催月日	①16.6.29 ②16.9.27	①16.8. 2 ②16.10.27	①16.9.22	①16.10.25	①16.12.7	①17.4.4	

◎:会議開催世話人

◆第 2 回目以降開催予定

科目間 学科	数学と 専門科目	理科と 専門科目	外国語と 専門科目	国語と 専門科目	社会と 専門科目	専門科目と 専門科目	備考
開催予定月	平成 17 年 3 月	平成 17 年 4 月	平成 17 年 5 月	平成 17 年 6 月	平成 17 年 7 月	平成 17 年 9 月	
開催月日							

(出典 教育改善委員会)

(資料9-1-④-4)

第4回教育改善委員会議事録

日 時 平成17年7月21日(木) 16:00～17:15

場 所 第2ゼミナール室

出席者 黒木, 左古, 京免, 横瀬, 竹村, 石井, 後藤, 野町, 川野, 川上

議 題

(1) 科目間ネットワーク会議(英語と専門)からの改善案に関して

委員長より, 資料1に基づき外国語と専門科目間教員連携ネットワーク会議の議事内容が説明され, 審議した結果, 「専攻科特別研究報告に英文アブストラクトを記入する」ことを専攻科委員会に提案することとした。

(ア) その他の科目間ネットワーク会議の状況に関して

委員長より, 国語と専門科目, 社会と専門科目に関する科目間ネットワーク会議開催を依頼しているという報告があった。

(イ) 成績評価点検指針に関して(資料2)

委員長より資料2をもとに, 教務委員会及び専攻科委員会の審議結果を反映させた成績評価点検指針第2次案が説明され, 審議した結果, 成績評価点検シートにおける点検結果項目を若干修正し, これを第3次案として教務委員会及び専攻科委員会に再提案することです承された。

(ウ) 呉高専中期計画H16実績, H17計画案に関して(資料3)

委員長より資料3をもとに, 呉高専中期計画H16実績, H17計画案に関して説明され, 審議した結果, 資料3, (4)教育の質の向上及び改善のためのシステムの箇所に, H17計画案として「定期試験やレポートなどの成績評価を点検するシステムを構築する。」を追加し, 庶務課長に提出することとした。

(出典 教育改善委員会)

(資料 9-1-④-5)

第7回 教育改善委員会議事要録

日 時 平成17年12月1日(木) 16時～18時

場 所 第2ゼミナール室

出席者 黒木, 左古, 中迫(京免代理), 横瀬, 竹村, 石井, 後藤, 野町, 川野,

議 題

(1) 機械工学コース, 建築学コースのJABEE審査について

資料1に基づき, 機械工学科中迫教員, 建築学科石井委員から, それぞれの学科で行われたJABEE審査の報告があり, 審議した結果, 以下のとおり承認した。

- 1.1 各学科主任に, 本校本科累積未修得科目保有者及び他高専出身者の, 専攻科入学後の指導について, 指針を定め, 且つ明文化するよう依頼する。
- 1.2 教務委員会に, 1.1の本校本科累積未修得単位保有者に関連して, 本科生の卒業要件見直しの検討を依頼する。
- 1.3 事務部に, 専攻科カリキュラム変更を行う際の手続きについて調査依頼する。
- 1.4 事務部に, 教員顕彰選定プロセス自体の開示, 及びその規定の明文化を依頼する。

(2) 岐阜高専「教育点検・評価フォローアップシステム」視察報告について

資料2に基づき, 石井委員及び竹村委員より視察結果の報告があり, 審議した結果, 以下のとおり承認した。

- 2.1 資料2を参考に, 次回委員会までに委員長が授業評価点検システム原案を作成し, これを審議した後, 自己点検等管理委員会に提案する。

(3) 科目間ネットワーク会議について

委員長より資料3に基づき, 国語, 数学, 社会科目をもとに行われた科目間ネットワーク会議結果が報告され, 審議した結果, 以下のとおり承認した。

- 3.1 各学科主任に, 実験・実習レポートの評価方法を明文化し, これを学生に開示するようお願いすること。またその際, 国語表現の拙いもの, 漢字の書き間違いや極端に漢字を使わないものなどのレポートに対して, 担当教員からの指導も明確に行うよう依頼する。
- 3.2 各学科主任に, 今年度大学編入者, 及び来年度大学編入予定者に対して, 編入大学先における単位認定科目のアンケートを依頼する。

また, このアンケートは, 次年度以降も当該年度大学編入予定者に依頼する。

(4) エビデンス保存について

委員長より資料4に基づき, エビデンスの保存の確認, 及びエビデンス保存マニュアルについての提案があり, 審議した結果, 以下のとおり承認した。

- 4.1 保管場所, 対象学年, 4年生以上の非JABEE科目の項を追記する。
- 4.2 「資料の順番付けをして紙ファイルに保存する」という項目を追記する。
なお, 資料の順番付けについては, 機械工学科の事例を参考にする。
- 4.3 4.1～4.2の修正後の文案を各委員が確認後, 各学科等で審議を依頼する。

(5) その他

(1) 平成18年度シラバスについて

今回のJABEE審査の結果から、来年度のシラバスについては、準学士課程と専攻科を合冊して作成するよう、専攻科委員会及び教務委員会に提案することとした。（作成例：機械工学科と専攻科（機械系）を合冊する。）

また様式中の、「達成目標」の表現については、「わかること」「出来ること」等の抽象的な表現は極力避け、「…の計算が行えること」「…の説明が出来ること」等のような具体的な表現で記述するよう併せて依頼することとした。

（出典 教育改善委員会）

(分析結果とその根拠理由)

学生による教育環境アンケートの評価結果を教育の質の向上、改善に反映している。また教員で構成した科目間教員ネットワーク会議を通してカリキュラムの改善や教育課程の見直しを継続的に行っている。さらに学生の成績評価に対し、複数の教員で成績評価点検を行っている。

以上のことから、評価結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムを十分に整備し、授業方法の改善及びカリキュラムの見直しに継続的な方策が講じられている。

観点9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

平成10年度から毎年学生による授業評価アンケートを行い、その結果を即教員に返却し、各教員はこの結果を基にその改善策やコメント等を資料9-1-②-1や資料9-1-②-2のようにまとめ、教育改善に努めている。また自己点検等管理委員会を中心として9-1-⑤-1や資料9-1-⑤-2に示すような、教員個人による教育等業績評価を毎年行い、これを資料9-1-⑤-3（訪問調査時に提示）のようにまとめて授業改善に努めるとともに、学校として各教員の改善状況を把握するシステムを構築しつつある。

(資料9-1-⑤-1)

1. 教員の教育業績等評価の趣旨

高専は深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的としている。そしてこの目的達成のために、常に教育水準の維持向上に努めるとともに、教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるよう努めなければならない。

一方、高専には後期中等教育相当の学生を受入れ5年（専攻科進学の場合は7年）の長期間にわたる教育を行うため、学生生活指導は極めて重要な役割を持つ。さらに、学校運営においても教員の役割が強く求められる。

このように、高専教員は主として教育者の面を持ち、一方で研究者の面を持つとともに高専の管理運営にも果たすべき役割がある。

高専教員個々に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、ともすれば専門の研究業績のみが重視され、教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。

この教育業績等評価は、このような観点から研究業績以外の業績評価を定量的に行おうとするものである。敢えて定量的に評価するのは、評価に透明性があること、短期間に実施が可能なこと、一高専内のみならず全高専の中での相対的位置を示す参考資料となることからである。

この教育業績等評価を一つの資料として、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、高専における教育の充実・向上を目指すものである。

この教育業績等評価は、第1部：教員の自己評価、第2部：教員による相互評価及び第3部：学生による教員の評価から成る。

(分析結果とその根拠理由)

各教員は、学生による授業評価アンケート結果に基づいて授業の改善策やコメントをまとめ、これを学内に公表している。

以上のことから各教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。また、各教員の改善活動状況を、学校として把握している。

観点9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教育方法の改善に関する研究は、1994年以降に本校教員により著された教育論文(資料 9-1-⑥-1)に示すように継続的に行われ、各教員はその結果を授業手法の改善に役立てている。またこれらの研究活動を通して得られた知見の一部は、1994年以降に本校教員により著された教育図書(資料 9-1-⑥-2)に示すように図書として出版され、教育の質向上に資されている。さらに資料 9-1-⑥-3(訪問調査時に提示)や資料 9-1-⑥-4(訪問調査時に提示)に示すように、全教員は各専門分野の研究も精力的に推進し、これを公表するとともに、これらの研究成果を資料 9-1-⑥-5(訪問調査時に提示)に示すように準学士課程生、専攻科生の卒業研究、特別研究にフィードバックしている。

(資料 9-1-⑥-1)

1994年以降に本校教員により著された教育論文

著者名	論文題目	発表誌名または発表会名
田邊 達雄	教育機器を取り入れた英語教育についての一考察-CAIの場合-	全国高等専門学校英語教育学会 研究論集(第15号,1995年2月)
田邊 達雄	コンピュータを組み合わせた英語授業	マルチメディア時代での新しい教育研究会 (1995年2月,広島)
田邊 達雄	英語教育におけるメディアの活用	平成7年度教育方法改善等共同プロジェクト (1995年7月,愛媛)
田邊 達雄	教育機器を取り入れた英語教育(特にCAI)についての一考察	全国高等専門学校英語教育学会 第19回大会(1995年9月,京都)
左古 悦雄	高専数学の個人指導に用いるビデオ教材の作成	放送教育開発センター平成7年度共同研究(公募)実施報告書(1996年3月)
柳 善和(名古屋学院大) 萬谷 隆一(北海道教育大) 杉野 直樹(岐阜大) 川島 浩勝(長崎外国語大) 平本 哲嗣(高松大) 田中 祐治(兵庫教育大) 能登原 祥之	英語教育学モノグラフ16 リスニング「教材の authenticity の問題」	雑誌『英語教育』9月増刊号 (45巻7号,1996年9月)

能登原 祥之	日本語英語学習者の「聴解単位処理能力」の諸側面－困難点の考察と発達状況を捉える枠組みの模索	第27回中国地区英語教育学会 (1996年9月, 島根)
佐賀野 健 荒木 祥一 (広大大学院) 西村 清巳 (広大)	男子バレーボール選手のブロック技術分析～相手攻撃パターンに対するセンターブロッカーの動きについて～	中国四国教育学会編「教育学会研究紀要」 (第42巻 第2部, 1997年3月)
荒木 祥一 (広大大学院) 西村 清巳 (広大) 佐賀野 健	ミニ・ラグビーにおけるパス攻撃の指導法に関する研究	中国四国教育学会 (1997年11月, 広島)
小松 孝二 市坪 誠	測量実習における教育手法の改善	論文集・高専教育 (第20号, 1997年3月)
田辺 達雄 石井 淳二 川尻 武信 周藤 剛士 能登原 祥之 岡中 正三 長町 三生	知的マルチメディアの語学教育への応用	教育システム情報学会誌 16 (2) , 99-104, 1999
左古 悦雄	手作りビデオ教材による数学	論文集「高専教育」 (第22号, 1997年3月)
荒木 祥一 (広大大学院) 西村 清巳 (広大) 佐賀野 健	ミニ・ラグビーにおけるパス攻撃の指導法に関する研究	中国四国教育学会編「教育学研究紀要」 第44巻 第2部, 1998年3月)
金 致偉 (広大) 佐賀野 健 橋原 孝博 (広大) 西村 清巳 (広大)	男子トップバレーボールチームの戦術に関する研究	中国四国教育学会 (1998年11月, 高松)
八木 良尚	エレクトロスプレイの基本特性について	実践教育 (Vol. 13, No. 6, 1998年11月)
八木 良尚	卒業研究「自然対流熱伝達実験教材の開発」による教育的な効果	実践教育 (Vol. 14, No. 5, 1999年9月)
八木 良尚	卒業研究による教育的な効果	1999年度実践教育研究発表会公園予稿集 (1999年9月, 千葉)

岡本 二郎他著	広島県の近代化遺産-広島県近代化遺産(建築物等) 総合調査報告-	広島県教育委員会(1998年3月)
能登原祥之 石井淳二 田邊達雄 (広島県立保健福祉大学) 川尻武信 周藤剛士 岡中正三	Eメールを利用した国際交流授の実践	「工学教育」第48巻 第3号 (2000年5月)
八木良尚	エレクトロスプレイに関する基礎研究	実践教育 (Vol. 15, No. 2, 2000年3月)
八木良尚	自主的な卒業研究による教育的な効果	2000年度実践教育研究発表会講演予稿集 (2000年9月, 山形)
福原安洋 中山昭夫 (福山大) 高松隆夫 (広工大) 森村 毅 (近大工)	鋼構造	森北出版 (2000年5月30日)
木原滋哉 (分担執筆)	実践の政治学 (畑山敏夫・平井一臣編)	法律文化社, (2001年)
木原滋哉 (分担執筆)	住民図書館 25年のあゆみ	住民図書館, (2001年)
岡中正三	連立微分方程式の解法について	呉工業高等専門学校研究報告, 第63号, 1-6, (平成13年8月)
能登原祥之 (比治山大) 石井淳二 川尻武信 周藤剛士 岡中正三 谷岡憲三 長町三生 (広島国際大)	Computer-Mediated Communication 活動を通じた国際交流授業の運営 -E-mail Writing 活動の場合の記述研究-	論文集「高専教育」第24号, 271-276, (平成13年3月)
高島裕臣 山田純 (広島大)	語彙指導研究の課題	第27回全国英語教育学会 課題研究フォーラム口頭発表 (平成13年8月8日, 広島国際会議場)
八木良尚	自主的な卒業研究による教育的な効果	実践教育, 16(2), 55-57, (2001)
八木良尚 中田雅士 (呉高専専攻科)	ガス拡散電極を用いた電磁推進膜型の推力特性	実践教育, 16(6), 35-37, (2001)

河村進一	建設 CALS/EC への対応と情報処理教育の方向性について	平成 13 年度情報処理教育研究集会講演論文集 No36, pp. 607-612, (2001)
木原 滋哉	現代国民国家の変容とラディカルな改良主義－ヨアヒム・ヒルシュについて－	呉工業高等専門学校研究報告, 第 65 号, p. 1-10 (平成 15 年 8 月)
八木 良尚 高橋 明 (呉高専専攻科)	水／燃料混合噴霧燃焼に関する研究	実践教育, 18(2), 44-46 (2003)
藤井 敏則 野村 利英	時間割の自動配置システムの開発	平成 14 年度高専教育講演論文集, 第 26 卷, 639-644 頁 (平成 15 年 3 月)
藤井 敏則 横沼 実雄 坂井 貴彦 池元 浩一郎	ロボット制御の基礎が学べるマイコン実験装置の開発	平成 15 年度高専教育講演論文集, 第 27 卷, 393-398 頁 (平成 16 年 3 月)
山本 透 (広島大) 大西 義浩 川田 和男 (高松高専)	技術教育としてのレスキューロボットコンテストに関する一考察	学校教育実践学研究, 第 9 卷, pp. 147-152(2003)
松野 一成 西村 光正 藤井 健 福原 安洋 正野崎 昭二 岡本 二郎 門前 勝明 間瀬 実郎 石井 仁 富田 英夫	全国高等専門学校建築シンポジウムの教育効果	平成 15 年度高専教育論文講演論文集, pp. 129-132, (2003 年 8 月)
大東由 喜夫 山田 千鶴 田村 忠士 岩本 英久 山根 冠児 (中国労災病院)	地域の医療ニーズに応じた医工連携への取り組み 脳神経外科手術椅子に取り付けるアームレストの開発	高専教育第 26 号, pp. 151-156 (2003)
大東由 喜夫 山田 千鶴 田村 忠士 河野 正来	時代変化に即した新たな工作実習手法の実践	高専教育第 26 号, pp. 429-434 (2003)

(資料 9-1-⑥-2)

1994年以降に本校教員により著された教育図書

著者名	論文題目	発表誌名または発表会名
白川 洋二	文部省認定 工業英検 4級対策	日本工業英語協会 (1994年1月)
高橋 進 (龍谷大) 木原 滋哉 他3名	J. リンス『全義体制と権威主義体制』 (共訳)	法律文化社 (1995年7月)
宇根 俊範	「郡山城下町遺跡出土木簡」の人名について	「芸備地方史研究」 (197号, 1995年7月)
宇根 俊範	平安貴族	「日本古代史研究事典」 (東京堂出版 1995年)
黒木 太司	ミリ波回路の設計とその応用技術	(株) 日本テクノセンター社 (1995年4月)
黒木 太司	ミリ波回路設計の基礎と応用	(株) 日本工業技術センター社 (1995年8月)
石川 捷治 (九州大) 平井 一臣 (鹿児島大) 木原 滋哉 その他6名	『自分からの政治学』	法律文化社 (1996年4月)
木原 滋哉 中村 健吾 (大阪市大)	J. ヒルシュ『資本主義にオルタナティブはないのか』 (共訳)	ミネルヴァ書房 (1996年12月)
川尻 武信	コミュニケーション活動と語彙の問題	『楽しい英語授業』7号 1996年5月 (明治図書)
黒木 太司	超高周波回路設計・演習	(株) 日本テクノセンター (1999年1月)
小堀 慈久 赤木 知之 (豊田高専) 吉村 優治 (岐阜高専) 上 俊二 (徳山高専) 伊藤 孝 (豊田高専)	土質工学	コロナ社 (2000年12月)
中村 雄治 (広大) 玉井 宏章 (広大) 藤谷 義信 (広大) 松尾 彰 (以上広大) 南 宏一 (福山大) 中山 昭夫 (福山大) 横井 友幸 (福山大) 唐立 慎二 (広島県)	実験でわかる構造力学の基礎	技報堂出版 (2000年3月1日)

川端康洋（米子高専） 高松隆夫（広工大） 野添久視（広工大） 原田洋臣（福山工大） 森村 毅（近大工） 福原安洋		
福原安洋 中山昭夫（福山大） 高松隆夫（広工大） 森村 毅（近大工）	鋼構造	森北出版（2000年5月30日）
木原滋哉（分担執筆）	実践の政治学（畑山敏夫・平井一臣編）	法律文化社，（2001年）
木原滋哉（分担執筆）	住民図書館25年のあゆみ	住民図書館，（2001年）
中山 文（著）	『ウィリアム・ブレイクー200年後の世紀末』	大阪教育図書（2001年）
竹村和夫（分担執筆）	コンクリート構造	コロナ社，（平成13年3月）
福原安洋（共著）	紙模型でわかる鋼構造の基礎	技報堂出版，（平成13年9月）
新美 哲彦（分担執筆）	平安文学の風貌	武蔵野書院（平成15年3月）
新美 哲彦（分担執筆）	古代中世文学論考第十集	新典社（平成15年10月）
新美 哲彦（分担執筆）	日本古代文学と東アジア	勉誠出版（平成15年3月）
新美 哲彦（分担執筆）	あらすじで読む日本の古典	中経出版（平成16年3月）
古賀 元章（水産大） 川尻 武信	海外旅行者が知っておくと得する税関	大学出版（2003年4月）

（分析結果とその根拠理由）

教育研究，学術研究ともに継続して行われており，その研究活動により得られた結果は授業内容の改善や卒業研究，特別研究等に反映されている。

以上のことから，各教員の研究活動は教育の質の改善に十分寄与している。

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメントについては教育改善委員会が各種委員会に改善提言を行い、また研究会や講演会を企画・運営している。第23回学生指導担当教員等研究会報告書(資料 9-2-①-1 訪問調査時に提示)に示すように、毎年夏季授業休業中を利用して研究会を開催し、教員のファカルティ・ディベロップメント改善のための研究討論を行っている。また呉工業高等専門学校報第119号、第120号、第124号、第126号(資料9-2-①-2～資料9-2-①-5 訪問調査時に提示)に示すように継続的に外部講師によるFD講演会を開催し、教員各位の教育改善に役立てている。

(分析結果とその根拠理由)

毎年、学生指導担当教員等研究会が開催されている。また平成13年度より、教育改善委員会企画の学内外講師によるFD講演会が継続的に行われ、かつその結果が公表されている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されている。

観点9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

学生指導担当教員等研究会を通して得られた議論は資料 9-2-①-1のようにまとめられ、教務委員会、学生指導委員会、寮務委員会などの諸委員会に諮られ、教育の質向上に結びつけられている。また外部講師によるFD講演会の結果に関しては、たとえば、FD講演会「日本語力教育・発想力教育」での講演テキスト(資料 9-2-②-2 訪問調査時に提示)が各科に配布され、学生の日本語力・発想力育成のためのカリキュラムに積極的に取り入れられている。

(分析結果とその根拠理由)

学生指導担当教員等研究会やFD講演会等の結果に基づき、教員自ら教育改善の方針を定め、授業改善を推進している。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に十分結び付いている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成10年度から随時、学生による授業アンケート、外部有識者・企業・保護者によるアンケートなど

を意欲的に行い、教育の質の向上に努めてきた。また平成17年度から教育改善委員会を再整備し、この委員会を中心として組織的に全学的な教育改善のPDCAサイクルを実施し、教員の資質向上、教育手法の改善、カリキュラムや教育課程の見直し・改善に取り組んでいる。

(改善を要する点)

教育改善委員会が再整備されてからまだ1年あまりであり、現在進行中のPDCAサイクルに対する教育改善効果の検証は不十分である。

(3) 基準9の自己評価の概要

本校では教育改善委員会を中心として教務委員会、専攻科委員会、自己点検小委員会と連携をとりながら、教育の質の向上及び教育改善を促進している。毎年行われる学生による教育環境アンケート・授業評価アンケートでは、その結果をもとに各種委員会や各教員が改善策やコメントを公表し、それぞれの授業手法に対する改善に努めている。外部評価に関しては、外部有識者・企業・保護者によるアンケートを定期的に行い、その意見を自己点検や教育改善に反映させている。また定期的に公開授業を行い、教員団で構成された聴講者の公開授業チェックシート結果をもとに、各教員は授業手法の改善に努めている。教員の学生成績評価に関しては、複数の教員で成績評価点検を行い、各教員の科目成績評価に対する妥当性を点検し、成績評価の透明性を高めている。さらに教育改善委員会を中心として科目間教員ネットワーク会議を定期的を開催し、議論された結果をもとに、教育の質の向上や教育課程の見直し等を行っている。研究活動に関しては、全教員意欲的にそれぞれの研究を推進し、これを国内外の教育雑誌や学術雑誌に公表するとともに、これらの教育・研究成果は準学士課程生の卒業研究、専攻科生の特別研究等にフィードバックされ、学生による外部発表も旺盛に行われている。また学生指導担当教員等研究会、外部講師によるFD講演会も継続的に行われ、教員それぞれの教育手法の再点検や改善の一助としている。

基準 10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

資産については、独立行政法人移行時に国から現物出資または譲与されたもの及び平成 16 年度以降に購入等により取得したものにより構成されている。

債務（負債）については、主として会計基準に準拠した処理を行った結果生じたものである。

平成 17 年度 貸借対照表		(資料 10-1-①-1)
[資産の部]		6,594,279,615
流動資産		239,285,008
現金及び預金		238,859,779
普通預金		237,542,579
その他預金		1,317,200
未収学生納付金収入		84,600
未収学生納付金収入		84,600
棚卸資産		260,784
未成研究支出金		260,784
前払費用		20,567
前払費用		20,567
未経過保険料		20,567
その他の流動資産		59,278
立替金		59,278
固定資産		6,354,994,607
有形固定資産		6,353,956,001
建物		1,430,153,540
建物		983,000,000
建物附属設備		447,153,540
建物減価償却累計額		-289,695,482
構築物		141,285,760
構築物減価償却累計額		-36,399,264
車両運搬具		2,512,220
車両運搬具減価償却累計額		-244,244
工具器具備品		247,383,577
工具器具備品減価償却累計額		-87,180,106
土地		4,946,140,000
無形固定資産		1,018,395
電話加入権		336,000
特許権仮勘定		682,395
投資その他の資産		20,211
長期前払費用		20,211
[本支店勘定]		-229,478
[本支店]機構本部		-229,478
[負債の部]		412,076,969
流動負債		261,087,216
運営費交付金債務		2,085
預り補助金等		186,500
預り寄附金		8,240,327
前受受託研究費等		432,000
未払金		5,957,956
未払費用		224,534,810
給与		219,750,760

法定福利費	108,951
賃借料	540,015
水道光熱費	2,366,701
未払利息	20,301
その他未払費用	1,748,082
前受金	117,300
預り金	21,616,238
社会保険料	116,029
源泉所得税等	8,724,906
その他預り金	12,775,303
固定負債	150,989,753
資産見返負債	133,514,953
資産見返運営費交付金等	51,424,221
資産見返運営費交付金	51,424,221
資産見返寄附金	6,150,669
資産見返物品受贈額	75,940,063
長期未払金	17,474,800
[資本の部]	6,181,941,079
資本金	5,841,955,441
政府出資金	5,841,955,441
資本剰余金	339,985,638
資本剰余金	671,960,000
資本剰余金施設費	819,000
資本剰余金補助金等	670,805,000
資本剰余金譲与	336,000
損益外減価償却累計額	-331,974,362

(出展：平成17年度 貸借対照表)

資産保有状況資料 (資料 10-1-①-2)

団地名	区分	面積又は数量	計上額 (円)
豊栄団地 (校舎地区)	建物	29,299 m ²	822,719,273
	構築物	—	366,160,378
	工具器具備品	106 品	160,203,471
	土地	98,524 m ²	4,394,190,000
	無形固定資産	—	1,018,395

団地名	区分	面積又は数量	計上額 (円)
広団地 (職員宿舎)	建物	1,380 m ²	25
	構築物	—	4
	土地	3,990 m ²	375,000,000

団地名	区分	面積又は数量	計上額 (円)
青山団地 (職員宿舎)	建物	1,395 m ²	49,788,000
	構築物	—	1,359,633
	土地	2,166 m ²	17,695,000

(出典：平成17年度保有資産一覧)

(分析結果とその根拠理由)

現在保有している資産で、教育研究活動に決定的な支障は生じていない。

負債についても、あるべくして存在するものであり特段教育研究活動に支障を与えるものではない。

観点 10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか

(観点に係る状況)

国立高等専門学校機構本部（以下、本部という）から配分される運営費交付金、施設整備費補助金に加え、寄附金、共同研究、受託研究、受託事業、科学研究費補助金等外部資金の獲得に勤めている。

(資料 10-1-②-1)

歳出（支出）決算額の推移

(単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
歳出決算額	2,043,748	1,897,316	1,414,677	—	—
支出決算額	—	—	—	1,248,734	1,434,438

(出典：年度別予算額)

(資料 10-1-②-2)

収入確保等の状況

運営費交付金 (単位：千円)

区 分	平成 16 年度	平成 17 年度
金額	979,750	1,157,682

施設整備費補助金

区 分	平成 16 年度	平成 17 年度
金額	18,829	17,273

授業料 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
金額	172,121	177,018	177,592	187,959	192,624

入学科 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
金額	15,819	17,461	16,716	16,640	16,328

検定料 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
金額	4,439	5,719	5,966	5,542	6,353

その他 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
金額	150,170	16,652	18,866	15,170	11,230

注) 平成 13 年度の「その他」には、学校財産処分収入（広地区の一部）128,000 千円を含む。

収入確保等の状況（外部資金関係）

寄附金 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
受入件数	20	17	23	25	19
受入金額	15,570	10,120	12,460	10,375	8,100

共同研究 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
受入件数	4	6	8	6	10
受入金額	2,050	2,400	3,100	9,788	20,867

受託研究 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
受入件数	1	4	7	1	2
受入金額	300	7,230	18,302	105	2,368

受託事業 (単位：千円)

区 分	平成 16 年度	平成 17 年度
受入件数	3	5
受入金額	544	823

科学研究費補助金 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
申請件数	22	39	54	50	44
採択件数	8	8	14	11	7
採択率	36.36%	20.51%	25.93%	22.00%	15.91%
交付金額	15,130	10,160	17,290	17,460	11,700

産業技術研究助成事業 (単位：千円)

区 分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
受入件数	1	1	1	1	1
受入金額	25,454	5,967	8,539	19,136	8,372

(出典：年度別収入額調)

(分析結果とその根拠理由)

財源の主要な部分を占める運営費交付金は、基本的に交付金算定ルールに基づき配分され、臨時的に必要な経費については、その都度本部へ予算要求している。

結果として、各事業年度において必要な予算額は確保している。

今後、算定ルールに基づく交付金の減額を考慮すると、自己収入の増による対応や研究活動に資する財源の獲得を一層外部へ求める等の方策が必要となる。

観点 10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

年度当初に本部から交付金予算配賦後、当該年度の自己収入を積算し支出予算総額を決定している。

支出予算は、必要額を各事業に配分している。

年間予算は、総務委員会において審議され校長が決定する。

算の執行に当たっては、収入支出のバランスを考慮し適切に執行している。

(分析結果とその根拠理由)

自己収入額を適切に把握し収支のバランスを考慮している。

観点 10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

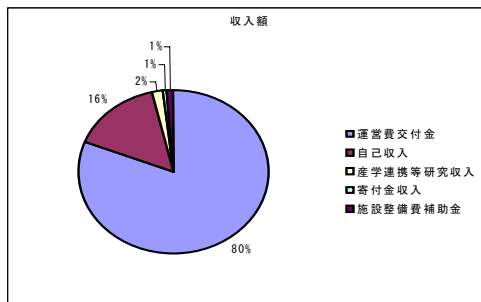
収支は均衡しており、過大な支出超過となっていない。

(資料 10-2-②-1)

平成 17 年度収入・支出額内訳

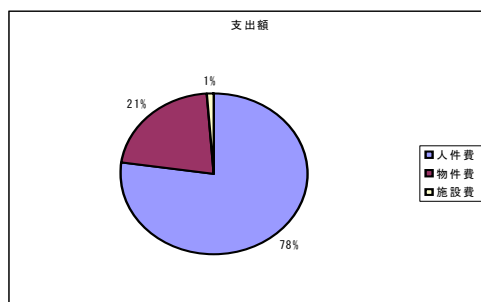
(単位：千円)

区 分	決 算 額
収 入	
運営費交付金	1,157,682
自己収入	224,602
産学連携等研究収入	25,990
寄付金収入	8,100
施設整備費補助金	17,273
計	1,433,647



(単位：千円)

区 分	決 算 額
支 出	
人件費	1,109,394
物件費	307,771
施設費	17,273
計	1,434,438



(出典：平成 17 年度収入・支出額内訳)

平 1 7 年度損益計算書

(資料 10-2-②-2)

[経常費用]	1,466,805,698		
業務費	1,368,302,168	一般管理費	98,483,229
教育・研究経費	214,003,284	一般管理費	98,483,229
消耗品費	62,962,460	消耗品費	6,551,340
備品費	21,529,232	備品費	1,551,199
印刷製本費	5,523,832	印刷製本費	174,300
水道光熱費	24,314,706	水道光熱費	3,152,989
電気料	13,790,740	電気料	2,297,909
ガス料	5,477,100	ガス料	62,288
水道料	5,046,866	水道料	792,792
旅費交通費	27,416,063	旅費交通費	3,251,427
通信運搬費	3,847,771	通信運搬費	1,457,160
賃借料	8,347,259	賃借料	6,077,610
車両燃料費	255,150	車両燃料費	105,962
保守費	2,413,572	福利厚生費	820,005
修繕費	2,790,915	保守費	7,445,390
広告宣伝費	1,983,665	修繕費	40,931,794
行事費	673,546	損害保険料	17,142
諸会費	1,192,121	諸会費	687,740
会議費	46,415	会議費	40,758
支払報酬	1,670,200	諸謝金	38,000
諸謝金	1,670,200	支払手数料	242,705
奨学費	13,782,750	銀行手数料	210,705
奨学交付金	13,782,750	その他手数料	32,000
減価償却費	30,742,074	租税公課	2,115,920
雑費	4,511,553	自動車重量税	107,100
雑役務費	4,511,553	固定資産税	1,925,700
教育研究支援費	20,752,099	消費税等	83,120
消耗品費	7,114,381	減価償却費	1,410,326
備品費	234,826	雑費	22,411,462
水道光熱費	2,607,073	環境整備費	8,601,255
電気料	1,902,247	雑役務費	13,810,207
ガス料	20,762	財務費用	20,301
水道料	684,064	財務費用	20,301
旅費交通費	168,520	支払利息	20,301
通信運搬費	2,708,310		
賃借料	250,136	[経常収益]	1,466,837,787
保守費	54,343	[経常収益] 運営費交付金収益	1,126,747,610
修繕費	598,500	[経常収益] 授業料収益	206,851,000
広告宣伝費	90,552	[授業料収益] 授業料収益	206,289,800
諸会費	6,000	[授業料収益] 講習料収益	561,200
減価償却費	6,694,338	[経常収益] 入学金収益	16,412,400
雑費	225,120	[経常収益] 検定料収益	6,352,500
雑役務費	225,120	[経常収益] 受託研究等収益	23,373,000
受託研究費	23,329,480	受託研究収益	2,367,500
謝金	870,400	共同研究収益	21,005,500
旅費交通費	975,710	[経常収益] 受託事業等収益	822,901
物件費	20,175,870	[経常収益] 補助金等収益	7,338,500
その他の受託研究費	1,307,500	[経常収益] 寄附金収益	13,340,792
受託事業費	822,901	[経常収益] 施設費収益	16,453,500
謝金	13,600	[経常収益] 資産見返負債戻入	38,477,120
物件費	530,896	資産見返運営費交付金等戻入	4,530,558
その他の受託事業費	278,405	資産見返寄附金等戻入	1,500,264
教員人件費	787,279,289	資産見返物品受贈額戻入	32,446,298
常勤教員給与	761,682,709		

常勤教員給与	394,170,084	[経常収益] 財務収益	1,581
常勤教員賞与	154,915,225	受取利息	1,581
常勤教員退職給付費用	204,210,068	[経常収益] 雑益	10,666,883
常勤教員法定福利費	8,387,332	財産貸付料収入	8,538,538
非常勤教員給与	25,596,580	その他の雑益	2,128,345
非常勤教員給与	25,481,550		
非常勤教員法定福利費	115,030		
職員人件費	322,115,115	[当期総利益(総損失)]	32,089
常勤職員給与	308,915,704		
常勤職員給与	210,545,847		
常勤職員賞与	71,835,127		
常勤職員退職給付費用	21,649,056		
常勤職員法定福利費	4,885,674		
非常勤職員給与	13,199,411		
非常勤職員給与	11,878,077		
非常勤職員法定福利費	1,321,334		

(出典：平成17年度損益計算書)

(分析結果とその根拠理由)

適切な予算執行がなされており、結果収支が均衡している。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育研究活動を直接支える経費として、約75,000千円を確保し、平成18年度からはその一部を重点配分に充てている。

平成18年度 基盤教育研究費の配分内訳は以下のとおり。

各科共通経費	25,560千円	学科で所属教員が共通的に使用する経費
教員基礎配分経費	15,098千円 (@200千円)	各教員の教育研究費として最低保証経費
新任教員経費	1,260千円 (@180千円)	新任教員の教育研究体制準備経費
実績重点配分経費	12,603千円	教員の教育研究活動に応じ傾斜配分
重点配分経費	6,995千円	教育研究プロジェクトに重点配分
旅費相当分	4,012千円 (@59千円)	各教員の教育研究費として最低保証経費
専攻科学生指導費	4,048千円 (@88千円)	指導専攻科生数に応じ配分
校長裁量経費	5,950千円	

なお、校長裁量経費は、校長の判断により学校全体の事業を対象として配分している。

また、平成16年度には、低学年用の実験実習設備の購入経費を予算化(約20,000千円)した。さらに平成17年度からは、教育活動を推進ための基盤的な設備費として「高専教育充実設備費」を学校内で予算化(約20,000千円)し、学生教育の質的向上を図った。

施設関係についても、図書館棟に「サイエンスギャラリー」を設ける等、積極的に必要部分の改修等を行い、さらに、電気情報工学科の改組によりコース制を導入したが、これに関連し福利厚生棟内に選択教室にも使用可能なスペースを3部屋確保した。

(分析結果とその根拠理由)

校長のリーダーシップのもと、状況の変化に対応し、各構成員のモチベーションを向上させ、ひいては本校の教育研究活動の活性化に繋がるよう努力している。

観点 10-3-①：学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の財務諸表を独自で公表する予定はない。

(分析結果とその根拠理由)

各年度における各学校の財務諸表は、本部において取りまとめのうえ公表される。

観点 10-3-②：財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

学校内で内部会計監査を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

平成 17 年度に物品の現物確認を行い、適正に利用されていることを確認した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員個人への配分を十分確保しつつ、学校全体として整備すべき事項についてもバランスよく予算を配分している。

(改善を要する点)

長期的な展望を見据え、十分検討された事項に重点的に資源を投下する必要がある。

(3) 基準 10 の自己評価概要

現時点では、事務事業を推進するための予算は確保されている。しかし、今後想定される予算の減に対応した適切な資源配分計画を長期的な展望のもとに確立することが急務であるとする。

その他の観点については、現状を維持しつつ、状況の変化に柔軟に対応できる体制を確立する必要がある。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

本校では、校長が教育・研究・学生支援・地域貢献・管理運営等の最終責任者として、学内の意思統一をしながら学校の運営を行っている。学校発足当初から教務主事、学生主事、寮務主事の3主事が置かれ、校長を補佐する体制が構築されていたが、平成17年度に地域連携教育及び学術の進展に即応するため研究と研究環境の整備に関することを掌理する地域研究主事を新たに設置(校内措置)し、教務主事(副校長)、地域研究主事(校長補佐)、学生主事(校長補佐)、寮務主事(校長補佐)の4主事体制が整備された。

各主事は教員組織規則(資料11-1-①-1)で指示された職務すなわち、教務主事は教育計画の立案その他教務に関すること、地域研究主事は地域連携教育及び学術の進展に即応するため必要な研究その他研究環境の整備に関すること、学生主事は学生の厚生補導に関すること、寮務主事は学生寮における学生の厚生補導に関することにおいて、校長を補佐している。主事のほかに事務部長が事務部のトップとして校長を補佐している。

(資料 11-1-①-1)

呉高専における主事の役割

○呉工業高等専門学校教員組織規則(抜粋)

第2章 教務主事、地域研究主事、学生主事及び寮務主事
(資格)

第6条 教務主事は教授をもって、地域研究主事、学生主事及び寮務主事は教授又は助教授をもって充てる。

(職務)

第7条 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

第7条の2 地域研究主事は、校長の命を受け、地域連携教育及び学術の進展に即応するため必要な研究その他研究環境の整備に関することを掌理する。

第8条 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。

第9条 寮務主事は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典：呉工業高等専門学校規則集)

平成16年度には企画室を新設し、校長の諮問を受けて本校の管理・運営方針について企画・立案し、教育・研究活動の強化を図るための活動を開始した(資料11-1-①-2)。現在、企画室長は教務主事が兼務している。

(資料 11-1-①-2)

○呉工業高等専門学校企画室規則(抜粋)
(設置)

第1条 呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)に企画室を置く。
(目的)

第2条 企画室は、本校の管理・運営方針について、企画・立案することにより、本校の教育・研究活動の強化を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 企画室は、次の業務を行う。

- (1) 本校の運営について、企画・立案及び管理・評価に関すること。
- (2) 対外的な業務(広報を含む。)の企画・立案及び調整に関すること。
- (3) その他前条の目的達成に必要な業務

(出典：呉工業高等専門学校規則集)

学校の目的を達成するための重要な事項については、月1回開催される『総務委員会』で審議される(資料11-1-①-3)。総務委員会では、校長、4主事、事務部長のほか、専攻科長、一般科目及び各学科主任、事務部から3課長が出席する。総務委員会の決定事項は、主事または主任を通して教員、事務部長及び課長を通して職員に伝達されるとともに、各学科等の部局あるいは各種委員会で検討され、実行に移される。

(資料 11-1-①-3)

○呉工業高等専門学校総務委員会規則
(設置)

第1条 呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、呉工業高等専門学校総務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 校長は、本校の運営に関する重要事項について委員会の意見を聴く。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- (1) 教務主事、地域研究主事、学生主事及び寮務主事
- (2) 一般科目主任及び各学科主任
- (3) 専攻科長
- (4) 事務部長
- (5) 庶務課長、会計課長及び学生課長

(運営)

第4条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、校長が招集し、主宰する。

(委員以外の者の出席)

第5条 校長は、必要があると認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を求めることがある。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、庶務課庶務係において処理する。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

また、月1回開催される『教員会』では、各主事の管轄事項及びその他の委員会による報告がなされ、全教員に対して学校の方針が周知徹底されるとともに、校長が他の教員の意見を直接聴くことができるようになっている(資料11-1-①-4)。

(資料 11-1-①-4)

○呉工業高等専門学校教員会規則(抜粋)

(目的)

第2条 校長は、教員会において次の事項を伝達し、かつ、その意見を聴く。

- (1) 教務に関すること。
- (2) 学生生活の支援と指導に関すること。
- (3) 校務運営の連絡調整に関すること。
- (4) その他必要と認められること。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

校長が管理運営の最高責任者として、学内教職員の意思統一をしながら学校の運営を行い、教務主事、地域研究主事、学生主事、寮務主事がそれぞれの職務に応じて、校長を補佐している。

重要な決定事項は、月1回開催される総務委員会で審議されるとともに、教員会で全教員に伝達され、学内の意思統一を図りながら校長のリーダーシップを発揮できる体制となっている。

以上のことから、学校の目的を達成するために、校長、主事、委員会の役割分担が明確になっており、効果的な意思決定が行える体制となっている。

観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

委員会のうち学校の管理運営に直接関与するものは、総務委員会委員で構成される自己点検等管理委員会、安全衛生委員会、入学者選抜委員会等がある。平成17年度に、各種委員会の活動状況を反映して委員会の統廃合を行い、適切に役割を分担し、効果的に活動できる体制とした(資料11-1-②-1)(資料11-1-②-2)。それぞれの委員会の役割は、観点11-1-③の諸規則に示す各委員会の規則に書かれている。

(資料11-1-②-1)

各種委員会の統廃合について

平成16年度	平成17年度
総務委員会	総務委員会
教務委員会	教務委員会
	地域研究委員会 (新設)
学生指導委員会	学生指導委員会
寮務委員会	寮務委員会
専攻科委員会	専攻科委員会
図書館運営委員会	(廃止統合)
情報処理委員会	情報化・セキュリティ委員会
地域共同テクノセンター委員会	地域共同テクノセンター委員会
総合教育技術室運営委員会	総合教育技術室委員会
学生寮運営委員会	(廃止統合)
福利厚生施設運営委員会 (休止)	(休止)
自己点検等管理委員会	自己点検等管理委員会
見直し検討委員会	(廃止統合)
将来計画委員会 (休止)	(休止)
	安全衛生委員会 (新設)
広報委員会	広報委員会
人権教育推進委員会	(休止)
放射線障害防止委員会	放射線障害防止委員会
レクリエーション委員会	レクリエーション委員会
図書委員会	図書委員会
整備委員会	(廃止統合)
防火対策委員会	防火対策委員会
入学者選抜委員会	入学者選抜委員会
外国人留学生委員会	外国人留学生委員会
S C S 事業実施委員会	(休止)
進路指導委員会	進路指導委員会
環境マネジメント委員会	(休止)
I T 教育地域支援活動委員会	I T 教育地域支援活動委員会
発明委員会	知的財産委員会
技術者教育改善推進委員会	教育改善委員会
自己点検等管理委員会・専門小委員会	自己点検等管理委員会・専門小委員会

※青文字は所掌事項を追加・変更した委員会

(出典 庶務課)

(資料11-1-②-2)

平成 15 年度から 17 年度の委員会開催回数

No	委員会・WG名	委員会・WG開催回数		
		平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
1	総務委員会	13	13	13
2	教務委員会	12	11	11
3	学生指導委員会	13	15	12
4	寮務委員会	5	6	7
5	専攻科委員会	16	15	16
6	情報化・セキュリティ委員会	4	5	9
7	総合技術室運営委員会	1	1	1
8	自己点検等管理委員会	5	4	7
9	自己点検等管理委員会専門小委員会	15	13	15
10	広報委員会	4	3	1
11	人権教育推進委員会	1	1	-
12	レクリエーション委員会	2	2	1
13	図書委員会	6	7	6
14	入学者選抜委員会	11	9	9
15	入試問題作成委員会(作成班)	2	1	1
16	環境マネジメント委員会	2	-	-
17	IT 教育地域支援活動委員会	0	1	1
18	外国人留学生委員会	3	3	2
19	進路指導委員会	2	2	2
20	安全衛生委員会	-	10	12
21	教育改善委員会	6	6	12
22	企画室	-	-	13
23	地域研究委員会	-	-	12

(出典：庶務課)

教務委員会，地域研究委員会，学生指導委員会，寮務委員会，専攻科委員会の各委員会では，各主事の下に数人の主事補が配置され，学科等から選出される委員を含めて審議・検討を行っている。

管理運営に関する事務を行うために，庶務課及び会計課が置かれている（資料11-1-②-3）。事務部は各種決定事項の一部を執行する役割を持っており，管理運営に関する主要な委員会には，それぞれ事務部の担当係が割り当てられるとともに会議には担当課長が出席し，主として教員で組織される委員会と事務組織が適切に役割を分担して管理運営を行っている。

○ 呉工業高等専門学校事務部組織規則（抜粋）

第 3 章 課の事務分掌

(庶務課)

第 12 条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 事務部の所掌事務の総括及び連絡調整に関する事。
- (2) 諸規則の制定及び改廃に関する事。
- (3) 公文書の接受、発送、編集及び保管に関する事。
- (4) 公印の管守に関する事。
- (5) 儀式及びその他会議に関する事。
- (6) 教職員の人事に関する事。
- (7) 図書に関する事。
- (8) 校内の警備に関する事。
- (9) その他他課の所掌に属さない事務に関する事。

(会計課)

第 13 条 会計課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 予算及び決算に関する事。
- (2) 債権の管理に関する事。
- (3) 物品の管理に関する事。
- (4) 会計の監査に関する事。
- (5) 共済組合(長期給付を除く。)に関する事。
- (6) 契約に関する事。
- (7) 収入及び支出に関する事。
- (8) 不動産の管理に関する事。
- (9) 事務用電子計算機に関する事。
- (10) その他会計経理及び営繕に関する事務を処理する事。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する各種委員会は、実情に応じて統廃合を行い、適切に役割分担されている。また、管理運営に関する主要な委員会では、それぞれ事務部の担当係が割り当てられるとともに会議には担当課長が出席して、主として教員で組織される委員会と事務組織が適切に役割を分担して管理運営を行っている。

以上のことから、管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

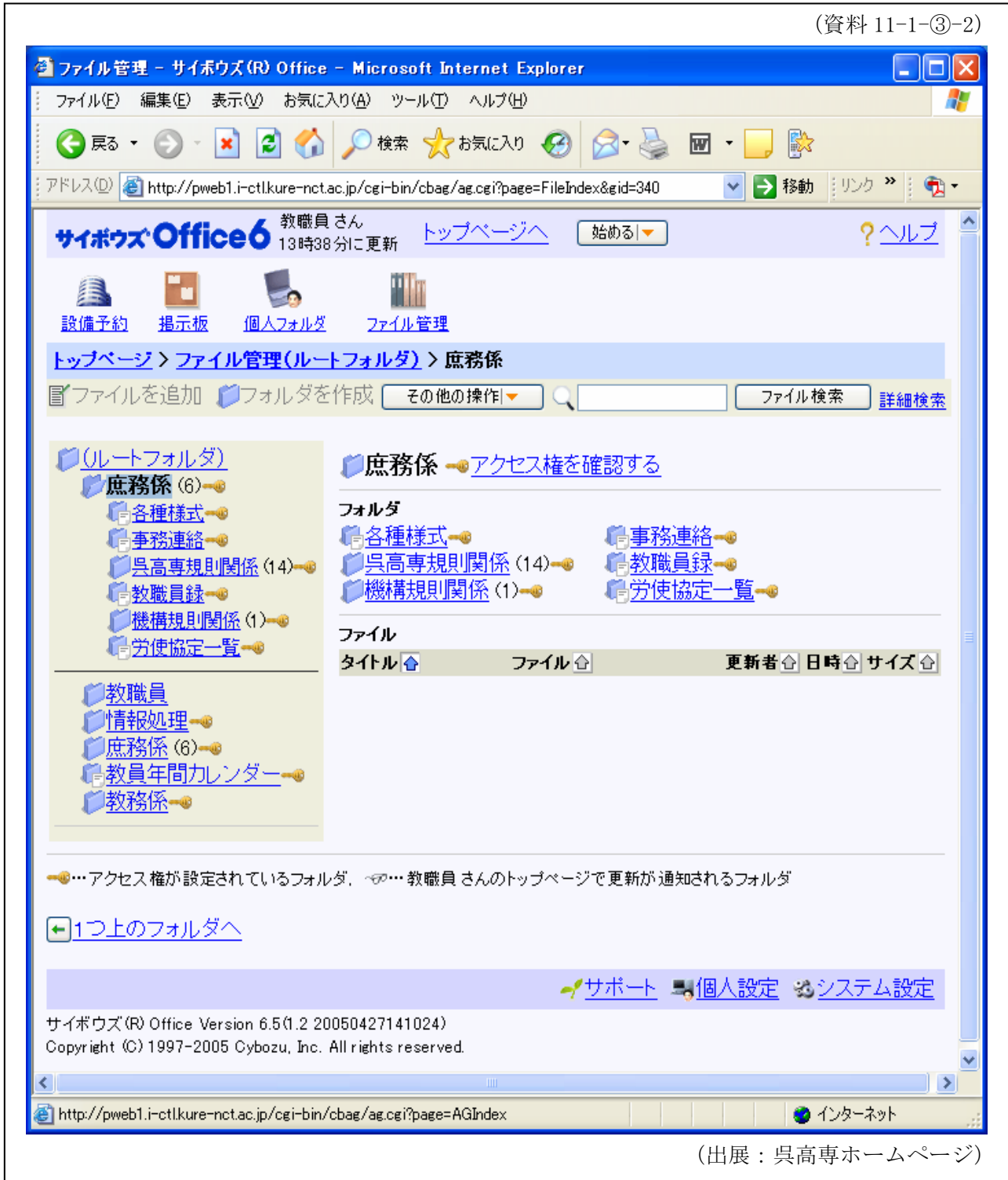
学内緒規則は、「呉工業高等学校規則集」として、ホームページに掲載され、学内LANに接続したパソコンから閲覧可能であり、その一部は学外からも閲覧可能である。管理運営に関する規定は、組織・運営、庶務、人事等の体系目次あるいは五十音目次から検索可能である。(資料11-1-③-1)

(資料 11-1-③-1)

体系目次 / 五十音順目次 / ヘルプ	件名	制定年月
呉工業高等専門学校規則集 (内容現在 平成17年10月07日)		
■ 第1章 学 則		
■ 第2章 組織・運営	■ 第2章 組織・運営	
■ 第3章 庶 務	呉工業高等専門学校教員組織規則	◆平成16年04月01日
■ 第4章 人 事	呉工業高等専門学校図書館規則	◆平成16年04月01日
■ 第5章 図 書	呉工業高等専門学校情報処理センター規則	◆平成16年04月01日
■ 第6章 会 計	呉工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則	◆平成16年04月01日
■ 第7章 教 務	呉工業高等専門学校企画室規則	◆平成16年04月01日
■ 第8章 学 生	呉工業高等専門学校地域連携室規則	◆平成17年09月02日
■ 第9章 学生寮	呉工業高等専門学校学生相談室規則	◆平成16年04月01日
■ 第10章 共同利用施設の利用	呉工業高等専門学校教職員相談室規則	◆平成16年04月01日
■ 第11章 学生会・寮生会	呉工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校事務部組織規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校総務委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校教員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校教務委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校地域研究委員会規則	◆平成17年02月04日
	呉工業高等専門学校学生指導委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校庶務委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校専攻科委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校図書委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校情報化・セキュリティ委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校地域共同テクノセンター委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校総合教育技術室委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校教育改善委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校安全衛生委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校広報委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校防火対策委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校放射線障害防止委員会規則	◆平成16年04月01日
	呉工業高等専門学校入学者選抜委員会規則	◆平成16年04月01日

(出展：呉高専ホームページ)

(資料 11-1-③-2)



(出展：呉高専ホームページ)

同じくウェブページから「国立高等専門学校機構法その他関連法令」も閲覧可能である。なお、最新の規則等はグループウェア「サイボウズOffice」を使って、学内LANに接続したパソコンから閲覧できる（資料11-1-③-2）。各種委員会等の規則（資料11-1-③-3）において、各委員会の役割は明確に規定されている。

(資料 11-1-③-3)

呉高専における各種委員会の役割

○呉工業高等専門学校教員組織規則抜粋

第 13 章 委員会

(設置)

第 29 条 本校に、教員をもって組織する次の委員会を置く。

- (1) 専攻科委員会
- (2) 教務委員会
- (3) 地域研究委員会
- (4) 学生指導委員会
- (5) 寮務委員会
- (6) 図書委員会
- (7) 外国人留学生委員会
- (8) 情報化・セキュリティ委員会
- (9) 人権教育推進委員会
- (10) その他必要と認められる委員会等

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める

○呉工業高等専門学校教務委員会規則抜粋

(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、教務に関する重要事項を協議する。

第 3 条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 教育課程に関すること。
- (2) 授業及び試験実施に関すること。
- (3) 学校行事に関すること。
- (4) 入学、進学及び卒業に関すること。
- (5) 出欠席に関すること。
- (6) 学生指導要録に関すること。
- (7) 学生の課外教育に関すること。
- (8) 学生の見学及び学外実習に関すること。
- (9) 授業改善・基礎学力の向上に関すること。
- (10) その他教務に関し必要と認められること。

○呉工業高等専門学校地域研究委員会規則抜粋

(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校地域研究委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、次の事項を協議する。

- (1) 研究環境の整備に関すること。
- (2) 研究資質の向上に関すること。
- (3) 研究活動の支援に関すること。
- (4) 外部資金の調達に関すること。
- (5) 研究交流・研究業績評価の活用に関すること。
- (6) 教育研究の地域貢献及び社会貢献に関すること。
- (7) 公開講座に関すること。
- (8) その他研究活動及び地域貢献に関し必要なこと。

○呉工業高等専門学校学生指導委員会規則抜粋
(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校学生指導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、学生生活の支援と指導に関する重要事項を協議する。

第 3 条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 課外教育に関する事。
- (2) 個人指導に関する事。
- (3) 集団指導に関する事。
- (4) 規律保持に関する事。
- (5) 事故処理に関する事。
- (6) 保健指導に関する事。
- (7) 奨学に関する事。
- (8) 福利厚生に関する事。
- (9) 表彰及び懲戒に関する事。
- (10) その他学生生活の支援と指導に関し必要と認められる事。

○呉工業高等専門学校寮務委員会規則抜粋
(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校寮務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、寮生の指導及び学生寮の管理運営に関する重要事項を協議する。

第 3 条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 寮生の安全に関する事。
- (2) 寮生の秩序維持に関する事。
- (3) 寮生の健康の保持・増進に関する事。
- (4) 寮生の個人指導に関する事。
- (5) 寮生の集団指導に関する事。
- (6) 入寮及び退寮に関する事。
- (7) 学生寮の管理運営の連絡調整に関する事。
- (8) 学生寮の管理運営規則等の制定及び改廃に関する事。
- (9) 学生寮の施設、設備の整備に関する事。
- (10) 学生寮の安全保持に関する事。
- (11) 学生寮の給食業務に関する事。
- (12) その他寮務及び学生寮の寮務運営に関し必要と認められる事。

○呉工業高等専門学校専攻科委員会規則抜粋

(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、専攻科に関する重要事項を協議する。

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関する事。
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関する事。
- (3) 入学者選抜に関する事。
- (4) 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関する事。
- (5) 試験及び学業成績に関する事。
- (6) 地域連携教育に関する事。
- (7) その他専攻科の教育、研究及び厚生に関する事。

○ 呉工業高等専門学校情報化・セキュリティ委員会規則抜粋
(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、呉工業高等専門学校情報化・セキュリティ委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、次の事項を協議する。

- (1) 情報処理教育の充実と研究のための基本計画及び設備計画に関する事。
- (2) 情報セキュリティに関する事。
- (3) 情報化の推進に関する事。
- (4) 情報処理センターの管理運営の基本計画に関する事。
- (5) その他情報化、情報セキュリティに関し必要と認められる事。

○ 呉工業高等専門学校地域共同テクノセンター委員会規則抜粋
(趣旨)

第 1 条 この規則は、呉工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則第 5 条第 2 項の規定に基づき、地域共同テクノセンター委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関する事。
- (2) センターの施設、設備に関する事。
- (3) センターの事業計画に関する事。
- (4) 部門の整備に関する事。
- (5) 特定研究に関する事。
- (6) その他センターの運営に関する事。

○ 呉工業高等専門学校安全衛生委員会規則抜粋
(目的)

第 1 条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則第 13 条の規定に基づき、呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)における安全衛生委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めることを目的とする。

○ 呉工業高等専門学校広報委員会規則抜粋
(設置)

第 1 条 呉工業高等専門学校に、広報活動を円滑適正に行うため、呉工業高等専門学校広報委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、校長の命を受け、次の各号に掲げる事項を協議及び処理する。

- (1) 要覧及び呉高専だよりの企画及び資料収集に関する事。
- (2) 要覧及び呉高専だよりの編集及び発行に関する事。
- (3) ホームページの作成、管理運営に関する事。
- (4) 研究者総覧の編集及び発行に関する事。
- (5) 広報推進活動に係る企画及び立案に関する事。
- (6) その他広報に関する事。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する諸規則が整備され、ウェブページ上で公開されている。

観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校の運営に関し学外の有識者の意見を求めるため、平成10年1月『参与会設置要綱』を定め、平成10年4月に参与会を設置し、平成10年6月22日及び平成11年8月31日の2回にわたり参与会による外部評価を行った。平成12年12月には、学外の有識者による検証及び評価に重点を置いた外部評価の重要性に鑑み、『呉工業高等専門学校外部評価実施規則』（資料11-2-①-1）を制定し、新たな参与会を設置して平成13年3月2日に参与会による外部評価を開催した。

(資料 11-2-①-1)

○呉工業高等専門学校外部評価実施規則（抜粋）

(趣旨)

第1条 呉工業高等専門学校(以下「本校」という。)における運営の改善に資することを目的として実施する学外の有識者による評価及び助言等の提言(以下「外部評価」という。)については、この規則の定めるところによる。

(外部評価委員会)

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて外部評価を実施するため、外部評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項
- (3) その他運営に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として、若干名をもって組織する。

- (1) 教育研究分野に精通した大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員等
- (2) 産業界の産業動向に精通した者
- (3) 本校の所在する地域の関係者で、教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者
- (4) その他高等専門学校に関し、広く、かつ、高い識見を有する者

(委嘱)

第4条 委員は、校長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は、外部評価の実施に必要な期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員の互選により選出する。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

(運営)

第7条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会において必要があると認めた場合は、本校教職員を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(外部評価の実施方法)

第9条 外部評価は、資料による調査のほか、本校において実施する実状聴取及び実地調査等により行う。

2 外部評価に必要な資料は、本校の自己点検等管理委員会が作成する。

(外部評価の実施結果)

第10条 委員会は、外部評価の実施結果について、外部評価報告書を作成し、公表するものとする。

(外部評価に対する改善)

第11条 本校は、外部評価報告書に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。

(事務)

第12条 外部評価の実施に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(出典 呉工業高等専門学校規則集)

平成14年9月には、『呉工業高等専門学校外部評価実施規則』を一部改正し、参与会から外部評価委員会と名称を変更して平成14年10月30日に外部評価委員会を開催した。独立行政法人化が一段落した平成17年10月14日に、「管理運営」、「質のよい学生の確保」、「教育改善」に的を絞って外部評価委員会を開催した。このように、本校では、これまでに参与会を含めて5回の外部評価を実施し、外部評価委員から様々な提言をいただいた。

『呉工業高等専門学校外部評価実施規則』第10条では、実施結果を公表すること、第11条では改善を図ることが明記されている。この規則に沿って、外部評価の概要、外部評価委員の意見・提言からなる報告書が発行されている。

(分析結果とその根拠理由)

外部評価委員会を設置し、これまでに5回の外部評価を行い、外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されている。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の自己点検・評価はすべて印刷物として公開し、全教員に配布した。これらの報告書は本校図書館においても閲覧可能である。現在第6報まで出版されているが、発行年及び内容は下記のとおりである。

平成5年度：自己点検・評価報告書【第1報】呉工業高等専門学校の現状と課題

平成9年度：自己点検・評価報告書【第2報】研究活動と今後の展望

平成10年度：自己点検・評価報告書【第3報】教育の充実をめざして

平成12年度：自己点検・評価報告書【第4報】よりよい授業をめざして

平成14年度：自己点検・評価報告書【第5報】卒業生による学校評価

平成14年度：自己点検・評価報告書【第5報別冊】呉高専の現状と課題並びにその対策について

平成16年度：自己点検・評価報告書【第6報】学生支援という視点からみた教育環境のあり方

【第1報】では、現状とこれからの課題を整理し、本校初の自己点検・評価報告書として纏めた。

【第2報】では、最初の重点点検項目として、研究活動を取りあげた。

【第3報】では、少子化などに関連して学生の学力低下が指摘されるなか、授業や課外活動など、教育の充実をめざした調査を実施した。

【第4報】では、第3報の点検・評価結果を踏まえて、教授方法のスキル向上を目指した成果を報告した。

【第5報】では、卒業生による教育内容・教育環境に対するアンケートを実施し、その結果を整理して報告した。

【第5報別冊】では、第5報の卒業生アンケート結果を分析し、各部署でそこから見えてきた問題点への対応策を検討し公表した。なお、第5報及び第5報別冊の内容に関して、平成14年10月30日に外部評価が実施されている。

【第6報】では、学生支援状況を点検・評価した結果が整理されている。

今後の自己点検・評価の計画は、以下のとおりである。

平成18年度：教育活動について（JABEE受審及び中期計画進行中の対応）

平成19年度：組織及び管理運営について

平成20年度：社会貢献活動について

（分析結果とその根拠理由）

第1報から第6報の自己点検・評価報告書により、研究活動面、教育活動面、学生支援に関する自己点検・評価が行われ、平成20年までの評価計画も策定されている。このことから学校の活動を網羅した自己点検・評価が計画的に実施されていると言える。

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

（観点到に係る状況）

設置基準に基づく点検及び評価の実施は、見直し検討委員会の活動を引き継いで、平成4年から総務委員会委員で構成される自己点検等管理委員会が担当している。その間、種々の自己点検・評価が実施されている。

【第6報】以降、自己点検等管理委員会・専門小委員会が、予算配分調査等の毎年行われる「教員の自己評価・相互評価システム」の実施と同時に、学校全体の活動に対する「自己点検・評価報告書」の作成も担当することになった。現在の自己点検等管理委員会では、自己点検項目を専門小委員会に指示し、専門小委員会から答申された評価結果を学校の活動の改善にフィードバックさせることが主な活動になってきている。

改善に結び付けられた例として、自己点検・評価報告書【第3報】の結果を踏まえて、【第4報】「よりよい授業をめざして」に発展したことが挙げられる。さらに、【第5報】卒業生による教育内容・教育環境に対するアンケートの結果を受けて、短期間のうちにその対応策を纏めた【第5報別冊】を発行し、本校の教育を向上させるきっかけとなった。

しかしながら、外部評価報告書（平成18年2月）の外部評価委員講評で指摘されているように、前回の外部評価の結果に対してどのような対応がされたのか明確でなく、確実に改善に結び付けられるシステムとして運用する必要がある。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価結果がフィードバックされ、改善に結び付けられるようなシステムが存在し、ほぼ適正に運用されているが、評価結果に対する改善策の評価を確実に実行できるようさらに検討が必要である。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- ・教務，学生，寮務に加え，地域研究主事が設置され，各主事が校長を補佐する体制が整っている。
- ・自己点検・評価として点検事項を重点的に選定し，効果的に実施し，報告書として公表している。
- ・評価結果を改善に結びつけるためのシステムが整備されている。

(改善を要する点)

- ・評価結果に対する改善策の評価を確実に実行できるようなシステムとなるようさらに検討が必要である。

(3) 基準11の自己評価の概要

教務主事（副校長）と地域研究主事，学生主事，寮務主事の3人の校長補佐の役割分担が明確であり，校長を補佐する体制が整っている。学校運営に関する重要な事項は月1回開催される総務委員会によって審議され，教員会を通じて意思統一を図りながら，校長がリーダーシップを発揮して学校の目的を達成するために効果的な意思決定が行える態勢となっている。

各種委員会については，統廃合を行い，適切に役割分担されており，各種委員会相互の連携も円滑に行われている。主要な委員会には事務部から担当課長が出席し，教員と協力体制をとりながら，全校一体となって運営している。

自己点検・評価については，学校の活動を網羅し総合的に評価が実施されており，結果が報告書として公表されている。本校の運営に関し学外の有識者の意見を求めるため外部評価委員会を設置しており，今日までに5回の外部評価を実施し，改善を図ってきている。評価結果はフィードバックされ改善に結び付けられているが，改善そのものをより効果的に評価するシステムを検討する必要がある。

IV 選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項A 「研究活動の状況」に係る目的

本校は実践的な技術者を育成する高等教育機関として、「教育内容を技術の進歩や社会の要請に即応させるための研究を行い，研究の成果を教育に還元すること」，「地域社会と連携して企業等との共同研究を行い，社会貢献を図る」を研究活動の目的としている。

これは，高等専門学校設置基準第2条第2項「前条の場合において，高等専門学校は，その教育内容を学術の進展に即応させるため，必要な研究が行われるように努めるものとする」，及び独立行政法人国立高等専門学校機構の目的「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに，我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」と業務の範囲「機構以外の者からの委託を受け，又はこれと共同して行なう研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行なうこと」に合致するものである。

これらの目的を達成するため，本校の特色である地域研究主事を配置し，国立高等専門学校機構中期計画に，本校独自の内容を加えて中期計画および年度計画が定められ，実行されている。具体的な研究活動の目的および方針は以下のとおりである。

1. 全教員の査読付論文などの発表件数の増加を図ることにより，研究活動の活性化を目指す。
2. 科学研究費補助金や各種助成金に積極的に申請して外部資金を獲得し，先端的な研究を進める。
3. 地域産業界からの技術相談，共同研究，受託研究等の受入れを推進することにより，社会貢献を図る。
4. 卒業研究，特別研究などを通して，教員の研究成果を教育に反映し，研究の教育への還元を行う。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況に係る目的

地域社会貢献，地域密着を進めるため本校の教育・研究の成果を地域社会に還元することを推進し，常に地域に根ざした高等教育機関であることを目指している。具体的には，以下のような教育サービスの推進を目的にしている。

1. 小・中学生と市民一般を対象にした公開講座，小・中学生・教師・保護者を対象にした「おもしろ体験科学教室」，市民一般を対象にした「呉高専文化セミナー」を実施する。
2. 地域産業界との連携を強化し，本校地域共同テクノセンター主催のテクノ講演会・講習会，呉高専テクノセミナーを開催する。
3. 呉市との連携を図りながら呉市主催の市民科学技術セミナーへ積極的に参加する。

選択的評価事項A
研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(1) 全教員の査読付論文などの発表件数の増加を図ることにより、研究活動の活性化・高度化をめざす。

研究を遂行するための経費に関しては、平成14年度より、教育・研究実績を考慮した教育研究経費予算の傾斜配分を実施している。過去3年間の教育・研究実績ポイントにより、実績重点配分経費を配分しているが、研究に関する項目として、論文等の発表件数をポイント化し、特に査読付論文や著書の配分ポイントを高くし、発表件数の増加を促すような仕組みになっている(資料A-1-①-1)。また、平成18年度から、新たに教員研究グループからのプロジェクト提案による重点予算配分方式も導入し、査定を行って配分することとしている。

(資料A-1-①-1)

平成18年度 教育研究基盤校費に関する予算配分調査 ポイント集計票

※列幅、行高さ等の書式は変更しないでください。 2006/4/19

記入者の氏名													
記入者の所属学科													
※黄色と水色の欄が記入欄です。実績件数・時間等については件数や時間数をご記入ください。													
項目分類	調査項目	実績評価項目				実績件数・時間等				予算配分ポイント			
		件数	H15	H16	H17	3年計	点/件	合計	最大	修正			
B 研究面	論文 B1	査読付研究論文(筆頭者)・学位論文	1編			0	8	0		0			
		査読付研究論文(筆頭者以外)	1編			0	2	0		0			
		国際会議発表(発表者)	1件			0	4	0		0			
		国際会議発表(発表者以外)	1件			0	1	0		0			
		研究著書・辞書・作品(単著)	1冊			0	8	0		0			
		研究著書・辞書・作品(共著)	1冊			0	2	0		0			
		学会誌・研究雑誌解説記事(筆頭者)	1編			0	1	0		0			
		紀要・査読無研究論文(筆頭者)	1編			0	3	0		0			
		紀要・査読無研究論文(筆頭者以外)	1編			0	1	0		0			
		学会口頭発表(発表者)	1件			0	2	0		0			
		学会口頭発表(発表者以外)	1件			0	1	0		0			
		特許発明	1件			0	5	0		0			
		実用新案出願	1件			0	2	0		0			
		研究論文査読	1編			0	1	0	5	0			
	学会賞受賞	1件			0	10	0		0				
						小計	0		0				
	共同研究等 B2	科研・各種研究助成金申請(代表者)	1件			0	1	0		0			
		企業等との共同研究費用・受託研究費用受入れ(代表研究者)	1件			0	5	0		0			
		企業等との共同研究費用・受託研究費用受入れ(分担研究者)	1件			0	2	0		0			
企業等からの奨学寄付金受入れ(自分による寄付は除く)		1件			0	1	0		0				
技術相談受入れ(同一企業からの類似のテーマは1件として扱う)		1件			0	1	0	10	0				
					小計	0		0					
学会委員会 B3	1)学会・学会委員会・研究会の委員長	1件			0	3	0		0				
	2)学会・学会委員会・研究会の委員	1件			0	1	0	30	0				
					小計	0		0					
B 研究面ポイント計						小計	0		0				

(出典 自己点検等管理委員会専門小委員会)

(2) 科学研究費補助金や各種助成金に積極的に申請して外部資金を獲得し、先端的な研究を進める。
本校中期計画において、積極的に科学研究費補助金などの外部研究資金、施設使用料、寄付金等、多様な収入の方策を検討し、自己収入の増加を図るために、これら助成金等への申請件数の更なる増

加を図ることとしている。特に科学研究費補助金については、教員1人当たり1件の目標を達成することとしている。申請率を100%に近づけるための啓発を継続して行っており、応募申請勧誘を教員会等を通じて再三実施している。また、平成17年9月28日には、外部講師を招へいして、科学研究費補助金制度説明会を開催した。平成17年度は、目標申請件数59件に対し、実際の申請件数は43件であり、目標達成率は72.9%であった（資料A-1-①-2）。

(資料A-1-①-2)

平成17年度科学研究費補助金の申請状況						
科	一般科目	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	合計
目標申請件数	10	13	10	11	7	59
申請件数	8	11	11	9	4	43
目標達成率 (%)	44.4	84.6	110.0	81.8	57.1	72.9

(出典 平成17年度外部評価参考資料)

(3) 地域産業界からの技術相談、共同研究、受託研究等の受入れを推進することにより、社会貢献を図る。

企業等との共同研究及び交流を通じて、本校の教育・研究の発展に寄与するとともに、地域社会における産業技術の振興及び発展に寄与することを目的として、平成9年1月に「地域共同技術・教育センター」が設置された。平成12年4月にこれを改称し、「地域共同テクノセンター」とした。

平成13年3月には、共同開放研究室、分析室、コンピュータ開放室等を備えた地域共同テクノセンター棟の建物が完成した。共同開放研究室は地域の企業にも開放し、共同研究・受託研究等を実施している教員が優先的に使用できるようにしている。

地域共同研究テクノセンターでは、研究者総覧を平成15年10月に発行し、近隣の企業等に配布し教員の研究分野、研究課題、研究実績等についてPRした。また、地域企業等との科学技術相談に対応できるように、一般科目系、機械系、電気情報系、環境都市系、建築系の分野において、合計42の研究部門を設けている（資料A-1-①-3）。

平成14年2月には、本校の教職員と地域産業界等の有志が連携し、技術交流を深めることにより、地域の産業と文化ならびに本校の教育・研究の発展に寄与することを目的として、外部支援組織として、「呉高専テクノセンター地域振興会」が設立された。平成17年度においては、企業会員は95社、個人会員（本校教職員）は79名となっており、テクノセンターと連携しながら活動している。

本校の知的財産の学術研究の成果の社会的活用を図るとともに、学術研究の振興に資することを目的として、知的財産取扱規則が制定されており、知的財産委員会において、知的財産に係る権利の帰属等に関する審議を行っている。なお、平成15年11月28日には、広島TLOとの協定書を締結した。

平成17年3月17日に、呉市と呉高専は、人的・知的資源の活用、交流を目指す包括的な連携協力協定を締結した（資料A-1-①-4）。この協定は、産学官交流、産業活性化事業、教育文化交流、教育研究活動、各種情報の相互提供及び広報に関し連携協力するものである。

(資料A-1-①-3)

地域共同テクノセンター研究部門（平成17年度）

系	部 門	構成メンバー(○:部門長)	概 要	
一般科目	国語部門	○小助川元太, 新美哲彦	文章表現の指導を行う。	
	社会部門	○岩根三邦	西洋古典学における倫理・哲学の紹介及び演習を行う。	
		○宇根俊範	歴史資料の解説を行う。	
		○木原滋哉	環境政策について解説を行う。	
	保健・体育部門	○谷岡憲三, 佐賀野健	体育の指導, 体力測定指導を行う。	
	語学部門	○川尻武信, 江口 誠, 中山 文, 高島裕臣	英語の指導を行う。	
		○周藤剛士	ドイツ語の指導を行う。	
	数学部門	○黒川康宏	ポルトガル語の指導を行う。	
	結晶解析部門	○黒川康宏, 赤松祐次	トポロジーの指導を行う。	
	核磁気共鳴部門	○笠松義隆, 小山通榮	エックス線回折により結晶解析を行う。	
光吸収解析部門	○笠松義隆	極低温・高圧下における強磁性体の核磁気共鳴による研究		
機械系	流体解析部門	○小山通榮	磁性化合物の結晶作製とその電子構造の研究	
	熱工学部門	○京免 進, 野村高広	流体管路の配管系などにおける流れの解析や予測を行う。	
	材料強度部門	○八木良尚, 河口勇治	熱交換器性能の測定及び推定, 伝熱に関する基礎的な研究を行う。ディーゼル機関における燃料噴射に関する研究を行う。	
		○灘野宏正, 河野正来, 中迫正一, 上寺哲也	構造物や機械要素等の強度解析を行うとともに, 歯車や軸受の潤滑状態の異常診断を行う。	
	ナノ材料部門	○吉村敏彦	ナノサイズの構造体や材料の計測・評価に関する研究を行う。	
	光応用部門	○森 貞雄	光の制御及び光を利用した計測・加工の研究。	
	ロボット・情報数理部門	○野原 稔, 深澤謙次, 山田祐士	ロボットの製作と制御及び計算機の利用技術と数値解析を行う。	
	医用福祉機器開発部門	○岩本英久, 大東由喜夫, 田村忠士	医療現場のニーズに基づいた, 医療機器や医療用具の開発, および福祉機器の開発を行う。また, それらに関する商品化や事業化など, ビジネス展開を行う際の診断を行う。	
	電気情報系	真空・表面部門	○田中 誠	極真空領域での真空計測, 表面分析
		人員の適正配置に関する部門	○藤井敏則, 井上浩孝, 横瀬義雄	時間割の配置や看護婦の割り振りなどの, 人員の適正配置を行う。
ロジスティクスに関する部門		○藤井敏則, 井上浩孝, 横瀬義雄	物流効率化のため最適輸送について, 輸送経路などを決定する。	
シーケンス制御部門		○藤井敏則, 大西義浩, 井上浩孝	各種センサーを使用して物流制御を実験的に検証する。	
PID 制御部門		○大西義浩, 横沼実雄, 井上浩孝	PID 制御器の設計と応用を検証する。	
磁気浮上システム部門		○野村利英, 横沼実雄, 山崎 勉, 大西義浩, 三島智和	超伝導又は常電導磁石による磁気浮上システムを構築する。	
先端通信研究部門		○野村博昭, 黒木太司	音波から電波・光波にわたる広範な波動技術を基にした独自の通信デバイス, 及び関連した信号処理技術の開発を行う。	
量子工学部門		○植田義文	メズスコピックからナノサイズ領域における先端物質の電子状態と量子効果	
電磁界現象の解析部門		○横瀬義雄, 野村利英, 山崎 勉, 藤井敏則, 大西義浩	電磁機器の電磁界現象の解析を行う。	
熱電変換部門		○板東能生, 横沼実雄	熱電現象を応用した熱エネルギー変換及びシステムの開発	
知的処理システム部門	○井上浩孝	効率的な知的処理システムの開発を行う。		
環境都市系	構造解析部門	○中野修治	床板の曲げ及びねじれ解析	
	応用力学部門	○橋本堅一	圧縮荷重下のき裂の進展解析, 界面材料の破壊挙動の分析	
	コンクリート構造部門	○竹村和夫, 堀口 至	再生骨材によるコンクリート強度特性の研究を行う。ひび割れ抵抗性の高い繊維補強コンクリートの開発	
	地盤構造解析部門	○小堀慈久, 重松尚久	砂質土のせん断強度特性, 建機車両の走行性能解析等を行う。	
	地盤環境解析部門	○森脇武夫	土砂災害の予知と軽減技術, 地盤沈下と地盤改良成果の評価・解析, 廃棄物処分場地盤の挙動予測を行う。	
	景観工学解析部門	○市坪 誠	建造物の景観評価システム構築, 建造物の防汚対策研究等を行う。	
	環境衛生工学部門	○山口隆司	バイオリアクターによる環境浄化方法の開発, 微生物生態評価等を行う。	
	都市交通計画部門	○山岡俊一	地区交通計画, 交通施設の評価, 交通行動分析等の都市交通計画に関する研究	
	環境水理学部門	○黒川岳司	湖水の密度界面の振動と湖内流動の関係	
	建築系	地盤・振動部門	○門前勝明	軟弱地盤における地盤振動や不同沈下の解析や予測を行う。
耐震構造部門		○福原安洋, 松野一成, 正野崎昭二	各種構造における耐震診断及び耐震補強を行う。	
骨組構造解析部門		○仁保 裕	骨組構造の弾性・弾塑性応力解析	
環境部門		○藤井 健, 石井 仁	騒音の防止, 室内環境の設計・評価を行う。	
都市景観デザイン部門		○岡本二郎, 富田英夫	歴史的観点から, 都市景観デザインの提案を行う。	
建築CAD部門		○間瀬実郎, 富田英夫	3次元建築CADの基本概念と応用	
都市・地域計画部門	○篠部 裕	都市計画や地域計画に関する提案を行う。		

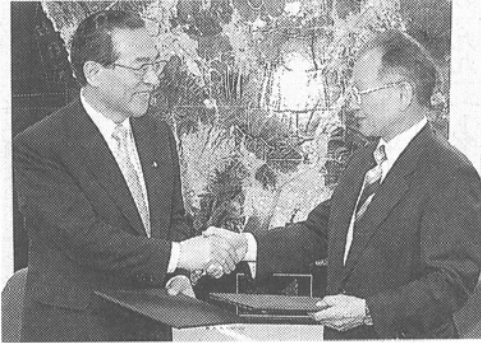
(出典 テクノセンターパンフレット)

(資料A-1-①-4)

中 国 桑 斤 周 2005年(平成17年)3月18日(金曜日)

呉市と呉高専 連携

協定締結 情報技術など活用



連携協力の協定書に調印し、握手する小笠原市長と福永校長

呉市と呉高専は十七日、人的・知的資源の活用、交流を目指す包括的

な連携協力協定を締結した。高専の情報技術などを行政サービスの向上に役立てたり、プロジェクトなどに提言を求めたりする。自治体と高専との

クリック

自治体と教育機関の包括的な連携協力協定。研究や人材育成など協力し、革新的な技術や製品開発を目指す。産学官交

協定は中国地方では初めてとなる。

市役所であった協定書調印式には、学校関係者ら十一人が出席。小笠原臣也市長が「技術協力は、新生呉の発展に欠かせない。連携を深め、オンリーワンの街をつくりたい」とあいさつした。

福永秀春校長は「呉市に優秀な人材を輩出し、市民生活を高めるために情報化や環境問題なども

流の一環として、地域活性化に結び付くと期待されている。高専は全国に55校(うち8校が中国地方)あり、自治体と包括的協定を結んでいるのは4校となっている。

に知識と技術で貢献したい」と述べた。

呉市と呉高専は、これまでフォーラムや公開講座などで協力してきた。今後は定期的に推進会議を開き、共同研究や情報交換を進める。

呉市は四月の機構改革で教育機関との連携などを探る窓口を新たに設け、専従職員を配置する。現在、広島大との連携も協議している。

本校は、地域にある7つの高等教育機関と呉市、坂町が連携した「呉地域オープンカレッジネットワーク会議」に加盟しており、教職員、学生が参加し、地域の文化・教育・産業の振興等の発展に寄与している。主な活動としては、公開講座の開催、地域活性化研究の実施(助成金交付)、まちづくり講座(くれ塾)の実施などがある。

(4) 卒業研究、特別研究などを通して、教員の研究成果を教育に反映し、研究の教育への還元を行う。

専門学科の教員は卒業研究及び特別研究において、教員自身の研究を学生と一緒に行うことができるよう研究体制を確立し、学生の自主的な研究遂行能力、研究データの解析・考察能力、プレゼンテーション能力等を養っている。

これらの成果は年度末に学科ごとに卒業研究論文集、専攻科では専攻科中間発表論文集、専攻科特別研究論文集として公表している。また、専攻科生は専攻科修了要件として専門の学協会等で発表す

ることを義務付けられているが、特別研究の成果は教員と学生との連名で学術論文や口頭発表の形で発表されている。

特に専攻科特別研究を高度化するための予算的な措置として、特別研究を担当する指導教員には、指導学生1名につき約10万円の教育特別研究費が配分されている。また、専攻科学生の発表を支援するために、学生1名当たり年間2万円の旅費を援助している。さらに、平成18年4月より中国四国地区高等専門学校専攻科生交流会に参加している。

技術職員の組織として総合教育技術室が置かれており、教育活動における支援とともに、教員の研究活動における技術支援を行っている。具体的には、卒業研究や特別研究に必要な実験用機材等を実習工場において作成するなどの工作物依頼及び業務依頼等が頻繁に行われており、年々徐々に増加している（資料A-1-①-5）。

(資料A-1-①-5)

総合教育技術室における工作物依頼・業務依頼等の件数

年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
工作物依頼件数	27	62	73
業務依頼件数	58	136	164
受託試験	—	6	

(出典 呉高専技術室ニュース)

(分析結果とその根拠理由)

本校の研究の目的に応じて、研究費の重点配分、科学研究費補助金に取得に向けた支援、地域共同テクノセンターを中心とした地域連携体制、教育のための研究支援、地域社会との研究連携体制が整備されている。

以上のことから、本校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているといえる。

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

(1) 全教員の査読付論文などの発表件数の増加を図ることにより、研究活動の活性化・高度化をめざす。

本校教員の研究活動について、過去3年間の研究成果の一覧を資料A-1-②-1に示す。研究成果の詳細については、呉高専研究報告の巻末に、各年度における教員の研究業績一覧が掲載されている。

中国地区の高等専門学校では教員1人あたりの研究業績は、トップレベルである。また、活発な研究活動の結果として、研究活動に関する各種学術・功労賞等の受賞件数も多い（資料A-1-②-2）。

(資料A-1-②-1)

過去3年間の教員の研究活動成果

年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
査読付論文	53	54	46
国際会議発表	32	45	50
著書	5	8	6
学会等掲載記事・報告書	5	21	17
紀要・査読無論文	19	13	10
学会口頭発表	129	160	141
特許	4	8	9
芸術活動・建築作品・フィールドワーク	0	4	5
合計	247	313	284

(出典 平成17年度外部評価参考資料)

(資料A-1-②-2)

教員学術・功労賞受賞一覧（平成14年度～17年度）

学科等名	氏名	受賞年月日	学術・功労等受賞名	区分
校長	福永秀春	平成14年7月	軽金属学会中国四国支部技術賞	技術
機械工学科	岩本英久	平成15年10月	第1回ひろしまベンチャー大賞	
	吉村敏彦	平成16年4月16日	日本ウオータジェット学会論文賞	論文
電気情報工学科	井上浩孝	平成14年3月22日	仁科顕彰会仁科賞	学位論文
	井上浩孝	平成15年3月31日	電気学会優秀論文発表賞	講演
環境都市工学科	市坪 誠	平成15年10月14日	キーパーソン・リサーチャー第6回アジアデザイン国際会議	
	森脇武夫	平成17年5月26日	(社)地盤工学会事業企画賞	
	市坪 誠	平成17年7月7日	中国・四国工学教育協会賞	
建築学科	松野一成	平成14年8月27日	国立高等専門学校協会会長賞	論文
	藤井 健	平成14年8月30日	高等専門学校教育研究集会優秀論文賞	論文

(出典 平成17年度外部評価参考資料)

- (2) 科学研究費補助金や各種助成金に積極的に申請して外部資金を獲得し、先端的な研究を進める。

過去3年間の寄付金及び科学研究費補助金（職員の受入を除く）の受入状況を資料A-1-②-3（訪問調査時に最新資料提示）に示す。平成17年度の科学研究費補助金申請44件に対して採択は7件、受け入れ金額11,700千円となっている。年度により増減があるが、高専としては平均的な採択件数である。科学研究費補助金の申請は1人1申請を目指しているが、申請件数を上げるのみならず、今後は採択率を上げるための取り組みも必要である。

寄附金については、一般の寄付金と各種助成金の採択による受入が含まれている。平成17年度における寄附金の受入は19件、8,100千円であった。

(資料A-1-②-3)

■ 科学研究費補助金採択状況 Grant-in-Aid for Scientific Research

研究種目 Research category	平成14年度 Academic year 2002			平成15年度 Academic year 2003			平成16年度 Academic year 2004		
	申請 件数 Applica- tions	採 択 Selected		申請 件数 Applica- tions	採 択 Selected		申請 件数 Applica- tions	採 択 Selected	
		件数 Grants	金額(千円) Amount (1,000 yen)		件数 Grants	金額(千円) Amount (1,000 yen)		件数 Grants	金額(千円) Amount (1,000 yen)
基 盤 研 究 (S) Basic research (S)				1	0				
基 盤 研 究 (A) Basic research (A)	1	0		2	0				
基 盤 研 究 (B) Basic research (B)	2	1	3,300	3	1	6,800	4	1	6,500
基 盤 研 究 (C) Basic research (C)	12	1	1,900	17	3	4,400	18	2	1,500
萌 芽 研 究 Germination research	2	0		2	0		4	0	0
若 手 研 究 (A) Youth research (A)				1	0				
若 手 研 究 (B) Youth research (B)	18	4	4,600	15	5	5,300	17	4	3,700
奨 励 研 究 Subsidized research	4	2	360	9	2	960	1	0	0
計 Total	39	8	10,160	50	11	17,460	44	7	11,700

※申請件数には、継続分を含む。 The number of applications includes applications for continuation.

○過去3年間の寄附金受入れ状況 Grants and Endowments Received over the Past 3 Years

区 分 Classification	平成14年度 Academic year 2002		平成15年度 Academic year 2003		平成16年度 Academic year 2004	
	件数 Number of grants/endowments	金額(千円) Amount (1,000 yen)	件数 Number of grants/endowments	金額(千円) Amount (1,000 yen)	件数 Number of grants/endowments	金額(千円) Amount (1,000 yen)
寄附金 Grants and Endowments	21	10,120	23	12,460	25	10,374

(出典 平成17年度要覧)

(3) 地域産業界からの技術相談、共同研究、受託研究等の受入れを推進することにより、社会貢献を図る。

企業等との共同研究・受託研究については、中期計画において各学科年間1～2件実施を目標としている。過去3年間の民間等との共同研究・受託研究の実績を資料A-1-②-4（訪問調査時に最新資料提示）に示す。平成17年度における共同研究は10件、受託研究は2件、表中のその他はNEDO産業技術研究助成事業である。受入金額は平成14年度約1500万円から徐々に増加し、平成17年度は31,608万円となっている。NEDOの1件に依存している面もあるが、順調に受入額が伸びてきている。研究内容及び研究成果の概要は、各年度の地域共同テクノセンター年報に掲載されている（訪問調査時に提示）。共同研究等の相手先は、地域の中小企業等も多く、地域に密着した研究活動により、地域社会に貢献

している。

(資料A-1-②-4)

■ 過去3年間の共同研究・技術相談の状況 Status of collaborative research and technical consultation over the past 3 years

区分 Classification	平成14年度 Academic year 2002	平成15年度 Academic year 2003	平成16年度 Academic year 2004			
	件数 No. of cases	金額(千円) Amount (1,000 yen)	件数 No. of cases	金額(千円) Amount (1,000 yen)	件数 No. of cases	金額(千円) Amount (1,000 yen)
共同研究 Collaborative Research	6	2,400	9	3,600	6	9,788
受託研究 Contract Research	4	7,230	3	12,435	1	105
その他 (NEDO)	1	5,967	1	8,539	1	19,136
技術相談 Consultation of technical problems	30		23		23	

(出典 平成17年度要覧)

地域産業界と連携した研究活動の例として、呉地域医療サポート機器研究会がある。平成15年4月23日、地域共同センターの外部組織として、呉地域医療サポート機器研究会が設立され(資料A-1-②-5)、本校教員と企業、呉市、くれ産業振興センター及び医療従事者と連携した研究活動を継続している。その研究成果を活用して、呉高专発のベンチャー企業も立ち上がり、着々と成果を上げてきている(資料A-1-②-6)。

(資料A-1-②-5)

2003年(平成15年)4月25日(金曜日) 中国新聞 桑斤 局

呉市 高专 労災病院 企業



医療支援機器の開発を目指した産官学の研究会発足式。手前はアームレスト

呉地域の企業と医療機関、行政が協力して医療支援機器の開発を目指す「呉地域医療サポート機器研究会」が、呉高专の呼び掛けで発足した。産官学の連携は、呉地域では初めて。ものづくりの技術を生かし、医療分野への進出を狙う。

産官学で医療機器開発

研究会発足 ものづくり技術活用

中国労災病院と連携し、医師の手術用いすのアームレスト改良などを手掛けている呉高专の岩本英久助教授(医用工学)が今年初め、呉地域の中小企業百五十九社を対象に、医療機器分野への参入の意向調査を実施。「興味がある」と回答した二十九社のうち、健康機器や部品製造業などの十三社が参加した。

二十三日夜、呉高专で開いた発足会には企業や高专のほか、オプザイバーとして加わる市の関係者や病院の医師ら計約三十人が出席した。

呉高专の福永秀春校長が「高专と社会との連携を進め、学校、学生と企業双方にプラスになる活動にしたい」とあいさつ。

呉地域の企業と医療機関、行政が協力して医療支援機器の開発を目指す「呉地域医療サポート機器研究会」が、呉高专の呼び掛けで発足した。産官学の連携は、呉地域では初めて。ものづくりの技術を生かし、医療分野への進出を狙う。

(資料A-1-②-6)

1 日
薬斤

第 期

2005年(平成17年)7月12日(火曜日)

16版 中国経済 (8)

挑む



本社でホームページの内容などを堀木取締役と相談する岩本助教授

高専発ベンチャー

メディカルアシストラボ(呉市)

起業の種は地元の医療現場のニーズにあった。呉高専機械工学科(呉市)の岩本英久助教授(左)が、同校初のベンチャー企業として五月に設立した医療作業の補助器具開発会社メディカルアシストラボ。起業のきっかけになった手術用の補助器具の開発は、地元の病院からの相談が発端だった。医療機関が多い呉地域で、医療現場のニーズと機械工学を結び、「医工」連携が動きだしている。

(久行大輝)

「医工」連携推進に力

岩本助教授が開発したのは、脳腫瘍などの手術の際、医師が腕を置くケアームレスト。脳神経外科の手術では、顕微鏡を見ながらの慎重な処置が長時間に及ぶ。しっかり医師の腕を固定して、腕に負担をかけない補助器具が必要になる。

疲労感を軽減

中国労災病院内の脳神経外科の山根冠児部長(左)も、アドバイスを受けながら、試作を重ねた。完成したのは昨年三月。手術用のいすに取り付け、ひじを置く部分は長さ三十五センチ、幅十センチ。手元のスイッチで電動モーターが作動し、アームレストが上下、左右に動き、傾斜角も自由に變更できる。誤作動防止機能や防菌対策も施した。

作する。そのため補助が必要になり、角度の調整にも時間がかかった。二〇〇一年六月、呉高専近くの中国労災病院(呉市広多賀台)から相談を受け、開発が始まった。人間工学が専門の岩本助教授は「柔らかな姿勢の保持など機能性の向上はうまくできたが、防菌対策などに配慮する必要が

対話重ね補助器具開発



顕微鏡などの操作ができる手術用のいすに取り付けたアームレストに腕を置く山根部長(中国労災病院)

用された手術は百例を越えた。山根部長は「簡単に動かせるので、常に最適な角度で手術ができる。疲労感やストレスも軽減した」と評価する。

ニーズに対応

「医療機器メーカーの大手は、最先端の医療を追求しがち」とみる岩本助教授は、「呉には総合病院が多い。アドバイスを受けながら、大手が見落としているオーダーメイド的な機器を市場に出したい」と力を込める。

岩本助教授は会社設立後、航海機器修理の豊園(呉市)に量産と販売を依頼し、メディカルアシストラボは、一定のライセンス料を受け取る仕組みだ。一台百三十八万円。営の専門家との協力と眼科や整形外科など精密な作業が求められる現場は取締役となり、社長を中心に、初年度十台の

《会社×モ》本社は、呉市内のベンチャー企業や起業家がベンチャー企業向けに開設を支援する「ひろしまベンチャー」(呉市西中央一丁目)の一室。しまベンチャー助成金(2003年度)300万円は、広島県03年の大賞賞金を充てた。

で総務や経理の経験が豊富な正久さん(モ)が就任。広島市西区で経営・年金相談室を開業している堀木義信さん(モ)を取締役に招いた。高専でも研究を起業に結びつける環境整備が始まっているが、研究・

「経営者の目で見ると、実用化の発想も出やすい」。こう指摘する岩本助教授は「ノウハウを蓄積し、起業を目指す学生への実践的な指導をしたい」と学生の教育にも生かす考えだ。「使う側の目線を大切にしたい」。夢は始まったばかりだ。

(4) 卒業研究、特別研究などを通して、教員の研究成果を教育に反映し、研究の教育への還元を行う。

教員の研究成果を教育に反映するための方策として、地域共同テクノセンター主催のコロキウムを毎年1回開催し、教職員、学生等を対象に2人の教員が研究内容を紹介するようにしている。

特別研究の研究成果は「特別研究論文集」（資料A-1-②-7、訪問調査時に資料提示）としてまとめている。専攻科学生の学会発表一覧は特別研究論文集の巻末に掲載されている。専攻科特別研究の内容及び、学会発表等のレベルは、今日の科学技術の発展に即した内容となっている。

(資料A-1-②-7)

平成17年度 専攻科 特別研究 論文集
目次

機械電気工学専攻	
二円筒試験における生分解性合成潤滑油の摩擦特性	1
アーク放電によるカーボンナノ粒子の生成条件に関する研究	7
スラスト・ワシヤ試験におけるメカニカルシールの潤滑特性 (油性剤・耐摩耗剤を添加した冷凍機油の場合)	15
プラズマハード複合処理を施したSCM415H鋼の摩擦・摩耗特性	21
金型冷却に関する基礎的研究(噴流式冷却管によるスポット冷却)	27
外管冷却・内管加熱した同心長方形管内の自然対流熱伝達	35
ウォータージェットピーニングにおける キャビテーション噴流の評価とフレッティング疲労抑制への応用	41
2種の自己注入同期法による 60GHz帯NRDガイドガン発振器の周波数安定化の研究	49
カオス時系列予測問題に対する 自己生成ニューラルネットワークのアンサンブル学習特性に関する研究	55
グレーティングローブ抑制60GHz帯平面アンテナの研究	61
垂直ストリップ線路を用いた NRDガイドビームリードダイオードマウントに関する研究	65
建設工学専攻	
月面探査ローバの車輪形状の最適化	69
相対的重要度と経済的価値を考慮した鉄道駅の上下移動施設の評価	75
厳しい条件下における高機能性再生細骨材を用いたコンクリートの挙動	83
コミュニティ道路におけるイメージ手法の効果に関する基礎的研究	91
有限変形弾塑性FEMによる不連続面の形成と不連続面からの破壊	97
気象変化が汽水域の水質及び流動場に及ぼす影響	105
コンクリート補強材としての微小鋼繊維の適応に関する研究	111
FRP連続繊維を用いた既存木造家屋の耐震補強に関する研究	117
建築CG教育支援ツールに関する研究 ～POV-Rayを利用した場合の専用方眼用紙～	125
小学校でのまちづくり学習と連携した 公園づくりワークショップに関する研究	133
学会・協会発表論文一覧	139

(出典 専攻科特別研究論文集)

(分析結果とその根拠理由)

教員の査読付論文及び国際会議の発表件数は、ともに教員1人当たり年間1件程度あり、研究活動に関する各種学術・功労賞等の受賞も多数ある。企業等との共同研究・受託研究については、中期計画に掲げた目標を達成している。科学研究費補助金及び寄付金の受入状況に関しては、件数、金額とも、全国高専の中ではほぼ平均的な状況である。専攻科特別研究の内容及び、学会発表等のレベルは、今日の科学技術の発展に即した内容となっている。

以上のことから、本校の研究の目的に沿った成果が上がっている。

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

平成17年度より、地域連携教育及び学術の進展に即応するため必要な研究その他研究環境の整備に関することを掌理するため、地域研究主事が置かれ、地域研究主事補4名及び地域研究委員会が組織されて、地域連携教育、研究環境の整備、研究活動の支援等に関する事項を協議している。また、地域研究主事は地域共同テクノセンター長と専攻科長を兼ね、本校の研究活動全般について検討することになった。

平成17年度に具体化された改善事項としては、カードキーシステム導入とプロジェクト提案による予算の重点配分が挙げられる。

カードキーシステムの導入・・・教員及び専攻科生の研究環境の改善と施設の効率的な管理のために、従来専攻科棟に設置されていたカードキーシステムを、平成18年度に各学科の教員研究室がある7棟に拡大し、作業が一部休日や夜間に及ぶ研究活動にも対応し、研究室を使用できるようにした。

外部資金の獲得及び産学官連携貢献を推進するために、各種競争的プロジェクト等の提案が計画されている。提案に向けて準備中の主な項目は以下のとおりである。

- ・呉市に事業所のある企業との包括的連携協力の締結
- ・高専等活用中小企業人材育成事業の提案

(分析結果とその根拠理由)

地域研究主事を中心に地域研究委員会において、研究環境改善の協議、科学研究費補助金申請の推進、研究費配分の改善等について検討されており、研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善していくための体制が整備されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・地域研究主事を中心として地域研究委員会において、研究環境改善に向けた検討が行われ、実際に改善されてきている。
- ・研究活動の技術的支援を行うために、総合教育技術室が活用されている。
- ・教員への予算配分において、競争的研究環境を創出するために、実績に応じた傾斜配分と目的に応じた重点配分がなされている。
- ・共同研究・受託研究の受け入れについて、中期計画を設定し、目標を達成している。
- ・地域社会との連携を推進するために、呉市との包括的連携協力がなされている。

(改善を要する点)

科学研究費補助金のヒット件数を向上することが望まれる。

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

教員の研究業績は査読付論文、国際会議発表ともに教員1人当たり1件程度あり、活発な研究活動が行われている。企業等との共同研究・受託研究については、中期計画における各学科1～2件の年実施の目標を達成し、地域社会と密着した研究活動が継続的に行われている。科学研究費補助金及び寄付金の受入状況に関しては、件数、金額とも、全国高専の中ではほぼ平均的な状況であり、共同研究、受託研究、NEDO等を含めた外部資金の獲得の努力がされている。専攻科特別研究で教員の研究成果を反映できるよう指導教員への支援がなされ、特別研究の内容及び学会発表等のレベルは、今日の科学技術の発展に即した内容となっている。

地域社会との研究連携体制として、学内に地域共同テクノセンターが、外部支援組織として呉高専テクノセンター地域振興会が設置されている。さらに、呉市と包括的な連携協力協定を締結し、地域共同研究、産学連携を推進する体制が整備されている。また、本校技術職員を組織化した総合教育技術室があり、研究活動に対する支援が行われている。

地域研究主事を中心に地域研究委員会において、教員の研究活動の成果を教育に還元するシステムも含めて研究活動全般に対して検討され、実際に改善されてきている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

選択的評価事項B

正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

本校中期計画では、教育に関する事項(1)入学者の確保に「出前授業」,「おもしろ体験科学教室」の計画が、社会との連携,国際交流等に関する事項において、「サイエンスギャラリーの整備」,「公開講座等の実施」,「施設の開放」に関する計画が挙げられている(資料B-1-①-1)。これが正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する計画に相当する。

(資料 B-1-①-1)

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ② 中学生が国立高等専門学校の学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等の充実を支援する。
- ・ 出前授業を実施する。呉市内を主に、出前授業を定着させる。中学校の「総合的な学習の時間」に合わせて中学校教員と連携して実施する。
 - ・ 出前授業、建築学科作品展、学校見学会、おもしろ体験科学教室は、中学生のニーズを調査し、毎年新しいテーマを打ち出す。
 - ・ 「おもしろ体験科学教室」で出前授業ではできないような特殊な装置を使い、興味をひく科学教室を実施する。

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

- ③ 満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として各学校における公開講座の充実を支援する。
- ・ 呉高専サイエンスギャラリーを整備し、定期的に専門分野の相談室やセミナーなどを開催し、呉地域でのものづくり相談室としての役割も果たす。
 - ・ 公開講座、呉高専テクノセミナー等の事業において研究内容を取り入れ、本校及び地域の教育に貢献する。(学科あたり年間2回を目標)
 - ・ 情報処理センターの公開講座の講座数と実施回数は2回/年とする。

(中略)

- ⑦ 地域との緊密な教育研究の連携、密着を図るために、サイエンスクラブ(仮称)の整備をすすめる。
- ・ 呉高専サイエンスギャラリー、情報教育サポート室、ベンチャー推進室、知的財産室からなるサイエンスクラブを新設し、地域と密着した教育研究を推進する。
- ⑧ テニスコート、グラウンド、体育館等の施設を地域の教育活動に利用しやすいように整備する。

(出典：呉工業高等専門学校 中期計画)

以下、これらの活動の実施状況について説明する。

(a) 公開講座等

平成17年度における公開講座等の実施状況を示す(資料B-1-①-2, 資料B-1-①-3)。公開講座を年間12件、その他の講座等も7件実施し、中期計画に掲げられた目標件数を達成している。

公開講座については、中期計画において、各科及び情報処理センターにおいて公開講座等を年間2件(合計12件)実施することを目標とするとともに、各科等において計画的に、企画・立案・実施している。平成17年度より、地域研究委員会において、公開講座等について協議や承認を行っている。

公開講座以外には、本校地域共同テクノセンター主催のテクノ講習会・テクノセミナー講演会、本校図書館主催の呉高専文化セミナーを実施している。また、オープンキャンパスとしてのおもしろ体験科学教室などが実施されている。さらに、呉市主催の市民科学技術セミナー、呉地域オープンカレ

ツジネットワーク会議主催の公開講座などを実施している。

(資料B-1-①-2)

平成17年度公開講座

講座名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
建築技術講座 I-2級建築士をめざして-	市民一般	4/24~6/19 各日曜日	20	22	建築学科教員6名他	10,400円	
土木施工技術入門講座-2級土木施工技士資格取得準備講座-	市民一般	5/28~7/2 各土曜日	10	9	環境都市工学科教員6名	9,400円	
源平の歴史と文学	市民一般	7/16, 23, 30	80	42	一般科目教員3名	無料	
建築技術講座 II-2級建築士をめざして-	市民一般	7/3, 8/21, 9/4	10	4	建築学科教員6名	7,400円	
ロボット工作入門	中学生	7/25, 26, 27	30	20	電気情報工学科教員6名	3,700円	
アームロボットを動かそう	中学生	8/19	10	10	機械工学科教員1名	2,700円	
ガソリンエンジンの分解・組立てに挑戦してみよう	中学生	8/20	12	12	機械工学科教員1名, 技術職員2名	2,700円	
コンデンサを動力源としたプロペラ模型飛行機を作ろう	小・中学生	8/24	16	12	機械工学科教員2名	2,700円	
エンジンの分解・組立(第2回)	中学生	9/17	12	4	機械工学科教員1名, 技術職員2名	2,700円	
パソコンで年賀状を作ろう! (初心者対象)	小・中学生	12/10, 11	30	1	情報化・セキュリティ委員7名	3,200円	
初心者を対象にした Excel 講座	市民一般	1/28, 29	20	6	環境都市工学科教員3名	6,400円	
春休み体験教室-レゴブロックでロボットを作ろう-	中学生	3/30	30		電気情報工学科教員	無料	

(出典 庶務課)

(資料B-1-①-3)

平成17年度テクノ講習会（地域共同テクノセンター・呉高専テクノセンター・地域振興会主催）

講習会名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
ニューラルネットワークの基礎講座	市民一般	8/27	10	6	電気情報工学科教員	無料	

第14回呉高専テクノセミナー講演会（地域共同テクノセンター主催）

講演名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
①表計算を利用した熱流動現象の数値解析 ②真空技術と真空計測	市民一般，地域の企業・官公庁等，教職員	10/28	—	10 (外部)	機械工学科・電気情報工学科教員各1名	無料	

第3回呉高専文化セミナー（図書館主催）

セミナー名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
中世の『源氏物語』 —三条西実隆と『源氏物語』—	市民一般	1/14	80	48	一般科目教員1名	無料	

ものづくり教室（(社)日本鉄鋼協会 平成17年度ものづくりイベント助成事業）

教室名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
ものづくり教室—風鈴を作ろう—	中学生	8/27	10	9	実習工場技術職員4名	無料	交付金20万円

平成17年度おもしろ体験科学教室

教室名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
①アルミ缶モーター・分光器で色観察 ②音と光・なぜ冷える ③レゴブロックロボのパソコン制御 ④ペットボトルロケット ⑤新聞紙でつくるペーパードーム (2つの教室を選択)	中学生	8/27	100	52	各科担当教職員	無料	

平成17年度市民科学技術セミナー（呉市主催）

セミナー名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
昆虫ロボットを作ろう	小学生	8/26	20	30	機械工学科教員2名	無料	

平成17年度呉地域オープンカレッジネットワーク会議公開講座

セミナー名	対象	期日	募集人員	受講者数	担当者	受講料	備考
ピエゾ効果を使った光る団扇(うちわ)の製作	中学生	8/27	20	22	電気情報工学科教員2名	無料	

(b) 出前授業

本校教職員による出前授業について、平成16・17年度における実施状況を資料B-1-①-4に示す。出前授業は入学者を確保するための方策の一つであるが、中学生に高専教員の教育研究内容をわかりやすく伝えるために体験型の授業を中心に行っている。

資料B-1-①-4

出前授業の実施状況（平成16年度）

訪問中学校	主体者	テーマ	担当教職員数
美鈴が丘中学校	環境都市工学科	橋のお話	1名
		コンクリートの製作	1名
	建築学科	フラドームの制作 飛び出す建築・オリジナルカラー	2名
音戸西中学校	建築学科	フラドームの制作	2名
豊中学校	一般科目・環境都市学科	海の生物観察会	2名

(出典 平成16年度第8回教務委員会)

出前授業の実施状況（平成17年度）

訪問中学校	主体者	テーマ	担当教職員数
美鈴が丘中学校	環境都市工学科	コンクリートの実験	1名
	建築学科	フラドームの制作 飛び出す建築・オリジナルカラー	2名
東畑中学校	環境都市学科	橋のお話	1名
	電気情報工学科	電気の歴史	1名
竹原中学校	環境都市工学科	水環境省資源のお話	1名

(出典 平成17年度第7回教務委員会)

(c) 地域連携の実施状況

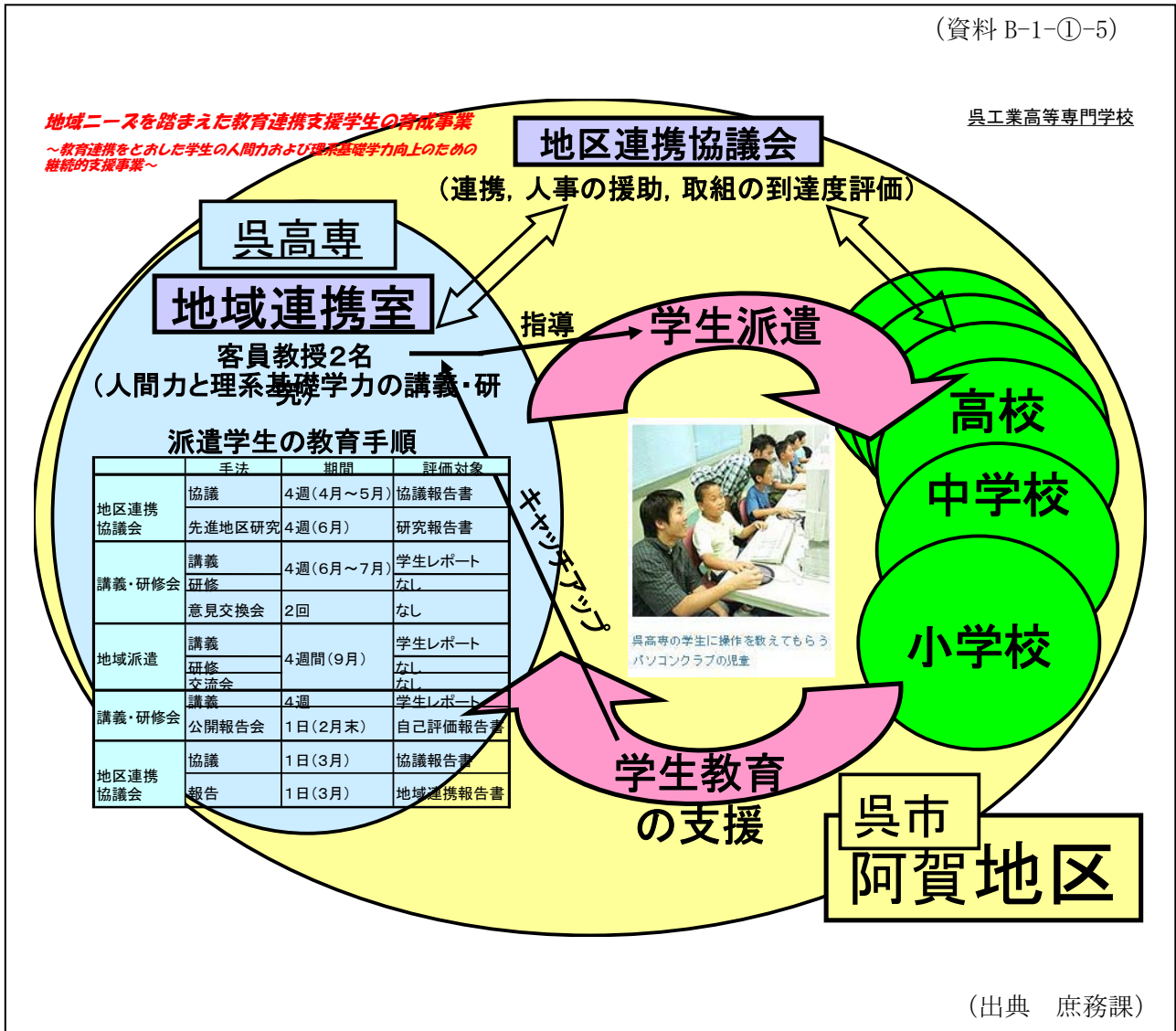
5年前から阿賀小学校へ出向き同校のパソコンクラブの指導を、専攻科学生を中心にボランティア活動として毎週実施してきている。

平成17年に設けられた地域連携室において、新しい地域連携活動として、阿賀中学での夏季休業中の学習指導（8月，5日間），放課後教室（11月15日から12月13日，4回）を実施した。（資料B-1-①-5）これは本校の教員と学生が実施するもので、本校の外部への教育サービスと同時にボランティア活動を通じて学生の社会人素養養成も目的としている。さらに近隣の学校等（阿賀小学校，阿賀中学校，市立呉高校，呉大学短期学部，阿賀自治会）と教育連携を行うため、平成17年1月に「阿賀地域教育連携協議会」を立ち上げ、活動を始めた。（資料B-1-①-6）

地域に関わる研究成果を重点的に展示する呉高専サイエンスギャラリー計画が具体化している。平

成18年3月に設置場所（図書館棟1階）の整備を終え、現在企画室において、内容の検討中である（資料B-1-①-7）が、サイエンスギャラリーにおいては、定期的に専門のセミナーなどを開催し、夏季休業中などには、小中学生を対象にした科学実験、科学セミナーを定期的実施することなどを予定している。

(資料 B-1-①-5)



(出典 庶務課)

(資料B-1-①-6)

阿賀学園地域教育連携協議会規則(アガデミア)

(設置)

第1条 阿賀学園地域教育連携協議会(アガデミア)(以下「協議会」という。)を設置する。

(目的)

第2条 協議会は、阿賀地域における教育機関と地域の連携により、将来有為な人材を継続的に育成し、地域を活性化することを目的とする。

(業務)

第3条 協議会は、次に掲げる関連諸事業に取り組むものとする。

- (1) 将来有為な人材を継続的に育成するための教育活動支援・活動評価
- (2) 地区住民の人材育成に対する興味関心の喚起とその奨励
- (3) 地域の教育機関や地域の団体等との連携・橋渡し(コーディネート等)
- (4) 有望な人材を継続的に育成するための調査研究
- (5) その他、協議会の活動に必要なこと。

(組織)

第4条 協議会は次の委員をもって構成する。

- (1) 呉工業高等専門学校校長
- (2) 呉市立阿賀小学校長
- (3) 呉市立阿賀中学校長
- (4) 呉市立呉高等学校長
- (5) 呉大学短期大学部学長
- (6) 自治会長
- (7) その他協議会が必要と認める者

(協議会長)

第5条 協議会会長(世話人校)(以下「会長」という。)は、委員の互選によって充てる。

2.会長は、協議会の業務を掌理する。

(事務)

第8条 協議会の事務は、呉工業高等専門学校学生課が対応する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1. この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 学生課)

(資料 B-1-①-7)

企画室報告（第 11 回）（06-1-19）

出席：福原，赤池，市坪，横沼，庶務課専門員

欠席：中迫，間瀬，

室長 福原 安洋

1. (略)
2. (略)
3. (略)
4. サイエンスギャラリー計画について以下の，連絡会での検討結果をもとに意見交換を行った。
 - (1) 間瀬委員の案(サイエンス工房)が提案された。

(補足 平成 17 年度第 15 回企画室連絡会報告より)

サイエンスギャラリー計画について校長より諮問があり，検討した結果以下の意見が出された。

 - (2) 案は，間瀬委員が取りまとめることとした。
 - (3) 資料展示は，ロビーで行い，この部屋では，サイエンス体験や活動できるものとする。
 - (4) 小中学生も楽しめるものとする。
 - (5) 夏季休暇中などは，学生TAを含めて運営する。
 - (6) 図書館，情報処理センターと連携した活動案を実施する。
 - (7) 地域でのサイエンスコンペの実施
 - (8) 部屋での活動案
 - (ア) 科学実験，科学マジック
 - (イ) アニメ作成など楽しめるものとする。
 - (ウ) 阿賀小，阿賀中の理科実験を実施する。
 - (エ) レゴロボット組み立て，
 - (オ) ネームプレート，バッジ作成
 - (カ) 工作キット モーター製作，発光ダイオード利用模型
 - (9) 校長より，以下の意見がだされた。
 - (ア) 案の通り実現したい。
 - (イ) 物理の新任教員とも連携したい。
 - (ウ) ネーミングには一考してほしい。
 - (エ) 充実させるための予算として，機構の教育プログラムや古川財団，マツダ財団の支援資金に応募することも考えてほしい。
 - (オ) おもしろ科学体験を土台とした活動が考えられる。
 - (カ) クラブ活動(理化学研究部，計算機部，自動車部など)の部員をTAとして実施することや実習工場，技術職員などの協力なども考えられる。

(以下略)

(出典 平成 17 年度 第 11 回企画室報告)

(d) 施設の外部への開放

① 図書館の開放

資料B-1-①-8のように、図書館を地域に開放している。

(資料B-1-①-8)

呉高専図書館

 呉工業高等専門学校

➡ TOPページ

USE GUIDE

呉工業高等専門学校図書館では、地域の皆様に生涯学習の場として本校の図書館をご利用いただいています。

【利用手続き】

◎ 図書館への入館
「図書館閲覧室利用申込書」に記入して入館することができます。

◎ 館外貸出
「図書利用票」が必要です。初回ご利用時に「利用申請書」用紙に必要事項をご記入のうえ、交付を受けてください。その際、住所、氏名、連絡先の確認できる書類を提示してください。

◎ 「図書利用票」の更新
年度(3月31日)を超える場合は、更新が必要です。改めて申請手続きをお願いします。
※「図書利用票」は、ご本人のみ有効とし、他人に貸与・譲渡等を禁止します。不正使用の場合は、ただちに利用許可を取り消しとします。

【開館時間&休館日】
TOPページをご覧ください。
[➡ TOPページ](#)

【貸出冊数&期間】
TOPページをご覧ください。
[➡ TOPページ](#)

【利用の範囲】
館内で所属する(1)図書・雑誌の閲覧、(2)図書の館外貸出、(3)図書・雑誌のコピー(有償)ができます。

【注意事項】
自動車等での来館の際は、所定の駐車場に駐車してください。
他の利用者の迷惑になるような行為はご遠慮ください。
図書等の取り扱いは丁寧に行ってください。万一、不注意等により紛失または損傷した場合は弁償していただきます。
その他、構内及び館内では係員の指示に従ってください。

【その他】
その他詳細については図書館にお問い合わせください。
→ [お問い合わせ](#) → [このサイトについて](#)
呉工業高等専門学校 図書館

(出典 呉高専ホームページ)

②その他の施設の開放

その他、土日・休日には、外部団体主催の野球大会、テニス大会、英語検定などで、グラウンド、テニスコート、選択科目教室等の施設を開放している。外部への開放状況（有料）を資料B-1-①-9に示す。

(資料B-1-①-9)

施設の開放状況（平成17年度）

期日	利用者	利用施設
5/21	土木学会中国支部	教室
5/29	日本工業英語協会	選択科目教室
6/12	日本工業英語協会	選択科目教室・大講義室
8/11～13	呉ファイターズ	野球グラウンド
10/15	日本英語検定協会	選択科目教室・大講義室
11/20	呉中央リトルシニア	野球グラウンド
12/11～12	日本英語検定協会	SCS講義室
12/10～11	広島県ソフトテニス連盟	テニスコート
1/7～8	広島県ソフトテニス連盟	テニスコート
1/29	日本工業英語協会	選択科目教室

(出典 会計課)

(分析結果とその根拠理由)

公開講座等は年間12件開催を目標としているが、本校主催の公開講座を年間12件、それ以外の講座も7件実施している。中学生向け出前授業は、全体で4件の目標に対し、5件実施している。授業は講義型でなく体験型のものが多く好評である。阿賀小学校へのパソコン指導が継続的な実施、阿賀地域教育連携協議会の設立で新たな連携が生まれている。本校教育施設の外部への開放については、図書館、グラウンド、教室等の開放が相応に行われている。

以上のように、地域研究主事主導で呉工業高等専門学校中期計画を確実に達成し、正規課程の学生以外に対する教育サービスが実施されている。

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校主催の公開講座については、受講者の満足度アンケート調査を実施している。平成17年度のアンケート調査結果を資料B-1-②-1に示す。「満足回答者数」の算出については5及び4段階評価の場合は上位2つ、3段階評価の場合は上位1つの回答を「満足」とカウントしている。

平成16年度及び平成17年度の満足度アンケート調査結果から、各公開講座の満足度平均値は、それぞれ91%、98%となっており、非常に高い評価が得られている。

(資料B-1-②-1)

平成17年度公開講座満足度アンケート調査結果

公開講座の名称	担当者	開設 時間数	受講 対象者	受講 者数	有効回答者 数(A)	満足回答 者数(B)	満足 度 (B/ A)
建築技術講座Ⅰ－ 2級建築士をめざし て－	建築学科教 員6名他	28	市民一 般	22	－	－	－
土木施工技術入門 講座－2級土木施工 技士資格取得準備 講座－	環境都市工 学科教員6名	24	市民一 般	9	3	3	100%
源平の歴史と文学	一般科目教 員3名	6	市民一 般	42	33	33	100%
建築技術講座Ⅱ－2級 建築士をめざして－	建築学科教 員6名	15	市民一 般	4	－	－	－
ロボット工作入門	電気情報工 学科教員6名	12	中学生	20	19	19	100%
アームロボットを動か そう	機械工学科 教員1名	5	中学生	10	10	9	90%
ガソリンエンジンの分 解・組立てに挑戦し てみよう	機械工学科 教員1名、技 術職員2名	5	中学生	12	12	11	92%
コンデンサを動力源 としたプロペラ模型 飛行機を作ろう	機械工学科 教員2名	5	小・中 学生	12	12	12	100%
エンジンの分解・組 立(第2回)	機械工学科 教員1名、技 術職員2名	5	中学生	4	4	4	100%
初心者を対象にした Excel講座	情報化・セキュ リティ委員7名	7	市民一 般	6			
パソコンで年賀状を つくろう！(初心者対 象)	環境都市工 学科教員3名	10	小・中 学生	1	1	1	100%
初心者を対象にした Excel講座	環境都市工 学科教員3名		市民一 般	6	－	－	－
春休み体験教室(レ ゴブロックでロボッ トを作ろう)	電気情報工 学科教員		中学1・ 2年生	－	－	－	－
合計・平均					94	92	98%

(出典 庶務課)

容のものもあることを考慮し、改善策の一つとして、平成18年度は公開講座（有料）と体験教室・講演会等（無料または教材費徴収）を合わせて、各科2件以上計画することとした（資料B-1-②-2）。

(資料B-1-②-2)

公開講座等の改善例

第9回 地域研究委員会議事要録

I. 日 時:平成17年12月21日(水) 16:00～17:55

II. 場 所:第2会議室

III. 出席者:河野, 小山, 野村, 横瀬, 石井, 後藤, 末永 出張:山口 欠席:野町

IV. 報告事項
(省略)

V. 議 題

(1. ～3は省略)

4. 平成18年度公開講座等実施計画について

- ・公開講座(有料)＋体験教室・講演会等(無料または教材費徴収)・・・各科, 計2件以上計画
- ・テクノ講習会・・・各専門学科1件以上計画
- ・2月中旬までに各科で計画

公開講座・体験教室等について, 各科, 計2件以上計画する案を承認し, 委員長より各科主任に計画書の提出を依頼することとした。

5. 平成18年度コロキウム(研究紹介)の開催について

- ・H17年度・・・①7/15 A科・G科 (参加者30名) ②12/19 M科・E科(参加者8名)

今後の開催について意見交換を行った結果, 18年度は1名ずつで開催する方向で検討することとした。

6. その他

電気情報工学科より提案のあった公開講座「春休み体験教室:レゴブロックでロボットを作ろう」(3月30日開催)について, 承認した。

※次回開催予定日:1月24日(火)15:00～

(出典 平成17年度第9回地域研究委員会議事要録)

(分析結果とその根拠理由)

平成17年度に行った公開講座等の受講者の満足度アンケート調査結果は, 90%を超える高い満足度であったことから, 講座内容が良かったと評価される。また, 公開講座を改善していくシステムとして, 地域研究委員会で改善策等が協議されている。

地域連携については, 開始したばかりであり, その成果や継続性など今後の努力が必要である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・公開講座等については, 中期計画で目標を設定し, 計画的に実施している。また, 満足度から判断して, 公開講座等の成果が上がっている。
- ・地域連携室が設置され, 地域密着型のものづくり産業を育成し, 地域活性化への貢献を行っている。

る。

- ・公開講座の改善のためのシステムとしては、地域研究委員会を中心に改善策を検討している。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

正規課程の学生以外に対する教育サービスとしては、公開講座、出前授業などを実施している。地域連携室を設置し、地域との連携活動の中でさまざまな教育サービスを行っている。さらに、本校施設の一部を外部へ開放している。

公開講座等は、中期計画で開催回数目標を設定し、各学科等において計画的に企画・立案・実施している。また、地域連携室では、本校の教育サービスと同時に学生のボランティア活動を通じての社会人素養の養成も目的としている。

公開講座等については、平成17年度より地域研究委員会を中心に改善策を協議している。出前授業は、平成16年度は、全体で4件の目標に対し、5件実施している。授業内容は講義型でなく体験型のものが多く、好評である。

平成17年度に行った公開講座等の受講者の満足度アンケート調査結果は、90%を超える高い満足度であり、講座内容が良かったと評価できる。また、公開講座を改善していくシステムとして、地域研究委員会で改善策等が協議されている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。